

5号住居(第521・522図、PL.275)

グリッド 3 D 20

主軸方位 N80° E

重複 10号住居、10号溝を切る。

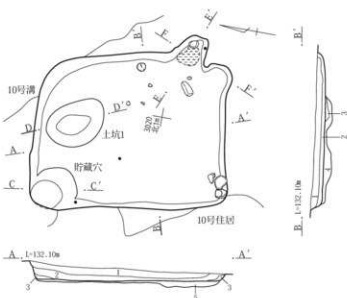
形状と規模 北西～南東方向に長軸を有し、歪んだ隅丸長方形を呈する竪穴住居である。長辺は3.03m、短辺は2.46m、深さは0.31m、面積は5.62㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

床面 暗褐色土を0.08mほど貼って、平坦な床面を構築している。北壁際の中央から長径0.96m、短径0.68m、深さ0.17mの歪んだ楕円形の土坑1を検出した。

掘方 Ⅱ・Ⅲ層の黄褐色砂質土を掘り込んで平坦な掘方を構築している。カマド周辺や北壁際から不定形の浅い窪みを検出した。

カマド 東壁の南東隅寄りに位置する。カマドの燃焼部は壁から奥を掘り込んで壁の外側に構築している。燃焼部底は水平で、緩やかな勾配で立ち上がる。燃焼部底から炭化物の広がりを検出した。カマド埋土は褐～ふい黄褐色土からなる。カマドの長さは0.95m、カマドの幅0.61m、深さ0.13mである。



- 1 ふい黄褐色土(10YR4/3) 稀名ニツ岳白色軽石を含む。少量のシルト質土を混入する。締り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 少量の稀名ニツ岳白色軽石を含む。締りやや強。粘性やや有。
- 3 褐色土 少量の稀名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬い。粘性有。
- 4 暗褐色土 やや硬く締る。粘性有。

貯蔵穴 北西側の床面から長径0.74m、短径0.64m、深さ0.38mの楕円形の土坑を検出した。土坑は竪穴のカマドと対角線上の隅に位置するが、規模や形状から貯蔵穴と考えられる。

柱穴 柱穴は検出されなかった。床面に支柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

遺物 埋土から完形の鉄製品(1)が出土した。

時代 埋土から古墳時代後期から平安時代と想定され、9世紀第4～4半期に帰属する10号住居よりも新しいので、平安時代10・11世紀と想定される。

6号住居(第523・524図、PL.276・432)

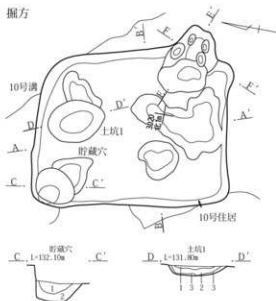
グリッド 13 B 1

主軸方位 N51° E

重複 7号溝に切られる。

形状と規模 北西～南東方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴住居である。長辺は3.16m、短辺は2.26m、深さは0.15m、面積は5.58㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を多く含む黄褐～暗褐色土からなる。



貯蔵穴 C-C'

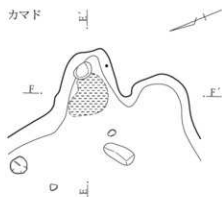
- 1 暗褐色土 少量の稀名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 少量の稀名ニツ岳白色軽石を含む。硬く締り良。粘性有。

土坑1 D-D'

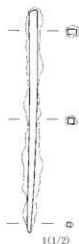
- 1 暗褐色土 少量の稀名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
- 2 黄褐色砂質土 稀名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 3 黄褐色砂質土 硬く締り良。

0 1:60 2m

第521図 X区5号住居



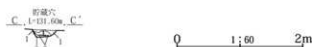
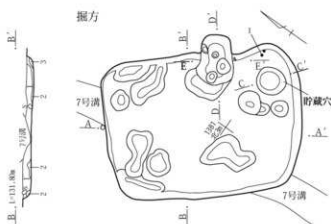
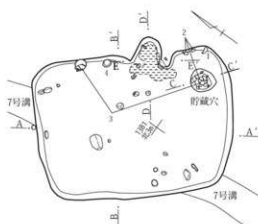
- 1 褐色土(10YR4/4) 少量のローム粒・白色軽石を含む。硬く締り強。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR5/4) くすんだシルト質土を混入する。締り強。
- 3 橙色土(2.5YR6/6) 焼土中心層。硬く締り強。
- 4 黒褐色土(10YR2/3) 灰層。少量のローム土を混入する。締り弱。
- 5 褐色土(10YR4/4) 土質均一。ややシルト質。締りやや弱。
- 6 暗褐色土(10YR3/3) 微量のローム粒・焼土粒を含む。締りやや弱。
- 7 にぶい黄褐色土(10YR5/4) 土質ほぼ均一。硬く締り強。
- 8 暗褐色土 炭化物を含む。やや硬く締る。
- 9 赤褐色土 焼土主体。やや硬く締る。
- 10 暗褐色土 少量の焼土粒子を含む。やや硬く締る。
- 11 暗褐色土 少量の棒名二ツ岳白色軽石・黄褐色土ブロックを含む。硬く締り良。粘性有。
- 12 黄褐色土 硬く締り良。粘性有。
- 13 黄褐色土 やや硬く締る。粘性有。



0 1:30 1m

0 1:2 5cm

第522図 X区5号住居と出土遺物



- 1 暗褐色土 棒名二ツ岳白色軽石・炭化物を含む。やや硬く締る。
- 2 黄褐色土 棒名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 3 暗褐色土 硬く締り良。

- 貯蔵穴 C-C'
- 1 暗褐色土 少量の棒名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
  - 2 黄褐色土 炭化物を含む。やや硬く締る。
  - 3 暗褐色土 少量の黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。

第523図 X区6号住居

**床面** 暗褐色土を0.05mほど薄く貼って、床面を構築している。

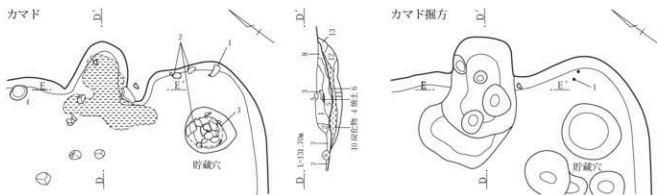
**掘方** XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築している。北壁の隅寄りから不定形の浅い窪みを多く検出した。カマド 東壁中央の南東隅寄りに位置する。カマドの燃焼部は東壁から奥を掘り込んで壁の外側に構築している。燃焼部底はほぼ水平で緩やかな勾配で立ち上がる。カマド埋土は焼土ブロックを含む褐色土からなる。燃焼部底から焚口で炭化物の広がりを検出した。カマドの長さは0.90m、幅0.63m、深さ0.16mである。

**貯蔵穴** 南東隅の壁際から長さ0.39m、短径0.35m、深さ0.13mの土坑を検出した。土坑底から出土した破片は床面の土器(2・3)に接合した。土坑は位置や形状から貯蔵穴と考えられる。

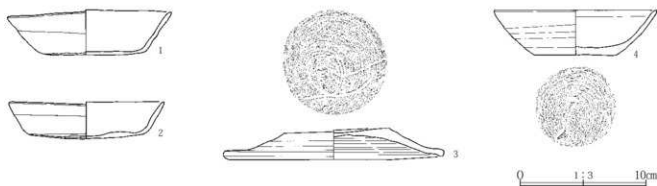
**柱穴** 柱穴は検出されなかった。床面に支柱穴を持たない構造の壁穴住居と想定される。

**遺物** 床面から土師器の杯(1・2)、須恵器の杯(4)、蓋(3)が出土した。

**時代** 平安時代10世紀第3四半期。



- 1 灰褐色土 少量の炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 少量の黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。
- 3 暗褐色土 灰を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 4 焼土
- 5 赤褐色土 焼土粒子・灰を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 6 暗褐色土 灰・炭化物を含む。柔らかい。粘性有。
- 7 灰褐色土 焼土粒子・炭化物を含む。硬く締り良。
- 8 灰褐色土 灰・焼土ブロックを含む。硬く締り良。
- 9 暗褐色土 少量の種名ニッ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 10 炭化物層
- 11 黄褐色土 やや硬く締る。粘性有。
- 12 暗褐色土 少量の焼土粒子・灰を含む。やや硬く締る。
- 13 黄褐色土 やや硬く締る。粘性有。



第524図 X区6号住居と出土遺物

## 7号住居(第525図, PL.277・433)

グリッド 13F 3

主軸方位 N88°W

重複 なし。自然の谷に削られており、谷の形成の後で構築された6・9・16号住居よりも古い。

形状と規模 東西方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴で西部は掘乱により、南東隅は試掘溝で、東北部は自然の谷によって失われている。長辺は3.45m+、短辺は3.20m+、深さは0.26m、検出された最大の面積は6.66㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を多く含む暗褐色土からなる。床面 暗褐色土を0.05mほど貼って、床面を構築している。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築している。南壁際から不定形の浅い溝状の窪みを検出した。

カマドと貯蔵穴 検出されなかった。カマドは調査区外に存在する可能性がある。

柱穴 柱穴は検出されなかった。床面に主柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

遺物 埋土から土師器の杯(1)、掘方から灰釉陶器の碗(3)、土師器の杯(2)が出土した。

時代 飛鳥時代7世紀第4四半期。

## 8号住居(第526・527図, PL.278)

グリッド 13H 4

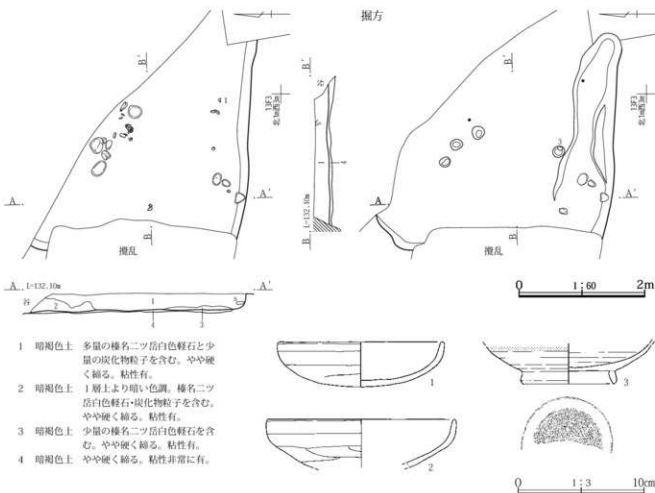
主軸方位 N73°W

重複 24号住居を切る。

形状と規模 北東-南西方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴で西部は調査区外に存在する。長辺は3.28m、短辺は3.23m+、深さは0.21m、検出された最大の面積は5.11㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

床面 XII・XIII層の黄褐色砂質土を削り出し、一部に暗褐色土を薄く貼って床面を構築している。



第525図 X区7号住居と出土遺物

**掘方** 北東壁際から円形の浅い窪みを検出した。

**カマドと貯蔵穴** カマドと貯蔵穴は検出されなかった。

**遺物** なし。

**時代** 埋土から古墳時代後期から平安時代と想定され、8世紀後半に帰属する24号住居よりも新しいので8世紀後半以降である。

24号住居(第526～528図, PL.291・433)

グリッド 13C 3

主軸方位 N86°W

重複 8・20・29号住居、26・30号土坑に切られる。57号土坑を切る。

**形状と規模** 南北方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴住居である。長辺は4.26m、短辺は1.88m、深さは0.43m、面積は4.79㎡である。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

**床面** 暗褐色土を薄く貼って、平坦な床面を構築している。

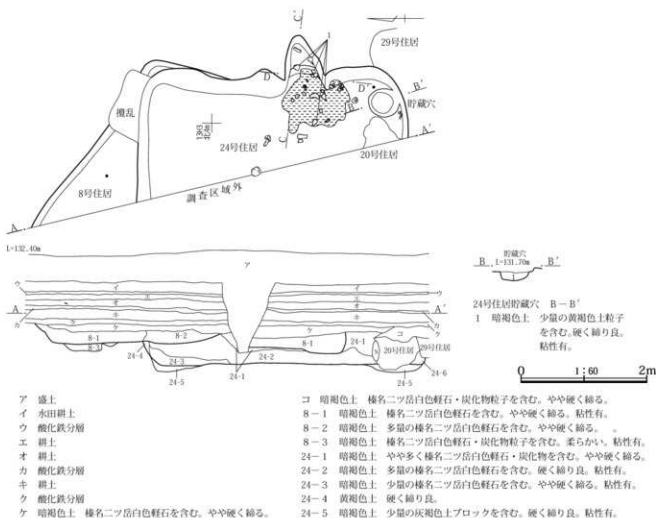
**掘方** XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築している。南東隅の壁際から不定形の浅い窪みを検出した。

**カマド** 東壁の南東隅寄りに位置する。カマドの燃焼部は東壁から奥を掘り込んで壁の外側に構築している。燃焼部底は緩やかに傾斜して、約45°の勾配で立ち上がる。燃焼部底から焚口で炭化物の広がりを検出した。カマド埋土は焼土ブロックを含む暗褐色土からなる。カマドの長さは1.35m、幅0.75m、深さ0.37mである。

**貯蔵穴** 南東隅の壁際から直径0.45m、深さ0.16mの円形の土坑を検出した。土坑は位置や形状から貯蔵穴と考えられる。

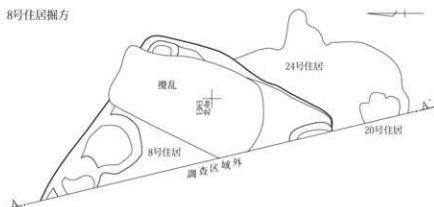
**柱穴** 柱穴は検出されなかった。床面に主柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

**遺物** カマド使用面からは土師器の裏(1)、埋土から鉄

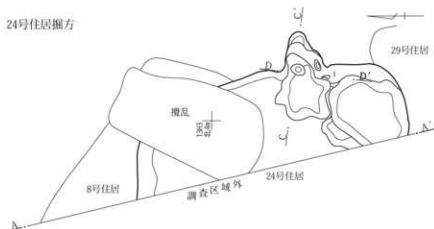
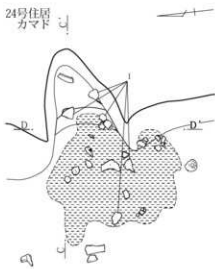


第526図 X区8・24号住居(1)

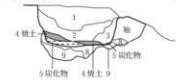
8号住居掘方



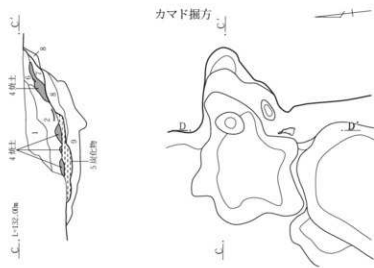
24号住居掘方

24号住居  
カマド

D, 1-132.00m



カマド掘方

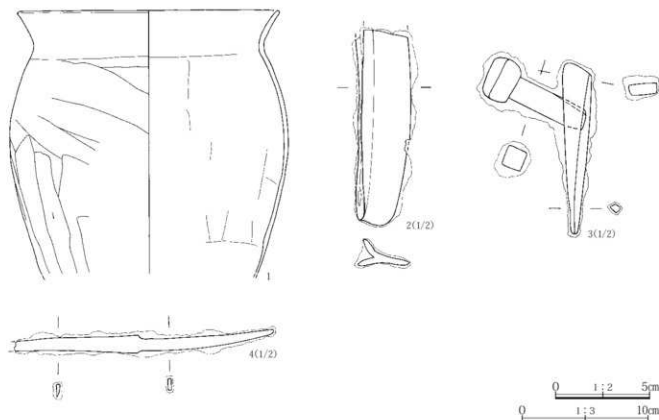


C, 1-132.00m

- 1 暗褐色土 やや多く種名二ツ岳白色輝石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 暗褐色土 少量の種名二ツ岳白色輝石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性非常に有。
- 3 褐色土 少量の焼土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性非常に有。
- 4 赤褐色土 焼土上体の層。硬く締り良。粘性非常に有。
- 5 黒色土 炭化物主体。焼土ブロックを含む。硬く締り良。粘性非常に有。
- 6 褐色土 やや多く焼土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。
- 7 黄褐色土 少量の焼土粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 8 赤褐色土 多量の焼土・炭化物を含む。柔らかい。粘性有。
- 9 黄褐色土 微量の焼土ブロック・炭化物を含む。やや硬く締る。粘性有。

0 1:30 1m

第527図 X区8・24号住居(2)



第528図 X区24号住居の出土遺物

製の鐏・鎌先(2)、刀子(4)が出土した。

**時代** 奈良時代8世紀第3四半期。

9号住居(第529図、PL.279・433)

グリッド 13C 2

主軸方位 N50° E

重複 19号土坑に切られる。

**形状と規模** 北西～南東方向に長軸を有し、長方形を呈する竪穴住居で床面は失われ、掘方のみを検出した。長辺は2.90m、短辺は2.16m、面積は4.73㎡である。

**掘方** VII層の二ツ岳の白色軽石を含む黄褐色砂質土を掘り込んで、平坦な掘方を構築している。中央から南西隅の壁際で浅い歪んだ楕円形の窪みを多く検出した。

**カマド** 東壁の中央に位置する。カマドの燃焼部は東壁の奥を掘り込んで壁の外側に構築している。カマドの掘方埋土は炭化物の薄層や灰褐色土からなる。カマドは長さ0.88m、幅0.75m、深さ0.06mである。

**貯蔵穴** 南東隅の壁際から長径0.66m、短径0.50m、深さ0.19mの楕円形の土坑を検出した。土坑は二ツ岳の白色軽石を含む灰褐色土の埋土からなり、位置や形状から

貯蔵穴と考えられる。

**柱穴** 柱穴は検出されなかった。床面に主柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

**遺物** 埋土から土師器の杯(1)、須恵器の皿(2)や杯(3)が出土した。

**時代** 平安時代9世紀第3・4四半期。

10号住居(第530～533図、PL.279・280・433)

グリッド 3 D 19

主軸方位 N60° E

重複 5・13号住居に切られる。

**形状と規模** 北東～南西方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴住居で北部は13号住居により失われている。長辺は4.13m、短辺は3.16m+、深さは0.28m、面積は9.21㎡である。

**埋土** 二ツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

**床面** にぶい黄褐色土を0.12mほど貼り、平坦な床面を構築している。

**掘方** XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで平坦な掘方を構築している。北西から南東方向に階段状に窪んでい

る。

**カマド** 東壁に位置し、カマドの大部分は5・13号住居により失われている。カマドの燃焼部は東壁から奥を掘り込んで壁の外側に構築している。燃焼部底はほぼ水平で緩やかな勾配で立ち上がる。燃焼部右壁には長径0.25～0.45m、短径0.15m、厚さ0.15～0.18mの垂円礫2点が据えられており、これらはカマド構築材である。カマド埋土は暗褐～褐色土からなる。カマドの長さは1.17m、幅1.07m、深さ0.34mである。

**貯蔵穴** 南東隅の壁際から長径0.75m、短径0.70m、深さ0.23mの土坑を検出した。土坑は位置や形状から貯蔵穴と考えられる。

**柱穴** 柱穴は検出されなかった。床面に主柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

**遺物** 床面から土師器の杯(2)、小型甕(7)、須恵器の

杯(5)、椀(6)、皿(4)、床面付近から土師器の杯(1)、須恵器の皿(3)が出土した。

**時代** 平安時代9世紀第4四半期。

13号住居(第530～535図、PL.281・433・434)

グリッド 3 D20

主軸方位 N60°E

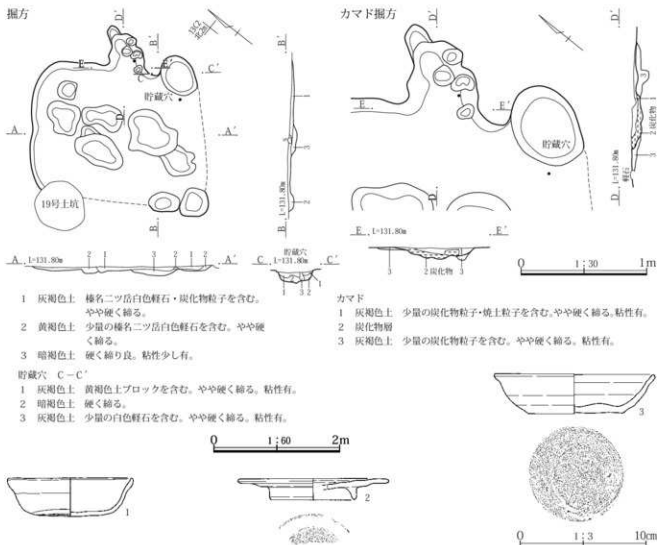
重複 39号土坑に切られる。10号住居を切る。

**形状と規模** 北東～南西方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴住居である。長辺は4.36m、短辺は3.54m、深さは0.34m、面積は13.32㎡である。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

**床面** にぶい黄褐色土を0.12mほど貼り、平坦な床面を構築している。

**掘方** XII・X層の黄褐色砂質土を掘り込んで平坦な掘方



第529図 X区9号住居と出土遺物



を構築している。北東と北西隅の壁際は隅に沿って溝状に窪む。

カマドと貯蔵穴 東壁の南東隅寄りに位置する。カマドの燃焼部は東壁から奥を掘り込んで壁の外側に構築している。燃焼部底はほぼ水平で、奥壁は約45°の勾配で立ち上がり、煙道は緩やかに傾きながら立ち上がる。燃焼部左右の壁にはS1～S7の垂円礫7点が据えられている。これらはカマド構築材である。

S1は長径0.14m、短径0.09mの垂円礫である。

S2は長径0.11m、短径0.09mの垂円礫である。

S3は長径0.10m、短径0.06mの垂円礫である。

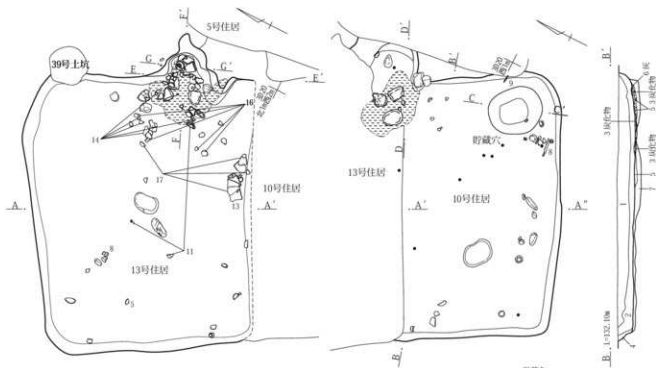
S4は長径0.13m、短径0.11mの垂円礫である。

S5は長径0.22m、短径0.19mの垂円礫で打割されている。

S6は長径0.22m、短径0.15mの垂円礫で打割されている。

S7は長径0.12m、短径0.10mの垂円礫である。

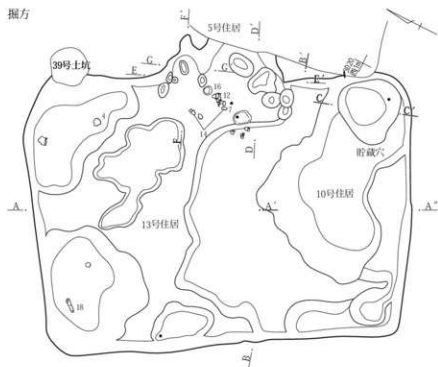
燃焼部底奥の中央には長径0.16m、短径0.16m、厚さ0.08mの円礫が0.10m埋め込まれている。これは支脚と考えられる。燃焼部から焚口周辺では炭化物の広がりを検出した。カマド埋土は暗褐色～褐色土からなる。カマドの煙道を含む長さは0.63m、煙道長0.30m、煙道の幅0.18m、カマド幅0.59m、深さ0.32mである。貯蔵穴は検出されなかった。



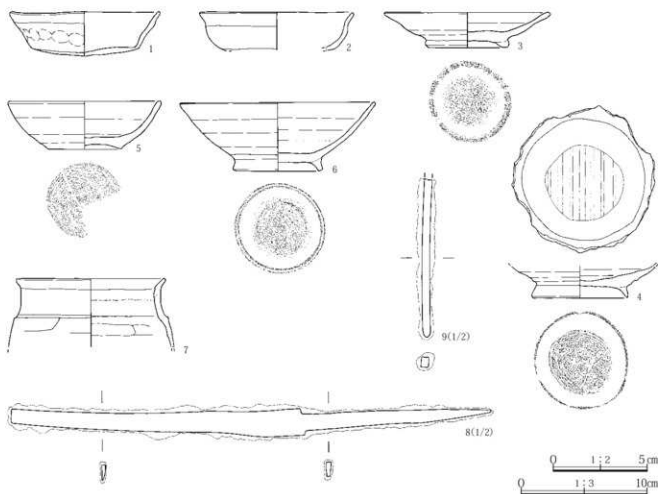
10-1 暗褐色土 少量の棒名ニッ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。	13-1 暗褐色土 棒名ニッ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。	10号住居貯蔵穴 C-C'
10-2 暗褐色土 少量の炭化物・焼土粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。	13-2 暗褐色土 多量の棒名ニッ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。	1 暗褐色土 少量の炭化物・黄褐色土ブロックを含む。硬く締り良。
10-3 黒色土 炭化物主体の層。柔らかい。粘性有。	13-3 暗褐色土 少量の棒名ニッ岳白色軽石・炭化物を含む。やや硬く締る。粘性有。	2 暗褐色土 黄褐色土ブロックを含む。硬く締り良。
10-4 暗褐色土 黄褐色土ブロックを含む。柔らかい。粘性有。	13-4 暗褐色土 黄褐色土ブロックを含む。硬く締り良。粘性有。	3 灰褐色土 硬く締り良。粘性有。
10-5 暗褐色土 黄褐色土粒子を含む。やや硬く締る。	13-5 灰褐色土 少量の棒名ニッ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。	4 暗褐色土 柔らかい。粘性有。
10-6 灰層	13-6 黄褐色土 炭化物を含む。やや硬く締る。	
10-7 黄褐色土 硬く締り良。		

第530図 X区10・13号住居(1)

掘方



0 1:60 2m



0 1:2 5cm  
0 1:3 10cm

第531図 X区10・13号住居と10号住居の出土遺物

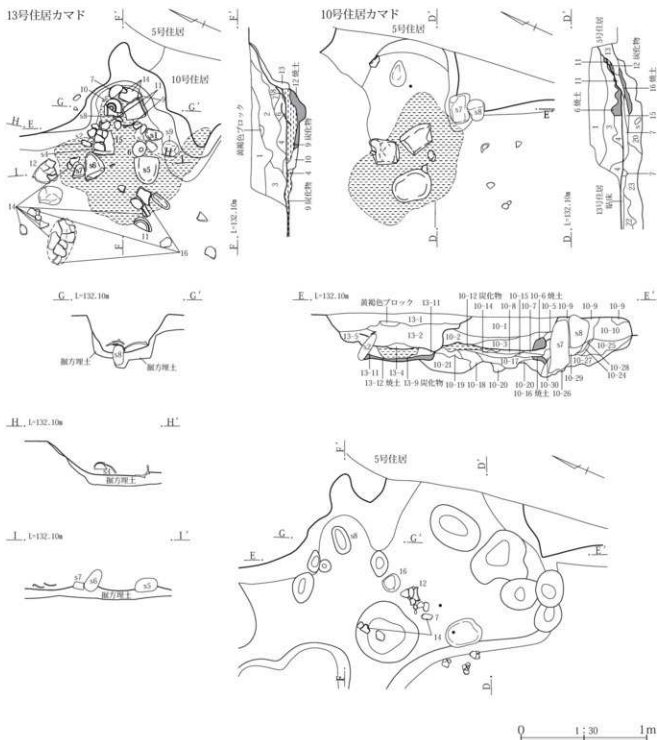
第4章 第2面の遺構と出土遺物

**柱穴** 柱穴は検出されなかった。床面に主柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

**遺物** 床面やカマド使用面から多くの遺物が出土した。床面から須恵器の杯(5)、土師器の甕(13)、墨書「西」の黒色土器耳皿(3)、床面付近から須恵器の椀(8)、カマド使用面から須恵器の椀(6・7・9)、羽釜(14~16)、

甕(17)、灰釉陶器の椀(10)、長頸壺(11)、土師器の小型壺(12)、掘方から須恵器の皿(4)、完形の鉄製鎌(18)が出土した。出土遺物は9世紀後半から10世紀初頭の年代幅を有する。

**時代** 平安時代9世紀後半~10世紀第1四半期。



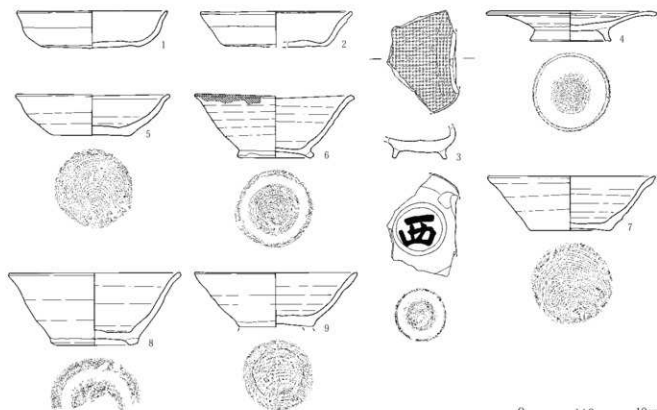
第532図 X区10・13号住居(2)

## 10号住居カマド

- 10-1 暗褐色土 少量の極名ニッ岳白色軽石・炭化物粒子・焼土粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。(13住カマド1・2層上より明るい色調。)
- 10-2 暗褐色土 少量の極名ニッ岳白色軽石と炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。
- 10-3 褐色土 炭化物粒子・焼土粒子・焼土ブロックを含む。硬く締り良。粘性非常に有。
- 10-4 暗褐色土 やや多い炭化物と焼土ブロックを含む。柔らかい。粘性非常に有。
- 10-5 褐色土 多量の焼土ブロックを含む。柔らかい。粘性非常に有。
- 10-6 焼土
- 10-7 暗褐色土 焼土ブロック・炭化物を含む。柔らかい。粘性非常に有。
- 10-8 暗褐色土 10-3層上より明るい色調。少量の焼土ブロックを含む。柔らかい。粘性非常に有。
- 10-9 灰褐色土 焼土粒子を含む。硬く締り粘性有。
- 10-10 暗褐色土 少量の極名ニッ岳白色軽石・黄褐色土粒子を含む。硬く締り粘性有。
- 10-11 褐色土 焼土ブロック・灰を含む。硬く締り良。粘性有。
- 10-12 黒色土 炭化物主体。柔らかい。粘性有。
- 10-13 暗褐色土 少量の焼土粒子・黄褐色土粒子を含む。硬く締り良。
- 10-14 黄褐色土 少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。硬く締り良。
- 10-15 暗褐色土 焼土ブロック・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 10-16 赤褐色土 焼土主体。硬く締り良。
- 10-17 暗褐色土 炭化物粒子・黄褐色土ブロックを含む。硬く締り良。粘性有。
- 10-18 暗褐色土 やや多く焼土ブロックを含む。硬く締り良。粘性有。
- 10-19 暗褐色土 少量の焼土ブロック・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
- 10-20 暗褐色土 焼土ブロック・炭化物粒子・黄褐色土ブロックを含む。硬く締り良。粘性有。
- 10-21 暗褐色土 少量の黄褐色土粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 10-22 黄褐色土 少量の炭化物粒子・黄褐色土粒子を含む。硬く締り良。
- 10-23 暗褐色土 炭化物粒子・焼土粒子・黄褐色土ブロックを含む。硬く締り良。粘性有。
- 10-24 暗褐色土 少量の炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 10-25 暗褐色土 極名ニッ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 10-26 暗褐色土 少量の焼土粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 10-27 黄褐色土 硬く締り良。
- 10-28 灰褐色土 多量の灰を含む。硬く締り良。粘性有。
- 10-29 暗褐色土 少量の炭化物粒子・黄褐色土粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 10-30 褐色土 多量の焼土ブロックを含む。柔らかい。粘性非常に有。

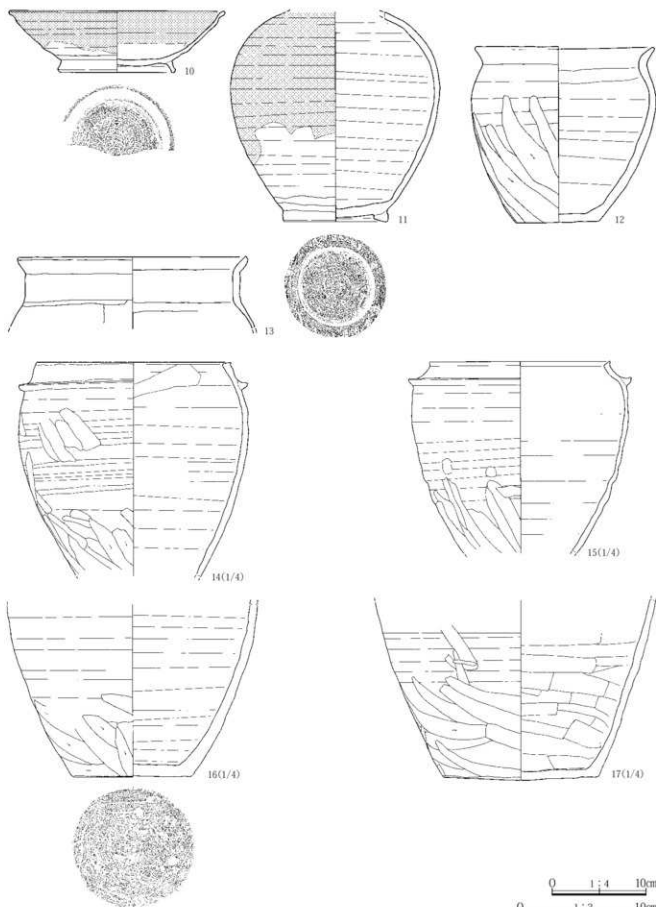
## 13号住居カマド

- 13-1 暗褐色土 極名ニッ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
- 13-2 暗褐色土 少量の極名ニッ岳白色軽石と炭化物粒子・焼土粒子を含む。やや硬く締る。
- 13-3 暗褐色土 少量の極名ニッ岳白色軽石を含む。硬く締り良。粘性有。
- 13-4 暗褐色土 やや多く炭化物を含む。硬く締り良。粘性非常に有。
- 13-5 黄褐色土 少量の炭化物ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。
- 13-6 暗褐色土 少量の炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性有。明るい色調。柔らかい。粘性有。
- 13-7 暗褐色土 粘性有。
- 13-8 赤褐色土 多量の焼土を含む。やや硬い。
- 13-9 黒褐色土 炭化物主体の層。硬く締り良。粘性有。
- 13-10 黄白色土 柔らかい。
- 13-11 暗褐色土 焼土ブロック・炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。
- 13-12 赤褐色土 焼土主体の層。炭化物を含む。
- 13-13 黄褐色土 少量の焼土粒子・炭化物を含む。やや硬く締る。

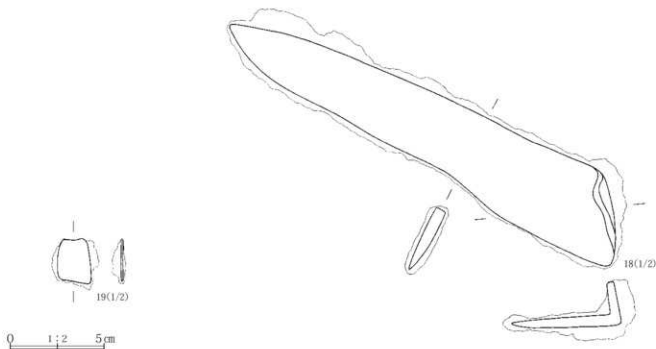


第533図 X区10・13号住居と13号住居の出土遺物

第4章 第2面の遺構と出土遺物



第534図 X区13号住居の出土遺物(1)



第535図 X区13号住居の出土遺物(2)

14号住居(第536～540図、Pl. 283・284・435)

グリッド 13E 1

主軸方位 N87°W

重複 56号土坑に切られる。26号住居を切る。2・17・18号住居に近接し、同時存在の可能性はない。

形状と規模 南北方向に長軸を有し、隅丸正方形を呈する竪穴住居である。長辺は5.45m、短辺は5.16m、深さは0.47m、面積は19.54㎡である。北壁の東部から東壁及び西壁と南壁のカマド付近には、壁面に中段が認められ、これは竪穴住居の建て替えの痕跡と考えられる。

埋土 二ツ岳の白色軽石を含む灰褐～暗褐色土が緩やかに竪穴中央に向かって傾きながら成層する。

床面 暗褐色土を0.05mほど薄く貼って、平坦な床面を構築している。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂礫層を掘り込んで平坦な掘方を構築している。南部から長径は0.69m、短径は0.58m、深さは0.47mの土坑1を検出した。また南壁際と北壁際に長辺0.88～1.18mの歪んだ長方形の浅い窪みを検出した。

カマドの概要 東壁の南東隅寄りに位置する。更に南東隅と南壁の南東隅寄りに旧いカマドの痕跡が検出された。このことから住居廃絶時のカマドをカマド3、旧いカマドをカマド1・2とする。カマド1～3の燃焼部は

東壁や南壁から奥を掘り込んで壁の外側に構築している。

カマド3 カマドの燃焼部は東壁から奥を掘り込んで壁の外側に構築している。燃焼部底はほぼ水平で、奥壁は約45°の勾配で立ち上がる。燃焼部左右の壁にはS3～S9の亜円礫7点が据えられている。これらはカマド構築材である。

S3は長径0.29m、短径0.07m、厚さ0.26mの亜円礫である。

S4は長径0.36m、短径0.13m、厚さ0.15mの亜円礫である。

S5は長径0.20m、短径0.03m、厚さ0.16mの亜円礫である。

S6は長径0.41m、短径0.11m、厚さ0.23mの亜円礫である。

S7は長径0.28m、短径0.14m、厚さ0.14mの亜円礫である。

S8は長径0.33m、短径0.10m、厚さ0.18mの亜円礫である。

S9は長径0.39m、短径0.08m、厚さ0.15mの亜円礫である。

S3・4の上には割れた棒状亜円礫のS2が置かれており、並んでS1がほぼ水平に据えられている。これらは

天井高架材である。

S 1は長径0.35m、短径0.18m、厚さ0.12mの亜円礫である。

S 2は長径0.42m、短径0.31m、厚さ0.11mの亜円礫である。

燃焼部から焚口周辺では炭化物の広がりを検出した。カマド埋土は暗褐色土が成層する。カマド3の長さは1.65m、カマド幅0.75m、深さ0.42mである。

カマド2 燃焼部底はほぼ水平で、約45°の勾配で立ち上がる。燃焼部底の掘方は、使用面に沿ってほぼ水平で

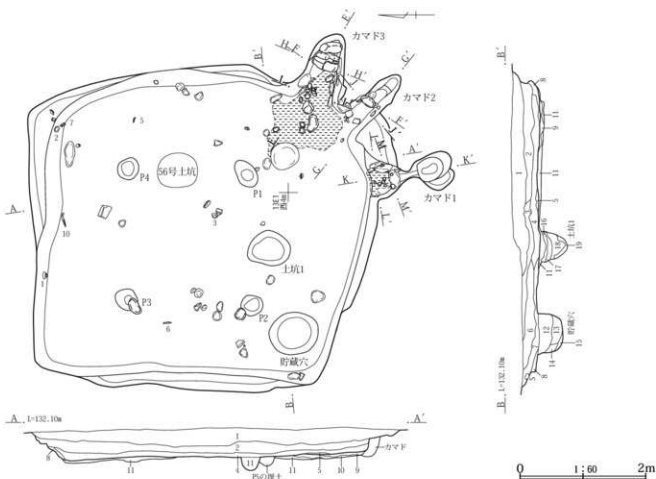
あるが、煙道に接続する斜面の掘方は垂直に近い勾配で立ち上がる。燃焼部左右の壁にはS 10~13の亜円礫4点が据えられている。これらはカマド構築材材である。

S 10は長径0.22m、短径0.17mの打割された亜円礫で、カマド2の左袖とカマド3の右袖の芯材である。

S 11は長径0.13m、短径0.11mの亜円礫である。

S 12は長径0.35m、短径0.10m、厚さ0.12mの亜円礫である。

S 13は長径0.31m、短径0.08m、厚さ0.18mの亜円礫である。



- |  |  |
|--|--|
| <p>1 暗褐色土 少量の棒名ニツ岳白色軽石を含む。硬く締り良。粘性非常に有。</p> <p>2 暗褐色土 多量の黄褐色土・灰褐色土ブロックを含む。硬く締り良。粘性非常に有。</p> <p>3 暗褐色土 炭化物・黄褐色土ブロックを含む。硬く締り良。粘性非常に有。</p> <p>4 暗褐色土 多量の炭化物を含む。柔らかい。粘性非常に有。</p> <p>5 暗褐色土 黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性非常に有。</p> <p>6 灰褐色土 やや硬く締る。粘性有。</p> <p>7 暗褐色土 黄褐色土粒子を含む。硬く締り良。粘性有。</p> <p>8 黄褐色土 硬く締り良。粘性非常に有。</p> <p>9 黄褐色土 やや硬く締る。</p> | <p>10 暗褐色土 少量の炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。</p> <p>11 暗褐色土 少量の黄褐色土粒子・炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性有。=貯蔵穴</p> <p>12 暗褐色土 炭化物を含む。柔らかい。粘性非常に有。=貯蔵穴</p> <p>13 暗褐色土 硬く締り良。粘性非常に有。=貯蔵穴</p> <p>14 暗褐色土 14層上よりも明るい色調。硬く締り良。粘性非常に有。=貯蔵穴</p> <p>15 暗褐色土 やや多く炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。=土坑1</p> <p>16 黄褐色土 少量の暗褐色土を含む。硬く締り良。=土坑1</p> <p>17 暗褐色土 硬く締り良。粘性有。=土坑1</p> <p>18 暗褐色土 多量の炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。=土坑1</p> |
|--|--|

第536図 X区14号住居(1)

S13の上に垂円礫のS14が立てかけられたように埋土中から出土した。これは天井高架材で、S12・13上に置かれていたものと考えられる。燃焼部から焚口周辺で炭化物や焼土の広がりは認められない。カマド埋土は暗褐色土が成層する。カマド2の長さは1.40m、幅0.58m、深さ0.47mである。

**カマド1** 燃焼部底は緩やかに傾き煙出しの底と考えられる土坑状の窪みに接続する。燃焼部左の壁にはS16・17の垂円礫2点が据えられている。これらはカマド構築材である。

S16は長径0.37m、短径0.09m、厚さ0.29mの打割された垂円礫である。

S17は長径0.22m、短径0.08m、厚さ0.17mの垂円礫である。

燃焼部底直上の埋土中から出土したS18は長径0.31m、

短径0.17m、厚さ0.09mの扁平垂円礫で、これはカマドの崩落によって移動した天井高架材である。燃焼部底から焚口周辺で炭化物の広がりを検出した。カマド埋土は暗褐色土が成層している。カマド1の長さは1.39m、カマドの幅0.59m、深さ0.40mである。

**貯蔵穴** 南西隅の壁際から長径0.80m、短径0.67m、深さ0.47mの円形の土坑を検出した。土坑は位置と形状から貯蔵穴と考えられる。

**柱穴** 床面の精査では見つからず、掘方の調査で支柱穴のP1～P4と建て替えに伴う古い支柱穴のP5・6を検出した。

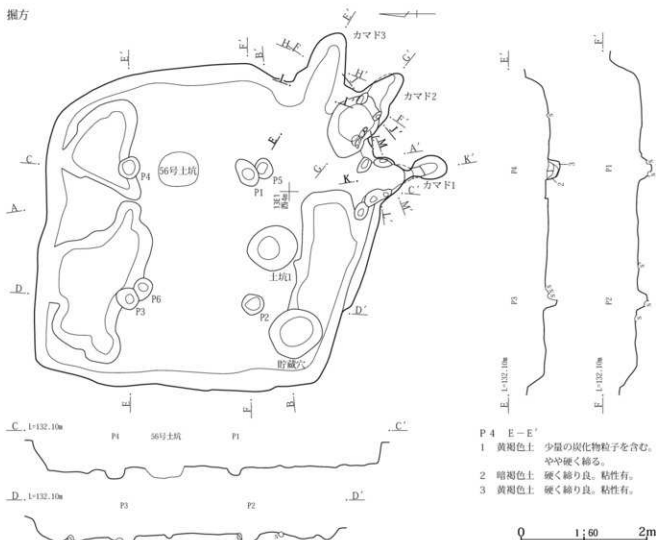
P1は長径0.47m、短径0.31m、深さ0.19m。

P2は直径0.35m、深さ0.14m。

P3は長径0.35m、短径0.32m、深さ0.18m。

P4は直径0.32m、深さ0.21m。

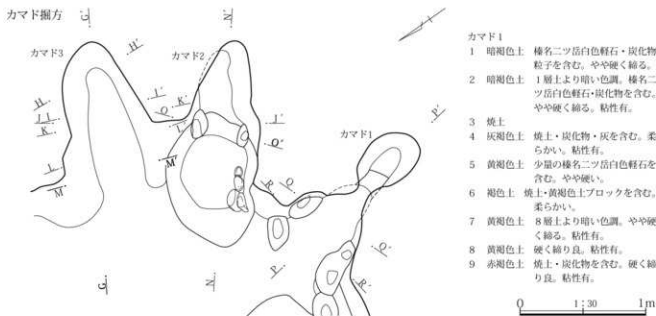
掘方



第537図 X区14号住居(2)

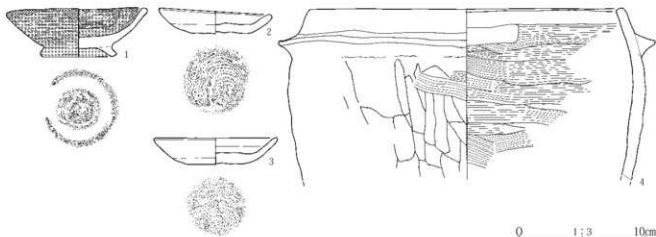






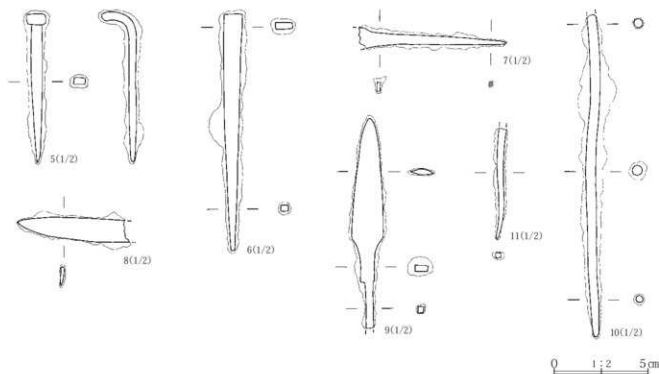
- カマド2
- 1 灰褐色土 様名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
  - 2 黄褐色土 少量の炭化物粒子を含む。硬く締り良。
  - 3 暗褐色土 硬く締り良。粘性非常に有。
  - 4 褐色土 硬く締り良。粘性非常に有。
  - 5 灰褐色土 硬く締り粘性有。
  - 6 褐色土 多量の焼土ブロックと炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。
  - 7 炭化物層
  - 8 褐色土 焼土・炭化物を含む。硬く締り良。
  - 9 黄白色土 やや硬く締る。
  - 10 暗褐色土 焼土を含む。やや硬く締る。
  - 11 灰褐色土 焼土・灰を含む。硬く締り良。
  - 12 赤褐色土 焼土主体。硬く締り良。
  - 13 黒褐色土 焼土ブロック・灰を含む。やや硬く締る。
  - 14 黄白色土 様名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
  - 15 灰褐色土 少量の様名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
  - 16 暗褐色土 少量の様名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子・焼土粒子を含む。やや硬く締る。
  - 17 灰層
  - 18 暗褐色土 黄白色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。

- カマド3
- 1 暗褐色土 様名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。炭化物を含む。やや硬く締る。粘性有。
  - 2 暗褐色土 多量の炭化物を含む。硬く締り良。粘性非常に有。
  - 3 暗褐色土 少量の焼土粒子を含む。柔らかい。粘性非常に有。
  - 4 暗褐色土 少量の炭化物粒子・焼土ブロックを含む。硬く締り良。粘性非常に有。
  - 5 暗褐色土 多量の炭化物を含む。硬く締り良。粘性非常に有。
  - 6 暗褐色土 少量のローム粒子・焼土粒子を含む。やや硬く締る。
  - 7 暗褐色土 少量の焼土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。
  - 8 赤褐色土 多量の焼土粒子を含む。柔らかい。粘性有。
  - 9 灰褐色土 焼土を含む。硬く締る。
  - 10 灰褐色土 多量の焼土と様名二ツ岳白色軽石を含む。硬く締る。
  - 11 暗褐色土 焼土粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
  - 12 暗褐色土 少量の焼土粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
  - 13 赤褐色土 多量の焼土・灰を含む。柔らかい。粘性有。
  - 14 暗褐色土 焼土・灰を含む。柔らかい。粘性有。
  - 15 暗褐色土 少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性有。
  - 16 黒土 炭化物を主体に焼土を含む。硬く締り良。粘性有。
  - 17 黄色土 硬く締り良。
  - 18 暗褐色土 黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。
  - 19 暗褐色土 少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性有。
  - 20 暗褐色土 20層上より暗い色調。焼土ブロックを含む。硬く締り良。粘性有。



第539図 X区14号住居と出土遺物

第4章 第2面の遺構と出土遺物



第540図 X区14号住居の出土遺物

P 5は長径0.34m、短径0.29m、深さ0.14m。

P 6は長径0.37m、短径0.27m、深さ0.15m。

柱間は桁行のP 1・P 2が2.08m、建て替え前のP 5・P 2が2.18m。P 3・P 4が2.14m。建て替え前のP 6・P 4が1.92m。梁行のP 1・P 4が1.90m、建て替え前のP 5・P 4が2.10m。P 2・P 3が1.96m、建て替え前のP 6・P 2が1.77mである。なお柱穴には柱痕は認められなかったが、掘方はしっかりしている。

**遺物** 床面付近から須恵器の杯(3)、鉄釘(6)、埋土から須恵器の杯(2)、黒色土器の碗(1)、鉄釘(5)や刀子(7・8)、鉄鏝(9)、カマド掘方から土師器の羽釜(4)が出土した。

**時代** 平安時代10世紀第4四半期。

15号住居(第541～544図、Pl. 285・435)

グリッド 3 G 20

主軸方位 N 81° E

**重複** 4号住居に切られる。17号住居を切る。2・3号住居に隣接し、同時存在の可能性はない。

**形状と規模** 南北方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する。長辺は3.28m、短辺は2.84m、深さは0.35m、面積は7.61㎡である。

**埋土** ツツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

**床面** 暗褐色土を0.05mほど薄く貼って、平坦な床面を構築している。

**掘方** XII・X層の黄褐色砂質土を掘り込んで平坦な構築している。

**カマドと貯蔵穴** 東壁中央の南東隅寄りに位置する。カマドの燃焼部は東壁から奥を掘り込んで壁の外側に構築している。燃焼部底は水平で、緩やかに傾斜して立ち上がり、煙道へ接続する。燃焼部左右の壁にはS 1～S 8の垂円礫7点が据えられている。これらはカマド構築材である。

S 1は長径0.14m、短径0.04mの垂円礫である。

S 2は長径0.22m、短径0.08m、厚さ0.08mの垂円礫である。

S 3は長径0.28m、短径0.08m、厚さ0.14mの安山岩の垂円礫である。

S 4は長径0.18m、短径0.08m、厚さ0.14mの垂円礫である。

S 5は長径0.30m、短径0.14m、厚さ0.12mの安山岩の垂円礫である。

S 6は長径0.14m、短径0.10m、厚さ0.05mの安山岩の垂円礫である。

S 7 は長径0.40m、短径0.18m、厚さ0.22mの二ツ岳軽石の円礫である。

S 8 は長径0.34m、短径0.13m、厚さ0.23mの安山岩の亜角礫である。

燃焼部底から焚口周辺で炭化物の広がりを検出した。煙道を含むカマドは長さ1.80m、煙道長0.73m、煙道幅0.45m、カマドの幅0.90m、深さ0.43mである。貯蔵穴は検出されなかった。

**柱穴** 柱穴は検出されなかった。床面に主柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

**遺物** 床面から須恵器の杯(2)、碗(4・5)、カマド使用面から須恵器の羽釜(7)、埋土から灰釉陶器の皿(6)、刀子(8)、カマド埋土から黒色土器の杯(1)や須恵器の

杯(3)が出土した。

**時代** 平安時代10世紀第3-4半期。

17号住居(第541・542・544図、PL.286・435)

グリッド 3 F 20

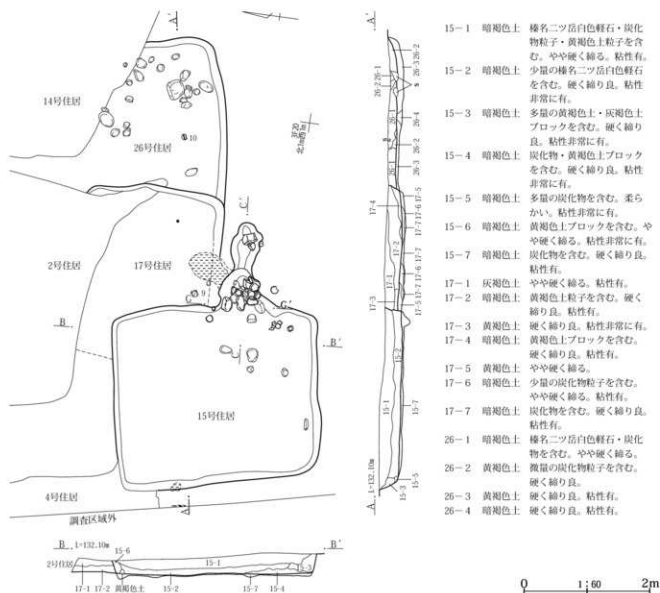
主軸方位 N S

重複 2・15号住居に切られる。26号住居を切る。

**形状と規模** 東西方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴で南西部は15号住居、北部は2号住居により失われている。長辺は3.28m、短辺は2.84m、深さは0.35m、検出された最大の面積は7.61m<sup>2</sup>である。

**埋土** 暗褐色土が東から西側に傾いて成層する。

**床面** 暗褐色土を0.05mほど薄く貼って、平坦な床面を



第541図 X区15・17・26号住居(1)

構築している。

**掘方** XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築している。カマドの存在する南壁側が段状に窪む。

**カマドと貯蔵穴** 南壁の南東隅寄りに位置し、掘方のみを検出した。燃焼部周辺で炭化物の広がりを検出した。カマド掘方埋土は暗褐色土からなる。カマドは長さ1.12m、幅0.70m、深さ0.02mである。貯蔵穴は検出されなかった。

**柱穴** 柱穴は検出されなかった。床面に主柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

**遺物** 床面から須恵器の椀(9)が出土した。

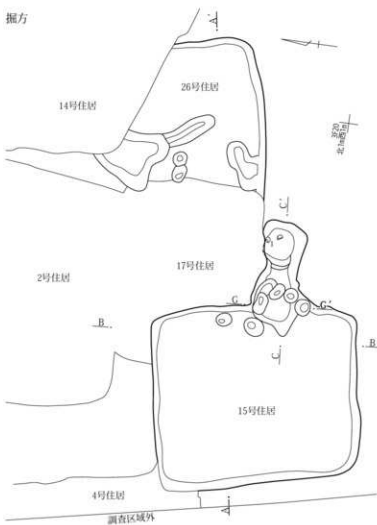
**時代** 平安時代10世紀第1四半期。

26号住居(第541・542図、PL.286)

グリッド 3 F 20

主軸方位 N80°E

掘方



**重複** 2・14・17号住居に切られる。

**形状と規模** 南北方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴で、西部は2・17号住居、北東部は14号住居により失われている。長辺は4.13m、短辺は2.38m+、深さは0.20m、検出された最大の面積は4.32㎡である。

**埋土** ツツ岳の白色軽石を含む黄褐～暗褐色土からなる。

**床面** 黄褐色土を0.10mほど貼って、平坦な床面を構築している。

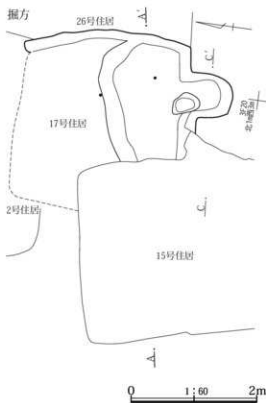
**掘方** XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築している。中央に不定形の溝状の浅い窪みを検出した。

**カマドと貯蔵穴** カマドと貯蔵穴は検出されなかった。

**柱穴** 柱穴は検出されなかった。床面に主柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

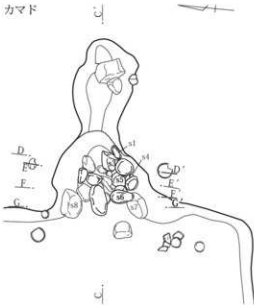
**遺物** 床面から須恵器の羽釜(10)が出土した。

**時代** 平安時代10世紀前半。



第542図 X区15・17・26号住居(2)

カマド



D, 1:132.10m

D'



E, 1:132.10m

E'



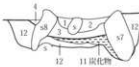
F, 1:132.10m

F'

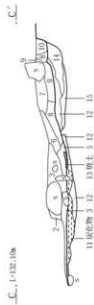


G, 1:132.10m

G'

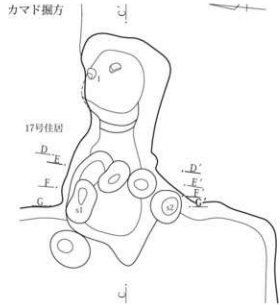


カマド掘方



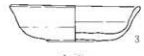
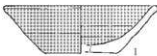
C, 1:132.10m

カマド掘方



- 1 褐色土 やや多く焼上を含む。硬く締り良。粘性有。
- 2 暗褐色土 硬く締り良。粘性有。
- 3 暗褐色土 多量の炭化物を含む。硬く締り良。粘性非常に有。
- 4 黄褐色土 石の押さえ土か。やや硬く締る。
- 5 暗褐色土 炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
- 6 暗褐色土 少量の炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性有。
- 7 灰褐色土 燻名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 8 暗褐色土 黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。
- 9 暗褐色土 少量の燻名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 10 灰褐色土 やや硬く締る。粘性有。
- 11 黒色土 炭化物主体の層。硬く締り良。粘性有。
- 12 暗褐色土 少量の炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性有。
- 13 焼上
- 14 黄褐色土 硬く締り良。粘性有。
- 15 暗褐色土 硬く締り良。粘性有。

0 1:30 1m

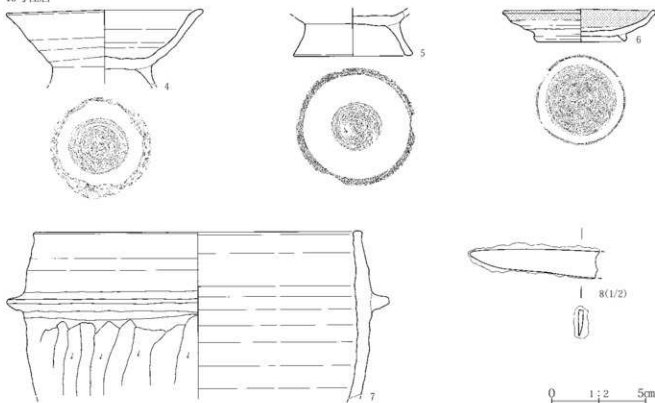


0 1:3 10cm

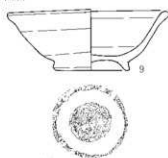
第543図 X区15号住居と出土遺物

第4章 第2面の遺構と出土遺物

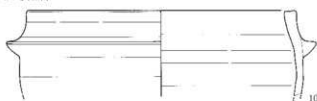
15号住居



17号住居



26号住居



第544図 X区15・17・26号住居の出土遺物

16号住居(第545・546図、PL.435・436)

グリッド 13C 1

主軸方位 N47°W

重複 20号土坑に切られる。11号溝、64号土坑を切る。

形状と規模 北西～南東方向に長軸を有し、長方形を呈する竪穴である。長辺は3.71m、短辺は2.71m、深さは0.43m、面積は7.54㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐～灰褐色土からなる。

床面 灰褐色土を0.02mほど薄く貼って、平坦な床面を

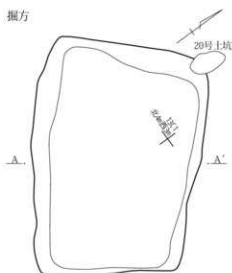
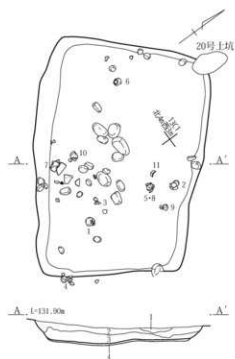
構築している。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂礫層を掘り込んで平坦な掘方を構築している。

カマドと貯蔵穴 カマドと貯蔵穴は検出されなかった。

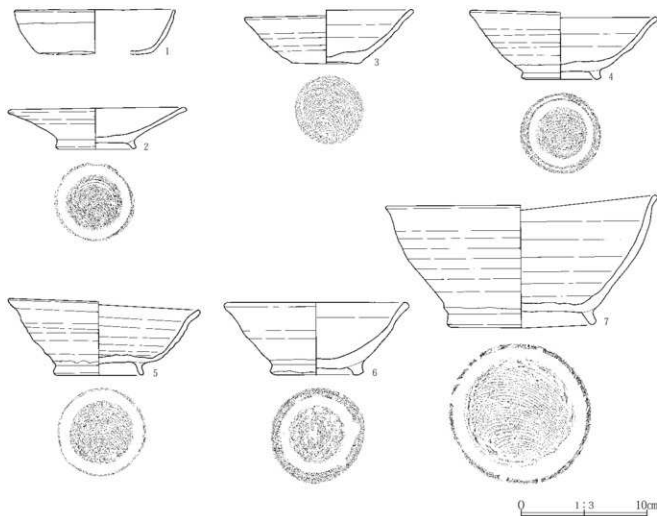
遺物 床面から多くの遺物が出土した。床面から須恵器の椀(5・7・8)、床面付近から土師器の杯(1)、須恵器の椀(6・9)、埋土から土師器の小型甕(11)、刀子(12)が出土した。

時代 平安時代10世紀第1四半期。



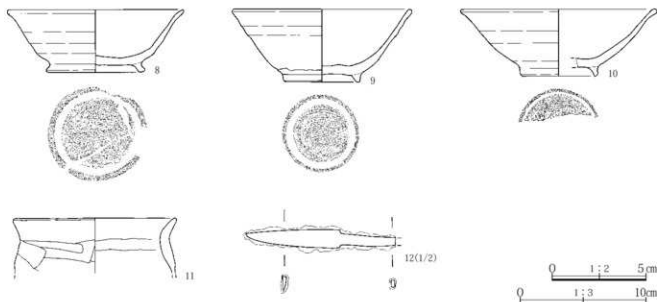
- 1 暗褐色土 極名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬い。
- 2 暗褐色土 極名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 3 灰褐色土 少量の極名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 4 灰褐色土 少量の極名ニツ岳白色軽石を含む。硬く締る。粘性強。

0 1:60 2m



第545図 X区16号住居と出土遺物





第546図 X区16号住居の出土遺物

18号住居(第547～549図、PL.287・436)

グリッド 13 F 2

主軸方位 N83° E

重複 1・21・27・30号住居に切られる。23号住居を切る。  
 形状と規模 東西方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴住居で、西部は1・21・30号住居により失われている。長辺は3.56m、短辺は2.95m+、検出された最大の面積は8.26㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

床面 暗褐色～黄褐色土を0.08mほど貼って、平坦な床面を構築している。

掘方 XII・XII層の黄褐色砂質土を掘り込んで、掘方を構築している。南西隅寄りの壁際から長径1.78m、短径1.37m、深さ0.05mの浅い歪んだ円形の土坑1を検出した。

カマド 東壁の南東隅寄りに位置する。カマドの燃焼部は東壁の奥を掘り込んで壁の外側に構築している。燃焼部底は水平で、緩やかに傾きながら立ち上がる。燃焼部から焚口付近で炭化物の広がりを検出した。カマドの埋土は焼土ブロックを含む暗褐色土からなる。カマドは長さ1.13m、幅0.70m、深さ0.29mである。

貯蔵穴 南東隅の壁際から長径0.61m、短径0.44m、深さ0.29mの楕円形の土坑を検出した。土坑は位置や形状から貯蔵穴と考えられる。

柱穴 柱穴は検出されなかった。床面に支柱穴を持たな

い構造の竪穴住居と想定される。

遺物 カマド使用面から須恵器の羽釜(7)、掘方から須恵器の椀(3～6)、皿(1)、埋土から須恵器の杯(2)が出土した。

時代 平安時代10世紀前半。

22号住居(第547・548・550図、PL.289・290)

グリッド 13 F 2

主軸方位 N74° E

重複 1号住居に切られる。23号住居を切る。

形状と規模 北西～南東方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴で西から南部の大部分は1号住居と掘乱により失われている。長辺は1.80m+、短辺は1.48m+、深さは0.44m、検出された最大の面積は4.44㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土が水平に成層する。

床面 暗褐色土を0.24mほど厚く貼って、平坦な床面を構築している。

掘方 XII・XII層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築している。壁際から長径0.68～1.78mの歪んだ楕円形の窪みを検出した。

カマドと貯蔵穴 カマドと貯蔵穴は検出されなかった。

遺物 床面から土師器の杯(9)、掘方から須恵器の皿(10)が出土した。

時代 平安時代9世紀後半。

23号住居(第547～550図、PL.290・291)

グリッド 13F 2

主軸方位 N53° E

重複 1・18・22・30号住居、31号土坑に切られる。

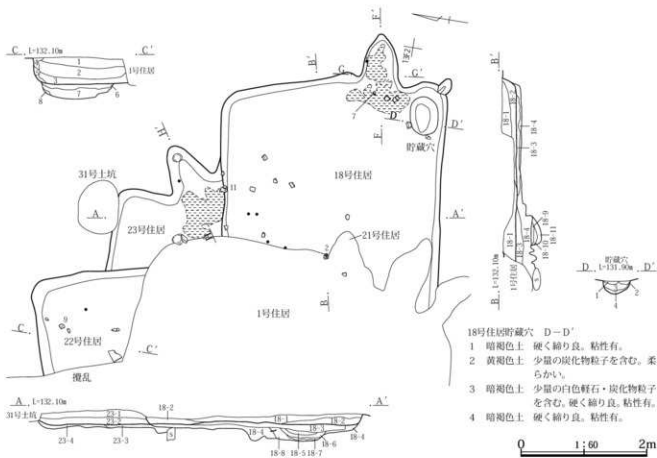
形状と規模 東西方向にカマドの長軸を有する竪穴住居と想定される。カマド周辺と竪穴の北東隅のみが検出され、それ以外は1・18・23号住居により失われている。長辺は2.71m+、短辺は1.22m+、深さは0.25m、検出された最大の面積は3.68㎡である。

埋土 ニツ島の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

床面 黒褐～黄褐色土を0.05mほど貼って、平坦な床面を構築している。

掘方 XII・XIII期の灰黄褐色砂質土を掘り込んで、掘方を構築している。

カマド 東壁に位置する。カマドの燃焼部は東壁の奥を掘り込んで壁の外側に構築している。燃焼部底は水平で、約45°の勾配で立ち上がる。焚口付近で炭化物の広がりを検出した。カマドの埋土は黒褐～暗褐色土からなる。



18-1 暗褐色土 やや多く様名ニツ島白色軽石、少量の炭化物粒子を含む。やや硬く締る。

18-2 暗褐色土 少量の様名ニツ島白色軽石・黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。

18-3 暗褐色土 様名ニツ島白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。

18-4 黄褐色土 硬く締り良。

18-5 暗褐色土 少量の様名ニツ島白色軽石・炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性有。

18-6 暗褐色土 18-5層上より明るい色調。硬く締り良。粘性有。

18-7 暗褐色土 18-6層上より暗い色調。やや硬く締る。粘性有。

18-8 黄褐色土 硬く締り良。粘性有。

18-9 灰褐色土 焼上ブロック・炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。

18-10 灰褐色土 柔らかい。

18-11 灰褐色土 硬く締り良。

23-1 暗褐色土 様名ニツ島白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。

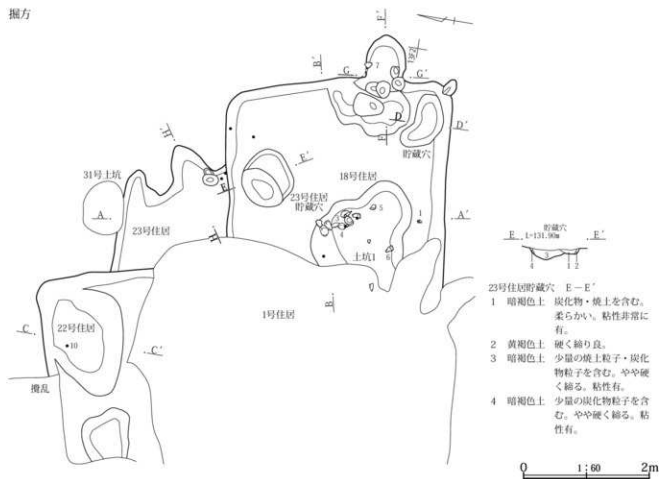
23-2 暗褐色土 炭化物を含む。やや硬く締る。粘性有。

23-3 黒褐色土 多量の炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。

23-4 黄褐色土 硬く締り良。

第547図 X区18・22・23号住居(1)

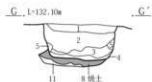
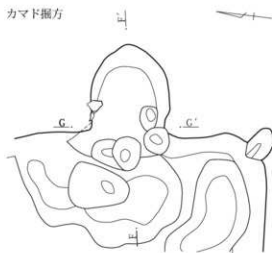
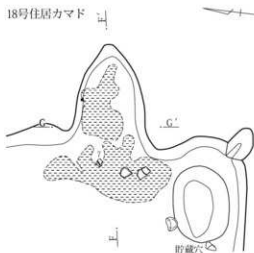
掘方



23号住居貯蔵穴 E-E'

- 1 暗褐色土 炭化物・焼土を含む。柔らかい、粘性非常に有。
- 2 黄褐色土 硬く締り良。
- 3 暗褐色土 少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 4 暗褐色土 少量の炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。

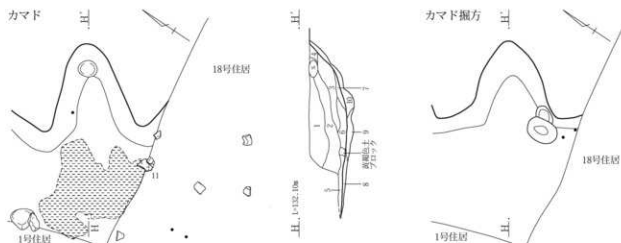
0 1:60 2m



- 1 暗褐色土 種名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 少量の種名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子・焼土粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 3 暗褐色土 焼土粒子を含む。硬く締り良。粘性有。
- 4 暗褐色土 炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。
- 5 灰褐色土 やや硬く締る。
- 6 暗褐色土 焼土ブロック・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 7 灰層 柔らかい、粘性有。
- 8 赤褐色土 焼土主体。柔らかい、粘性有。
- 9 暗褐色土 硬く締り良。
- 10 暗褐色土 炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 11 黄褐色土 やや硬く締る。

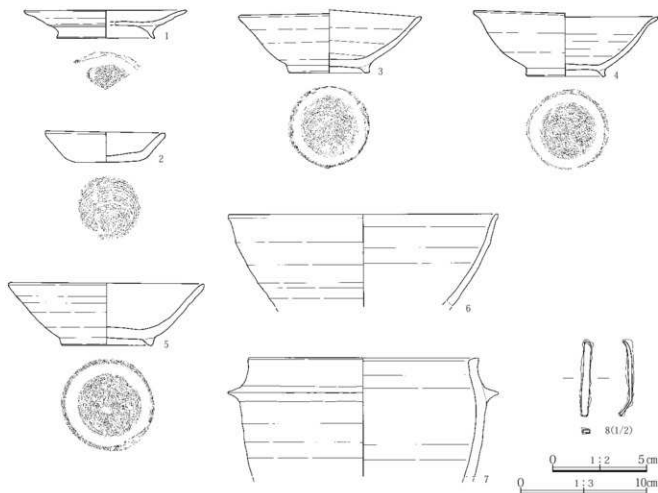
0 1:30 1m

第548図 X区18・22・23号住居(2)



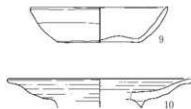
- 1 暗褐色土 極名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 暗褐色土 少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性有。
- 3 暗褐色土 焼土ブロック・炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。
- 4 暗褐色土 少量の極名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 5 黒褐色土 多量の炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。
- 6 暗褐色土 やや多く焼土・炭化物を含む。硬く締り良。粘性非常に有。
- 7 褐色土 焼土粒子・炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性非常に有。
- 8 黒褐色土 多量の炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。
- 9 黄褐色土 硬く締り良。
- 10 暗褐色土 焼土粒子・炭化物粒子を含む。硬く締り良。

0 1:30 1m

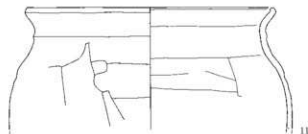


第549図 X区23号住居と18号住居の出土遺物

22号住居



23号住居



第550図 X区22・23号住居の出土遺物

カマドは長さ1.22m、幅0.63m、深さ0.35mである。

**貯蔵穴** カマドの南側にあたる18号住居の掘方から長径0.87m、短径0.82m、深さ0.25m楕円形の土坑を検出した。土坑は位置や形状から23号住居に帰属し、貯蔵穴と考えられる。

**遺物** カマド使用面から土師器の甕(11)が出土した。

**時代** 平安時代9世紀第4四半期。

覆われる。これは崩落したカマドの天井と考えられる。

カマドは長さ1.39m、幅0.46m、深さ0.41mである。貯蔵穴は検出されなかった。

**柱穴** 柱穴は検出されなかった。床面に主柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

**遺物** 埋土から須恵器の羽釜(1)が出土した。

**時代** 平安時代10世紀前半。

19号住居(第551・552図、PL.288・436)

グリッド 13H 5

主軸方位 N63° E

**重複** 55号土坑に切られる。31号住居、44号土坑を切る。  
**形状と規模** 北東～南西方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴住居で、南部の一部は55号土坑により失われ、北部は調査区外に存在する。長辺は3.80m+、短辺は3.20m+、深さ0.23m、検出された最大の面積は5.33㎡である。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

**床面** 暗褐～黄褐色土を0.10mほど貼って、ほぼ平坦な床面を構築している。

**掘方** XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで、掘方を構築している。壁際から浅い方形の窪みを検出した。

**カマドと貯蔵穴** 東壁の南東隅寄りに位置する。カマドの燃焼部は東壁の奥を掘り込んで壁の外側に構築している。燃焼部底は水平で、緩やかに傾きながら煙道に続くが、その境界は不明瞭である。煙道は奥壁で垂直に立ち上がる。燃焼部から焼土ブロック、焚口付近で炭化物の広がりを検出した。カマドの埋土は焼土ブロックを含む暗褐色土からなり、燃焼部底は焼土からなる赤褐色土に

31号住居(第551・552図、PL.293)

グリッド 3H 5

主軸方位 N78° E

**重複** 19号住居、45・62号土坑に切られる。

**形状と規模** 南北方向に長軸を有し、隅丸方形を呈する竪穴で東壁と南東隅のみを検出した。竪穴の北部は19号住居により失われ、西部の大部分は調査区外に存在する。長辺は3.60m+、短辺は0.53m+、深さは0.14m、検出された最大の面積は1.44㎡である。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

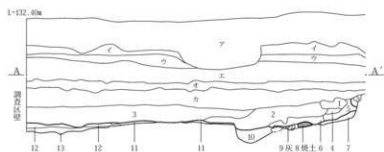
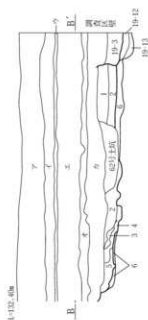
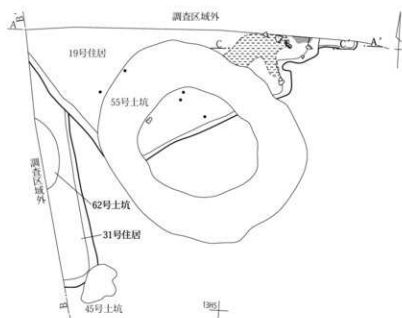
**床面** 灰黄褐色土を0.14mほど厚く貼って、床面を構築している。

**掘方** XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで掘方を構築している。

**カマドと貯蔵穴** カマドと貯蔵穴は検出されなかった。

**遺物** 埋土から土師器の杯(2)が出土した。

**時代** 平安時代9世紀後半。



0 1:60 2m

## 19号住居

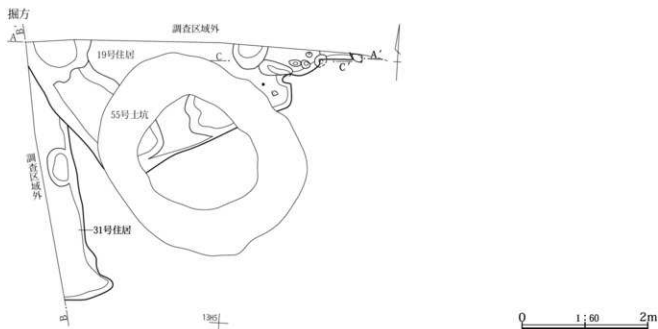
- ア 盛土  
 イ 水田耕土  
 ウ 酸化鉄分層  
 エ 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石を含む。硬く締る。  
 オ 酸化鉄分層 砂利層を含む。  
 カ 暗褐色土 多量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。  
 1 黄白色土 やや硬く締る。=カマド天井部  
 2 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。  
 3 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。  
 4 黄褐色土 やや硬く締る。=カマド天井部の崩落部  
 5 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石・焼土・炭化物を含む。やや硬く締る。粘性有。  
 6 暗褐色土 焼土ブロック・炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。  
 7 暗褐色土 黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。  
 8 赤褐色土 焼土主体。炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。  
 9 灰 非常に柔らかい。粘性有。  
 10 黒褐色土 多量の炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。  
 11 暗褐色土 炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。  
 12 黄褐色土 少量の炭化物を含む。やや硬く締る。粘性有。  
 13 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。硬く締り良。粘性有。

## 31号住居

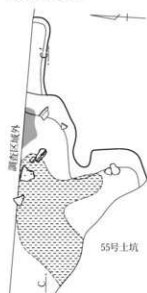
- ア 盛土  
 イ 水田耕土  
 ウ 酸化鉄分層  
 エ 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石を含む。硬く締る。  
 オ 酸化鉄分層 榛名二ツ岳白色軽石を含む。  
 カ 暗褐色土 多量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。  
 1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石・炭化物を含む。やや硬く締る。  
 2 暗褐色土 少量の炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性有。  
 3 黄褐色土 硬く締り良。  
 4 暗褐色土 多量の炭化物を含む。硬く締り良。  
 5 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。  
 6 灰褐色土 硬く締り良。粘性有。

第551図 X区19・31号住居

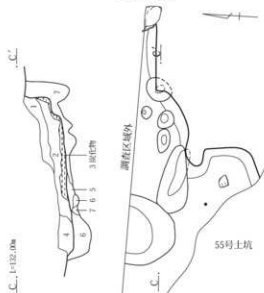
第4章 第2面の遺構と出土遺物



19号住居カマド

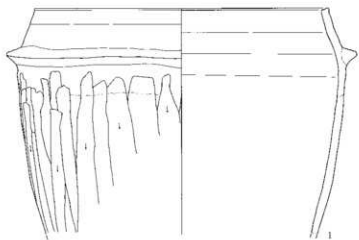


カマド掘方



- 1 暗褐色土 極名ニツ岳白色輝石を含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 少量の極名ニツ岳白色輝石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 3 赤褐色土 多量の焼土・炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。
- 4 暗褐色土 微量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 5 褐色土 硬く締り良。粘性有。
- 6 暗褐色土 炭化物・焼土粒子を含む。硬く締り良。粘性有。
- 7 黒褐色土 多量の炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。
- 8 黄褐色土 柔らかい。粘性有。

19号住居



31号住居



第552図 X区19・31号住居と出土遺物

## 20号住居(第553図, PL.289)

グリッド 13H 3

主軸方位 N76° E

重複 26号土坑に切られる。24号住居を切る。

**形状と規模** 東西方向にカマドの長軸を有する竪穴住居と想定される。カマドのみ検出され、それ以外は調査区外に存在する。

**カマド埋土** ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

**カマド掘方** 24号住居埋土を掘り込んでニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土を貼って構築している。

**カマド** 竪穴住居内のカマドの位置は不明である。カマドの燃焼部は壁から奥を掘り込んで壁の外側に構築していると想定される。燃焼部水平で、奥壁は急な勾配で立ち上がる。燃焼部の左右の壁には長径0.20~0.32mの垂円礫3点が垂直に据えられており、これらはカマドの構築材である。燃焼部底には灰や炭化物の薄層を検出した。カマドは長さ0.44m、幅0.47m、深さ0.39mである。

**遺物** なし。

**時代** 8世紀後半に帰属する24号住居よりも新しいので、8世紀後半以降の奈良・平安時代である。

## 21号住居(第554図, PL.289)

グリッド 13F 2

主軸方位 N80° E

重複 1号住居に切られる。18号住居を切る。

**形状と規模** 東西方向にカマドの長軸を有する竪穴住居と想定される。カマドのみ検出され、それ以外は1号住居により失われている。

**カマド埋土** ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

**カマド掘方** 18号住居埋土を掘り込んで暗褐色土が成層する。

**カマド** 竪穴住居内のカマドの位置は不明である。カマドの燃焼部は壁から奥を掘り込んで壁の外側に構築していると想定される。燃焼部底は水平である。燃焼部の左右の壁には長径0.20~0.28m、短径0.20mの垂円礫2点が据えられており、これらはカマドの構築材である。カマドは長さ0.46m、幅0.53m、深さ0.15mである。

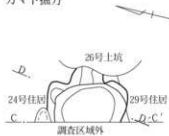
**遺物** カマド使用面から須恵器の羽釜(1)が出土した。

**時代** 平安時代10世紀後半。

カマド



カマド掘方



1-132.20m  
C C'



D, 1-132.20m  
D'



0 1:30 1m

## ク 酸化鉄分層

ケ 暗褐色土 榛名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。

コ 暗褐色土 榛名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。

1 暗褐色土 炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性有。

2 暗褐色土 少量の榛名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性非常に有。

3 暗褐色土 焼土粒子・炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性非常に有。

4 茶褐色土 やや硬く締る。

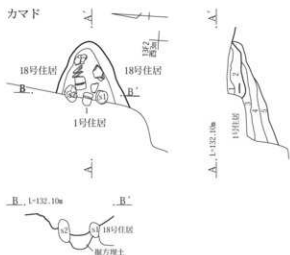
5 黒褐色土 多量の灰を含む。硬く締り良。粘性有。

6 暗褐色土 灰褐色土ブロックを含む。硬く締り良。粘性有。

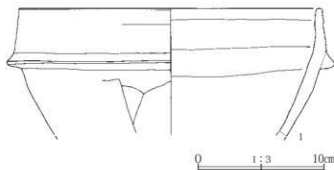
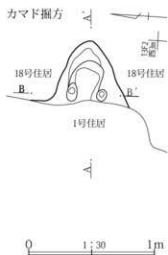
第553図 X区20号住居



第4章 第2面の遺構と出土遺物



- 1 暗褐色土 少量の白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 炭化物粒子・埴土粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 3 暗褐色土 少量の棒名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 4 暗褐色土 少量の棒名二ツ岳白色軽石・黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。
- 5 暗褐色土 少量の棒名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。



第554図 X区21号住居の出土遺物

27号住居(第555・556図、PL.292・436)

グリッド 13G 1

主軸方位 EW

重複 1・2・4号住居に切られる。18号住居、41・60号土坑を切る。発掘調査時に27・28号住居として調査したが、資料整理で27号住居に統合した。

形状と規模 東西方向に長軸を有し、方形を呈する竪穴で、掘方のみが検出された。北部は1号住居、南東部は2号住居により失われている。長辺は4.51m、短辺は4.14m、深さ0.38m、検出された最大の面積は10.54㎡である。

埋土 二ツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで、掘方を構築している。南東隅の壁際から長径0.59m、短径0.50m、深さ0.15mの土坑1を検出した。

カマドと貯蔵穴 東壁の南東隅寄りに2基の溝状の窪みが位置し、カマドの痕跡と考えられる。カマドの燃焼部は東壁の奥を掘り込んで壁の外側に構築している。埋土は埴土や炭化物を含む暗褐色土からなるが、燃焼部底は失われている。カマドは長さ0.90m、幅0.57~0.68m、

深さ0.06~0.07mである。貯蔵穴は検出されなかった。

柱穴 柱穴は検出されなかった。床面に主柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

遺物 床面から土師器の甕(1)、埋土から角棒状鉄製品(2)が出土した。

時代 平安時代10世紀後半。

30号住居(第557図、PL.291・293)

グリッド 13F 2

主軸方位 N84°E

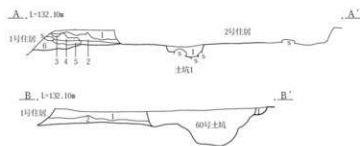
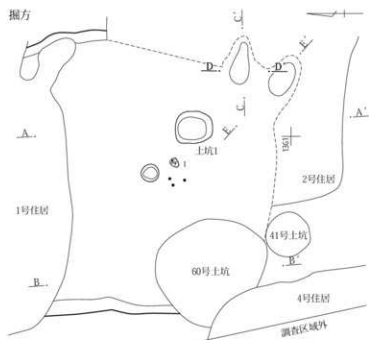
重複 1号住居に切られる。18・23号住居を切る。

形状と規模 東西方向にカマドの長軸を有する竪穴住居と想定される。カマドのみ検出され、それ以外は1号住居により失われている。

カマド埋土 暗褐~黒色土からなる。

カマド掘方 暗褐~黄褐色土が成層する。

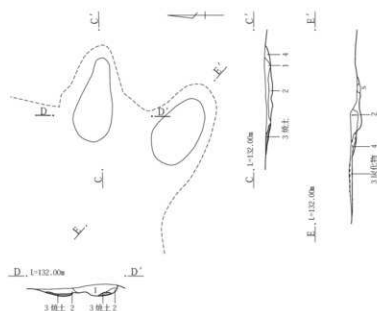
カマド 竪穴住居内のカマドの位置は不明である。カマドの燃焼部は壁から奥を掘り込んで壁の外側に構築していると想定される。燃焼部底は水平で、緩やかに立ち上



- 1 暗褐色土 少量の棒名二ツ店白色軽石を含む。灰褐色土ブロックを含む。硬く締り良。
- 2 暗褐色土 少量の炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性有。
- 3 黄褐色土 硬く締り良。
- 4 暗褐色土 炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性有。
- 5 暗褐色土 少量の炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性有。
- 6 暗褐色土 炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性有。

0 1:60 2m

### カマド掘方



#### C-C'・D-D'

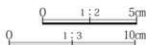
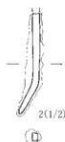
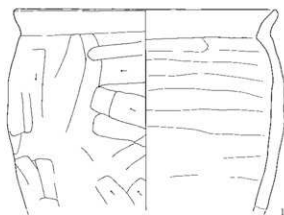
- 1 暗褐色土 少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 黒褐色土 多量の炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。
- 3 褐色土 やや多く焼土を含む。硬く締り良。粘性有。
- 4 暗褐色土 少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。硬く締り良。粘性有。

#### E-E'

- 1 茶褐色土 焼土ブロック・炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。
- 2 暗褐色土 炭化物・焼土ブロックを含む。硬く締り良。
- 3 黒色土 炭化物主体の層。硬く締り良。粘性有。
- 4 黄褐色土 焼土粒子を含む。硬く締り良。

0 1:30 1m

第555図 X区27号住居



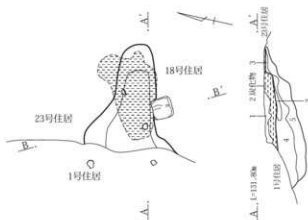
第556図 X区27号住居の出土遺物

がる。燃焼部の右壁には直径0.32mの垂角礫が据えられており、これはカマドの構築材である。カマドの南側の壁際から長径0.95m、短径0.55m、深さ0.07mの浅い歪んだ楕円形の窪みを検出した。カマドは長さ1.12m、幅0.94m、深さ0.34mである。

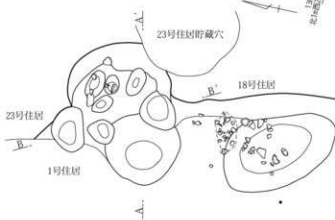
遺物 なし。

時代 10世紀第4四半期に帰属する1号住居よりも旧く、10世紀前半に帰属する18号住居よりも新しいことから平安時代10世紀第3四半期と想定される。

カマド



カマド掘方



- 1 褐色土 少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。硬く締り良。
- 2 黒色土 多量の炭化物と焼土ブロックを含む。硬く締り良。粘性有。
- 3 灰褐色土 硬く締り良。
- 4 暗褐色土 少量の炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。
- 5 茶褐色土 少量の炭化物・焼土粒子を含む。硬く締り良。粘性非常に有。
- 6 黄褐色土 少量の炭化物粒子・焼土粒子を含む。硬く締り良。粘性非常に有。
- 7 黄褐色土 少量の焼土粒子を含む。硬く締り良。粘性非常に有。
- 8 暗褐色土 少量の礫名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。



第557図 X区30号住居

## 7. XI区

XI区で検出された住居は1棟のみで、平安時代10世紀の住居である。

4号住居(第558図、PL.294)

グリッド 2K4

主軸方位 N78°E

重複 なし。

形状と規模 幅が狭い調査区で東西方向の竪穴の壁と床を検出した。長辺は3.58m+、短辺は1.10m+、深さは0.22m、検出された最大の面積は3.15㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含むいぶい黄褐～灰黄褐色シ

ルト質土が成層する。

床面 にぶい黄褐色シルト質土を0.10mほど貼って、平坦な床面を構築している。南壁際から炭化物の広がりを検出した。

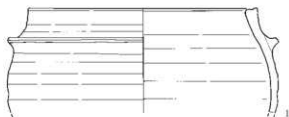
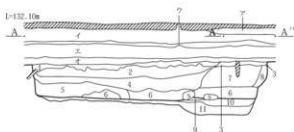
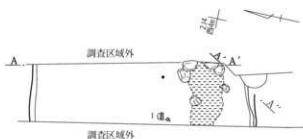
掘方 XI・XII層の黄褐色砂質土を掘り込んで掘方を構築している。南壁際には長径1.49m、幅1.00m+、深さ0.23mの土坑1を検出した。

カマド カマドは検出されなかった。床面から炭化物の広がりが検出されており、カマドは調査区外に存在する可能性がある。

貯蔵穴と柱穴 貯蔵穴と柱穴は検出されなかった。

遺物 床面から須恵器の羽釜(1)が出土。

時代 平安時代10世紀前半。



0 1:3 10cm

- 掘方
- ア 暗褐色土(10YR3/3) 現代盛土。種名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。
- イ 灰色土(5Y4/1) 水田耕作土。微量の種名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。
- ウ 明褐色土(7.5YR5/6) 水田底土。鉄分沈着でイ層土が変色。締り強。
- エ 褐灰色土(10YR4/1) 泥流層。微量の種名ニツ岳白色軽石を含む。細砂混じり。締り強。
- オ 灰褐色土(7.5YR5/2) 泥流層。微量の種名ニツ岳白色軽石を含む。細砂混じり。
- 1 黒褐色土(10YR3/1) 土質やや粗い。鉄分沈着有り。少量の種名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 種名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) 少量の種名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。粘性やや有。
- 4 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 2層土よりも軽石少ない。
- 5 にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) ローム土混じり。締り強。
- 6 黒褐色土(10YR3/2) 土質ほぼ均一。
- 7 暗褐色シルト質土(10YR3/3) 少量の種名ニツ岳白色軽石大粒を含む。締り強。
- 8 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の種名ニツ岳白色軽石を含む。
- 9 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) 土質均一。
- 10 黒褐色土(10YR3/1) 灰層。境上を混入する。
- 11 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) 土質均一。

0 1:60 2m

第558図 XI区4号住居と出土遺物

8. XIII区

XIII区では平安時代他の竪穴住居が20棟検出された。時代別の遺構数では、平安時代が14棟、年代未詳の住居は6棟である。平安時代の住居は9世紀が1棟、10世紀が12棟、11世紀が1棟である。

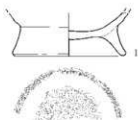
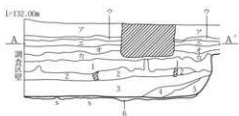
1号住居(第559図, PL.295)

グリッド 2 O 1

主軸方位 N61°W

重複 17号ピットに切られる。

形状と規模 北東～南西方向に長軸を有し、方形を呈する竪穴で、東部以外は調査区外に存在する。長辺は2.76m+、短辺は2.38m+、深さは0.56m、検出された最大の面積は3.73㎡である。



埋土 ニツ岳の白色軽石を含む黒褐～にぶい黄褐色ブロック土からなる上層と黒褐色シルト質土からなる下層からなる。

床面 にぶい黄褐色土を0.05mほど薄く貼って、ほぼ平坦な床面を構築している。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築しており、北壁際から溝状の窪みを検出した。

カマドと貯蔵穴 カマドと貯蔵穴は検出されなかった。

遺物 埋土から須恵器の椀(1)、甕(2)が出土した。

時代 平安時代10世紀後半。

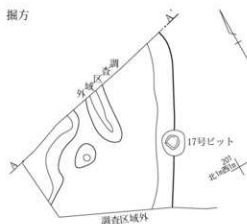
2号住居(第560図, PL.296・436)

グリッド 2 N 1

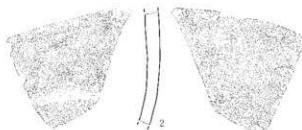
主軸方位 N81°E

重複 4・10号土坑,16(1号掘立柱建物P6)・37号ピット

掘方



- ア 暗褐色土 現代耕作土。
- ウ 明褐色土 水田下部層。
- エ 褐灰色土
- オ 暗褐色土(10YR3/3)
- カ 暗褐色土(7.5YR3/4) 粗い砂質土。鉄分沈着有り。
- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の椀名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム上混じり。微量の椀名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 3 黒褐色粘質土(10YR2/2) 土質均一。締り強。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) 3層土に黄褐色砂質土を混入する。締りやや強。粘性有。
- 5 暗褐色砂質土(10YR3/3) 少量の4層土を混入する。締りやや弱。
- 6 にぶい黄褐色土(10YR5/4) 3層土に黄褐色砂粒を含む。粘性有。



第559図 XIII区1号住居と出土遺物

ト(4号掘立柱建物P 6)に切られる。

**形状と規模** 東西方向に長軸を有し、隅丸方形を呈する竪穴住居で北部は調査区外に存在する。長辺は2.48m、短辺は1.05m+、深さは0.38m、検出された最大の面積は3.74㎡である。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

**床面** ぬい黄褐色シルト質土を0.10mほど貼って、平坦な床面を構築している。

**掘方** Ⅻ・Ⅺ層の黄褐色砂質土を掘り込んで平坦な掘方を構築している。

**カマドと貯蔵穴** 東壁の南東隅寄りに位置し、カマドの燃焼部は東壁から奥を掘り込んで壁の外側に構築してい

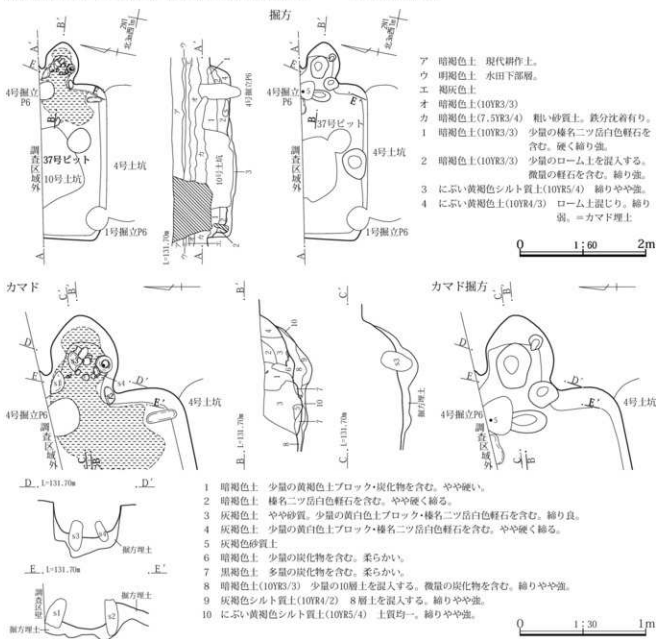
る。燃焼部底は水平で、約45°の勾配で立ち上がる。燃焼部の左右壁には垂円礫のS 1・2が据えられている。S 1は長径0.39m、短径0.14m、厚さ0.23mで0.07m埋め込まれている。

S 2は長径0.28m、短径0.10m、厚さ0.28mで0.12m埋め込まれている。

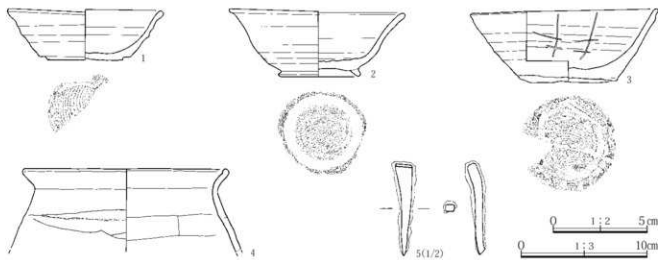
これらの礫はカマド構築材と考えられる。燃焼部の中央には小ぶりの垂円礫のS 3・4が埋め込まれている。

S 3は長径0.24m、短径0.14m、厚さ0.22mで0.13m埋め込まれている。

S 4は長径0.17m、短径0.07m、厚さ0.16mで0.06m埋め込まれている。



第560図 Ⅺ区2号住居



第561図 X区2号住居の出土遺物

これらの碗は支脚と考えられる。燃焼部から焚口周辺で炭化物の広がりを検出した。カマドは長さ0.68m、幅0.45m、深さ0.29mである。貯蔵穴は検出されなかった。柱穴 床面で主柱穴と思われる柱穴は検出されなかった。主柱穴を持たない構造の竝方住居と想定される。遺物 カマド使用面から須恵器の杯(1)、カマド埋土から須恵器の碗(2・3)、土師器の甕(4)、掘方から鉄釘

(5)が出土した。

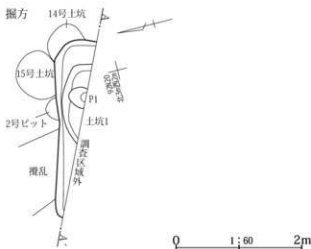
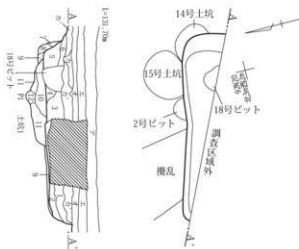
時代 平安時代10世紀第1四半期。

3号住居(第562図、PL.297)

グリッド 92N20

主軸方位 N76°W

重複 14・15号土坑、2・18号ピットに切られる。



- ア 暗褐色土 現代耕作土。  
 エ 褐灰色土  
 オ 暗褐色土(10YR3/3)  
 カ 暗褐色土(7.5YR3/4) 粗い砂質土。鉄分沈着有り。  
 キ カより鉄分沈着少ない。  
 1 黒褐色土(10YR3/2) 粗い砂を混入しザラザラ。少量のロームブロックを含む。締り強。  
 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム土との混土。少量の粗い砂混じり。  
 3 灰黄褐色土(10YR4/2) 土質均一。微量の棒名二ツ岳白色軽石を含む。  
 4 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/3) 微量の白色軽石を含む。

- 5 暗褐色土(10YR3/4) くすんだローム土混じり。締りやや強。  
 6 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 微量の鉄分沈着有り。  
 7 褐色土(10YR4/4) ローム土主体。  
 8 暗褐色土(10YR3/3) 土質均一。締り弱。  
 9 にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) 少量の暗褐色土を混入する。  
 10 暗褐色土(10YR3/4) 少量のにぶい黄褐色土を混入する。締りやや強。=土坑1  
 11 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 10層土との混土。=土坑1  
 12 灰黄褐色土(10YR4/2) くすんだローム土混じり。=P1

第562図 X区3号住居

**形状と規模** 東西方向に長軸を有し、隅丸方形を呈する竪穴で、南部の大部分は調査区外に存在する。長辺は2.95m、短辺は0.06m+、深さは0.23m、検出された最大の面積は0.74㎡である。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色にぶい黄褐色土からなる。

**床面** にぶい黄褐色シルト質土を0.04mほど薄く貼って、平坦な床面を構築している。

**掘方** XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築している。南壁際から長径0.30m、短径0.26m、深さ0.11mのP1を検出した。

**カマドと貯蔵穴** カマドと貯蔵穴は検出されなかった。

**遺物** なし。

**時代** 埋土から古墳時代後期から平安時代と想定される。

#### 4号住居(第563・564図、PL.297・298・436)

**グリッド** 2M1

**主軸方位** N87°W

**重複** 5・7・8号住居、33号土坑、1号鍛冶を切る。

**形状と規模** 東西方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴住居である。長辺は3.18m、短辺は2.96m+、深さは0.35m、検出された最大の面積は7.66㎡である。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

**床面** 黒褐色土を0.10mほど貼り、平坦な床面を構築している。

**掘方** XII・XIII層の黄褐色砂質土や7号住居埋土を掘り込んで平坦な掘方を構築している。

**カマド** 東壁の南東隅に位置する。カマドの燃焼部は東壁から奥を掘り込んで壁の外側に構築している。燃焼部底はほぼ水平で、奥壁は急な勾配で立ち上がる。燃焼部の左壁には長径0.23m、短径0.14m、厚さ0.22mの亜円礫が据えられており、これはカマド構築材である。燃焼部の奥壁は焼土帯が広がり、燃焼部から焚口付近は炭化物の広がりを検出し、炭化材の一部は樹種同定を実施した(第5章第3節参照)。カマド埋土は暗褐色土が成層し、燃焼部底を黒褐色の灰層が覆う。カマドは長さ1.14m、幅0.80m、深さ0.37mである。

**貯蔵穴** 南西隅の壁際で直径0.78m、深さ0.37mの円形の土坑を検出した。土坑は規模やカマドとの位置関係から貯蔵穴と考えられる。

**柱穴** 柱穴は検出されなかった。床面に主柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

**遺物** 床面付近とカマド使用面付近から土師器の甕(1)が出土した。

**時代** 平安時代10世紀後半。

#### 5号住居(第563図、PL.298)

**グリッド** 2M1

**主軸方位** N85°E

**重複** 4号住居、39(4号掘立柱建物P10)・46号ピットに切られる。

**形状と規模** 東西方向に長軸を有し、方形を呈する竪穴で、東部の大部分は4号住居により失われ、北部は調査区外に存在する。長辺は1.62m+、短辺は0.95m+、深さは0.19m、検出された最大の面積は1.35㎡である。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

**床面** 黄褐色土を0.08mほど貼って、床面を構築している。南壁際から直径0.33m、深さ0.23mの小ピットであるP1を検出した。

**掘方** XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで平坦な掘方を構築している。

**カマドと貯蔵穴** カマドと貯蔵穴は検出されなかった。

**柱穴** 主柱穴と思しき柱穴は検出されなかった。

**遺物** なし。

**時代** 埋土から古墳時代後期から平安時代と想定され、10世紀後半に帰属する4号住居よりも古いので10世紀以前である。

#### 7号住居(第565～567図、PL.299・300・437)

**グリッド** 2M1

**主軸方位** N87°W

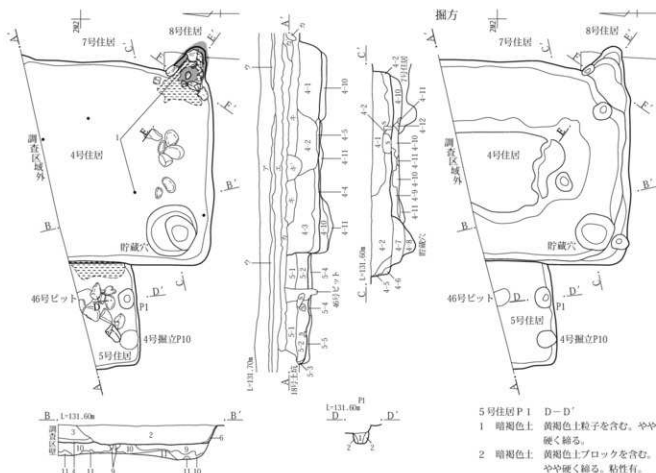
**重複** 4号住居、1号鍛冶に切られる。8号住居、33号土坑を切る。

**形状と規模** 東西方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴住居である。北部は調査区外に存在する。長辺は3.00m、短辺は2.54m+、深さは0.48m、検出された最大の面積は5.68㎡である。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色～褐色シルト質土からなる。

**床面** にぶい黄褐色土を0.05mほど薄く貼って、平坦な





- ア 暗褐色土 現代耕作土。  
 ウ 明褐色土 水田下部層。  
 エ 褐色土  
 カ 暗褐色土(7.5YR3/4) 粗い砂質土。鉄分沈着有り。  
 ガ カより鉄分沈着少ない。  
 キ 暗褐色土(10YR3/4) 酸化鉄沈着少し有り。  
 キ<sup>+</sup> キより暗い。やや多く棒名二ツ岳白色軽石を含む。締り強。  
 4-1 暗褐色土 やや多く棒名二ツ岳白色軽石・炭化物を含む。やや硬い。  
 4-2 暗褐色土 棒名二ツ岳白色軽石・炭化物を含む。やや硬い。粘性有。  
 4-3 暗褐色土 少量の棒名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。  
 4-4 暗褐色土 炭化物を含む。硬く締り良。粘性有。  
 4-5 暗褐色土 少量の棒名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。  
 4-6 黄褐色土 壁の崩落土。

- 4-7 暗褐色土 棒名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬い。粘性有。=貯蔵穴  
 4-8 暗褐色土 黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。=貯蔵穴  
 4-9 暗褐色土(10YR3/3) 微量の黄褐色シルト質土ブロックを含む。締り強。  
 4-10 にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) 少量の4-11層土を混入する。締りやや強。粘性やや有。  
 4-11 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) 締りやや強。粘性やや有。  
 4-12 暗褐色土(10YR3/4) 締りやや弱。粘性有。  
 5-1 暗褐色土(10YR3/4) 少量の棒名二ツ岳白色軽石を含む。やや鉄分沈着有り。締り強。  
 5-2 暗褐色土(10YR3/3) 微量の棒名二ツ岳白色軽石を含む。締りやや強。  
 5-3 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム土主体。粘性有。  
 5-4 黄褐色土(2.5YR5/4) 多量の浅黄色シルト質土を含む。粘性有。  
 5-5 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 微量の浅黄色シルト質土を含む。柔らかい。粘性有。

0 1:60 2m

第563図 XII区4・5号住居

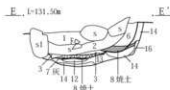
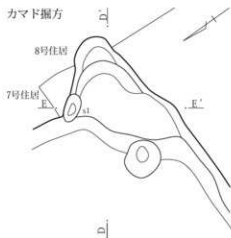
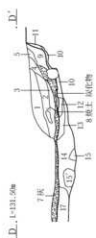
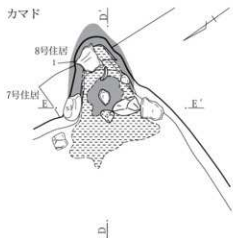
床面を構築している。南西隅の壁際から直径0.50m、深さ0.17mの円形の土坑1を検出した。

**掘方** XII・XII層の黄褐色砂質土を掘り込んで掘方を構築している。南壁際で長辺1.10m、短辺0.68m、深さ0.04mの浅い方形の窪みを検出した。

**カマド** 東壁の南東隅寄りに位置する。カマドの燃焼部は東壁の奥に掘り込んで構築している。燃焼部は緩やか

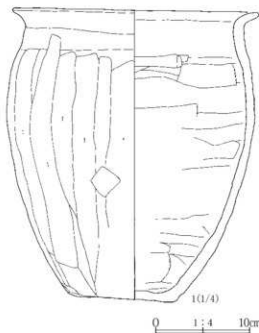
に傾いて煙道につながり、煙道は緩やかな勾配で立ち上がり、奥壁は垂直に立ち上がって煙出しに接続する。煙道から煙出しの接続部は割り抜かれた天井が残されており、長さは0.10mにおよぶ。燃焼部の左右壁にはS3~7の亜円~亜角礫5点が据えられている。

S3は長径0.26m、短径0.13m、厚さ0.10mの安山岩の亜円礫である。



- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の極名ニツ岳白色軽石・炭化物を含む。締り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 1層上よりやや強い。微量の極名ニツ岳白色軽石と炭化物大ブロックを含む。締り強。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) 2層上に灰・焼土を混入する。締りやや強。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) 土質ほぼ均一。微量の極名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 5 暗褐色土(10YR3/4) 少量の焼土と微量の炭化物を含む。締り強。
- 6 暗褐色土(10YR3/3) 少量の極名ニツ岳白色軽石と微量の炭化物を含む。締り強。
- 7 黒褐色土(10YR2/3) 灰層。微量の焼土を含む。締り弱。
- 8 にぶい赤褐色土(5YR5/4) 焼土主体。締りやや弱。
- 9 暗褐色土(10YR3/4) 少量の焼土・炭化物ブロックを含む。締りやや強。粘性やや有。
- 10 褐色土(10YR4/4) くすんだローム土を含む。締りやや弱。
- 11 暗褐色土(10YR3/4) 土質均一。締りやや弱。粘性有。
- 12 褐色土(7.5YR4/6) 少量の焼土を含む。締り弱。
- 13 にぶい黄褐色土(10YR4/3) くすんだ黄褐色シルト上混じり。締りやや強。
- 14 暗褐色土(10YR3/3) 微量のローム粒・焼土粒を含む。締りやや強。粘性有。
- 15 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) 締りやや強。
- 16 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) 少量の粗い砂を混入する。締り強。
- 17 褐色土(10YR4/4) 締りやや弱。粘性有。
- 18 褐色土(10YR4/4) くすんだ黄褐色土との混土。締りやや強。粘性有。

0 1:30 1m



第564図 XII区4号住居と出土遺物

S 4 は長径0.28m、短径0.14m、厚さ0.23mの安山岩の亜角礫で、長径を打削している。

S 5 は長径0.26m、短径0.14m、厚さ0.22mの安山岩の亜円礫である。

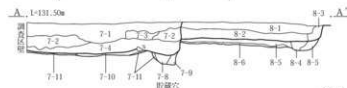
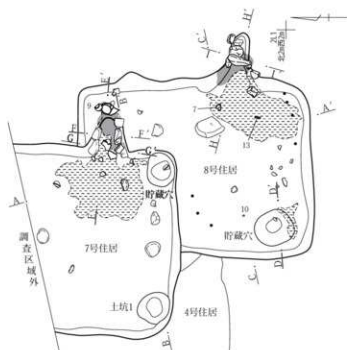
S 6 は長径0.24m、短径0.12m、厚さ0.13mの安山岩の亜角礫で長径を打削している。

S 7 は長径0.16m、短径0.15mのニツ岳の白色軽石で、扁平な面は打削され、細かな整形がなされている。

これらの礫はカマド構築材と考えられる。煙道から煙出

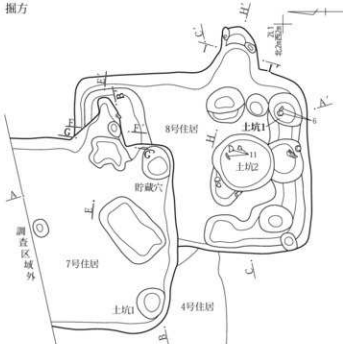
しの壁は焼土帯が顕著である。燃焼部底から焚口では焼土ブロックや炭化物の広がりを検出した。カマド埋土は焼土ブロックを含む暗褐～灰黄褐色土である。煙道を含むカマドは長さ1.20m、煙道長は0.20m、煙道から煙出しの幅0.15m、カマド幅0.90m、深さ0.51mである。

**貯蔵穴** 南東隅の埋土から長径0.53m、短径0.44m、深さ0.21mの土坑を検出した。土坑は位置や形状から貯蔵穴と考えられる。また南西隅の埋土から検出された土坑1も貯蔵穴の性格を有するものと考えられる。



- 7-1 暗褐色土(10YR3/4) 極名ニツ岳白色軽石と微量の炭化物・黄褐色土ブロックを含む。締り強。
- 7-2 灰褐色土(10YR4/2) 少量の黄褐色土を混入する。微量の軽石を含む。ややシルト質上。締りやや強粘性有。
- 7-3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 少量の焼土ブロック・黄褐色シルト質上を含む。締りやや弱。粘性有。
- 7-4 褐色シルト質上(10YR4/4) 7-2層上より明るい。微量の軽石を含む。締りやや強。粘性やや有。
- 7-5 黒褐色土(10YR3/1) 灰層。締り弱。
- 7-6 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 微量の灰・焼土ブロックを含む。締り強。
- 7-7 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 微量の灰・焼土ブロックを含む。締り強。
- 7-8 灰黄褐色シルト質上(10YR4/2) 締りやや弱。粘性やや有。=貯蔵穴
- 7-9 暗黄褐色シルト質上(10YR3/4) 締りやや弱。粘性やや有。=貯蔵穴
- 7-10 黒褐色土(10YR3/1) 灰層。締り弱。
- 7-11 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 微量の灰・焼土ブロックを含む。締り強。
- 7-12 黄褐色砂質上(10YR5/6) 締りやや弱。
- 8-1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の極名ニツ岳白色軽石を含む。微量の黄褐色土を混入する。締り強。
- 8-2 暗褐色土(10YR3/3) 8-1層上より軽石少ない。少量の黄褐色土を混入する。締り強。
- 8-3 褐色土(10YR4/4) 微量の極名ニツ岳白色軽石と黄褐色土を混入する。締り強。
- 8-4 暗褐色土 炭化物粒子・黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。

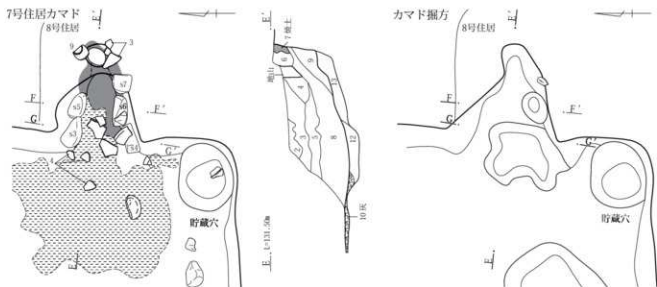
掘方



- 8-5 暗褐色土 少量の極名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
- 8-6 黄褐色土 やや硬く締る。
- 8-7 暗褐色土 黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。
- 8-8 黒褐色土 炭化物を含む。柔らかくて締り良い。粘性有。
- 8-9 暗褐色土 焼土ブロック・炭化物を含む。やや硬く締り粘性有。
- 8-10 暗褐色土 焼土を含む。やや硬く締り粘性有。



第565図 Ⅷ区7・8号住居(1)



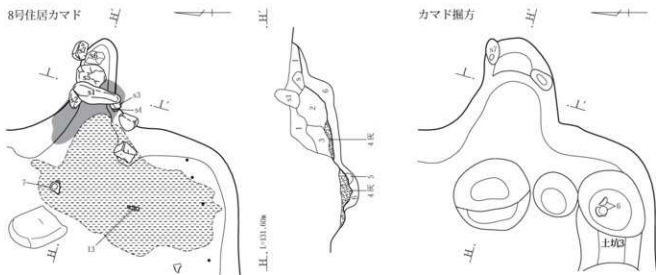
E, 1:131.50m



G, 1:131.50m



- 1 暗褐色土(10YR3/3) 土質はほぼ均一。硬く締り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 黄褐色シルト質土を含む。締り強。
- 3 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/3) 微量の極名二ツ房白色軽石を含む。少量の焼土を混入する。締り強。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR5/4) 微量の炭化物・焼土ブロックを含む。締り強。
- 5 暗褐色土(10YR3/4) 微量の極名二ツ房白色軽石・黄褐色土粒子を含む。
- 6 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 微量の極名二ツ房白色軽石を含む。硬く締り強。粘性有。
- 7 明赤褐色土(5YR5/6) 焼土主体。硬く締り強。
- 8 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の極名二ツ房白色軽石・炭化物を含む。締りやや強。粘性やや有。
- 9 暗赤褐色土(5YR3/3) 焼土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。
- 10 黒褐色土(10YR2/2) 灰層。微量の黄褐色シルト質土・焼土ブロックを含む。締り弱。
- 11 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/3) 締りやや強。粘性有。
- 12 黒褐色土(10YR3/2) 灰・焼土ブロックを含む。締り弱。
- 13 暗褐色土(7.5YR3/4) 焼土と灰褐色シルト質土の混土。締りやや弱。粘性有。



I, 1:131.00m



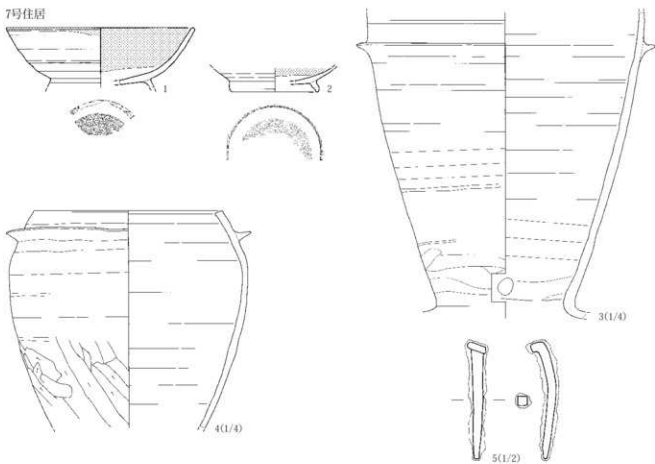
- 1 暗褐色土(10YR3/4) 微量の極名二ツ房白色軽石を含む。硬く締り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 微量の焼土ブロック・黄褐色土ブロックを含む。締り強。粘性やや有。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) 微量の極名二ツ房白色軽石と少量の焼土ブロックを含む。締りやや弱。粘性有。
- 4 黒褐色土(10YR2/2) 灰層主体。少量の焼土ブロックを混入する。締り強。
- 5 暗褐色土 焼土ブロックを含む。硬く締り良。粘性有。
- 6 黄褐色土 少量の炭化物粒子を含む。硬く締り良。

0 1:30 1m

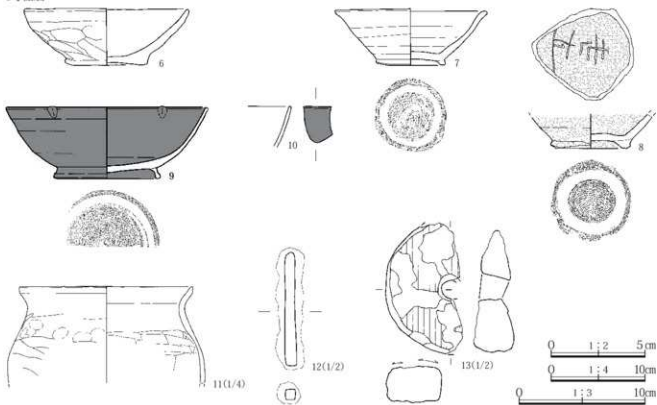
第566図 Ⅷ区7・8号住居(2)

第4章 第2面の遺構と出土遺物

7号住居



8号住居



第567図 Ⅱ区7・8号住居の出土遺物

**柱穴** 柱穴は検出されなかった。床面に主柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

**遺物** カマド使用面から灰軸陶器の椀(1)、須恵器の羽釜(4)、甕(3)、埋土から灰軸陶器の椀(2)が出土した。

**時代** 平安時代10世紀前半。

8号住居(第565～567図、PL.300・301・437)

グリッド 2 L 1

主軸方位 N87°W

重複 4・7号住居、19号土坑に切られる。

**形状と規模** 南北方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴住居で、北西部は7号住居により失われている。長辺は3.68m、短辺は2.86m、深さは0.38m、検出された最大の面積は5.65㎡である。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

**床面** 暗褐色土を0.10mほど貼って、平坦な床面を構築している。

**掘方** XII・XII層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築し、南壁際で長径0.54m、短径0.44m、深さ0.08mの楕円形の土坑1や直径0.90m、深さ0.19mの円形の土坑2を検出した。土坑1・2の底直上から土師器の杯(6)、甕(11)が出土した。

**カマド** 東壁の南東隅寄りに位置する。カマドの燃焼部は東壁の奥を掘り込んで壁の外に構築している。燃焼部底は水平で緩やかに傾きながら立ち上がり、煙道へ接続する。燃焼部の左右壁にはS2～4の垂円礫3点が据えられている。

S2は長径0.26m、短径0.11m、厚さ0.16mの垂円礫である。

S3は長径0.09m、短径0.08m、厚さ0.08mの垂角礫である。

S4は長径0.16m、短径0.10mの垂角礫である。

これらの礫はカマド構築材と考えられる。S2～4の上には長径0.39m、短径0.15m、厚さ0.21mの垂円礫が置かれており、これは天井高架材である。燃焼部から煙道上の埋土上部にはS5～7の垂円礫が出土しており、これらも移動した天井高架材の可能性が高い。燃焼部の奥壁で焼土ブロックを燃焼部から焚口で炭化物の広がりを出した。煙道を含むカマドは長さ1.77m、煙道長0.33m、カマドの幅0.82m、深さ0.37mである。貯蔵穴

は調査範囲からは検出されなかった。

**貯蔵穴** 南西隅の壁際から長径0.62m、短径0.54m、深さ0.21mの土坑を検出した。土坑は位置や形状から貯蔵穴と考えられる。

**柱穴** 柱穴は検出されなかった。床面に主柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

**遺物** 床面から須恵器の椀(7)が出土し、床面付近から緑軸陶器の椀(10)、埋土から緑軸陶器の輪花椀(9)、ニツ岳軽石製の石製品(13)が出土した。出土遺物は9世紀末から10世紀前半の年代幅を有する。

**時代** 平安時代9世紀第4四半期。

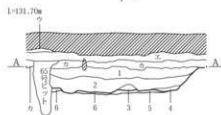
9号住居(第568図、PL.302)

グリッド 2 L 2

主軸方位 N64°E

重複 1号集石、65号ピットに切られる。

**形状と規模** 竪穴住居の隅周辺のみを検出した。竪穴住居の大部分は調査区外に存在する。長辺は2.40m+、短辺は0.53m+、深さは0.10m、検出された最大の面積は



ウ 明褐色土 水田下部礫。

エ 褐灰色土

カ 暗褐色土(7.5YR3/4) 粗い砂質土。鉄分沈着有り。

1 暗褐色土(10YR3/3) 極名ニツ岳白色軽石を含む。上層部やや鉄分沈着有り。締り強。

2 暗褐色土(10YR3/3) 少量の極名ニツ岳白色軽石・炭化物を含む。締りやや強。

3 にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム上主体。2層土を混入する。締りやや強。粘性有。

4 暗褐色土(10YR3/3) 極名ニツ岳白色軽石を含む。締りやや強。

5 にぶい黄褐色土(10YR5/4) 多量の極名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。

6 明黄褐色土(10YR6/6) 明るいシルト質上主体。締りやや強。

0 1:60 2m

第568図 X区9号住居

0.33㎡である。

**埋土** 暗褐色土が成層する。

**床面** 明黄褐色土を0.05mほど薄く貼って床面を構築している。調査区境界から浅い窪みを検出した。

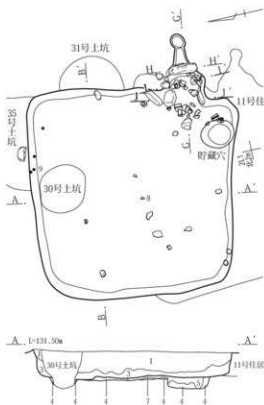
**遺物** なし。

**時代** 埋土から古墳時代後期から平安時代と想定される。

10号住居(第569・570図、PL.303・437)

グリッド 2 L 1

主軸方位 N83°W



- 1 暗褐色土(10YR3/3) 棒名二ツ岳白色軽石と微量の黄褐色土粒子・炭化物粒子を含む。締り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 1層上よりやや明るい。少量の軽石と微量の黄褐色土粒子・炭化物を含む。締り強。
- 3 にふい黄褐色土(10YR4/3) 黄褐色シルト土を混入する。微量の棒名二ツ岳白色軽石を含む。
- 4 褐色土(10YR4/4) 少量の暗褐色土・黄褐色土粒子を含む。締り強。=土坑2
- 5 暗褐色土(10YR3/3) 少量の4層土が混入する。締り強。=土坑2
- 6 にふい黄褐色土(10YR4/3) 軽い砂質土。締り強。
- 7 黄褐色土(10YR5/6) 棒名二ツ岳白色軽石を含む。締り強。

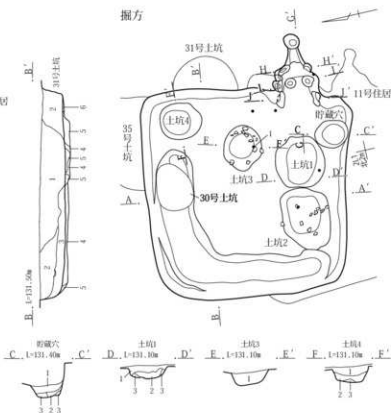
**重複** 1号集石、30号土坑に切られる。11号住居、31・35号土坑を切る。

**形状と規模** 東西方向に長軸を有し、隅丸正方形を呈する竪穴住居である。長辺は3.28m、短辺は3.22m、深さは0.48m、面積は8.10㎡である。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土が竪穴を埋め、西部の床面付近はにふい黄褐色土が覆っている。

**床面** 褐色土を0.07mほど薄く貼って、平坦な床面を構築している。

**掘方** XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで平坦な掘方を構築している。北壁から西壁際を幅0.44~0.70m、深



**貯蔵穴 C-C'**

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 微量の棒名二ツ岳白色軽石・炭化物を含む。締り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 土質は均一。微量の軽石を含む。締り強。
- 3 褐色シルト質土(10YR4/4) 締りやや弱。

**土坑1・3 D-D'・E-E'**

- 1 暗褐色土(10YR3/4) 微量の黄褐色土ブロック・棒名二ツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 2 にふい黄褐色土(10YR4/3) 1層土と黄褐色土との混土。締り強。粘性やや有。
- 3 にふい黄褐色シルト質土(10YR5/4) 締りやや弱。

**土坑4 F-F'**

- 1 暗褐色土(10YR3/4) 微量の黄褐色土ブロック・棒名二ツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 締りやや強。粘性有。
- 3 にふい黄褐色シルト質土(10YR5/4) 締りやや弱。

0 1:60 2m

第569図 XII区10号住居

さ0.05mの浅い溝状の窪みが周回する。東～南壁際で歪んだ円～方形の土坑1～4を検出した。

土坑1は直径0.79m、深さ0.13mである。

土坑2は長径0.97m、短径0.75m、深さ0.17mである。

土坑3は長径0.73m、短径0.60m、深さ0.16mである。

底直上から須恵器の杯(1)が出土した。

土坑4は長径0.77m、短径0.58m、深さ0.20mである。

**カマド** 東壁の南東隅寄りに位置する。カマドの燃焼部は東壁の奥を掘り込んで壁の外に構築している。燃焼部底は緩やかに浅く窪み、奥壁は緩やかに立ち上がり、煙道へ接続する。燃焼部の形状はやや横に膨らんだ「鍵穴」様の逆凹形を呈する。また、煙道は奥で窄まって煙出しの底に接続している。カマドは燃焼部、煙道、煙出しの残存が良好で、その構造が明瞭である。燃焼部の左右壁にはS2・3、S6・7、S9～11の垂円礫7点が据えられている。

S2は長径0.40m、短径0.16m、厚さ0.27mの安山岩の垂円礫で31°内斜し、頂部の表面は被熱の痕跡が認められる。

S3は長径0.34m、短径0.10m、厚さ0.23mの安山岩の垂角礫で11°内斜し、袖側の表面は被熱の痕跡が認められる。

S2・3は焚口の左右を構成している。

S6は長径0.22m、短径0.09m、厚さ0.19mの安山岩の垂角礫で頂部が打割されている。

S7は長径0.20m、短径0.14m、厚さ0.12mの安山岩の垂角礫で頂部が打割されている。

S6・7は煙道の入り口を構成し、ほぼ垂直に埋め込まれている。燃焼部の左壁にはS9～11が置かれている。

S9は長径0.14m、短径0.11mである。

S10は長径0.12m、短径0.10mである。

S11は長径0.08m、短径0.07mである。

これらの礫はカマド構築材と考えられる。燃焼部底の中央には左右にS4・5の垂円礫が埋め込まれている。

S4は長径0.23m、短径0.09m、厚さ0.14mの安山岩の垂円礫で0.09m埋め込まれている。

S5は長径0.22m、短径0.09m、厚さ0.11mの安山岩の垂円礫で0.11m埋め込まれている。

S4・5は頂部の表面に被熱痕跡が認められ、下半部は表面に炭化物が付着している。これらの礫はカマドの支

脚と考えられ、両者は横方向に0.18m離れていることから左右に2基の羽釜を備えたカマドであったと考えられる。

S6・7の上には長径0.44m、短径0.15m、厚さ0.19mの安山岩の垂円礫が置かれており、これは煙道の入口を構成する天井高架材である。

また、カマド西側の床面から長径0.36m、短径0.12mの安山岩の垂円礫が出土しており、これらはカマドの崩落に伴って移動した焚口の天井高架材の可能性が極めて高い。燃焼部から焚口で炭化物の広がりを検出した。カマドの埋土は、暗褐～黒褐色土で燃焼部底に近いほど黒味が強く、炭化物が多い。カマドの掘方や袖は、二ツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。煙道を含むカマドは長さ1.57m、煙道長0.42m、煙道幅0.15～0.25m、煙出しの底径0.16m、カマドの幅0.65m、燃焼部底の内径0.49m、深さ0.28mである。

**貯蔵穴** 掘方の調査で南東隅の南壁際から長径0.53m、短径0.45m、深さ0.20mの円形の土坑を検出した。土坑は位置や形状から貯蔵穴と考えられる。

**柱穴** 柱穴は検出されなかった。床面に支柱穴を持たない構造の堅穴住居と想定される。

**遺物** 床面から須恵器の椀(3)や羽釜(5)、鉄製の鉸具(8)、カマド使用面から須恵器の羽釜(6)、床面付近から須恵器の杯(2)、埋土から刀子(7)が出土した。

**時代** 平安時代10世紀第2四半期。

11号住居(第571・572図、PL.304・438)

グリッド 2 L 1

主軸方位 N87°E

重複 10号住居、37・39号土坑に切られる。

**形状と規模** 南北方向に長軸を有する歪んだ長方形の堅穴住居で、北部は10号住居により失われている。長辺は3.66m、短辺は2.75m+、深さは0.29m、検出された最大の面積は7.02㎡である。

**埋土** 二ツ岳の白色軽石を含む暗褐～にぶい黄褐色土からなる。

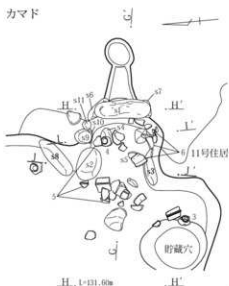
**床面** 暗褐色土を0.13mほど厚く貼って、床面を構築している。

**掘方** XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで、ほぼ平坦な掘方を構築している。南西隅の壁際から長径0.92m、

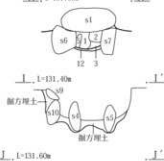


第4章 第2面の遺構と出土遺物

カマド

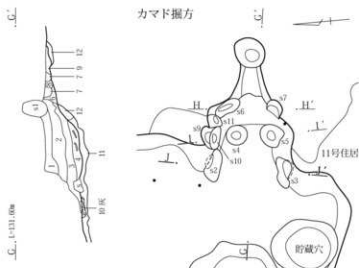


H., 1:131.60m



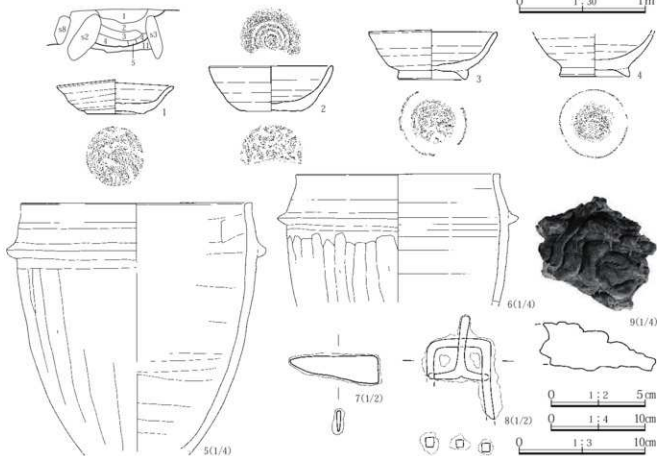
H., 1:131.60m

カマド掘方



G., 1:131.60m

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 微量の棒名ニツ岳白色軽石・ロームブロックを含む。締り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色土との混上。微量の棒名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石を含む。締りやや強。粘性有。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) 4層上に灰が混入する。締りやや強。粘性有。
- 5 黄褐色シルト質土(10YR4/6) 締りやや強。粘性有。
- 6 褐色土(10YR4/4) 硬く締り強。
- 7 暗褐色土(10YR3/3) 少量の焼土ブロックを含む。締り強。
- 8 黒褐色土(7.5YR3/2) 少量の灰を混入する。締りやや弱。
- 9 にぶい黄褐色土(10YR5/4) 土質均一。締りやや弱。粘性やや有。
- 10 黒色土(10YR2/1) 灰主体。締り弱。
- 11 暗褐色土(10YR3/3) 灰・黄褐色土との混上。締りやや強。
- 12 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 明黄褐色シルト質土を含む。締りやや弱。



0 1:30 1m

0 1:2 5cm

0 1:4 10cm

0 1:3 10cm

第570図 Ⅹ区10号住居と出土遺物

短径0.68m、深さ0.46mの楕円形の土坑1を検出した。  
カマド 東壁の南東隅寄りに位置する。カマドの燃焼部は東壁を掘り込んで壁の外に構築している。燃焼部底は水平で約45°の勾配で立ち上がり煙道へ接続する。焚口の一部で炭化物の広がりを検出した。カマド埋土は灰黄褐色にぶい黄褐色土からなる。煙道を含むカマドは長さ1.25m、煙道長0.37m、煙道幅0.19m、カマド幅0.70m、深さ0.38mである。

貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。掘方で検出した土坑1は貯蔵穴の可能性はある。

柱穴 柱穴は検出されなかった。床面に支柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

遺物 床面から須恵器の杯(3)、カマド使用面から須恵器の杯(2)、椀(4)、埋土から黒色土器の椀(1)が出土した。

時代 平安時代10世紀後半。

12号住居(第573・574図、PL.305・306・438)

グリッド 2 J 1

主軸方位 N 85° E

重複 36・38号土坑に切られる。18・19号住居、63号土坑を切る。

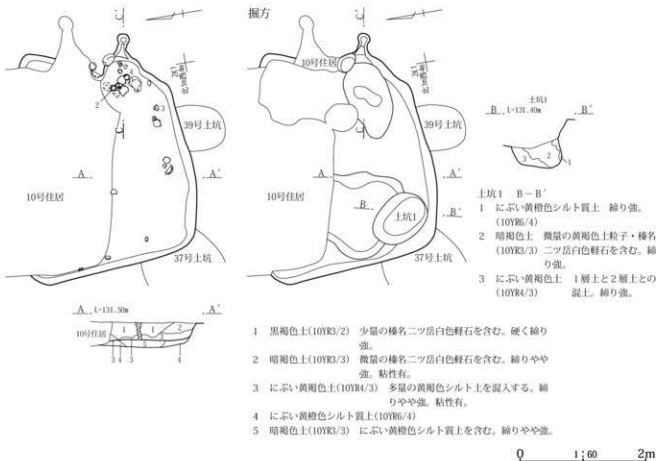
形状と規模 南北方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴住居である。長辺は4.62m、短辺は3.02m、深さは0.32m、面積は11.52㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色～黒褐色土からなる。

床面 黒褐色土を0.07mほど薄く貼って、平坦な床面を構築している。

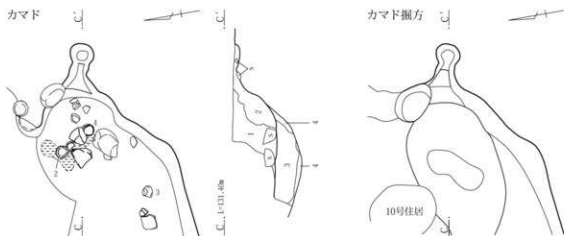
掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築している。南西隅の壁際から歪んだ楕円形の浅い窪みを検出した。

カマド 東壁の南東隅寄りに位置する。カマドの燃焼部は東壁を掘り込んで壁の外に構築している。燃焼部底は水平で緩やかに立ち上がる。燃焼部底から焚口周辺で炭化物の広がりを検出した。カマド埋土は黒褐～暗褐色土



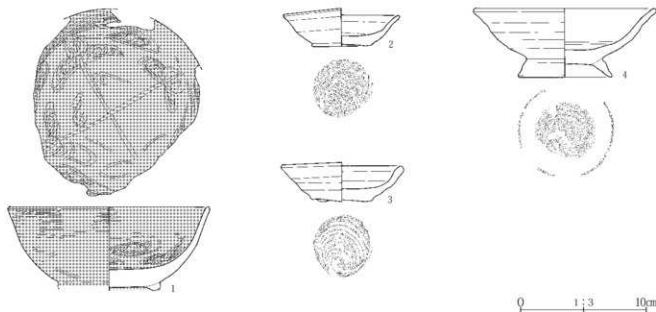
第571図 XII区11号住居

第4章 第2面の遺構と出土遺物



- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の黄褐色土・稀名二ツ岳白色軽石を含む。硬く締り強。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム土(黄褐色土)主体。少量の1層土を混入する。少量の稀名二ツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の炭化物・ロームブロックを含む。締り強。粘性やや有。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 土質ほぼ均一。微量の炭化物を含む。締りやや強。粘性有。

0 1:30 1m



第572図 XII区11号住居と出土遺物

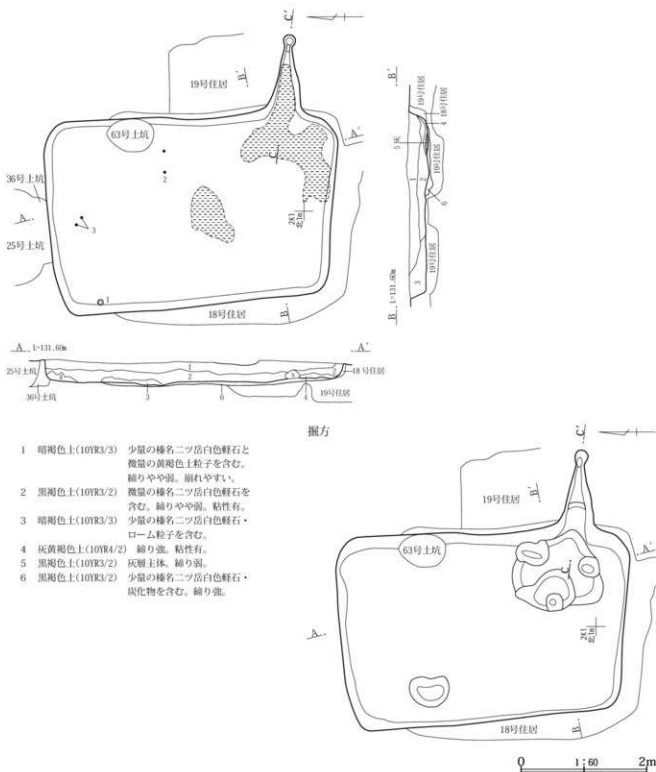
からなる。煙道を含むカマドの長さは1.68m、幅1.77m、深さ0.30mである。

**貯蔵穴** 貯蔵穴は検出されなかった。

**柱穴** 柱穴は検出されなかった。床面に主柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

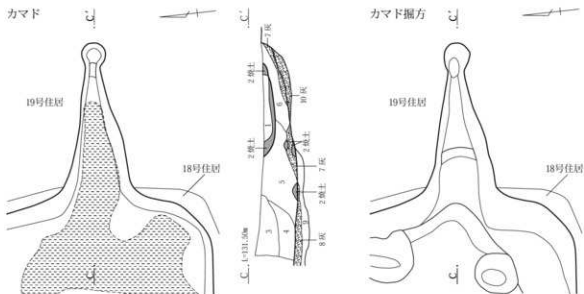
**遺物** 床面から須恵器の杯(1・2)、羽釜(3)が出土した。

**時代** 10世紀後半に帰属する18・19号住居との調査での新旧関係は矛盾する。遺構は出土遺物から平安時代10世紀第1四半期と想定される。



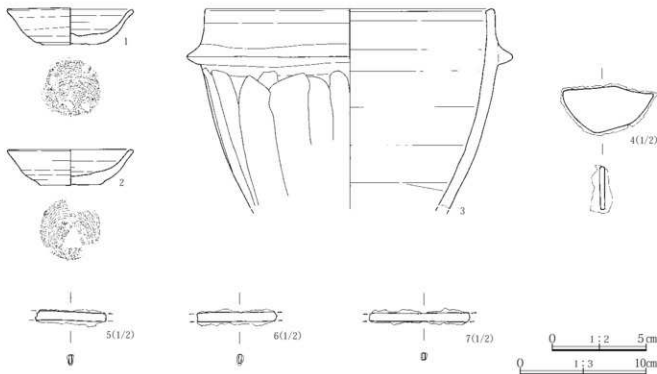
第573図 Ⅷ区12号住居

第4章 第2面の遺構と出土遺物



- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の椋名ニツ岳白色軽石を含む。締りやや弱。
- 2 橙色土(5YR6/6) 焼土主体。締りやや弱。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 少量の椋名ニツ岳白色軽石と微量の黄褐色土粒子を含む。締りやや弱。崩れやすい。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) 微量の椋名ニツ岳白色軽石を含む。締りやや弱。粘性有。
- 5 暗褐色土(10YR3/3) 少量の炭化物・焼土ブロックを含む。締りやや強。
- 6 暗褐色土(10YR3/4) 少量の椋名ニツ岳白色軽石を含む。締りやや強。
- 7 黒褐色土(10YR2/2) 灰層主体。少量の焼土を含む。締り弱。
- 8 黒褐色土(10YR2/1) 灰層。締り弱。
- 9 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の黄褐色土粒子を含む。締り強。
- 10 黒褐色土(10YR2/3) 灰層主体。少量の9層土を混入する。締り弱。

0 1:30 1m



第574図 X区12号住居と出土遺物

## 14号住居(第575・576図、PL.307・438)

グリッド 92K19

主軸方位 N88°W

重複 15・16号住居を切る。

形状と規模 東西方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴住居で南部は調査区外に存在する。長辺は3.59m、短辺は2.95m+、深さは0.43m、検出された最大の面積は8.18㎡である。

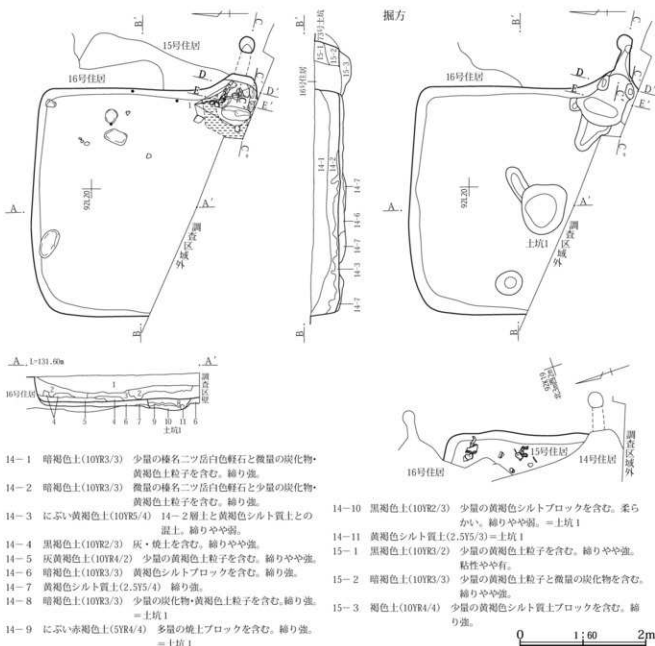
埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土が成層して竪穴を埋め、床面をにぶい黄褐～黒褐色土が覆う。

床面 暗褐～黄褐色シルト質土を0.10mほど貼って、平

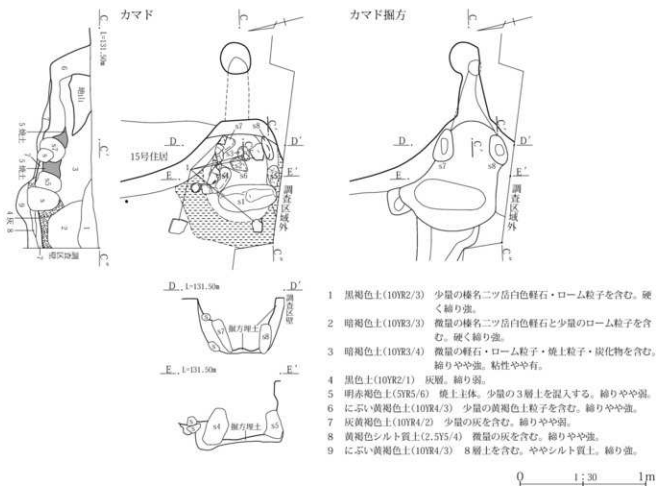
坦な床面を構築している。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土や16号住居埋土を掘り込んで構築している。調査区境から長径0.84m、短径0.75m、深さ0.10mの浅い円形の土坑1を検出した。

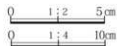
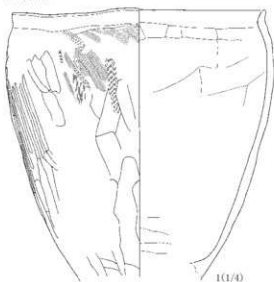
カマドと貯蔵穴 東壁の南東隅寄りに位置すると想定される。カマドの燃焼部は東壁を掘り込んで壁の外に構築している。燃焼部底は緩やかに傾斜して、煙道に接続する。煙道には削り抜かれた天井が残されており、長さは0.49mにおよぶ。煙道は65°の勾配で立ち上がり煙出しに接続する。燃焼部の左右壁にはS4～8の垂円～垂角礫5点が据えられている。



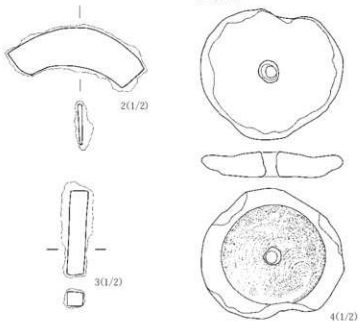
第575図 XII区14・15号住居



14号住居



15号住居



第576図 XII区14号住居と14・15号住居の出土遺物

S 4は長径0.30m、短径0.17m、厚さ0.23mの垂円礫である。

S 5は長径0.22m、短径0.14m、厚さ0.16mの垂角礫である。

S 4・5は焚口の左右を構成している。

S 6は長径0.13m、短径0.08mの垂円礫である。

S 7は長径0.24m、短径0.09m、厚さ0.14mの垂円礫である。

S 8は長径0.28m、短径0.08mの垂円礫である。

S 7・8は煙道の入口を構成している。燃焼部底の中央にはS 2・3の垂円礫が据えられている。

S 2は長径0.16m、短径0.09mの垂円礫である。

S 3は長径0.12m、短径0.09mの垂円礫である。

S 4・5は表面に被熱痕跡が認められ、これらの礫はカマドの支脚と考えられS 4・5の焚口側の燃焼部底からは長径0.47m、短径0.21mの垂円礫が出土しており、これらはカマドの崩落に伴って移動した焚口の天井高架材の可能性が極めて高い。燃焼部底から焚口周辺では炭化物の広がりを検出した。カマド埋土は暗褐色土である。煙道を含むカマドは長さ1.42m、煙道長は0.52m、煙道幅0.14、煙出しの幅0.23m、カマドの幅0.60m、深さ0.44mである。貯蔵穴は検出されなかった。

**柱穴** 柱穴は検出されなかった。床面に主柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。

**遺物** カマド使用面付近から土師器の甕(1)、埋土から鉄製品(2・3)が出土した。

**時代** 平安時代11世紀前半。

#### 15号住居(第575・576図、PL.308・438)

グリッド 92K19

主軸方位 N72°W

重複 14・16号住居に切られる。73号土坑を切る。

**形状と規模** 北東～南西方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴住居の北東隅周辺のみを検出した。西部の大部分は14・16号住居により失われている。長辺は2.15m+、短辺は0.66m+、深さは0.27m、検出された最大の面積は0.73㎡である。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含む黒褐～暗褐色土からなる。

**床面** XII・XIII層の黄褐色砂質土を削り出して、平坦な床面を構築している。

**カマドと貯蔵穴** カマドと貯蔵穴は検出されなかった。

**遺物** 埋土から土製紡輪(4)が出土した。

**時代** 埋土から古墳時代後期から平安時代と想定され、10世紀に帰属する16号住居よりも古いので10世紀以前である。

#### 16号住居(第577・578図、PL.309・438)

グリッド 92K20

主軸方位 N88°W

重複 14号住居、53・80号土坑に切られる。15号住居、66号土坑を切る。

**形状と規模** 南北方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴住居で、南西部は14号住居により失われている。長辺は4.33m、短辺は3.54m、深さは0.45m、面積は11.56㎡である。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含む暗褐～黒褐色土からなり、床面をにぶい黄褐色土が覆う。

**床面** にぶい黄褐色シルト質土を0.09mほど貼って、平坦な床面を構築している。

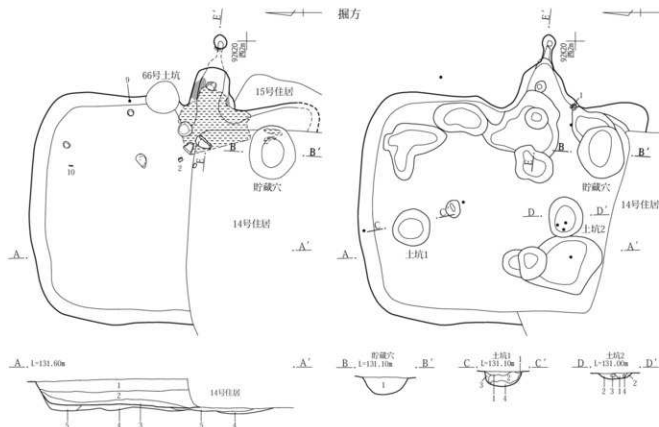
**掘方** XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築し、北壁際から長径0.60m、短径0.58m、深さ0.29mの楕円形の土坑1、南壁際から長径0.64m、短径0.53m、深さ0.13mの楕円形の土坑2を検出した。

**カマド** 東壁中央の南東隅寄りに位置する。カマドの燃焼部は東壁を掘り込んで壁の外に構築している。燃焼部底は水平で、煙道は緩やかな勾配で立ち上がり、上から掘り込まれた煙出しに接続する。煙道から煙出しにかけて削り抜かれた天井が残されており、長さは0.35mにおよぶ。燃焼部の中央には長径0.17m、短径0.12m、厚さ0.16mの垂角礫が垂直に据えられており、支脚と考えられる。燃焼部壁から焼土ブロックを燃焼部底から焚口では炭化物の広がりを検出した。カマド埋土は黒褐～黄褐色土である。煙道を含むカマドは長さ1.95m、煙道長0.47m、煙道幅0.14m、煙出しの底径0.06m、煙出しの深さ0.26m、カマドの幅0.73m、深さ0.38mである。

**貯蔵穴** 南東隅の南壁際から長径0.85m、短径0.73m、深さ0.33mの円形の土坑を検出した。土坑は位置や形状から貯蔵穴と考えられる。

**柱穴** 柱穴は検出されなかった。床面に主柱穴を持たない構造の竪穴住居と想定される。





- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の椀名二ツ岳白色軽石と微量の炭化物・黄褐色土粒子を含む。締り強。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 微量の椀名二ツ岳白色軽石と少量の黄褐色土粒子を含む。締りやや強。粘性やや有。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 黄褐色シルト質土を含む。締り強。
- 4 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) 締りやや強。
- 5 褐色土(10YR4/4) 少量の椀名二ツ岳白色軽石・黄褐色シルト質土を含む。締り強。

貯蔵穴 B-B'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の椀名二ツ岳白色軽石・炭化物・黄褐色シルト質土を含む。締りやや強。

土坑1 C-C'

- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 少量の黄褐色土ブロックを含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の黄褐色土ブロック・炭化物を含む。締り弱。粘性有。
- 3 黄褐色シルト質土(2.5Y5/4) 締り弱。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 締り弱。粘性有。

土坑2 D-D'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の黄褐色土粒子を含む。締り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 土質均一。締り強。
- 3 にぶい黄褐色シルト質土(2.5Y6/4) 締り弱。
- 4 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 少し粗い。締りやや強。

0 1:60 2m

第577図 ⅩⅨ区16号住居

**遺物** 埋土から須恵器の杯(1・2)、椀(3)、羽釜(7)や土師器の甕(6)が出土し、緑釉陶器素地の皿(4・5)が出土したことが特筆される。出土遺物は10世紀内に年代幅を有する。

**時代** 平安時代10世紀。

17号住居(第579図、PL.310)

グリッド 92J20

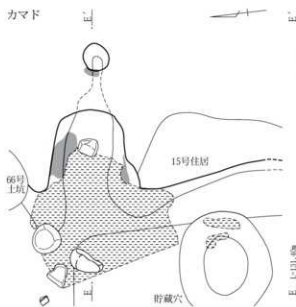
**主軸方位** N83°E

**重複** 44号土坑に切られる。82号土坑を切る。

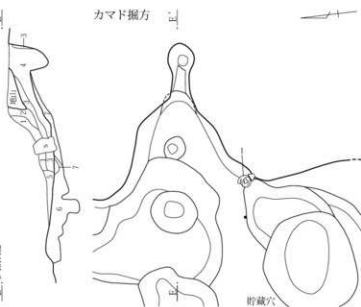
**形状と規模** 方形を呈すると想定される竪穴の西壁周辺のみを検出した。東部の大部分は調査区外に存在する。長辺は2.53m、短辺は0.43m+、深さは0.20mで、検出された最大の面積は0.55㎡である。

**埋土** 二ツ岳の白色軽石を含む黒褐～暗褐色土からなる。

カマド



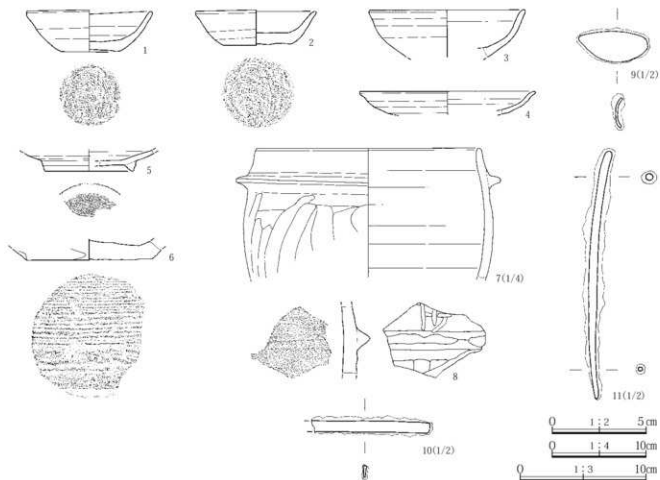
カマド掘方



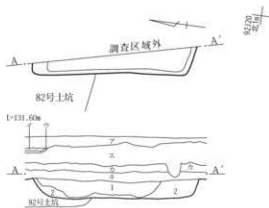
- 1 黒褐色土(10YR3/2) 微量の炭化物粒子・焼土粒子を含む。締り強。
- 2 にぶい赤褐色土(10YR4/4) 焼土を含む。締りやや強。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) 黄褐色土ブロック・焼土ブロックを含む。
- 4 黄褐色土(10YR5/6) 多量のロームブロックと微量の灰・焼土を含む。締り強。

- 5 黒褐色土(10YR3/2) 灰を含む。締りやや弱。
- 6 黒色土(10YR2/1) 灰層が何層も堆積。灰黄褐色土・焼土を含む。締りやや強。
- 7 明黄褐色シルト質土(2.5Y6/8) 微量の焼土を含む。締りやや強。

0 1:30 1m



第578図 X区16号住居と出土遺物



- ア 暗褐色土 現代耕作土。  
 イ 灰土 水田耕作土。  
 ウ 明褐色土 水田下部層。  
 エ 褐灰色土  
 カ 暗褐色土(7.5YR3/4) 粗い砂質土。鉄分沈着有り。  
 キ 暗褐色土(10YR3/4) 酸化鉄分沈着少し有り。  
 ク 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石・ローム粒子を含む。締り強。  
 コ 2 暗褐色土(10YR3/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石・ロームブロックを含む。締り強。

0 1:60 2m

第579図 Ⅷ区17号住居

**床面** Ⅶ層の灰黄褐色砂質土を削り出して平坦な床面を構築している。

**遺物** なし。

**時代** 埋土から古墳時代後期から平安時代と想定される。

18号住居(第580～583図、PL.305・310・311・438)

グリッド 2 J 1

主軸方位 N 2° W

**重複** 12号住居、60・67・68号土坑に切られる。19号住居を切る。

**形状と規模** 南北方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴住居で東から南及び西壁周辺のみを検出した。竪穴住居の大部分は重複した12号住居により失われている。長辺は4.08m、短辺は3.48m、深さは0.28m、検出された最大の面積は0.88㎡である。

**埋土** 二ツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

**床面** 暗褐色土を薄く貼って床面を構築している。

**掘方** Ⅷ・Ⅷ層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築している。中央に直径0.28m、深さ0.08mのP1を検出した。

**カマド** 南壁の南東隅寄りに位置する。カマドの燃焼部は南壁を掘り込んで壁の外に構築している。燃焼部底は水平で、煙道は緩やかな勾配で立ち上がる。燃焼部の左壁には長径0.20m、短径0.08mの垂円礫が据えられている。また燃焼部底の中央には長径0.12m、短径0.10mの垂円礫が垂直に据えられている。これらは前者がカマド構築材、後者は支脚と考えられる。焚口付近は長径0.65m、短径0.58m、深さ0.18mの円形の穴が構築されており、これはカマドの廃絶時に開けられたものと考えられる。燃焼部底から焚口では炭化物の広がりを検出した。カマ

ド埋土は黒褐～暗褐色土である。カマドは長さ1.47m、幅0.65m、深さ0.29mである。

**貯蔵穴** 掘方の調査で南東隅の壁際から直径0.62m、深さ0.18mの円形の土坑を検出した。土坑は位置や形状から貯蔵穴と考えられる。

**柱穴** 柱穴は検出されなかった。掘方から検出された小ピットは主柱穴ではなく、補助的な柱穴となる可能性がある。

**遺物** 床面から須恵器の杯(1)、床面付近から砥石(5)、埋土から灰釉陶器の瓶(2)や壺(3)、土師器の甕(4)が出土した。

**時代** 10世紀前半に帰属する12号住居との調査での新旧関係は矛盾する。遺構は出土遺物から平安時代10世紀第4四半期と想定される。

19号住居(第580～583図、PL.305・312・439)

グリッド 2 J 1

主軸方位 N 80° E

**重複** 12・18号住居、81・82・85号土坑に切られる。

**形状と規模** 東西方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴住居で南東部は81・82号土坑に、北西部は12・18号住居により失われている。長辺は4.45m、短辺は3.82m、深さは0.34m、検出された最大の面積は6.62㎡である。

**埋土** 二ツ岳の白色軽石を含む暗褐～黄褐色シルト質土からなる。

**床面** 黄褐色粘質土を0.15mほど厚く貼って、平坦な床面を構築している。

**掘方** Ⅶ層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築している南西隅の壁際から長径1.00m、短径0.76m、深さ0.29m

の円形の土坑1、中央の南壁寄りから長辺1.52m、短辺1.14m、深さ0.12mの歪んだ長方形の土坑2、土坑2の北から直径1.25m、深さ0.20mの歪んだ円形の土坑3を検出した。土坑2の埋土は灰黄褐色砂質土～暗褐色土、土坑3の埋土は暗褐色土～黄褐色シルト質土からなり、それぞれ成層している。

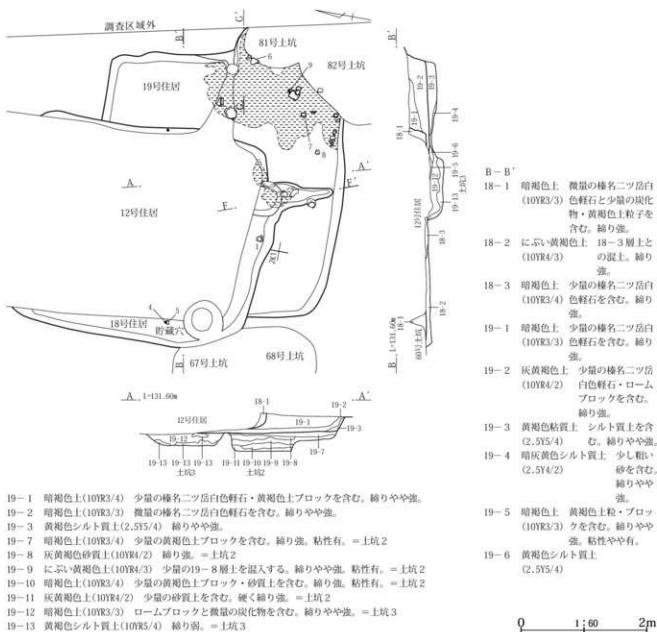
**カマドと貯蔵穴** 東壁中央の南寄りに位置する。カマドの燃焼部は東壁を奥に掘り込んで壁の外に構築している。燃焼部底は81号土坑により失われ、掘方のみが検出された。焚口周辺で炭化物の広がりを検出した。カマド

は長さ1.48m、幅0.65m、深さ0.27mである。貯蔵穴は検出されなかったが、南西隅の壁際から検出した土坑1は貯蔵穴に相当する可能性がある。

**柱穴** 柱穴は検出されなかった。床面に支柱穴を持たない構造の整穴住居と想定される。

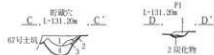
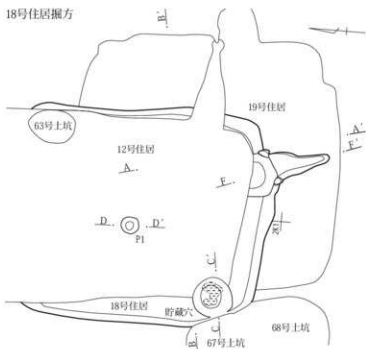
**遺物** 床面から須恵器の杯(7・8)、羽釜(9)、黒色土器の椀(6)、輝石安山岩製の石製品(10)が出土した。

**時代** 10世紀前半に帰属する12号住居との調査での新旧関係は矛盾する。遺構は出土遺物から平安時代10世紀第4四半期と想定される。



第580図 Ⅷ区18・19号住居(1)

18号住居掘方



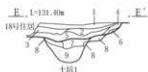
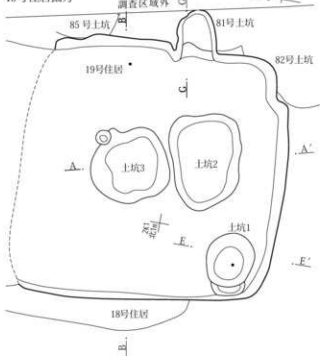
18号住居貯蔵穴 C-C'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の黄褐色土・炭化物を含む。締りやや強。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の灰を含む。締りやや弱。
- 3 黒褐色土(10YR2/3) 少量の灰と微量の焼土を含む。締り強。
- 4 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 少量の灰を含む。締りやや強。粘性有。

18号住居P1 D-D'

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の礫名二ツ岳白色軽石・炭化物・黄褐色土ブロックを含む。締り強。
- 2 黒褐色土(10YR2/1) 灰・炭化物層。締り弱。

19号住居掘方



E-E'

- 1 暗褐色土(10YR3/4) 礫名二ツ岳白色軽石と少量の炭化物・黄褐色土粒子を含む。締り強。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 少量の礫名二ツ岳白色軽石・炭化物・黄褐色土粒子を含む。締り強。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 少量の礫名二ツ岳白色軽石と微量の黄褐色土粒子・炭化物を含む。締り強。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) 微量の礫名二ツ岳白色軽石・黄褐色土粒子を含む。締りやや強。
- 5 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色土粒・ブロックを含む。締りやや強。粘性やや有。
- 6 黄褐色シルト質土(2.5Y5/4)
- 7 黒褐色土(10YR3/2) 少量の黄褐色土ブロックと微量の礫名二ツ岳白色軽石を含む。締り強。=土坑1
- 8 黄褐色シルト質土(2.5Y5/4)=土坑1・掘り方理土
- 9 灰黄褐色土(10YR4/2) 黄褐色シルト質土を含む。締り弱。=土坑1

0 1:60 2m

第581図 XII区18・19号住居(2)

20号住居(第584・585図、PL.312・313・439)

グリッド 92 J 20

主軸方位 EW

重複 59・62・64号土坑に切られる。21号住居、47・69・70号土坑を切る。

形状と規模 南北方向に長軸を有し、隅丸長方形を呈する竪穴住居である。長辺は3.89m、短辺は3.03m、深さ

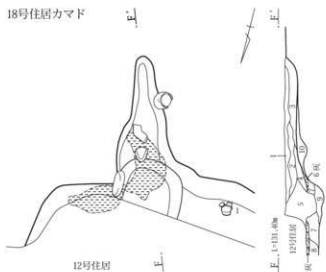
は0.19m、面積は7.80㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む黒褐色土からなる。

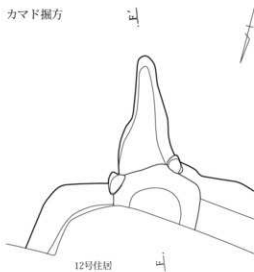
床面 暗灰色土を0.10mほど貼って、平坦な床面を構築している。

掘方 XII・XII層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築している。カマド前の中央から長径1.68mの浅い窪みを検出した。

18号住居カマド



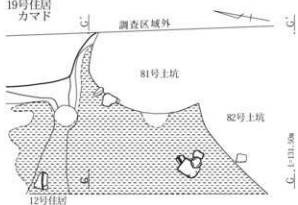
カマド掘方



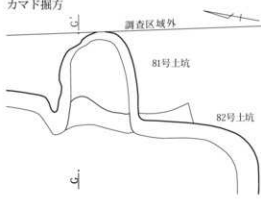
12号住居

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 微量の炭化物・焼土粒子を含む。締り強。
- 2 褐色土(10YR4/6) 微量の椀名二ツ岳白色軽石を含む。締りやや強。粘性やや有。
- 3 黒褐色土(10YR2/3) 灰・焼土を含む。締りやや強。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) 焼土ブロックを含む。締りやや強。
- 5 暗褐色土(10YR3/3) 微量の椀名二ツ岳白色軽石・焼土粒子・炭化物を含む。締り強。

- 6 黒色土(10YR2/1) 灰層。締り弱。
- 7 暗褐色土(10YR3/3) 微量の炭化物・黄褐色土粒子・椀名二ツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 8 黒褐色土(10YR3/1) 少量の灰を含む。締りやや弱。
- 9 黒褐色土(10YR3/1) 8層上よりやや明るい。締り強。
- 10 黒褐色土(10YR2/3) 少量の黄褐色土粒子と微量の灰を含む。締りやや強。

19号住居  
カマド

カマド掘方



- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の椀名二ツ岳白色軽石と微量の炭化物を含む。締り強。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の炭化物・黄褐色土粒子を含む。締り強。
- 3 黄褐色土(2.5Y5/3) 微量の椀名二ツ岳白色軽石・炭化物を含む。
- 4 黄褐色土(2.5Y5/4) 少量の椀名二ツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 5 黒褐色土(10YR3/1) 灰主体。3層土と少量の焼土を混入する。締りやや弱。
- 6 黒色土(10YR2/1) 灰層。
- 7 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の灰を混入する。締りやや弱。

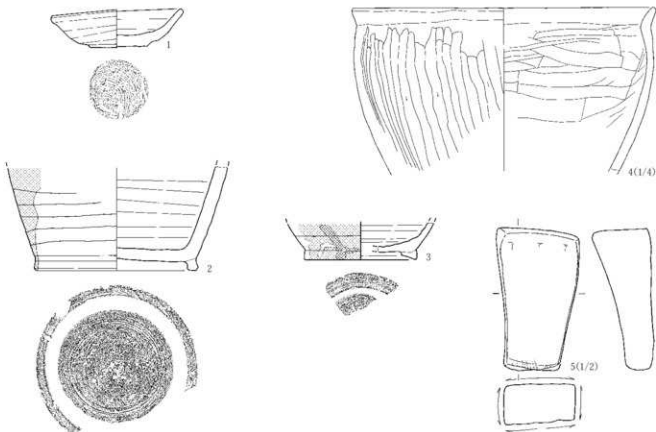
- 8 にぶい赤褐色土(5Y3/4) 焼土主体。少量の9層土を混入する。締りやや弱。
- 9 褐色土(10YR4/4) 少量の椀名二ツ岳白色軽石・黄褐色土ブロックを含む。締り強。
- 10 褐色土(10YR4/4) 微量の椀名二ツ岳白色軽石・黄褐色土ブロックを含む。締り強。
- 11 暗褐色土(10YR3/4) 少量の椀名二ツ岳白色軽石を含む。締り強。

0 1:30 1m

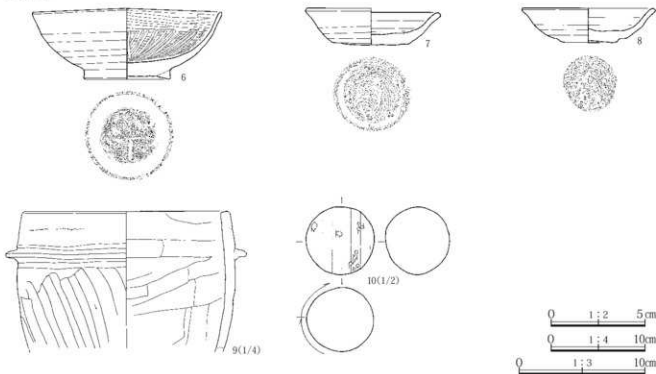
第582図 Ⅲ区18・19号住居(3)

第4章 第2面の遺構と出土遺物

18号住居

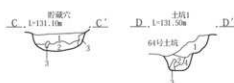
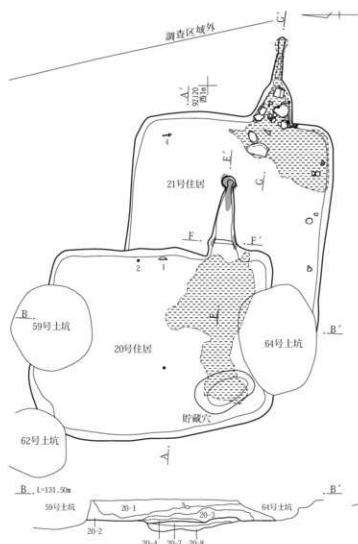


19号住居



第583図 Ⅷ区18・19号住居の出土遺物

第2節 住居

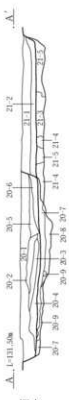


20号住居貯蔵穴 C-C'

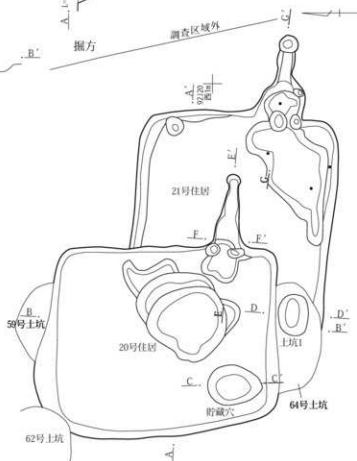
- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の棒名ニッ岳白色軽石と黄褐色上シルトブロックを含む。締り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 少量の黄褐色上シルトブロックと微量の炭化物を含む。締りやや強。
- 3 黄褐色シルト質土(2.5Y5/3)

21号住居土坑1 D-D'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 微量の棒名ニッ岳白色軽石と少量の黄褐色上ブロックを含む。締りやや強。
- 2 黒褐色土(10YR2/3) 土質均一。締り強。
- 3 黄褐色シルト質土(2.5Y5/4) 締りやや強。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 2・3層上の混上。締りやや強。



掘方



- 20-1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の棒名ニッ岳白色軽石を含む。硬く締り強。
- 20-2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 20-1層上と黄褐色土の混上。締りやや強。粘性やや有。
- 20-3 黒褐色土(10YR2/3) 少量の棒名ニッ岳白色軽石を含む。締りやや強。粘性非常に有。
- 20-4 褐色土(10YR4/6) 粘性非常に有る黄褐色土主体。締りやや強。
- 20-5 黒褐色土(10YR3/2) 微量の棒名ニッ岳白色軽石を含む。締りやや強。
- 20-6 黒褐色土(10YR3/2) 20-5層上よりやや暗い。少量の炭化物を含む。締り強。
- 20-7 暗褐色土(10YR3/4) 棒名ニッ岳白色軽石と少量の黄褐色上ブロックを含む。締り強。
- 20-8 暗褐色土(10YR3/3) 少量の棒名ニッ岳白色軽石と微量の黄褐色上ブロックを含む。締り強。
- 20-9 黄褐色シルト質土(2.5Y5/4) 微量の棒名ニッ岳白色軽石を含む。締り強。
- 21-1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の棒名ニッ岳白色軽石と微量の炭化物を含む。締り強。
- 21-2 暗褐色土(10YR3/3) 微量の棒名ニッ岳白色軽石を含む。締り強。
- 21-3 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色土を含む。硬く締り強。
- 21-4 黄褐色シルト質土(2.5Y5/4) 締りやや強。
- 21-5 灰黄褐色土(10YR4/2) 21-3・4層上との混上。締りやや強。粘性有。

第584図 ⅩⅨ区20・21号住居



**カマド** 東壁の南東隅寄りに位置する。カマドの燃焼部は東壁を奥に掘り込んで壁の外に構築している。燃焼部底は水平で、煙道は緩く傾きながら急勾配で立ち上がり、煙出しに接続する。煙道壁からは焼土ブロックを燃焼部から焚口及南壁際の床面から炭化物の広がりを検出した。煙道を含むカマドは長さ1.63m、煙道長0.86m、煙道幅0.28m、煙出しの底径0.10m、カマドの幅0.52m、深さ0.26mである。

**貯蔵穴** 南西隅の壁際から長径0.96m、短径0.59m、深

さ0.08mの歪んだ楕円形の土坑を検出した。土坑は位置や規模から貯蔵穴と考えられる。

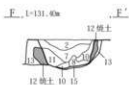
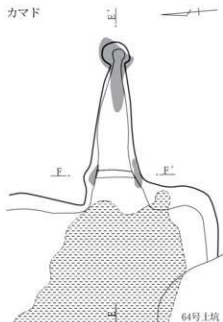
**遺物** 床面付近から須恵器の杯(1)、刀子(2)が出土した。

**時代** 平安時代10世紀第2四半期。

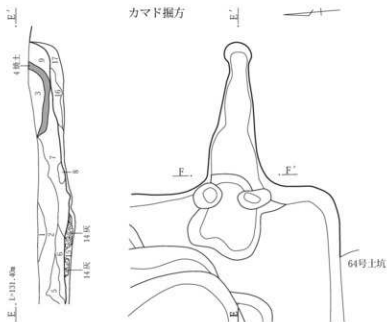
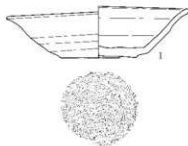
21号住居(第584・586図、PL.314・439)

グリッド 92 J 19

主軸方位 N85°W

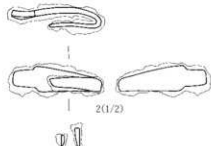


- 1 暗褐色土(10YR3/4) 微量の種名二ツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 少量の黄褐色土ブロックを含む。締り強。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 微量の焼土粒子を含む。締り強。
- 4 棕色土(5YR6/8) 焼土主体、少量の暗褐色土を混入する。締り強。
- 5 褐色土(10YR4/4) 硬く締り強。
- 6 黒褐色土(10YR3/2) 少量の灰を含む。締りやや強。



- 7 黒褐色土(10YR3/2) 少量の灰・焼土ブロックを含む。締りやや弱。
- 8 灰黄色シルト質土(10YR5/4) 締りやや弱。
- 9 暗褐色土(7.5YR3/4) 少量の焼土ブロックを含む。締り強。
- 10 黒褐色土(10YR3/2) 多量の焼土を含む。締りやや強。
- 11 暗褐色土(10YR3/3) 焼土ブロックを含む。締り強。
- 12 明赤褐色土(5YR5/8) 焼土主体。締りやや弱。
- 13 暗褐色土(10YR3/4) 微量の焼土粒を含む。締りやや強。
- 14 黒色土(10YR2/1) 灰層。少量の焼土を混入する。
- 15 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の灰を含む。締りやや弱。
- 16 暗褐色土(7.5YR3/4) 焼土を含む。
- 17 暗褐色土(7.5YR3/4) 土質均一。締りやや弱。

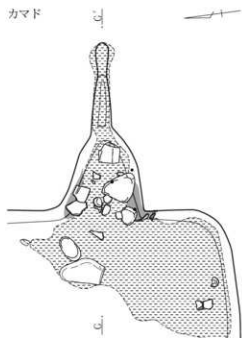
0 1:30 1m



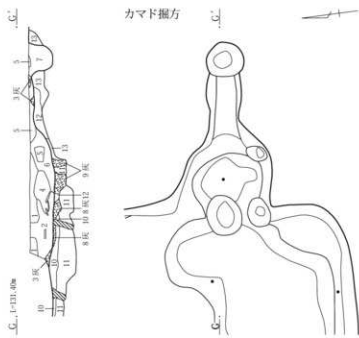
0 1:2 5cm  
0 1:3 10cm

第585図 Ⅹ区20号住居と出土遺物

カマド

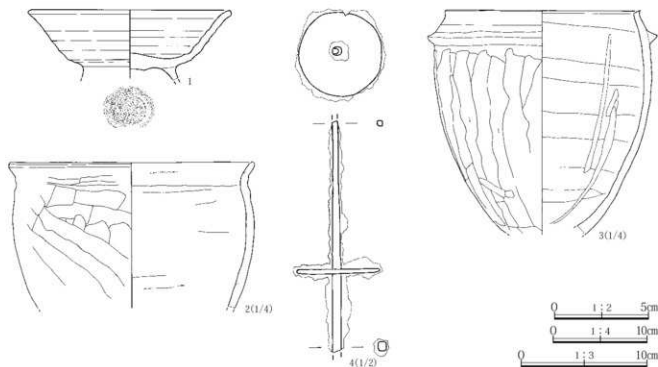


カマド掘方



- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の黄褐色土粒子と微量の炭化物を含む。締り強。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 1層上に黄褐色土ブロックを含む。締り強。
- 3 黒色土(10YR2/1) 灰主体。少量の焼土を混入する。締り弱。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) 少量の灰を含む。締り弱。
- 5 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の焼土を含む。締り強。
- 6 暗褐色土(10YR3/4) 締りやや弱。粘性やや有。
- 7 暗褐色土(10YR3/3) 土質均一。硬く締り強。
- 8 黒褐色土(10YR2/2) 灰主体。10・12層土を含む。締り弱。
- 9 黒褐色土(10YR2/2) 灰主体。少量の焼土ブロックを含む。締り弱。  
=カマド掘り方埋土
- 10 灰黄褐色土(10YR4/2) 黄褐色土ブロックを含む。締り強。=カマド掘り方埋土
- 11 灰黄褐色土(10YR4/2) 10層土よりやや暗い。やや少量の黄褐色土ブロックを含む。締り強。
- 12 褐色土(10YR4/4) 少量の灰・焼土を含む。締りやや強。
- 13 にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) 微量の灰を含む。締り強。

0 1:30 1m



第586図 Ⅹ区21号住居と出土遺物

**重複** 20号住居、64号土坑に切られる。

**形状と規模** 東西方向に長軸を有し、長方形を呈する竪穴住居で西部は20号住居、64号土坑によって失われている。長辺は3.26m+、短辺は3.18m、深さは0.25m、検出された最大の面積は6.41㎡である。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土からなる。

**床面** 暗褐色土を厚く0.13mほど貼って、平坦な床面を構築している。

**掘方** XII・XII層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築している。カマド前から南東隅の壁際に浅い不定形の窪みを検出した。また、南西隅の壁際から長径0.65m、短径0.48m、深さ0.22mの土坑1を検出した。

**カマド** 東壁の南東隅寄りに位置する。カマドの燃焼部は東壁を奥に掘り込んで壁の外に構築している。燃焼部底は水平で、煙道は緩く傾きながら水平の底を呈し、煙出しの窪みに接続する。燃焼部の埋土中には長径0.12～0.23mの垂円～垂角礫3点が出土した。燃焼部壁からは焼土ブロック、燃焼部から焚口周辺からは炭化物の広がりを検出した。煙道を含むカマドは長さ1.65m、煙道長0.48m、煙道幅0.14m、煙出しの底径0.15m、カマドの幅0.75m、深さ0.20mである。

**貯蔵穴** 検出されなかった。南西隅の壁際から検出した

土坑1は、位置や規模から貯蔵穴の可能性がある。

**遺物** 床面から鉄製紡錘車(4)、カマド使用面から須臾器の椀(1)、羽釜(3)、土師器の甕(2)が出土した。

**時代** 平安時代10世紀第2四半期。

22号住居(第587図、PL.315)

グリッド 92M20

主軸方位 N87°E

**重複** 9号土坑、112号ピットに切られる。

**形状と規模** 東西方向に長軸を有し、方形を呈する竪穴で、南部の大部分は調査区外にある。長辺は2.50m+、短辺は1.15m+、深さは0.33m、検出された最大の面積は1.02㎡である。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含む黒褐～暗褐色土からなる。

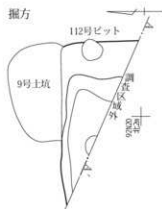
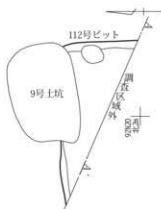
**床面** 灰黄褐～暗褐色土を0.12mほど貼って、平坦な床面を構築している。

**掘方** XII・XII層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築している。

**カマドと貯蔵穴** カマドと貯蔵穴は検出されなかった。

**遺物** なし。

**時代** 埋土から古墳時代後期から平安時代と想定される。



ア 暗褐色土 現代耕作土。

エ 暗褐色土。

1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の礫名ニツ岳白色軽石と微量の炭化物・黄褐色土粒子を含む。締り強。

2 黄褐色土(2.5Y5/4) 粗い砂とシルトの混土。地山崩落土。

3 暗褐色土(10YR3/3) 微量の礫名ニツ岳白色軽石・炭化物を含む。締りやや強。粘性やや有。

4 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 黄褐色シルト質土。少量の炭化物を含む。締りやや強。粘性有。

5 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の黄褐色土ブロックを含む。締りやや強。

6 暗褐色土(10YR3/3) 微量の礫名ニツ岳白色軽石・炭化物を含む。締りやや弱。粘性やや有。

7 黄褐色シルト質土(2.5Y5/4) 締りやや弱。

8 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物を含む。締りやや強。

0 1:60 2m

## 第3節 掘立柱建物

## 1. V区

## 1号掘立柱建物(第588図・PL.316)

グリッド 13-3区L19

形状と規模 桁・梁1間の長方形の建物と想定される。

長辺は2.33m、短辺は1.60mである。

主軸方位 N82°E

重複 なし。62号住居に近接し、同時存在はない。

柱穴 柱穴は3基検出し、断面形状はU字形を呈する。

柱穴に柱痕は認められない。

P1は長径0.27m、短径0.22m、深さ0.34mである。

P2は長径0.25m、短径0.22m、深さ0.19mである。

P3は長径0.18m、短径0.17m、深さ0.05mである。

遺物 なし。

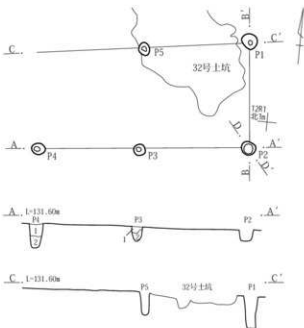
所見 V区の竪穴住居の主軸方位と調和的であることから、奈良～平安時代の建物である可能性がある。

## 2. X区

## 1号掘立柱建物(第589図・PL.316)

グリッド 13-12区R1

形状と規模 桁2間・梁1間の長方形の建物と想定され



第589図 X区1号掘立柱建物

る。長辺は3.38m、短辺は1.70mである。桁行きの柱間

主軸方位 N84°E

重複 32号土坑に内区が重複する。

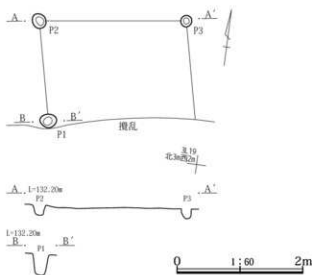
柱穴 柱穴は5基検出し、断面形状はU字形を呈する。柱穴に柱痕は認められない。

P1は長径0.27m、短径0.24m、深さ0.52mである。

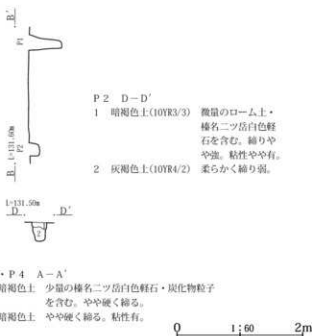
P2は長径0.24m、短径0.21m、深さ0.16mである。

P3は長径0.19m、短径0.18m、深さ0.30mである。

P4は長径0.23m、短径0.18m、深さ0.42mである。



第588図 V区1号掘立柱建物



- P2 D-D'
- 1 暗褐色土(10YR3/3) 微量のローム土・極名ニッ岳白色軽石を含む。綿りやや強、粘性やや有。
  - 2 灰褐色土(10YR4/2) 柔らかく綿り弱。

- P3・P4 A-A'
- 1 暗褐色土 少量の極名ニッ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く綿る。
  - 2 暗褐色土 やや硬く綿る。粘性有。

P5は長径0.21m、短径0.17m、深さ0.40mである。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐～灰褐～黄褐色土からなる。

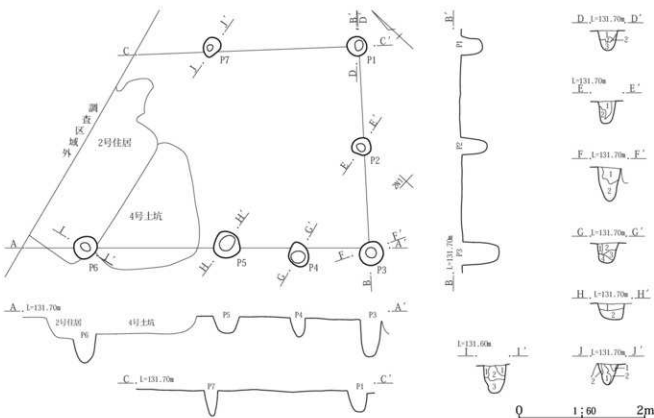
遺物 なし。

所見 柱穴の埋土はⅦ層起源の灰褐色系土からなり、浅間Bテフラを含まない。このことから奈良～平安時代の建物である可能性がある。

### 3. XII区

#### 1号掘立柱建物(第590図, PL.317)

グリッド 12-92区N20 2M・N1



#### P1 D-D'

- 1 暗褐色土 灰褐色土ブロック・炭化物粒子を含む。やや硬い。
- 2 灰褐色土 柔らかい。粘性有。
- 3 暗褐色土 灰褐色土ブロックを含む。締り悪い。

#### P2 E-E'・P7 J-J'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量のロームブロックを含む。締りやや弱。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム土主体。少量の1層土を混入する。締りやや弱。

#### P4 G-G'

- 1 褐色土(10YR4/4) 少量のローム粒を含む。締り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 微量の椋名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) 微量の椋名ニツ岳白色軽石を含む。締りやや強。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) 土質均一。締りやや弱。

#### P3 F-F'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量のローム粒を含む。締り強。
- 2 暗灰黄色土(2.5Y5/2) ローム土と1層土との混土。締りやや弱。

#### P5 H-H'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 微量の椋名ニツ岳白色軽石を含む。締りやや弱。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 少量のローム土を混入する。締りやや弱。

#### P6 I-I'

- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム土と2層土との混土。少量の椋名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 少量の1層土を混入する。締りやや弱。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 土質ほぼ均一。微量のローム土を混入する。締りやや弱。

形状と規模 桁2間・梁2間の長方形の建物と想定され、北西部は調査区外に存在する。長辺は4.50m、短辺は3.28mである。桁行きの柱間は2.25～2.36m、梁行きの柱間は1.61～1.70mである。

主軸方位 N47°W

重複 P5が7号土坑を切る。P6が2号住居、4号土坑を切る。5・6・10・11・12・16号土坑に内区が重複する。

柱穴 柱穴は7基検出し、断面形状はU～V字形を呈する。柱穴に柱痕は認められない。P4はP3とP5の中間に位置する補助的な柱穴の可能性がある。

第590図 XII区1号掘立柱建物

- P 1は長径0.33m、短径0.31m、深さ0.34mである。  
 P 2は長径0.30m、短径0.28m、深さ0.42mである。  
 P 3は長径0.39m、短径0.36m、深さ0.59mである。  
 P 4は長径0.41m、短径0.33m、深さ0.33mである。  
 P 5は長径0.43m、短径0.43m、深さ0.29mである。  
 P 6は長径0.38m、短径0.34m、深さ0.46mである。  
 P 7は長径0.32m、短径0.27m、深さ0.43mである。

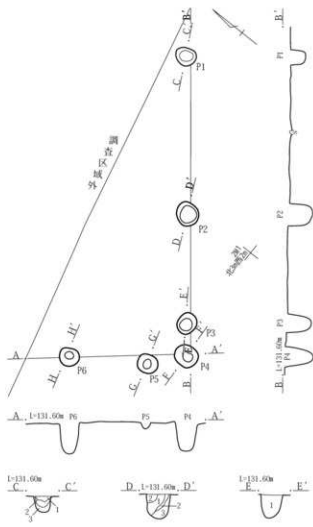
埋土 灰黄褐色土からなる。

遺物 なし。

所見 柱穴の埋土はⅦ層起源の灰褐色系土からなり、浅間Bテフラを含まない。このことから奈良～平安時代の建物である可能性がある。

## 2号掘立柱建物(第591図、PL.317)

グリッド 13-2区M1・2



**形状と規模** 桁2間・梁1間以上の長方形の建物と想定され、北部は調査区外に存在する。長辺は4.80m、短辺は2.58m+である。桁行きの柱間は2.28～2.50m、梁行きの柱間は1.89mである。

**主軸方位** N53°E

**重複** 3号掘立柱建物、18・33号土坑と内区が重複する。

**柱穴** 柱穴は6基検出し、断面形状はU字形を呈する。柱穴に柱痕は認められない。P 4の周辺にP 3とP 5の補助的な柱穴が存在する。

P 1は長径0.34m、短径0.28m、深さ0.29mである。

P 2は長径0.38m、短径0.36m、深さ0.40mである。

P 3は長径0.34m、短径0.28m、深さ0.43mである。

P 4は長径0.38m、短径0.33m、深さ0.46mである。

P 5は長径0.33m、短径0.29m、深さ0.36mである。

P 6は長径0.32m、短径0.29m、深さ0.23mである。

### P 1 C-C'

- 1 灰褐色土 極名二層白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 暗褐色土 柔らかい。粘性有。
- 3 暗褐色土 やや硬く締る。粘性有。

### P 2 D-D'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 微量の黒色土ブロック・ローム粒を含む。締りやや弱。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 1層土にローム土が混在。締りやや強。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) 土質均一。柔らかく締り弱。

### P 3 E-E'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 黒褐色土との混土。締り弱。粘性やや有。

### P 4 F-F'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 微量の極名二層白色軽石を含む。締りやや強。
- 2 褐色土(10YR4/4) ローム土主体。締りやや強。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) 土質均一。締りやや弱。

### P 5 G-G'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 明るいローム土が不規則に混在。締りやや強。
- 2 に近い黄褐色土(10YR4/3) 1層土よりローム土の割合高い。締りやや弱。

### P 6 H-H'

- 1 に近い黄褐色土(10YR4/3) ローム土混じり。微量の極名二層白色軽石を含む。締りやや強。
- 1' に近い黄褐色土(10YR4/3) 1層土より締り強。軽石を含まない。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 少量のローム土を混入する。微量の極名二層白色軽石を含む。締りやや強。
- 2' 黒褐色土(10YR3/2) 2層土より土質均一。軽石を含まない。

第591図 XIII区2号掘立柱建物

埋土 灰黄褐色土からなる。

遺物 なし。

所見 柱穴の埋土はⅦ層起源の灰褐色系土からなり、浅間Bテフラを含まない。このことから奈良～平安時代の建物である可能性がある。

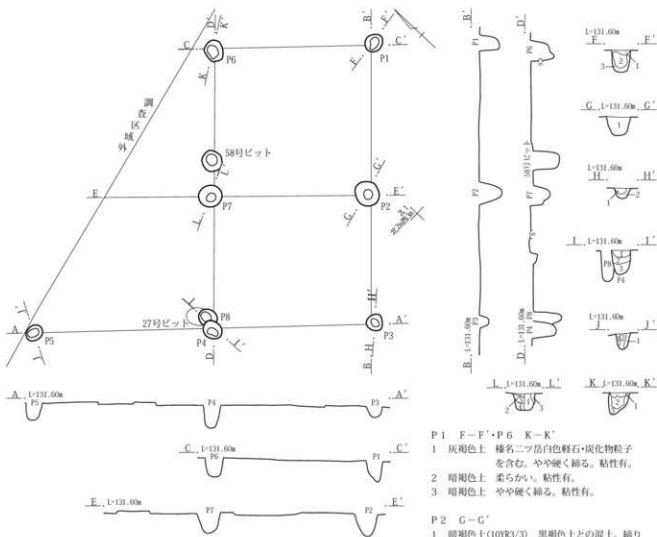
3号掘立柱建物(第592図、PL.318)

グリッド 13-2区 L1 M1・2

形状と規模 桁2間・梁2間の長方形の竪柱建物と想定され、北部は調査区外に存在する。長辺は5.46m、短辺は4.42mである。桁行きの柱間は2.58～2.84m、梁行きの柱間は2.04～2.40mである。

主軸方位 N45°W

重複 2号掘立柱建物、19・33号土坑、1号鍛冶遺構と



- P4 I-I'
- 1 暗褐色土 榛名二層白色軽石を含む。やや硬い。
  - 2 暗褐色土 炭化物粒子を含む。やや硬い。粘性有。
  - 3 灰褐色土 やや硬い。粘性有。
- P5 J-J'
- 1 灰褐色土(10YR4/2) 土質はほぼ均一。締りやや強。
  - 2 黒褐色土(10YR3/2) 少量の1層土を混入する。微量の榛名二層白色軽石を含む。締りやや弱。

- P3 H-H'
- 1 黒褐色土 灰褐色土ブロックを含む。やや硬い。粘性有。
  - 2 灰黄褐色土 多量の灰褐色土ブロックを含む。やや硬い。粘性有。
- P7 L-L'
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・炭化物粒子を含む。硬くて締り良い。
  - 2 黒褐色土 黄褐色土粒子を含む。やや硬く締る。
  - 3 暗褐色土 灰褐色土ブロック・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
  - 4 灰褐色土 硬く締る。粘性有。

0 1:60 2m

第592図 XIII区3号掘立柱建物

内区が重複する。

**柱穴** 柱穴は8基検出し、断面形状はU～V字形を呈する。柱穴に柱痕は認められない。P4の周辺にP8の補助的な柱穴が存在する。

P1は長径0.31m、短径0.27m、深さ0.36mである。

P2は長径0.40m、短径0.36m、深さ0.43mである。

P3は長径0.26m、短径0.26m、深さ0.17mである。

P4は長径0.31m、短径0.28m、深さ0.42mである。

P5は長径0.28m、短径0.23m、深さ0.25mである。

P6は長径0.34m、短径0.28m、深さ0.37mである。

P7は長径0.38m、短径0.34m、深さ0.33mである。

P8は長径0.33m、短径0.29m、深さ0.33mである。

**埋土** 灰黄褐色土からなる。

**遺物** なし。

**所見** 柱穴の埋土はⅦ層起源の灰褐色系土からなり、浅間Bテフラを含まない。このことから奈良～平安時代の建物である可能性がある。

#### 4号掘立柱建物(第593図、PL.318)

グリッド 12～92区M20 2M1

**形状と規模** 桁2間・梁2間の長方形の総柱建物と想定され、北西部は調査区外に存在する。長辺は4.90m、短辺は4.00mである。桁行きの柱間は2.45～2.50m、梁行きの柱間は1.90～2.14mである。

**主軸方位** N29°W

**重複** P2が27号土坑を切る。P5が11号土坑、P6が2号住居、P7が4号住居、P10が5号住居に切られる。5・6・12・18号土坑が内区に重複する。

**柱穴** 柱穴は10基検出し、断面形状はU～V字形を呈する。柱穴に柱痕は認められない。P1・P3の柱間にP2、P3・P9の柱列にP8・P10の補助的な柱穴が存在する。

P1は長径0.40m、短径0.35m、深さ0.38mである。

P2は長径0.34m、短径0.29m、深さ0.25mである。

P3は長径0.34m、短径0.30m、深さ0.34mである。

P4は長径0.45m、短径0.39m、深さ0.39mである。

P5は長径0.28m、短径0.24m、深さ0.16mである。

P6は長径0.32m、短径0.28m、深さ0.47mである。

P7は長径0.29m、短径0.27m、深さ0.45mである。

P8は長径0.33m、短径0.31m、深さ0.34mである。

**埋土** 灰黄褐色土からなる。

**遺物** なし。

**所見** 柱穴の埋土はⅦ層起源の灰褐色系土からなり、浅間Bテフラを含まない。このことから奈良～平安時代の建物である可能性がある。

## 第4節 竪穴

### 1. V区

#### 1号竪穴(第594図、PL.319・320)

グリッド 13～3区P20

**主軸方位** N3°E

**重複** なし。

**形状と規模** 南北方向に長辺を有する隅丸長方形の竪穴遺構である。長辺は3.62m、短辺2.99m、深さは0.09m、面積は9.08㎡である。

**埋土** にぶい黄褐色砂質土からなる。

**床面** Ⅷ層の黄褐色砂質土を削り出して平坦な床面を構築している。南西部と北部に浅い窪みを検出した。

**柱穴** 柱穴は検出されなかった。主柱穴を持たない構造の竪穴と想定される。

**遺物** なし。

**所見** 年代未詳の竪穴である。

#### 2号竪穴(第595図、PL.319・320)

グリッド 13～13区P4

**主軸方位** N57°E

**重複** 3号竪穴を切る。

**形状と規模** 北東～南西方向に長辺を有する歪んだ隅丸長方形の竪穴遺構である。長辺は3.51m、短辺3.36m、深さは0.67m、面積は9.45㎡である。

**埋土** 二ツ岳の白色軽石を含む灰黄褐～褐色砂～シルト質土が成層する。

**床面** Ⅷ層の黄褐色砂質土を削り出して平坦な床面を構築している。炭化物の広がりや浅い窪みを検出した。

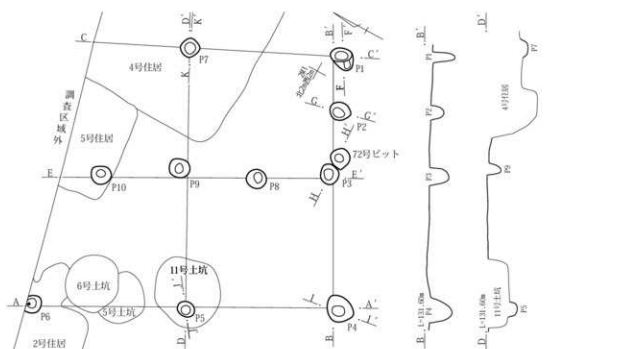
**柱穴** 柱穴は検出されなかった。主柱穴を持たない構造の竪穴と想定される。

**遺物** なし。

**所見** 埋土から古墳時代後期から平安時代と想定される。



第4章 第2面の遺構と出土遺物



P1 F-F'

- 1 黒褐色土 灰褐色土ブロック・炭化物粒子を含む。やや硬い。粘性有。
- 2 暗褐色土 灰褐色土ブロックを含む。硬い。
- 3 暗褐色土 多量の灰褐色土ブロックを含む。やや硬い。

P2 G-G'

- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 少量の棒名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 2 褐色土(10YR4/4) にぶい黄褐色シルト質土を含む。締り強。

P3 H-H'

- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 少量の棒名ニツ岳白色軽石・黄褐色土粒子を含む。硬く締り強。
- 2 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) 1層より少量の軽石を含む。締りやや強。

P4 I-I'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 微量の棒名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 少量のローム土を混入する。締りやや弱。

P5 J-J'

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 少量のくすんだローム土を混入する。締りやや強。

P7 K-K'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 微量の黒色土ブロック・ローム粒を含む。締りやや弱。



第593図 XII区4号掘立柱建物

## 3号竪穴(第595図、PL.320)

グリッド 13-13区P 4

主軸方位 N74° E

重複 2号竪穴に切られる。

形状と規模 東西方向に長辺を有する歪んだ隅丸長方形の竪穴遺構で北部は2号竪穴、南東部は掘乱によって失われている。長辺は3.41m、短辺3.14m+、深さは0.65m、検出された最大の面積は5.02㎡である。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む灰黄褐～褐色砂～シルト質土が成層する。

床面 2層の黄褐色砂質土を削り出して平坦な床面を構築している。浅い窪みを検出した。

柱穴 柱穴は検出されなかった。主柱穴を持たない構造の竪穴と想定される。

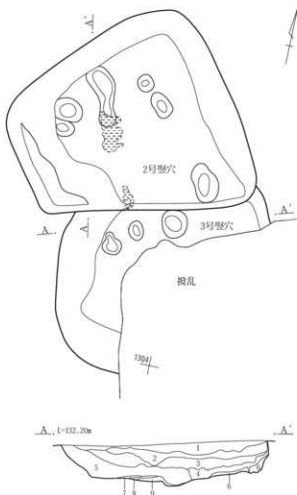
遺物 なし。

所見 埋土から古墳時代後期から平安時代と想定される。



1 にぶい黄褐色細砂土(10YR5/3) 締りやや有。

第594図 V区1号竪穴



## 2号竪穴

- 1 黄灰色砂質土(2.5Y6/1) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~3mm大)と多量の灰色粗砂と灰黄褐色砂質土を含む。
- 2 黄灰色砂質土(2.5Y6/1) 砂質土中心層。一部粘性味のある褐色シルト質土を混入する。
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~5mm大)を含む。
- 4 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~2mm大)を含む。
- 5 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 粘性やや有。
- 6 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) にぶい黄褐色シルト質土ブロックを含む。

## 3号竪穴

- 1 黄灰色砂質土(2.5Y6/1) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~3mm大)と多量の灰色粗砂と灰黄褐色砂質土を含む。
- 2 褐色シルト質土(10YR5/1) 灰色の砂質土を層状に含む。粘性やや有。
- 3 黄灰色砂質土(2.5Y6/1) 砂質土中心層。
- 4 褐色シルト質土(10YR5/1) 2層上に近い層。粘性やや有。
- 5 黄灰色砂質土(2.5Y6/1) 砂質土中心層。一部粘性味のある褐色シルト質土を混入する。
- 6 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~2mm大)を含む。
- 7 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)
- 8 にぶい黄褐色シルト質土(10YR6/4)
- 9 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) にぶい黄褐色シルトブロックを含む。

第595図 V区2・3号竪穴

4号竪穴(第596図、PL.321)

グリッド 13-13区P 2

主軸方位 N10° E

重複 1号溝に切られる。

**形状と規模** 南北方向に長辺を有する隅丸長方形の竪穴遺構で、西部は1号溝により失われている。長辺は2.28m、短辺1.46m+、深さは0.19m、検出された最大の面積は3.12㎡である。

**埋土** 浅間Cテフラや二ツ岳の白色軽石を含むふい黄褐～灰黄褐色砂質土からなる。

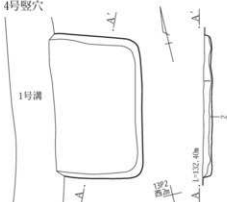
**床面** 2層の黄褐色砂質土を削り出して平坦な床面を構築している。

**柱穴** 柱穴は検出されなかった。主柱穴を持たない構造の竪穴と想定される。

**遺物** なし。

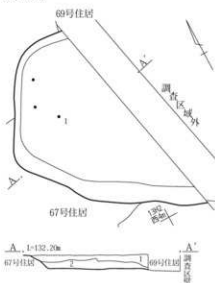
**所見** 埋土から古墳時代後期から平安時代と想定される。

4号竪穴

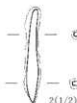
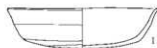


- 1 ふい黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石(φ1~7mm (10YR5/3) 大)・棒名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石(φ1~2mm大)を含む。

5号竪穴



- 1 黒褐色砂質土 少量の浅間B軽石、微量の棒名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)・炭化種子(φ1~3mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 微量の棒名二ツ岳白色軽石小粒・炭化種子(φ1~2mm大)を含む。



第596図 V区4・5号竪穴と5号竪穴の出土遺物

5号竪穴(第596図、PL.320・321・439)

グリッド 13-13区H 2

主軸方位 N59° W

重複 67・69号住居を切る。

**形状と規模** 北西～南東方向に長辺を有する隅丸長方形の竪穴遺構で、南東部は調査区外に存在する。長辺は3.14m+、短辺2.49m、深さは0.22m、検出された最大の面積は4.64㎡である。

**埋土** 上層に浅間Bテフラを含む黒褐色土と二ツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土の下層からなる。

**床面** 67・69号住居埋土を削り出して平坦な床面を構築している。

**柱穴** 柱穴は検出されなかった。主柱穴を持たない構造の竪穴と想定される。

**遺物** 底面直上から9世紀前半の土師器の杯(1)が出土した。

**所見** 10世紀後半に帰属する69号住居よりも新しく、埋土上層に浅間Bテフラの軽石粒を含むことから10世紀以降の竪穴と考えられる。

## 6号竪穴(第597図、PL.439)

グリッド 13-3区N20

主軸方位 N4°W

重複 70・71号土坑に切られる。

形状と規模 南北方向に長辺を有する隅丸長方形の竪穴遺構である。長辺は2.80m、短辺1.76m、深さは0.49m、面積は4.39㎡である。

埋土 浅間Cテフラや二ツ岳の白色軽石を含むふい黄橙～灰黄褐色砂質土からなる。

床面 XII層の黄褐色砂質土を削り出して平坦な床面を構築している。

柱穴 柱穴は検出されなかった。主柱穴を持たない構造の竪穴と想定される。

遺物 底面から0.11～0.23m上から完形の須恵器の椀(1・2)が出土した。

所見 平安時代10世紀第2四半期。

## 2. VI区

## 1号竪穴(第598図)

グリッド 13-3区I10

主軸方位 N49°E

重複 21号住居を切る。

形状と規模 北東～南西方向に長辺を有する隅丸長方形

の竪穴遺構である。長辺は3.86m、短辺3.43m、深さは0.38m、面積は6.98㎡である。

埋土 二ツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土が成層する。

床面 XII層の黄褐色砂質土を削り出して平坦な床面を構築している。

柱穴 柱穴は検出されなかった。主柱穴を持たない構造の竪穴と想定される。

遺物 なし。

所見 9世紀後半に帰属する21号住居よりも新しい。

## 2号竪穴(第598図、PL.322・323)

グリッド 13-3区I9

主軸方位 N72°E

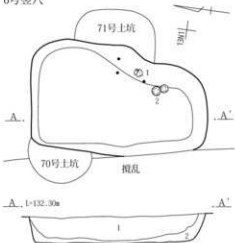
重複 15号溝に切られる。21号住居を切る。

形状と規模 北東～南西方向に長辺を有する隅丸長方形の竪穴遺構で、南部は15号溝により失われ、南西部は調査区外に存在する。長辺は4.51m+、短辺2.16m+、深さは0.19m、検出された最大の面積は5.93㎡である。

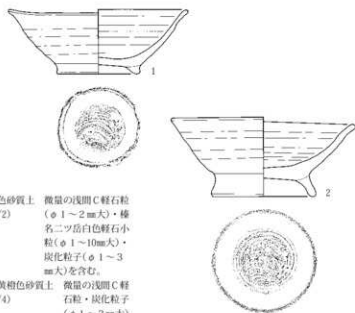
埋土 二ツ岳の白色軽石を含む褐灰～灰黄褐色砂質土が成層する。

床面 XII層の黄褐色砂質土を削り出して平坦な床面を構築している。

## 6号竪穴



0 1:60 2m



1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石(φ1～2mm大)・榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ1～10mm大)・炭化粒子(φ1～3mm大)を含む。

2 ぶい黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒・炭化粒子(φ1～2mm大)を含む。

0 1:3 10cm

第597図 V区6号竪穴と出土遺物

**柱穴** 柱穴は検出されなかった。主柱穴を持たない構造の竪穴と想定される。

**遺物** なし。

**所見** 9世紀後半に帰属する21号住居よりも新しい。

3号竪穴(第599図, PL.323・439)

グリッド 13-3区E9

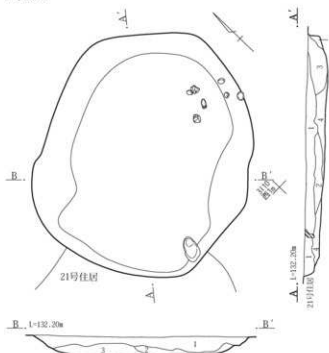
主軸方位 N35°E

重複 28号住居に切られる。

**形状と規模** 北東～南西方向に長辺を有する隅丸長方形の竪穴遺構で、東部は調査区外に存在する。長辺は6.18m+、短辺5.53m+、深さは0.42m、検出された最大の面積は21.19㎡である。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなる。  
**床面** Ⅱ層の黄褐色砂質土を削り出して凹凸のある床面を構築している。調査区境界から不定形の窪みを検出した。

1号竪穴



- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 少量の極名ニツ岳白色軽石小粒・にぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ5~10mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の極名ニツ岳白色軽石小粒・にぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ5~10mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR6/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒と少量のにぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ10~30mm大)を含む。

**柱穴** 柱穴は検出されなかった。主柱穴を持たない構造の竪穴と想定される。

**遺物** 底面直上から須恵器の杯(1)、土師器の甕(3)、埴土から土師器の壺(2)が出土した。

**所見** 10世紀後半に帰属する28号住居よりも旧く、出土遺物から平安時代9世紀第4四半期と考えられる。

4号竪穴(第600図, PL.324)

グリッド 13-3区H7

主軸方位 N74°W

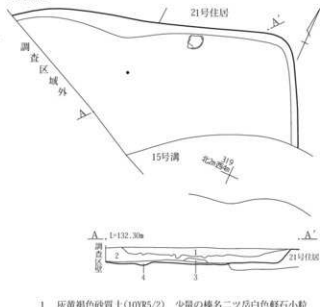
重複 なし。6号竪穴に近接する。

**形状と規模** 南北方向に長辺を有する隅丸長方形の竪穴遺構で、西部は調査区外に存在する。長辺は2.69m+、短辺1.83m+、深さは0.10m、検出された最大の面積は2.86㎡である。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**床面** Ⅱ層の黄褐色砂質土を削り出して平坦な床面を構

2号竪穴



- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 少量の極名ニツ岳白色軽石小粒とにぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ5~10mm大)を含む。
- 2 褐色砂質土(10YR5/1) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒と少量のにぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ10~30mm大)を含む。
- 3 褐色砂質土(10YR5/1) 多量のにぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ5~30mm大)を含む。
- 4 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石と多量のにぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ10~30mm大)を含む。

0 1:60 2m

第598図 VI区1・2号竪穴

築している。床面から長径0.20m大の円礫が出土した。  
柱穴 柱穴は検出されなかった。主柱穴を持たない構造の竪穴と想定される。

遺物 なし。

所見 年代未詳の竪穴である。

#### 5号竪穴(第600図)

グリッド 13-3区G7

主軸方位 N24°W

重複 17・19号溝に切られる。27号住居に近接し、同時存在はない。

形状と規模 北西～南東方向に長辺を有する隅丸長方形の竪穴遺構で、西部は17号溝により失われている。長辺は3.07m、短辺1.52m+、深さは0.16m、検出された最大の面積は4.08㎡である。

床面 XII層の黄褐色砂質土を削り出して平坦な床面を構

築している。

柱穴 柱穴は検出されなかった。主柱穴を持たない構造の竪穴と想定される。

遺物 なし。

所見 年代未詳の竪穴である。

#### 6号竪穴(第600図、PL.324)

グリッド 13-3区H8

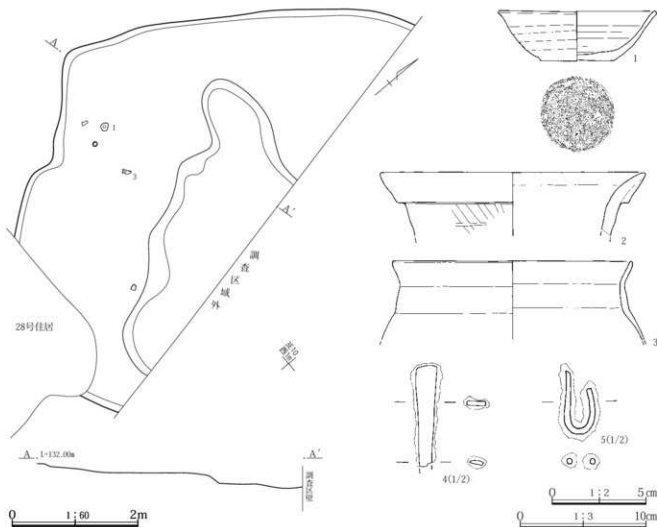
主軸方位 N57°E

重複 なし。4号竪穴に近接する。

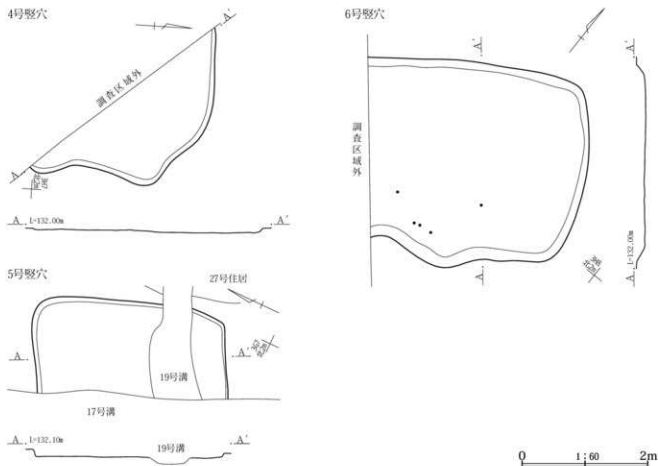
形状と規模 北東～南西方向に長辺を有する隅丸長方形の竪穴遺構で、南西部は調査区外に存在する。長辺は3.52m+、短辺3.31m、深さは0.22m、検出された最大の面積は8.92㎡である。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

床面 XII層の黄褐色砂質土を削り出して平坦な床面を構



第599図 VI区3号竪穴と出土遺物



第600図 VII区4～6号竪穴

築している。

**柱穴** 柱穴は検出されなかった。主柱穴を持たない構造の竪穴と想定される。

**遺物** なし。

**所見** 年代未詳の竪穴である。

### 3. VII区

1号竪穴(第601図、PL.325)

グリッド 13-2区T14

主軸方位 N23°W

重複 なし。

**形状と規模** 北西～南東方向に長辺を有する歪んだ隅丸長方形の竪穴遺構である。長辺は3.53m、短辺2.66m、深さは0.23m、面積は7.78㎡である。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含むにぶい黄橙～灰黄褐色砂質土が成層する。

**床面** XII層の黄褐色砂礫層を削り出して、礫の上面が凹凸している床面を構築している。

**柱穴** 柱穴は検出されなかった。主柱穴を持たない構造の竪穴と想定される。

**遺物** なし。

**所見** 埋土から古墳時代後期から平安時代と想定される。

2号竪穴(第601図、PL.326)

グリッド 13-2区R12

主軸方位 N3°W

重複 142号土坑に切られる。55号住居を切る。

**形状と規模** 南北方向に長辺を有する隅丸長方形の竪穴遺構である。長辺は2.16m、短辺1.26m、深さは0.08m、面積は2.55㎡である。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含むにぶい灰黄褐色シルト質土からなる。

**床面** XII層の黄褐色砂質土を削り出して、平坦な床面を構築している。床面には炭化物や焼土の広がりを検出した。

**柱穴** 柱穴は検出されなかった。主柱穴を持たない構造

の竪穴と想定される。

遺物 なし。

所見 規模からして方形の土坑に分類される遺構であるが、調査時の所見を踏襲して竪穴とした。10世紀前半に帰属する55号住居よりも新しい。

### 3号竪穴(第601図, PL.326・439)

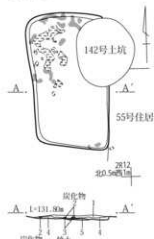
グリッド 13-2区S10

#### 1号竪穴



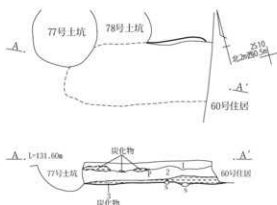
- 1 灰黄褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石と少量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~10mm)を含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土 多量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~20mm)を含む。

#### 2号竪穴



- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ2~3mm大)、炭化粒子・焼土粒子(φ1~2mm大)、灰を含む。
- 2 炭化物層ブロック・灰層ブロック。
- 3 焼土ブロック
- 4 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ1~3mm大)を含む。
- 5 にぶい黄褐色シルト質土(10YR6/4)

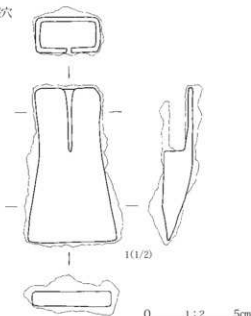
#### 3号竪穴



- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ3~10mm)・炭化粒子(φ1~3mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土 1層上よりやや黒味あり。微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~10mm)・炭化粒子(φ1~3mm大)・焼土粒子(φ1mm大)を含む。
- 3 炭化物層ブロック・灰層ブロック。

0 1:60 2m

#### 3号竪穴



第601図 VII区1~3号竪穴と3号竪穴の出土遺物



#### 第4章 第2面の遺構と出土遺物

構築している。床面には炭化物の広がりを検出した。

**柱穴** 柱穴は検出されなかった。主柱穴を持たない構造の竪穴と想定される。

**遺物** 埋土から鉄斧(1)が出土した。

**所見** 規模からして方形の土坑に分類される遺構であるが、調査時の所見を踏襲して竪穴とした。11世紀に帰属する60号住居よりも古い。

### 第5節 溝

#### 1. V区

##### 1号溝(第602図)

**グリッド** 13-3区Q・R 19・20と13区P・Q 1~3

**形状と規模** 全長は22.10mで北東~南西方向に走行し、検出された幅は0.58~0.94m、深さは0.23~0.41mである。南北の底面比高差は0.04mで南から北に走行するが、ほぼ水平である。溝の断面形状はU字形を呈する。

**走行方位** N23°E

**重複** 30・34・58号住居、4号竪穴を切る。

**対比** 田口下田尻遺跡(事業団2012)の53号溝に連続する。

**埋土** 浅間Bテフラを含む灰黄褐色砂質土からなる。



第602図 V区2面1号溝

遺物 なし。

所見 10世紀後半に帰属する30号住居よりも新しく、埋土に含まれるテフラから中世以降であることは確実である。埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。溝は走行方位が微高地上の傾斜方向に概ね一致するため、排水などを目的とした水路である可能性がある。

#### 6号溝(第603図、PL.327)

グリッド 13-3区M・N 17~20と13区O 2・3  
 形状と規模 発掘調査で6号溝と13号溝として検出したものを統合した。全長は31.60mで南北方向に走行し、検出された幅は0.37~0.77m、深さは0.06~0.12mである。南北の底面比高差は0.04mで南から北に走行するが、ほぼ水平である。溝の断面形状は浅い皿形を呈する。

走行方位 N20°W

重複 33号住居、11号溝を切る。

対比 VI区の7号溝に連続する。

埋土 下底は二ツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなり、降下した浅間Bテフラで埋没している。

遺物 なし。

所見 10世紀前半に帰属する33号住居よりも新しく、溝を浅間Bテフラが埋めることから、平安時代後半の溝で12世紀初頭に埋没・廃絶したものと考えられる。埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。溝は走行方位が微高地上の傾斜方向に概ね一致するため、排水などを目的とした水路である可能性がある。

#### 7号溝(第604図、PL.440)

グリッド 13-13区N・O 1~7

形状と規模 全長は30.50mで南北方向に走行し、検出された幅は0.80~1.50m、深さは0.10~0.43mである。南北の底面比高差は0.17mで南から北に走行する。溝の断面形状はU字形を呈する。

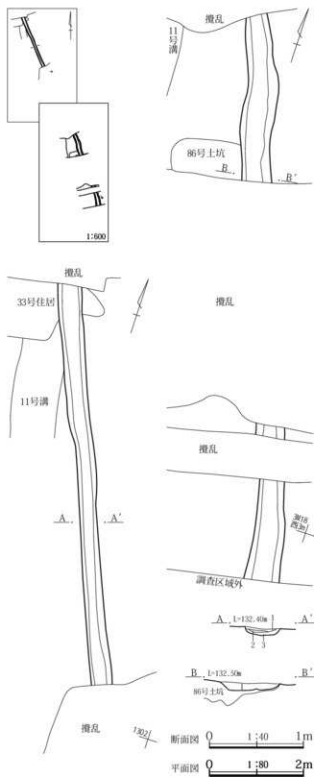
走行方位 N7°W

重複 44号住居、11号土坑に切られる。隣接する8号溝の一部に沿うように分布する。

埋土 二ツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 7・8号溝の埋土から須恵器の椀(1)、灰軸陶器の椀(2)や瓶(3)が出土した。

所見 9世紀の44号住居よりも旧く、9~10世紀の遺物



A-A'

- 1 浅間山B軽石=純層堆積
- 2 浅間山B軽石に伴うアッシュ(薄紫色火山灰)=純層堆積
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。

B-B'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の浅間B軽石・砂礫土(礫φ10~20mm大)と微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)を含む。

第603図 V区2面6号溝

#### 第4章 第2面の遺構と出土遺物

が出土したことから奈良・平安時代の溝である。溝は走行方向が微高地上の傾斜方向に概ね一致するため、排水などを目的とした水路である可能性がある。

##### 8号溝(第604図、PL.440)

グリッド 13-3区M20と13区M-O 1~7

**形状と規模** 全長は52.10mで南北方向に走行し、検出された幅は0.65~2.35m、深さは0.12~1.38mである。南北の底面比高差は0.26mで南から北に走行する。溝の断面形状はU字形を呈する。

**走行方位** N7~40°W

**重複** 9・44・46・59・71号住居、11・109号土坑に切られる。隣接する7号溝の一部に沿うように分布する。

**対比** VI区の18号溝に連続する。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなる。

**所見** 9世紀の44・46号住居よりも旧く、9世紀の遺物が出土したことから9世紀以前の奈良~平安時代の溝である。溝は走行方向が微高地上の傾斜方向に概ね一致するため、7号溝と同様に排水などを目的とした水路である可能性がある。

##### 9号溝(第605図)

グリッド 13-13区O・P 5~7

**形状と規模** 全長は12.20mで南北方向に走行し、検出された幅は0.65~2.35m、深さは0.08mである。南北の底面比高差は0.08mで北から南に走行する。溝の断面形状は浅い皿形を呈する。

**走行方位** N14°E

**重複** 23号住居、11号溝を切る。

**遺物** なし。

##### 10号溝(第605図、PL.327)

グリッド 13-3区O~Q 18・19

**形状と規模** 全長は14.94mで東西方向に走行し、11号溝に接続する。検出された幅は2.30m、深さは0.25mである。東西の底面比高差は0.03mで西から東に走行するが、ほぼ水平である。溝の断面形状は箱形を呈する。

**走行方位** N87°E

**重複** 18・19号住居を切る。11号溝と同時期である。

**埋土** 浅間Cテフラの灰色軽石やニツ岳の白色軽石を含

む灰黄褐色砂質土からなる。

**所見** 11号溝に直交して連続する逆L字形の平面形状を呈する。区画を示す目的とした堀である可能性がある。

##### 11号溝(第606図、PL.327)

グリッド 13-3区N19と13区O・P 1~7

**形状と規模** 全長は44.28mで南北方向に走行し、10号溝に直交して接続する。検出された幅は0.80~1.50m、深さは0.05~0.40mである。南北の底面比高差は0.46mで南から北に走行する。溝の断面形状は箱形を呈する。

**走行方位** N87°E

**重複** 22・31・33号住居、15~17・45号土坑に切られる。6・10号溝と同時期である。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなる。

**遺物** なし。

**所見** 10号溝と連続して逆L字形の平面形状を呈する。区画を示す目的とした堀である可能性があるが、同時に走行方向が微高地上の傾斜方向に概ね一致するため、排水などを目的とした水路である可能性がある。10世紀前半の住居よりも旧く、10・11号溝は奈良~平安時代前半に帰属する可能性が高い。

##### 12号溝(第607図、PL.327・440)

グリッド 13-13区K・L 2・3

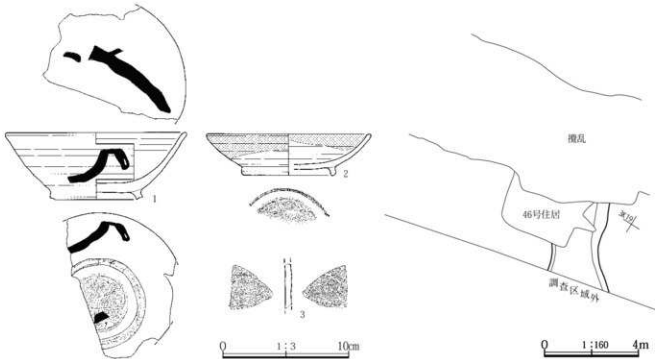
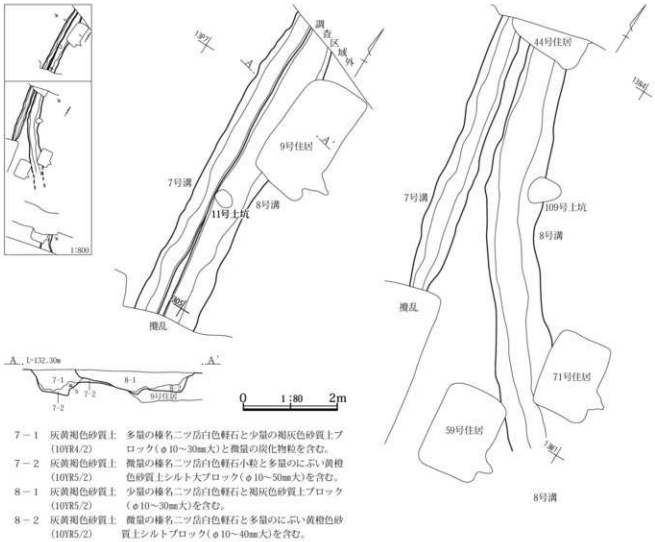
**形状と規模** 全長は13.60mで北西~南東及び東西方向にL字形に走行する。検出された幅は0.45~0.75m、深さは0.05~0.16mである。底面の比高差は0.19mである。溝の断面形状は浅い皿形を呈する。

**重複** 40・56号住居を切る。60号土坑に切られる。

**埋土** 浅間Bテフラとニツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなる。

**遺物** 埋土から完形の鉄鏝(1)が出土した。

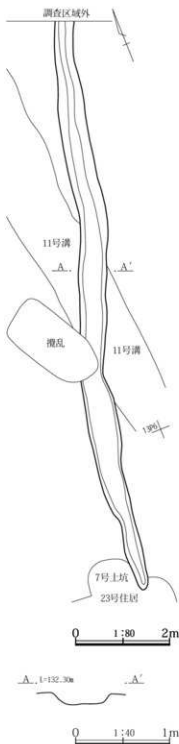
**所見** L字形の平面形状を呈し建物などの周溝(排水溝)である可能性があるが、9世紀後半の50号住居よりも新しく、埋土に浅間Bテフラが認められるので12世紀前後の時期に帰属する可能性がある。



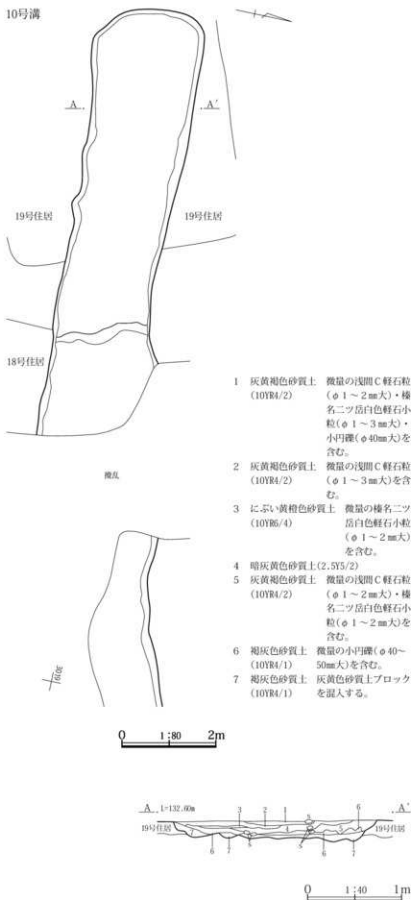
第604図 V区2面7・8号溝と出土遺物

第4章 第2面の遺構と出土遺物

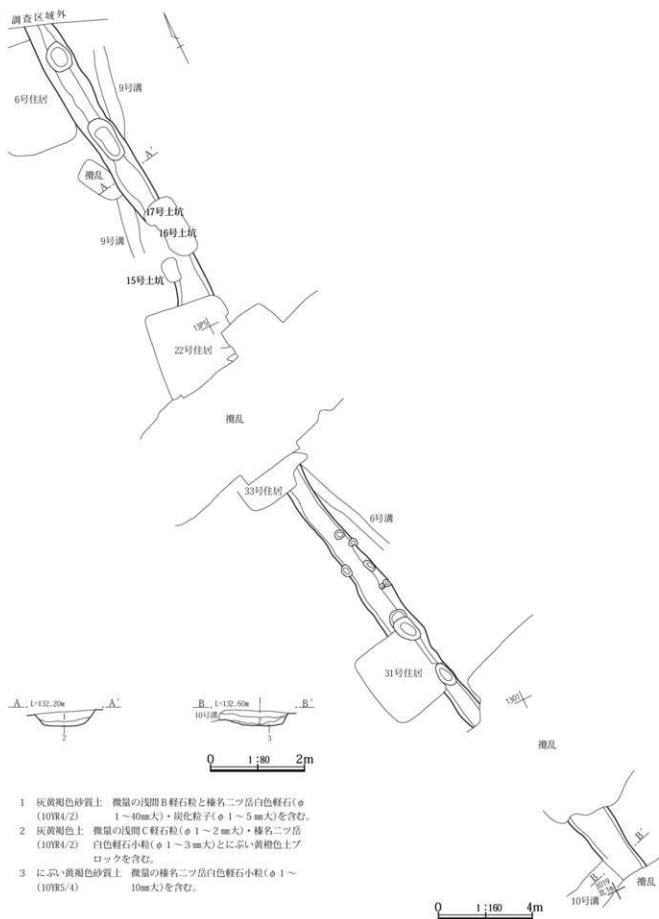
9号溝



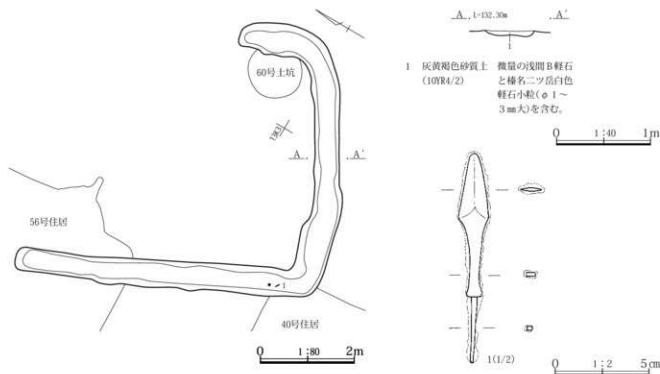
10号溝



第605図 V区2面9・10号溝



第606図 V区2面11号溝



第607図 V区2面12号溝と出土遺物

## 2. VI区

1号溝(VI区1号溝) (第608~610図、PL.328・440)

グリッド 13-3区G~Q 14-17

**形状と規模** 全長は52.35mで東西方向に走行し、検出された幅は0.64~2.45m、深さは0.08~0.37mである。東西の底面比高差は0.26mで西から東に走行する。溝の断面形状は浅い皿形~箱形を呈する。

**走行方位** N79°WとN67°E。

**重複** 1・11・33号住居、2・3・6・13号溝を切る。

**対比** VII区の1号溝に連続する。

**埋土** 二ツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなる。Ⅹ層起源の安山岩の垂門礫を上層に含む。

**遺物** 埋土から須恵器の椀(1)、瓶(2)、中世の常滑窯の陶器甕(3・4)が出土した。VII区1号溝からは埋土から須恵器の椀(1~3)が出土した。

**所見** 6~7世紀、9世紀、中世の遺物が出土し、10世紀前半に帰属する1号住居よりも新しい。溝を埋めた埋土に浅間Bテフラが認められないので古代後半に帰属する溝である。埋土には水流の影響を示す堆積相は認められないが、広瀬川低地の微高地と低地の境界に平行し、排水などを目的とした水路である可能性がある。

2号溝(第611図、PL.328・440)

グリッド 13-3区N 10-14

**形状と規模** 全長は19.50mで南北方向に走行し、検出された幅は0.83~2.48m、深さは0.08~0.29mである。南北の底面比高差は0.48mで北から南に走行する。溝の断面形状は浅い皿形~U字形を呈する。

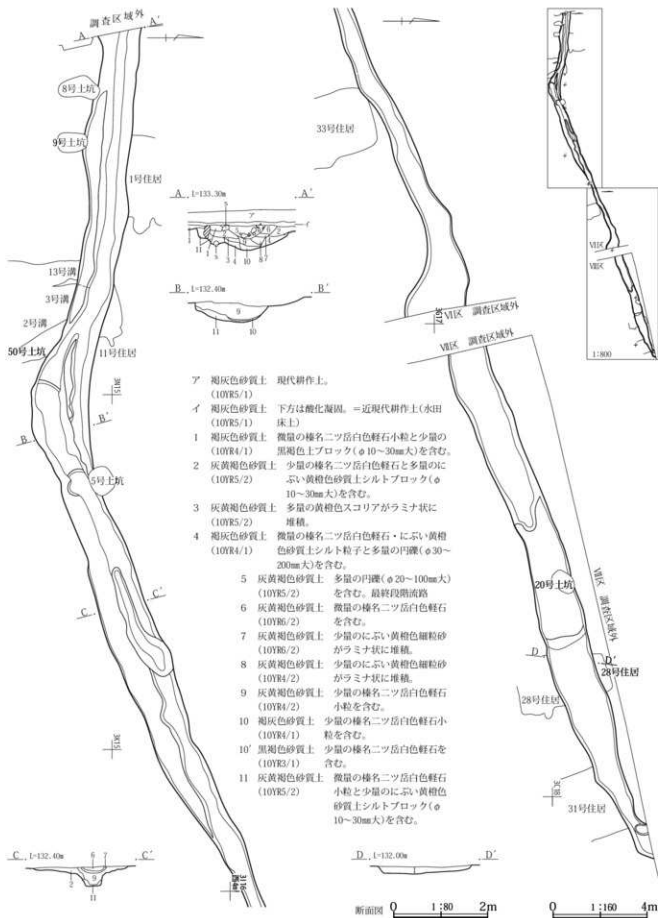
**走行方位** N2°W

**重複** 3・9号溝を切る。1・10号溝、18・31・32号土坑に切られる。1号溝で北側が途切れるため1号溝に連続していた可能性がある。

**埋土** 二ツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなる。

**遺物** 埋土から須恵器の蓋(1)、甕(2)が出土した。中近世の遺物(3・4)は混入遺物と考えられる。

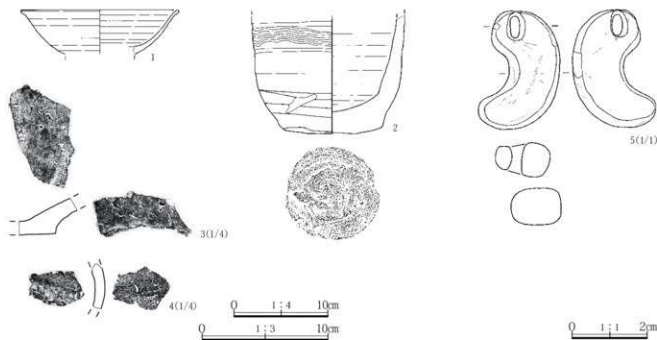
**所見** 9世紀の遺物が出土した。埋土には水流の影響を示す堆積相は認められないが、南北の比高差が大きいため低地側から微高地側に用水などを目的とした水路である可能性がある。12号住居よりも新しく、埋土に浅間Bテフラを含まないため平安時代に帰属する。



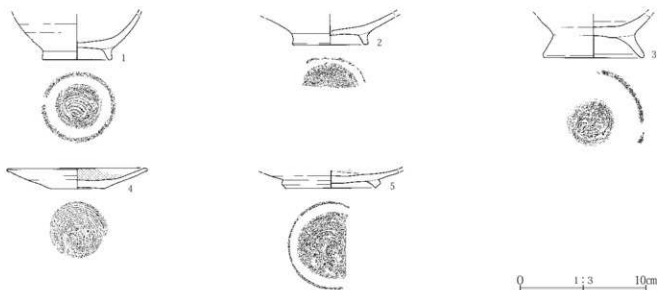
第608図 VI・VII区2面1号溝



第4章 第2面の遺構と出土遺物



第609図 VI区 2面 1号溝の出土遺物



第610図 VII区 2面 1号溝の出土遺物

3号溝(第612図)

グリッド 13-3区N 13・14

**形状と規模** 全長は8.02mで南北方向に走行し、検出された幅は0.44～0.75m、深さは0.07～0.22mである。南北の底面比高差は0.31mで北から南に走行する。溝の断面形状は浅い皿形を呈する。

**走行方位** N13°W

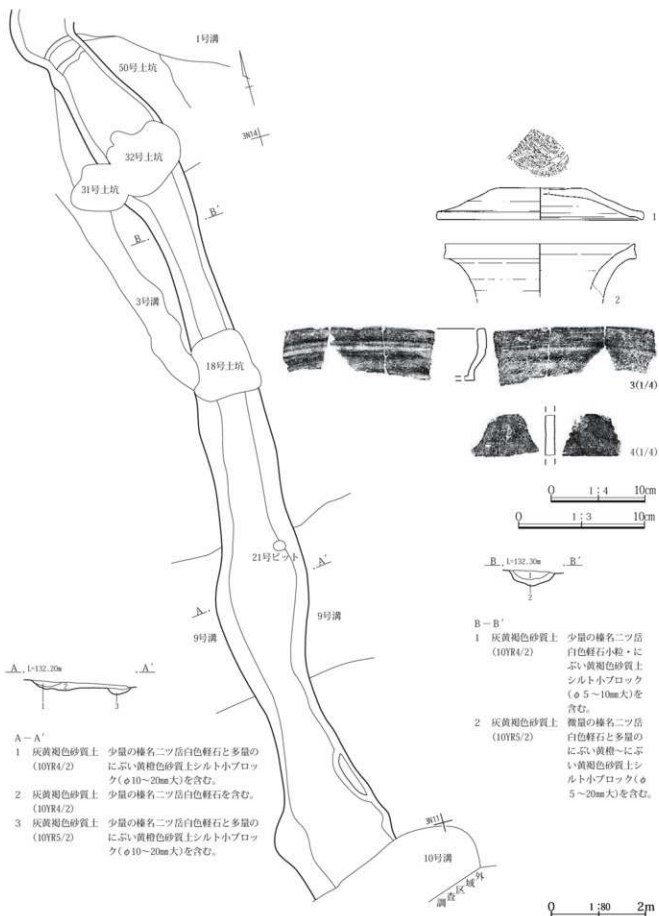
**重複** 2号溝、18・31号土坑に切れ、13号溝を切る。

バイパス状に2号溝に連続していた可能性がある。

**埋土** ツツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなる。

**遺物** なし。

**所見** 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められないが、南北の比高差が大きいため2号溝と同様に低地側から微高地側に用水などを目的とした水路である可能性がある。



- A-A'
- 1 灰黄褐色砂質土 少量の椀名二ツ岳白色軽石と多量の  
(10YR4/2) にふい黄褐色砂質土シルト小ブロッ  
ク(φ10~20mm大)を含む。
  - 2 灰黄褐色砂質土 少量の椀名二ツ岳白色軽石を含む。  
(10YR4/2)
  - 3 灰黄褐色砂質土 少量の椀名二ツ岳白色軽石と多量の  
(10YR5/2) にふい黄褐色砂質土シルト小ブロッ  
ク(φ10~20mm大)を含む。

- B-B'
- 1 灰黄褐色砂質土 少量の椀名二ツ岳  
(10YR4/2) 白色軽石小粒・に  
ふい黄褐色砂質土  
シルト小ブロック  
(φ5~10mm大)を  
含む。
  - 2 灰黄褐色砂質土 微量の椀名二ツ岳  
(10YR5/2) 白色軽石と多量  
のふい黄褐色にふ  
い黄褐色砂質土シル  
ト小ブロック(φ  
5~20mm大)を含む。

第611図 VI区2面2号溝と出土遺物

4号溝(第612図)

グリッド 13-3区N・O 14

**形状と規模** 全長は4.90mで北西～南東方向に屈曲しながら走行し、検出された幅は0.23～0.33m、深さは0.26mである。北西～南東の底面比高差は0.13mで北から南に走行する。溝の断面形状は浅い皿形を呈する。

**走行方位** N40°W

**重複** 1・3号溝に切られ、バイパス状にこれらの溝に連続していた可能性がある。8号住居、13号溝を切る。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含むいぶい黄橙色細粒砂からなる。

**遺物** なし。

**所見** 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。7世紀後半に帰属する8号住居よりも新しいので奈良・平安時代に帰属する遺構と考えられる。

5号溝(第612図)

グリッド 13-3 O・P 14

**形状と規模** 全長は6.45mで東西方向に走行し、検出された幅は0.37～0.53m、深さは0.09～0.14mである。東西の底面比高差は0.11mで西から東に走行する。溝の断面形状は皿形を呈する。

**走行方位** N88°W

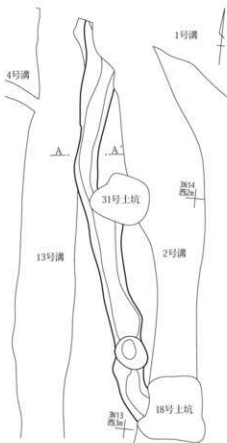
**重複** 8号住居を切る。1号溝の北西部に平行する。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

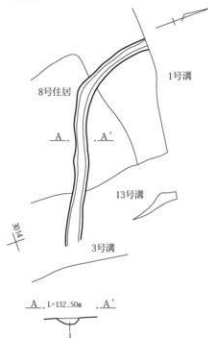
**遺物** なし。

**所見** 7世紀後半に帰属する8号住居よりも新しく、奈良・平安時代に帰属する可能性が高い。

3号溝

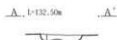
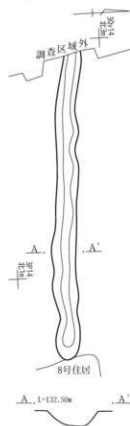


4号溝



1 いぶい黄橙色細粒砂 (10YR6/4) 少量の種名ニツ岳白色軽石小粒を含む。

5号溝



1 灰黄褐色砂質土 (10YR6/2) 多量のいぶい黄橙色砂質土シルトブロック(φ 5～40mm大)を含む。

断面図 0 1:40 1m

平面図 0 1:80 2m

第612図 MⅢ区2面3～5号溝

## 6号溝(第613・614図、PL.328・440)

グリッド 13-3区H-N 15-17

**形状と規模** 全長は29.35mで東西方向に走行し、検出された幅は0.70~2.57m、深さは0.12~0.44mである。東西の底面比高差は0.53mで西から東に走行する。溝の断面形状は皿形を呈する。

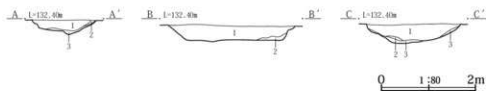
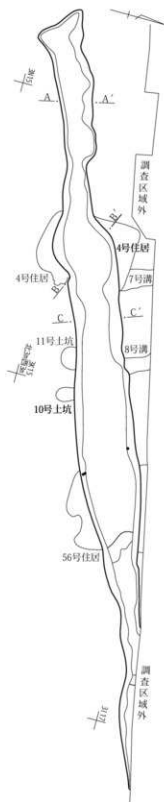
**走行方位** N68°E

**重複** 2・4・56号住居、7・8号溝を切る。1号溝で西側が途切れるため、1号溝に切られるが、これに連続していた可能性がある。6号溝は1号溝の北側を平行に走行する。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなり、下底に径0.10m大の円礫を含む。

**遺物** 埋土から須恵器の小椀(4)、杯(3)、皿(2)、手握ね土器の椀形(1)、鉄鎌(5)、鉄釘(8・9)が出土した。

**所見** 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められないが、南北の比高差が大きいのので微高地から低地側に排水などを目的とした水路である可能性がある。溝からは9・10世紀の遺物が出土した。6号溝は9世紀後半に帰属する56号住居よりも新しく、平安時代9世紀後半~10世紀後半に帰属する。



## A-A'

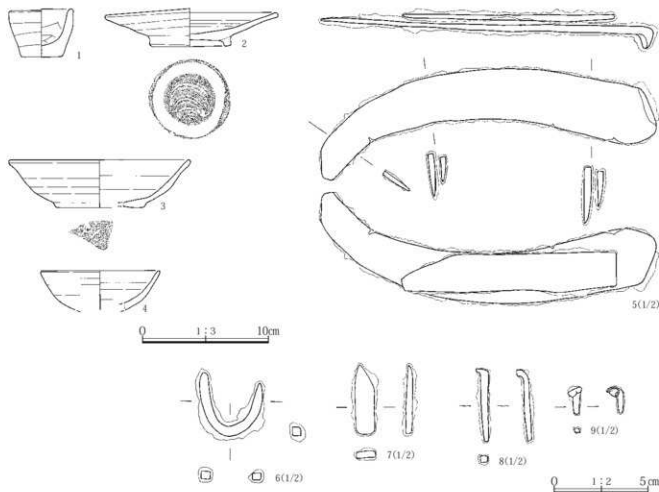
- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の椀名ニツ岳白色軽石小粒・にぶい黄褐色砂質土シルト極小ブロック(φ 5mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の椀名ニツ岳白色軽石小粒を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 多量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 5~15mm大)・黒褐色土小ブロック(φ 10~20mm大)を含む。

## B-B'・C-C'

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 多量の椀名ニツ岳白色軽石小粒と少量の褐灰色砂質土シルト小ブロック(φ 10~20mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 多量の椀名ニツ岳白色軽石小粒と少量の褐灰色砂質土シルト小ブロック(φ 10~20mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の椀名ニツ岳白色軽石と多量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 10~30mm大)を含む。

第613図 VI区2面6号溝

第4章 第2面の遺構と出土遺物



第614図 VI区2面6号溝の出土遺物

7号溝(第615図、PL.328)

グリッド 13-3区L 17

**形状と規模** 全長は1.46mで南北方向に走行し、検出された幅は0.65~0.87m、深さは0.16mである。南北の底面比高差は0.01mで、ほぼ水平である。溝の断面形状はU字形を呈する。

**走行方位** N16°W

**重複** 4号住居に切られる。6号溝に切られるが、6号溝の南に分布しないため6号溝に連続していた可能性がある。

**対比** V区の6号溝に連続する。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなり、下底には径0.05~0.10mの黄褐色砂ブロックを含む。

**遺物** なし。

**所見** 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。8世紀前半に帰属する4号住居よりも旧いので飛鳥・奈良時代に帰属する可能性がある。

8号溝(第615図、PL.328)

グリッド 13-3区K・L 16

**形状と規模** 全長は1.22mで南北方向に走行し、検出された幅は0.60m、深さは0.22mである。南北の底面比高差は0.01mで、ほぼ水平である。溝の断面形状はU字形を呈する。

**走行方位** N17°W

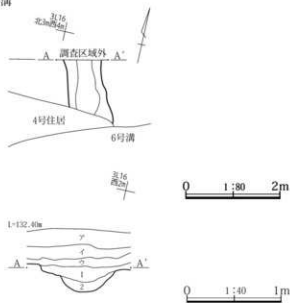
**重複** 6号溝に切られるが、6号溝の南に分布しないため6号溝に連続していた可能性がある。隣接する7号溝と平行する。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含むにぶい黄褐色砂質土からなり、下底には径0.05m大の黄褐色砂ブロックを含む。

**遺物** なし。

**所見** 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。6号溝と同様に平安時代後半に帰属する可能性がある。

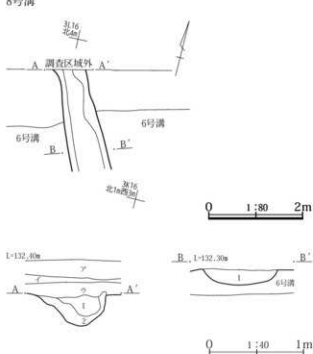
## 7号溝



## 7・8号溝 A-A'

- ア 褐色砂質土(10YR5/1) 現代耕作土(隣接畑地耕作土)。  
 イ 褐色砂質土(10YR5/1) 近・現代耕作土。一部上面酸化変色凝結。  
 ウ 暗赤褐色土(10YR3/2) 中・近世耕作土。少量の白色軽石小粒を含む。  
 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の極名二ツ岳白色軽石小粒とにふい黄褐色にふい黄褐色砂質土シルト粒子を含む。  
 2 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の極名二ツ岳白色軽石小粒と多量のにふい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ 5~20mm大)を含む。

## 8号溝



## 8号溝 B-B'

- 1 にふい黄褐色砂質土(10YR4/3) 少量の極名二ツ岳白色軽石小粒と褐色砂質土シルト小ブロック(φ 10~20mm大)を含む。

第615図 M区2面7・8号溝

## 9号溝(第616~618図、PL.328・329・441)

グリッド 13-3区L~P 10~12

**形状と規模** 全長は24.28mで東西か南北方向に直交しながら屈曲して走行する。検出された幅は3.05~3.65m、深さは0.84~1.22mである。溝の北西~南東の底面比高差は0.14mで北西から南東に走行するが、溝の規模からしてほぼ水平である。溝の断面形状は葉研削の形状を呈する。

**重複** 9号住居、2・13号溝を切る。

**埋土** 二ツ岳の白色軽石を含むにふい灰黄褐色土~砂質土からなる。中位に0.02~0.15mの円礫を多く含むが基質に礫を水流で運ぶ砂の堆積相は認められない。これらの礫は畑層を起源として埋土とともに地表面から移動したものと考えられる。

**遺物** 埋土から中近世の陶磁器類(1~8)、土錘(9)、石製品(10~13)が出土した。

**所見** 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。9世紀中頃に帰属する9号住居よりも新しい。遺物には近世に属するものも含まれ、中世の館の堀等の遺構と考えられる。

## 10号溝(第616図、PL.329)

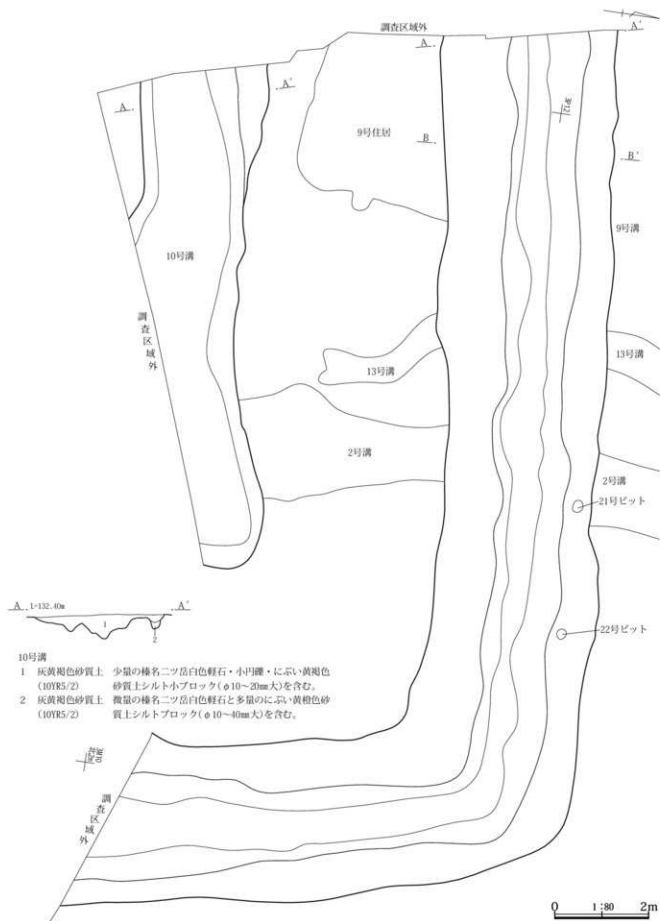
グリッド 13-3区M~O 10

**形状と規模** 全長は6.20mで東西方向に走行する。検出された幅は2.15m、深さは0.48mである。溝の東西の底面比高差は0.30mで西から東に走行する。溝の断面形状は底面の凹凸が著しい浅い皿形を呈する。

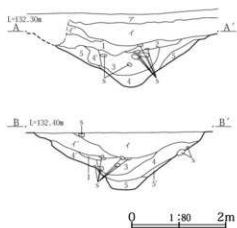
**重複** 2号溝を切る。9号溝の東西方向の溝にはほぼ平行する。

**埋土** 二ツ岳の白色軽石を含むにふい灰黄褐色砂質土からなる。

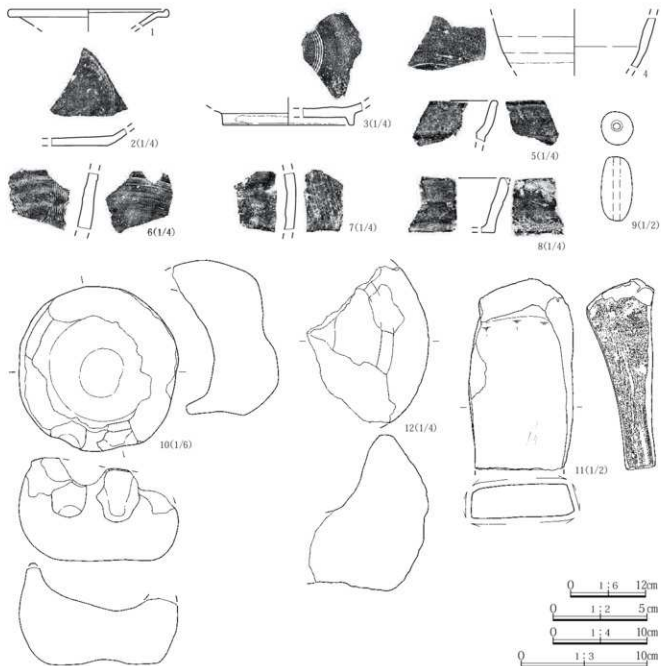
**遺物** なし。



第616図 M区2面9・10号溝



- ア 灰黄褐色砂質土(10YR6/2) 現代耕作土。底面は鉄分酸化漏園。  
 イ 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 少量の棒名ニツ岳白色軽石・小円礫・にぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ10~20mm大)を含む。  
 イ 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の棒名ニツ岳白色軽石・にぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ10~20mm大)を含む。  
 1 灰黄褐色砂質土(10YR6/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石と多量のにぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ10~40mm大)を含む。  
 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石と少量の円礫を含む。  
 3 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 多量の円礫(φ20~150mm大)を含む。  
 4 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石を含む。粘性弱。  
 4' 灰黄褐色土(10YR5/2) 4層土+少量のにぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ10~30mm大)を含む。  
 5 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ10~20mm大)を含む。粘性弱。  
 5' 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ10~20mm大)を含む。粘性弱。



第617図 VI区2面9号溝と出土遺物



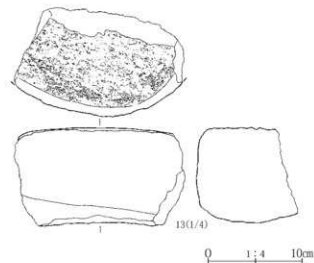
第4章 第2面の遺構と出土遺物

所見 9号溝に規模や形状が類似するため、中世の時期に帰属する館の堀等の遺構と考えられる。

11号溝(第619図、PL.329)

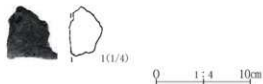
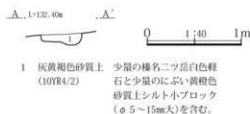
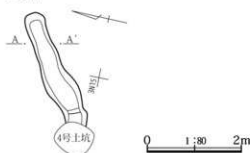
グリッド 13-3区M・N 15

形状と規模 全長は2.50mで東西方向に走行し、検出された幅は0.40~0.62m、深さは0.10~0.13mである。東西の底面比高差は0.06mで西から東に走行する。溝の断



第618図 M区2面9号溝の出土遺物

11号溝



第619図 M区2面11・12号溝

面形状はU字形を呈する。

走行方位 N55°E

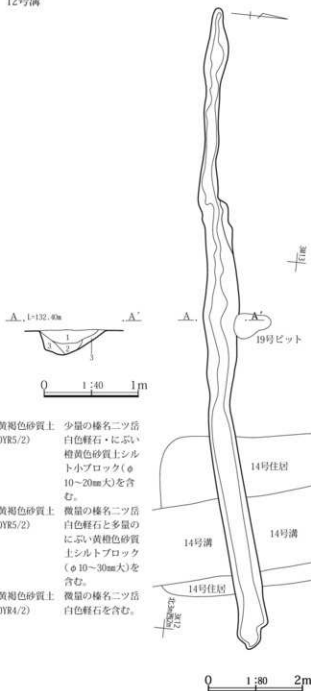
重複 4号土坑に切られ、隣接する6号溝と平行する。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含むふい黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から製鉄炉の炉壁(1)が出土した。

所見 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。小規模な溝状遺構である。

12号溝



1 灰黄褐色砂質土 少量の椽名二ツ岳白色軽石・ふい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ10~20mm大)を含む。

2 灰黄褐色砂質土 微量の椽名二ツ岳白色軽石と多量のふい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ10~30mm大)を含む。

3 灰黄褐色砂質土 微量の椽名二ツ岳白色軽石を含む。

## 12号溝(第619図、PL.329)

グリッド 13-3区K~N 12・13

**形状と規模** 全長は13.55mで東西方向に走行し、検出された幅は0.28~0.75m、深さは0.10mである。東西の底面比高差は0.28mで東から西に走行する。溝の断面形状はU字形を呈する。

走行方位 N84°E

重複 14号住居、14号溝を切る。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含むふい黄褐色砂質土からなり、底部に径0.05m大の黄褐色砂ブロックを含む。

遺物 なし。

**所見** 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。1号溝に平行する小規模な溝である。

## 13号溝(第620図、PL.329)

グリッド 13-3区N~O 11~14

**形状と規模** 全長は18.96mで南北方向に走行し、検出された幅は0.70~1.25m、深さは0.20~0.40mである。南北の底面比高差は0.41mで北から南に走行する。溝の断面形状はU字形を呈する。

走行方位 NS

**重複** 8号住居、3・9号溝を切る。1・4号溝に切られる。北端は1号溝で途切れるため、溝は1号溝に連続していた可能性がある。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなる。

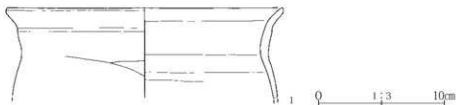


A-A'

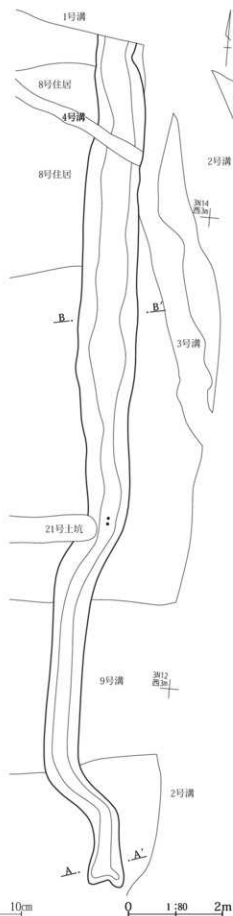
- 1 灰黄褐色砂質土(10TR4/2) 少量の椀名ニツ岳白色軽石とふい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~15mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10TR4/2) 微量の椀名ニツ岳白色軽石と多量のふい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~15mm大)を含む。

B-B'

- 1 灰黄褐色砂質土(10TR4/2) 少量の椀名ニツ岳白色軽石小粒とふい黄褐色にふい黄褐色砂質土シルト大ブロック(φ30~60mm大)を含む。



第620図 VI区2面13号溝と出土遺物



**遺物** 埋土から土師器の甕(1)が出土した。

**所見** 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められないが、南北の比高差が大きいので低地側から微高地側に用水などを目的とした水路である可能性がある。9世紀の遺物が出土した。7世紀後半に帰属する8号住居よりも新しく、埋土に浅間Bテフラを含まないため平安時代9世紀に帰属する。

14号溝(第621図)

グリッド 13-3区J~L 9~14

**形状と規模** 全長は23.13mで南北方向に走り、検出された幅は1.02~1.78m、深さは0.59~0.86mである。南北の底面比高差は0.04mで北から南に走り、溝の規模からしてほぼ水平である。溝の断面形状は皿形を

呈する。

**走行方位** N17°W

**重複** 14・15・18号住居、12号溝を切る。

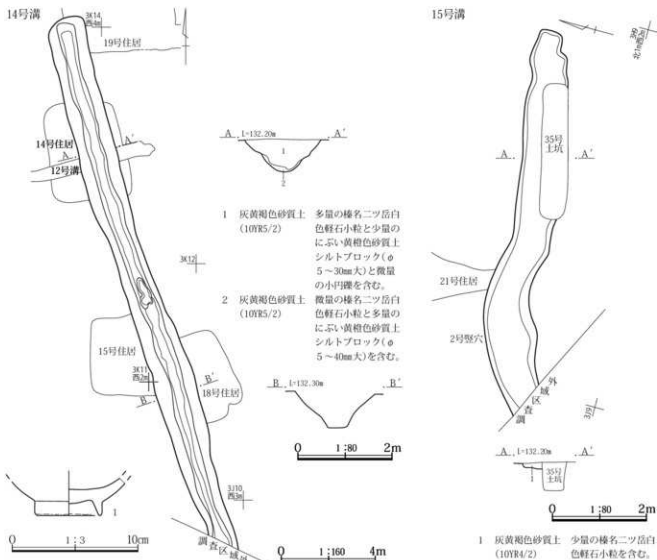
**埋土** ニツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなり、下底に径0.05m大の黄褐色砂ブロックを含む。

**遺物** 埋土から肥前陶器の呉器手碗(1)が出土した。

**所見** 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。9号溝の南東部に平行し、規模や形状も類似するため区画を示す溝の可能性が高い。9世紀後半に帰属する15号住居よりも新しく、平安時代後半~中世に帰属する可能性が高い。

15号溝(第621図)

グリッド 13-3区H~J 9



第621図 MⅨ区2面14・15号溝と14号溝の出土遺物

**形状と規模** 全長は7.91mで東西方向に走行し、検出された幅は0.80～1.10m、深さは0.06～0.11mである。東西の底面比高差は0.13mで西から東に走行する。溝の断面形状はU字形を呈する。

**走行方位** N75°E

**重複** 35号土坑に切られる。21号住居、2号竪穴を切る。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含むふい黄褐色砂質土からなり、径0.04m大の黄褐色砂ブロックを含む。

**遺物** なし。

**所見** 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。12号溝に平行し14・17号溝に直交する小規模な溝である。9世紀後半に帰属する21号住居よりも新しいことから平安時代後半の溝と考えられる。

#### 16号溝(第622図、PL.329)

**グリッド** 13-3区G・H 7～9

**形状と規模** 全長は11.97mで南北方向に走行し、検出された幅は0.38～0.73m、深さは0.10～0.27mである。南北の底面比高差は0.07mで北から南に走行するが、ほぼ水平である。溝の断面形状はU字形を呈する。

**走行方位** N22°W

**重複** 19号溝を切り、17号溝に切られる。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなり、径0.10m大の円礫を含む。

**遺物** なし。

**所見** 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。後述する17号溝に平行して切られていることから同時期の溝である可能性がある。

#### 17号溝(第622図、PL.329)

**グリッド** 13-3区F～I 6～14

**形状と規模** 全長は41.61mで南北方向に走行し、検出された幅は0.62～1.73m、深さは0.06～0.29mである。南北の底面比高差は0.33mで北から南に走行する。溝の断面形状はU字形を呈する。

**走行方位** N19°W

**重複** 23・24・25・34・35・41号住居、5号竪穴を切り、36号土坑に切られる。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなる。

**遺物** 埋土から須恵器の椀(1)、土師器の羽釜(2)が出

土した。

**所見** 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。隣接する16号溝に平行し、14号溝と規模や形状が類似する。これらは土地の区画を示す目的で掘られた同時期の溝である可能性がある。9・10世紀の遺物が出土した。10世紀末～11世紀前半に帰属する41号住居よりも新しいことから、平安時代後半～中世に帰属する溝と考えられる。

#### 19号溝(第623図)

**グリッド** 13-3区E～G 6～8

**形状と規模** 全長は15.03mで東西方向に走行し、検出された幅は0.25～0.73m、深さは0.02～0.17mである。東西の底面比高差は0.04mで東から西に走行するが、ほぼ水平である。溝の断面形状はU字形を呈する。

**走行方位** N23°EとN72°E。

**重複** 27号住居、5号竪穴を切る。16・17号溝に切られる。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含む黒褐色砂質土からなる。

**遺物** なし。

**所見** 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。10世紀に帰属する27号住居よりも新しい。溝は平安時代後半に帰属すると考えられる。

### 3. VII区

#### 9号溝(第624～626図、PL.332・441)

**グリッド** 13-2区O・P 8～12

**形状と規模** 全長は19.57mで南北方向に走行し、検出された幅は1.00～2.50m、深さは0.11～0.27mである。南北の底面比高差は0.11mで北から南に走行する。溝の断面形状は皿形を呈する。

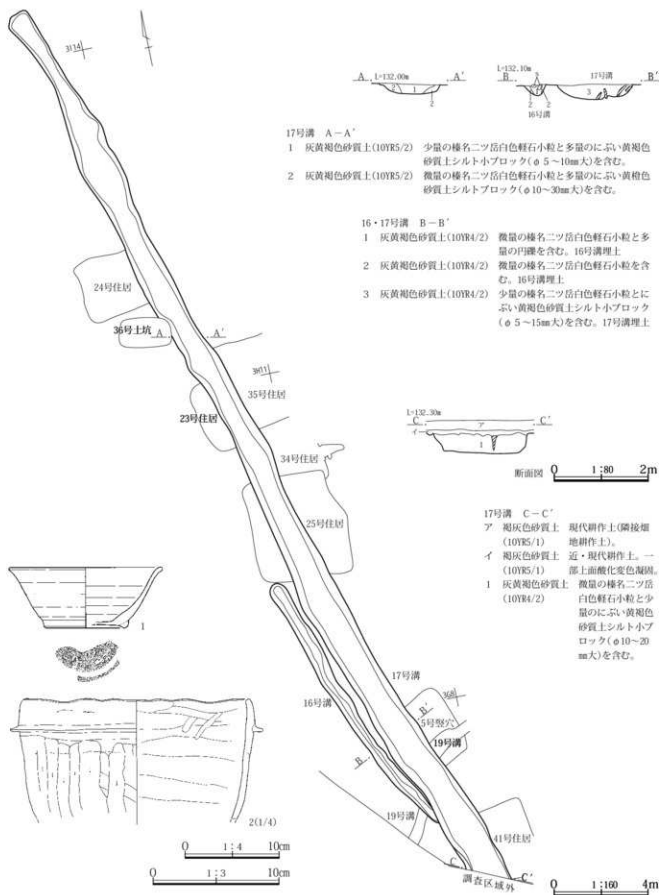
**走行方位** N4°E

**重複** 11号溝を切る。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含む黒褐～ふい黄褐色砂質土からなる。

**遺物** 埋土から須恵器の杯(1～3)、椀(4・5)、甕(7・8)、土師器の甕(6)が出土した。

**所見** 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。隣接する11号溝と同様に奈良～平安時代の集落を走行し、住居との切合いが認められない。これは古代の集落が9・11号溝の存在を意識して立地したためと想定さ



第622図 MⅨ区2面16・17号溝と17号溝の出土遺物

れる。埋土から9世紀前半～11世紀前半の年代幅を有する遺物が出土した。このことから溝の時代は平安時代の集落存続期と想定される。

11号溝(第624・625・627図、PL.333・441)

グリッド 13-2区O～T 9-18と3区A 18

**形状と規模** 全長は60.18mで北西～南東方向から南北方向に屈曲しながら走行し、検出された幅は2.13～5.00m、深さは0.22～0.72mであり、調査区内で最大規模の溝である。南北の底面比高差は0.28mで北から南に走行する。溝の断面形状は箱形を呈する。

**走行方位** N40°WとN9°E。

**重複** 9号溝に切られる。12号溝を切る。

**対比** X区10号溝に連続する。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含む褐灰～灰黄褐色砂質土からなり、下底は径0.05m大の円礫を多く含み、基質は極粗粒～粗粒砂からなる。

**遺物** 埋土から須恵器の椀(1・2)、灰釉陶器の皿(3)、椀(4)が出土した。

**所見** 埋土の底部に水流の影響を示す堆積相が認められる。隣接する9号溝と同様に奈良～平安時代の集落を走行し、住居との切合いが認められない。これは古代の集落が9・11号溝の存在を意識して立地したためと想定される。埋土からは9・10世紀の遺物が出土し、このことから溝の時代は平安時代の集落存続期と想定される。溝の底には細層を起源とする円礫が水流の影響を受けて堆積しており、溝は水路として機能した用排水路と考えられる。

10号溝(第628・629図、PL.333・441)

グリッド 13-2区M～T 15-19

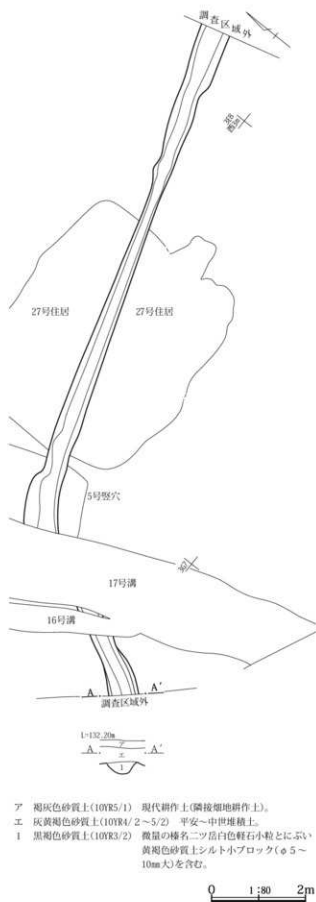
**形状と規模** 全長は37.97mで北西～南東方向に走行し、検出された幅は0.72～3.13m、深さは0.22～0.75mである。南北の底面比高差は0.51mで北から南に走行する。溝の断面形状はU字形を呈する。

**走行方位** N60°W

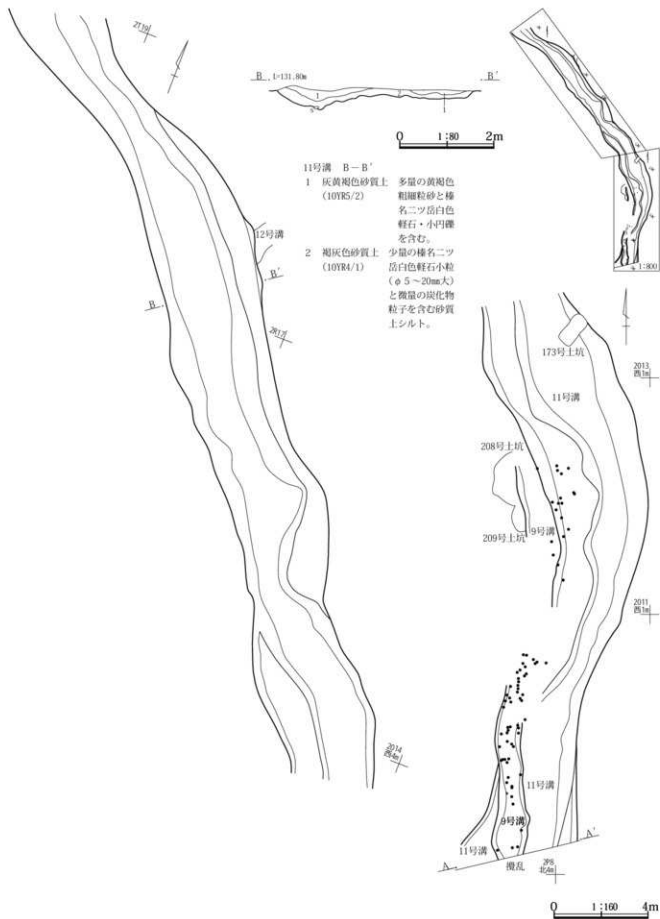
**重複** 62・66号住居、分岐した12号溝を切る。12号溝に平行して走行する。

**対比** VIII区3号溝、X区11号溝に連続する。

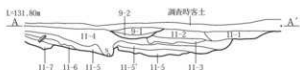
**埋土** ニツ岳の白色軽石を含む暗褐～灰黄褐色砂質土か



第623図 VI区2面19号溝

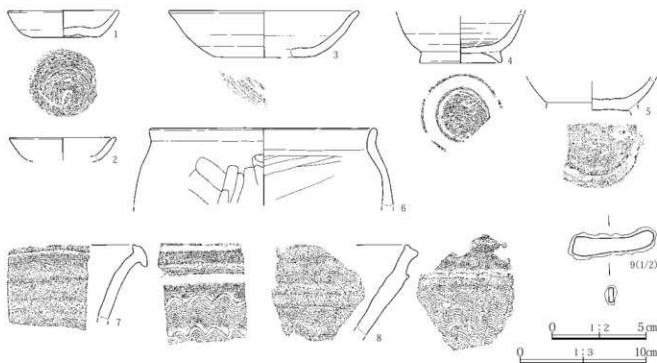


第624図 VII区2面9・11号溝(1)

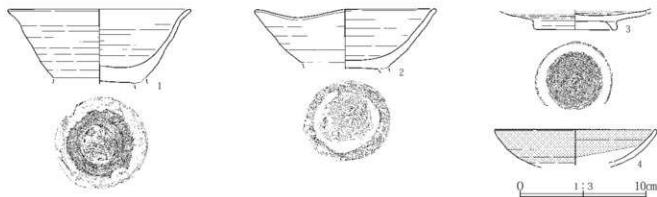


- 9-1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の椀名二ツ岳白色軽石とに、黄褐色砂質土シルト小ブロック( $\phi$ 5~10mm大)を含む。
- 9-2 に、黄褐色砂質土(10YR7/4) 多量の椀名二ツ岳白色軽石小粒を含む。水性堆積土。(混入する白色軽石の起源は、付近地に堆積するPP泥流層)
- 11-1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 多量の黄褐色粗粒砂と椀名二ツ岳白色軽石と小円礫を含む。
- 11-2 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 少量の椀名二ツ岳白色軽石と小円礫を含む。
- 11-3 灰黄褐色細粒砂(10YR5/2) 少量の、黄褐色砂質土シルト小ブロック( $\phi$ 10~20mm大)を含む。
- 11-4 褐色砂質土(10YR4/1) 少量の椀名二ツ岳白色軽石小粒( $\phi$ 5~20mm大)と微量の炭化物粒子を含む砂質土シルト上。
- 11-5 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の椀名二ツ岳白色軽石小粒( $\phi$ 3~5mm大)と炭化物粒子を含む砂質土シルト上。
- 11-5' 5層上に類似、色調やや明るい。
- 11-6 灰黄褐色砂質土(10YR6/2) 多量の、黄褐色砂質土シルト大ブロック( $\phi$ 30~50mm大)と微量の椀名二ツ岳白色軽石小粒を含む砂質土シルト。
- 11-7 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 少量の椀名二ツ岳白色軽石を含む。=樹根痕

第625図 VII区2面9・11号溝(2)



第626図 VII区2面9号溝の出土遺物



第627図 VII区2面11号溝の出土遺物



らなり、灰黄褐色砂のブロックを含む。

**遺物** 埋土から須恵器の椀(3・4)、杯(1・2)、羽釜(6)、灰釉陶器の壺(5)が出土した。

**所見** 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。埋土からは8～10世紀の年代幅を有する遺物が出土した。溝は11世紀前半に掘削する62号住居よりも新しく、埋土に浅間Bテフラを含まないことから平安時代後半の溝と考えられる。10号溝は古代の集落が立地する微高地と北東部に広がる低地の境界に位置し、微高地縁を走行する水路である。

12号溝(第628・630図、PL.333・441)

グリッド 13-2区M~R 16~19

**形状と規模** 全長は27.24mで北西~南東方向に走行し、一部は分岐して11号溝に切られる。検出された幅は0.50~3.22m、深さは0.07~0.32mである。南北の底面比高差は0.20mで北から南に走行する。溝の断面形状はU字形を呈する。

**走行方位** N60°W

**重複** 分岐した溝が10・11号溝に切られる。10号溝に平行して走行する。

**対比** VIII区3号溝、X区6号溝に連続する。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含む黒褐~灰黄褐色砂質土からなり、黄褐色砂ブロックを含む。埋土にはニツ岳の白

12号溝



- 1 黒褐色砂質土(10YR3/2) 少量の椀名ニツ岳白色軽石小粒と炭化物を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の椀名ニツ岳白色軽石小粒と炭化物を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の椀名ニツ岳白色軽石小粒と多量の黒褐色砂質土を含む。
- 4 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 多量の椀名ニツ岳白色軽石大粒(φ20~60mm)を含む。

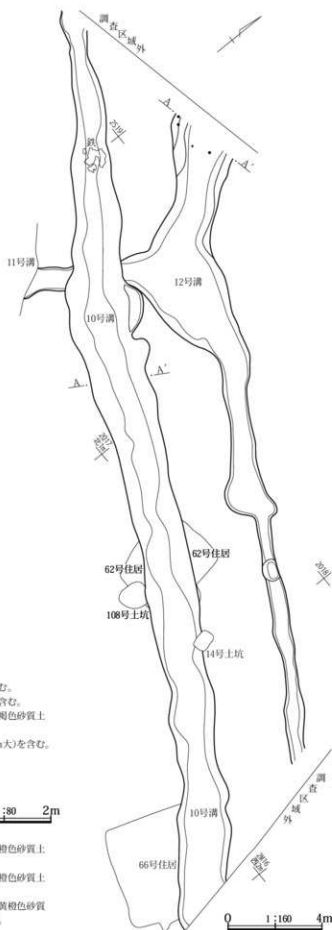
10号溝



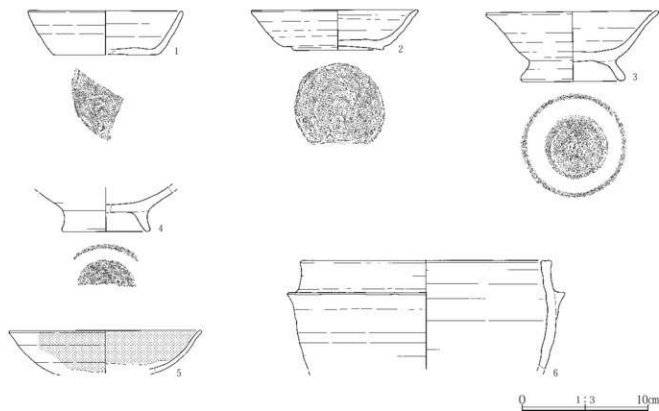
- 1 暗褐色砂質土(10YR3/3) 少量の椀名ニツ岳白色軽石と微量のふい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~20mm大)を含む。
- 1' 暗褐色砂質土(10YR3/3) 少量の椀名ニツ岳白色軽石と少量のふい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~20mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の椀名ニツ岳白色軽石と多量のふい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~20mm大)を含む。

0 1:80 2m

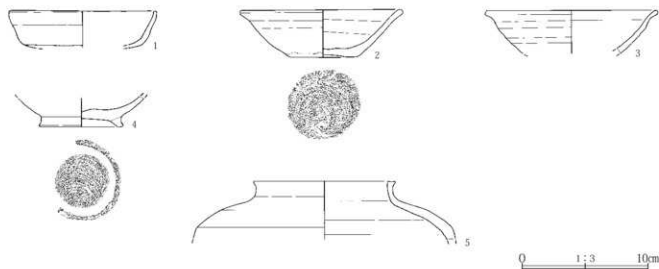
0 1:160 4m



第628図 VIII区2面10・12号溝



第629図 VII区2面10号溝の出土遺物



第630図 VII区2面12号溝の出土遺物

色軽石を多く含む火山灰質砂からなるラハール堆積物を挟在する。

**遺物** 埋土から須恵器の杯(2)、椀(3・4)、短頸壺(5)、土師器の杯(1)が出土した。

**所見** 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められないが、氾濫堆積物と考えられる軽石からなるラハールが溝

を覆っている。12号溝は古代の集落が立地する微高地と北東部に広がる低地の境界に位置し、微高地縁を走行する水路である。埋土からは9世紀後半から10世紀前半の遺物が出土した。このことから溝は平安時代に帰属するものと考えられる。

#### 4. VIII区

2号溝(第631・632図、PL.334・441)

グリッド 13-2区1~L 15~17

**形状と規模** 全長は14.75mで北西~南東方向に走行し、検出された幅は3.65~4.90m、深さは1.32mである。南北の底面比高差は0.12mで北から南に走行する。溝の断面形状はU字形を呈する。

**走行方位** N68°W

**重複** なし。3・4号溝に少し離れて、平行して走行する。  
**対比** 溝の規模から考えてVII・X区に連続していたと想定されるが未検出である。

**埋土** 下位より層厚25cmの二ツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂礫、層厚25cmの浅間Bテフラ、それらを覆う層厚65cmの浅間Bテフラまじりの暗灰~灰黄褐色砂互層からなる。

**遺物** 埋土から灰釉陶器の皿(1)、瓶(3)、須恵器の埴壇(2)が出土したことが特筆される。

**所見** 埋土には下底に水流の影響を示す堆積相が認められる。溝の埋没は浅間Bテフラ以降と考えられるので平安時代前半まで機能していた溝と考えられる。埋土からは9世紀後半の遺物が出土した。2号溝は古代の集落が立地する微高地と北東部に広がる低地の境界に位置し、微高地縁を走行する規模の大きな水路である。

3号溝(第633図、PL.335)

グリッド 13-2区J~L 14~16

**形状と規模** 全長は10.50mで北西~南東方向に走行する。検出された幅は0.40~1.05m、深さは0.02~0.25mである。南北の底面比高差は0.18mで北から南に走行する。溝の断面形状は皿形を呈する。

**走行方位** N47°W

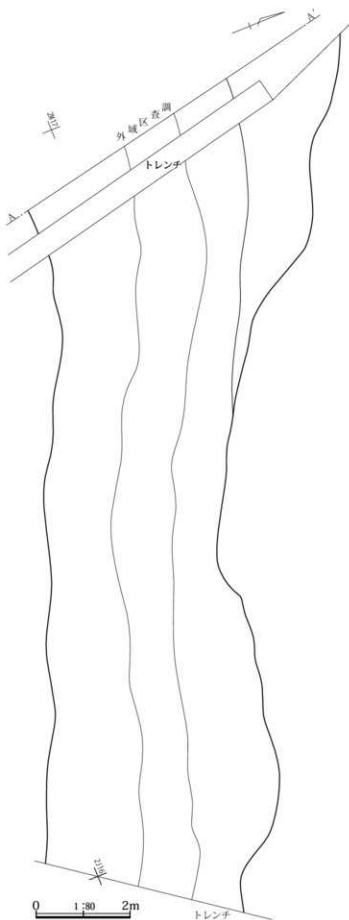
**重複** なし。4号溝に平行して走行する。

**対比** VII区12号溝、X区6号溝に連続する。

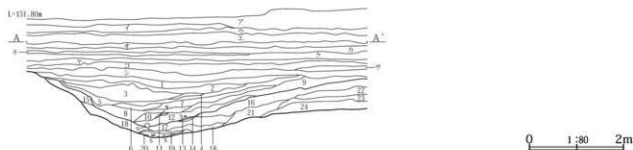
**埋土** 二ツ岳の白色軽石を含むふい黄橙~灰黄褐色砂質土からなる。

**遺物** なし。

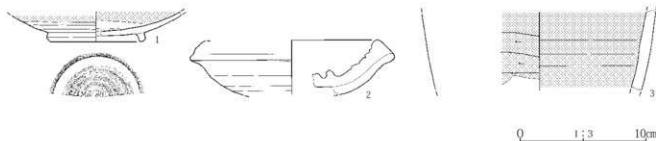
**所見** 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。3号溝は古代の集落が立地する微高地と北東部に広がる低地の境界に位置し、微高地縁を走行する水路である。



第631図 VIII区2面2号溝



- ア 褐色土(10YR5/1) 現耕土。微量の棒名二ツ岳白色軽石( $\phi$  5~40mm大)を含む。クラックを混入する。締りやや良。
- イ 褐色シルト質土(10YR5/1) 微量の棒名二ツ岳白色軽石( $\phi$  5~40mm大)を含む。上部の一部に鉄分沈着層(5~20mm程)有り。締りやや良。
- ウ にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) 鉄分沈着層。微量の棒名二ツ岳白色軽石大粒( $\phi$  2~70mm大)を含む。締りやや良。
- エ 褐色シルト質土(10YR5/1) 近世以降の耕土。微量の棒名二ツ岳白色軽石大粒( $\phi$  2~50mm大)を含む。中央の一部に鉄分沈着層(10mm程)有り。締りやや良。
- オ にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) 鉄分沈着層。3層より酸化少ない。微量の棒名二ツ岳白色軽石( $\phi$  2~30mm大)を含む。締りやや良。
- カ 褐色シルト質土(10YR5/1) 微量の棒名二ツ岳白色軽石( $\phi$  2~30mm大)を含む。締りやや良。
- キ にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/3) 弱い鉄分沈着層(浅間泥流復旧溝の下)。微量の棒名二ツ岳白色軽石( $\phi$  2~30mm大)を含む。締りやや良。
- ク 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の棒名二ツ岳白色軽石大粒( $\phi$  2~60mm大)を含む。締りやや良。
- ケ にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) 鉄分沈着層。締りやや良。
- ク 褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の浅間B軽石小粒( $\phi$  1~2mm大)・棒名二ツ岳白色軽石( $\phi$  2~40mm大)を含む。締りやや良。
- サ 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の浅間B軽石小粒( $\phi$  1~2mm大)・棒名二ツ岳白色軽石( $\phi$  2~30mm大)を含む。締りやや良。
- シ にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) 微量の浅間B軽石小粒( $\phi$  1~2mm大)・棒名二ツ岳白色軽石( $\phi$  2~40mm大)を含む。締りやや良。
- 1 灰黄褐色細砂土(10YR4/2) 微量の浅間B軽石小粒( $\phi$  1~2mm大)・棒名二ツ岳白色軽石( $\phi$  2~30mm大)を含む。締りやや良。
- 2 褐色細砂土(2.5Y5/2) 中部に粗砂、下部にシルト質土沈殿。締りやや弱。
- 3 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/3)と灰黄褐色土(10YR4/2)の互層。締りやや弱。
- 4 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の浅間B軽石小粒( $\phi$  1~2mm大)を含む。粘性やや有。締りやや弱。
- 5 灰黄色土(2.5Y6/2) 細砂土と粗砂土の互層。微量の棒名二ツ岳白色軽石小粒( $\phi$  2~3mm大)を含む。締りやや弱。
- 6 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 一部細砂質土を含む。粘性やや有。締りやや弱。
- 7 灰黄色土(2.5Y6/2) 細砂と粗砂の互層堆積。一部にやや粘りのあるシルト質土を混入する。微量の棒名二ツ岳白色軽石小粒( $\phi$  2~5mm大)を含む。締りやや弱。
- 9 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の浅間B軽石二次堆積・軽石小粒( $\phi$  1~2mm大)、灰オリブ土と微量の青灰色土を含む。締りやや弱。
- 10 緑黒色細砂土(7.5GY2/1) 細砂~粗砂。締りやや弱。
- 11 青灰色土(5BG/2) 浅間B軽石の灰一次堆積または粕川テフラと考えられる。締りやや弱。
- 12 灰オリブ色土(5Y6/2) 少量の浅間B軽石小粒( $\phi$  1~2mm大)、一部に青灰色アッシュ・灰褐色灰(浅間B軽石アッシュ)を含む。二次堆積か?締りやや弱。
- 13 緑灰色土(7.5GY5/1) 浅間B軽石灰と考えられる。一次堆積か?締りやや弱。
- 14 褐色細砂質土(10YR4/1) 一部に黒褐色シルト質土を含む。締りやや弱。
- 15 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量のにぶい黄褐色地山土ブロック・棒名二ツ岳白色軽石小粒( $\phi$  2~5mm大)を含む。締りやや弱。
- 16 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の棒名二ツ岳白色軽石小粒( $\phi$  2~15mm大)を含む。粘性やや有。締りやや弱。
- 17 灰色細砂質土(7.5Y5/1) 一部に灰黄褐色シルト質土を混入する。締りやや弱。
- 18 灰黄色土(5Y4/1) 細砂・粗砂中心。少量の円礫( $\phi$  5~100mm大)を含む。締りやや弱。
- 19 黒褐色土(10YR3/1) 微量の粘性土を含む。締りやや弱。
- 20 灰黄色土(5Y4/1) 細砂~粗砂。少量の円礫( $\phi$  2~700mm大)を含む。締りやや弱。
- 21 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の棒名二ツ岳白色軽石小粒( $\phi$  2~10mm大)を含む。浅間C軽石の可能性のある火山灰を混入する。締りやや弱。
- 22 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の棒名二ツ岳白色軽石小粒( $\phi$  2~5mm大)・炭化粒子( $\phi$  7mm大)を含む。締りやや弱。
- 23 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 酸化している箇所有り。締りやや弱。
- 24 黄灰色砂質土(2.5Y5/1) 一部に粗砂混入。微量の棒名二ツ岳白色軽石( $\phi$  2~30mm大)を含む。締りやや弱。



第632図 Ⅷ区2面2号溝と出土遺物

4号溝(第633図、PL.335)

グリッド 13-2区K・L 14・15

**形状と規模** 全長は7.85mで北西～南東方向に走行する。検出された幅は1.15～2.15m、深さは0.12～0.26mである。南北の底面比高差は0.10mで北から南に走行する。溝の断面形状は皿形を呈する。

**走行方位** N42°W

**重複** なし。3号溝に平行して走行する。

**対比** VII区10号溝、X区11号溝に連続する。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含むにぶい灰黄褐色土～黒褐色シルト質土からなる。

**遺物** なし。

**所見** 埋土には水流の影響を示す堆積相は認められない。4号溝は、3号溝と同様に古代の集落が立地する微

高地と北東部に広がる低地の境界に位置し、微高地縁を走行する水路である。

5号溝(第634図、PL.335)

グリッド 12-91区M・N 12・13

**形状と規模** 全長は6.60mで北西～南東方向に走行し、検出された幅は0.45～0.75m、深さは0.07～0.10mである。南北の底面比高差は0.03mで北から南に走行するが、ほぼ水平である。溝の断面形状は浅い皿形を呈する。

**走行方位** N49°W

**重複** 6号溝に切られる。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなる。

**遺物** なし。

**所見** 隣接するIX区に連続しない規模の小さな溝である。

6号溝(第634図、PL.336)

グリッド 12-91区M 12・13

**形状と規模** 全長は1.35mで南北方向に走行し、検出された幅は0.58m、深さは0.08mである。南北の底面比高差は水平である。溝の断面形状は浅い皿形を呈する。

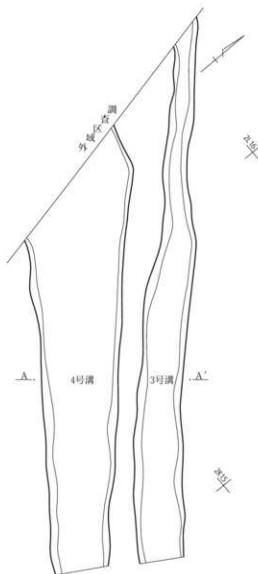
**走行方位** N1°W

**重複** 5号溝を切る。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含むにぶい黄褐色砂質土からなる。

**遺物** なし。

**所見** 隣接するIX区に連続しない規模の小さな溝である。



3号溝

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 極名ニツ岳白色軽石(φ1～10mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色シルト質土(10YR6/4) 極名ニツ岳白色軽石(φ1～30mm大)・炭化粒子(φ2～5mm大)を含む。マンガン斑下層に混入する。

4号溝

- 1 黒褐色シルト質土(10YR3/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石(φ2～30mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石(φ1～3mm大)を含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒(φ1～10mm大)を含む。締りやや弱。

0 1:80 2m

第633図 VII区2面3・4号溝

## 7号溝(第634図、PL.336)

グリッド 12-91区L・M 12

形状と規模 全長は1.30mで北東～南西方向に走行し、検出された幅は0.65m、深さは0.10mである。南北の底面比高差は水平である。溝の断面形状は浅い皿形を呈する。

走行方位 N72°E

重複 なし。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含むにぶい黄褐色砂～シルト質土が成層する。

遺物 なし。

所見 隣接するⅩ区に連続しない規模の小さな溝である。

## 8号溝(第635図、PL.336・337)

グリッド 12-91区N 13

形状と規模 全長は5.00mで北東～南西方向に走行し、

検出された幅は2.23～4.35m、深さは0.58～0.62mである。南北の底面比高差は0.19mで南から北に走行する。溝の断面形状は皿形を呈する。

走行方位 N34°E

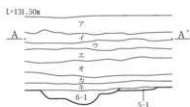
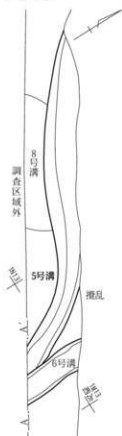
重複 なし。

埋土 下位より層厚50cmのニツ岳の白色軽石礫を含む黒褐～灰黄褐色砂質土、層厚6cmの浅間Bテフラ、それらを覆う層厚20cmの浅間Bテフラまじりのにぶい灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 なし。

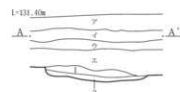
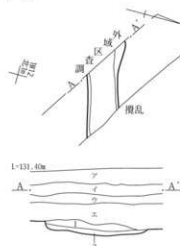
所見 埋土には水流の影響を示す堆積相が認められない。溝の埋没は浅間Bテフラ以前と考えられるので、12世紀以前の奈良～平安時代に機能していた溝と考えられる。溝は規模が大きく、微高地から低地に向けて走行する排水などを目的とした水路の可能性はある。

## 5・6号溝

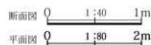


- ア 褐色砂質土 現耕上、ビニール混入。(10YR4/1)
- イ にぶい黄褐色砂質土 やや床土化した層。
- ウ 灰黄褐色土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 10YR5/2) 1～3mm大・炭化粒子(φ 1～2mm大)を含む。
- エ にぶい黄褐色砂質土 床土化した層。微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～8mm大)を含む。
- オ 灰黄褐色砂質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～10mm大)を含む。
- カ にぶい黄褐色砂質土 床土化した層。微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～2mm大)を含む。
- キ 灰黄褐色土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 10YR5/2) 1～3mm大)を含む。
- 5-1 灰黄褐色砂質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～5mm大)を含む。
- 6-1 にぶい黄褐色砂質土 床土化した層。微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～20mm大)を含む。

## 7号溝

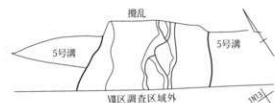


- ア にぶい黄褐色砂質土 やや床土化した層。(10YR5/3)
- イ 灰黄褐色土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～3mm 10YR5/2) 大・炭化粒子(φ 1～2mm大)を含む。
- ウ にぶい黄褐色砂質土 床土化した層。微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～8mm大)を含む。
- エ 灰黄褐色砂質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～10mm大)を含む。
- 1 灰黄褐色砂質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石(φ 1～30mm 10YR4/2)大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～2mm大)・円礫(φ 20～50mm大)を含む。粘性やや有。



第634図 Ⅷ区2面5～7号溝

第4章 第2面の遺構と出土遺物



- ア 褐灰色砂質土(10YR6/1) 盛土。多量の角礫(φ1~20mm)を含む。
- イ 灰黄褐色砂質土(10YR6/2) 耕土。様名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)を含む。
- ウ 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 耕土。様名ニツ岳白色軽石大粒(φ1~50mm大)を含む。
- エ にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4) 床土。様名ニツ岳白色軽石(φ1~40mm大)を含む。
- 1 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) 様名ニツ岳白色軽石(φ1~30mm大)と少量の浅間B軽石を含む。
- 2 灰白色土(10Y7/1) 浅間B軽石中心層。
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の様名ニツ岳白色軽石(φ1~40mm大)を含む。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR5/4) 様名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~4mm大)を含む。
- 5 黒褐色砂質土(10YR3/2) 微量の様名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)を含む。



第635図 VII区2面8号溝

5. X区

6号溝(第636・637図、PL.339・442)

グリッド 13-2区R・S 20と12区S・T 1・2と13区A~F 2~5

形状と規模 全長は39.34mで北西~南東方向に走行し、検出された幅は0.95~4.08m、深さは0.19~1.17mである。南北の底面比高差は0.11mで北から南に走行する。溝の断面形状はU字形を呈する。

走行方位 N56°W

重複 8号溝を切る。

対比 VII区12号溝に連続する。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色土が成層する。

遺物 埋土から土師器の杯(1~5)、鉢(6)、須恵器の椀(11・12)、杯(7~9)、緑釉陶器の皿(13)、椀(14)が出土した。

所見 10・11号溝に平行して走行する溝で、微高地と低地の境界に沿って微高地縁を走行する。微高地から低地に向けて走行する排水などを目的とした水路の可能性はある。埋土から9・10世紀の遺物が出土した。このことから溝は平安時代に帰属する溝と考えられる。

7号溝(第638図、PL.339)

グリッド 13-3区A 20と13区A・B 1・2

形状と規模 全長は8.44mで南北方向に走行し、検出された幅は0.38~0.81m、深さは0.03~0.11mである。南北の底面比高差は0.02mで南から北に走行するが、ほぼ水平である。溝の断面形状はU字形を呈する。

走行方位 N2°W

重複 6号住居、11号溝に切られる。

埋土 砂礫層からなる。

遺物 なし。

所見 南北方向の小規模な溝で、10世紀後半に帰属する6号住居よりも新しい。溝は奈良・平安時代の遺構と考えられる。

8号溝(第638図、PL.339)

グリッド 13-12区T 1

形状と規模 全長は3.95mで北東~南西方向に走行し、検出された幅は0.33~0.90m、深さは0.10mである。南北の底面比高差は0.02mで北から南に走行するが、ほぼ水平である。溝の断面形状は浅い皿形を呈する。

走行方位 N40°E

重複 6号溝に切られる。

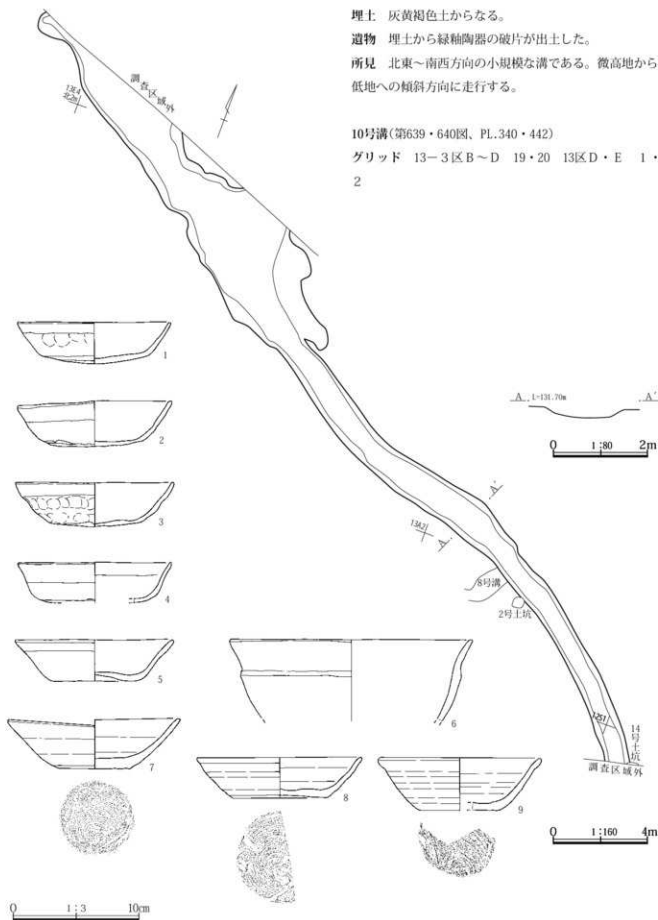
埋土 灰黄褐色土からなる。

遺物 埋土から緑釉陶器の破片が出土した。

所見 北東～南西方向の小規模な溝である。微高地から低地への傾斜方向に走行する。

10号溝(第639・640図、PL.340・442)

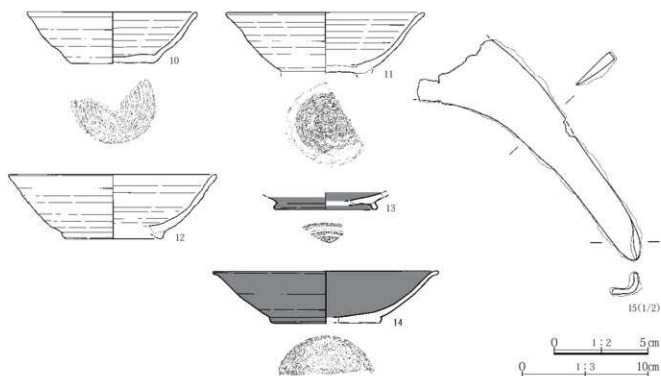
グリッド 13-3区B～D 19・20 13区D・E 1・2



第636図 X区2面6号溝と出土遺物

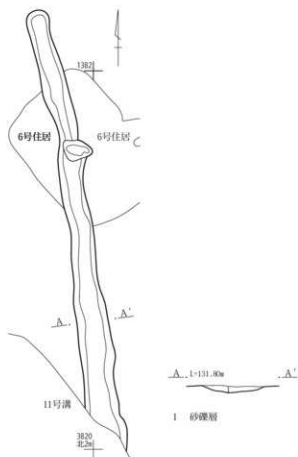


第4章 第2面の遺構と出土遺物

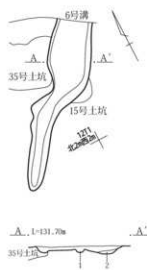


第637図 X区2面6号溝の出土遺物

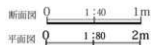
7号溝



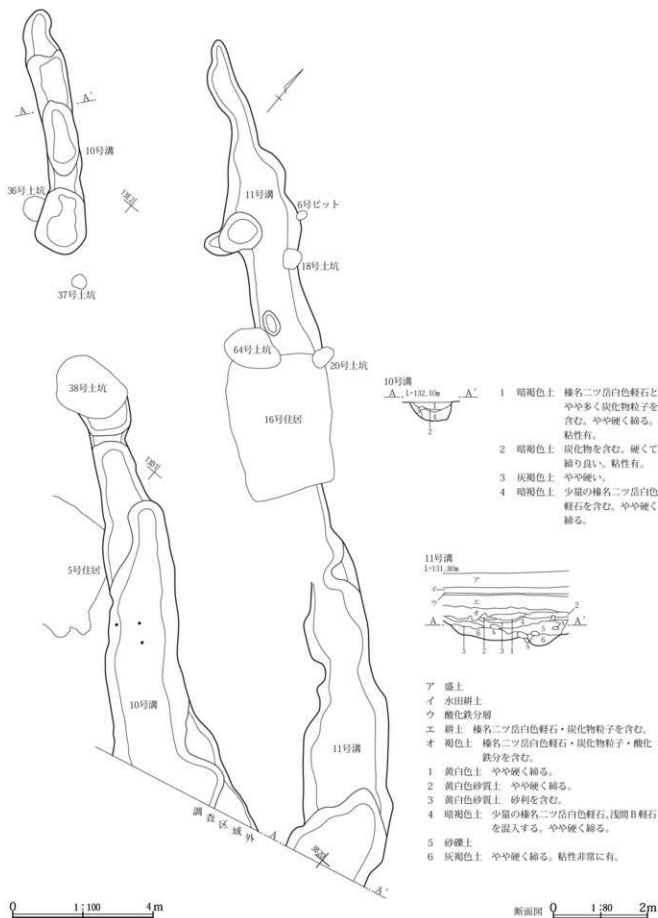
8号溝



- 1 暗褐色土 礫名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 浅間B軽石を含む。硬く締る。



第638図 X区2面7・8号溝



第639図 X区2面10・11号溝

**形状と規模** 全長は20.33mで、途中は3mほど分布が途切れる。溝は北西～南東方向に走行し、検出された幅は0.47～1.35m、深さは0.03～0.54mである。南北の底面比高差は0.26mで北から南に走行する。溝の断面形状はU字形を呈する。

**走行方位** N49°W

**重複** 5号住居、36・38号土坑に切られる。

**対比** VII区11号溝、VIII区4号溝に連続する。

**埋土** ニツ岳の白色軽石を含む暗褐色～灰褐色土からなる。

**遺物** 埋土から須恵器の椀(1・2)が出土した。

**所見** 11号溝に平行して走行する溝で、微高地と低地の境界に沿って微高地内を走行する。微高地から低地に向けて走行する排水などを目的とした水路の可能性はある。埋土からは9世紀後半の遺物が出土し、平安時代後半に帰属する5号住居よりも古いことから、溝は奈良・平安時代に帰属すると考えられる。

11号溝(第639・640図、PL.340・442)

グリッド 13-3区A・B 19・20 13区B～E 1・2

**形状と規模** 全長は20.61mで、北西～南東方向に走行し、検出された幅は0.43～2.23m、深さは0.02～0.30mである。南北の底面比高差は0.08mで北から南に走行する。溝の断面形状はU字形を呈する。

**走行方位** N48°W

**重複** 16号住居、18・20・64号土坑に切られる。

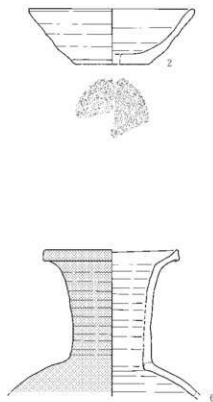
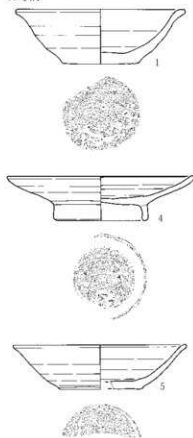
**対比** VII区10号溝、VIII区3号溝に連続する。

**埋土** ニツ岳の白色軽石や浅間Bテフラを含む暗褐色土からなる。

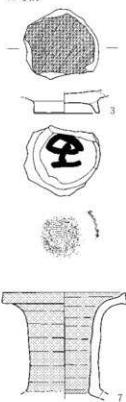
**遺物** 埋土から黒色土器の椀(3)、須恵器の皿(4)、杯(5)、灰釉陶器の壺(6・7)が出土した。

**所見** 10号溝に平行して走行する溝で、微高地と低地の境界に沿って微高地内を走行する。埋土から9・10世紀の遺物が出土し、埋土に浅間Bテフラを含むことから中世以降の時期に帰属する遺構と考えられる。微高地から低地に向けて走行する排水などを目的とした水路の可能性はある。

10号溝



11号溝



第640図 X区2面10・11号溝の出土遺物

## 第6節 土坑

### 1. 調査の概要

本節で述べるのは第2面から検出した古墳時代～中世の時代に帰属する土坑である。土坑の年代は出土遺物があるものは遺物から推定し、重複関係のある遺構は新旧関係から推定した。それ以外の土坑は埋土に含まれるテフラから推定し、榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)や同伊香保テフラ(Hr-FP)などの二ツ岳の白色軽石を含むものは古墳時代以降、浅間Bテフラを含むものは12世紀初頭以降とした。

土坑の形状は、円形、楕円形、長方形、正方形、不定形など様々に短冊形の長方形の土坑や円形で柱穴の形状を呈するものなどが認められた。また、土坑の中で墓と考えられる土坑は、除外して墓坑として報告した。

土坑は調査区全体で592基が検出され、V区からは100基、VI区からは41基、VII区からは182基、VIII区からは67基、IX区からは52基、X区からは66基、XI区からは2基、XII区からは82基の土坑が検出された。

### 2. V区

#### 1号土坑(第641図、PL.342)

グリッド 13-13区T9

長軸方位 N53°W

新旧関係 13号住居が旧。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.92m、短辺は0.85m、深さは0.20mである。

**埋土** 浅間Bテフラを多く含む黒褐色砂質土からなる。下底に礫を含む。

**時代** 12世紀初頭以降である。

#### 2号土坑(第641図、PL.342)

グリッド 13-13区Q6

長軸方位 N53°E

新旧関係 1号住居が新。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は0.91m、短径は0.88m、深さは0.48mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 10世紀第2四半期より旧。

#### 3号土坑(第641図、PL.342・442)

グリッド 13-13区Q6

長軸方位 N15°W

新旧関係 3号復旧痕が新。

**形状と規模** 長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は3.18m、短辺は2.02m、深さは0.58mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**遺物** 埋土から鉄釘(1)が出土した。

**時代** 江戸時代天明期より旧。

#### 4号土坑(第641図、PL.342)

グリッド 13-13区P7

長軸方位 N5°E

新旧関係 6・7号住居が旧。

**形状と規模** 長方形を呈し、断面形状は袋状を呈する。長辺は2.12m、短辺は1.20m、深さは0.23mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 10世紀前半より新。

#### 6号土坑(第641図、PL.342)

グリッド 13-13区Q6

長軸方位 N73°W

新旧関係 3号復旧痕が新。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は0.63m、短径は0.59m、深さは0.29mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 江戸時代天明期より旧。

#### 7号土坑(第641図、PL.342)

グリッド 13-13区P5

長軸方位 N23°W

新旧関係 23号住居が旧。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.12m、短辺は1.10m、深さは0.19mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土と黒褐色土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

第4章 第2面の遺構と出土遺物

1号土坑



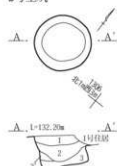
1号土坑

- 1 黒褐色砂質土 少量の浅間B軽石を含む砂質土に多量のふい・黄褐色土小ブロック(φ5~20mm)を含む。

2号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 少量の椋名二ツ岳白色軽石小粒・ふい・黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~20mm)を含む。  
 2 灰黄褐色砂質土 少量の椋名二ツ岳白色軽石小粒・ふい・黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~20mm)を含む。  
 3 灰黄褐色土 微量の椋名二ツ岳白色軽石と多量のふい・黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~20mm)を含む。  
 3' 灰黄褐色土 微量の椋名二ツ岳白色軽石と多量のふい・黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~20mm)を含む。

2号土坑

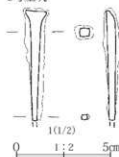


3号土坑

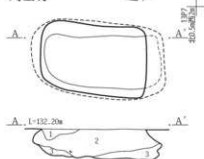


- 1 灰黄褐色砂質土 少量の椋名二ツ岳白色軽石小粒・ふい・黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~20mm)を含む。  
 2 灰黄褐色砂質土 少量の椋名二ツ岳白色軽石と多量のふい・黄褐色砂質土シルト粒子・小ブロック(φ10~20mm)を含む。

3号土坑

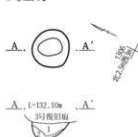


4号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土 少量の椋名二ツ岳白色軽石小粒・ふい・黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~15mm)を含む。  
 2 灰黄褐色砂質土 少量の椋名二ツ岳白色軽石小粒・ふい・黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~15mm)を含む。  
 3 灰黄褐色砂質土 微量の椋名二ツ岳白色軽石と少量のふい・黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~15mm)を含む。

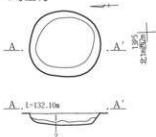
6号土坑



6号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の椋名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)・炭化粒子(φ1~2mm)を含む。  
 2 ふい・黄褐色砂質土 微量の椋名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~2mm大)と灰黄色砂質土ブロックを含む。

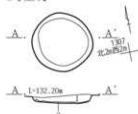
7号土坑



7号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の椋名二ツ岳白色軽石(φ1~30mm大)・炭化粒子(φ1~5mm大)を含む。  
 2 黒褐色土 微量の椋名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)と灰黄色シルト質上ブロックを含む。

8号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土 微量の椋名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~3mm大)を含む。  
 2 ふい・黄褐色砂質土(10YR6/3)

10号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土 微量の椋名二ツ岳白色軽石(φ1~30mm大)・炭化粒子(φ1~20mm大)を含む。  
 2 ふい・黄褐色砂質土 微量の椋名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~2mm大)を含む。



第641図 V区1~4・6~8・10号土坑と3号土坑の出土遺物

## 8号土坑(第641図、PL.342)

グリッド 13-13区O 7

長軸方位 N63°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は0.96m、短径は0.91m、深さは0.13mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 10号土坑(第641図、PL.342)

グリッド 13-13区O 5

長軸方位 N88°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状はU字形を呈

する。長辺は0.94m、短辺は0.60m、深さは0.65mで、

柱穴の形状を有する。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 5号土坑(第642図、PL.342・442)

グリッド 13-13区R 1

長軸方位 N9°E

新旧関係 25・26・28号土坑が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長辺は2.64m、短辺は2.23m、深さは0.77mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の杯(1・2)が出土した。

時代 平安時代10世紀前半。

## 25号土坑(第642図、PL.343)

グリッド 13-13区R 1

長軸方位 N27°W

新旧関係 5・26号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形?を呈する。

長径は1.98m+、短径は1.12m+、深さは0.39mである。

埋土 暗灰~灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀前半以前で、古墳時代以降である。

## 26号土坑(第642図、PL.343)

グリッド 13-13区R 1

長軸方位 N10°W

新旧関係 5号土坑が新。25号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形?を呈する。

長径は1.39m+、短径は0.68m+、深さは0.51mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀前半以前で、古墳時代以降である。

## 28号土坑(第642図、PL.342)

グリッド 13-13区R 1

長軸方位 N17°W

新旧関係 5号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は半月形?を呈す

る。長径は1.46m+、短径は0.92m+、深さは0.44mで

ある。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀前半以前で、古墳時代以降である。

## 11号土坑(第642図、PL.342)

グリッド 13-13区O 5

長軸方位 N75°W

新旧関係 8号溝が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は半月形を呈

する。長辺は0.81m、短辺は0.62m、深さは0.34mであ

る。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 12号土坑(第642図、PL.342)

グリッド 13-13区M 5

長軸方位 N3°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は1.11m、短径は1.03m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 13号土坑(第642図、PL.342)

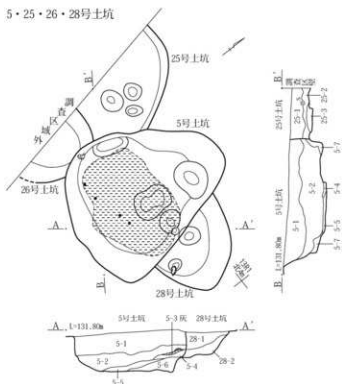
グリッド 13-13区M 6

長軸方位 N76°W

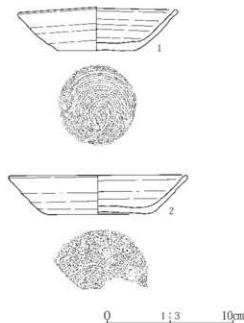
新旧関係 なし。

第4章 第2面の遺構と出土遺物

5・25・26・28号土坑

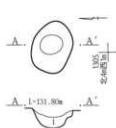


5号土坑

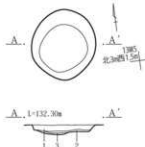


- 5-1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の棒名二ツ岳白色軽石小粒( $\phi 1\sim 10\text{mm}$ )・炭化粒子( $\phi 1\sim 15\text{mm}$ )を含む。
- 5-2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の棒名二ツ岳白色軽石小粒( $\phi 1\sim 20\text{mm}$ )・炭化粒子( $\phi 1\sim 20\text{mm}$ )を含む。
- 5-3 褐灰色土(10YR4/1) 灰中層。
- 5-4 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) ブロック状に混入する。
- 5-5 黒褐色土(10YR3/2) 多量の炭化物と灰が混入する。
- 5-6 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 棒名二ツ岳白色軽石小粒( $\phi 1\sim 5\text{mm}$ )を含む。
- 5-7 にぶい黄褐色シルト質土(10YR7/4) 微量の炭化粒子( $\phi 1\sim 3\text{mm}$ )を含む。粘性やや有。
- 25-1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の炭化物・炭化粒子( $\phi 1\sim 5\text{mm}$ )。焼上を含む。
- 25-2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の浅間C軽石粒・棒名二ツ岳白色軽石小粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )を含む。
- 25-3 黒褐色砂質土(10YR3/2) 微量の浅間C軽石粒・棒名二ツ岳白色軽石小粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )を含む。粘性やや有。
- 28-1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の炭化物・炭化粒子( $\phi 1\sim 5\text{mm}$ )。焼上を含む。
- 28-2 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の棒名二ツ岳白色軽石小粒( $\phi 1\sim 5\text{mm}$ )を含む。

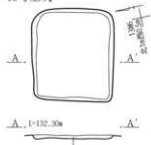
11号土坑



12号土坑



13号土坑



- 1 灰黄褐色細砂質土 微量の棒名二ツ岳白色軽石大粒( $\phi 1\sim 50\text{mm}$ )を含む。
- 1 にぶい黄褐色砂質土 微量の棒名二ツ岳白色軽石小粒( $\phi 1\sim 10\text{mm}$ )と明黄褐色シルト質土ブロックを含む。
- 2 黒褐色砂質土 やや黒味があった色調。微量の棒名二ツ岳白色軽石小粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土 微量の棒名二ツ岳白色軽石( $\phi 1\sim 15\text{mm}$ )を含む。
- 1 にぶい黄褐色砂質土 微量の棒名二ツ岳白色軽石小粒( $\phi 1\sim 5\text{mm}$ )を含む。

0 1:60 2m

第642図 V区5・11～13・25・26・28号土坑と5号土坑の出土遺物

**形状と規模** 方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.47m、短辺は1.30m、深さは0.08mである。  
**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。  
**時代** 古墳時代以降である。

## 14号土坑(第643図、PL.342)

**グリッド** 13-13区K 5

**長軸方位** N18°E

**新旧関係** なし。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.04m、短辺は0.85m、深さは0.17mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

## 15号土坑(第643図、PL.342)

**グリッド** 13-13区P 5

**長軸方位** N4°W

**新旧関係** 11号溝が新。

**形状と規模** 長方形を呈し、断面形状は浅い箱形を呈する。長辺は1.01m、短辺は0.69m、深さは0.38mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 古墳時代以降から古代。

## 16号土坑(第643図、PL.343・443)

**グリッド** 13-13区O 5

**長軸方位** N7°W

**新旧関係** 11号溝、17号土坑が旧。

**形状と規模** 長軸が南北方向の長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は2.70m、短辺は1.18m、深さは0.40mである。土坑底に長径0.35～0.50mの礫が14点敷き詰められており、礫と一緒に二ツ岳の角閃石安山岩製の石製品(10)が出土した。

**埋土** 灰黄褐色砂質土が成層する。

**遺物** 9点の鉄釘(1～9)が底から0.05～0.29m上で出土した。

**時代** 埋土に二ツ岳の白色軽石を含み古墳時代以降と考えられる。17号土坑とともに長方形の方形土坑を呈しており、古代の木棺墓とみられる墓坑である可能性が極めて高い。

## 17号土坑(第644図、PL.343)

**グリッド** 13-13区O 5

**長軸方位** N67°E

**新旧関係** 11号溝が旧、16号土坑が新。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は0.85m、短辺は0.68m、深さは0.56mである。16号土坑の一部とみてよい。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

## 18号土坑(第644図、PL.343)

**グリッド** 13-13区Q 7

**長軸方位** N75°E

**新旧関係** 3号復旧痕が新。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は0.70m、短径は0.59m、深さは0.55mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 江戸時代天明期より旧。

## 19号土坑(第644図、PL.343)

**グリッド** 13-13区R 7

**長軸方位** N67°E

**新旧関係** 4号住居が新。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は深いU字形を呈する。長径は0.82m、短径は0.70m、深さは0.80mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 10世紀第1四半期より旧。

## 20号土坑(第644図)

**グリッド** 13-13区R 7

**長軸方位** N76°W

**新旧関係** 16号住居が旧。

**形状と規模** 不定形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は1.05m+、短径は0.94m、深さは0.26mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

## 21号土坑(第644図、PL.343)

**グリッド** 13-13区Q 7

**長軸方位** N44°W

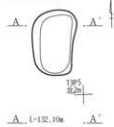


第4章 第2面の遺構と出土遺物

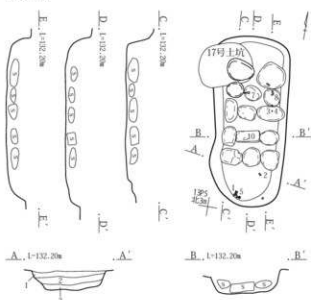
14号土坑



15号土坑



16号土坑



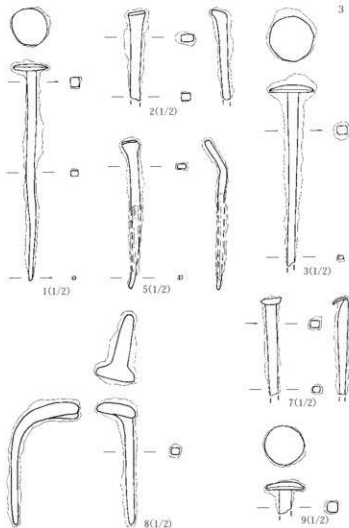
14号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~2mm大)を含む。

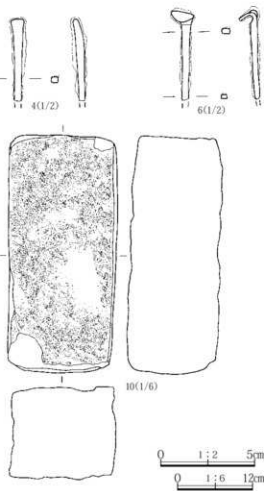
15号土坑

- 1 にぶい・黄褐色砂質土(10YR4/3) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~2mm大)・焼土粒子(φ1~5mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。

16号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~7mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。
- 3 にぶい・黄褐色砂質土(10YR5/3) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)・炭化粒子を含む。



第643図 V区14~16号土坑と16号土坑の出土遺物

17号土坑



A. L-132.10m A'



18号土坑



A. L-132.20m A'



19号土坑



A. L-132.00m A'



20号土坑



A. L-132.30m A'



17号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)・炭化粒子(φ1~5mm大)を含む。
- 2 にふい黄褐色砂質土(10YR5/3)

18号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石(φ1~30mm大)・炭化粒子(φ1~3mm大)を含む。
- 2 にふい黄褐色砂質土 微量のにふい黄褐色シルト質土を含む。(10YR5/3)

21号土坑



A. L-132.30m A'



22号土坑



A. L-132.30m A'



21号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒・炭化粒子(φ1~2mm大)、棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)と灰黄色シルト質土ブロックを含む。
- 3 にふい黄褐色砂質土 少量の灰黄色シルト質土を含む。(10YR4/3)

22号土坑

- 1 にふい黄褐色土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~15mm大)を含む。(10YR5/3)
- 2 にふい黄褐色土 少量の灰黄色シルト質土ブロックと微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色土 微量の浅間C軽石粒(φ1~2mm大)・棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~3mm大)を含む。

24号土坑



A. L-132.00m A'



0 1:60 2m

19号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 少量のにふい黄褐色砂質土と微量の棒名ニツ岳白色軽石(φ1~30mm大)・炭化粒子(φ1~3mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 微量のにふい黄褐色土ブロックと棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)を含む。
- 3 にふい黄褐色砂質土 微量の黄褐色土・棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)を含む。
- 4 暗灰黄色砂質土 微量の黄褐色土・棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)を含む。
- 5 灰黄褐色砂質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)を含む。締りやや弱。

20号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ1~2mm大)・棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)・炭化粒子(φ1~5mm大)を含む。

23号土坑



A. L-131.90m A'



- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石(φ1~30mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石(φ1~40mm大)・炭化粒子(φ1~5mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。
- 4 黒褐色砂質土(10YR3/2) 微量の炭化粒子(φ1~10mm大)・焼土粒子(φ1mm大)を含む。
- 5 にふい黄褐色シルト質土(10YR7/3)のブロック。
- 6 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)を含む。
- 7 黒褐色砂質土(10YR3/2) 微量のにふい黄褐色シルト質土ブロックを混入する。棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)を含む。
- 8 にふい黄褐色シルト質土(10YR7/3) 地山の可能性有り。

第644図 V区17~24号土坑

**新旧関係** 3号復旧痕が新。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状はU字形を呈する。長辺は1.17m、短辺は0.81m、深さは0.83mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 江戸時代天明期より旧。

22号土坑(第644図)

**グリッド** 13-13区S7

**長軸方位** N65°E

**新旧関係** なし。

**形状と規模** 長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.12m、短辺は0.94m、深さは0.55mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

23号土坑(第644図、PL.343)

**グリッド** 13-13区Q3

**長軸方位** N38°W

**新旧関係** 58号住居が旧。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は袋状を呈する。長辺は2.37m、短辺は1.83m、深さは0.96mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土が成層する。

**時代** 4世紀より新。

24号土坑(第644図、PL.343)

**グリッド** 13-13区P4

**長軸方位** N70°W

**新旧関係** 23号住居が旧。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は0.72m、短辺は0.57m、深さは0.25mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

27号土坑(第645図、PL.343)

**グリッド** 13-3区R20

**長軸方位** N16°E

**新旧関係** なし。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は1.36m+、短径は1.30m+、深さは0.32mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

29号土坑(第645図、PL.343・443)

**グリッド** 13-3区O20

**長軸方位** N32°W

**新旧関係** 11号溝が旧。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は4.53m、短辺は3.79m、深さは1.52mである。土坑底に焼土ブロックが見られる。

**埋土** 灰黄褐色砂質土が成層して坑を埋める。

**遺物** 埋土から土師器の杯(1~4)、黒色土器の杯(5)、灰釉陶器の椀(6)が出土し、墨書土器「庄」の杯(3)が出土したことは特筆される。

**時代** 平安時代9世紀後半。

31号土坑(第645図、PL.344)

**グリッド** 13-13区S7

**長軸方位** N63°W

**新旧関係** 5号住居が新。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は2.56m+、短辺は1.22m、深さは0.26mである。

**埋土** 焼土帯を挟む灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 9世紀第4四半期より旧。

33号土坑(第646図、PL.344)

**グリッド** 13-3区L18

**長軸方位** N80°E

**新旧関係** 45号住居が旧。

**形状と規模** 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は0.96m、短径は0.68m+、深さは0.28mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 10世紀後半より新。

34号土坑(第646図、PL.344・443)

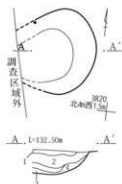
**グリッド** 13-13区I4

**長軸方位** N75°W

**新旧関係** 74・76号住居が新。

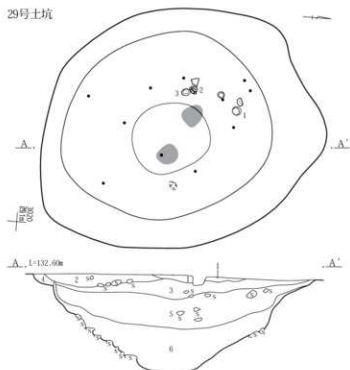
**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長

27号土坑



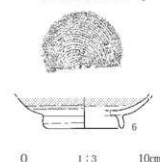
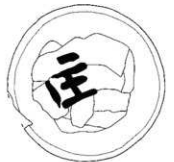
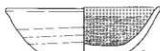
- 1 灰黄褐色粘性土 微量の浅間C軽石粒(φ1~2mm大)・棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)を含む。粘性弱。
- 2 灰黄褐色粘性土 少量の浅間C軽石粒(φ1~2mm大)と微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~2mm大)を含む。粘性弱。
- 3 黒褐色粘性土 微量の浅間C軽石粒(φ1~2mm大)・棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~4mm大)を含む。粘性弱。
- 4 ぶい黄褐色粘性土 ローム上泥じりの上。粘性やや弱。(10YR6/4)

29号土坑



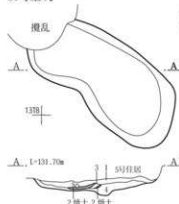
- 1 ぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) 微量の浅間C軽石粒・炭化粒子(φ1~2mm大)・棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~3mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の浅間C軽石粒(φ1~5mm大)・棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~2mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の浅間C軽石粒(φ1~2mm大)・棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)・円礫(φ30~300mm大)を含む。
- 4 ぶい黄褐色砂質土(10YR6/4) 微量の浅間C軽石粒(φ1~2mm大)を含む。
- 5 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の円礫(φ30~100mm大)を含む。
- 6 灰黄色砂質土(2.5Y6/2) ぶい黄褐色シルト質土ブロックを含む。

29号土坑



0 1:3 10cm

31号土坑



- 1 灰黄色砂質土(2.5Y6/2) 微量の浅間C軽石粒・炭化粒子(φ1~2mm大)・棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)を含む。
- 2 黒褐色土(10YR5/2) 炭化物屑。
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR3/1) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。
- 4 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の浅間C軽石粒・棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~2mm大)・炭化物を含む。

0 1:60 2m

第645図 V区27・29・31号土坑と29号土坑の出土遺物

径は1.05m、短径は1.03m、深さは0.29mで、礫を含む。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から土師器の椀(1)が出土した。

時代 平安時代10世紀前半。

35号土坑(第646図、PL.344)

グリッド 13-13区K 5

長軸方位 N27°E

新旧関係 36号住居が新。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。

長径は1.33m、短径は1.23m、深さは0.45mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 9世紀第4四半期より旧。

36号土坑(第646図、PL.344)

グリッド 13-13区J 3

長軸方位 N18°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。

長辺は1.25m、短辺は1.14m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

37号土坑(第646図、PL.344)

グリッド 13-13区I 3

長軸方位 N42°W

新旧関係 48号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長辺は0.70m、短辺は0.62m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀前半より新。

39号土坑(第646図、PL.344)

グリッド 13-13区N 6

長軸方位 N44°E

新旧関係 9・10号住居が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長辺は2.75m、短辺は2.64m、深さは0.41mである。

埋土

埋土 灰黄褐色砂質土が成層する。

時代 9世紀第2四半期より旧。

40号土坑(第646図、PL.344)

グリッド 13-13区J 1

長軸方位 N35°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は0.93m、短径は0.85m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

41号土坑(第646図、PL.344)

グリッド 13-13区J 1

長軸方位 N22°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は1.05m、短径は1.00m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

43号土坑(第646図、PL.344)

グリッド 13-13区R 2

長軸方位 N72°W

新旧関係 29号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長辺は0.96m、短辺は0.78m、深さは0.27mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の椀(2)が出土した。

時代 平安時代10世紀前半。

44号土坑(第647図、PL.344)

グリッド 13-13区I 1

長軸方位 N76°W

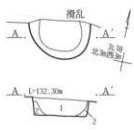
新旧関係 66号住居が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は0.85m、短径は0.80m、深さは0.33mである。

埋土 黒褐色砂質土からなる。

時代 8世紀前半より新。

33号土坑



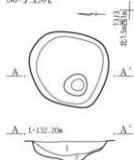
33号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒・椋名二ツ岳白色軽石(φ1~2mm大)、炭化粒子(φ1~3mm大)を含む。
- 2 暗灰黄色シルト質土 微量の炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。(2.SY5/2)

35号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ1~2mm大)・椋名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)、炭化粒子・焼土粒子(φ1~2mm大)、小円礫(φ30mm大)を含む。

36号土坑



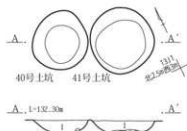
36号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ1~2mm大)・椋名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ1~2mm大)・椋名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~3mm大)・炭化粒子(φ1~10mm大)を含む。

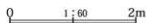
37号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒・炭化粒子(φ1~2mm大)、椋名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~3mm大)を含む。

40・41号土坑

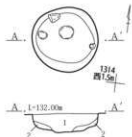


- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間B・C軽石粒(φ1mm大)・椋名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)・焼土粒子(φ1~3mm大)を含む。



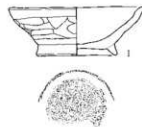
第646図 V区33~37・39~41・43号土坑と34・43号土坑の出土遺物

34号土坑

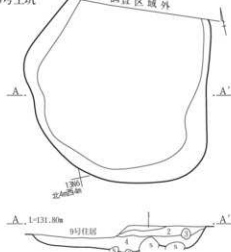


- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ1~2mm大)・椋名二ツ岳白色軽石(φ1~30mm大)・炭化粒子(φ1~4mm大)を含む。
- 2 赤い黄褐色砂質土 微量の炭化粒子を含む。(10YR5/3)

34号土坑

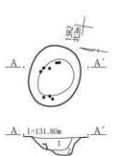


39号土坑



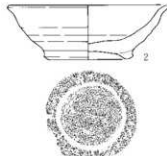
- 1 赤い黄褐色砂質土(10YR5/3) 赤い黄褐色シルト質土。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の炭化粒子・焼土粒子(φ1~2mm大)を含む。
- 3 暗灰黄色細砂質土(2.SY4/2) ブロック状に混入する。
- 4 暗灰黄色細砂質土(2.SY4/2) 微量の浅間C軽石粒・炭化粒子(φ1~2mm大)、椋名二ツ岳白色軽石(φ1~40mm大)を含む。下部は雜屑となる。

43号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土 微量の焼土粒子(φ1~3mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。粘性やや有。
- 2 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒・椋名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~2mm大)を含む。粘性やや有。

43号土坑



46号土坑(第647図、PL.344・345)

グリッド 13-13区 R 7

長軸方位 N89°W

新旧関係 47号土坑が新。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。

長辺は1.00m、短辺は0.85m、深さは0.26mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

47号土坑(第647図、PL.345)

グリッド 13-13区 R 7

長軸方位 N71°W

新旧関係 46号土坑が旧。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.96m、短辺は1.10m、深さは0.48mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

48号土坑(第647図、PL.345)

グリッド 13-13区 R 4

長軸方位 N36°W

新旧関係 11号住居が新。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は0.69m、短径は0.65m、深さは0.35mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第1四半期より旧。

49号土坑(第647図、PL.345)

グリッド 13-13区 R 3

長軸方位 N1°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は1.45m、短辺は0.82m、深さは0.29mである。

埋土 炭化物を挟む灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

54号土坑(第647図、PL.345)

グリッド 13-13区 R 3

長軸方位 N16°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は1.25m、短辺は0.46m+、深さは0.17mである。

埋土 底に炭化物を含む灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

50号土坑(第647図、PL.345)

グリッド 13-13区 R 3

長軸方位 N87°W

新旧関係 87・88号土坑が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.21m、短辺は1.01m、深さは0.46mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

87号土坑(第647図)

グリッド 13-13区 R 3

長軸方位 N9°W

新旧関係 50号土坑が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状はU字形を呈する。長辺は0.68m+、短辺は0.55m+、深さは0.33mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

51号土坑(第647図、PL.345)

グリッド 13-13区 R 3

長軸方位 N29°E

新旧関係 28・29号住居と同時。58号土坑、19号ピットが新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は2.21m、短径は1.17m、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 9世紀第4四半期～10世紀中頃。

58号土坑(第647図)

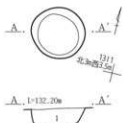
グリッド 13-13区 R 3

長軸方位 N75°W

新旧関係 28・29号住居と同時、51号土坑が旧。

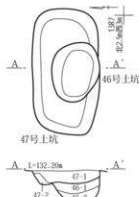
形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈

## 44号土坑



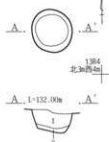
- 1 黒褐色砂質土 少量の浅間C軽石と微量の榛名ニツ岳白色軽石小粒・炭化粒子( $\phi$  1~3mm大)、焼土粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。

## 46・47号土坑



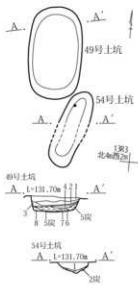
- 47-1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒( $\phi$  1~2mm大)・榛名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~10mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~5mm大)を含む。
- 47-2 にぶい黄褐色シルト質土 微量の炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)とにぶい黄褐色土ブロックを含む。
- 46-1 にぶい黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒( $\phi$  1~2mm大)・榛名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~5mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~20mm大)を含む。
- 46-2 にぶい黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒( $\phi$  1~2mm大)・榛名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~20mm大)とにぶい黄褐色土ブロックを含む。

## 48号土坑

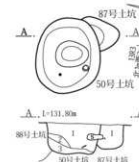


- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒( $\phi$  1~5mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~3mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土 少量のにぶい黄褐色シルト質土を含む。

## 49・54号土坑



## 50・87号土坑



- 50・87号土坑
- 1 にぶい黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒・焼土粒子( $\phi$  1~5mm大)・榛名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~15mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~3mm大)、円礫( $\phi$  200mm大)1個を含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土 微量の炭化粒子・焼土粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。
- 3 暗灰黄色細砂質土 (2.5Y5/2) 微量の炭化粒子( $\phi$  1~3mm大)を含む。灰黄色シルト質土ブロックを混入する。

## 49号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の浅間C軽石粒・焼土粒子( $\phi$  1~2mm大)、炭化粒子( $\phi$  1~5mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の浅間C軽石粒・焼土粒子( $\phi$  1~2mm大)、炭化粒子( $\phi$  1~10mm大)を含む。
- 3 黒褐色砂質土(10YR3/2) 少量の炭化物を含む。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 少量の炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/1) 炭化物中心層。
- 6 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 炭化物・炭化粒子( $\phi$  1~5mm大)を含む。
- 7 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 微量の浅間C軽石粒( $\phi$  1~2mm大)・榛名ニツ岳白色軽石小粒・炭化粒子( $\phi$  1~3mm大)を含む。
- 8 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 微量の浅間C軽石粒・焼土粒子( $\phi$  1~3mm大)を含む。

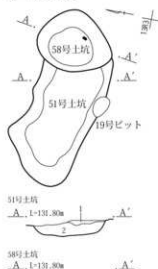
## 54号土坑

- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 微量の焼土粒子・炭化粒子( $\phi$  1~3mm大)を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) 炭化物中心層。

## 51号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒( $\phi$  1~4mm大)・榛名ニツ岳白色(10YR5/2)軽石小粒( $\phi$  1~2mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~5mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒( $\phi$  1~2mm大)・榛名ニツ岳白色(10YR5/3)軽石小粒( $\phi$  1~10mm大)を含む。

## 51・58号土坑



0 1:60 2m

第647図 V区44・46~51・54・58・87号土坑



する。長辺は1.16m、短辺は0.96m、深さは0.39mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 9世紀第4四半期～10世紀中頃。

52号土坑(第648図、PL.345)

グリッド 13-3区L20

長軸方位 N50°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.55m、短辺は1.35m、深さは0.56mである。

埋土 灰黄褐色砂質土が成層する。

時代 古墳時代以降である。

55号土坑(第648図、PL.345)

グリッド 13-13区J2

長軸方位 N42°W

新旧関係 56号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.25m、短径は1.10m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

56号土坑(第648図)

グリッド 13-13区J2

長軸方位 N28°E

新旧関係 55号土坑が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.21m、短辺は0.88m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

59号土坑(第648図、PL.345・443)

グリッド 13-13区J3

長軸方位 N46°E

新旧関係 72号住居が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.21m、短径は1.09m、深さは0.37mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から鉄釘(1)が出土した。

時代 8世紀第4四半期よりも新。

60号土坑(第648図、PL.345)

グリッド 13-13区J3

長軸方位 N63°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は1.16m、短径は1.13m、深さは0.40mである。

埋土 灰黄褐色砂質土が成層して坑を埋める。

時代 古墳時代以降である。

61号土坑(第648図、PL.345)

グリッド 13-13区K3

長軸方位 N55°W

新旧関係 62号土坑が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.93m、短辺は1.56m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

62号土坑(第648図、PL.345)

グリッド 13-13区K3

長軸方位 N27°E

新旧関係 61号土坑が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.00m、短辺は0.68m+、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

63号土坑(第648図、PL.345)

グリッド 13-13区J2

長軸方位 N63°E

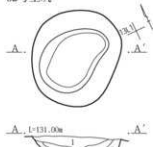
新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.68m、短径は0.64m、深さは0.10mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

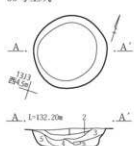
時代 古墳時代以降である。

52号土坑



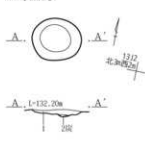
- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒( $\phi$  10YR4/2) 1~2mm大・棒名二ツ岳白色軽石( $\phi$  1~30mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~3mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土 微量の棒名二ツ岳白色軽石( $\phi$  1~10mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。
- 3 褐灰色砂質土 微量の炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。(10YR4/1)
- 4 にぶい黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒・棒名二ツ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~3mm大)を含む。(10YR5/3)
- 5 黒褐色土 微量の棒名二ツ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~10mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。(10YR3/1)
- 6 にぶい黄褐色砂質土 微量の棒名二ツ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~10mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)・小円礫( $\phi$  10~20mm大)を含む。(10YR5/3)

60号土坑



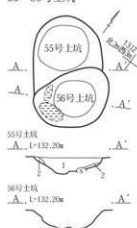
- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の棒名二ツ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~2mm大)を含む。
- 3 暗灰色砂質土(2.5Y5/2) 微量の棒名二ツ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~2mm大)を含む。
- 4 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の炭化粒子( $\phi$  1~3mm大)・円礫( $\phi$  20~150mm大)を含む。
- 5 にぶい黄褐色土(10YR5/3)

64号土坑



0 1:60 2m

55・56号土坑

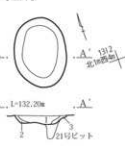


63号土坑



- 1 黒褐色土 微量の浅間C軽石粒・焼土粒子( $\phi$  1mm大)・棒名二ツ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~5mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。

65号土坑



2 21号ビット

59号土坑

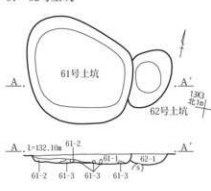


- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒・炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)・棒名二ツ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~5mm大)を含む。(10YR5/2)
- 2 にぶい黄褐色シルト質土 微量の炭化粒子( $\phi$  1mm大)を含む。(10YR5/3)

59号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒( $\phi$  1~2mm大)・棒名二ツ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~5mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~3mm大)を含む。(10YR4/2)
- 2 にぶい黄褐色砂質土 微量の棒名二ツ岳白色軽石( $\phi$  1~30mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~5mm大)を含む。(10YR6/4)

61・62号土坑



- 61-1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。
- 61-2 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の棒名二ツ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~2mm大)を含む。
- 61-3 黄褐色砂質土(2.5Y5/3)
- 62-1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の棒名二ツ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~10mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。

64号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の浅間C軽石粒・棒名二ツ岳白色軽石小粒・炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) 炭化物中心層。

65号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の棒名二ツ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~2mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~5mm大)を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 微量の炭化物を含む。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 微量の黒褐色土を含む。

第648図 V区52・55・56・59~65号土坑

64号土坑(第648図、PL.345)

グリッド 13-13区J 2

長軸方位 N80° E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は0.78m、短径は0.65m、深さは0.06mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

65号土坑(第648図、PL.346)

グリッド 13-13区I 2

長軸方位 N11° E

新旧関係 21号ピットが旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈

する。長辺は1.10m、短辺は0.81m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

66号土坑(第649図、PL.346)

グリッド 13-13区I 1

長軸方位 N85° E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は0.94m、短径は0.77m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

67号土坑(第649図、PL.346)

グリッド 13-13区I 1

長軸方位 N68° W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。

長径は0.42m、短径は0.38m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

68号土坑(第649図、PL.346)

グリッド 13-13区I 1

長軸方位 N6° E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は0.73m、短径は0.69m、深さは0.10mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

69号土坑(第649図、PL.346)

グリッド 13-13区H 1

長軸方位 N54° E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長

径は1.02m、短径は0.91m、深さは0.38mである。

埋土 西から東に傾斜した灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

70号土坑(第649図、PL.346)

グリッド 13-13区N 1

長軸方位 N9° E

新旧関係 6号竪穴が新。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長

径は1.02m、短径は0.94m+、深さは0.31mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

71号土坑(第649図、PL.346)

グリッド 13-13区M 1

長軸方位 N9° E

新旧関係 6号竪穴が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長径は1.30m、短径は1.12m+、深さは0.27mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

72号土坑(第649図、PL.346)

グリッド 13-3区M19

長軸方位 N53° E

新旧関係 なし。

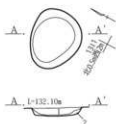
形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。

長径は1.26m、短径は1.14m、深さは0.50mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

66号土坑



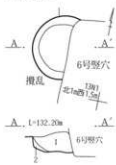
66号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)・にぶい黄褐色砂質土を含む。
- 2 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2) 微量の灰黄褐色砂質土を含む。

67号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の炭化粒子( $\phi$  1~5mm大)・小円礫( $\phi$  20~50mm大)を含む。
- 2 灰黄色細砂質土(2.5Y6/2) 微量の炭化粒子( $\phi$  1~3mm大)を含む。
- 3 暗灰黄色土(2.5Y4/2) 微量の炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。

70号土坑



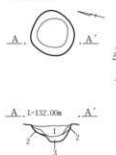
70号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の浅間C軽石粒( $\phi$  1mm大)・棒名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~3mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~5mm大)を含む。
- 2 褐灰色砂質土(10YR4/1) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~2mm大)を含む。

71号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の浅間C軽石粒( $\phi$  1mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色細砂質土(10YR4/3)
- 3 にぶい黄褐色細砂質土(10YR4/3) 微量の浅間C軽石粒( $\phi$  1mm大)を含む。

74号土坑



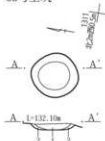
- 1 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) 微量の浅間C軽石粒( $\phi$  1~3mm大)・棒名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$  2~10mm大)・FPシルト質土を含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) 微量の浅間C軽石粒( $\phi$  1~2mm大)・FPシルト質土を含む。
- 3 暗灰黄色細砂質土(2.5Y4/2) 微量のFPシルト質土を含む。

0 1:60 2m

67号土坑



68号土坑



68号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の炭化粒子( $\phi$  1~3mm大)を含む。
- 2 灰黄色細砂質土(2.5Y6/2) 塚の崩落土。

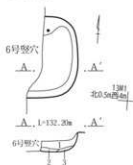
69号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の浅間C軽石粒( $\phi$  1~2mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~4mm大)を含む。
- 2 暗灰黄色細砂質土(2.5Y4/2) 微量の炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。

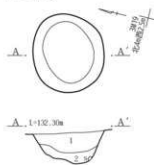
69号土坑



71号土坑

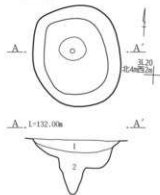


72号土坑



- 1 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) 微量の浅間C軽石粒・炭化粒子( $\phi$  1~3mm大)・棒名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~5mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の灰黄色細砂質土と微量の浅間C軽石粒( $\phi$  1~2mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~3mm大)・小円礫( $\phi$  50mm大)を含む。

73号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の浅間C軽石粒・炭化粒子( $\phi$  1~3mm大)・棒名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~20mm大)を含む。

第649図 V区66~74号土坑

73号土坑(第649図、PL.346)

グリッド 13-3区L20

長軸方位 N11°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は丁字形を呈する。長辺は1.59m、短辺は1.37m、深さは0.46mで、中央に柱痕がある柱穴である。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

74号土坑(第649図、PL.346)

グリッド 13-13区L1

長軸方位 N62°E

新旧関係 71号住居が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は0.70m、短径は0.69m、深さは0.19mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀前半よりも新。

75号土坑(第650図、PL.346)

グリッド 13-13区L1

長軸方位 N11°W

新旧関係 113・114号土坑が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は2.27m、短辺は0.93m、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色砂質土が成層する。

時代 古墳時代以降である。

76号土坑(第650図)

グリッド 13-3区J20

長軸方位 N66°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.49m、短辺は0.91m、深さは0.13mである。

埋土 浅間Bテフラを含む黒褐色土からなる。

時代 12世紀初頭以降である。

77号土坑(第650図、PL.346)

グリッド 13-13区K1

長軸方位 N82°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.93m、短径は0.82m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

78号土坑(第650図、PL.346)

グリッド 13-13区K1

長軸方位 N4°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は0.69m、短径は0.58m、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

79号土坑(第650図、PL.443)

グリッド 13-13区I1

長軸方位 N19°E

新旧関係 67号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は1.01m、短辺は0.78m、深さは0.37mである。

埋土 暗灰色砂質土からなる。

遺物 埋土から鉄製品(1)が出土した。

時代 9世紀第2四半期より新。

80号土坑(第650図、PL.346)

グリッド 13-13区K4

長軸方位 N79°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は1.58m、短辺は0.90m、深さは0.27mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

81号土坑(第650図、PL.346)

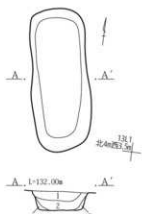
グリッド 13-13区K3

長軸方位 N31°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

75号土坑



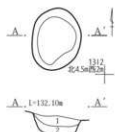
- 1 濃い黄褐色砂質土(10YR5/3) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)・FPシルト質土を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の浅間C軽石粒(φ 1~2mm大)・棒名ニツ岳白色軽石(φ 1~40mm大)・炭化粒子(φ 1~4mm大)を含む。
- 3 暗灰黄色細砂質土(2.5Y4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~4mm大)を含む。地山の崩れた土。

76号土坑



- 1 黒褐色土(10YR3/1) 少量の浅間B軽石を含む。

79号土坑

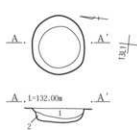


- 1 暗灰黄色細砂質土(2.5Y4/2) 微量の炭化粒子を含む。
- 2 暗灰黄色細砂質土(2.5Y4/2) 微量の小円礫(φ 20~50mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。

79号土坑

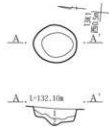


77号土坑



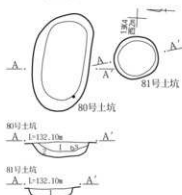
- 1 濃い黄褐色砂質土(10YR5/3) 微量の浅間C軽石粒(φ 1mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。
- 2 黄褐色砂質土(2.5Y5/3) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)を含む。

78号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の浅間C軽石粒・炭化粒子(φ 1~2mm大)・棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~4mm大)・小円礫(φ 10~50mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の小円礫(φ 3~50mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。

80・81号土坑

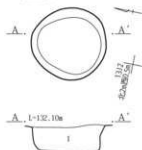


- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の浅間C軽石粒・炭化粒子(φ 1~2mm大)・棒名ニツ岳白色軽石大粒(φ 1~100mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の浅間C軽石粒・炭化粒子(φ 1mm大)・棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~2mm大)を含む。

81号土坑

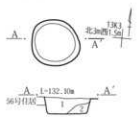
- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石大粒(φ 1~50mm大)・炭化粒子(φ 1mm大)を含む。

84号土坑



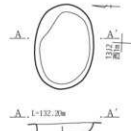
- 1 濃い黄褐色砂質土(10YR5/3) 微量の炭化粒子(φ 1~5mm大)・小円礫(φ 20~50mm大)を含む。

82号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の浅間C軽石粒(φ 1~2mm大)・棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。
- 2 濃い黄褐色砂質土(10YR5/3) 濃い黄褐色土ブロックを含む。

83号土坑



82号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/3) 微量の浅間C軽石粒(φ 1~2mm大)・棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)・炭化粒子(φ 1~4mm大)を含む。



第650図 V区75~84号土坑と79号土坑の出土遺物

長径は0.70m、短径は0.67m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

82号土坑(第650図、PL.347)

グリッド 13-13区K 3

長軸方位 N66°W

新旧関係 56号住居が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は0.80m、短径は0.72m、深さは0.27mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 9世紀後半よりも新。

83号土坑(第650図)

グリッド 13-13区J 2

長軸方位 N83°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.35m、短辺は0.93m、深さは0.19mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

84号土坑(第650図、PL.347)

グリッド 13-13区I 2

長軸方位 N1°W

新旧関係 72号住居が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.18m、短径は1.13m、深さは0.40mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 8世紀第4四半期よりも新。

85号土坑(第651図)

グリッド 13-3区M19

長軸方位 N9°E

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は0.77m、短径は0.73m、深さは0.46mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

86号土坑(第651図、PL.347)

グリッド 13-3区N19

長軸方位 N79°E

新旧関係 6号溝が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は底面が凹凸する浅い皿形を呈する。長径は1.66m、短径は0.93m、深さは0.25mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

88号土坑(第651図、PL.347)

グリッド 13-13区R 3

長軸方位 N77°W

新旧関係 50号土坑が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状はU字形を呈する。長辺は0.77m、短辺は0.55m、深さは0.66mで柱穴の形状を呈する。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

89号土坑(第651図)

グリッド 13-13区R 1

長軸方位 N25°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は0.92m、短辺は0.68m、深さは0.25mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

94号土坑(第651図、PL.347・443)

グリッド 13-13区H 2

長軸方位 N14°W

新旧関係 なし。

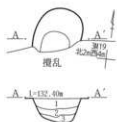
形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.22m、短径は1.03m、深さは0.31mである。

埋土 灰黄褐色砂質土が成層する。

遺物 埋土から轡の引手の可能性がある鉄製品(1)が出土した。

時代 古墳時代以降である。

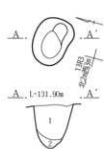
85号土坑



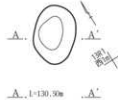
86号土坑



88号土坑



89号土坑



85号土坑

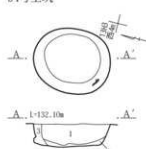
- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ1~2mm大)・榛名二ツ岳白  
色軽石小粒(φ1~3mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ1mm大)・榛名二ツ岳白色軽  
石小粒(φ1~10mm大)を含む。
- 3 にぶい黄褐色砂質土 少量のにぶい黄褐色細砂質土。微量の浅間C軽  
石粒(φ1mm大)・榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ  
1~2mm大)を含む。

- 1 にぶい黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ1~2mm大)・榛名二ツ  
岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ1mm大)・榛名二ツ岳白  
色軽石小粒(φ1~2mm大)を含む。

86号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 少量の浅間B軽石と微量の浅間C軽石粒(φ1~2mm  
大)・榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~3mm大)を含  
む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土 少量のにぶい黄褐色土ブロックと微量の浅間C  
軽石粒(φ1~3mm大)・榛名二ツ岳白色軽石小  
粒(φ1~10mm大)を含む。

94号土坑



94号土坑



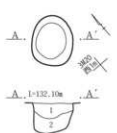
96号土坑



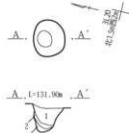
- 1 黒褐色砂質土 少量の浅間B軽石と微量の榛名二ツ岳  
白色軽石小粒(φ1~10mm大)・炭化粒  
子(φ1~3mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒・炭  
化粒子(φ1~2mm大)を含む。
- 3 褐色砂質土 微量の小円礫(φ1~50mm大)を含む。  
(10YR4/1)

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ1mm大)・榛名二ツ岳白色軽  
石小粒(φ1~2mm大)・炭化粒子(φ1~5mm大)を  
含む。
- 2 にぶい黄褐色細砂質土 微量の浅間C軽石粒・榛名二ツ岳白色軽石小  
粒(φ1mm大)を含む。

98号土坑



99号土坑

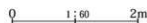


99号土坑

- 1 にぶい黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒・炭化粒子(φ1~2mm大)  
を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ1~2mm大)を含む。  
(10YR4/2)

99号土坑

- 1 にぶい黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒・炭化粒子(φ1~2mm大)、  
榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~3mm大)を含  
む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ  
1~2mm大)を含む。
- 3 灰黄色細砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ1~2mm大)を含む。  
(2.5/6/2)



第615図 V区85・86・88・89・94・96・98・99号土坑と94号土坑の出土遺物



96号土坑(第651図、PL.347)

グリッド 13-3区H18

長軸方位 N20°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は2.10m、短辺は1.74m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

98号土坑(第651図、PL.347)

グリッド 13-3区M20

長軸方位 N37°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長辺は0.79m、短辺は0.66m、深さは0.31mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

99号土坑(第651図、PL.347)

グリッド 13-3区L20

長軸方位 N55°E

新旧関係 8号溝が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状はU字形を呈する。

長径は0.56m、短径は0.52m、深さは0.46mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

100号土坑(第652図、PL.347)

グリッド 13-13区L1

長軸方位 N10°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長辺は1.29m、短辺は1.23m、深さは0.68mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

101号土坑(第652図、PL.347)

グリッド 13-13区I3

長軸方位 N48°W

新旧関係 48号住居が新。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.10m、短径は1.00m、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀前半より旧。

102号土坑(第652図、PL.347)

グリッド 13-3区H18

長軸方位 N62°E

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長径は1.43m+、短径は1.12m+、深さは0.40mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

103号土坑(第652図、PL.347)

グリッド 13-13区S6

長軸方位 N70°E

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は半月形を呈する。

長径は0.84m+、短径は0.71m、深さは0.46mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

104号土坑(第652図、PL.443)

グリッド 13-13区S5

長軸方位 N11°W

新旧関係 24・27号住居が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長辺は1.52m、短辺は1.04m、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の杯(1)、砥石(2)が出土した。

時代 10世紀前半。

106号土坑(第652図)

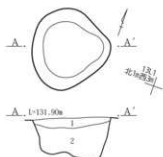
グリッド 13-13区P3

長軸方位 N66°W

新旧関係 34号住居が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈す

100号土坑



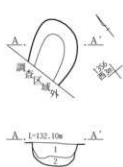
100号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒・炭化粒子(φ1~2mm大)、棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ1~3mm大)、棒名ニツ岳白色軽石(φ1~30mm大)とにぶい黄褐色砂質土ブロックを含む。

101号土坑

- 1 にぶい黄褐色土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ1~3mm大)、焼土粒子(φ1~2mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)を含む。

103号土坑



103号土坑

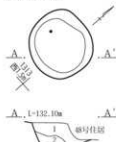
- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ1~2mm大)、棒名ニツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ1~10mm大)、焼土粒子(φ2mm大)とにぶい黄褐色シルト質土ブロックを含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ1mm大)、棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2mm大)・炭化粒子(φ1~5mm大)と明黄褐色シルト質土ブロックを含む。

104号土坑

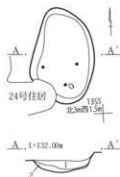
- 1 にぶい黄褐色砂質土 微量の炭化粒子(φ1~10mm大)とにぶい黄褐色シルト質土ブロックを含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ1~2mm大)、炭化粒子(φ1~10mm大)とにぶい黄褐色土ブロックを含む。

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ1~3mm大)と棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~2mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ1~3mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土 微量の浅間C軽石粒(φ1~3mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。

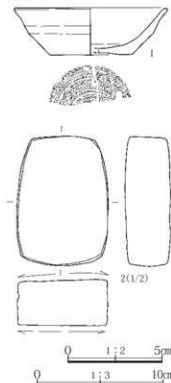
101号土坑



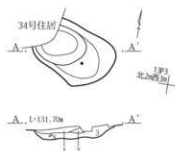
104号土坑



104号土坑



106号土坑



第652図 V区100~104・106号土坑と104号土坑の出土遺物

る。長径は1.18m+、短径は0.89m、深さは0.64mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第3四半期より新。

107号土坑(第653図、PL.347)

グリッド 13-13区K 1

長軸方位 N52°E

新旧関係 63号住居が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長辺は1.55m、短辺は1.40m、深さは0.78mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第3四半期より旧。

109号土坑(第653図、PL.347)

グリッド 13-13区N 2

長軸方位 N69°E

新旧関係 8号溝が新。110号土坑が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.37m、短辺は1.07m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。鉄滓を含む。

時代 古墳時代以降である。

110号土坑(第653図、PL.347)

グリッド 13-13区N 2

長軸方位 N15°E

新旧関係 109号土坑が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長辺は0.95m、短辺は0.84m、深さは0.29mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなり、多量の鉄滓を含む。

時代 古墳時代以降である。

111号土坑(第653図)

グリッド 13-13区L 1

長軸方位 N40°E

新旧関係 71号住居が新。114号土坑が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長辺は0.85m、短辺は0.79m、深さは0.67mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第3四半期より旧。

113号土坑(第653図)

グリッド 13-13区L 1

長軸方位 N3°E

新旧関係 114号土坑が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状はU字形を呈する。長辺は0.55m、短辺は0.40m、深さは0.54mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

114号土坑(第653図)

グリッド 13-13区L 1

長軸方位 N15°W

新旧関係 111・113号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長径は0.73m+、短径は0.67m、深さは0.56mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

112号土坑(第653図)

グリッド 13-13区J 5

長軸方位 N25°W

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は不明である。長径は0.96m、短径は0.64m+、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

115号土坑(第653図)

グリッド 13-13区I 4

長軸方位 N23°W

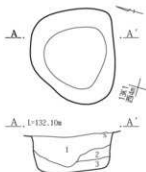
新旧関係 49号住居が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は2.20m、短辺は0.95m、深さは0.44mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 9世紀後半より旧。

107号土坑



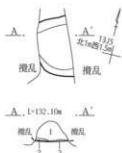
107号土坑

- 1 におい・黄褐色土(10YR5/3) におい・黄褐色土ブロック、微量の浅間C軽石(φ1~2mm大)・椀名ツブ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)、焼土粒・炭化粒(φ1mm大)、小円礫(φ10~50mm)を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR6/2) 1層上よりやや黒めの層、内容物は1層上と同じ。
- 3 暗灰黄色細砂質土(2.5Y5/2) 灰黄褐色砂質土ブロックを含む。

109号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の椀名ツブ岳白色軽石小粒(φ1~3mm大)・鉄滓を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の鉄滓を含む。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の椀名ツブ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)を含む。

112号土坑



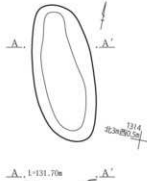
- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の椀名ツブ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)・炭化粒子(φ1~3mm大)を含む。
- 2 におい・黄褐色砂質土(10YR5/4) 微量の椀名ツブ岳白色軽石小粒(φ1~3mm大)を含む。
- 3 褐灰色砂質土(10YR4/1) 少量の炭化物を含む。

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 椀名ツブ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)・焼土粒子(φ1~2mm大)を含む。
- 2 におい・黄褐色砂質土(10YR5/3) 炭化物・小円礫(φ10~50mm大)を含む。
- 3 黒褐色砂質土(10YR3/2) 椀名ツブ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)を含む。
- 4 暗灰黄色細砂質土(2.5Y5/2) 円礫(φ50~100mm大)を含む。

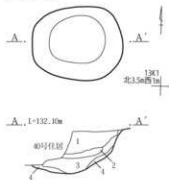
109号土坑



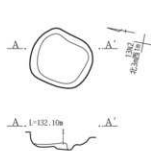
115号土坑



116号土坑



110号土坑



- 1 灰黄褐色土 直下に椀名ツブ岳白色軽石(10YR4/2) 層有り。大量の鉄滓出土。

111・113・114号土坑



- 1 におい・黄褐色土 微量の椀名ツブ岳白色軽石小粒(10YR5/3) (φ1~3mm大)を含む。
- 2 におい・黄褐色土 微量の椀名ツブ岳白色軽石小粒(10YR5/3) (φ1~5mm大)を含む。

116号土坑(第653図)

グリッド 13-13区K1

長軸方位 N84°W

新旧関係 40号住居が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は1.43m、短辺は1.15m、深さは0.69mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 11世紀前半より旧。

3. VI区

1号土坑(第654図、PL.348)

グリッド 13-3区P15

長軸方位 N61°W

新旧関係 10号住居、6号ピットが旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は1.20m、短径は0.92m、深さは0.35mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 9世紀より新。

2号土坑(第654図、PL.348)

グリッド 13-3区N15

長軸方位 N58°E

新旧関係 3号土坑が旧。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状はT字形を呈する。長辺は0.72m、短辺は0.46m、深さは0.40mで、柱痕が残る柱穴である。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

3号土坑(第654図、PL.348)

グリッド 13-3区N15

長軸方位 N63°E

新旧関係 2号土坑が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.95m、短辺は0.82m、深さは0.16mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

4号土坑(第654図、PL.348)

グリッド 13-3区N14

長軸方位 N1°W

新旧関係 11号溝が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は0.82m、短辺は0.72m、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

5号土坑(第654図)

グリッド 13-3区M14

長軸方位 N58°E

新旧関係 1号溝が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.17m、短辺は1.00m+、深さは0.27mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

6号土坑(第654図、PL.348)

グリッド 13-3区M15

長軸方位 N13°W

新旧関係 11号ピットが新。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は0.89m、短辺は0.47m、深さは0.53mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

7号土坑(第654図、PL.348)

グリッド 13-3区J15

長軸方位 N41°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.85m、短辺は0.78m、深さは0.16mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

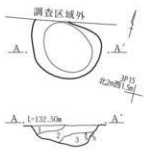
時代 古墳時代以降である。

8号土坑(第654図、PL.348)

グリッド 13-3区P14

長軸方位 N4°W

1号土坑



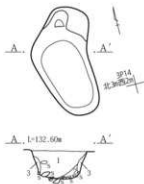
1号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 少量の様名ニツ岳白色軽石と多量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~20mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 少量の様名ニツ岳白色軽石小粒・にぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~20mm大)を含む。
- 3 黒褐色砂質土 少量の様名ニツ岳白色軽石小粒・にぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~20mm大)を含む。

2・3号土坑

- 2-1 灰黄褐色砂質土 少量の様名ニツ岳白色軽石・にぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ5~30mm大)を含む。
- 2-1' 灰黄褐色砂質土 2-1層土に類似。色調やや明るい。(10YR4/2)
- 2-2 にぶい黄褐色砂質土 多量のにぶい黄褐色砂質土シルト粒子を含む。(10YR5/3)
- 3-1 黒褐色砂質土 多量の様名ニツ岳白色軽石と少量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~10mm大)と微量の炭化物を含む。
- 3-2 灰黄褐色砂質土 少量の様名ニツ岳白色軽石・にぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ5~30mm大)を含む。

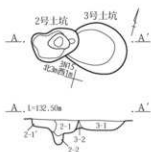
8号土坑



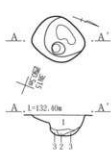
8・9号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 少量の様名ニツ岳白色軽石小粒・にぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ10~20mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 1層土に類似。色調やや明るい。(10YR5/2)
- 3 灰黄褐色砂質土 少量の様名ニツ岳白色軽石と多量のにぶい黄褐色砂質土シルト大ブロック(φ10~50mm大)を含む。

2・3号土坑



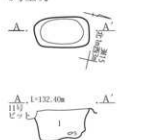
4号土坑



4号土坑

- 1 暗褐色砂質土(10YR3/3) 多量の様名ニツ岳白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 微量のにぶい黄褐色砂質土シルト粒子を含む。粘性やや有。
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 多量のにぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ10~30mm大)を含む。

6号土坑



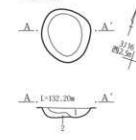
6号土坑

- 1 褐色土 少量の様名ニツ岳白色軽石と褐色土(30~50mm程)を含む。(10YR5/1) 灰黄褐色砂質土の互層堆積上。ムロ跡か。

5号土坑



7号土坑

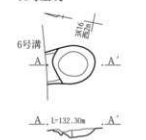


7号土坑

7号土坑

- 1 暗褐色砂質土 多量の様名ニツ岳白色軽石とにぶい黄褐色砂質土シルト(10YR3/3) 粒子を含む。
- 2 暗褐色砂質土 微量の様名ニツ岳白色軽石と多量のにぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ10~30mm大)を含む。

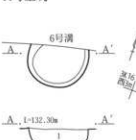
10号土坑



10号土坑

- 1 にぶい黄褐色砂質土 多量の炭化物と少量のにぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ10~30mm大)を含む。

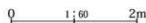
11号土坑



11号土坑

11号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の様名ニツ岳白色軽石とにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~10mm大)を含む。



第654図 VI区1~11号土坑

**新旧関係** 1号溝が旧。

**形状と規模** 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は1.74m、短径は0.90m、深さは0.56mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

9号土坑(第654図、PL.348)

**グリッド** 13-3区P14

**長軸方位** N4°W

**新旧関係** 1号溝が旧。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.26m、短辺は0.83m、深さは0.47mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

10号土坑(第654図、PL.348)

**グリッド** 13-3区K15

**長軸方位** N24°W

**新旧関係** 6号溝が新。

**形状と規模** 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.67m、短径は0.58m、深さは0.17mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

11号土坑(第654図)

**グリッド** 13-3区K15

**長軸方位** N35°W

**新旧関係** 6号溝が新。

**形状と規模** 不定形を呈し、断面形状は浅い箱形を呈する。長径は1.00m、短径は0.97m、深さは0.25mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

13号土坑(第655図、PL.348)

**グリッド** 13-3区M13

**長軸方位** N12°E

**新旧関係** なし。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は2.06m、短辺は1.42m、深さは0.37mで

ある。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

14号土坑(第655図、PL.348)

**グリッド** 13-3区M13

**長軸方位** N82°E

**新旧関係** なし。

**形状と規模** 長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.03m、短辺は0.84m、深さは0.29mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

15号土坑(第655図、PL.348)

**グリッド** 13-3区M13

**長軸方位** N43°E

**新旧関係** なし。

**形状と規模** 不定形を呈し、断面形状はうねった箱形を呈する。長径は2.60m、短径は2.04m、深さは0.54mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

16号土坑(第655図、PL.348・443)

**グリッド** 13-3区L12

**長軸方位** N82°E

**新旧関係** なし。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は2.48m、短辺は1.53m、深さは0.70mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**遺物** 埋土から古瀬戸陶器(1)が出土した。

**時代** 中世。

17号土坑(第655図、PL.348)

**グリッド** 13-3区L12

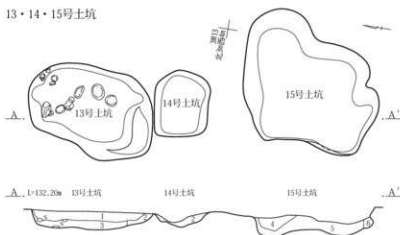
**長軸方位** N14°W

**新旧関係** なし。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は0.96m、短辺は0.70m、深さは0.46mである。

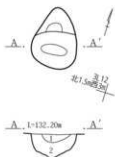
**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

## 13・14・15号土坑



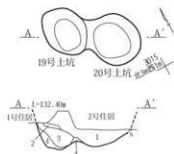
- 1 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) 少量の棒名ニツ岳白色軽石と微量のふい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~15mm程)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) 少量の棒名ニツ岳白色軽石・にふい黄褐色砂質土シルト大ブロック(φ30~50mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石と多量のふい黄褐色砂質土シルト大ブロック(φ30~50mm大)を含む。
- 4 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 少量の棒名ニツ岳白色軽石・にふい黄褐色砂質土シルト大ブロック(φ30~50mm大)を含む。
- 5 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石と少量のふい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ10~20mm大)を含む。
- 6 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石・にふい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~15mm大)を含む。

## 17号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石と少量のふい黄褐色砂質土シルト粒子を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 (10YR6/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石と多量のふい黄褐色砂質土シルト粒子を含む。

## 19・20号土坑



## 18号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の棒名ニツ岳白色軽石を含む。
- 2 黒褐色砂質土 少量の棒名ニツ岳白色軽石を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石とにふい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~10mm大)を含む。
- 4 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 多量のふい黄褐色砂質土シルト大ブロック(φ10~30mm大)を含む。絡りなし。

## 16号土坑

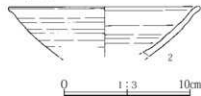


- 1 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) 少量の棒名ニツ岳白色軽石小粒・にふい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~15mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) 少量の棒名ニツ岳白色軽石と多量のふい黄褐色砂質土シルト大ブロック(φ10~50mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 少量の棒名ニツ岳白色軽石・にふい黄褐色砂質土シルト大ブロック(φ10~50mm大)を含む。

## 16号土坑



## 18号土坑



0 1:60 2m



時代 古墳時代以降である。

18号土坑(第655図、PL.349)

グリッド 13-3区N12

長軸方位 N45°W

新旧関係 2・3号溝が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長辺は1.62m、短辺は1.61m、深さは0.47mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 底直上から須恵器の椀(2)が出土した。

時代 平安時代9世紀後半。

19号土坑(第655図、PL.349)

グリッド 13-3区O15

長軸方位 N20°W

新旧関係 1号住居、20号土坑が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は0.85m、短辺は0.65m、深さは0.62mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀前半より旧。

20号土坑(第655図、PL.349)

グリッド 13-3区O15

長軸方位 N48°W

新旧関係 1・2号住居が新。19号土坑が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.88m、短径は0.79m、深さは0.54mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀前半より新。

21号土坑(第656図、PL.349)

グリッド 13-3区N12

長軸方位 N84°E

新旧関係 13号溝が旧。

形状と規模 隅丸長方形の短冊形状を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は2.80m、短辺は0.67m、深さは0.44mである。

埋土 灰黄褐色砂質土が成層する。

時代 古墳時代以降である。

25号土坑(第656図、PL.349・443)

グリッド 13-3区J12

長軸方位 N70°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.37m、短辺は1.05m、深さは0.37mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 底直上から土師器の杯(1)が出土した。

時代 平安時代11世紀。

26号土坑(第656図)

グリッド 13-3区J12

長軸方位 N8°E

新旧関係 16号住居が旧。27号土坑が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は1.48m、短辺は1.32m、深さは0.50mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 9世紀第4四半期より新。

27号土坑(第656図)

グリッド 13-3区J12

長軸方位 N50°W

新旧関係 26号土坑が旧。

形状と規模 歪んだ隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は0.75m、短辺は0.75m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

28号土坑(第656図)

グリッド 13-3区I12

長軸方位 N43°E

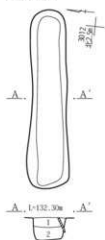
新旧関係 16号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.37m、短辺は1.25m、深さは0.40mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 9世紀第4四半期より新。

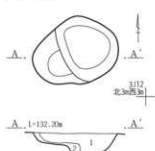
21号土坑



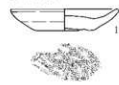
21号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 少量の礫名ニツ岳白色軽石小粒と多量のふい・黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~15mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 微量の礫名ニツ岳白色軽石小粒と少量のふい・黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~10mm大)を含む。

25号土坑

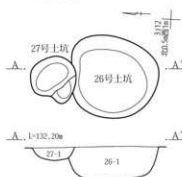


25号土坑



0 1:3 10cm

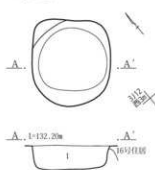
26・27号土坑



- 26-1 灰黄褐色砂質土 少量の礫名ニツ岳白色軽石小粒と微量のふい・黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ10~20mm大)を含む。

- 27-1 灰黄褐色砂質土 少量の礫名ニツ岳白色軽石小粒・ふい・黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~15mm大)を含む。

28号土坑



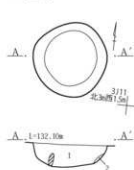
28号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の礫名ニツ岳白色軽石と少量のふい・黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~15mm大)を含む。

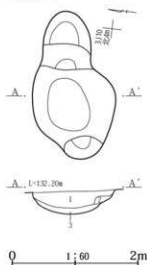
29号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の礫名ニツ岳白色軽石小粒を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 少量のふい・黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ10~20mm大)を含む。

29号土坑



30号土坑



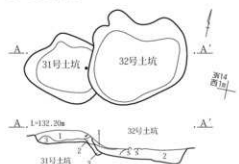
- 1 黒褐色砂質土(10YR3/2) 多量の礫名ニツ岳白色軽石と少量のふい・黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ10~20mm大)を含む。

- 2 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の礫名ニツ岳白色軽石と多量のふい・黄褐色砂質土シルト大ブロック(φ30~50mm大)を含む。

- 3 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の礫名ニツ岳白色軽石とふい・黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ10~30mm大)を含む。

0 1:60 2m

31・32号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の礫名ニツ岳白色軽石小粒と少量のふい・黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の礫名ニツ岳白色軽石と多量のふい・黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~10mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の礫名ニツ岳白色軽石と多量のふい・黄褐色砂質土シルト大ブロック(φ10~40mm大)を含む。

29号土坑(第656図)

グリッド 13-3区J11

新旧関係 16・17号住居が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。

直径は1.16m、深さは0.35mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第3四半期より新。

30号土坑(第656図、PL.349)

グリッド 13-3区I10

長軸方位 N77°E

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は半月形を呈する。

長径は2.35m、短径は1.32m、深さは0.41mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

31号土坑(第656図、PL.349)

グリッド 13-3区N13

長軸方位 N80°E

新旧関係 3号溝が旧。32号土坑が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.27m+、短辺は1.06m、深さは0.27mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

32号土坑(第656図、PL.349)

グリッド 13-3区N13

長軸方位 N57°E

新旧関係 2号溝、31号土坑が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.64m、短辺は1.49m、深さは0.46mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

34号土坑(第657図、PL.349)

グリッド 13-3区K13

長軸方位 N64°W

新旧関係 19号住居が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。

長径は0.80m、短径は0.75m、深さは0.35mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 7世紀後半より新。

35号土坑(第657図、PL.349)

グリッド 13-3区H9

長軸方位 N76°E

新旧関係 15号溝が旧。

形状と規模 長方形の短冊形状を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は2.87m、短辺は0.56m、深さは0.65mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

36号土坑(第657図、PL.349)

グリッド 13-3区H11

長軸方位 N81°W

新旧関係 17号溝が旧。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状は袋状を呈する。長辺は2.12m+、短辺は1.27m+、深さは0.47mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

37号土坑(第657図、PL.349)

グリッド 13-3区I12

長軸方位 N1°E

新旧関係 24・59号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.58m、短辺は1.25m、深さは0.59mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀より新。

39号土坑(第657図、PL.349)

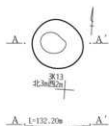
グリッド 13-3区G11

長軸方位 N67°E

新旧関係 47号住居が旧。

形状と規模 長方形の短冊形状を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は2.71m、短辺は1.16m、深さは0.34m

34号土坑

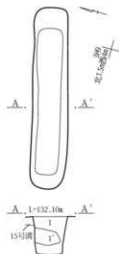


- 1 灰黄褐色砂質土 少量の棒名ニツ岳白色軽石を含む。(10YR5/2)
- 2 灰黄褐色砂質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒とにぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ10~30mm大)を含む。(10YR5/2)
- 3 灰黄褐色砂質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石と少量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~15mm大)を含む。(10YR5/2)

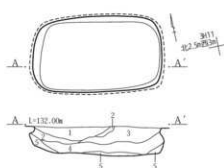
35号土坑

- 1 少量の棒名ニツ岳白色軽石小粒と多量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロックを含む。
- 1' 1層上より砂質土シルトブロックの混入少ない。

35号土坑

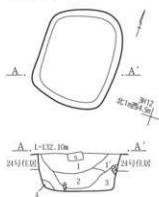


36号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土 少量の棒名ニツ岳白色軽石小粒・にぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5mm大程)と微量の炭化物を含む。(10YR4/2)
- 2 灰黄褐色砂質土 少量の棒名ニツ岳白色軽石小粒と多量のにぶい黄褐色にぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5mm大程)を含む。(10YR5/2)
- 3 灰黄褐色砂質土 少量の棒名ニツ岳白色軽石小粒・にぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5mm大程)と微量の炭化物を含む。(10YR5/2)
- 4 灰黄褐色砂質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒・炭化物と多量のにぶい黄褐色にぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~30mm大)を含む。(10YR4/2)
- 5 灰黄褐色砂質土 微量の炭化物と多量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~30mm大)を含む。(10YR5/2)

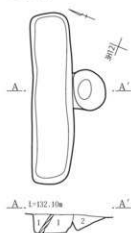
37号土坑



37号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 多量の棒名ニツ岳白色軽石小粒と少量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ10~15mm大)と微量の炭化物を含む。(10YR5/2)
- 1' 灰黄褐色砂質土 少量の棒名ニツ岳白色軽石小粒と微量の炭化物を含む。(10YR5/2)
- 2 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒と多量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ10~30mm大)を含む。(10YR5/3)
- 3 にぶい黄褐色弱粘質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒と少量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ10~30mm大)を含む。(10YR5/3)
- 4 灰黄褐色弱粘質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒を含む。(10YR4/2)

39号土坑



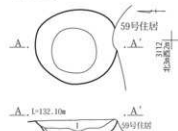
39号土坑

- 1 褐灰色砂質土 少量の棒名ニツ岳白色軽石小粒と微量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~10mm大)を含む。(10YR5/1)
- 2 灰黄褐色砂質土 多量の棒名ニツ岳白色軽石小粒を含む。=39号土坑に切られた小土坑跡。

40号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 少量の棒名ニツ岳白色軽石小粒・にぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~10mm大)を含む。(10YR4/2)
- 2 灰黄褐色砂質土 少量の棒名ニツ岳白色軽石小粒を含む。(10YR4/2)
- 3 灰黄褐色砂質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒と多量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~10mm大)を含む。(10YR5/2)

40号土坑



0 1:60 2m

第657図 VI区34~37・39・40号土坑

である。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第4四半期より新。

40号土坑(第657図、PL.349)

グリッド 13-3区I12

長軸方位 N3°W

新旧関係 59号住居が新。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は1.30m、短径は1.17m、深さは0.46mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀以前である。

41号土坑(第658図)

グリッド 13-3区G9

長軸方位 N3°W

新旧関係 25号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.59m、短辺は1.28m、深さは0.40mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

42号土坑(第658図)

グリッド 13-3区G9

長軸方位 N18°W

新旧関係 25号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.62m、短辺は1.20m、深さは0.45mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

45号土坑(第658図)

グリッド 13-3区H13

長軸方位 N12°W

新旧関係 48号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形の短冊形状を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は4.08m、短辺は0.88m、深さは

0.42mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

46号土坑(第658図)

グリッド 13-3区F6

長軸方位 N6°W

新旧関係 44号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.90m、短辺は1.07m、深さは0.38mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

47号土坑(第658図)

グリッド 13-3区E6

長軸方位 N14°W

新旧関係 44号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.31m、短辺は0.78m、深さは0.44mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

48号土坑(第658図)

グリッド 13-3区H13

長軸方位 N38°E

新旧関係 48号住居、18号溝が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は歪んだT字形を呈する。長径は1.13m、短径は0.93m、深さは0.65mで、柱穴の可能性はある。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

49号土坑(第658図、PL.349)

グリッド 13-3区F11

長軸方位 N37°W

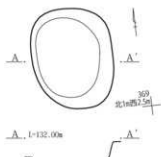
新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状はV字形を呈する。長辺は0.96m、短辺は0.89m、深さは0.85mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

41号土坑



42号土坑



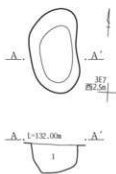
45号土坑



46号土坑



47号土坑

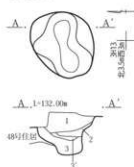


46・47号上坑

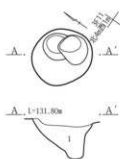
- 1 灰黄褐色砂質土 少量の椀名ニツ岳白色軽石とにふい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ10~20mm大)を含む。

- 1 灰黄褐色砂質土 少量の椀名ニツ岳白色軽石小粒とにふい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~15mm大)を含む。

48号土坑



49号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土 微量の椀名ニツ岳白色軽石小粒と少量のにふい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~15mm大)を含む。

- 1 灰黄褐色砂質土 少量の椀名ニツ岳白色軽石小粒とにふい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5mm大)を含む。  
 2 灰黄褐色砂質土 少量の椀名ニツ岳白色軽石小粒と多量のにふい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~10mm大)を含む。  
 3 灰黄褐色砂質土 少量の椀名ニツ岳白色軽石小粒とにふい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ10~20mm大)を含む。  
 3' 3層上+多量の焼土粒子

0 1:60 2m

第658図 VI区41・42・45~49号土坑

#### 4. VII区

19号土坑(第659図、PL.350)

グリッド 13-3区D15

長軸方位 N61°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.70m、短辺は1.24m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

20号土坑(第659図、PL.350)

グリッド 13-3区D18

長軸方位 N38°E

新旧関係 1号溝が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.97m、短辺は0.75m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の椀(1)が出土した。

時代 平安時代9世紀前半。

21号土坑(第659図、PL.351)

グリッド 13-2区Q12

長軸方位 N28°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.29m、短径は1.12m、深さは0.46mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

22号土坑(第659図、PL.351)

グリッド 13-2区Q12

長軸方位 N58°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.93m、短径は0.85m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

23号土坑(第659図、PL.351)

グリッド 13-2区Q11

長軸方位 N39°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.14m、短径は1.12m、深さは0.54mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

24号土坑(第659図、PL.352)

グリッド 13-3区F17

長軸方位 N40°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状はU字形を呈する。長辺は1.31m、短辺は0.87m、深さは0.92mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

25号土坑(第659図、PL.352)

グリッド 13-3区A10

長軸方位 N12°E

新旧関係 70号土坑が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.97m、短辺は0.68m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

70号土坑(第659図、PL.355・443)

グリッド 13-3区A9

長軸方位 N9°E

新旧関係 25号土坑が新。

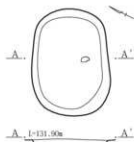
形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.98m、短径は1.81m、深さは0.32mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

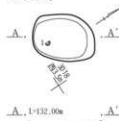
遺物 埋土から須恵器の椀(2)が出土した。

時代 平安時代9世紀後半。

19号土坑



20号土坑



19号土坑

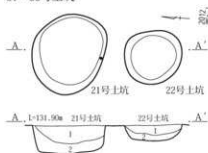
1 にぶい黄褐色砂質土+シルト質土 微量の棒名二ツ岳白色軽石・にぶい黄褐色砂質土シルト粒子を含む。

20号土坑

1 にぶい黄褐色砂質土 微量の棒名二ツ岳白色軽石と少量のにぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ10~30mm)を含む。



21・22号土坑



21号土坑

1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名二ツ岳白色軽石大粒(φ5~50mm大)・鉄滓(φ20mm大)を含む。(10YR4/2)

22号土坑

2 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名二ツ岳白色軽石小粒(φ5~10mm大)・円礫(φ5~30mm大)を含む。

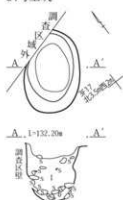
22号土坑

1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名二ツ岳白色軽石大粒(φ5~50mm大)・鉄滓(φ20mm大)を含む。(10YR4/2)

22号土坑

2 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名二ツ岳白色軽石小粒(φ5~10mm大)・円礫(φ5~30mm大)を含む。(10YR4/2)

24号土坑



23号土坑

1 にぶい黄褐色砂質土 微量の棒名二ツ岳白色軽石と少量のにぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ10~30mm大)を含む。(10YR5/3)

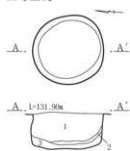
2 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名二ツ岳白色軽石小粒(φ2~20mm大)を含む。綿りやや弱。

3 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名二ツ岳白色軽石小粒(φ2~15mm大)・円礫(φ5~50mm大)を含む。(10YR4/2)

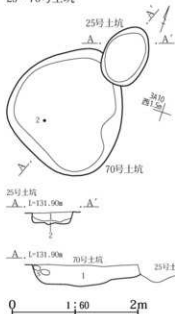
24号土坑

1 灰黄褐色砂質土 少量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~10mm大)を含む。(10YR5/2)

23号土坑



25・70号土坑



25号土坑

1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の棒名二ツ岳白色軽石小粒(φ2~10mm大)を含む。

2 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の小礫(φ10~20mm大)を含む。

70号土坑

1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名二ツ岳白色軽石小粒(φ2~5mm大)・円礫(φ5~100mm大)を含む。(10YR4/2)

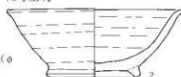
26号土坑



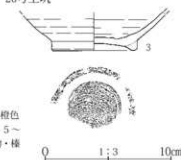
26号土坑

1 にぶい黄褐色砂質土 極細粒砂。少量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~15mm大)と焼土粒子・炭化物・棒名二ツ岳白色軽石を含む。(10YR4/3)

70号土坑



26号土坑



第659図 VII区19~26・70号土坑と20・26・70号土坑の出土遺物



26号土坑(第659図、PL.352)

グリッド 13-3区D14

長軸方位 N39°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.98m、短辺は0.81m、深さは0.25mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の椀(3)が出土した。

時代 平安時代10世紀前半。

27号土坑(第660図、PL.352)

グリッド 13-3区C13

長軸方位 N12°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は1.41m、短径は1.37m、深さは0.40mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から土師器の甕(1)が出土した。

時代 平安時代10世紀後半。

28号土坑(第660図、PL.352・444)

グリッド 13-3区C14

長軸方位 N23°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は1.31m、短径は1.16m、深さは0.26mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から鉄製品(2)が出土した。

時代 古墳時代以降である。

29号土坑(第660図、PL.352)

グリッド 13-3区C13

長軸方位 N76°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は0.94m、短径は0.82m、深さは0.22mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

30号土坑(第660図、PL.352)

グリッド 13-3区C10

長軸方位 N12°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.61m、短辺は1.36m、深さは0.26mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

31号土坑(第660図、PL.352)

グリッド 13-3区E12

長軸方位 N29°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.82m、短辺は0.79m、深さは0.13mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

32号土坑(第660図、PL.352)

グリッド 13-2区R11

長軸方位 N10°W

新旧関係 90号土坑が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.01m、短辺は0.94m、深さは0.22mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の甕(3)が出土した。

時代 古墳時代以降である。

90号土坑(第660図、PL.357)

グリッド 13-2区R11

長軸方位 N25°E

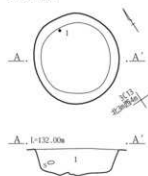
新旧関係 32号土坑が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.06m+、短辺は0.73m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

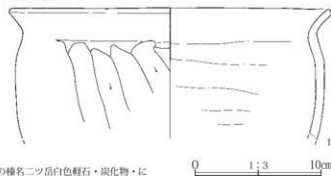
時代 古墳時代以降である。

27号土坑

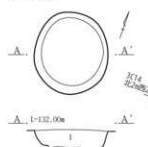


1 灰黄褐色砂質土 極細砂質。少量の棒名ニツ岳白色軽石・炭化物・に  
 (10YR4/2) ぶい黄褐色砂質土シルト粒子を含む。

27号土坑



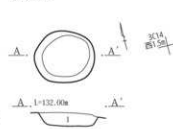
28号土坑



28号土坑



29号土坑



30号土坑



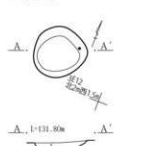
28・29号土坑

1 ぶい黄褐色砂質土 極細砂。少量のぶい黄褐色砂質土シルト小  
 (10YR4/3) ブロック(φ5~15mm大)と炭粒子・炭化物・  
 棒名ニツ岳白色軽石を含む。

30号土坑

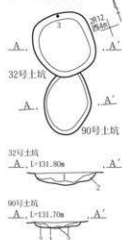
1 黒褐色砂質土 粗粒砂。多量の浅間山B軽石と少量の棒名ニツ岳白色  
 (10YR4/2) 軽石・炭化物。ぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック  
 (φ5~20mm大)粒子を含む。

31号土坑

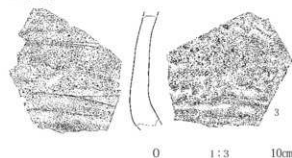


1 ぶい黄褐色土 多量の炭化物・  
 (10YR5/3)材 (φ10~50mm大)  
 を含む。

32・90号土坑



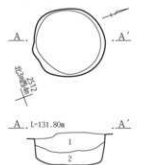
32号土坑



32号土坑

1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~10mm大)・  
 (10YR4/2) 炭化物(φ10~30mm大)を含む。  
 2 ぶい黄褐色土 少量の灰黄褐色土混じり。微量の炭化粒子(φ2~  
 (10YR5/3) 5mm大)を含む。

33号土坑



1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~15mm大)・  
 (10YR4/2) 小平礫(φ2~20mm大)を含む。  
 2 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ5~10mm大)・  
 (10YR4/2) 小平礫(φ2~50mm大)を含む。1層土に比べ色調  
 やや明るめ。

90号土坑

1 灰黄褐色土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~3mm大)・炭化粒  
 (10YR4/2) 子(φ3~10mm大)を含む。  
 2 ぶい黄褐色土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~4mm大)と少  
 (10YR5/3) 量のぶい黄褐色シルト質土ブロックを含む。

第660図 VII区27~33・90号土坑と27・28・32号土坑の出土遺物

33号土坑(第660図、PL.353)

グリッド 13-2区S12

長軸方位 N9°E

新旧関係 54号住居が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.14m、短径は1.08m、深さは0.54mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀前半より新。

34号土坑(第661図、PL.353)

グリッド 13-2区T12

長軸方位 N23°E

新旧関係 なし

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.26m、短径は0.91m、深さは0.35mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

35号土坑(第661図、PL.353)

グリッド 13-2区T12

長軸方位 N4°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は0.81m、短径は0.78m、深さは0.33mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

36号土坑(第661図、PL.353)

グリッド 13-2区T13

長軸方位 N40°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は0.91m、短辺は0.89m、深さは0.25mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

37号土坑(第661図、PL.353)

グリッド 13-2区Q12

長軸方位 N15°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は1.32m、短径は1.22m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色土からなる。

時代 古墳時代以降である。

38号土坑(第661図、PL.353)

グリッド 13-2区R13

長軸方位 N11°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.17m、短辺は0.94m、深さは0.13mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

39号土坑(第661図、PL.353)

グリッド 13-2区R13

長軸方位 N37°E

新旧関係 49号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.26m、短辺は0.98m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の羽釜(1)が出土した。

時代 平安時代10世紀前半。

40号土坑(第661図、PL.353・444)

グリッド 13-3区S14

長軸方位 N6°E

新旧関係 52号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.74m、短辺は0.82m、深さは0.19mで墓坑の可能性がある。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の椀(2)が出土した。

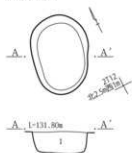
時代 平安時代10世紀前半。

41号土坑(第661図、PL.353)

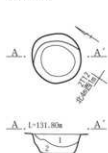
グリッド 13-2区T14

長軸方位 N5°E

34号土坑



35号土坑



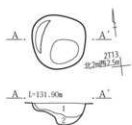
34号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ2~50mm大)・炭化粒子・炭化粒子・にぶい黄褐色シルト質土ブロックを含む。

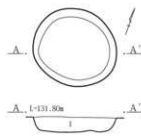
35号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ2~7mm大)・炭化粒子・炭化粒子・にぶい黄褐色シルト質土ブロックを含む。  
2 灰黄褐色土 微量の黄褐色シルト質土ブロック・小礫(φ2~5mm大)を含む。

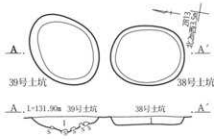
36号土坑



37号土坑



39・38号土坑



36号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 浅黄色シルト質土ブロックを混入する。(10YR4/2)  
2 灰黄褐色土 少量の浅黄色シルト質土と微量の小礫(φ5~50mm大)を含む。(10YR6/2)

37号土坑

- 1 灰黄褐色土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ2~10mm大)・炭化粒子と小円礫(φ5~20mm大)を含む。締りやや良。

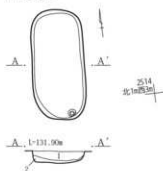
38号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ2~20mm大)・炭化粒子(φ2~3mm大)を含む。

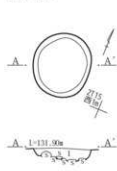
39号土坑

- 1 灰黄褐色土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ2~5mm大)・炭化粒子(φ1~5mm大)を含む。

40号土坑



41号土坑



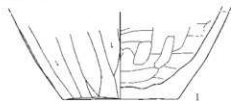
40号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ2~5mm大)・炭化粒子・炭化粒子を含む。(10YR5/2)  
2 灰黄褐色シルト質土 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ2~20mm大)を含む。(10YR5/2)

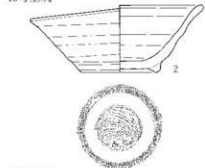
41号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の円礫(φ20~200mm大)を含む。他の層は円礫層(φ30~200mm大)。

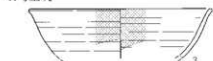
39号土坑



40号土坑



41号土坑



0 1:60 2m

0 1:3 10cm

第661図 VIII区34~41号土坑と39~41号土坑の出土遺物

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は1.03m、短径は0.91m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から灰軸陶器の椀(3)が出土した。

時代 平安時代10世紀前半。

42号土坑(第662図、PL.353)

グリッド 13-3区A15

長軸方位 N67°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は0.92m、短径は0.90m、深さは0.34mである。

埋土 浅間Bテフラを含む黒褐色土からなる。

時代 12世紀初頭以降である。

43号土坑(第662図、PL.353)

グリッド 13-2区T15

長軸方位 N65°W

新旧関係 81号土坑が新。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は底が平らなV字形を呈する。長径は1.09m、短径は0.90m、深さは0.55mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

44号土坑(第662図、PL.353)

グリッド 13-2区T16

長軸方位 N68°E

新旧関係 40号住居、166号土坑が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.22m、短辺は0.92m、深さは0.13mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀より新。

45号土坑(第662図、PL.353)

グリッド 13-2区T16

長軸方位 N28°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は1.05m、短辺は0.87m、深さは0.22mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

46号土坑(第662図、PL.353)

グリッド 13-3区A16

長軸方位 N7°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は0.66m、短径は0.56m、深さは0.20mである。

埋土 黄褐色土からなる。

時代 古墳時代以降である。

47号土坑(第662図、PL.354)

グリッド 13-3区A16

長軸方位 N67°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.66m、短辺は1.15m、深さは0.26mである。

埋土 黄褐色土からなる。

時代 古墳時代以降である。

48号土坑(第662図、PL.354)

グリッド 13-3区B16

長軸方位 N22°W

新旧関係 29・34・94・101号住居が旧。

形状と規模 長方形の短冊形状を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は2.85m、短辺は0.59m、深さは0.08mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 11世紀前半より新。

49号土坑(第662図、PL.354)

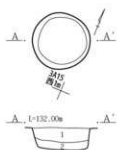
グリッド 13-3区A12

長軸方位 N82°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は1.78m、短辺は1.45m、深さは0.34mである。

42号土坑



- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の浅間B軽石と微量の椋名二ツ岳白色軽石小粒(φ2~20mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) 微量の浅間B軽石・椋名二ツ岳白色軽石小粒(φ2~10mm大)、小円礫(φ20~30mm)とぶい黄色シルト質土ブロックを含む。締りやや弱。

43号土坑



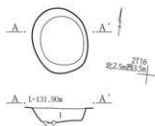
43号土坑

- 1 灰黄褐色土 微量の椋名二ツ岳白色軽石小粒(φ2~5mm大)・円礫(φ10YR4/2) 30~150mmを含む。

44号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の椋名二ツ岳白色軽石小粒(φ2~10mm大)・炭化粒子(φ2~4mm大)を含む。

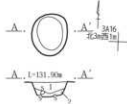
45号土坑



45号土坑

- 1 ぶい黄褐色シルト質土 微量の椋名二ツ岳白色軽石小粒(φ2~5mm大)を含む。

46号土坑



46号土坑

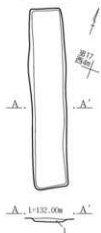
- 1 ぶい黄褐色土(10YR5/4) 微量の椋名二ツ岳白色軽石小粒(φ2~7mm大)・炭化粒子を含む。
- 2 ぶい黄褐色土(10YR5/4) 微量の小円礫(φ5~20mm大)を含む。

47号土坑



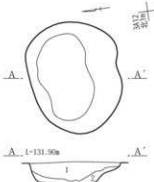
- 1 ぶい黄褐色土 微量の椋名二ツ岳白色軽石小粒(φ2~10mm大)・炭化粒子(φ2~4mm大)を含む。
- 2 ぶい黄褐色土 微量の椋名二ツ岳白色軽石大粒(φ2~100mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。

48号土坑

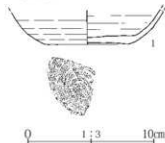


- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) イモ穴の可能性あり。

49号土坑



49号土坑



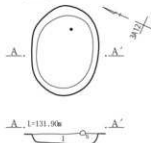
49号土坑

- 1 黒褐色シルト質土(10YR3/1) 微量の椋名二ツ岳白色軽石(φ4~40mm大)とぶい黄褐色シルト質土を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量のぶい黄褐色シルト質土を含む。

50号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の椋名二ツ岳白色軽石小粒(φ2~10mm大)・焼土粒子(φ2~3mm大)・円礫(φ5~80mm大)を含む。

50号土坑



埋土 灰黄褐色土からなる。

遺物 埋土から須恵器の杯(1)が出土した。

時代 平安時代9世紀後半。

50号土坑(第662図、PL.354)

グリッド 13-3区A12

長軸方位 N68°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.41m、短辺は1.06m、深さは0.19mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

51号土坑(第663図、PL.354)

グリッド 13-3区A11

長軸方位 N38°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.02m、短径は0.94m、深さは0.59mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の甕(1)が出土した。

時代 古墳時代以降である。

52号土坑(第663図、PL.354)

グリッド 13-3区A12

長軸方位 N64°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は0.98m、短辺は0.46m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

53号土坑(第663図、PL.354)

グリッド 13-3区A11

長軸方位 N23°W

新旧関係 なし。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.06m、短径は0.89m、深さは0.64mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

54号土坑(第663図、PL.354)

グリッド 13-3区S12

長軸方位 N8°E

新旧関係 なし

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.09m、短辺は0.70m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

55号土坑(第663図、PL.354)

グリッド 13-2区S10

長軸方位 N2°E

新旧関係 なし。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.85m、短径は1.40m、深さは0.47mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の甕(2)や椀(3)が出土した。

時代 平安時代10世紀中頃。

56号土坑(第664図、PL.354)

グリッド 13-2区S9

長軸方位 N73°W

新旧関係 96・97号住居が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.27m、短径は1.12m、深さは0.45mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の杯(1)が出土した。

時代 平安時代9世紀。

57号土坑(第664図、PL.354)

グリッド 13-2区S9

長軸方位 N72°W

新旧関係 84号土坑が旧。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.33m、短径は1.08m、深さは0.77mである。

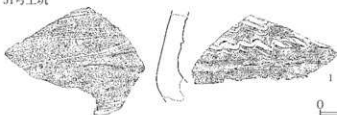
埋土 灰黄褐色シルト質土からなり、ウマの歯が出土した。

## 51号土坑

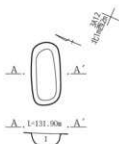


- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石大粒(φ4~50mm大)、炭化粒子・物(φ2~10mm大)とにぶい黄褐色シルト質土ブロックを含む。

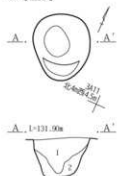
## 51号土坑



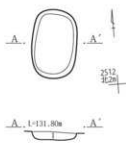
## 52号土坑



## 53号土坑



## 54号土坑



## 52号土坑

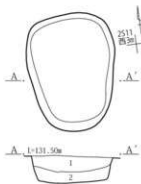
- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~8mm大)・焼土粒子(φ2~3mm大)を含む。

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~4mm大)・小礫(φ3~20mm大)を含む。掃りやや弱。

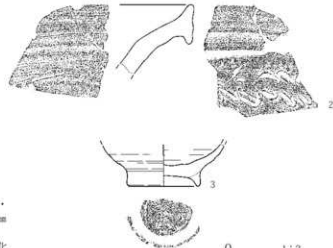
## 53号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~20mm大)・小円礫(φ3~30mm大)を含む。  
2 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~15mm大)・浅黄色土ブロックを混入する。

## 55号土坑



## 55号土坑



- 1 灰黄褐色シルト質土 棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~20mm大)・炭化粒子(φ2~4mm大)・小礫(φ5~10mm大)を含む。  
2 灰黄褐色シルト質土 棒名ニツ岳白色軽石(φ2~30mm大)・炭化粒子(φ2~5mm大)・小礫(φ5~20mm大)と少量のにぶい黄褐色シルト質土ブロックを含む。

第663図 VIII区51~55号土坑と51・55号土坑の出土遺物



時代 古墳時代以降である。

58号土坑(第664図、PL.354)

グリッド 13-2区T10

長軸方位 N72°W

新旧関係 84号住居が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.12m、短径は1.10m、深さは0.46mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の甕(2)が出土した。

時代 10世紀より新。

59号土坑(第664図、PL.354)

グリッド 13-2区S9

長軸方位 N42°E

新旧関係 71号土坑が旧。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は0.93m、短径は0.88m、深さは0.29mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

71号土坑(第664図、PL.354)

グリッド 13-2区S9

長軸方位 N20°W

新旧関係 59・72土坑が新。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.97m+、短径は0.92m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

60号土坑(第664図、PL.354)

グリッド 13-2区T8

長軸方位 N46°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状はV字形を呈する。長径は0.81m、短径は0.72m、深さは0.44mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

61号土坑(第664図、PL.355)

グリッド 13-2区T8

長軸方位 N36°E

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は1.17m、短径は0.98m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

62号土坑(第665図、PL.355)

グリッド 13-2区S8

長軸方位 N77°W

新旧関係 なし。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は0.84m、短径は0.63m、深さは0.23mである。

埋土 黒褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

63号土坑(第665図、PL.355・444)

グリッド 13-2区S8

長軸方位 N86°E

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は0.89m、短径は0.62m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から刀子(1)が出土した。

時代 古墳時代以降である。

64号土坑(第665図、PL.355)

グリッド 13-2区T8

長軸方位 N44°W

新旧関係 なし。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は1.87m、短径は1.41m、深さは0.33mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

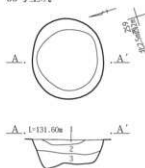
時代 古墳時代以降である。

65号土坑(第665図、PL.355)

グリッド 13-3区A10

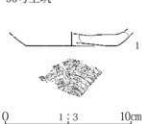
長軸方位 N18°W

56号土坑

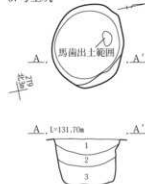


- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の極名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~5mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量の極名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色シルト質土 (10YR4/2) 微量の極名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~5mm大)・炭化粒子(φ 1~4mm大)を含む。

56号土坑

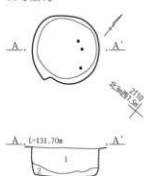


57号土坑



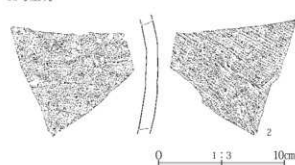
- 1 灰黄褐色シルト質土 (10YR4/2) 微量の極名二ツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ 2~5mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 灰黄褐色シルト質土 (10YR4/2) 微量のふい黄褐色シルト質土ブロックを混入し、微量の馬の歯出土層位・炭化粒子(φ 2~4mm大)を含む。締りやや弱。
- 3 灰黄褐色シルト質土 (10YR4/2) 微量の極名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)・炭化粒子(φ 2~4mm大)を含む。締りやや弱。

58号土坑

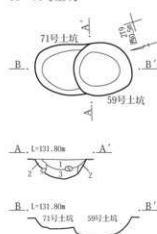


- 1 灰黄褐色シルト質土 (10YR4/2) 微量の極名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)・炭化粒子(φ 2~40mm大)を含む。締りやや良。
- 2 灰黄褐色シルト質土 (10YR4/2) 微量の極名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~5mm大)と少量のふい黄褐色シルト質土ブロックを含む。締りやや良。

58号土坑

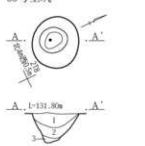


59・71号土坑



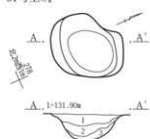
- 59号土坑 1 褐灰色シルト質土 微量の極名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~20mm大)・小礫(φ 2~80mm大)を含む。(10YR4/1)
- 2 灰黄褐色シルト質土 少量のふい黄褐色シルト質土ブロックを混入する。(10YR5/2)
- 3 灰黄褐色シルト質土 微量の炭化粒子(φ 3~7mm大)を含む。(10YR4/2)

60号土坑



- 1 灰黄褐色シルト質土 (10YR4/2) 微量の極名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~4mm大)・炭化粒子(φ 2~10mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土 (10YR4/2) 極名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~10mm大)・ふい黄褐色土ブロックを含む。締りやや弱。
- 3 灰黄褐色シルト質土 (10YR4/2) 少量の砂質土混じり。締りやや弱。

61号土坑



61号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 (10YR4/2) 微量の極名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~4mm大)・炭化粒子(φ 2~8mm大)・小礫(φ 2~10mm大)と少量のふい黄褐色土ブロックを含む。
- 2 褐灰色シルト質土 (10YR4/1) 微量の極名二ツ岳白色軽石小粒(φ 2~12mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色シルト質土 少量の砂質土混じり。(10YR4/2)



第664図 VII区56~61・71号土坑と56・58号土坑の出土遺物

**新旧関係** 97号土坑が旧。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は血形を呈する。長径は1.18m、短径は1.13m、深さは0.45mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**遺物** 埋土から須恵器の甕(2)が出土した。

**時代** 古墳時代以降である。

97号土坑(第665図、PL.357)

**グリッド** 13-2区T10

**長軸方位** N6°E

**新旧関係** 65号土坑が新。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は血形を呈する。長辺は1.45m、短辺は0.83m、深さは0.23mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

66号土坑(第666図、PL.355)

**グリッド** 13-3区A10

**長軸方位** N45°E

**新旧関係** なし。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.27m、短径は1.21m、深さは0.34mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

67号土坑(第666図、PL.355・444)

**グリッド** 13-3区A10

**長軸方位** N72°W

**新旧関係** なし。

**形状と規模** 楕円形を呈し、断面形状は歪んだV字形を呈する。長径は2.18m、短径は1.86m、深さは0.60mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**遺物** 埋土から土鍾(1)や土師器の杯(2)が出土した。

**時代** 平安時代9世紀後半。

68号土坑(第666図、PL.355・444)

**グリッド** 13-3区A10

**長軸方位** N26°E

**新旧関係** なし。

**形状と規模** 楕円形を呈し、断面形状は血形を呈する。長径は1.42m、短径は1.16m、深さは0.34mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**遺物** 埋土から須恵器の杯(3)や鉄鎌(4)が出土した。

**時代** 平安時代10世紀後半。

69号土坑(第666図、PL.355)

**グリッド** 13-3区A9

**長軸方位** N62°E

**新旧関係** なし。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は血形を呈する。長径は0.93m、短径は0.81m、深さは0.44mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**遺物** 埋土から須恵器の甕(5)が出土した。

**時代** 平安時代10世紀前半。

72号土坑(第666図、PL.355)

**グリッド** 13-2区T9

**長軸方位** N87°E

**新旧関係** 59号住居、71号土坑が旧。112号土坑、12号ピットが新。

**形状と規模** 楕円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.97m、短径は1.68m、深さは0.78mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 10世紀後半より新。

73号土坑(第667図、PL.355)

**グリッド** 13-2区T10

**長軸方位** N27°W

**新旧関係** 84号住居が旧。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.58m、短辺は0.82m、深さは0.45mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 10世紀より新。

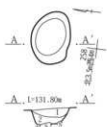
74号土坑(第667図、PL.355・356・444)

**グリッド** 13-2区S10

**長軸方位** N50°W

**新旧関係** 189号土坑が旧。

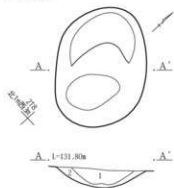
62号土坑



62号土坑

- 1 黒褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~10mm大)・炭化粒子(φ5mm大)・小礫(φ2~15mm大)とにぶい黄褐色土ブロックを混入する。締りやや弱。
- 2 灰黄褐色土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~3mm大)とにぶい黄褐色土ブロックを混入する。締りやや弱。

64号土坑



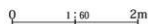
- 1 黒褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~10mm大)・炭化粒子(φ1~3mm大)・礫(φ2~70mm大)とにぶい黄褐色シルト質土ブロック混じりを含む。締りやや弱。
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~5mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)・小礫(φ2~30mm大)とにぶい黄褐色シルト質土ブロックを含む。締りやや弱。

65号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~5mm大)・炭化粒子(φ2~3mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~10mm大)・炭化粒子(φ1~3mm大)を含む。締りやや弱。

97号土坑

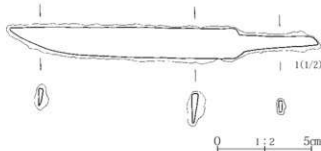
- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~3mm大)・焼土粒子(φ1~2mm大)・炭化粒子(φ2~4mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 灰黄褐色シルト質土 棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~10mm大)とにぶい黄褐色シルト質土ブロックを含む。締りやや弱。



63号土坑



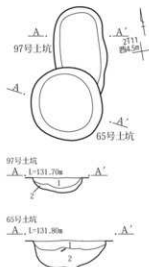
63号土坑



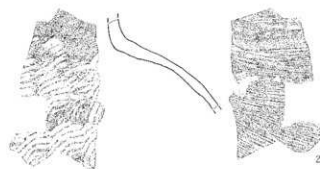
63号土坑

- 1 黒褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~7mm大) (10YR4/1) と炭化粒子・焼土粒子(φ2~3mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~10YR7/3) 4mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色シルト質土 棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~5mm大) (10YR4/2) を含む。にぶい黄褐色土ブロックを混入する。

65・97号土坑



65号土坑



第65図 VII区62~65・97号土坑と63・65号土坑の出土遺物

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は歪んだ箱形を呈する。長辺は1.76m+、短辺は1.25m、深さは0.46mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**遺物** 埋土から須恵器の椀(1)や刀子(2)、底面付近から羽口(3・4)が出土した。

**時代** 平安時代10世紀前半。

75号土坑(第667図、PL.356)

グリッド 13-2区R11

長軸方位 N13°W

新旧関係 76号土坑が旧。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長辺は1.22m、短辺は1.10m、深さは0.48mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**遺物** 埋土から須恵器の羽釜(5)が出土した。

**時代** 平安時代10世紀前半。

76号土坑(第667図、PL.356)

グリッド 13-2区R11

長軸方位 N27°W

新旧関係 56・57号住居が旧。75号土坑が新。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長辺は1.72m、短辺は1.32m、深さは0.58mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 10世紀後半より新。

77号土坑(第668図、PL.356)

グリッド 13-2区S10

長軸方位 N9°E

新旧関係 3号整穴、78号土坑が新。

**形状と規模** 楕円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長径は1.28m、短径は1.05m、深さは0.56mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

78号土坑(第668図、PL.356)

グリッド 13-2区S10

長軸方位 N54°W

新旧関係 57号住居、77号土坑が旧。3号整穴が新。

**形状と規模** 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.09m、短径は0.90m+、深さは0.13mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

79号土坑(第668図、PL.356)

グリッド 13-2区T10

長軸方位 N10°W

新旧関係 84号住居が新。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.23m、短辺は1.12m、深さは0.25mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 9世紀前半より旧。

88号土坑(第668図、PL.356)

グリッド 13-2区S11

長軸方位 N10°W

新旧関係 84号住居が新。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.83m、短辺は0.80m、深さは0.19mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 9世紀前半より旧。

80号土坑(第668図)

グリッド 13-3区A13

長軸方位 N8°E

新旧関係 44号住居が新。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.24m、短辺は1.11m+、深さは0.20mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 9世紀第3四半期より旧。

81号土坑(第668図、PL.356)

グリッド 13-2区T15

長軸方位 N27°W

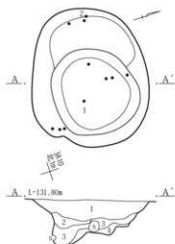
新旧関係 43号土坑が旧。

66号土坑

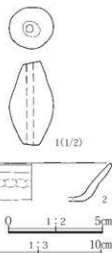


- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒(10YR4/2) (φ2~20mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色土 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒(φ2~20mm大)とふい黄褐色シルト質土アブロックを含む。

67号土坑

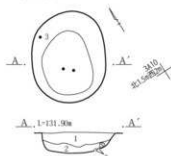


67号土坑



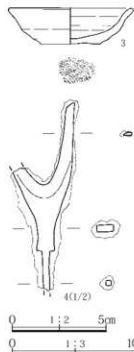
- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の棒名ニッ岳白色軽石(φ2~40mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の小礫(φ5~50mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の円礫(φ5~70mm大)を含む。
- 4 褐色砂質土(10YR4/1)+シルト質土 微量の小礫(φ2~20mm大)を含む。

68号土坑

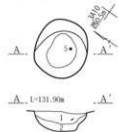


- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒(φ2~10mm大)・炭化粒子(φ1~3mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒(φ2~5mm大)・円礫(φ5~70mm大)を含む。

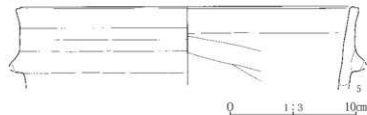
68号土坑



69号土坑



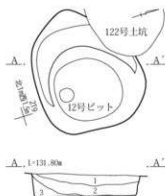
69号土坑



69号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の炭化粒子(φ2~5mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の円礫(φ5~70mm大)を含む。

72号土坑



72号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 シルト質土混じり。微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒(10YR4/2) (φ2~10mm大)・炭化物・粒(φ2~20mm大)・円礫(φ2~50mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 シルト質土混じり。微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒(10YR3/2) (φ2~3mm大)・炭化粒子(φ2~4mm大)・円礫(φ5~40mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土中心層 微量の炭化粒子(φ2~3mm大)・小円礫(φ2~5mm大)を含む。

第666図 VII区66~69・72号土坑と67~69号土坑の出土遺物

第4章 第2面の遺構と出土遺物

73号土坑



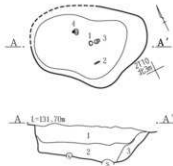
73号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名二ツ岳白色軽石小粒(φ2~4mm大)・(10YR4/2) 炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 灰黄褐色シルト質土 灰黄褐色シルト質土ブロックを含む。(10YR6/3)

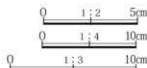
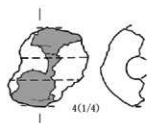
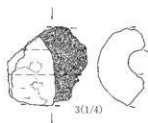
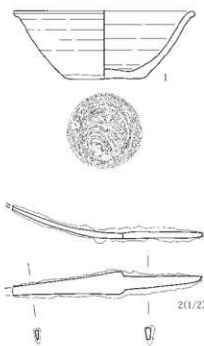
74号土坑

- 1 灰黄褐色土 微量の棒名二ツ岳白色軽石小粒(φ2~7mm大)・炭化粒子(φ2~4mm大)・小円礫(φ2~50mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色土 微量の棒名二ツ岳白色軽石小粒(φ2~20mm大)・炭化粒子(φ2~4mm大)を含む。羽口出土。
- 3 灰黄褐色土 微量の棒名二ツ岳白色軽石小粒(φ2~3mm大)と灰黄褐色土ブロックを含む。

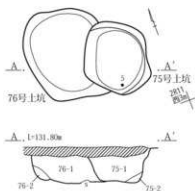
74号土坑



74号土坑

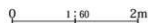
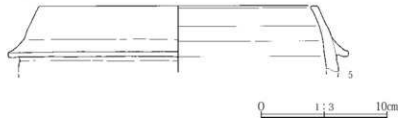


75・76号土坑



- 75-1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名二ツ岳白色軽石(φ2~40mm大)・炭化粒子(φ2~3mm大)を含む。
- 75-2 灰黄褐色シルト質土 灰黄褐色シルト質土ブロックを含む。(10YR5/2)
- 76-1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名二ツ岳白色軽石大粒(φ2~50mm大)・炭化粒子(φ1~3mm大)を含む。
- 76-2 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名二ツ岳白色軽石小粒(φ2~5mm大)と少量の灰黄褐色シルト質土を含む。

75号土坑



第667図 VIII区73~76号土坑と74・75号土坑の出土遺物

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は2.22m、短辺は1.87m、深さは0.19mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**遺物** 埋土から灰軸陶器の椀(1)や須恵器の椀(2)が出土した。

**時代** 平安時代10世紀前半。

#### 82号土坑(第668図、PL.356)

**グリッド** 13-2区S9

**長軸方位** N40°E

**新旧関係** 83号土坑が新。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.04m、短径は1.01m+、深さは0.52mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

#### 83号土坑(第668図、PL.356)

**グリッド** 13-2区S9

**長軸方位** N27°W

**新旧関係** 82号土坑が旧。

**形状と規模** 楕円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.18m、短径は1.05m、深さは0.68mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

#### 84号土坑(第669図、PL.356)

**グリッド** 13-2区S9

**長軸方位** N30°E

**新旧関係** 57号土坑が新。87号土坑が旧。

**形状と規模** 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.60m、短径は1.40m、深さは0.57mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**遺物** 埋土から須恵器の壺(1)が出土した。

**時代** 古墳時代以降である。

#### 87号土坑(第669図、PL.356)

**グリッド** 13-2区S9

**長軸方位** N53°W

**新旧関係** 84号土坑が新。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.25m+、短辺は1.01m+、深さは0.48mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**遺物** 埋土から須恵器の靱脚付壺(1)が出土した。

**時代** 奈良～平安時代。

#### 85号土坑(第669図、PL.356)

**グリッド** 13-2区T9

**長軸方位** N13°W

**新旧関係** 59号住居が旧。14号ピットが新。

**形状と規模** 不定形を呈し、断面形状は不明である。長径は0.96m+、短径は0.58m+、深さは0.28mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

#### 86号土坑(第669図)

**グリッド** 13-3区C16

**長軸方位** N33°W

**新旧関係** 94号住居が旧。

**形状と規模** 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.14m、短径は0.94m+、深さは0.25mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 10世紀より新。

#### 89号土坑(第669図、PL.357・444)

**グリッド** 13-2区S8

**長軸方位** N84°E

**新旧関係** なし。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は0.88m、短辺は0.66m、深さは0.17mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**遺物** 埋土から土師器の杯(2)が出土した。

**時代** 平安時代9世紀後半。

#### 91号土坑(第669図、PL.357)

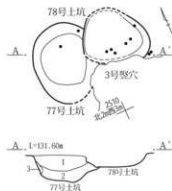
**グリッド** 13-2区S11

**長軸方位** N16°E

**新旧関係** なし。

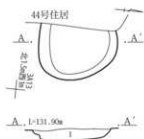


77・78号土坑



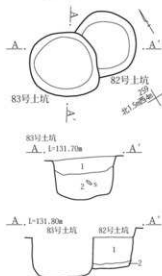
- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒・炭化粒子・焼土粒子(φ1~2mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。締りやや弱。
- 3 灰黄褐色土 微量のふい黄褐色土ブロックを含む。締りやや弱。(10YR4/2)

80号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土 少量の棒名ニツ岳白色軽石小粒・ふい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~10mm大)を含む。

82・83号土坑



81号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石と多量のふい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ10~20mm大)を含む。

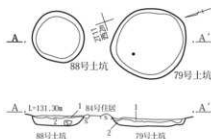
82号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~20mm大)・炭化物・粒・小円礫(φ2~10mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~5mm大)と少量のふい黄褐色シルト質土を含む。

83号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~20mm大)・炭化粒子(φ2~3mm大)・小円礫(φ2~5mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~10mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)・円礫(φ5~50mm大)を含む。締りやや弱。

79・88号土坑



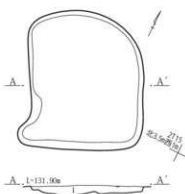
79号土坑

- 1 ふい黄褐色シルト質土 微量のふい黄褐色シルト質土混じりを含む。(10YR6/3) 締りやや弱。
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~10mm大)と小円礫(φ5~50mm大)と少量のふい黄褐色シルト質土を含む。

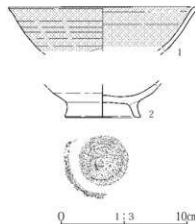
88号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR6/2) 少量のふい黄褐色土を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~4mm大)・炭化粒子(φ2~5mm大)・円礫(φ5~100mm大)を含む。

81号土坑



81号土坑



第668図 VIII区77・83・88号土坑と81号土坑の出土遺物

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.39m、短辺は0.70m、深さは0.20mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

#### 92号土坑(第669図、PL.357・444)

**グリッド** 13-2区T9

**長軸方位** N15°W

**新旧関係** なし。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長辺は1.49m、短辺は1.25m、深さは0.68mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**遺物** 埋土から鉄製品(3)が出土した。

**時代** 古墳時代以降である。

#### 93号土坑(第669図、PL.357)

**グリッド** 13-2区R10

**長軸方位** N3°W

**新旧関係** 56号住居が新。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.53m、短辺は0.83m、深さは0.10mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 10世紀後半より旧。

#### 94号土坑(第670図、PL.357)

**グリッド** 13-2区R11

**長軸方位** N33°W

**新旧関係** 98号住居が旧。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長辺は1.25m、短辺は1.23m、深さは0.34mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 10世紀より新。

#### 95号土坑(第670図、PL.357)

**グリッド** 13-2区S8

**長軸方位** N14°W

**新旧関係** 82号住居が新。98号土坑が旧。

**形状と規模** 楕円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は1.26m、短径は1.12m、深さは0.73mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 10世紀中頃より旧。

#### 98号土坑(第670図、PL.357)

**グリッド** 13-2区S8

**長軸方位** N85°E

**新旧関係** 95号土坑が新。

**形状と規模** 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.25m+、短径は1.15m、深さは0.23mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

#### 96号土坑(第670図、PL.357)

**グリッド** 13-2区S9

**長軸方位** N81°W

**新旧関係** 19・20号ピットが新。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は0.82m、短辺は0.53m、深さは0.20mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

#### 99号土坑(第670図、PL.357)

**グリッド** 13-2区S10

**長軸方位** N13°W

**新旧関係** なし。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は0.93m、短辺は0.65m、深さは0.25mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

#### 100号土坑(第670図、PL.357)

**グリッド** 13-2区S11

**長軸方位** N54°E

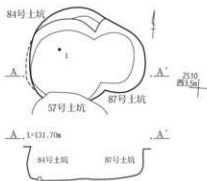
**新旧関係** 54号住居、101・118号土坑が旧。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.03m、短辺は0.93m、深さは0.42mである。

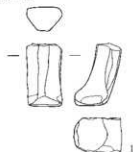
**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 10世紀前半より新。

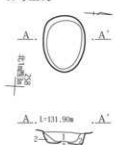
84・87号土坑



84号土坑

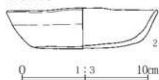


89号土坑

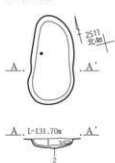


- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~5mm大)・炭化粒子(φ1~3mm大)を含む。(10YR4/2)
- 2 にぶい黄褐色シルト質土 少量のにぶい黄褐色土を含む。(10YR5/2)

89号土坑

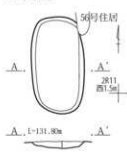


91号土坑

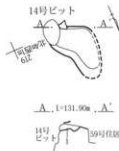


- 1 灰黄褐色土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~4mm大)・炭化粒子(φ1~3mm大)を含む。(10YR4/2)
- 2 にぶい黄褐色シルト質土 棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~3mm大)とにぶい黄褐色シルト質土ブロックを含む。(10YR5/3)

93号土坑



85号土坑



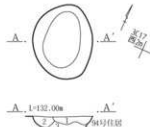
85号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~4mm大)・小円礫(φ5~30mm大)を含む。(10YR4/2)

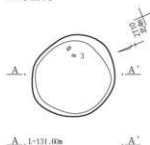
86号土坑

- 1 黄褐色砂質土 少量の棒名ニツ岳白色軽石小粒・にぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~15mm大)を含む。(10YR4/2)
- 2 灰黄褐色砂質土 少量の棒名ニツ岳白色軽石と多量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~15mm大)を含む。(10YR4/2)
- 3 黒褐色土砂質土 少量の棒名ニツ岳白色軽石とにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~15mm大)を含む。(10YR3/2)

86号土坑

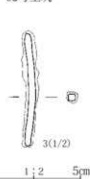


92号土坑



- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石(φ2~30mm大)・焼土粒子(φ1~3mm大)・炭化粒子(φ1~5mm大)とにぶい黄褐色シルト質土粒(φ2~5mm大)を含む。(10YR5/2)
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ2~7mm大)・焼土粒子(φ2~10mm大)・円礫(φ50~100mm大)を含む。(10YR4/2)

92号土坑



93号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)・焼土粒子(φ2~3mm大)と棒名ニツ岳火山灰ブロックを含む。締りやや弱。



第669図 VII区84~87・89・91~93号土坑と84・89・92号土坑の出土遺物

## 101号土坑(第670図、PL.357)

グリッド 13-2区S11

長軸方位 N43°E

新旧関係 57号住居、100号土坑が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.31m+、短辺は1.01m+、深さは0.33mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

## 118号土坑(第670図、PL.359)

グリッド 13-2区S11

長軸方位 N46°W

新旧関係 54号住居が旧。100号土坑が新。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は不明である。長径は0.83m、短径は0.78m+、深さは0.19mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

## 102号土坑(第671図、PL.358)

グリッド 13-2区T12

長軸方位 N68°E

新旧関係 95号住居、103号土坑が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.17m、短径は1.08m、深さは0.31mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 9世紀第1四半期より新。

## 103号土坑(第671図、PL.358)

グリッド 13-2区T12

長軸方位 N16°W

新旧関係 95号住居が旧。102号土坑が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.67m、短辺は1.16m+、深さは0.33mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 9世紀第1四半期より新。

## 104号土坑(第671図、PL.358)

グリッド 13-2区T12

長軸方位 N52°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は0.93m、短径は0.83m、深さは0.32mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の椀(1)が出土した。

時代 平安時代9世紀後半。

## 105号土坑(第671図、PL.358)

グリッド 13-2区S11

長軸方位 N62°W

新旧関係 24号ピットが旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.49m、短辺は1.03m、深さは0.10mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 106号土坑(第671図、PL.358)

グリッド 13-2区S11

新旧関係 54・95号住居、107号土坑が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

直径は1.30m、深さは0.39mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀前半より新。

## 107号土坑(第671図、PL.358)

グリッド 13-2区S11

長軸方位 N21°W

新旧関係 106号土坑が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い箱形を呈する。長辺は1.09m、短辺は0.94m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 108号土坑(第671図)

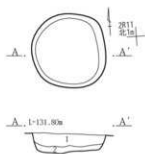
グリッド 13-2区O16

長軸方位 N16°E

新旧関係 62・63号住居が新。10号溝が旧。

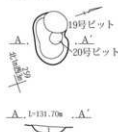
第4章 第2面の遺構と出土遺物

94号土坑



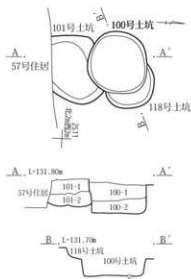
- 1 灰黄褐色土(10YR3/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$ 2~3mm大)・炭化粒子( $\phi$ 2~10mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 棒名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$ 2~5mm大)・小円礫( $\phi$ 3~10mm大)を含む。

96号土坑



- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) にふい・黄褐色FAシルト質土ブロックを含む。

100・101・118号土坑



100・101号土坑

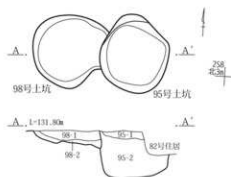
- 100-1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$ 2~20mm大)・炭化粒子( $\phi$ 2~3mm大)・小円礫( $\phi$ 10~50mm大)を含む。

- 100-2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$ 2~20mm大)・炭化粒子( $\phi$ 1~3mm大)を含む。

- 101-1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$ 2~10mm大)・炭化粒子( $\phi$ 1~2mm大)を含む。

- 101-2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$ 2~10mm大)・炭化粒子( $\phi$ 1~2mm大)とにふい・黄褐色シルト質土を含む。

95・98号土坑



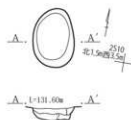
- 95-1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$ 2~3mm大)・炭化粒子( $\phi$ 2~5mm大)を含む。

- 95-2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒・炭化粒子( $\phi$ 2~10mm大)・円礫( $\phi$ 5~70mm大)を含む。締りやや弱。

- 98-1 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石( $\phi$ 2~30mm大)・炭化粒子( $\phi$ 2~3mm大)・にふい・黄褐色シルト質土ブロックを混入する。

- 98-2 灰黄褐色土(10YR4/2) 棒名ニツ岳白色軽石( $\phi$ 2~5mm大)・炭化粒子( $\phi$ 1~3mm大)を含む。にふい・黄褐色シルト質土ブロックを混入する。締りやや弱。

99号土坑



- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の棒名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$ 2~3mm大)・棒名ニツ岳火山灰を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳火山灰を含む。



第670図 VII区94~96・98~101・118号土坑

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は歪んだV字形を呈する。長辺は1.23m+、短辺は1.07m+、深さは0.17mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 10世紀後半より旧。

#### 109号土坑(第671図)

**グリッド** 13-2区N15

**新旧関係** なし。

**形状と規模** 歪んだ円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。直径は1.12m、深さは0.41mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

#### 110号土坑(第671図)

**グリッド** 13-2区N15

**長軸方位** N68°W

**新旧関係** 65号住居が旧。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は歪んだ箱形を呈する。長辺は1.37m、短辺は0.79m、深さは0.33mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 10世紀第1四半期より新。

#### 111号土坑(第672図、PL.358)

**グリッド** 13-2区T11

**長軸方位** N33°W

**新旧関係** 54・95号住居が旧。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.10m、短径は1.03m、深さは0.60mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 10世紀前半より新。

#### 112号土坑(第672図、PL.358)

**グリッド** 13-2区T9

**長軸方位** N66°E

**新旧関係** 59号住居、72号土坑が旧。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.42m、短辺は1.09m、深さは0.77mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 10世紀後半より新。

#### 114号土坑(第672図、PL.358)

**グリッド** 13-2区S12

**長軸方位** N74°E

**新旧関係** 54号住居が旧。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.27m、短辺は1.08m、深さは0.69mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 10世紀前半より新。

#### 115号土坑(第672図、PL.358)

**グリッド** 13-2区T10

**長軸方位** N39°W

**新旧関係** 116号土坑が新。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は0.89m+、短辺は0.84m、深さは0.46mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

#### 116号土坑(第672図、PL.358)

**グリッド** 13-2区T10

**長軸方位** N24°W

**新旧関係** 59号住居、115号土坑が旧。

**形状と規模** 楕円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.48m、短径は1.22m、深さは0.72mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 10世紀後半より新。

#### 117号土坑(第672図、PL.359)

**グリッド** 13-2区S11

**長軸方位** N65°W

**新旧関係** 57号住居が新。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.04m、短辺は0.92m、深さは0.60mである。

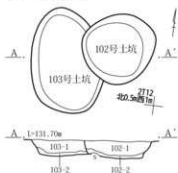
**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 10世紀後半より旧。

#### 119号土坑(第672図、PL.359)

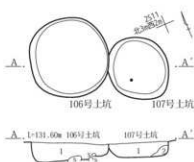
**グリッド** 13-2区S8

102・103号土坑



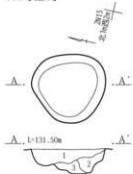
- 102-1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~3mm大)・炭化粒子(φ1~3mm大)を含む。  
 102-2 灰黄褐色土 少量のふい・黄褐色シルト質土を含む。  
 (10YR5/2)  
 103-1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~10mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)・焼土粒子(φ2~4mm大)を含む。  
 103-2 灰黄褐色土 少量のふい・黄褐色シルト質土を含む。  
 (10YR4/2)

106・107号土坑

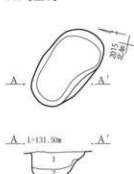


- 106号土坑  
 1 灰黄褐色土砂質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~5mm大)・円礫(φ10~200mm大)を含む。  
 (10YR4/2)  
 107号土坑  
 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~15mm大)・炭化粒子(φ2~5mm大)を含む。  
 2 灰黄褐色シルト質土 少量のふい・黄褐色シルト質土ブロックを含む。  
 (10YR4/2)

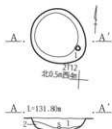
109号土坑



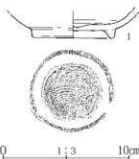
110号土坑



104号土坑

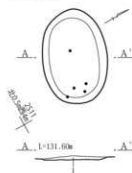


104号土坑



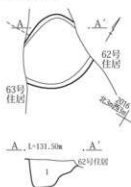
- 1 灰黄褐色土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ2~3mm大)を含む。  
 (10YR4/2)  
 2 灰黄褐色土 微量のふい・黄褐色土・小礫(φ10~40mm大)を含む。  
 (10YR4/2)

105号土坑



- 105号土坑  
 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~10mm大)・炭化粒子(φ2~3mm大)・焼土粒子(φ1~2mm大)を含む。  
 (10YR4/2)

108号土坑



- 108号土坑  
 1 灰黄褐色砂質土 少量の棒名ニツ岳白色軽石と多量のふい・黄褐色砂質シルト小ブロック(φ5~20mm大)を含む。  
 (10YR5/2)

109号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 多量の棒名ニツ岳白色軽石とふい・黄褐色砂質シルト小ブロック(φ5mm大)を含む。  
 (10YR5/2)  
 2 灰黄褐色砂質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石と少量のふい・黄褐色砂質シルト小ブロック(φ5~10mm大)を含む。  
 (10YR4/2)  
 3 灰黄褐色砂質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石と多量のふい・黄褐色砂質シルト小ブロック(φ5~30mm大)を含む。  
 (10YR6/2)

110号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 少量の棒名ニツ岳白色軽石とふい・黄褐色砂質シルトブロック(φ10~30mm大)を含む。  
 (10YR6/2)  
 2 少量のふい・黄褐色砂質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石を含む。  
 (10YR6/4)



第671図 VIII区102~110号土坑と104号土坑の出土遺物

長軸方位 N79° E

新旧関係 82号住居が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は半月形を呈する。

長径は1.45m、短径は0.73m+、深さは0.63mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀中頃より新。

#### 120号土坑(第672図)

グリッド 13-2区T13

長軸方位 N86° W

新旧関係 53号住居が旧。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.78m、短辺は0.93m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀前半より新。

#### 121号土坑(第673図)

グリッド 13-2区S13

長軸方位 N83° E

新旧関係 52号住居、197・198号土坑が旧。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は2.10m、短辺は1.39m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀初頭より新。

#### 195号土坑(第673図)

グリッド 13-2区S14

長軸方位 N74° E

新旧関係 52号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.55m、短辺は1.34m、深さは0.10mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀初頭より新。

#### 196号土坑(第673図)

グリッド 13-2区S13

長軸方位 N5° E

新旧関係 52号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.35m、短辺は0.95m、深さは0.12mで

ある。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀初頭より新。

#### 197号土坑(第673図)

グリッド 13-2区S13

長軸方位 N48° E

新旧関係 121号土坑が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.85m、短辺は0.82m+、深さは0.10mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

#### 122号土坑(第673図、PL.359)

グリッド 13-3区A11

長軸方位 N78° W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は0.81m、短辺は0.65m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなり、礫を多く含む。

時代 古墳時代以降である。

#### 123号土坑(第673図、PL.359)

グリッド 13-2区R9

長軸方位 N10° E

新旧関係 60号住居が新。147号土坑が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は1.12m、短径は1.01m、深さは0.37mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 11世紀より旧。

#### 147号土坑(第673図、PL.360)

グリッド 13-2区R9

長軸方位 N19° E

新旧関係 なし。

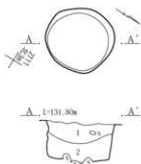
形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は1.15m+、短辺は1.03m+、深さは0.54mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。



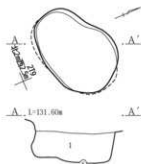
111号土坑



111号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の椶名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~10mm大)・炭化粒子(φ1~4mm大)・小円礫(φ10~50mm大)を含む。  
+シルト質土
- 2 灰黄褐色砂質土 微量の椶名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)・炭化粒子(φ1~3mm大)・円礫(φ20~200mm大)を含む。

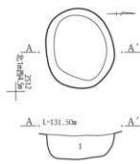
112号土坑



112号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の椶名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~5mm大)・炭化粒子(φ2~4mm大)・小円礫(φ10~50mm大)を含む。

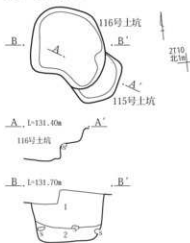
114号土坑



114号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の椶名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~15mm大)・炭化粒子・焼土粒子(φ1mm大)・小円礫(φ10~50mm大)を含む。締りやや弱。

115・116号土坑



116号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 微量の椶名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~5mm大)・炭化粒子(φ1~3mm大)・小円礫(φ5~70mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 微量の円礫(φ30~200mm大)・炭化粒子(φ2~5mm大)を含む。

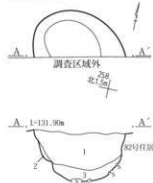
117号土坑



117号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の椶名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)・小円礫(φ5~20mm大)を含む。

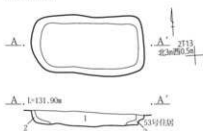
119号土坑



119号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 椶名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~10mm大)・炭化粒子(φ1~3mm大)・小円礫(φ30~70mm大)を含む。
- 2 にふい黄褐色土 にふい黄褐色シルト質土ブロックを含む。(10YR5/3)
- 3 黒褐色砂質土 少量の粗砂を混入する。微量の椶名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~4mm大)・円礫(φ40~100mm大)を含む。締りやや弱。

120号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土 少量の椶名ニツ岳白色軽石とにふい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~10mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 少量の椶名ニツ岳白色軽石と多量のにふい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~10mm大)を含む。



## 126号土坑(第673図、PL.359)

グリッド 13-3区A11

長軸方位 N47°W

新旧関係 なし。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状はV字形を呈する。長辺は0.69m、短辺は0.56m、深さは0.40mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 127号土坑(第673図、PL.359)

グリッド 13-2区Q11

長軸方位 N5°E

新旧関係 98号住居が旧。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は1.42m、短径は1.25m、深さは0.65mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀より新。

## 128号土坑(第673図、PL.359)

グリッド 13-2区Q12

長軸方位 N88°E

新旧関係 129号土坑が新。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.06m、短径は0.88m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 129号土坑(第673図、PL.359)

グリッド 13-2区Q12

長軸方位 N72°E

新旧関係 55号住居、128・138号土坑が旧。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.05m、短径は1.00m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀前半より新。

## 130号土坑(第673図、PL.359)

グリッド 13-2区R12

長軸方位 N8°E

新旧関係 なし。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.91m、短辺は0.85m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 131号土坑(第673図、PL.359)

グリッド 13-2区Q12

長軸方位 N86°E

新旧関係 なし。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.22m、短辺は0.95m、深さは0.16mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 132号土坑(第673図、PL.359)

グリッド 13-2区R11

長軸方位 N4°W

新旧関係 98号住居が旧。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.06m、短辺は0.84m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀より新。

## 133号土坑(第674図、PL.359)

グリッド 13-2区R10

長軸方位 N39°W

新旧関係 60・107号住居、146・158号土坑が旧。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.42m、短辺は0.90m、深さは0.44mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

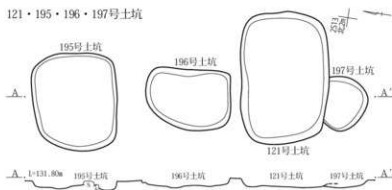
時代 11世紀より新。

## 158号土坑(第674図、PL.361)

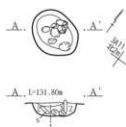
グリッド 13-2区R10

長軸方位 N19°E

121・195・196・197号土坑



122号土坑



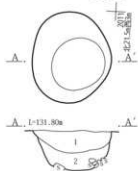
122号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の炭化粒子( $\phi$  1mm大)に、ふい、黄褐色FA?シルト質土を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量のふい、黄褐色シルト質土・炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)と少量の円礫( $\phi$  50~150mm大)を含む。FAのシルト質土の可能性あり。

126号土坑

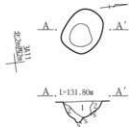
- 1 灰黄褐色土(10YR3/2) 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒( $\phi$  2~8mm大)・炭化粒子( $\phi$  2~10mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量のふい、黄褐色土・炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。

127号土坑

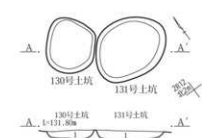


- 1 灰黄褐色シルト質 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒( $\phi$  2~5mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~4mm大)・円礫( $\phi$  20~70mm大)を+砂質土を含む。締りやや弱。
- 2 褐灰色砂質土 少量の円礫( $\phi$  10~100mm大)を含む。締りやや弱。(10YR4/1)

126号土坑



130・131号土坑



130号土坑

- 1 灰黄褐色土 微量の棒名ニッ岳白色軽石大粒( $\phi$  10~50mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。締りやや弱。

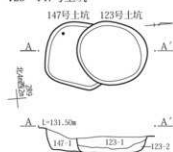
131号土坑

- 1 灰黄褐色土 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~3mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)・小円礫( $\phi$  10~30mm大)を含む。締りやや弱。

132号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 棒名ニッ岳白色軽石小粒( $\phi$  2~5mm大)とふい、黄褐色シルト質土を含む。

123・147号土坑



123-1

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒(10YR4/2) ( $\phi$  2~10mm大)とふい、黄褐色シルト質土を含む。

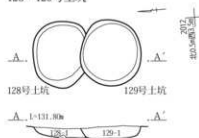
123-2

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒(10YR6/2) ( $\phi$  2~20mm大)とふい、黄褐色シルト質土を含む。

147-1

- 1 灰黄褐色土 微量の棒名ニッ岳白色軽石( $\phi$  1~30mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~3mm大)を含む。

128・129号土坑

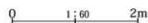


128-1

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~3mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~4mm大)を含む。締りやや弱。

129-1

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~3mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~4mm大)を含む。締りやや弱。



第673図 Ⅷ区121~123・126~132・195~197号土坑

**新旧関係** 133号土坑が新。148号土坑が旧。  
**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。  
 長径は1.08m、短径は0.97m、深さは0.34mである。  
**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。  
**時代** 古墳時代以降である。

134号土坑(第674図、PL.360・444)

**グリッド** 13-2区R10

**長軸方位** N72°W

**新旧関係** 60・97号住居、145号土坑が旧。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.32m、短径は0.93m、深さは0.23mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**遺物** 底直上から鉄釘(1)が出土した。

**時代** 11世紀より新。

135号土坑(第674図、PL.360)

**グリッド** 13-2区R10

**長軸方位** N69°W

**新旧関係** 60号住居が旧。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.65m、短径は0.53m、深さは0.08mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 11世紀より新。

137号土坑(第674図、PL.360)

**グリッド** 13-2区Q12

**長軸方位** N30°W

**新旧関係** 138号土坑が旧。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.90m、短径は0.88m、深さは0.20mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

138号土坑(第674図、PL.360)

**グリッド** 13-2区Q12

**長軸方位** N81°W

**新旧関係** 129・137土坑が新。139号土坑が旧。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.92m+、短径は0.63m+、深さは0.27mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

139号土坑(第674図、PL.360)

**グリッド** 13-2区Q12

**長軸方位** N58°W

**新旧関係** 128・138号土坑が新。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.02m+、短径は0.93m+、深さは0.31mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

141号土坑(第674図、PL.360)

**グリッド** 13-2区Q11

**長軸方位** N6°E

**新旧関係** 55号住居が旧。163号土坑が新。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.04m、短径は0.91m、深さは0.32mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**遺物** 埋土から須恵器の羽釜(2)が出土した。

**時代** 平安時代10世紀前半。

163号土坑(第674図、PL.361)

**グリッド** 13-2区Q11

**長軸方位** N37°E

**新旧関係** 55号住居、141号土坑が旧。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.01m、短径は0.98m、深さは0.60mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**遺物** 埋土から鉄滓(3)や須恵器の杯(4)が出土した。

**時代** 10世紀前半より新。

142号土坑(第675図、PL.360)

**グリッド** 13-2区R12

**長軸方位** N7°W

**新旧関係** 55号住居、2号竪穴が旧。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

第4章 第2面の遺構と出土遺物

長径は1.09m、短径は0.92m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の杯(1)が出土した。

時代 10世紀前半。

143号土坑(第675図、PL.360)

グリッド 13-2区S9

長軸方位 N17°W

新旧関係 82・96号住居が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.90m+、短径は0.62m+、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀より旧。

144号土坑(第675図、PL.360)

グリッド 13-2区R9

長軸方位 N70°E

新旧関係 60・96号住居、171号土坑が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.06m、短辺は0.98m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 11世紀より新。

145号土坑(第675図、PL.360)

グリッド 13-2区R10

長軸方位 N31°E

新旧関係 134号土坑が新。146号土坑が旧。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.45m+、短径は1.23m、深さは0.25mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

146号土坑(第675図、PL.360)

グリッド 13-2区R10

長軸方位 N80°W

新旧関係 133・145号土坑が新。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.51m+、短径は1.05m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

148号土坑(第675図、PL.360)

グリッド 13-2区R10

長軸方位 N9°W

新旧関係 153号土坑が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.53m+、短辺は1.16m、深さは0.22mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

153号土坑(第675図、PL.361)

グリッド 13-2区R10

長軸方位 N30°W

新旧関係 87号住居が新。148号土坑が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は1.00m+、短径は0.94m+、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

150号土坑(第675図、PL.361)

グリッド 13-2区R9

長軸方位 N37°W

新旧関係 136号土坑が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.67m、短辺は0.57m+、深さは0.08mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

154号土坑(第675図、PL.361)

グリッド 13-2区R9

長軸方位 N76°W

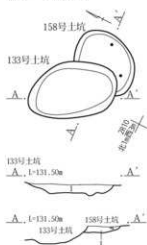
新旧関係 86号住居が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は1.60m、短辺は0.92m+、深さは0.31mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀第4四半期より旧。

## 133・158号土坑



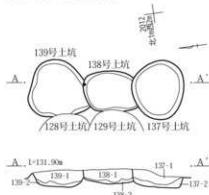
## 133号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2~5mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)・小礫φ 10~30mm大を含む。

## 158号土坑

- 1 灰黄褐色土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ 2~5mm大)、焼土粒子(φ 1mm大)を含む。

## 137・138・139号土坑



- 137-1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。

- 137-2 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)を含む。

- 138-1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~30mm大)を含む。

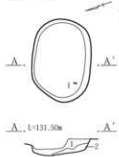
- 138-2 灰黄褐色土 棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~3mm大)を含む。

- 139-1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)を含む。

- 139-2 にぶい黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。



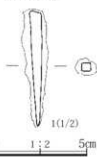
## 134号土坑



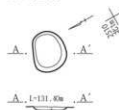
- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石(φ 2~30mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。締りやや弱。

- 2 にぶい黄褐色シルト質土 締りやや弱。下部は硬層、鉄釘出土。

## 134号土坑

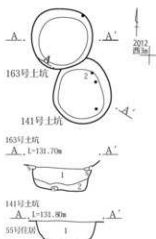


## 135号土坑

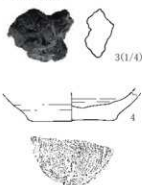


- 1 灰黄褐色土 微量のにぶい黄褐色シルト質土を含む。締りやや弱。白鼠出土。

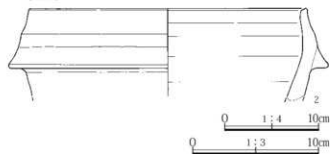
## 141・163号土坑



## 163号土坑



## 141号土坑



## 141号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石大粒(φ 1~50mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。締りやや弱。

## 163号土坑

- 1 灰黄褐色シルト・砂質土(10YR5/2) 微量の小円礫(φ 10~50mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR5/2) 砂質土中心層。

第674図 VII区133~135・137~139・141・158・163号土坑と134・141・163号土坑の出土遺物

155号土坑(第675図、PL.361・444)

グリッド 13-2区R11

長軸方位 N47°W

新旧関係 56号住居が新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長辺は0.93m、短辺は0.91m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の杯(2)が出土した。

時代 平安時代10世紀後半。

156号土坑(第676図、PL.361)

グリッド 13-2区O9

長軸方位 N49°E

新旧関係 60・96号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長辺は1.07m、短辺は1.01m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 11世紀より新。

157号土坑(第676図、PL.361)

グリッド 13-2区Q11

長軸方位 N12°E

新旧関係 98号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い箱形を呈する。

長辺は0.97m、短辺は0.84m、深さは0.25mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀より新。

159号土坑(第676図、PL.361)

グリッド 13-2区K11

長軸方位 N87°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長辺は1.02m、短辺は0.93m、深さは0.56mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

162号土坑(第676図、PL.361・444)

グリッド 13-2区Q10

長軸方位 N58°E

新旧関係 98号住居が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.09m、短辺は0.80m、深さは0.44mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の椀(1)が出土した。

時代 平安時代10世紀後半。

164号土坑(第676図、PL.361)

グリッド 13-2区R18

長軸方位 N40°E

新旧関係 55号住居が新。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.04m、短径は0.89m、深さは0.44mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀前半より旧。

165号土坑(第676図)

グリッド 13-3区A15

長軸方位 N18°W

新旧関係 39号住居が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.53m、短径は1.00m+、深さは0.13mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 9世紀第3四半期より旧。

166号土坑(第676図)

グリッド 13-2区T15

長軸方位 N63°E

新旧関係 40号住居が旧。44号土坑が新。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.48m、短辺は1.23m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

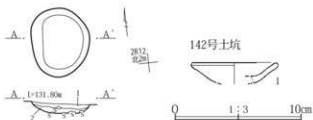
時代 10世紀より新。

167号土坑(第676図、PL.361)

グリッド 13-2区R9

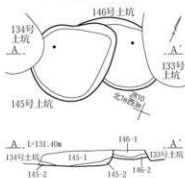
長軸方位 N3°W

142号土坑



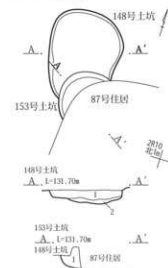
- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~3mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の小円礫( $\phi$  40~50mm大)を含む。

145・146号土坑



- 145-1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~10mm大)・焼土粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。締りやや弱。
- 145-2 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 締りやや弱。
- 146-1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の棒名ニッ岳白色軽石大粒( $\phi$  10~100mm大)を含む。締りやや弱。
- 146-2 泥い・黄褐色シルト質土(10YR6/4) 締りやや弱。

148・153号土坑

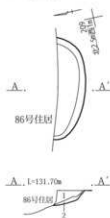


- 148号土坑  
1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒( $\phi$  2~10mm大)、(10YR4/2) 焼土粒子・炭化粒子( $\phi$  1~3mm大)を含む。
- 2 泥い・黄褐色シルト質土 微量の焼土粒子・炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)(10YR6/4) を含む。

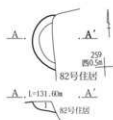
153号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~10mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。締りやや良。

154号土坑



143号土坑



143号土坑

- 1 灰黄褐色土 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~20mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~3mm大)を含む。

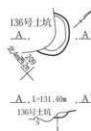
144号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2)

144号土坑



150号土坑



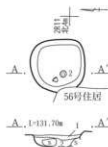
150号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒( $\phi$  3~20mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~3mm大)を含む。

154号土坑

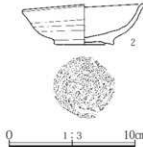
- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒( $\phi$  2~10mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~4mm大)・焼土粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 泥い・黄褐色シルト質土 泥い・黄褐色砂質土混じり。締りやや弱。(10YR5/3)

155号土坑



- 1 灰黄褐色土 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~2mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~3mm大)・焼土粒子( $\phi$  1mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色土 微量の円礫( $\phi$  30~200mm大)を含む。(10YR4/2)

155号土坑





**新旧関係** 169号土坑が旧。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長辺は0.96m、短辺は0.60m、深さは0.72mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

169号土坑(第676図、PL.362・444)

**グリッド** 13-2区R9

**長軸方位** N73°E

**新旧関係** 147・167号土坑が新。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状はU字形を呈する。長辺は1.00m+、短辺は0.82m、深さは0.58mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**遺物** 埋土から須恵器の椀(2)や杯(3)が出土した。

**時代** 平安時代10世紀後半。

170号土坑(第677図、PL.362・444)

**グリッド** 13-3区B10

**長軸方位** N75°W

**新旧関係** なし。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.20m、短径は1.04m、深さは0.77mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**遺物** 埋土から鉄釘(1)が出土した。

**時代** 古墳時代以降である。

171号土坑(第677図、PL.362)

**グリッド** 13-2区R9

**長軸方位** N78°E

**新旧関係** 60号住居が新。

**形状と規模** 長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.37m、短辺は1.07m+、深さは0.33mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 11世紀より旧。

172号土坑(第677図、PL.362)

**グリッド** 13-3区B11

**長軸方位** N26°W

**新旧関係** なし。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。

長辺は0.65m、短辺は0.63m、深さは0.31mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

173号土坑(第677図、PL.362)

**グリッド** 13-2区O13

**長軸方位** N41°E

**新旧関係** 11号溝が旧。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.37m、短辺は0.69m、深さは0.31mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

174号土坑(第677図、PL.362)

**グリッド** 13-2区T9

**長軸方位** N11°E

**新旧関係** なし。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は0.58m、短径は0.50m、深さは0.34mである。

**埋土** 黒褐色シルト質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

175号土坑(第677図、PL.362・444)

**グリッド** 13-3区A9

**長軸方位** N5°E

**新旧関係** なし。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は1.23m、短辺は0.80m、深さは0.29mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**遺物** 埋土から須恵器の椀(2)、皿(3)、杯(4)が出土した。

**時代** 古墳時代以降である。

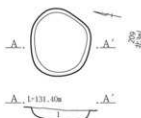
176号土坑(第677図、PL.362)

**グリッド** 13-3区A9

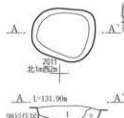
**長軸方位** N7°W

**新旧関係** なし。

156号土坑



157号土坑

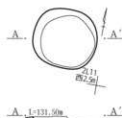


156号土坑

1 灰黄褐色シルト質土 (10YR5/2)

微量の棒名ニツ岳白色軽石 (φ 2~30mm大) と少量の炭化物 (φ 2~5mm大) にぶい黄褐色シルト質土を含む。

159号土坑



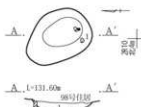
157号土坑

1 灰黄褐色土 (10YR5/2)

微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒 (φ 2~20mm大) を含む。締りやや良。  
2 灰黄褐色土 (10YR4/2)

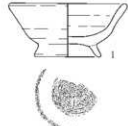
微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒 (φ 2~5mm大) を含む。締りやや良。

162号土坑



1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 微量の炭化粒子 (φ 1~3mm大)・小円礫 (φ 20~50mm大) を含む。締りやや弱。

162号土坑



159号土坑

1 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)

砂質シルト土。少量の棒名ニツ岳白色軽石・にぶい黄褐色砂質シルトブロック (φ 5~15mm大) と微量の炭化物を含む。

2 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)

砂質シルト土。少量のにぶい黄褐色砂質シルトブロック (φ 5~10mm大) を含む。

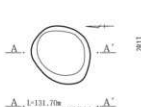
3 にぶい黄褐色砂質土 (10YR5/4)

砂質シルト土。灰白色シルトブロック (φ mm程) を混入する。

4 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)

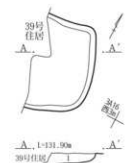
砂質シルト土。微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒 (φ 5mm大) を含む。締り弱。湿り気弱。

164号土坑



1 灰黄褐色土 (10YR5/2) 微量の炭化粒子 (φ 1~4mm大) と少量の小円礫 (φ 10~60mm大) を含む。

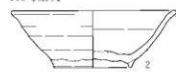
165号土坑



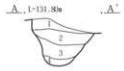
167・169号土坑



169号土坑



167号土坑



169号土坑



165号土坑

1 にぶい黄褐色砂質土 (10YR5/3) 少量の棒名ニツ岳白色軽石と多量の炭化物小粒 (φ 2~5mm大) を含む。

166号土坑



0 1:60 2m

1 にぶい黄褐色砂質土 (10YR5/3) 少量の棒名ニツ岳白色軽石と微量のにぶい黄褐色砂質シルトブロック (φ 10~30mm大) を含む。

167号土坑

1 灰黄褐色シルト質土 (10YR4/2)

微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒 (φ 1~20mm大) を含む。167号土坑を覆う層。

2 灰黄褐色シルト質土 (10YR4/2)

微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒 (φ 1~5mm大)・焼土粒子 (φ 1~2mm大)・炭化粒子 (φ 1~3mm大) を含む。1層上よりやや黒味のあり。

3 灰黄褐色シルト質土 (10YR4/2)

微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒 (φ 1~4mm大)・炭化粒子 (φ 1~3mm大) を含む。

4 灰黄褐色シルト質土 (10YR5/2)

微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒 (φ 1~2mm大)・炭化粒子 (φ 1~5mm大) を含む。

169号土坑

1 灰黄褐色シルト質土 (10YR4/2)

微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒 (φ 1~20mm大)・炭化粒子・焼土粒子 (φ 1~2mm大) を含む。

2 灰黄褐色シルト質土 (10YR4/2)

微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒 (φ 1~7mm大) (φ 1~3mm大) を含む。締りやや弱。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。  
長径は0.82m、短径は0.70m、深さは0.17mである。  
**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。  
**時代** 古墳時代以降である。

177号土坑(第677図、PL.362)

**グリッド** 13-3区A9

**長軸方位** N26°E

**新旧関係** なし。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。  
長径は1.05m、短径は0.84m、深さは0.44mである。  
**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。  
**時代** 古墳時代以降である。

178号土坑(第677図、PL.362)

**グリッド** 13-3区A8

**長軸方位** N54°W

**新旧関係** なし。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。  
長径は0.91m、短径は0.53m、深さは0.32mである。  
**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。  
**時代** 古墳時代以降である。

179・180号土坑(第678図、PL.362)

**グリッド** 13-3区A8

**長軸方位** N7°W

**新旧関係** 181号土坑が新。

**形状と規模** 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。  
長径は1.88m、短径は1.80m、深さは0.28mである。  
**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。  
**時代** 古墳時代以降である。

181号土坑(第678図、PL.362)

**グリッド** 13-3区A8

**長軸方位** N7°W

**新旧関係** 180号土坑が旧。

**形状と規模** 楕円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。  
長径は2.06m、短径は1.39m、深さは0.40mである。  
**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。  
**時代** 古墳時代以降である。

182号土坑(第678図、PL.362・363)

**グリッド** 13-3区B18

**長軸方位** N3°W

**新旧関係** 31号住居が新。192号土坑が旧。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。  
長径は1.49m、短径は1.20m、深さは0.41mである。  
**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。  
**時代** 10世紀前半より旧。

183号土坑(第678図、PL.362)

**グリッド** 13-3区B11

**長軸方位** N87°E

**新旧関係** 106号住居が新。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状はU字形を呈する。  
長径は0.79m、短径は0.76m、深さは0.62mで、柱穴の可能性はある。  
**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。  
**時代** 10世紀後半より旧。

184号土坑(第678図、PL.363)

**グリッド** 13-2区T12

**長軸方位** N37°W

**新旧関係** 39号ピットが新。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。  
長径は0.56m、短径は0.55m、深さは0.32mである。  
**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。  
**時代** 古墳時代以降である。

185号土坑(第678図、PL.363)

**グリッド** 13-2区T12

**長軸方位** N50°W

**新旧関係** なし。

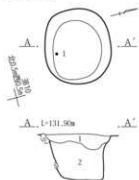
**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。  
長径は0.60m、短径は0.53m、深さは0.33mである。  
**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。  
**時代** 古墳時代以降である。

186号土坑(第678図、PL.363)

**グリッド** 13-2区T13

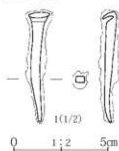
**長軸方位** N67°E

170号土坑



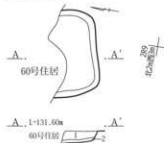
- 1 灰黄褐色シルト質土+砂質土少  
(10YR4/2)
- 2 灰黄褐色砂質土+シルト質土  
(10YR5/2)

170号土坑



- 微量の極名ニッ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~10mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)・小円礫( $\phi$  10~30mm大)を含む。
- 微量の極名ニッ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~5mm大)・小円礫( $\phi$  10~50mm大)を含む。

171号土坑



171号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の極名ニッ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~10mm大)・小円礫( $\phi$  20~30mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色シルト質土 微量の極名ニッ岳白色軽石小粒( $\phi$  2~3mm大)を含む。

172号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の極名ニッ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~8mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。

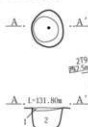
173号土坑



173号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 少量の極名ニッ岳白色軽石小粒とにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック( $\phi$  5~10mm大)を含む。

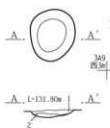
174号土坑



174号土坑

- 1 黒褐色シルト質土 炭化粒子( $\phi$  1~3mm大)・焼土粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 黒褐色シルト質土+砂質土 小円礫( $\phi$  10~40mm大)を含む。締りやや弱。

176号土坑



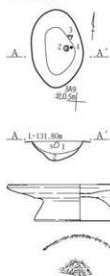
176号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の小円礫( $\phi$  10~50mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 暗灰黄色土(2.5Y4/2) 円礫( $\phi$  30~70mm大)を含む。締りやや弱。

177号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の円礫( $\phi$  70~200mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 黒褐色砂質土(10YR3/2)中心部 締りやや弱。

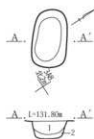
175号土坑



175号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の炭化粒子( $\phi$  1~3mm大)・小円礫( $\phi$  10~70mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 暗灰黄色土(2.5Y4/2) 小円礫( $\phi$  20~30mm大)を含む。締りやや弱。

178号土坑



- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2)+砂質土 微量の焼土粒子( $\phi$  1~5mm大)・小円礫( $\phi$  10~40mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR5/2)

第677図 Ⅷ区号170~178号土坑と170・175号土坑の出土遺物

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。

長径は0.62m、短径は0.57m、深さは0.37mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

187号土坑(第678図、PL.363)

グリッド 13-2区S13

長軸方位 N33°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状はU字形を呈する。

長径は0.56m、短径は0.48m、深さは0.41mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

188号土坑(第678図)

グリッド 13-2区R14

長軸方位 N53°E

新旧関係 49号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.36m、短辺は1.03m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀前半より新。

189号土坑(第679図、PL.363・444)

グリッド 13-2区S10

長軸方位 N23°E

新旧関係 74号土坑が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.42m、短辺は1.11m、深さは0.12mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなり、底面に焼土ブロックがみられる。

遺物 埋土から須恵器の杯(1)、鉄釘(2)が出土した。

時代 古墳時代以降である。

190号土坑(第679図、PL.363)

グリッド 13-2区S9

長軸方位 N78°W

新旧関係 97号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状はV字形を呈する。

長辺は0.60m、短辺は0.55m、深さは0.35mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

191号土坑(第679図、PL.363)

グリッド 13-2区T13

長軸方位 N30°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。

長径は0.64m、短径は0.59m、深さは0.37mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

192号土坑(第679図、PL.363)

グリッド 13-3区B18

長軸方位 N82°E

新旧関係 182号土坑が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.42m、短辺は1.03m、深さは0.27mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

193号土坑(第679図、PL.363)

グリッド 13-2区T13

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。直径は0.62m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

194号土坑(第679図、PL.363)

グリッド 13-3区B15

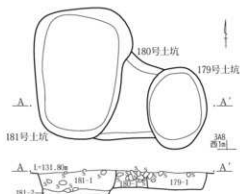
長軸方位 N27°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.07m、短辺は0.81m、深さは0.27mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

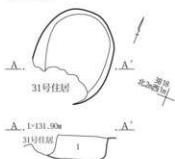
## 179～181号土坑



## 179～181号土坑

- 179-1 灰黄褐色土砂質土中心 シルト質土・炭化粒子(φ1～3mm大)・円礫(φ10～200mm大)を含む。(10YR4/2)
- 180-1 灰黄褐色シルト質土+砂質土 円礫(φ10～200mm大)を含む。(10YR4/2)
- 181-1 黒褐色シルト質土+砂質土 炭化粒子(φ1～2mm大)・円礫(φ10YR3/2) 10～100mm大)を含む。
- 181-2 暗灰黄色土砂質土 円礫(φ10～100mm大)を含む。(2.5Y5/2)

## 182号土坑



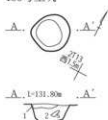
## 182号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 少量の様名ニツ岳白色軽石小粒(φ1～10mm大)・炭化粒子(φ1～3mm大)を含む。土シルト小ブロック(φ5～15mm大)と炭化物粒を含む。

## 183号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 様名ニツ岳白色軽石小粒(φ1～20mm大)・炭化粒子(φ1～3mm大)を含む。(10YR4/2)
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量の様名ニツ岳白色軽石小粒(φ1～2mm大)・炭化粒子(φ1mm大)を含む。(10YR5/2)

## 186号土坑



## 183号土坑



## 184号土坑



## 185号土坑



## 184号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の様名ニツ岳白色軽石小粒(φ1～10mm大)・炭化粒子(φ1～5mm大)・焼土粒子(φ1mm大)を含む。(10YR4/2)
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量の様名ニツ岳白色軽石小粒(φ1～5mm大)・炭化粒子(φ1～2mm大)を含む。(10YR4/2)

## 185号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の様名ニツ岳白色軽石小粒(φ1～10mm大)・炭化粒子(φ1～5mm大)・焼土粒子(φ1～2mm大)・円礫(φ20～150mm大)を含む。(10YR4/2)
- 2 黒褐色シルト質土 微量の様名ニツ岳白色軽石小粒(φ1～5mm大)・炭化粒子(φ1～3mm大)・小円礫(φ20～30mm大)を含む。縞りややがめ。

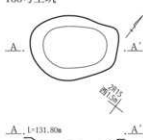
## 186号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の様名ニツ岳白色軽石小粒(φ1～20mm大)・炭化粒子・焼土粒子(φ1～3mm大)を含む。(10YR5/2)
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量の様名ニツ岳白色軽石・炭化粒子(φ1～3mm大)を含む。(10YR5/2)

## 187号土坑

- 1 灰黄褐色土 微量の様名ニツ岳白色軽石小粒(φ1～3mm大)・焼土粒子(φ1mm大)を含む。(10YR5/2)
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量の様名ニツ岳白色軽石小粒(φ1～5mm大)と、黄褐色シルト質土を含む。(10YR4/2)

## 188号土坑



時代 古墳時代以降である。

198号土坑(第679図)

グリッド 13-2区S13

長軸方位 N88°E

新旧関係 197号土坑が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は不明である。

長辺は1.33m+、短辺は0.70m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

199号土坑(第679図)

グリッド 13-2区M13

長軸方位 N30°W

新旧関係 201号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形である。

長径は1.88m、短径は0.84m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

201号土坑(第679図)

グリッド 13-2区M12

長軸方位 N52°W

新旧関係 199・202号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈す。

長径は1.62m、短径は1.36m+、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

200号土坑(第679図)

グリッド 13-2区M13

長軸方位 N17°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈す。

長辺は1.92m、短辺は1.40m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

202号土坑(第679図)

グリッド 13-2区M12

長軸方位 N57°W

新旧関係 201号土坑が旧。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈す。

長径は0.88m、短径は0.72m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

203号土坑(第679図)

グリッド 13-2区M12

長軸方位 N12°W

新旧関係 204号土坑が旧。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈す。

長辺は2.12m、短辺は1.33m、深さは0.31mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 203・204土坑埋土から須恵器の椀(3)が出土した。

時代 平安時代10世紀前半。

204号土坑(第679図)

グリッド 13-2区M12

長軸方位 N10°E

新旧関係 203号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長径は1.88m、短径は0.72m、深さは0.50mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 203号土坑と同。

時代 平安時代10世紀前半。

205号土坑(第680図)

グリッド 13-2区M12

長軸方位 N40°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈す。

長辺は1.38m、短辺は0.68m、深さは0.32mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

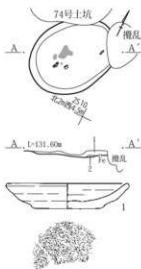
時代 古墳時代以降である。

206号土坑(第680図)

グリッド 13-2区M11

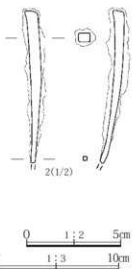
長軸方位 N10°W

189号土坑

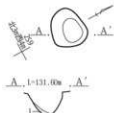


- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の種名ニツ岳白色軽石小粒・炭化物・焼土粒子( $\phi$  1~2mm大)、焼土を含む。
- 2 黒褐色シルト質土 微量の種名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~3mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。

189号土坑



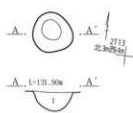
190号土坑



190号土坑

- 1 灰黄褐色土 微量の種名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$  2~10mm大)・小円礫( $\phi$  30mm)を含む。

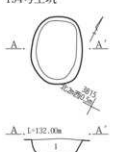
191号土坑



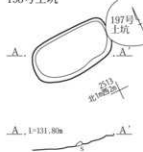
191号土坑

- 1 灰黄褐色土 微量の種名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~10mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~7mm大)・焼土粒子( $\phi$  1~3mm大)・小円礫( $\phi$  20~50mm大)を含む。

194号土坑

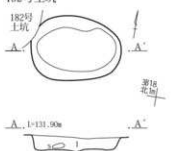


198号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土 微量の種名ニツ岳白色軽石・炭化物粒と少量のふい・黄褐色砂質土シルトブロック( $\phi$  5~30mm大)を含む。

192号土坑



192号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 少量の種名ニツ岳白色軽石小粒とふい・黄褐色砂質土シルト小ブロック( $\phi$  5~15mm大)と炭化物粒子を含む。

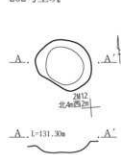
193号土坑

- 1 灰黄褐色土 微量の種名ニツ岳白色軽石小粒・炭化粒子( $\phi$  1~3mm大)、焼土粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。

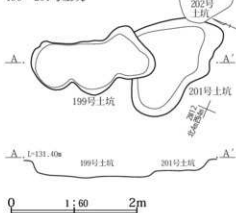
200号土坑



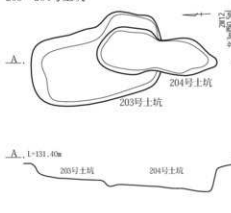
202号土坑



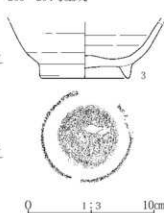
199・201号土坑



203・204号土坑



203・204号土坑



第679図 VII区189~194・198~204号土坑と189・203・204号土坑の出土遺物



**新旧関係** 115号住居が旧。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状はU字形を呈する。長辺は1.42m、短辺は0.42m、深さは0.46mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**遺物** 埋土から須恵器の杯(1)が出土した。

**時代** 平安時代11世紀前半。

207号土坑(第680図)

**グリッド** 13-2区N15

**長軸方位** N67°W

**新旧関係** なし。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は0.79m、短径は0.75m、深さは0.17mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

208号土坑(第680図、PL.363)

**グリッド** 13-2区P11

**長軸方位** N13°E

**新旧関係** 9号溝、209号土坑が旧。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は2.31m、短辺は1.64m、深さは0.26mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**遺物** 埋土から須恵器の碗(2)が出土した。

**時代** 平安時代10世紀。

209号土坑(第680図、PL.363)

**グリッド** 13-2区P11

**長軸方位** N9°E

**新旧関係** 9号溝が旧。208号土坑、55号ピットが新。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.47m+、短辺は0.82m、深さは0.26mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

210号土坑(第680図)

**グリッド** 13-2区L9

**長軸方位** N69°E

**新旧関係** 77号住居が新。

**形状と規模** 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.12m、短径は0.82m+、深さは0.28mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**遺物** 埋土から須恵器の杯(3)が出土した。

**時代** 平安時代10世紀。

211号土坑(第680図)

**グリッド** 13-2区M9

**長軸方位** N85°E

**新旧関係** 78号住居が新。

**形状と規模** 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.65m、短径は0.50m+、深さは0.14mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 10世紀第1四半期より旧。

212号土坑(第680図、PL.363)

**グリッド** 13-2区K7

**長軸方位** N67°W

**新旧関係** 117号住居が新。

**形状と規模** 楕円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は1.16m、短径は0.82m、深さは0.40mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 10世紀後半より旧。

213号土坑(第680図、PL.363)

**グリッド** 13-2区K6

**長軸方位** N33°E

**新旧関係** 119号住居が旧。

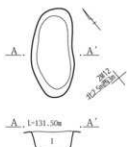
**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は1.15m+、短辺は1.23m、深さは0.32mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**遺物** 埋土から須恵器の羽釜(4)が出土した。

**時代** 平安時代10世紀後半。

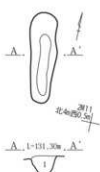
205号土坑



205・206号土坑

1 灰黄褐色砂質土 少量の種名ニツ岳白色軽石と多量の淡黄~にぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ5~20mm大)を含む。

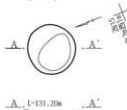
206号土坑



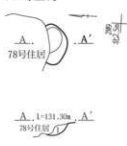
206号土坑



207号土坑



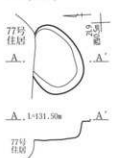
211号土坑



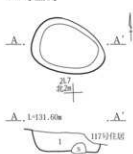
213号土坑



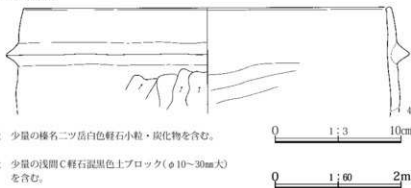
210号土坑



212号土坑

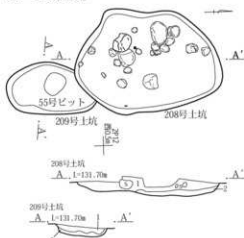


213号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土 少量の種名ニツ岳白色軽石小粒・炭化物を含む。(10YR4/2)
- 2 灰黄褐色砂質土 少量の浅間C軽石混黒色土ブロック(φ10~30mm大)を含む。(10YR5/2)

208・209号土坑



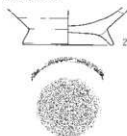
208号土坑

- 1 灰黄褐色土 微量の種名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)・炭化粒子(φ1~3mm大)・小円礫(φ20~100mm大)を含む。微量の鉄滓出土。
- 2 にぶい黄褐色土 微量の種名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)・炭化粒子(φ1~3mm大)を含む。(10YR5/4)

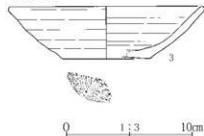
209号土坑

- 1 灰黄褐色土 微量の種名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~15mm大)と炭化粒子(φ1mm大)を含む。(10YR5/2)
- 2 にぶい黄褐色土 微量の種名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)・炭化粒子(φ1mm大)を含む。(10YR5/4)

208号土坑



210号土坑



211号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 多量の炭化物を含む。

212号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 少量の種名ニツ岳白色軽石小粒・炭化物を含む。(10YR4/2)

## 5. VIII区

### 2号土坑(第681図、PL.364)

グリッド 13-2区L13

長軸方位 N14°W

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長径は0.76m、短径は0.27m+、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

### 3号土坑(第681図、PL.364)

グリッド 13-2区K13

長軸方位 N77°E

新旧関係 4号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.14m、短辺は1.12m、深さは0.13mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から灰釉陶器の皿(1)、須恵器の羽釜(2)が出土した。

時代 平安時代10世紀前半。

### 5号土坑(第681図、PL.364)

グリッド 13-2区K9

長軸方位 N17°E

新旧関係 3号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長辺は0.65m、短辺は0.46m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀第2四半期より新。

### 6号土坑(第681図、PL.364)

グリッド 13-2区J9

長軸方位 N14°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長辺は0.73m、短辺は0.50m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

### 7号土坑(第681図、PL.364)

グリッド 13-2区J9

長軸方位 N4°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.32m、短辺は1.14m、深さは0.48mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

### 8号土坑(第681図、PL.364)

グリッド 13-2区L14

長軸方位 N20°W

新旧関係 1号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は歪んだV字形を呈する。長辺は1.25m、短辺は0.87m+、深さは0.35mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

### 9号土坑(第681図、PL.364・444)

グリッド 13-2区J7

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。直径は1.12m、深さは0.48mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から鉄釘(3)が出土した。

時代 古墳時代以降である。

### 10号土坑(第682図、PL.364)

グリッド 13-2区J7

長軸方位 N37°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状はV字形を呈する。長辺は0.91m+、短辺は0.85m+、深さは0.26mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

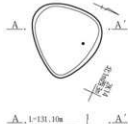
## 2号土坑



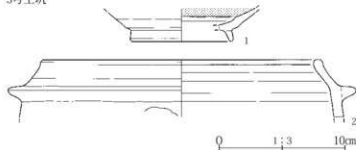
## 2号土坑

- ア におい黄褐色シルト質土 酸化層、鉄分沈着層、締りやや良。  
(10YR5/3)
- イ 褐色シルト質土 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒(φ2~30mm大)・浅間泥流石(φ10~80mm大)を含む。
- ウ におい黄褐色シルト質土 ア層上より酸化の部分が強い層、締りやや良。(10YR5/3)
- エ 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒(φ2~10mm大)・小円礫(φ20~30mm大)を含む。締りやや良。
- オ 明黄褐色シルト質土 酸化・鉄分沈着著しい層、締りやや良。(10YR5/8)
- カ 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒(φ2~20mm大)・炭化粒子(φ2~10mm大)を含む。締りやや弱。
- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒(φ1~3mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。締りやや弱。

## 3号土坑



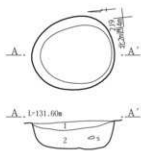
## 3号土坑



## 3号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒(φ2~20mm大)・炭化粒子(φ1~3mm大)・焼土粒子(φ1mm大)を含む。

## 7号土坑



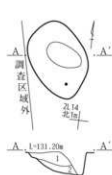
## 7号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒(φ1~3mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 1層上よりやや照味あり。微量の棒名ニッ岳白色軽石大粒(φ10~80mm大)を含む。

## 8号土坑

- 1 黒褐色シルト質土 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒(φ2~20mm大)・炭化粒子(φ1~5mm大)・小円礫(φ20~50mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量の炭化粒子(φ1~3mm大)を含む。(10YR4/2)

## 8号土坑



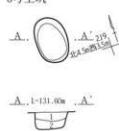
## 5号土坑



## 5号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒(φ1~3mm大)を含む。

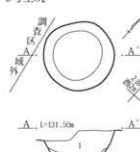
## 6号土坑



## 6号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 棒名ニッ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)を含む。
- 2 におい黄褐色シルト質土 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)を含む。(10YR5/3)

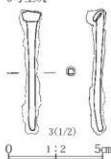
## 9号土坑



## 9号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) におい黄褐色シルト質土を含む。締りやや弱。

## 9号土坑



第681図 Ⅷ区2・3・5~9号土坑と3・9号土坑の出土遺物

11号土坑(第682図、PL.364)

グリッド 13-2区J7

長軸方位 N9°E

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は0.75m、短径は0.46m+、深さは0.19mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

12号土坑(第682図、PL.364・365)

グリッド 13-2区J6

長軸方位 N41°E

新旧関係 19号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は0.88m+、短径は0.71m、深さは0.27mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

19号土坑(第682図、PL.365)

グリッド 13-2区J6

長軸方位 N13°W

新旧関係 12号土坑が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は0.56m、短辺は0.17m+、深さは0.22mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

13号土坑(第682図、PL.364)

グリッド 13-2区I5

長軸方位 N22°W

新旧関係 17号土坑が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は1.41m、短辺は0.96m、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

14号土坑(第682図、PL.364)

グリッド 13-2区I5

長軸方位 N81°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.11m、短辺は0.88m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

15号土坑(第682図、PL.365)

グリッド 13-2区I4

長軸方位 N54°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.32m、短辺は0.96m、深さは0.28mである。

埋土 浅間Bテフラを含む黒褐色土からなる。

時代 12世紀初頭以降である。

16号土坑(第682図、PL.365)

グリッド 13-2区J6

長軸方位 N75°E

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は2.00m+、短径は1.60m、深さは0.41mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

17号土坑(第683図、PL.365)

グリッド 13-2区I6

長軸方位 N46°W

新旧関係 13号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は2.12m、短径は1.43m+、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

18号土坑(第683図、PL.365・444)

グリッド 13-2区I3

長軸方位 N73°E

新旧関係 14号住居が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.71m+、短径は0.82m、深さは0.44mである。

10号土坑



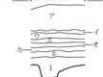
A, L=131.60m

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2)

11号土坑



A, L=132.40m



11号土坑

- ア 灰黄褐色土(10YR6/2) 極名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~10mm大)・小円礫(φ10~100mm大)を含む。
- イ ぶい黄褐色土(10YR4/3) 酸化鉄・鉄分沈着。ビニールを含む。
- ウ 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~3mm大)を含む。
- エ ぶい黄褐色土(10YR4/3) 酸化。微量の極名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~2mm大)を含む。
- オ 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~2mm大)を含む。
- カ ぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) 酸化。微量の極名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)を含む。
- キ 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)を含む。
- 1 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~3mm大)を含む。

14号土坑



A, L=131.30m

14号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 極名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~4mm大)を含む。
- 2 ぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) 微量の炭化粒子(φ1mm大)を含む。

15号土坑



A, L=131.60m

15号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 微量の浅間B軽石混じり。微量の極名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~4mm大)を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) 微量の浅間B軽石混じり。1層上より黒味強い。微量の極名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)・焼土粒子(φ1mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)

12・19号土坑



A, L=132.20m



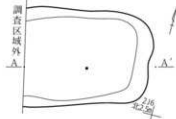
12・19号土坑

- ア 灰黄褐色土(10YR6/2) 極名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~10mm大)・小円礫(φ10~100mm大)を含む。
- イ ぶい黄褐色土(10YR4/3) 酸化鉄・鉄分沈着。ビニールを含む。
- ウ 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~3mm大)を含む。
- エ ぶい黄褐色土(10YR4/3) 酸化。微量の極名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~2mm大)を含む。
- オ 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~2mm大)を含む。
- 12-1 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2)+砂質土 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~7mm大)を含む。
- 12-2 灰黄褐色シルト質土(10YR6/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~3mm大)・炭化粒子(φ1mm大)を含む。
- 19-1 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~2mm大)・炭化粒子(φ1mm大)を含む。
- 19-2 ぶい黄褐色シルト質土(10YR5/3) 締りやや弱。

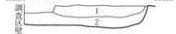
13号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 極名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 1層上に比べやや暗い色調。微量のFA配流土を含む。

16号土坑



A, L=131.60m



- 1 灰黄褐色土 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)・炭化粒子(φ1~3mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 灰黄褐色土 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)・炭化粒子(φ1~3mm大)を含む。締りやや弱。

0 1:60 2m

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**遺物** 埋土から紡錘車の軸の可能性のある鉄製品(1・2)が出土した。

**時代** 10世紀前半より旧。

20号土坑(第683図、PL.365)

**グリッド** 13-2区K13

**長軸方位** N35°E

**新旧関係** 1号土坑が新。21号土坑が旧。

**形状と規模** 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.42m+、短径は0.94m+、深さは0.16mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

21号土坑(第683図、PL.365)

**グリッド** 13-2区K13

**長軸方位** N55°W

**新旧関係** 6・7号住居が旧。1号土坑が新。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.75m+、短径は0.50m、深さは0.07mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 10世紀後半より新。

22号土坑(第683図、PL.365・444)

**グリッド** 13-2区K12

**長軸方位** N8°E

**新旧関係** 7号住居が新。23号土坑が旧。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.67m、短径は1.23m、深さは0.27mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**遺物** 埋土から鉄鏝(3)が出土した。

**時代** 10世紀後半より旧。

23号土坑(第683図、PL.365)

**グリッド** 13-2区K12

**長軸方位** N88°E

**新旧関係** 7号住居が新。22号土坑が新。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は0.95m、短径は0.91m、深さは0.46mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**遺物** 埋土から須恵器の杯(4)が出土した。

**時代** 平安時代11世紀。

24号土坑(第684図、PL.365)

**グリッド** 13-2区K13

**長軸方位** N66°E

**新旧関係** 4号住居が旧。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.82m、短径は0.75m、深さは0.07mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 10世紀第1四半期より新。

25号土坑(第684図、PL.365)

**グリッド** 13-2区K13

**長軸方位** N38°E

**新旧関係** 4号住居が旧。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.68m+、短径は0.32m+、深さは0.08mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 10世紀第1四半期より新。

26号土坑(第684図、PL.365)

**グリッド** 13-2区K12

**長軸方位** N57°E

**新旧関係** 7号住居が旧。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は0.82m、短径は0.78m、深さは0.33mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 10世紀後半より新。

28号土坑(第684図、PL.365)

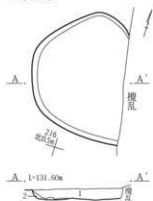
**グリッド** 13-2区I4

**長軸方位** N85°E

**新旧関係** 12・23号住居、56号土坑が旧。

**形状と規模** 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.15m+、短径は1.13m、深さは0.33mである。

17号土坑



17号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 微量の浅間C軽石小粒(φ1~2mm大)を含む。

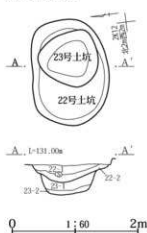
18号土坑

- A 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 現耕土。
- I 灰黄褐色土(10YR5/4) 天地返しにシルト質土が混入する。FP泥流土。

- ウ 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒(φ1~3mm大)を含む。
- エ 灰黄褐色シルト質土(10YR4/3) 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)を含む。
- オ 灰黄褐色シルト質土(10YR5/4) 工層上よりさらに酸化底強い。
- カ 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)を含む。

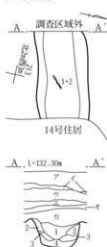
- 1 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒(φ1~2mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 灰黄褐色シルト質土(10YR5/3) 1層上にFP泥流シルト質土を含む。締りやや弱。
- 3 灰黄褐色シルト質土(10YR5/3) 2層上より少量のFP泥流土を混入。締りやや弱。
- 4 灰黄褐色シルト質土(10YR5/4) 2層上より多量のFP泥流土を混入。締りやや弱。

22・23号土坑

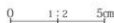
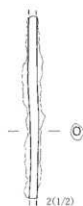
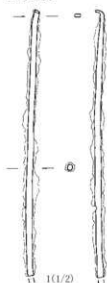


- 22-1 褐灰色砂質土(10YR4/1)
- 22-2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)
- 23-1 褐灰色砂質土(10YR4/1)
- 23-2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)

18号土坑



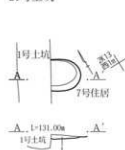
18号土坑



20号土坑



21号土坑

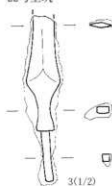


- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/1)

20号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)・焼土粒子(φ1mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニッ岳白色軽石(φ1~30mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。

22号土坑



23号土坑



第683図 Ⅷ区17・18・20~23号土坑と18・22・23号土坑の出土遺物



埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

29号土坑(第684図、PL.365)

グリッド 13-2区K12

長軸方位 N21°W

新旧関係 6号住居、23号土坑が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は0.96m+、短径は0.77m、深さは0.35mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀前半より旧。

30号土坑(第684図、PL.365)

グリッド 13-2区K12

長軸方位 N42°W

新旧関係 6号住居が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は0.68m、短径は0.66m+、深さは0.25mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀前半より新。

31号土坑(第684図、PL.366)

グリッド 13-2区I5

長軸方位 N42°E

新旧関係 12号住居が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状はU字形を呈する。長径は0.67m、短径は0.62m、深さは0.38mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀前半より新。

32号土坑(第684図、PL.366)

グリッド 13-2区I4

長軸方位 N39°W

新旧関係 12号住居が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状はU字形を呈する。長径は0.58m、短径は0.54m、深さは0.41mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀前半より新。

33号土坑(第685図、PL.366・445)

グリッド 13-2区I4

長軸方位 N16°W

新旧関係 12号住居が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.95m、短径は0.93m+、深さは0.29mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から鉄製品(1)が出土した。

時代 10世紀前半より新。

35号土坑(第685図、PL.366・445)

グリッド 13-2区I5

長軸方位 N11°E

新旧関係 1号溝が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は0.73m+、短径は1.05m、深さは0.44mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から鉄製品(2)が出土した。

時代 古墳時代以降である。

37号土坑(第685図、PL.366)

グリッド 13-2区H2

長軸方位 N34°E

新旧関係 10号住居が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は0.73m+、短径は0.92m、深さは0.25mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀第4四半期より新。

38号土坑(第685図、PL.366)

グリッド 13-2区H2

長軸方位 N19°W

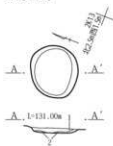
新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は0.98m+、短径は1.27m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 浅間Bテフラを含む褐灰色土に覆われるので、古墳時代以降で12世紀以前の古代に帰属する。

24号土坑



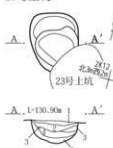
24号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の棒名二ツ房白色軽石小粒( $\phi$  1~5mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色シルト質土(10YR6/3) 地山土と覆上の混上。

25号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の炭化粒子( $\phi$  1~3mm大)・焼土粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物中心層。

29号土坑



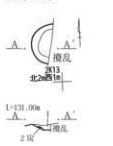
29号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の棒名二ツ房白色軽石小粒( $\phi$  1~3mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR7/2) 微量の炭化粒子( $\phi$  1mm大)を含む。締りやや弱。
- 3 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の炭化粒子( $\phi$  1mm大)を含む。締りやや弱。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 微量の炭化粒子( $\phi$  1mm大)を含む。締りやや弱。
- 5 褐灰色シルト質土(10YR5/1)と砂質土の混上 微量の炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。締りやや弱。

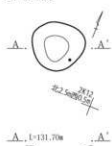
30号土坑

- 1 にぶい黄褐色土 微量の棒名二ツ房白色軽石小粒( $\phi$  1~2mm大)・炭化粒子( $\phi$  1mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 灰黄褐色土 微量の炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。締りやや弱。(10YR6/2)
- 3 灰黄褐色土 微量の炭化粒子( $\phi$  1~5mm大)・小円礫( $\phi$  20mm大)を含む。締りやや弱。(10YR5/2)

25号土坑



26号土坑



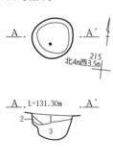
26号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)・小円礫( $\phi$  20~30mm大)を含む。
- 2 褐灰色シルト質土(10YR5/1)

28号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の棒名二ツ房白色軽石小粒( $\phi$  1~17mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~3mm大)を含む。
- 2 黒褐色シルト質土(10YR3/2) 微量の棒名二ツ房白色軽石小粒( $\phi$  1~3mm大)・小円礫( $\phi$  50mm大)を含む。
- 3 褐灰色シルト質土(10YR4/1) 微量の棒名二ツ房白色軽石小粒( $\phi$  1~2mm大)を含む。
- 4 にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) 微量の明黄褐色シルト質土を含む。
- 5 褐灰色砂質土(10YR4/1)

31号土坑



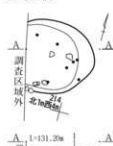
31号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名二ツ房白色軽石小粒( $\phi$  1~3mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~5mm大)を含む。締りやや弱。(10YR5/2)
- 2 にぶい黄褐色シルト質土 微量の炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。締りやや弱。(10YR6/3)
- 3 灰黄褐色シルト質土 微量の炭化粒子( $\phi$  1~3mm大)・小円礫( $\phi$  10~50mm大)を含む。締りやや弱。(10YR4/2)

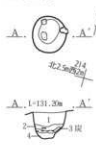
32号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の棒名二ツ房白色軽石小粒・炭化粒子( $\phi$  1~5mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。締りやや弱。
- 3 黒褐色シルト質土(10YR3/1) 炭化物中心層。締りやや弱。
- 4 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の炭化粒子( $\phi$  1mm大)を含む。締りやや弱。

28号土坑



32号土坑



0 1:60 2m

第684図 Ⅷ区24~26・28~32号土坑

39号土坑(第685図、PL.366)

グリッド 13-2区H2

長軸方位 N42°E

新旧関係 51号土坑が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は1.16m+、短径は1.00m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

40号土坑(第685図、PL.366)

グリッド 13-2区G2

長軸方位 N32°E

新旧関係 53号土坑が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は1.37m、短辺は1.05m、深さは0.13mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

41号土坑(第686図、PL.366)

グリッド 13-2区F1

長軸方位 N65°E

新旧関係 16号住居が旧。42号土坑が新。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は1.03m+、短径は0.84m、深さは0.27mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

42号土坑(第686図、PL.366)

グリッド 13-2区F1

長軸方位 N88°E

新旧関係 43号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.15m+、短径は1.11m+、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

43号土坑(第686図、PL.366)

グリッド 12-92区F20

長軸方位 N22°W

新旧関係 42・44~46号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は0.92m+、短径は1.27m+、深さは0.38mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

45号土坑(第686図、PL.366)

グリッド 12-92区E20

長軸方位 N60°W

新旧関係 43号土坑が新。44号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は1.14m+、短径は0.45m+、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

46号土坑(第686図、PL.366・367)

グリッド 12-92区F20

長軸方位 N60°W

新旧関係 42・43号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は0.96m、短径は0.28m、深さは0.19mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

44号土坑(第686図、PL.366)

グリッド 12-92区E20

長軸方位 N57°W

新旧関係 43・45号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は1.55m+、短径は0.85m+、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

47号土坑(第686図、PL.367)

グリッド 12-92区C19

長軸方位 N36°E

新旧関係 48号土坑が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状はU字形を呈する。長辺は1.00m、短辺は0.95m、深さは0.38mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

33号土坑



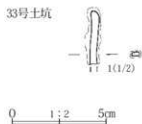
33号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)・炭化粒子(φ1~4mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~7mm大)・炭化粒子(φ1~3mm大)を含む。締りやや弱。

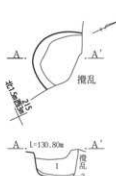
35号土坑

- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR5/4) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~3mm大)を含む。

33号土坑



35号土坑



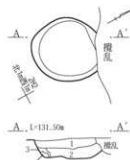
35号土坑

- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR5/4) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~3mm大)を含む。

35号土坑

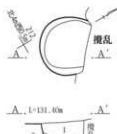


39号土坑



- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)を含む。
- 3 にぶい黄褐色シルト質土(10YR7/4)ブロックを含む。
- 4 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 少量のにぶい黄褐色シルト質土を含む。

37号土坑



37号土坑

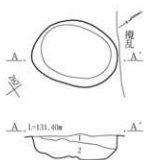
- 1 灰黄褐色土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~3mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1mm大)と少量のにぶい黄褐色砂質土を下層に含む。

38号土坑

- 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 現耕土。
- 褐色シルト質土(10YR5/1) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)を含む。
- にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) 床上、微量の棒名ニツ岳白色軽石(φ10~30mm大)を含む。
- 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)を含む。
- 褐色土(10YR4/1) 少量の浅間B軽石を含む。微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)を含む。

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)を含む。
- 3 にぶい黄褐色シルト質土(10YR7/2)ブロック
- 4 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) にぶい黄褐色土ブロックを混入。
- 5 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~10mm大)・円礫(φ150mm大)を含む。

40号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~30mm大)を含む。

0 1:60 2m

時代 古墳時代以降である。

51号土坑(第686図、PL.367)

グリッド 13-2区H2

長軸方位 N38°E

新旧関係 39・50号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い箱形を呈する。長径は1.31m+、短径は0.72m+、深さは0.19mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

53号土坑(第686図、PL.367)

グリッド 13-2区H2

長軸方位 N74°E

新旧関係 54号土坑が旧。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.93m+、短径は0.64m+、深さは0.16mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

55号土坑(第686図、PL.367)

グリッド 13-2区G1

長軸方位 N47°E

新旧関係 15号住居が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.07m+、短径は1.05m+、深さは0.38mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀第4四半期より新。

48号土坑(第687図、PL.367)

グリッド 12-92区C19

長軸方位 N33°E

新旧関係 47号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は3.62m+、短径は0.88m+、深さは0.79mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土が成層して坑を埋める。

時代 古墳時代以降である。

50号土坑(第687図、PL.367)

グリッド 13-2区H2

長軸方位 N58°W

新旧関係 51・52号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.24m、短径は0.54m+、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 浅間Bテフラを含む褐灰色土に覆われるので、古墳時代以降で12世紀以前の古代に帰属する。

52号土坑(第687図、PL.367)

グリッド 13-2区H2

長軸方位 N67°W

新旧関係 50号土坑が新。54号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は0.93m+、短径は0.37m+、深さは0.11mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 浅間Bテフラを含む褐灰色土に覆われるので、古墳時代以降で12世紀以前の古代に帰属する。

54号土坑(第687図、PL.367)

グリッド 13-2区H2

長軸方位 N58°W

新旧関係 52・53号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.23m+、短径は0.42m+、深さは0.08mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 浅間Bテフラを含む褐灰色土に覆われるので、古墳時代以降で12世紀以前の古代に帰属する。

57号土坑(第687図、PL.367・445)

グリッド 13-2区J10

長軸方位 N77°W

新旧関係 3号復旧痕、3号住居が新。

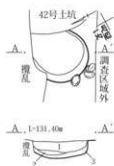
形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は2.50m+、短径は1.90m+、深さは0.47mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

遺物 埋土から灰釉陶器の皿(1)が出土した。

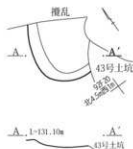
時代 平安時代10世紀前半。

## 41号土坑



- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石(φ1~3mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR6/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石(φ1~4mm大)を含む。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR5/4) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~3mm大)を含む。

## 42号土坑



- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 視眼上、締り弱。

イ にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) 酸化床上。微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~2mm大)を含む。

ウ 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)を含む。

エ にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/3) 酸化床上。微量の棒名ニツ岳白色軽石(φ1~30mm大)を含む。

オ 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)を含む。

43-1 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石(φ1~40mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。

43-2 にぶい黄褐色土(10YR6/3) 微量のFP泥炭シルト質土を含む。

43-3 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石(φ1~40mm大)を含む。

43-4 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)を含む。

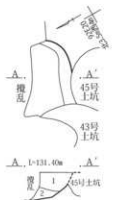
45-1 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。

45-2 灰黄褐色土(10YR6/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~10mm大)を含む。

46-1 褐灰色土(10YR4/1) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)・炭化粒子(φ1~5mm大)を含む。

46-2 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石(φ1~30mm大)を含む。

## 44号土坑



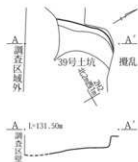
## 44号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石(φ1~30mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~20mm大)を含む。締りやや弱。

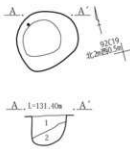
## 47号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石大粒(φ10~100mm大)を含む。FP粒を多く含む層。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石大粒(φ10~60mm大)を含む。FP粒を多く含む層。

## 51号土坑



## 47号土坑



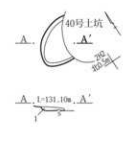
## 44号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石(φ1~30mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~20mm大)を含む。締りやや弱。

## 47号土坑

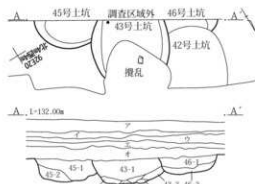
- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石大粒(φ10~100mm大)を含む。FP粒を多く含む層。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石大粒(φ10~60mm大)を含む。FP粒を多く含む層。

## 51号土坑



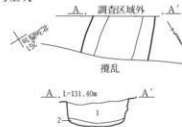
第686図 Ⅷ区41~47・51・53・55号土坑

## 43・45・46号土坑



- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 視眼上、締り弱。
- イ にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) 酸化床上。微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~2mm大)を含む。
- ウ 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)を含む。
- エ にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/3) 酸化床上。微量の棒名ニツ岳白色軽石(φ1~30mm大)を含む。
- オ 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)を含む。
- 43-1 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石(φ1~40mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。
- 43-2 にぶい黄褐色土(10YR6/3) 微量のFP泥炭シルト質土を含む。
- 43-3 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石(φ1~40mm大)を含む。
- 43-4 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)を含む。
- 45-1 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。
- 45-2 灰黄褐色土(10YR6/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ2~10mm大)を含む。
- 46-1 褐灰色土(10YR4/1) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)・炭化粒子(φ1~5mm大)を含む。
- 46-2 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石(φ1~30mm大)を含む。

## 55号土坑



## 55号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石(φ1~30mm大)を含む。

## 53号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石(φ1~30mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。

0 1:60 2m

58号土坑(第687図、PL.367)

グリッド 13-2区K11

長軸方位 N77°W

新旧関係 3号住居、57号土坑が新。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.44m+、短径は0.71m+、深さは0.22mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

56号土坑(第688図、PL.367)

グリッド 13-2区I4

長軸方位 N13°W

新旧関係 23号住居が旧。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.67m、短径は0.40m+、深さは0.58mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

59号土坑(第688図、PL.367)

グリッド 13-2区K10

長軸方位 N86°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.76m、短辺は0.59m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

60号土坑(第688図、PL.367)

グリッド 13-2区J7

長軸方位 N5°E

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.98m、短径は0.35m+、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

61号土坑(第688図、PL.368)

グリッド 13-2区I7

長軸方位 N14°W

新旧関係 8号ピットが新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は1.32m、短径は0.32m+、深さは0.25mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

62号土坑(第688図、PL.368)

グリッド 13-2区I6

長軸方位 N11°E

新旧関係 なし。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状はV字形を呈する。

長径は0.83m、短径は0.70m、深さは0.54mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

63号土坑(第688図、PL.368)

グリッド 13-2区J6

長軸方位 N78°W

新旧関係 なし。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は1.07m、短径は0.93m、深さは0.26mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

64号土坑(第688図、PL.368)

グリッド 13-2区I5

長軸方位 N42°W

新旧関係 なし。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は0.93m+、短径は0.37m+、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色シルト質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

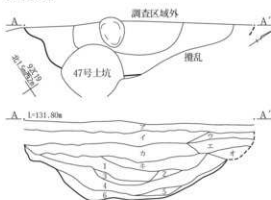
65号土坑(第688図、PL.368)

グリッド 13-2区I3

長軸方位 N29°E

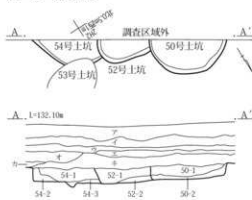
新旧関係 なし。

48号土坑



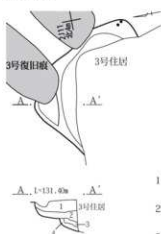
- ア 灰黄褐色シルト質土(10YR6/2) 水田耕上。現耕土の下の層。他の場所のイ層上に当たる。
- イ にぶい黄褐色土(10YR5/3) 床土。微量の棒名ニツ岳白色軽石大粒(φ 1~50mm大)を含む。
- ウ 褐灰色シルト質土(10YR5/1) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)を含む。
- エ 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm)を含む。
- オ にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/3) 微量の棒名ニツ岳白色軽石粒(φ 1~30mm大)を含む。
- カ 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 砂質土中心層。微量の棒名ニツ岳白色軽石大粒(φ 1~80mm大)を含む。
- キ 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm)を含む。
- 1 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) 微量の棒名ニツ岳白色軽石粒(φ 1~30mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~3mm)を含む。
- 3 にぶい黄色土(2.5Y6/4) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm)を含む。
- 4 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 砂質土中心層。微量の棒名ニツ岳白色軽石粒(φ 2~30mm)を含む。
- 5 黄褐色シルト質土(2.5Y5/3) 砂質土中心層。微量の棒名ニツ岳白色軽石粒(φ 1~30mm)を含む。
- 6 にぶい黄色シルト質土(2.5Y6/3) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)を含む。

50・52・54号土坑

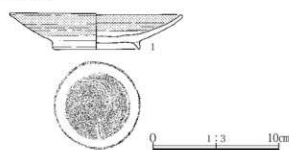


- ア 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 現耕土。
- イ 褐灰色シルト質土(10YR5/1) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。
- ウ にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) 床土。微量の棒名ニツ岳白色軽石(φ 10~30mm)を含む。
- エ 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)を含む。
- オ 褐灰色土(10YR4/1) 少量の浅間B軽石を含む。微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。
- カ 灰黄褐色土(10YR6/2) 少量のFA・FP泥流シルト質土を含む。
- キ にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。
- 50-1 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。
- 50-2 にぶい黄褐色シルト質土(10YR6/3) 少量のFPシルト質土を含む。
- 52-1 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~7mm大)を含む。
- 52-2 にぶい黄褐色シルト質土(10YR6/4) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~5mm大)、少量のFPシルト質土を含む。
- 54-1 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。
- 54-2 灰黄褐色シルト質土(10YR6/2) 微量の炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。
- 54-3 にぶい黄褐色シルト質土(10YR7/2) 多量のFPシルト質土を含む。

57号土坑



57号土坑



- 1 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~7mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~15mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色土(10YR6/2) FP泥流シルト質土。
- 4 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~2mm大)を含む。

58号土坑



- 1 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~3mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)

第687図 Ⅷ区48・50・52・54・57・58号土坑と57号土坑の出土遺物



**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は0.51m、短径は0.50m、深さは0.27mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

66号土坑(第689図、PL.368)

**グリッド** 12-92区C 19

**長軸方位** N47°W

**新旧関係** 67号土坑が新。

**形状と規模** 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.68m、短径は0.33m+、深さは0.17mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

67号土坑(第689図、PL.368)

**グリッド** 12-92区C 19

**長軸方位** N61°W

**新旧関係** 66号土坑が旧。

**形状と規模** 不定形を呈し、断面形状はT字形を呈する。長径は0.84m+、短径は0.20m+、深さは0.73mで、柱痕を有する柱穴の形状を呈する。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

68号土坑(第689図、PL.368)

**グリッド** 12-91区P 14

**長軸方位** N59°W

**新旧関係** 20号住居が旧。

**形状と規模** 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.29m、短径は0.32m+、深さは0.25mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

69号土坑(第689図、PL.368)

**グリッド** 12-91区O 13

**長軸方位** N32°W

**新旧関係** なし。

**形状と規模** 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長径は1.28m、短径は1.02m+、深さは0.25mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

70号土坑(第689図、PL.368)

**グリッド** 12-91区L 12

**長軸方位** N28°E

**新旧関係** なし。

**形状と規模** 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.54m+、短径は0.63m、深さは0.19mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

71号土坑(第689図、PL.368)

**グリッド** 12-91区K 11

**長軸方位** N16°E

**新旧関係** なし。

**形状と規模** 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.64m+、短径は0.63m、深さは0.20mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

72号土坑(第689図、PL.368)

**グリッド** 12-92区D 19

**長軸方位** N54°W

**新旧関係** 73号土坑が旧。

**形状と規模** 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は1.87m+、短径は0.67m+、深さは0.48mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

73号土坑(第689図)

**グリッド** 12-92区D 19

**長軸方位** N54°W

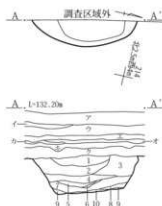
**新旧関係** 72号土坑が新。

**形状と規模** 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は2.58m+、短径は0.53m+、深さは0.64mである。

**埋土** 灰黄褐色シルト質土からなる。

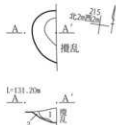
**時代** 古墳時代以降である。

56号土坑

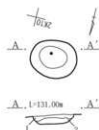


- ア 黄褐色シルト質土(2.5Y5/4) 少量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ10~200mm大)を含む。FP泥流B層上。
- イ 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~4mm大)を含む。
- ウ 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)を含む。
- エ 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)を含む。
- オ 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~2mm大)を含む。
- カ 黒褐色シルト質土(10YR3/2) 微量の炭化物を含む。
- キ 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 榛名二ツ岳白色軽石を含む。
- ク 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量のふいふ黄褐色土・炭化粒子(φ1~4mm大)を含む。
- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~2mm大)を含む。
- 2 ぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) 微量の炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)を含む。
- 4 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)を含む。
- 5 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~2mm大)を含む。
- 6 黒褐色シルト質土(10YR3/2) 微量の炭化物を含む。
- 7 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 榛名二ツ岳白色軽石を含む。
- 8 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) ぶい黄褐色土と微量の炭化粒子(φ1~4mm大)を含む。
- 9 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~2mm大)を含む。
- 10 ぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) 微量の炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。

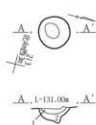
64号土坑



59号土坑



65号土坑



60号土坑



59号土坑

- 1 ぶい黄褐色土(10YR7/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ2~10mm大)を含む。掃りやや弱。
- 2 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ2~5mm大)を含む。掃りやや弱。

60号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)・浅間C軽石小粒(φ1~8mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の浅間C軽石小粒(φ1~3mm大)を含む。

61号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の浅間C軽石小粒(φ1~3mm大)・炭化粒子(φ2~5mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の浅間C軽石小粒(φ1~2mm大)を含む。

62号土坑



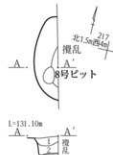
62号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2) 炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。
- 2 ぶい黄褐色土(10YR5/3) ぶい黄褐色シルト混じり。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の浅間C軽石小粒・炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。

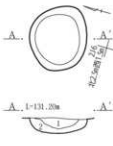
63号土坑

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 浅間C軽石小粒(φ1~3mm大)を含む。
- 2 ぶい黄褐色シルト質土(10YR5/3)

61号土坑

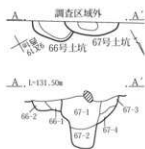


63号土坑

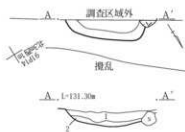


0 1:60 2m

66・67号土坑



68号土坑



69号土坑



- 66-1 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/3) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。埴りやや良。
- 66-2 灰黄色シルト質土(2.5YR6/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)を含む。埴りやや良。
- 67-1 暗褐色シルト質土(10YR3/3) 微量の極名ニツ岳白色軽石大粒(φ 1~50mm大)を含む。埴りやや良。
- 67-2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)を含む。埴りやや良。
- 67-3 にぶい黄褐色シルト質土(10YR6/3) 微量の極名ニツ岳白色軽石(φ 1~30mm大)を含む。埴りやや良。
- 67-4 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)を含む。埴りやや良。

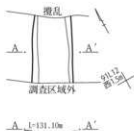
68号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)・炭化粒子(φ 1~2mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。

69号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石(φ 1~40mm大)・小円礫(φ 20~50mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色シルト質土(10YR6/3) 少量のFF泥流シルト土を含む。埴りやや弱。
- 3 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)・炭化粒子(φ 1mm大)を含む。埴りやや弱。

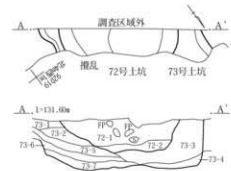
70号土坑



71号土坑



72・73号土坑



- 72-1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)・小礫(φ 2~20mm大)を含む。
- 72-2 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。
- 73-1 にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~10mm大)を含む。
- 73-2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石(φ 1~30mm大)を含む。
- 73-3 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)・小円礫(φ 20~50mm大)を含む。少量の極名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1~20mm大)を含む。
- 73-4 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石(φ 1~30mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。
- 73-5 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石(φ 1~30mm大)・炭化粒子(φ 1~3mm大)を含む。
- 73-6 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石大粒(φ 1~50mm大)を含む。
- 73-7 にぶい黄褐色シルト質土(10YR6/3) 少量の極名ニツ岳白色軽石大粒(φ 1~80mm大)を含む。

0 1:60 2m

第689図 VII区66~73号土坑

## 6. IX区

## 1号土坑(第690図、PL.369)

グリッド 13-2区A 1

長軸方位 N60°E

新旧関係 なし。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.95m、短辺は0.78m、深さは0.08mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 2号土坑(第690図、PL.369)

グリッド 12-92区H20

長軸方位 N27°W

新旧関係 なし。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.98m、短辺は0.70m、深さは0.10mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から須器の椀(1)が出土した。

時代 平安時代9世紀後半。

## 3号土坑(第690図、PL.369)

グリッド 12-92区H20

長軸方位 N28°W

新旧関係 なし。

**形状と規模** 長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.57m、短辺は0.65m、深さは0.05mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 4号土坑(第690図、PL.369)

グリッド 12-92区H20

長軸方位 N2°E

新旧関係 なし。

**形状と規模** 長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は2.39m、短辺は1.33m、深さは0.27mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 5号土坑(第690図、PL.369)

グリッド 12-92区H20

長軸方位 N4°W

新旧関係 なし。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は0.68m、短辺は0.52m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 6号土坑(第690図、PL.369)

グリッド 12-92区H19

長軸方位 N73°W

新旧関係 なし。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は0.78m、短辺は0.75m、深さは0.31mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 7号土坑(第690図、PL.369)

グリッド 12-92区H19

長軸方位 N16°W

新旧関係 なし。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.60m、短辺は0.53m、深さは0.12mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 8号土坑(第690図、PL.369)

グリッド 12-92区H20

長軸方位 N73°W

新旧関係 なし。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は0.70m、短辺は0.56m、深さは0.26mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

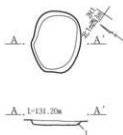
時代 古墳時代以降である。

## 9号土坑(第691図、PL.369)

グリッド 12-92区G20

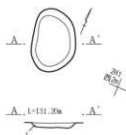
第4章 第2面の遺構と出土遺物

1号土坑



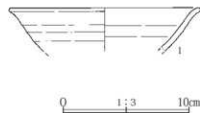
- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の椀名ニツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ1~3mm大)を含む。締りやや弱。

2号土坑



- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の椀名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。

2号土坑

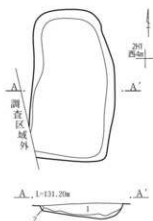


3号土坑



- 1 灰黄褐色シルト質土 微量の椀名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。

4号土坑



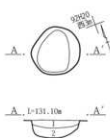
- 1 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の椀名ニツ岳白色軽石大粒(φ1~60mm大)・炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。  
2 にぶい黄褐色土(10YR6/3) 微量の椀名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)を含む。

5号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土 微量の椀名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)を含む。  
2 にぶい黄褐色砂質土 微量の椀名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~3mm大)を含む。

6号土坑



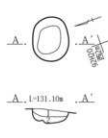
- 1 灰黄褐色砂質土 微量の椀名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)・小円礫(φ10~20mm大)を含む。  
2 黒褐色砂質土 微量の椀名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)・小円礫(φ10~30mm大)を含む。

7号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土 微量の椀名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)を含む。

8号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土 微量の椀名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)を含む。  
2 黒褐色砂質土 微量の椀名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)を含む。



第690図 IX区1~8号土坑と2号土坑の出土遺物

長軸方位 N59°W

新旧関係 10号土坑が旧。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は2.00m、短辺は0.75m、深さは0.08mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

10号土坑(第691図、PL.369)

グリッド 12-92区C 20

長軸方位 N65°W

新旧関係 9号土坑が新。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.49m、短辺は1.20m、深さは0.13mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

11号土坑(第691図、PL.369)

グリッド 12-92区F 20

長軸方位 N58°W

新旧関係 8号住居が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は半月形を呈する。

長径は0.87m、短径は0.37m+、深さは0.33mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

12号土坑(第691図、PL.369)

グリッド 12-92区E 19

長軸方位 N6°E

新旧関係 なし。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は0.73m、短径は0.68m、深さは0.10mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の杯(Ⅰ)が出土した。

時代 古墳時代以降である。

13号土坑(第691図、PL.370)

グリッド 12-92区E 19

長軸方位 N34°E

新旧関係 22号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長辺は0.82m、短辺は0.75m、深さは0.11mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第3四半期より新。

14号土坑(第691図、PL.370)

グリッド 12-92区D 19

長軸方位 N12°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状はT字形を呈する。長辺は1.31m、短辺は0.89m、深さは0.51mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

16号土坑(第691図、PL.370)

グリッド 12-92区C 18

長軸方位 N41°W

新旧関係 17号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.98m、短径は0.60m+、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

17号土坑(第691図、PL.370)

グリッド 12-92区C 18

長軸方位 N53°W

新旧関係 16号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状はU字形を呈する。長径は0.67m、短径は0.20m+、深さは0.39mで、柱穴の形状を呈する。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

18号土坑(第692図、PL.370)

グリッド 12-92区C 18

長軸方位 N44°W

新旧関係 なし。

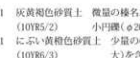
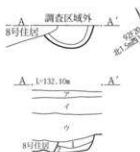
形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.84m、短辺は0.42m、深さは0.17mで

第4章 第2面の遺構と出土遺物

9・10号土坑



11号土坑



- ア 灰黄褐色土(10YR6/2) 面上。
- イ 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 珉珉土。微量の棒名ニツ岳白色軽石( $\phi$  1~40mm大)を含む。
- ウ 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石( $\phi$  1~5mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~3mm大)を含む。
- 1 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) 微量の棒名ニツ岳白色軽石( $\phi$  1~30mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR5/3) シルト・砂質土混じり。微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~5mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。

- 9-1 灰黄褐色砂質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~5mm大)・小門礫( $\phi$  20~50mm大)を含む。埴りやや良。
- 10-1 にぶい黄褐色砂質土 少量の棒名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~5mm大)を含む。

12号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~10mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。

12号土坑



13号土坑

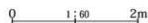


- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$  2~10mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$  2~20mm大)を含む。

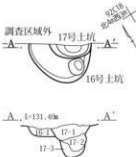
14号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$  2~10mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~7mm大)・炭化粒子( $\phi$  1~2mm大)を含む。



16・17号土坑



- 16-1 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石とFP泥流を含む。
- 17-1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石( $\phi$  1~30mm大)を含む。
- 17-2 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~10mm大)とにぶい黄色シルト質土ブロックを含む。
- 17-3 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi$  1~5mm大)と少量のにぶい黄色シルト質土を含む。

第691図 IX区9~14・16・17号土坑と12号土坑の出土遺物

ある。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

#### 19号土坑(第692図、PL.370)

グリッド 12-92区D18

長軸方位 N33°W

新旧関係 53号土坑が新。6号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長辺は1.27m+、短辺は1.22m+、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 11世紀前半より新。

#### 53号土坑(第692図、PL.370)

グリッド 12-92区D18

長軸方位 N44°E

新旧関係 6号住居、19号土坑が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は半月形を呈す

る。長辺は0.98m、短辺は0.91m、深さは0.35mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 11世紀前半より新。

#### 20号土坑(第692図、PL.370)

グリッド 12-92区H19

長軸方位 N84°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は半月形を呈

する。長辺は0.65m、短辺は0.47m、深さは0.22mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から黒色土器の椀(1)が出土した。

時代 平安時代10世紀後半。

#### 21号土坑(第692図、PL.370)

グリッド 12-92区H20

長軸方位 N14°W

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長径は1.28m、短径は0.41m+、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

#### 22号土坑(第692図、PL.370)

グリッド 12-92区B17

長軸方位 N3°W

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈す

る。長径は1.62m、短径は0.79m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

#### 23号土坑(第692図、PL.370)

グリッド 12-92区B17

長軸方位 N27°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を

呈する。長辺は1.25m、短辺は0.80m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

#### 24号土坑(第692図、PL.370)

グリッド 12-92区B16

長軸方位 N82°E

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長径は1.26m+、短径は0.77m+、深さは0.47mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

#### 25号土坑(第693図、PL.370)

グリッド 13-2区G1

長軸方位 N74°W

新旧関係 3号住居が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は不明である。長

径は1.38m、短径は0.58m+、深さは0.08mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

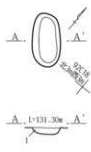
遺物 埋土から須恵器の杯(1)が出土した。

時代 平安時代10世紀後半。



第4章 第2面の遺構と出土遺物

18号土坑



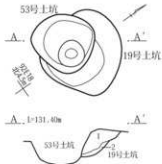
18号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～10mm大)を含む。

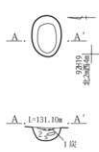
19号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石大粒(φ 2～100mm大)・炭化粒子(φ 1～2mm大)を含む。  
2 にぶい黄褐色土(10YR6/4) 微量の棒名ニツ岳白色軽石大粒(φ 2～50mm大)を含む。

19・53号土坑

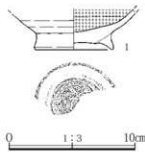


20号土坑

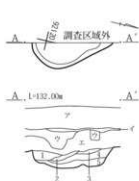


- 1 黒褐色シルト質土(10YR3/2) 炭化物中心層。  
2 にぶい黄褐色シルト質土(10YR6/4) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 2～4mm大)を含む。

20号土坑



21号土坑



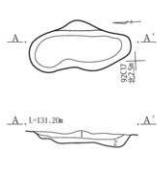
21号土坑

- ア 灰黄褐色砂質土(10YR6/2) 盛土。  
イ にぶい黄褐色土(10YR6/4) 盛土。ローム混じり土。  
ウ 明黄褐色土(10YR7/6) 盛土。ローム土。  
エ 灰黄褐色砂質土(10YR6/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石(φ 1～30mm大)を含む。締りやや弱。  
1 灰黄褐色砂質土(10YR6/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～5mm大)を含む。締りやや弱。  
2 灰黄褐色砂質土(10YR6/2) 締りやや弱い。  
3 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～10mm大)を含む。締りやや弱。  
4 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～20mm大)を含む。締りやや弱。  
5 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～5mm大)を含む。締りやや弱。

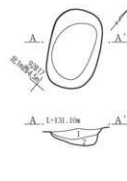
22号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の棒名ニツ岳白色軽石(φ 2～30mm大)を含む。  
2 灰黄色シルト質土(2.5Y6/2)+砂質土 少量の棒名ニツ岳白色軽石大粒(φ 2～50mm大)を含む。

22号土坑



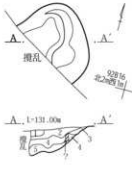
23号土坑



23号土坑

- 1 にぶい黄褐色砂質土(10YR3/4) 少量の棒名ニツ岳白色軽石大粒(φ 2～50mm大)を含む。  
2 灰黄色砂質土(2.5Y6/2) 多量の棒名ニツ岳白色軽石大粒(φ 1～80mm大)を含む。

24号土坑



24号土坑

- 1 浅黄色シルト質土(2.5Y7/3)+砂質土 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～5mm大)を含む。  
2 褐灰色砂質土(10YR4/1) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～10mm大)を含む。  
3 灰黄色シルト質土(2.5Y6/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒(φ 1～10mm大)を含む。  
4 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2) 少量の棒名ニツ岳白色軽石大粒(φ 1～70mm大)を含む。  
5 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 少量の棒名ニツ岳白色軽石大粒(φ 1～50mm大)を含む。



第692図 IX区18～24・53号土坑と20号土坑の出土遺物

## 26号土坑(第693図、PL.370)

グリッド 12-91区N12

長軸方位 N52°W

新旧関係 8号溝が旧。

形状と規模 長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長辺は1.41m、短辺は0.68m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 27号土坑(第693図、PL.370)

グリッド 12-92区A16

長軸方位 N64°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。

長径は0.98m、短径は0.90m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 28号土坑(第693図、PL.371)

グリッド 12-92区B17

長軸方位 N30°W

新旧関係 32号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は歪んだ箱形を呈する。長径は2.37m、短径は1.41m+、深さは0.76mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の椀(2)が出土した。

時代 平安時代9世紀後半。

## 29号土坑(第693図、PL.371)

グリッド 12-92区C18

長軸方位 N47°W

新旧関係 32号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は半月形を呈する。

長径は0.78m+、短径は0.54m+、深さは0.50mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 32号土坑(第693図、PL.371)

グリッド 12-92区B18

長軸方位 N55°W

新旧関係 28号土坑が新。29号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は2.81m+、短径は1.13m+、深さは0.75mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 30号土坑(第693図、PL.371)

グリッド 12-91区I9

長軸方位 N42°E

新旧関係 17号住居が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は0.77m、短径は0.60m、深さは0.31mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀より新。

## 31号土坑(第694図、PL.371)

グリッド 12-91区P14

長軸方位 N57°W

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は1.12m、短径は0.58m+、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から灰輪陶器の椀(1)が出土した。

時代 平安時代10世紀前半。

## 33号土坑(第694図、PL.371)

グリッド 12-92区A16

長軸方位 N45°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.83m、短辺は0.65m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 34号土坑(第694図、PL.371)

グリッド 12-92区A16

長軸方位 N35°W

新旧関係 なし。

第4章 第2面の遺構と出土遺物

25号土坑

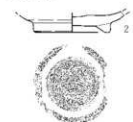


- 1 灰黄褐色土 微量の棒名ニッ岳白  
色軽石小粒(φ1~  
5mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色土  
(10YR5/2) 微量の棒名ニッ岳白  
色軽石小粒(φ1~  
5mm大)・炭化粒  
子(φ1~2mm大)・  
小円礫(φ20~40m  
大)を含む。

25号土坑

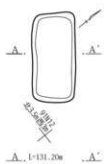


28号土坑



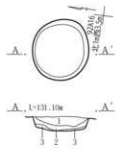
0 1:3 10cm

26号土坑



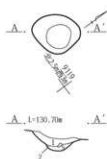
- 26号土坑
- 1 灰黄褐色土(10YR5/2) 棒名ニッ岳白  
色軽石小粒(φ1~5mm大)を  
含む。

27号土坑



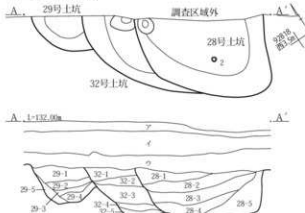
- 27号土坑
- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 少量の棒名ニッ岳白  
色軽石大粒(φ1~  
50mm大)を含む。
  - 2 暗灰黄色砂質土(2.5Y/4) 微量の棒名ニッ岳白  
色軽石(φ1~30mm  
大)を含む。
  - 3 赤い黄色シルト質土(2.5Y/4)

30号土坑



- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の棒名ニッ岳白  
色軽石小粒(φ1~  
2mm大)・角礫(φ70mm大)を1個  
含む。
- 2 黒褐色砂質土(10YR3/2) 微量の棒名ニッ岳白  
色軽石(φ1~30mm大)・  
炭化粒子(φ1~2mm大)を含む。

28・29・32号土坑



- ア 褐灰色砂質土(10YR6/1) 盛土。  
イ 灰黄褐色砂質土(10YR6/2) 崩上。微量の棒名ニッ岳白  
色軽石大粒(φ1~50mm大)を含む。  
ウ 赤い黄褐色砂質土(10YR5/3) 床上。微量の棒名ニッ岳白  
色軽石大粒(φ1~70mm大)を含む。  
28-1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 少量の棒名ニッ岳白  
色軽石(φ1~40mm大)を含む。  
28-2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の棒名ニッ岳白  
色軽石小粒(φ1~10mm大)・炭化粒子(φ1~3mm  
大)を含む。  
28-3 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の棒名ニッ岳白  
色軽石(φ1~40mm大)を含む。  
28-4 赤い黄褐色砂質土(10YR5/4) 微量の棒名ニッ岳白  
色軽石(φ1~30mm大)を含む。  
28-5 赤い黄色砂質土(2.5Y/3) 微量の棒名ニッ岳白  
色軽石大粒(φ1~50mm大)を含む。  
32-1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の棒名ニッ岳白  
色軽石大粒(φ1~50mm大)を含む。  
32-2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の棒名ニッ岳白  
色軽石(φ1~30mm大)を含む。  
32-3 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の棒名ニッ岳白  
色軽石(φ1~30mm大)を含む。  
32-4 黄褐色砂質土(2.5Y/3) 微量の棒名ニッ岳白  
色軽石(φ1~30mm大)を含む。  
32-5 黄褐色土(2.5Y/4) 微量の棒名ニッ岳白  
色軽石小粒(φ1~5mm大)を含む。  
29-1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の棒名ニッ岳白  
色軽石大粒(φ1~100mm大)を含む。  
29-2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の棒名ニッ岳白  
色軽石(φ1~40mm大)を含む。  
29-3 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 少量の棒名ニッ岳白  
色軽石(φ1~30mm大)を含む。  
29-4 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 少量の棒名ニッ岳白  
色軽石小粒(φ1~20mm大)を含む。  
29-5 暗灰黄色シルト質土(2.5Y/2) 少量の棒名ニッ岳白  
色軽石(φ1~30mm大)を含む。

0 1:60 2m

第693図 IX区25~30・32号土坑と25・28号土坑の出土遺物

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.94m、短辺は0.75m、深さは0.26mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**遺物** 底直上から黒色土器の椀(2)、埋土から須恵器の平瓶(3)が出土した。

**時代** 平安時代10世紀。

#### 35号土坑(第694図、PL.371)

**グリッド** 12-91区T16

**長軸方位** N15°E

**新旧関係** なし。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長辺は0.65m、短辺は0.53m、深さは0.38mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

#### 36号土坑(第694図、PL.371)

**グリッド** 12-92区E18

**長軸方位** N18°E

**新旧関係** 7号住居廃絶後に構築。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.82m、短辺は0.77m、深さは0.46mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 平安時代10世紀後半。

#### 37号土坑(第694図、PL.371)

**グリッド** 12-92区E18

**長軸方位** N4°W

**新旧関係** 6・7号住居が新。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。

長辺は0.97m、短辺は0.77m、深さは0.25mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 10世紀後半より旧。

#### 38号土坑(第694図、PL.371)

**グリッド** 12-92区E19

**長軸方位** N83°E

**新旧関係** 18・22号住居が旧。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は1.20m、短辺は0.91m、深さは0.29mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**遺物** 埋土から灰陶器の椀(4)が出土した。

**時代** 平安時代10世紀前半。

#### 39号土坑(第695図、PL.371)

**グリッド** 12-92区A16

**長軸方位** N48°W

**新旧関係** 12号住居が旧。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.37m、短辺は0.76m、深さは0.42mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 10世紀前半より新。

#### 40号土坑(第695図、PL.371)

**グリッド** 12-92区E19

**長軸方位** N85°W

**新旧関係** 4号住居、42号土坑が旧。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。

長径は0.65m、短径は0.55m+、深さは0.40mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 10世紀後半より新。

#### 41号土坑(第695図、PL.371)

**グリッド** 12-92区E19

**長軸方位** N19°W

**新旧関係** 44号土坑が旧。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は0.78m、短径は0.68m、深さは0.29mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

#### 42号土坑(第695図、PL.372・445)

**グリッド** 12-92区E19

**長軸方位** N75°E

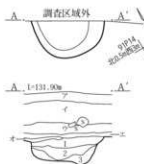
**新旧関係** 4・5号住居、40号土坑が旧。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長辺は1.03m、短辺は0.73m、深さは0.58mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

31号土坑



- ア 褐灰色砂質土(10YR5/1) 盛土。微量の角礫+小円礫(φ1~20mm大)を含む。
- イ 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 盛土。微量の椀名ニツ岳白色軽石大粒(φ1~200mm大)・小円礫(φ30~50mm大)を含む。
- ウ 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 耕土。微量の椀名ニツ岳白色軽石(φ1~30mm大)を含む。
- エ にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3) 床土。微量の椀名ニツ岳白色軽石(φ2~30mm大)を含む。
- オ 褐色砂質土(10YR4/6) 微量の椀名ニツ岳白色軽石(φ1~30mm大)を含む。
- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の椀名ニツ岳白色軽石(φ2~30mm大)を含む。
- 2 黒褐色砂質土(10YR3/2) 微量の椀名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)を含む。
- 3 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/4) 微量の黒褐色土を含む。

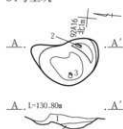
33号土坑



33号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の椀名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)・にぶい黄褐色シルト質土を含む。締り強。

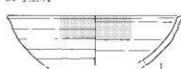
34号土坑



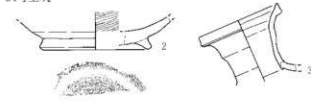
34号土坑

- 1 黒褐色砂質土(10YR3/2) 微量の椀名ニツ岳白色軽石(φ1~30mm大)・(φ1~10mm)を含む。締り強。
- 2 灰黄褐色土(2.5Y7/2) 微量の椀名ニツ岳白色軽石小粒・炭化粒子(φ1~5mm大)を含む。締り強。

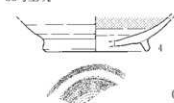
31号土坑



34号土坑

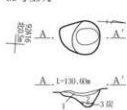


38号土坑



0 1:3 10cm

35号土坑



35号土坑

- 1 褐灰色土(10YR4/1) 少量の炭化物を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の椀名ニツ岳白色軽石(φ1~30mm大)を含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) 炭化物中心層。

36号土坑



36号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の椀名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~3mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の椀名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)を含む。締りやや弱。

37号土坑



37号土坑

- 1 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) 微量の椀名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の椀名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)を含む。

38号土坑



38号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の椀名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)・炭化粒子(φ1~8mm大)を含む。締りやや弱。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の椀名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)を含む。締りやや弱。

0 1:60 2m

第694図 IX区31・33~38号土坑と31・34・38号土坑の出土遺物

**遺物** 底直上から須恵器の杯(1)、埋土から杯(2)が出土した。

**時代** 平安時代10世紀後半。

#### 44号土坑(第695図、PL.372)

**グリッド** 12-92区E19

**長軸方位** N67°E

**新旧関係** 41号土坑が新。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長辺は1.18m、短辺は0.96m、深さは0.32mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

#### 48号土坑(第695図、PL.372)

**グリッド** 12-92区D18

**長軸方位** N8°E

**新旧関係** 11号住居が旧。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.69m、短辺は0.63m、深さは0.14mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 10世紀第4四半期より新。

#### 49号土坑(第695図、PL.372)

**グリッド** 12-92区D17

**長軸方位** N72°W

**新旧関係** 25号住居が旧。

**形状と規模** 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.79m+、短径は0.46m+、深さは0.20mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 10世紀第3四半期より新。

#### 43号土坑(第696・697図、PL.372・445)

**グリッド** 12-92区D18

**長軸方位** N77°W

**新旧関係** 45号土坑が旧。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は3.85m、短辺は2.70m、深さは0.52mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなりレンズ状に成層する。

**遺物** 埋土から須恵器の杯(1~11)、椀(12~16)、脚付鉢(17)、灰釉陶器の皿(18)、土師器の甕(19)、須恵器の羽釜(20)、土鍾(21)が出土した。

**時代** 平安時代10世紀後半。

#### 45号土坑(第696・697図、PL.372)

**グリッド** 12-92区C18

**長軸方位** N17°W

**新旧関係** 9・10号住居、43号土坑が新。

**形状と規模** 長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長辺は4.67m+、短辺は1.33m+、深さは0.59mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**遺物** 埋土から須恵器の甕(22)が出土した。

**時代** 平安時代9~10世紀。

#### 46号土坑(第698図、PL.372)

**グリッド** 12-92区D19

**長軸方位** N77°E

**新旧関係** 47号土坑が旧。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は2.35m、短辺は1.46m、深さは0.46mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土が成層する。

**遺物** 埋土から須恵器の杯(1・2)、椀(3)、灰釉陶器の皿(4)、壺(5)、須恵器の羽釜(6)が出土した。

**時代** 平安時代10世紀後半。

#### 47号土坑(第698図、PL.372)

**グリッド** 12-92区D19

**長軸方位** N5°E

**新旧関係** 46号土坑が新。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状はU字形を呈する。長辺は0.72m+、短辺は0.81m、深さは0.57mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

#### 50号土坑(第698図、PL.372)

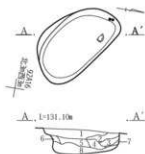
**グリッド** 12-92区D17

**長軸方位** N48°W

**新旧関係** 52号土坑が新。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

39号土坑



- 1 濃い黄褐色砂質土(10YR5/4) 微量の椀名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)・炭化粒子(φ1~5mm大)を含む。
- 2 黒褐色砂質土(10YR3/2) 微量の椀名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~3mm大)を含む。
- 3 濃い黄褐色土(10YR7/3) FP泥流シルト質土(崩落土)。
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量のFP泥流シルト質土を含む。
- 5 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の椀名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)を含む。
- 6 濃い黄褐色土(10YR6/4) 3層上とは異なるシルト質土。FA泥流土(崩落土)。
- 7 濃い黄褐色砂質土(10YR5/4)
- 8 濃い黄褐色シルト質土(10YR5/3) 微量のFA泥流土を含む。

40号土坑



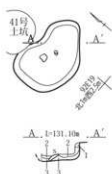
40号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の椀名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)・小円礫(φ10~30mm大)を含む。
- 2 濃い黄褐色砂質土(10YR5/3) 微量の濃い黄褐色シルト質土(FA泥流土)を含む。

41号土坑

- 1 濃い黄褐色砂質土(10YR5/3) 微量の椀名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)を含む。
- 2 濃い黄褐色シルト質土(10YR6/4) FA泥流シルト質土を含む。

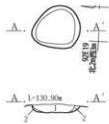
44号土坑



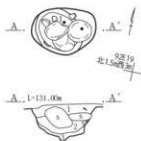
44号土坑

- 1 浅黄褐色シルト質土(10YR8/3) 崩壊土。FP泥流シルト質土。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 椀名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)・炭化物を含む。
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 椀名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子(φ1~30mm大)を含む。

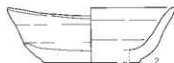
41号土坑



42号土坑



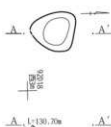
42号土坑



42号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の椀名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~10mm大)・炭化粒子(φ2~5mm大)を含む。
- 2 黒褐色砂質土(10YR3/2) 微量の椀名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)を含む。
- 3 濃い黄褐色シルト質土(10YR5/3)+砂質土

48号土坑



49号土坑

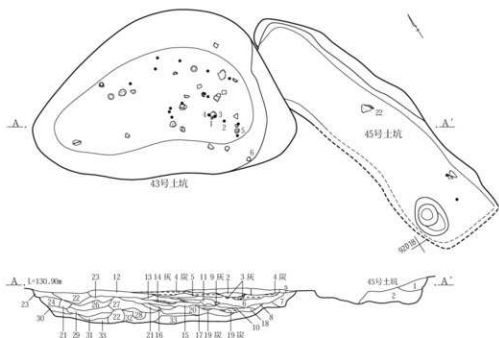


49号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土 椀名ニツ岳白色軽石(φ1~30mm大)・小円礫(φ10~30mm大)を含む。縞りややがら。



第695図 IX区39~42・44・48・49号土坑と42号土坑の出土土物



## 43号土坑

- 1 暗灰黄色砂質土(2.5Y4/2) 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒( $\phi 1 \sim 10\text{mm}$ )を含む。
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の焼土粒子( $\phi 1\text{mm}$ )と炭を含む。
- 3 灰褐色砂質土(10YR6/2) 灰層中心層。稀り弱。
- 4 黒褐色砂質土(10YR3/1) 炭中心層。多量の炭を含む。
- 5 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒( $\phi 1 \sim 10\text{mm}$ )・焼土粒子( $\phi 1\text{mm}$ )・炭化粒子( $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ )を含む。
- 6 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の棒名ニッ岳白色軽石( $\phi 1 \sim 30\text{mm}$ )・焼土粒子( $\phi 2\text{mm}$ )・炭化粒子( $\phi 1\text{mm}$ )と少量の灰(ブロック)を含む。
- 7 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2) 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒( $\phi 1 \sim 10\text{mm}$ )を含む。
- 8 暗灰黄色砂質土(2.5Y4/2) 炭化物中心層。微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒( $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ )を含む。
- 9 灰白色砂質土(10YR8/2) 炭中心層。
- 10 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 少量の炭化物を含む。
- 11 にぶい黄褐色土(10YR7/2) 多量の灰。微量の炭化物を含む。微量の焼土ブロックを混入する。
- 12 灰黄褐色土(10YR6/2) 少量の灰が層状に混入する。
- 13 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の炭化物を含む。
- 14 灰白色土(10YR8/1) 炭中心層。
- 15 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 少量の棒名ニッ岳白色軽石小粒( $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ )を含む。
- 16 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒( $\phi 1 \sim 20\text{mm}$ )を含む。
- 17 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の灰と炭化物を含む。
- 18 にぶい黄褐色砂質土(10YR6/3) 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒( $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ )を含む。
- 19 黒褐色砂質土(10YR3/2) 炭化物中心。
- 20 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) 少量の棒名ニッ岳白色軽石( $\phi 1 \sim 30\text{mm}$ )を含む。
- 21 にぶい黄褐色砂質土(10YR6/3) 棒名ニッ岳白色軽石( $\phi 1 \sim 30\text{mm}$ )を含む。

## 45号土坑

- 1 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2) 少量の浅黄褐色土・FP泥流土と微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ )を含む。
- 2 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2) 少量の棒名ニッ岳白色軽石( $\phi 1 \sim 30\text{mm}$ )を含む。
- 22 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒( $\phi 1 \sim 20\text{mm}$ )を含む。
- 23 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の棒名ニッ岳白色軽石( $\phi 1 \sim 40\text{mm}$ )を含む。
- 24 にぶい黄褐色シルト質土(10YR6/3) 微量の浅黄褐色土を含む。微量のFP泥流シルト質土混じり。
- 25 浅黄褐色シルト質土(10YR8/3) FP泥流シルト質土。
- 26 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の棒名ニッ岳白色軽石( $\phi 1 \sim 40\text{mm}$ )を含む。
- 27 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の棒名ニッ岳白色軽石( $\phi 1 \sim 40\text{mm}$ )を含む。
- 28 浅黄褐色シルト質土(10YR8/3) FP泥流シルト質土。
- 29 にぶい黄褐色砂質土(10YR6/3) 微量の棒名ニッ岳白色軽石( $\phi 1 \sim 30\text{mm}$ )を含む。
- 30 にぶい黄褐色シルト質土(10YR6/3) 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒( $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ )と浅黄褐色土・FPシルト質土ブロックを含む。
- 31 暗灰黄色砂質土(2.5Y4/2) 微量の棒名ニッ岳白色軽石小粒( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ )と少量の浅黄褐色土・FPシルト質土泥流土ブロックを含む。
- 32 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 少量の棒名ニッ岳白色軽石大粒( $\phi 1 \sim 70\text{mm}$ )を含む。
- 33 黄褐色砂質土(2.5Y5/3)+シルト質土 やや黄味がかかる。微量の棒名ニッ岳白色軽石( $\phi 1 \sim 30\text{mm}$ )を含む。

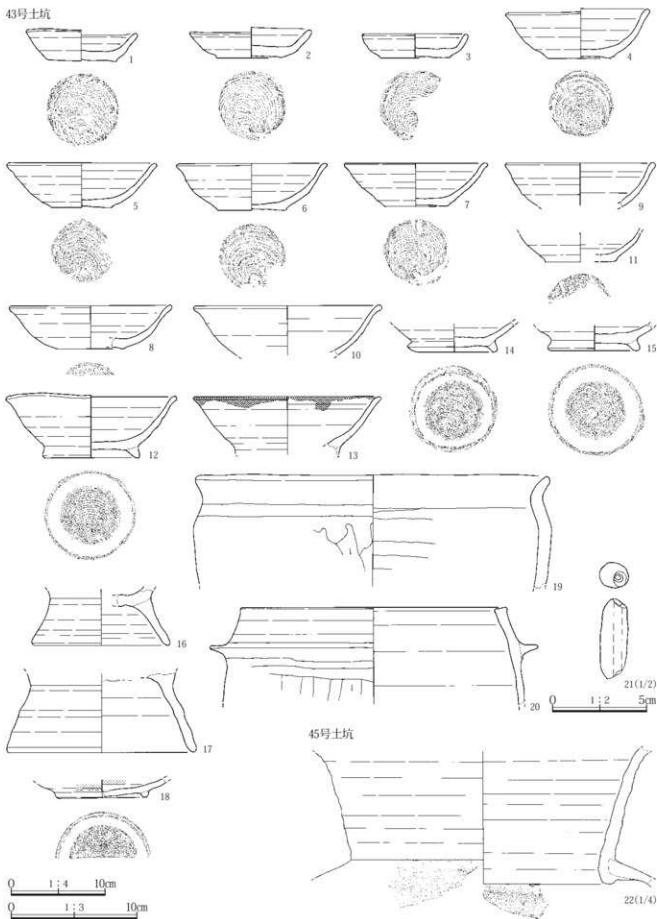
0 1:60 2m

第696図 Ⅸ区43・45号土坑



第4章 第2面の遺構と出土遺物

43号土坑



第697図 Ⅸ区43・45号土坑の出土遺物

長径は0.68m、短径は0.66m+、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の杯(7)が出土した。

時代 平安時代11世紀前半。

#### 51号土坑(第698図、PL.372)

グリッド 12-92区C 17

長軸方位 N10°W

新旧関係 52号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は2.77m+、短径は2.02m+、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

#### 52号土坑(第698図、PL.372)

グリッド 12-92区C 17

長軸方位 N18°W

新旧関係 50号土坑が旧。51号土坑が新。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は2.14m+、短径は1.30m、深さは0.63mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 7. X区

#### 1号土坑(第699図、PL.373)

グリッド 13-2区Q 20

長軸方位 N79°E

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は0.57m、短径は0.32m+、深さは0.25mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

#### 2号土坑(第699図、PL.373)

グリッド 13-12区T 1

長軸方位 N40°E

新旧関係 6号溝が旧。

形状と規模 方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.56m、短辺は0.48m、深さは0.07mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

#### 3号土坑(第699図、PL.373)

グリッド 13-13区A 1

長軸方位 N37°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.85m、短径は0.83m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

#### 4号土坑(第699図、PL.373)

グリッド 13-13区A 1

長軸方位 N1°W

新旧関係 34号土坑が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.93m、短径は0.85m、深さは0.26mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

#### 33号土坑(第699図、PL.373)

グリッド 13-3区A 20

長軸方位 N44°W

新旧関係 16・34号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.75m+、短径は1.18m+、深さは0.44mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

#### 34号土坑(第699図、PL.373)

グリッド 13-3区A 20

長軸方位 N80°E

新旧関係 4号土坑が新。16・33号土坑が旧。

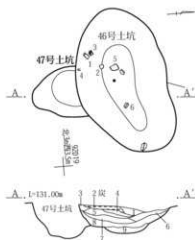
形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.08m、短径は1.00m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

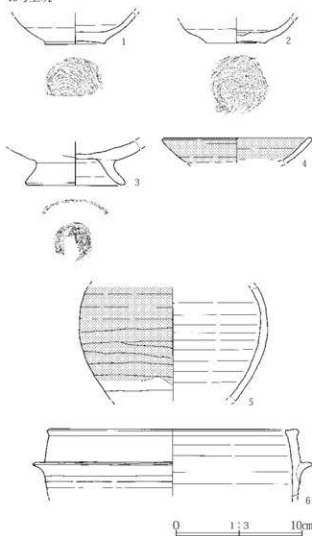
第4章 第2面の遺構と出土遺物

46・47号土坑

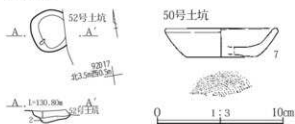


- 1 におい・黄褐色砂質土(10YR5/3) 様名ニツ岳白色軽石大粒(φ1~50mm大)・炭化粒子(φ1~20mm大)を含む。
- 2 褐灰色砂質土(10YR4/1) 炭化物中心層。様名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)を含む。
- 3 褐灰色砂質土(10YR4/1) におい・黄褐色土・少量の炭化物を含む。
- 4 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2) 様名ニツ岳白色軽石大粒(φ1~50mm大)を含む。
- 5 におい・黄色砂質土(2.5Y6/3) 様名ニツ岳白色軽石(φ1~30mm大)を含む。
- 6 灰黄色砂質土(2.5Y6/2) 様名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)を含む。
- 7 褐灰色砂質土(10YR4/1) 様名ニツ岳白色軽石大粒(φ1~100mm大)を含む。
- 8 暗灰黄色砂質土(2.5Y7/2) 少量の様名ニツ岳白色軽石大粒(φ1~70mm大)を含む。
- 9 におい・黄色シルト質土(2.5Y6/3) 様名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~20mm大)・灰白色土・PP配面シルト質土を含む。

46号土坑



50号土坑



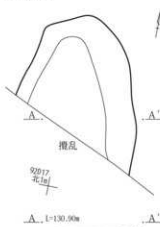
50号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 様名ニツ岳白色軽石小粒(φ1~5mm大)・炭化粒子(φ1~10mm大)を含む。
- 2 におい・黄褐色砂質土(10YR5/3) 様名ニツ岳白色軽石を含む。

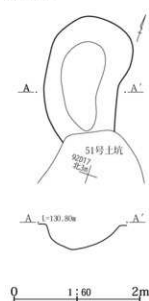
51号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の様名ニツ岳白色軽石大粒(φ1~50mm大)を含む。
- 2 暗灰黄色砂質土(2.5Y4/2) 様名ニツ岳白色軽石(φ1~30mm大)を含む。

51号土坑



52号土坑



第698図 IX区46・47・50~52号土坑と46・50号土坑の出土遺物

## 5号土坑(第699図、PL.373)

グリッド 13-3区B20

長軸方位 N32°W

新旧関係 11号溝が旧。

**形状と規模** 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.00m、短径は0.58m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 7号土坑(第699図、PL.373)

グリッド 13-3区B20

長軸方位 N32°W

新旧関係 なし。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.89m、短径は0.81m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 8号土坑(第699図、PL.373)

グリッド 13-13区B1

長軸方位 N38°E

新旧関係 11号溝が旧。

**形状と規模** 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.58m、短径は0.46m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 9号土坑(第699図、PL.373)

グリッド 13-13区B1

長軸方位 N50°W

新旧関係 11号溝が旧。

**形状と規模** 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.65m、短径は0.54m、深さは0.10mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 10号土坑(第700図、PL.373・445)

グリッド 13-13区B1

長軸方位 N60°W

新旧関係 11号溝が旧。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.42m、短辺は0.40m、深さは0.11mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の皿(1)が出土した。

時代 平安時代10世紀前半。

## 11号土坑(第700図、PL.373)

グリッド 13-13区C2

長軸方位 N17°E

新旧関係 なし。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.68m、短径は0.60m、深さは0.07mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 12号土坑(第700図、PL.373)

グリッド 13-13区C2

長軸方位 N72°W

新旧関係 なし。

**形状と規模** 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.47m、短径は0.34m、深さは0.08mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 13号土坑(第700図、PL.373)

グリッド 13-13区B2

長軸方位 N56°W

新旧関係 なし。

**形状と規模** 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.37m、短径は0.31m、深さは0.05mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 14号土坑(第700図、PL.373)

グリッド 13-2区R20

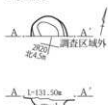
長軸方位 N78°E

新旧関係 6号溝が旧。

**形状と規模** 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.53m、短径は0.10m、深さは0.12mである。

第4章 第2面の遺構と出土遺物

1号土坑



1号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/4) 少量のローム土・榛名二ツ岳白色軽石を含む。硬く締り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 微量のローム土を混入する。締りやや強。粘性有。
- 3 にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) 少量の2層土が混入する。締りやや弱。

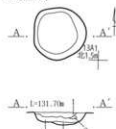
2号土坑

- 1 暗褐色土 灰褐色土ブロックを含む。硬く締る。
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒子を含む。硬く締る。粘性有。

2号土坑



3号土坑



3号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 柔らかい。粘性非常に有。締りやや弱。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 少量の1層土が混入する。締り弱。粘性非常に有。
- 3 黒褐色土(10YR2/3) 土質均一。締りやや強。粘性やや有。
- 4 褐色土(10YR4/6) 粗い砂を混入する。締りやや強。

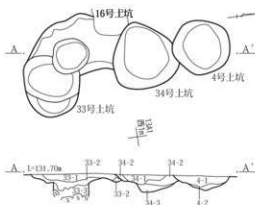
5号土坑



5号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石粒を含む。締り強。粘性有。
- 2 灰褐色土(10YR4/2) くすんだローム土。少量の榛名二ツ岳白色軽石が混入する。締り強。粘性やや有。

4・33・34号土坑



- 4-1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の榛名二ツ岳白色軽石・ローム土を含む。締り強。
- 4-2 褐色土(10YR4/4) 粘性あるローム土体。少量の1層土が混入する。締りやや弱。
- 33-1 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石と黄白色土ブロックを含む。やや硬く締る。
- 33-2 暗褐色土 多量の黄白色土ブロックを含む。やや硬く締る。
- 33-3 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 34-1 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石と黄白色土ブロックを含む。やや硬く締る。
- 34-2 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 34-3 暗褐色土 多量の黄白色土ブロックを含む。やや硬く締る。

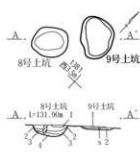
7号土坑



7号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量のローム土が混入する。締りやや強。粘性非常に有。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 締りやや弱。柔らかい。粘性有。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 粘性のあるローム土に少量の1層土が混入する。締りやや強。

8・9号土坑



8号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/1) 炭化物層と2層土の互層。締りやや強。粘性有。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。締りやや強。粘性有。
- 3 灰褐色土(10YR4/2) 締り強。粘性有。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 粗い砂混じり。土質もろい。

9号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量のローム土が混入する。締りやや弱。
- 2 褐色土(10YR4/4)



第699図 X区1～5・7～9・33・34号土坑

る。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

#### 15号土坑(第700図、PL.373)

グリッド 13-12区T 1

長軸方位 N64°W

新旧関係 8号溝が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.82m、短辺は0.56m、深さは0.12mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

#### 16号土坑(第700図、PL.373)

グリッド 13-3区A 20

長軸方位 N42°E

新旧関係 なし。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.64m、短径は0.53m、深さは0.16mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

#### 17号土坑(第700図)

グリッド 13-13区D 3

長軸方位 N60°W

新旧関係 9号ピットが旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.51m、短辺は0.50m、深さは0.12mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

#### 18号土坑(第700図)

グリッド 13-13区D 2

長軸方位 N29°W

新旧関係 11号溝が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.54m、短辺は0.48m、深さは0.07mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

#### 19号土坑(第700図)

グリッド 13-13区C 2

長軸方位 N12°W

新旧関係 9号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は0.82m、短辺は0.71m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

#### 20号土坑(第700図)

グリッド 13-13区C 2

長軸方位 N14°E

新旧関係 16号住居、11号溝が旧。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状はU字形を呈する。長径は0.62m、短径は0.45m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第1四半期より新。

#### 21号土坑(第701図)

グリッド 13-13区C 1

長軸方位 N20°W

新旧関係 なし。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.04m、短径は0.81m、深さは0.25mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

#### 22号土坑(第701図)

グリッド 13-13区B 2

長軸方位 N27°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.69m、短辺は0.68m、深さは0.10mである。

埋土 浅間Bテフラを含む暗褐色砂質土からなる。

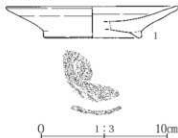
時代 12世紀初頭以降である。

第4章 第2面の遺構と出土遺物

10号土坑



10号土坑



- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の椀名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。粘性やや有。

14号土坑



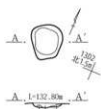
14号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 椀名ニツ岳白色軽石を含む。少量のローム土を混入する。硬く締り強。  
2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 微量の軽石を含む。締り強。粘性やや有。

15号土坑

- 1 暗褐色土 硬く締る。  
2 暗褐色土 灰黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。

18号土坑



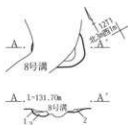
18号土坑

- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック・椀名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。硬く締る。  
2 灰褐色土 やや硬く締る。

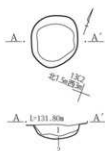
19号土坑

- 1 暗褐色土 椀名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子・黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。  
2 暗褐色土 灰褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。

15号土坑



19号土坑



11・12・13号土坑



11・13号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 鉄分沈着したロームブロックを含む。締り強。  
2 明褐色土(7.5YR5/8) 鉄分沈着したローム土主体。土質粗い。締り強。

12号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の椀名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。  
2 灰褐色土(10YR4/2) 微量の椀名ニツ岳白色軽石を含む。締りやや強。粘性やや有。

16号土坑



16号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 微量のローム土を混入する。締りやや強。粘性有。  
2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 粘性のあるローム土と1層土の混土。締りやや強。

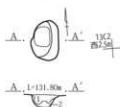
17号土坑

- 1 暗褐色土 椀名ニツ岳白色軽石・黄褐色土ブロックを含む。硬く締る。粘性有。  
2 灰褐色土 少量の椀名ニツ岳白色軽石と灰褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。  
3 灰褐色土 椀名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。

9号ビット

- 1 暗褐色土 灰褐色土ブロック・椀名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。  
2 暗褐色土 多量の灰褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。

20号土坑



- 1 暗褐色土 椀名ニツ岳白色軽石・黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。  
2 暗褐色土 やや多く黄褐色土ブロックを含む。柔らかい。粘性有。



第700図 X区10～20号土坑と10号土坑の出土遺物

## 23号土坑(第701図、PL.373)

グリッド 13-12区T 2

長軸方位 N24° E

新旧関係 なし。

**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は2.46m、短辺は1.42m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 24号土坑(第701図)

グリッド 13-13区E 3

長軸方位 N57° W

新旧関係 なし。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は0.51m、短径は0.46m、深さは0.13mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 25号土坑(第701図、PL.373)

グリッド 13-13区G 3

長軸方位 N9° W

新旧関係 なし。

**形状と規模** 楕円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長径は0.46m、短径は0.37m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 26号土坑(第701図、PL.373)

グリッド 13-13区G 3

長軸方位 N10° E

新旧関係 20・24号住居が旧。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長

径は0.88m、短径は0.81m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 8世紀第3四半期より新。

## 27号土坑(第701図、PL.374・445)

グリッド 13-13区G 4

長軸方位 N56° W

新旧関係 なし。

**形状と規模** 楕円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長径は1.28m、短径は1.10m、深さは0.32mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から緑釉陶器の皿か椀(1)が出土した。

時代 平安時代9世紀後半。

## 28号土坑(第701図、PL.374)

グリッド 13-13区G 5

長軸方位 N3° W

新旧関係 63号土坑が新。

**形状と規模** 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は1.11m、短径は0.77m、深さは0.19mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 29号土坑(第701図)

グリッド 13-13区G 4

長軸方位 N25° E

新旧関係 なし。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長辺は0.55m、短辺は0.50m、深さは0.29mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 30号土坑(第701図、PL.374)

グリッド 13-13区G 3

長軸方位 N83° W

新旧関係 24号住居が旧。

**形状と規模** 楕円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長径は1.12m、短径は0.93m、深さは0.22mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 8世紀第3四半期より新。

## 31号土坑(第702図、PL.374)

グリッド 13-13区F 2

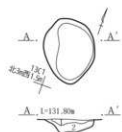
長軸方位 N85° E

新旧関係 23号住居が旧。



第4章 第2面の遺構と出土遺物

21号土坑



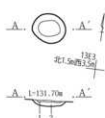
21号土坑

- 1 暗褐色土 榛名ニツ岳白色軽石・炭化物・黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 榛名ニツ岳白色軽石・炭化物・黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。

22号土坑

- 1 暗褐色土 浅間B軽石・黄褐色土ブロック・炭化物粒子を含む。硬く締る。
- 2 暗褐色土 やや多く黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。

24号土坑



24号土坑

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・榛名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック・榛名ニツ岳白色軽石を含む。硬く締る。

25号土坑

- 1 暗褐色土 榛名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。

28号土坑



28号土坑

- 1 暗褐色土 やや多く榛名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 1層上より軽石少ない。やや硬く締る。

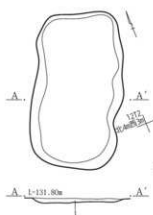
29号土坑

- 1 暗褐色土 18号ビットー1層上より榛名ニツ岳白色軽石を多く含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 少量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。

22号土坑

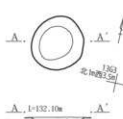


23号土坑



- 1 暗褐色土 多量の黄白色土ブロックと少量の榛名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。

26号土坑



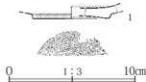
26号土坑

- 1 暗褐色土 榛名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 少量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。硬くて締り良い。

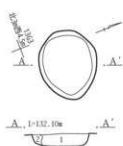
27号土坑

- 1 暗褐色土 多量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 榛名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 3 暗褐色土 硬くて締り良い。

27号土坑



30号土坑



- 1 暗褐色土 多量の榛名ニツ岳白色軽石と少量の炭化物を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 暗褐色土 1層上より明るい色調、少量の榛名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。



第701図 X区21～30号土坑と27号土坑の出土遺物

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は0.84m、短辺は0.65m、深さは0.14mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 9世紀第4四半期より新。

#### 32号土坑(第702図、PL.374)

**グリッド** 13-12区R 1

**長軸方位** N42°W

**新旧関係** なし。

**形状と規模** 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は2.23m、短径は1.08m、深さは0.22mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

#### 35号土坑(第702図)

**グリッド** 13-12区T 1

**長軸方位** N63°W

**新旧関係** 8号溝、5号ピットが新。

**形状と規模** 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.56m、短径は1.08m、深さは0.23mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

#### 36号土坑(第702図、PL.374)

**グリッド** 13-13区E 1

**長軸方位** N86°E

**新旧関係** 46号土坑が旧。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.72m、短径は0.66m、深さは0.12mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

#### 37号土坑(第702図、PL.374)

**グリッド** 13-13区D 1

**長軸方位** N71°W

**新旧関係** なし。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は0.40m、短径は0.38m、深さは0.13mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

#### 38号土坑(第702図、PL.374)

**グリッド** 13-13区D 1

**長軸方位** N71°E

**新旧関係** 10号溝が旧。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.92m、短辺は1.50m、深さは0.42mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

#### 39号土坑(第702図、PL.374)

**グリッド** 13-3区D20

**長軸方位** N7°W

**新旧関係** 13号住居が旧。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状はU字形を呈する。長径は0.63m、短径は0.58m、深さは0.35mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 10世紀第1四半期より新。

#### 41号土坑(第702図、PL.374)

**グリッド** 13-3区G20

**長軸方位** N33°W

**新旧関係** 27号住居が新。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.69m、短径は0.66m、深さは0.10mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 10世紀後半より旧。

#### 42号土坑(第703図、PL.374)

**グリッド** 13-13区H 4

**長軸方位** N32°W

**新旧関係** なし。

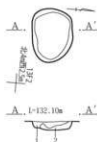
**形状と規模** 楕円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は0.47m、短径は0.40m、深さは0.32mである。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

第4章 第2面の遺構と出土遺物

31号土坑



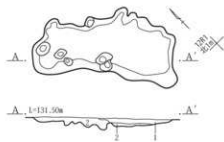
31号土坑

- 1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石と少量の炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 灰褐色土 やや硬く締る。

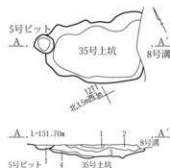
32号土坑

- 1 黄褐色土 砂利を含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック・砂利を含む。やや硬く締る。

32号土坑



35号土坑・5号ピット



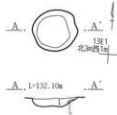
35号土坑

- 1 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 2 灰褐色土 少量の黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。
- 3 暗褐色土 やや硬く締る。粘性有。
- 4 暗褐色土 灰褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。

5号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 土質均一。締り強。粘性やや有。

36号土坑



36号土坑

- 1 灰褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 暗褐色土 柔らかい。粘性有。

37号土坑

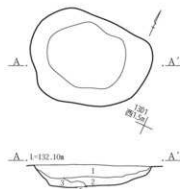


37号土坑

37号土坑

- 1 灰褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。

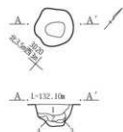
38号土坑



38号土坑

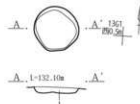
- 1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 灰褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。やや硬い。粘性有。
- 3 暗褐色土 灰褐色土ブロック・ローム粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。

39号土坑



- 1 暗褐色土 榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 炭化物を含む。硬くて締り良い。
- 3 灰褐色土 柔らかい。
- 4 灰褐色土 少量の炭化物粒子を含む。柔らかくてサラサラしている。

41号土坑



- 1 暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬い。粘性有。



第702図 X区31・32・35～39・41号土坑

## 43号土坑(第703図、PL.374)

グリッド 13-13区G 4

長軸方位 N59°W

新旧関係 なし。

**形状と規模** 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.67m、短径は1.29m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 44号土坑(第703図、PL.374)

グリッド 13-13区G 5

長軸方位 N36°E

新旧関係 19号住居が新。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.01m、短径は0.89m、深さは0.13mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀前半より旧。

## 45号土坑(第703図、PL.374)

グリッド 13-13区H 5

長軸方位 N35°E

新旧関係 31号住居が旧。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は0.69m、短辺は0.58m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 9世紀後半より新。

## 47号土坑(第703図、PL.375)

グリッド 13-2区T 20

長軸方位 N61°W

新旧関係 なし。

**形状と規模** 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は3.10m+、短径は1.82m、深さは0.31mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 48号土坑(第703図、PL.375)

グリッド 13-13区E 1

長軸方位 N79°E

新旧関係 なし。

**形状と規模** 楕円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長径は1.12m、短径は0.70m、深さは0.29mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 49号土坑(第703図、PL.375)

グリッド 13-13区G 5

長軸方位 N3°E

新旧関係 なし。

**形状と規模** 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.17m、短径は1.02m、深さは0.16mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 50号土坑(第703図、PL.375・445)

グリッド 13-13区E 1

長軸方位 N81°E

新旧関係 なし。

**形状と規模** 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は1.12m+、短径は0.89m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から須恵器の杯(1)が出土した。

時代 平安時代9世紀後半。

## 51号土坑(第704図)

グリッド 13-13区D 3

長軸方位 N81°E

新旧関係 なし。

**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は0.48m、短辺は0.37m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 52号土坑(第704図)

グリッド 13-13区D 2

長軸方位 N84°E

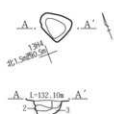
新旧関係 なし。

**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.77m、短径は0.69m、深さは0.08mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

第4章 第2面の遺構と出土遺物

42号土坑



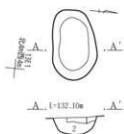
42号土坑

- 1 暗褐色土 少量の極名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 灰褐色土 少量の極名ニツ岳白色軽石を含む。硬くて締り良い。
- 3 暗褐色土 硬くて締り良い。粘性有。

43号土坑

- 1 暗褐色土 極名ニツ岳白色軽石・炭化物を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 暗褐色土 灰褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。

48号土坑



- 1 暗褐色土 少量の極名ニツ岳白色軽石・灰褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 1層上より明るい色調。少量の極名ニツ岳白色軽石・灰褐色土ブロック・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。

49号土坑

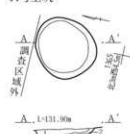


- 1 暗褐色土 多量の極名ニツ岳白色軽石と少量の炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 暗褐色土 少量の極名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 3 暗褐色土 明るい色調。柔らかい。粘性有。

43号土坑



44号土坑



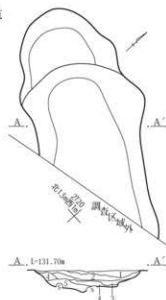
44号土坑

- 1 暗褐色土 極名ニツ岳白色軽石・炭化物を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 暗褐色土 やや硬く締る。粘性有。

45号土坑

- 1 暗褐色土 少量の極名ニツ岳白色軽石・炭化物を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 灰褐色土 やや硬く締る。粘性有。
- 3 黄褐色土 硬くて締り良い。粘性有。

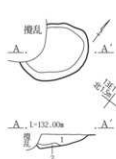
47号土坑



47号土坑

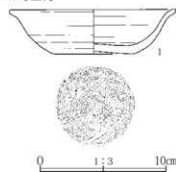
- 1 にぶい黄褐色土(10YR6/4) 粗い砂混じりのシルト質土。鉄沈着有り。締り強。
  - 2 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/3) 鉄沈着有り。硬く締り強。
  - 3 暗褐色土(10YR3/4) 少量の黄褐色土を混入する。締りやや強。
  - 4 黄褐色土(10YR5/8) 少量の極名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。
  - 5 褐色土(10YR4/4) 微量の極名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。粘性やや有。
- 土坑というよりは溝になるものと思われる。

50号土坑



- 1 暗褐色土 極名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
- 2 黄褐色土 硬くて締り良い。粘性有。

50号土坑



第703図 X区42～45・47～50号土坑と50号土坑の出土遺物

時代 古墳時代以降である。

53号土坑(第704図)

グリッド 13-13区D 3

長軸方位 N35°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.69m、短辺は0.62m、深さは0.11mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

54号土坑(第704図)

グリッド 13-13区D 2

長軸方位 N39°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.75m、短径は0.68m、深さは0.10mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

56号土坑(第704図)

グリッド 13-13区E 1

長軸方位 N3°W

新旧関係 14号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.64m、短辺は0.54m、深さは0.22mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第4四半期より新。

57号土坑(第704図)

グリッド 13-13区G 3

長軸方位 N7°W

新旧関係 24号住居、30号土坑が新。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は1.12m、短径は0.90m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 8世紀第3四半期より旧。

58号土坑(第704図、PL.375)

グリッド 13-13区D 2

長軸方位 N55°W

新旧関係 24号ピットが旧。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.68m、短径は0.46m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

59号土坑(第704図、PL.375)

グリッド 13-3区C 20

長軸方位 N10°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は1.74m、短辺は1.62m、深さは0.35mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

60号土坑(第704図、PL.375)

グリッド 13-13区G 1

長軸方位 N33°W

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状はV字形を呈する。長径は1.78m、短径は1.64m、深さは0.56mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

61号土坑(第705図、PL.375)

グリッド 13-13区H 4

長軸方位 N11°W

新旧関係 なし。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.01m、短径は0.33m+、深さは0.26mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

62号土坑(第705図)

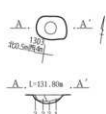
グリッド 13-13区H 5

長軸方位 N13°W

新旧関係 31号住居が旧。

第4章 第2面の遺構と出土遺物

51号土坑



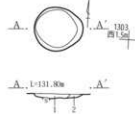
51号土坑

- 1 暗褐色土 少量の椀名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 灰褐色土 少量の椀名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性非常に有。
- 3 灰褐色土 硬くて締り良い。粘性非常に有。

52号土坑

- 1 灰褐色土 椀名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 暗褐色土 椀名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。

52号土坑



53号土坑



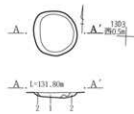
53号土坑

- 1 暗褐色土 椀名ニツ岳白色軽石を含む。硬く締る。粘性有。
- 2 灰褐色土 少量の椀名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。

54号土坑

- 1 暗褐色土 椀名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 灰褐色土 椀名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。

54号土坑

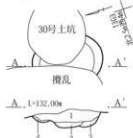


56号土坑



- 1 暗褐色土 椀名ニツ岳白色軽石・炭化物を含む。硬くて締り良い。粘性有。
- 2 暗褐色土 柔らかい。粘性非常に有。
- 3 暗褐色土 少量のローム粒子・黄褐色土粒子を含む。硬くて締り良い。粘性非常に有。

57号土坑



- 1 暗褐色土 椀名ニツ岳白色軽石・炭化物を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 暗褐色土 1・3層上より明るい色調。少量の椀名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 3 暗褐色土 やや硬く締る。粘性有。
- 4 暗褐色土 黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。

58号土坑・24号ピット



58号土坑

- 1 暗褐色土 椀名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
- 2 黄褐色土 少量の椀名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 3 灰褐色土 少量の椀名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。

24号ピット

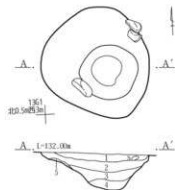
- 1 暗褐色土 少量の椀名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 2 黄褐色土 少量の炭化物粒子を含む。やや硬く締る。

59号土坑



- 1 暗褐色土 椀名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 黄褐色土 少量の椀名ニツ岳白色軽石を含む。柔らかい。粘性有。
- 3 黄褐色土 硬くて締り良い。粘性有。

60号土坑



- 1 暗褐色土 椀名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 少量の炭化物を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 3 暗褐色土 少量の椀名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。硬くて締り良い。粘性有。
- 4 暗褐色土 多量の炭化物を含む。柔らかい。粘性非常に有。
- 5 黄褐色土 やや硬く締る。



第704図 X区51～54・56～60号土坑

**形状と規模** 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。  
 長径は1.15m、短径は0.28m+、深さは0.05mである。  
**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。  
**時代** 9世紀後半より新。

## 63号土坑(第705図、PL.375)

**グリッド** 13-13区G 5  
**長軸方位** N71°W  
**新旧関係** 28号土坑が旧。  
**形状と規模** 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。  
 長径は1.83m、短径は0.40m+、深さは0.78mである。  
**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。  
**時代** 古墳時代以降である。

## 64号土坑(第705図、PL.375)

**グリッド** 13-13区C 1  
**長軸方位** N60°E  
**新旧関係** 16号住居が新。11号溝が旧。  
**形状と規模** 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。  
 長径は1.47m、短径は0.77m+、深さは0.32mである。  
**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。  
**時代** 10世紀第1四半期より新。

## 65号土坑(第705図)

**グリッド** 13-2区T 20  
**長軸方位** N54°E  
**新旧関係** なし。  
**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。  
 長径は3.22m、短径は1.25m、深さは0.16mである。  
**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。  
**時代** 古墳時代以降である。

## 66号土坑(第705図、PL.375)

**グリッド** 13-12区Q 1  
**長軸方位** N25°E  
**新旧関係** なし。  
**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。  
 長径は0.56m、短径は0.52m、深さは0.10mである。  
**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**時代** 古墳時代以降である。

## 67号土坑(第705図、PL.375)

**グリッド** 13-12区T 2  
**長軸方位** N17°W  
**新旧関係** なし。  
**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。  
 長径は0.56m、短径は0.53m、深さは0.14mである。  
**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。  
**時代** 古墳時代以降である。

## 68号土坑(第705図、PL.375)

**グリッド** 13-13区A 2  
**長軸方位** N44°E  
**新旧関係** なし。  
**形状と規模** 長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。  
 長径は1.06m、短径は0.37m、深さは0.10mである。  
**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。  
**時代** 古墳時代以降である。

## 69号土坑(第705図、PL.375)

**グリッド** 13-13区F 4  
**長軸方位** N75°W  
**新旧関係** なし。  
**形状と規模** 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。  
 長径は0.78m、短径は0.62m、深さは0.23mである。  
**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。  
**時代** 古墳時代以降である。



第4章 第2面の遺構と出土遺物

61号土坑



61号土坑

オ 酸化鉄分別 様名ニツ岳白色軽石を含む。

- 1 茶褐色土 多量の様名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 様名ニツ岳白色軽石・黄褐色土ブロック・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。

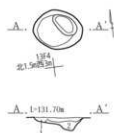
62号土坑

- オ 酸化鉄分別 様名ニツ岳白色軽石を含む。
- カ 暗褐色土 多量の様名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 1 暗褐色土 31住1・2層土よりも暗い色調。少量の様名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。

65号土坑

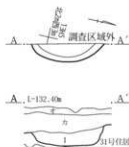


69号土坑

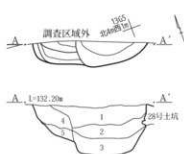


- 1 茶褐色土 やや多く様名ニツ岳白色軽石と少量の炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
- 2 灰褐色土 やや硬く締る。粘性有。

62号土坑



63号土坑



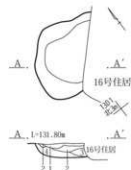
63号土坑

- 1 暗褐色土 やや多く様名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 2 暗褐色土 少量の様名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 3 暗褐色土 硬くて締り良い。粘性有。
- 4 褐色土 多量の様名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 5 暗褐色土 少量の様名ニツ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。

64号土坑

- 1 茶褐色土 様名ニツ岳白色軽石・炭化物を含む。やや硬く締る。
- 2 灰褐色土 少量の様名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子・焼土粒子を含む。硬くて締り良い。
- 3 褐色土 やや多く焼土ブロックを含む。硬くて締り良い。粘性有。
- 4 灰褐色土 少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。硬くて締り良い。粘性非常に有。

64号土坑



66号土坑



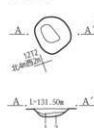
65号土坑

- 1 暗褐色土 少量の様名ニツ岳白色軽石・焼土粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 灰褐色土 様名ニツ岳白色軽石・黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。
- 3 灰褐色土 少量の様名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 4 灰褐色土 やや硬い。

66号土坑

- 1 暗褐色土 灰褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 暗褐色土 少量のローム粒子を含む。やや硬く締る。粘性非常に有。

67号土坑



67号土坑

- 1 灰褐色土 少量の様名ニツ岳白色軽石・炭化物粒子を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 2 灰褐色土 やや硬く締る。粘性有。

68号土坑

- 1 暗褐色土 少量の様名ニツ岳白色軽石を含む。硬く締る。
- 2 灰褐色土 やや硬く締る。粘性有。

0 1:60 2m

第705図 X区61～69号土坑

## 8. Ⅲ区

1号土坑(第706図、PL.376)

グリッド 13-2区O 1

長軸方位 N65°W

新旧関係 2号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は1.26m、短径は0.56m+、深さは0.60mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

2号土坑(第706図、PL.376)

グリッド 13-2区N 1

長軸方位 N46°W

新旧関係 1・3号土坑が新。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.88m、短辺は1.41m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

3号土坑(第706図、PL.376)

グリッド 13-2区N 1

長軸方位 N18°E

新旧関係 2号土坑が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.04m、短辺は0.98m、深さは0.19mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

4号土坑(第706図、PL.376)

グリッド 13-2区N 1

長軸方位 N39°E

新旧関係 2号住居、10号土坑が旧。

形状と規模 方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は1.85m、短辺は1.79m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第1四半期より新。

10号土坑(第706図)

グリッド 13-2区N 1

長軸方位 N78°E

新旧関係 2号住居が旧。4号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は1.26m、短径は0.68m+、深さは0.38mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第1四半期より新。

5号土坑(第706図、PL.376)

グリッド 13-2区N 1

長軸方位 N60°W

新旧関係 6号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.80m、短径は0.72m、深さは0.08mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

6号土坑(第706図、PL.376)

グリッド 13-2区N 1

長軸方位 N70°W

新旧関係 5号土坑が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は0.91m、短径は0.83m、深さは0.16mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

7号土坑(第706図、PL.376)

グリッド 13-2区N 1

長軸方位 N20°E

新旧関係 1号ピットが新。6号ピットが旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状はT字形を呈する。

長径は0.91m、短径は0.82m、深さは0.23mで、6号ピットを柱痕とする柱穴の形状を呈する。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

8号土坑(第706図、PL.377・445)

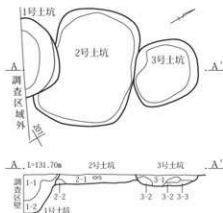
グリッド 12-92区M20

長軸方位 N73°E

新旧関係 17号土坑、21号ピットが旧。

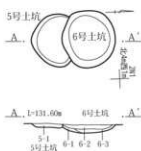
第4章 第2面の遺構と出土遺物

1～3号土坑

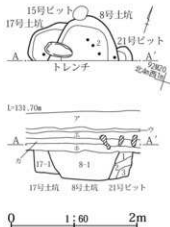


- 1-1 暗褐色土(10YR3/4) 少量の棒名ニツ岳白色軽石・ロームブロックを含む。締り強。
- 1-2 黒褐色土(10YR3/2) 土質均一。粗い砂質土。締りやや弱。
- 2-1 黒褐色土(10YR3/2) 微量のロームブロック・棒名ニツ岳白色軽石を含む。やや粗い砂状。締りやや弱。
- 2-2 暗褐色土(10YR3/4) 2-1層上に少量のローム土を含む。
- 3-1 暗褐色土(10YR3/3) 粗い砂質。微量の棒名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 3-2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 微量のロームブロック・棒名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 3-3 褐色土(10YR4/4) 土質ほぼ均一。微量のロームブロックを含む。

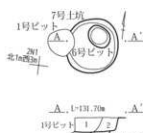
5・6号土坑



8・17号土坑・21号ピット



7号土坑・6号ピット



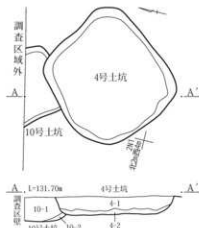
8・17号土坑

- ア 暗褐色土 現代耕作土。
- ウ 明褐色土 水田下部層。
- エ 褐色土
- カ 暗褐色土(7.5YR3/4) 粗い砂質土。鉄分沈着有り。
- キ 暗褐色土(10YR3/4) 酸化鉄分沈着少し有り。
- 8-1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の棒名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 17-1 暗褐色土(10YR3/3) 微量の棒名ニツ岳白色軽石を含む。下部部にローム土混じる。締り強。

21号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 土質ほぼ均一。締りとても強。
- 2 褐色土(10YR4/4) ローム主体。1層土を混入する。締りやや強。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 1層土と2層土との混入。締りやや強。

4・10号土坑



- 4-1 黒褐色土(10YR3/2) 微量のロームブロック・棒名ニツ岳白色軽石を含む。締りやや弱。
- 4-2 灰黄褐色土(10YR4/2) 4-1層土とローム土の混入。ややシルト質。締りやや強。
- 10-1 暗褐色土(10YR3/3) 土質ほぼ均一。微量のローム粒を含む。締りやや弱。
- 10-2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム土と10-1層土との混入。締りやや弱。

5・6号土坑

- 5-1 暗褐色土(10YR3/3) 微量の棒名ニツ岳白色軽石を含む。締りやや強。
- 5-2 暗褐色土(10YR3/4) 土質均一。締りやや強。
- 5-3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 5-1層土とローム土との混入。粘性やや有。
- 6-1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 微量の棒名ニツ岳白色軽石粒を含む。締りやや強。

7号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/4) 土質ほぼ均一。微量のローム土を混入する。締り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) ローム土混じり。1層土よりやや暗い。締り強。

6号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 硬い砂質土。締り強。

8号土坑



第706図 Ⅷ区1～8・10・17号土坑と8号土坑の出土遺物

**形状と規模** 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。  
 長径は1.12m、短径は0.70m+、深さは0.46mである。  
**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。  
**遺物** 埋土から輸入陶磁器の青磁碗(1)や鉄製品(2)が出土した。  
**時代** 平安時代12世紀後半。

## 17号土坑(第706図、PL.377)

**グリッド** 12-92区M20  
**長軸方位** N26°E  
**新旧関係** 8号土坑が新。  
**形状と規模** 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。  
 長径は0.81m+、短径は0.41m+、深さは0.31mである。  
**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。  
**時代** 古墳時代以降である。

## 9号土坑(第707図、PL.377)

**グリッド** 12-92区N20  
**長軸方位** N77°E  
**新旧関係** 22号住居が旧。  
**形状と規模** 隅丸長方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。  
 長辺は1.56m、短辺は1.07m、深さは0.34mである。  
**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。  
**時代** 古墳時代以降である。

## 11号土坑(第707図、PL.376)

**グリッド** 13-2区N1  
**長軸方位** N9°E  
**新旧関係** 4号掘立柱建物が新。  
**形状と規模** 方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.11m、短辺は1.05m、深さは0.34mで、柱穴の形状を呈し、47号ピットが柱痕の可能性ある。  
**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。  
**時代** 古墳時代以降である。

## 12号土坑(第707図)

**グリッド** 13-2区M1  
**長軸方位** N34°E  
**新旧関係** なし。  
**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は1.08m、短径は1.06m、深さは0.07mである。  
**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。  
**時代** 古墳時代以降である。

## 13号土坑(第707図、PL.377)

**グリッド** 13-2区M1  
**長軸方位** N29°W  
**新旧関係** 14号ピットが新。  
**形状と規模** 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。  
 長径は0.69m、短径は0.68m、深さは0.17mである。  
**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。  
**時代** 古墳時代以降である。

## 14号土坑(第707図)

**グリッド** 12-92区N20  
**長軸方位** N64°E  
**新旧関係** 3号住居が旧。  
**形状と規模** 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。  
 長辺は0.68m、短辺は0.62m、深さは0.28mである。  
**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。  
**時代** 古墳時代以降である。

## 15号土坑(第707図)

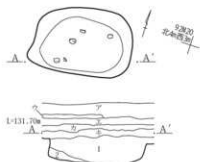
**グリッド** 12-92区N20  
**長軸方位** N44°E  
**新旧関係** 3号住居が旧。  
**形状と規模** 楕円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。  
 長径は0.78m、短径は0.67m、深さは0.20mである。  
**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。  
**時代** 古墳時代以降である。

## 16号土坑(第707図)

**グリッド** 13-2区N1  
**長軸方位** N4°W  
**新旧関係** 7号土坑が新。  
**形状と規模** 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。  
 長径は1.06m+、短径は0.63m、深さは0.12mである。  
**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。  
**時代** 古墳時代以降である。

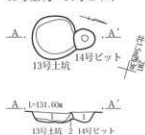
第4章 第2面の遺構と出土遺物

9号土坑



- ア 暗褐色土 現代耕作土。  
 ウ 明褐色土 水田下部層。  
 エ 褐色土  
 カ 暗褐色土(7.5YR3/4) 粗い砂質土。鉄分沈着有り。  
 キ 暗褐色土(10YR3/4) 酸化鉄分沈着少し有り。  
 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の椀名二ツ岳白色軽石を含む。ややシト質土。締り強。  
 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム土混じり。締りやや弱。

13号土坑・14号ピット



- 13号土坑  
 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の椀名二ツ岳白色軽石を含む。締り強。  
 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム土と1層土との混上。

14号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量のローム粒を含む。締り強。

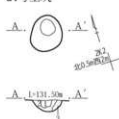
14・15号土坑

- 14-1 灰褐色土(10YR4/2) 少量のロームブロック・黒褐色土ブロックを含む。締り強。

- 14-2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム土と14-1層土との混上。締り強。

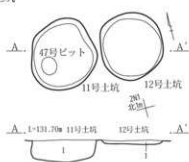
- 15-1 褐色土(10YR4/4) 微量のローム粒・椀名二ツ岳軽石粒を含む。締りやや強。

24号土坑



- 1 黒褐色土 微量の椀名二ツ岳白色軽石(10YR3/2)を含む。締り強。  
 2 灰黄褐色土 少量のローム土を混入する。硬く締り強。  
 3 黒褐色土 1層土より軽石ややい。締り(10YR3/2)りやや弱。

11・12号土坑



- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 少量のローム粒と微量の椀名二ツ岳軽石ブロックを含む。締り強。

16号土坑



16号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の椀名二ツ岳白色軽石を含む。締り強。

18号土坑

- ウ 明褐色土 水田下部層。

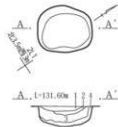
エ 褐色土

- 1 暗褐色土(7.5YR3/3) 粗い砂・椀名二ツ岳白色軽石混じり。鉄分沈着有り。締り強。

- 1' 暗褐色土(7.5YR3/3) 1層土よりやや暗く軽石小サイズ。  
 2 黒褐色土(10YR3/2) 微量の椀名二ツ岳白色軽石・ローム粒を含む。締りやや弱。

- 3 黒褐色土(10YR3/2) 粗い砂混じり。硬く締り強。  
 4 褐色土(10YR4/4) 3層土と5層土との混上。締りやや強。  
 5 灰黄褐色土(10YR4/2) やや粗い砂を含む。締りやや強。  
 6 黄褐色シルト質土(2.5YR5/4)

19号土坑



- 1 褐色土 微量の椀名二ツ岳白色軽石(10YR4/1)を含む。締り強。  
 2 黒褐色土 粗い砂混じり。締り強。(10YR3/2)  
 3 暗褐色土 2層土を混入する。微量の(10YR3/3)椀名二ツ岳白色軽石を含む。締り強。  
 4 暗褐色土 土質均一。締り強。粘性や(10YR3/3)や有。



第707図 XII区9・11・16・18・19・24号土坑

## 18号土坑(第707図)

グリッド 13-2区N1

長軸方位 N77°E

新旧関係 5号住居が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。  
長径は0.89m、短径は0.32m+、深さは0.41mで柱穴の  
形状を呈する。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 19号土坑(第707図、PL.377)

グリッド 13-2区L1

長軸方位 N35°E

新旧関係 8号住居が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は半月形を呈  
する。長辺は0.85m、短辺は0.72m、深さは0.26mで  
ある。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 9世紀第4四半期より新。

## 24号土坑(第707図、PL.376)

グリッド 13-2区K2

長軸方位 N19°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。  
長径は0.57m、短径は0.48m、深さは0.22mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 20号土坑(第708図、PL.376・377)

グリッド 13-2区K2

長軸方位 N8°E

新旧関係 21号土坑が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。  
長径は1.08m、短径は1.03m、深さは0.38mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 21号土坑(第708図、PL.376)

グリッド 13-2区K2

長軸方位 N81°W

新旧関係 20号土坑が新。22号土坑が旧。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は皿形を呈す  
る。長辺は1.37m、短辺は0.96m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 22号土坑(第708図、PL.376・377)

グリッド 13-2区K2

長軸方位 N80°W

新旧関係 21・23号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は不明である。長  
径は1.71m、短径は0.51m+、深さは0.08mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 23号土坑(第708図、PL.376・377)

グリッド 13-2区K2

長軸方位 N79°E

新旧関係 22号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。  
長径は1.43m、短径は0.62m+、深さは0.56mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 25号土坑(第708図、PL.377)

グリッド 13-2区K2

長軸方位 N78°E

新旧関係 36号土坑が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。  
長辺は1.57m、短辺は1.30m、深さは0.48mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 36号土坑(第708図、PL.377)

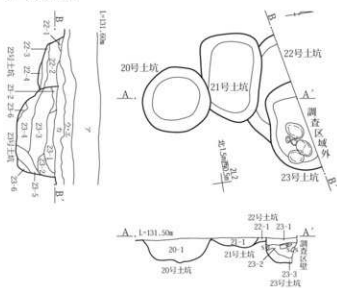
グリッド 13-2区K1

長軸方位 N71°E

新旧関係 12号住居が旧。25号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。  
長径は1.07m、短径は0.41m+、深さは0.40mである。

20～23号土坑



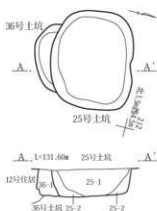
20～23号土坑

- 20-1 暗褐色土(10YR3/3) 極名ニツ岳白色軽石を含む。少量のローム土を混入する。締り強。
- 21-1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の極名ニツ岳白色軽石を含む。ローム土混じり。締り強。
- 22-1 暗褐色土(7.5YR3/3) 土質均一。鉄分沈着有り。締りやや弱。
- 23-1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の極名ニツ岳白色軽石を含む。締りやや強。
- 23-2 暗褐色土(10YR3/3) 微量の軽石を含む。締りやや弱。
- 23-3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム土と23-2層土との混土。締り強。粘性やや有。

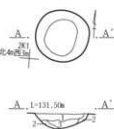
22・23号土坑

- ア 暗褐色土 現代耕作土。
- ウ 明褐色土 水田下部層。
- エ 褐色土
- カ 暗褐色土(7.5YR3/4) 粗い砂質土。鉄分沈着有り。
- 22-1 暗褐色土(7.5YR3/3) 土質均一。鉄分沈着有り。締りやや弱。
- 22-2 暗褐色土(10YR3/3) 少量の極名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 22-3 黒褐色土(10YR3/2) 極名ニツ岳白色軽石を含む。締りやや弱。
- 22-4 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム土混じり。少量の極名ニツ岳白色軽石を含む。
- 23-1 暗褐色土(10YR3/4) 極名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 23-2 暗褐色土(10YR3/4) 多量の極名ニツ岳白色軽石を含む。鉄分沈着少し有り。締り強。
- 23-3 暗褐色土(10YR3/4) 少量の極名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 23-4 暗褐色土(10YR3/3) 微量の極名ニツ岳白色軽石を含む。土質もろい。締りやや弱。
- 23-5 黒褐色土(10YR3/2) 土質は均一。締りやや強。
- 23-6 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 締りやや弱。柔らかい。粘性有。

25・36号土坑



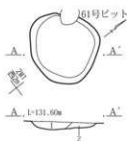
26号土坑



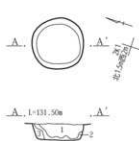
- 1 暗褐色土(10YR3/4) 少量の極名ニツ岳白色軽石・ロームブロックを含む。締り強。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム土と1層土との混土。締り強。
- 3 暗褐色土(10YR3/4) 1層土よりやや明るい。締りやや強。

- 25-1 暗褐色土(10YR3/3) 極名ニツ岳白色軽石を含む。締りやや強。
- 25-2 暗褐色土(10YR3/4) 少量の黄褐色土を混入する。締りやや弱。
- 36-1 暗褐色土(10YR3/3) 微量の極名ニツ岳白色軽石を含む。締りやや強。

27号土坑



28号土坑



27号土坑

- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 少量のローム粒子・ロームブロックを含む。締り強。
- 2 褐色土(10YR4/4) ローム土混じり。微量の極名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。

28号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/4) 少量の極名ニツ岳白色軽石を含む。締りやや強。
- 2 褐色土(10YR4/4) くすんだローム土主体。暗褐色土を混入する。締りやや強。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 微量の極名ニツ岳白色軽石を含む。締りやや強。粘性有。

0 1:60 2m

第708図 Ⅷ区20～23・25～28・36号土坑

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第1四半期より新。

#### 26号土坑(第708図、PL.377)

グリッド 13-2区K1

長軸方位 N68°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は0.87m、短径は0.83m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

#### 27号土坑(第708図)

グリッド 13-2区M1

長軸方位 N76°E

新旧関係 61号ピットが新。

形状と規模 方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.14m、短辺は1.08m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

#### 28号土坑(第708図、PL.377)

グリッド 13-2区K1

長軸方位 N22°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は0.81m、短径は0.80m、深さは0.31mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

#### 29号土坑(第709図、PL.377)

グリッド 13-2区L1

長軸方位 N89°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.33m、短径は1.20m、深さは0.48mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

#### 30号土坑(第709図、PL.377)

グリッド 13-2区L1

長軸方位 N68°W

新旧関係 10号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状はU字形を呈する。長辺は0.78m、短辺は0.70m、深さは0.78mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第2四半期より新。

#### 31号土坑(第709図)

グリッド 13-2区K1

長軸方位 N10°E

新旧関係 10号住居が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.01m、短径は0.56m+、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第2四半期より旧。

#### 34号土坑(第709図)

グリッド 13-2区J1

長軸方位 N4°W

新旧関係 13号住居が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.56m、短径は1.05m+、深さは0.56mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

#### 35号土坑(第709図、PL.377)

グリッド 13-2区K2

長軸方位 N83°W

新旧関係 10号住居が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.49m、短径は0.79m+、深さは0.40mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 底から0.21m上からが壁(1)、底直上から流動礫(2)が出土した。

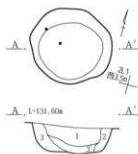
時代 10世紀第2四半期より旧。

#### 37号土坑(第709図、PL.377)

グリッド 13-2区L1

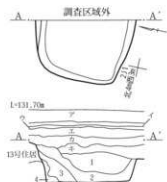


29号土坑



- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の棒名ニツ岳白色軽石と微量の炭化物を含む。締り強。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 黄褐色土ブロックを含む。締り強。粘性やや有。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 少量の棒名ニツ岳白色軽石を含む。少量の黄褐色土を混入する。締り強。
- 3' にぶい黄褐色土(10YR4/3) 3層上よりやや明るく上質ほぼ均質。締り強。

34号土坑



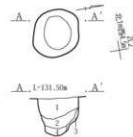
- ア 暗褐色土 現代耕作土。  
イ 灰色土 水田耕作土。  
ウ 明褐色土 水田下部層。  
エ 褐灰色土。

- カ 暗褐色土(7.5YR3/4) 粗い砂質土。鉄分沈着有り。
- キ 暗褐色土(10YR3/4) 酸化鉄沈着少し有り。
- 1 暗褐色土(10YR3/4) 棒名ニツ岳白色軽石と少量の黄褐色土粒子を含む。柔らかく締りやや弱。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 棒名ニツ岳白色軽石と少量の黄褐色土粒子を含む。やや硬く締りやや強。
- 3 暗褐色土(10YR3/4) 微量の棒名ニツ岳白色軽石を含む。柔らかく締りやや弱。
- 4 褐色土(10YR4/4) ローム土混じり。締りやや弱。粘性有。

35号土坑



30号土坑



30号土坑

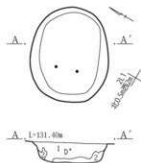
- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の棒名ニツ岳白色軽石と微量の黄褐色土粒子を含む。硬く締り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 1層上より軽石少ない。締り強。粘性やや有。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 多量の黄褐色シルトブロックを含む。締りやや強。粘性有。
- 4 暗褐色土(10YR3/4) 少量のくすんだローム土を含む。締りやや強。粘性やや有。

31号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の棒名ニツ岳白色軽石を含む。微量のくすんだローム土を混入する。締り強。

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 棒名ニツ岳白色軽石と微量の炭化物を含む。中段・底部に鉄屑出土。締り強。

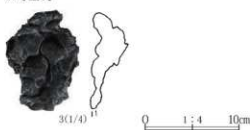
37号土坑



- 1 暗褐色土(10YR3/4) 棒名ニツ岳白色軽石を含む。黄褐色土粒子・ブロック混じり。硬く締り強。
- 2 にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) 少量の1層土を混入する。締り強。

0 1:60 2m

37号土坑



0 1:4 10cm

第709図 Ⅷ区29~31・34・35・37号土坑と35・37号土坑の出土遺物

長軸方位 N60° E

新旧関係 11号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長辺は1.50m、短辺は1.26m、深さは0.34mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から流動滓(3)が出土した。

時代 10世紀後半より新。

38号土坑(第710図、PL.377)

グリッド 13-2区J 1

長軸方位 N68° W

新旧関係 12号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.85m、短辺は0.81m、深さは0.07mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第1四半期より新。

39号土坑(第710図、PL.378)

グリッド 13-2区K 1

長軸方位 N10° E

新旧関係 11号住居が旧。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.97m、短径は0.72m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀後半より新。

40号土坑(第710図、PL.378)

グリッド 12-92区I 18

長軸方位 N9° E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は0.94m、短径は0.84m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

41号土坑(第710図、PL.378)

グリッド 12-92区J 19

長軸方位 N32° W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。

長径は0.77m、短径は0.76m、深さは0.32mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

42号土坑(第710図、PL.378)

グリッド 12-92区J 19

長軸方位 N3° W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.10m、短径は0.95m、深さは0.31mで柱穴の形状を呈する。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

43号土坑(第710図、PL.378)

グリッド 12-92区J 19

長軸方位 N26° W

新旧関係 84号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.35m、短径1.07m+、深さは0.42mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

84号土坑(第710図、PL.379)

グリッド 12-92区J 20

長軸方位 N82° E

新旧関係 43号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は不明である。長径は0.60m、短径は0.32m+、深さは0.27mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

44号土坑(第710図、PL.378)

グリッド 12-92区J 20

長軸方位 N10° E

新旧関係 17号住居が旧。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は1.46m、短径は1.14m、深さは0.31mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

第4章 第2面の遺構と出土遺物

38号土坑



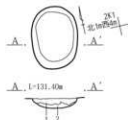
38号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混じり。締りやや弱。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 微量の黄褐色土粒子を含む。締りやや弱。

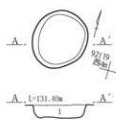
39号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 土質ほぼ均一。微量の黄褐色土粒子を含む。柔らかく締り弱。
- 2 褐色土(10YR4/4) 微量の1層土を混入する。締りやや弱。

39号土坑



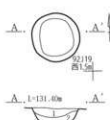
40号土坑



40号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の黄褐色土ブロックを含む。硬く締り強。

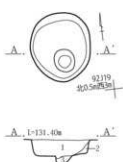
41号土坑



41号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 土質均一。締りやや強、粘性有。
- 2 灰褐色土(10YR4/2) ややシルト質上。締りやや弱、粘性やや有。

42号土坑



42号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量のロームブロックを含む。締りやや強、粘性やや有。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 1層土との混じり。締り弱。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム土混じり。締り弱、粘性やや有。

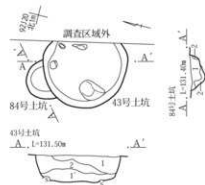
44号土坑



44号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石・ローム粒子を含む。締りやや弱。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) ローム土混じり。柔らかく締り弱。

43・84号土坑



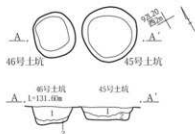
43号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色土小ブロックを含む。締り強、粘性やや有。
- 1' 暗褐色土(10YR3/3) 1層土より黄褐色土ブロックやや少ない。締りやや強、粘性やや有。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 少量の黄褐色土小ブロックを含む。締りやや強。

84号土坑

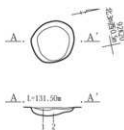
- 1 暗褐色土(10YR3/3) 微量の極名ニツ岳白色軽石・黄褐色土粒子・炭化物を含む。締りやや強。
- 2 褐色土(10YR4/4) 少量の1層土を含む。締り強。

45・46号土坑



- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の極名ニツ岳白色軽石・ロームブロックを含む。締り強。
- 2 褐色土(10YR4/4) 少量の1層土を混入する。締り強、粘性やや有。

47号土坑



- 1 暗褐色土(10YR3/3) 微量の灰を含む。締り強。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 1層土に少量の灰・焼土を混入する。締り弱。

0 1:60 2m

時代 古墳時代以降である。

45号土坑(第710図、PL.378)

グリッド 12-92区 L 19

長軸方位 N32°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長径は0.89m、短径は0.87m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

46号土坑(第710図、PL.378)

グリッド 12-92区 L 20

長軸方位 N10°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長辺は0.69m、短辺は0.65m、深さは0.31mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

47号土坑(第710図、PL.378)

グリッド 12-92区 K 20

長軸方位 N19°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は0.69m、短辺は0.64m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

48号土坑(第711図、PL.378)

グリッド 12-92区 J 20

長軸方位 N40°W

新旧関係 なし。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.23m、短径は1.07m、深さは0.14mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

49号土坑(第711図、PL.378)

グリッド 12-92区 J 20

長軸方位 N23°E

新旧関係 50号土坑が新。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.11m、短径は0.96m、深さは0.16mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

50号土坑(第711図、PL.378)

グリッド 12-92区 J 20

長軸方位 N17°E

新旧関係 49号土坑、80号ピットが旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は0.68m、短辺は0.55m、深さは0.26mで柱穴の形状を呈する。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

51号土坑(第711図、PL.378)

グリッド 12-92区 J 19

長軸方位 N64°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長辺は1.13m、短辺は1.05m、深さは0.23mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

53号土坑(第711図、PL.378)

グリッド 12-92区 K 20

長軸方位 N14°W

新旧関係 16号住居、58号土坑が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。長辺は1.99m、短辺は1.66m、深さは0.39mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土からが内滓(1)が出土した。

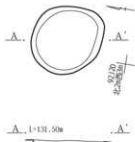
時代 10世紀より新。

54号土坑(第711図、PL.378)

グリッド 12-92区 L 20

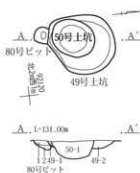
第4章 第2面の遺構と出土遺物

48号土坑



- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の黄褐色土シルト大ブロックを含む。締りやや弱。

49・50号土坑・80号ピット



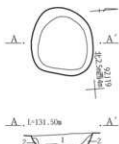
49・50号土坑

- 49-1 黒褐色土(10YR3/2) 微量のローム粒子を含む。締りやや弱。粘性やや有。  
 49-2 暗褐色土(10YR3/3) ローム上との混土。締りやや弱。粘性有。  
 50-1 黒褐色土(10YR3/2) 少量のロームブロック・榛名二ツ岳白色軽石を含む。締りやや弱。

80号ピット

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 微量のローム粒子を含む。締りやや弱。粘性やや有。  
 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム上との混土。締りやや弱。粘性有。

51号土坑



51号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石・ロームブロックを含む。締りやや強。粘性有。  
 2 褐色土(10YR4/4) ローム上と1層土との混土。締り強。

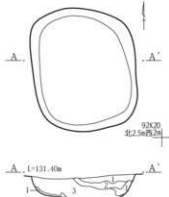
54号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の黄褐色土シルトブロックを含む。締り強。  
 2 暗褐色土(10YR3/3) 土質はほぼ均一。微量の黄褐色シルト土を混入する。締りやや強。  
 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 土質均一。締りやや強。粘性有。

54号土坑



53号土坑

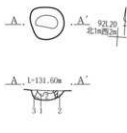


53号土坑



- 1 褐色土(10YR4/4) 少量の榛名二ツ岳白色軽石・ローム粒子を含む。締りやや強。粘性有。  
 2 暗褐色土(10YR3/3) 少量の1層土を含む。硬く締り強。  
 3 黒褐色土(10YR3/2) 少量の榛名二ツ岳白色軽石を含む。硬く締り強。

55号土坑

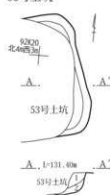


- 1 にぶい黄褐色土 少量のローム粒子(10YR4/3)を含む。締り強。  
 2 オリーブ褐色シルトにぶい黄色シルト質土(2.5Y4/4) トブロックを含む。締りやや強。  
 3 暗褐色土 硬く締り強。(10YR3/4)

56・57号土坑



58号土坑



56・57号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 微量の榛名二ツ岳白色軽石・ローム粒子を含む。締り強。  
 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量のローム粒子を含む。締りやや強。粘性やや有。  
 3 暗褐色土(10YR3/3) 少量の黄褐色シルト土を混入する。締りやや弱。粘性やや有。  
 4 褐色土(10YR4/4) ローム土主体。にぶい黄色シルトブロックを含む。締り強。

58号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/4) 微量の榛名二ツ岳白色軽石と少量の黄褐色土粒・ブロックを含む。締り強。  
 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の榛名二ツ岳白色軽石と黄褐色土シルトブロックを含む。締りやや強。粘性やや有。



第711図 Ⅹ区48～51・53～58号土坑と53号土坑の出土遺物

長軸方位 N78°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長辺は0.45m、短辺は0.47m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

#### 55号土坑(第711図)

グリッド 12-92区L20

長軸方位 N60°W

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長辺は0.56m、短辺は0.53m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

#### 56号土坑(第711図、PL.378)

グリッド 12-92区K19

長軸方位 N23°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は0.56m、短径は0.55m、深さは0.19mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

#### 57号土坑(第711図、PL.378)

グリッド 12-92区K19

長軸方位 N45°E

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は0.58m、短径は0.50m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

#### 58号土坑(第711図、PL.379)

グリッド 12-92区K20

長軸方位 N20°W

新旧関係 53号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は1.95m、短径は0.70m+、深さは0.35mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

#### 59号土坑(第712図、PL.379)

グリッド 12-92区J20

長軸方位 N86°W

新旧関係 20号住居が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長辺は1.37m、短辺は1.29m、深さは0.46mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第2四半期より新。

#### 60号土坑(第712図、PL.379)

グリッド 13-2区K1

長軸方位 N3°E

新旧関係 18号住居、67号土坑が旧。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.55m、短辺は1.37m、深さは0.20mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から鉄製品(1)が出土した。

時代 10世紀第4四半期より新。

#### 61号土坑(第712図、PL.379)

グリッド 12-92区J18

長軸方位 N16°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状はU字形を呈する。長径は0.57m、短径は0.55m、深さは0.44mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

#### 62号土坑(第712図、PL.379)

グリッド 12-92区K20

長軸方位 N58°E

新旧関係 20号住居が旧。82号ピットが新。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

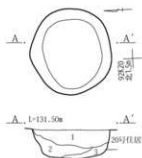
長径は1.12m、短径は1.09m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第2四半期より新。

第4章 第2面の遺構と出土遺物

59号土坑



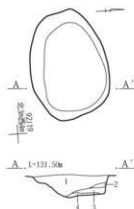
59号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の椀名ニツ岳白色軽石・黄褐色土粒子を含む。締り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 微量の椀名ニツ岳白色軽石と黄褐色土ブロックを含む。締り強。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 微量の黄褐色土ブロックを含む。締り強。粘性やや有。

61号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/4) 微量の椀名ニツ岳白色軽石を含む。締り強。粘性有。
- 2 褐色シルト質土(10YR4/4) 締りやや強。粘性有。
- 3 暗褐色土(10YR3/4) 2層土との混上。締り強。粘性やや有。

64号土坑



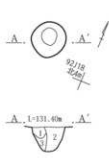
64号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の椀名ニツ岳白色軽石を含む。硬く締り強。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 土質均一。硬く締り強。
- 3 黒褐色土(10YR2/3) 少量の黄褐色土ブロックを含む。締り強。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 締りやや強。粘性やや有。

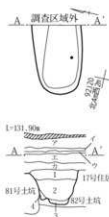
65号土坑

- ア 暗褐色土 現代耕作土。  
イ 灰色土 水田耕作土。  
ウ 明褐色土 水田下部層。  
エ 褐灰色土  
カ 暗褐色土(7.5YR3/4) 粗い砂質土。鉄分沈着有り。  
キ 暗褐色土(10YR3/3) 少量の椀名ニツ岳白色軽石と微量の黄褐色土粒子を含む。締り強。  
ク 黒褐色土(10YR2/2) 少量の椀名ニツ岳白色軽石と微量の炭化物を含む。締り強。  
コ 暗褐色土(10YR3/3) 少量の黄褐色土粒子を含む。締りやや強。粘性やや有。  
カ 暗褐色土(10YR3/3) 少量の椀名ニツ岳白色軽石を含む。締りやや強。

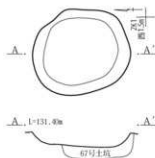
61号土坑



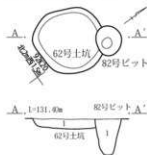
65号土坑



60号土坑



62号土坑・82号ピット



62号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の椀名ニツ岳白色軽石と微量の黄褐色土粒子を含む。締り強。

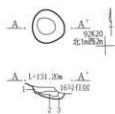
82号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 微量の椀名ニツ岳白色軽石と黄褐色土大ブロックを含む。締り強。

63号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 微量の椀名ニツ岳白色軽石を含む。締りやや強。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 黄褐色シルト質土を含む。締りやや強。

66号土坑



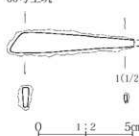
66号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 微量の黄褐色土粒子を含む。締りやや強。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 少量の黄褐色土を含む。締り強。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 2層土と黄褐色シルト質土との混上。締りやや強。

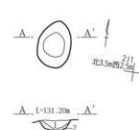
69号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の椀名ニツ岳白色軽石・黄褐色シルトブロックを含む。締り強。

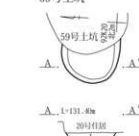
60号土坑



63号土坑



69号土坑



第712図 XII区59～66・69号土坑と60号土坑の出土遺物

## 63号土坑(第712図)

グリッド 13-2区J 1

長軸方位 N3°E

新旧関係 12号住居が旧。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長径は0.73m、短径は0.52m、深さは0.16mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第1四半期より新。

## 64号土坑(第712図)

グリッド 12-92区J 19

長軸方位 N78°E

新旧関係 20・21号住居が旧。83号土坑が新。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は1.65m、短径は1.24m、深さは0.38mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第2四半期より新。

## 65号土坑(第712図、PL.379)

グリッド 12-92区J 20

長軸方位 N75°E

新旧関係 17号住居、81号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は1.10m+、短径は0.77m、深さは0.54mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 66号土坑(第712図)

グリッド 12-92区K 20

長軸方位 N18°W

新旧関係 16号住居が新。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長

径は0.52m、短径は0.50m、深さは0.22mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀より旧。

## 69号土坑(第712図、PL.379)

グリッド 12-92区K 20

長軸方位 N32°W

新旧関係 20号住居、59号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.98m、短径は0.65m+、深さは0.12mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第2四半期より旧。

## 67号土坑(第713図、PL.379)

グリッド 13-2区K 1

長軸方位 N84°W

新旧関係 60号土坑が新。68号土坑が旧。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。長径は1.22m、短径は1.15m、深さは0.26mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 68号土坑(第713図、PL.379)

グリッド 12-92区K 20

長軸方位 N30°E

新旧関係 60・67号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.70m、短径は1.67m、深さは0.31mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 70号土坑(第713図、PL.379)

グリッド 12-92区J 20

長軸方位 N84°E

新旧関係 20号住居が新。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は1.43m、短径は0.88m、深さは0.17mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀第2四半期より旧。

## 71号土坑(第713図)

グリッド 12-92区J 20

長軸方位 N87°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は0.82m、短径は0.69m、深さは0.17mである。

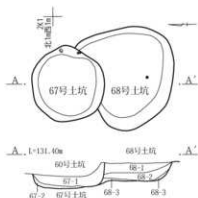
埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。



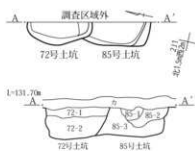
第4章 第2面の遺構と出土遺物

67・68号土坑



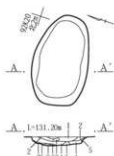
- 67-1 黒褐色土(10YR3/2) 微量の棒名二ツ岳白色軽石・黄褐色上粒子・炭化物を含む。締りやや強。
- 67-2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 黄褐色シルト質土と1層上との混土。締りやや強。
- 68-1 暗褐色土(10YR3/4) 少量の棒名二ツ岳白色軽石・黄褐色上粒子を含む。締り強。
- 68-2 暗褐色土(10YR3/3) 微量の棒名二ツ岳白色軽石・炭化物と少量の黄褐色上粒子を含む。締り強。
- 68-3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 黄褐色シルトと2層上との混土。締りやや強。粘性やや有。

72・85号土坑



- カ 暗褐色土(7.5YR3/4) 粗い砂質土。鉄分沈着有り。
- 72-1 黒褐色土(10YR2/3) カ層上の粗い砂と微量の棒名二ツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 72-2 黒褐色土(10YR3/2) 少量の棒名二ツ岳白色軽石・黄褐色土ブロックを含む。締りやや強。粘性有。
- 85-1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の棒名二ツ岳白色軽石を含む。締りやや強。
- 85-2 暗褐色土(10YR3/3) 少量の棒名二ツ岳白色軽石・黄褐色上粒子を含む。締りやや強。
- 85-3 暗褐色土(10YR3/4) 棒名二ツ岳白色軽石・黄褐色上粒子を含む。締りやや強。

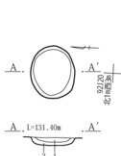
70号土坑



70号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/4) 微量の棒名二ツ岳白色軽石・黄褐色上粒子を含む。締り強。
- 2 褐灰色土(7.5YR4/2) 灰白色灰・黒色灰を含む。締りやや強。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 灰土体。締り弱。
- 4 黒褐色土(10YR2/3) 少量の黄褐色上粒子を含む。
- 5 黄褐色シルト質土(2.5Y5/4) 締り強。
- 6 黒褐色土(10YR2/2) 少量の炭化物・黄褐色シルト質土を含む。締り弱。
- 7 黒褐色土(10YR2/1) 多量の灰を含む。締り弱。

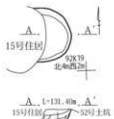
71号土坑



71号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の棒名二ツ岳白色軽石・黄褐色上粒子を含む。硬く締り強。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 微量の棒名二ツ岳白色軽石・黄褐色上粒子を含む。締り強。

73号土坑



73号土坑

- 1 暗褐色土(7.5YR3/4) 少量の棒名二ツ岳白色軽石を含む。硬く締り強。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 微量の棒名二ツ岳白色軽石を含む。締り強。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 土質均一。硬く締り強。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 黄褐色土を含む。締りやや弱。粘性有。

74号土坑



74号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) ややシルト質土。微量の棒名二ツ岳白色軽石を含む。締りやや強。
- 2 にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) 締り強。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の黄褐色シルト質土を含む。締りやや弱。粘性有。



第713図 Ⅱ区67・68・70～74・85号土坑

## 72号土坑(第713図、PL.379)

グリッド 13-2区J 1

長軸方位 N12°W

新旧関係 85号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は1.02m、短径は0.37m+、深さは0.48mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 85号土坑(第713図、PL.379)

グリッド 13-2区J 1

長軸方位 N12°W

新旧関係 19号住居、72号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は1.08m+、短径は0.38m+、深さは0.46mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 73号土坑(第713図)

グリッド 12-92区K 19

長軸方位 N30°W

新旧関係 15号住居、52号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長径は0.87m、短径は0.42m+、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 74号土坑(第713図、PL.379)

グリッド 12-92区L 20

長軸方位 N8°E

新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸長方形を呈し、断面形状は半月形を呈する。長辺は1.28m、短辺は0.87m、深さは0.42mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 75号土坑(第714図、PL.376)

グリッド 12-92区L 20

長軸方位 N25°W

新旧関係 76号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長径は1.01m、短径は0.93m+、深さは0.31mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 76号土坑(第714図、PL.376・445)

グリッド 12-92区M 20

長軸方位 N82°W

新旧関係 75・77号土坑が旧。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長径は1.75m、短径は1.34m、深さは0.40mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

遺物 埋土から鉄製品(1)が出土した。

時代 古墳時代以降である。

## 77号土坑(第714図、PL.376)

グリッド 12-92区M 20

長軸方位 N40°W

新旧関係 76号土坑が旧。78号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長径は0.94m、短径は0.31m+、深さは0.29mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 78号土坑(第714図、PL.376)

グリッド 12-92区M 20

長軸方位 N37°E

新旧関係 77号土坑、95号ピットが新。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長辺は0.90m+、短辺は0.81m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 79号土坑(第714図、PL.376)

グリッド 12-92区M 20

長軸方位 N70°E

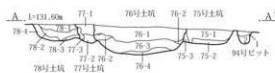
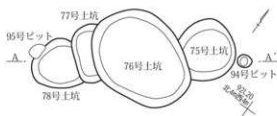
新旧関係 なし。

形状と規模 隅丸方形を呈し、断面形状は皿形を呈する。

長辺は0.71m、短辺は0.67m、深さは0.14mである。

第4章 第2面の遺構と出土遺物

75～78号土坑・94号ピット



76号土坑



79号土坑



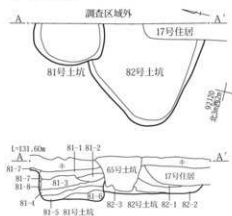
79号土坑

- 1 暗褐色土 様名ニッ岳白色軽石を含む。締り悪い。
- 2 黄褐色土 硬く締る。粘性有。

80号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/4) 微量の様名ニッ岳白色軽石と少量の黄褐色土ブロックを含む。硬く締り強。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 1層上よりやや多く黄褐色土ブロックを含む。硬く締り強。

81・82号土坑



81・82号土坑

- 81-1 暗褐色土(10YR3/4) 微量の様名ニッ岳白色軽石と少量の黄褐色土ブロックを含む。硬く締り強。
- 81-2 黄褐色土(10YR4/3) 硬く締る。粘性有。
- 81-3 暗褐色土(10YR3/3) 少量の黄褐色土ブロックを含む。締り強。
- 81-4 暗褐色土(10YR3/3) 少量の黄褐色土粒子を含む。締り強。
- 81-5 黒褐色土(10YR3/2) 少量の黄褐色土粒子と微量の炭化物を含む。締りやや強。
- 81-6 暗褐色土(10YR3/4) 微量の様名ニッ岳白色軽石・黄褐色土ブロック・炭化物を含む。締りやや強。
- 81-7 褐色土(10YR4/4) 黄褐色シルト質上に様名ニッ岳白色軽石を含む。締りやや強。
- 81-8 にぶい黄褐色粘質土(10YR4/3) 締りやや強。
- 82-1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の様名ニッ岳白色軽石・黄褐色土ブロック・炭化物を含む。締り強。
- 82-2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 少量の黄褐色土ブロック・炭化物と微量の様名ニッ岳白色軽石を含む。
- 82-3 褐色土(10YR4/4) 砂質土と粘質土の混土。締りやや強。

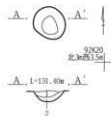
75～78号土坑

- 75-1 暗褐色土 多量の様名ニッ岳白色軽石と少量の炭化物粒子を含む。やや硬く締る。
- 75-2 暗褐色土 少量の黄褐色土ブロックを含む。やや硬く締る。
- 75-3 暗褐色土 硬く締る。
- 76-1 暗褐色土 多量の様名ニッ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 76-2 暗褐色土 やや硬く締る。
- 76-3 茶褐色土 多量の黄褐色土ブロックと少量の様名ニッ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。粘性有。
- 76-4 黄褐色土 硬く締る。粘性非常に有。
- 77-1 暗褐色土 様名ニッ岳白色軽石を含む。やや硬い。
- 77-2 暗褐色土 やや硬い。粘性有。
- 77-3 黄褐色土 やや硬い。粘性有。
- 78-1 暗褐色土 様名ニッ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 78-2 暗褐色土 少量の様名ニッ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 78-3 暗褐色土 柔らかくて締り悪い。
- 78-4 茶褐色土 黄褐色土ブロックを含む。柔らかくて締り良。粘性有。

94号ピット

- 1 暗褐色土 少量の様名ニッ岳白色軽石を含む。やや硬く締る。
- 2 茶褐色土 やや硬く締る。

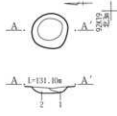
80号土坑



83号土坑

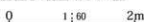
- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の黄褐色土ブロックを含む。締り強。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 1層上よりも多く黄褐色土ブロックを含む。締り強。

83号土坑



81・82号土坑

- 81-1 灰黄褐色土(10YR4/2) 少量の様名ニッ岳白色軽石・炭化物を含む。締り強。
- 81-2 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の様名ニッ岳白色軽石・黄褐色土粒子を含む。締り強。
- 81-3 暗褐色土(10YR3/3) 少量の様名ニッ岳白色軽石・黄褐色土ブロックを含む。締り強。
- 81-4 暗褐色土(10YR3/4) 少量の黄褐色土粒子を含む。締り強。
- 81-5 黒褐色土(10YR3/2) 少量の黄褐色土粒子と微量の炭化物を含む。締りやや強。
- 81-6 暗褐色土(10YR3/4) 微量の様名ニッ岳白色軽石・黄褐色土ブロック・炭化物を含む。締りやや強。
- 81-7 褐色土(10YR4/4) 黄褐色シルト質上に様名ニッ岳白色軽石を含む。締りやや強。
- 81-8 にぶい黄褐色粘質土(10YR4/3) 締りやや強。
- 82-1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の様名ニッ岳白色軽石・黄褐色土ブロック・炭化物を含む。締り強。
- 82-2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 少量の黄褐色土ブロック・炭化物と微量の様名ニッ岳白色軽石を含む。
- 82-3 褐色土(10YR4/4) 砂質土と粘質土の混土。締りやや強。



第714図 XII区75～83号土坑と76号土坑の出土遺物

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

80号土坑(第714図、PL.379)

グリッド 12-92区K20

長軸方位 N33°W

新旧関係 16号住居が旧。

形状と規模 楕円形を呈し、断面形状は半月形を呈する。

長径は0.55m、短径は0.48m、深さは0.28mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 10世紀より新。

81号土坑(第714図、PL.379)

グリッド 13-2区J1

長軸方位 N12°W

新旧関係 65号土坑が新。82号土坑が旧。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は1.12m、短径は0.65m+、深さは0.52mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

82号土坑(第714図、PL.379)

グリッド 12-92区J20

長軸方位 N47°W

新旧関係 17号住居、65・81号土坑が新。

形状と規模 不定形を呈し、断面形状は箱形を呈する。

長径は1.87m+、短径は1.83m+、深さは0.42mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

83号土坑(第714図)

グリッド 12-92区K19

長軸方位 N31°W

新旧関係 なし。

形状と規模 円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。

長径は0.58m、短径は0.56m、深さは0.10mである。

埋土 灰黄褐色砂質土からなる。

時代 古墳時代以降である。

## 第7節 鍛冶

### 1. VI区

1号鍛冶・27号住居(第715~724図、PL.106・380・445~447)

グリッド 13-3区F 8

主軸方位 N89°W

重複 19号溝に切られる。5号竪穴に近接する。

形状と規模 東西方向に長軸を有し、長方形を呈する竪穴住居である。長辺は5.03m、短辺は4.20m、深さは0.41m、面積は18.87㎡である。埋土を切って1号鍛冶遺構が重複する。

埋土 ニツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなる。

床面 ニツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土を0.12mほど貼って、床面を構築している。

掘方 XII・XIII層の黄褐色砂質土を掘り込んで構築している。

カマドと貯蔵穴 東壁の中央南寄りに位置する。カマドの燃焼部は東壁から奥を掘り込んで壁の外側に構築している。燃焼部底は緩やかに傾いて立ち上がる。燃焼部底は左側に焼土ブロックが広がり、焚口の右側には炭化物を検出した。カマド埋土は炭化物や焼土を含む灰黄褐色砂質土である。カマドは長さ0.91m、幅0.83m、深さ0.13mである。貯蔵穴は検出されなかった。

#### 1号鍛冶

形状と規模 27号住居内に存在する土坑群と焼土帯からなる。

土坑1は歪んだ楕円形を呈し、長径は0.88m、短径は0.60m、深さは0.23mである。

土坑2は楕円形を呈し、長径は1.13m、短径は0.85m、深さは0.15mである。

土坑3は歪んだ隅の丸い方形を呈し、長辺は1.05m、短辺は0.62m、深さは0.03mである。

土坑4は隅の丸い長方形を呈し、長辺は1.18m、短辺は0.98m、深さは0.11mである。

土坑5は方形の窪みを歪んだ円形土坑が切っている。方形の窪みの長辺は2.58m、短辺は0.84m、円形土坑の長径は1.52m、短径は1.28m、深さは0.40mである。

土坑6は楕円形を呈し、長径は1.17m、短径は0.94m、

深さは0.05mである。

土坑7は歪んだ楕円形を呈し、長径は1.03m、短径は0.76m、深さは0.10mである。

土坑5から溝が竪穴の外に向かって延伸し19号溝に接続する。溝の幅は0.43m、深さ0.30mで、外延溝の可能性

がある。

土坑埋土 ニツ岳の白色軽石を含み炭化物やにぶい黄褐色砂質土ブロックを含む灰黄褐色砂質土が傾きながら成層し、土坑を埋める。

焼土帯 土坑3・4の上位0.21mに長径2.42m、短径1.14mの粘土や長径0.74m、短径0.52mの焼土の広がり、灰などを確認し、これは鍛冶炉の痕跡である可能性がある。焼土や灰は土坑埋土の上部にある。埋土は長径0.20mの垂円~垂角礫を多く含み、一部には赤く酸化した被熱礫も認められる。なお、竪穴掘方では土坑7の南側に直径0.50mほどの焼土帯が認められる。これは掘り込まれた鍛冶炉の炉底付近の焼土の可能性ある。

遺物 土器や羽口などの土製品、鉄製品や石製品などの遺物、鉄洋や礫など約700点が出土した。礫は垂円~垂角礫からなり長径は0.14~0.38mに及び、竪穴の西縁から7点がまとまって出土した。1号鍛冶は埋土から土師器の杯(1)、須恵器の杯(3~6)、椀(7)、黒色土器の椀(2)、羽口(8~58)、埴壇(59~61)、銅椀(62)、鉄製鎌子(71)、鉄製品(63~91・116)、鉄洋(92~115)、金床石(117)が出土し、出土遺物は8世紀後半から10世紀後半の年代幅を有する。

時代 主要な遺物から平安時代10世紀と想定される。

### 2. VII区

1号鍛冶(第725~731図、PL.381~383・447・448)

グリッド 13-2区P11

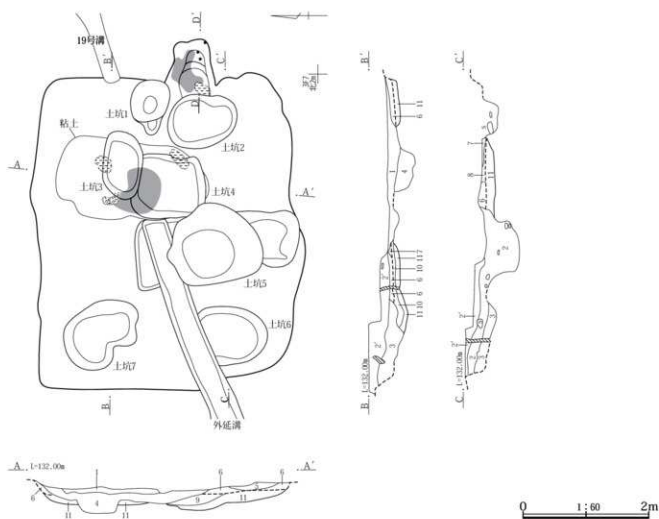
形状と規模 86・105号住居の北東~東の南北9m、東西6mの範囲に存在する土坑群と焼土帯からなる。

土坑1は歪んだ楕円形を呈し、長径は1.18m、短径は0.92m、深さは0.29mである。

土坑2は歪んだ楕円形を呈し、土坑1を切る。長径は0.65m、短径は0.47m、深さは0.40mである。

土坑3は歪んだ円形を呈し、長径は1.08m、短径は0.93m、深さは0.23mである。

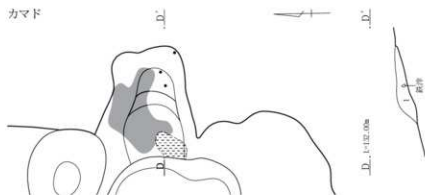
土坑4は歪な隅の丸い長方形を呈し、土坑3を切る。長



- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 多量の焼上ブロック(φ5~40mm大)・炭化物・にぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ5~30mm大)・鉄滓・羽口を含む。=1号観治
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の棒名ニツ岳白色軽石小粒・炭化物粒・にぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~10mm大)を含む。=1号観治
- 2' 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 2層上より炭化物・シルトブロックの混入少ない。=1号観治
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒と多量の炭化物と少量のにぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ10~30mm大)・焼上小ブロック(φ5~15mm大)を含む。=1号観治
- 4 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒と少量の炭化物粒と多量のにぶい黄褐色砂質土シルトブロック(φ10~30mm大)を含む。=1号観治
- 5 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒・多量のにぶい黄褐色砂質土シルト小ブロック(φ5~15mm大)を含む。=27号住居(5~8は埋土、9~11は掘方埋土)
- 6 にぶい黄褐色砂質土シルト(10YR7/4) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒と少量の黄褐色砂質土ブロック(φ10~30mm大)を含む。=27号住居
- 7 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の灰・炭化物・焼上粒子を含む。=27号住居
- 8 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 多量の灰と少量の炭化物・焼上粒子を含む。=27号住居
- 9 にぶい黄褐色砂質土シルト(10YR7/4) 微量の棒名ニツ岳白色軽石小粒と少量の黄褐色砂質土ブロック(φ10~30mm大)を含む。=27号住居
- 10 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 少量の灰・炭化物・焼上粒子を含む。=27号住居
- 11 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 多量のにぶい黄褐色砂質土シルト大ブロック(φ10~50mm大)を含む。=27号住居

第715図 VI区27号住居(1)

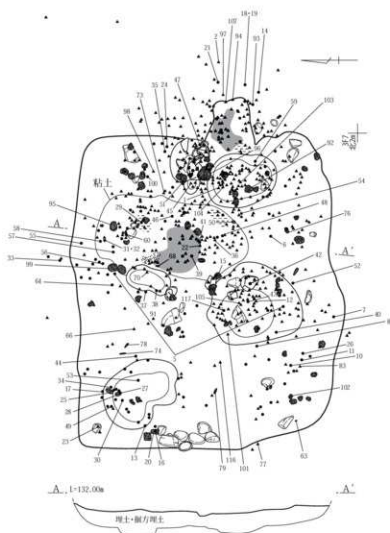
カマド



1 灰黄褐色砂質土 少量の炭化物・焼土粒  
(10YR5/2) 子・にふい、黄褐色砂質  
土シルト小ブロック  
(φ 5mm大)を含む。

0 1:30 1m

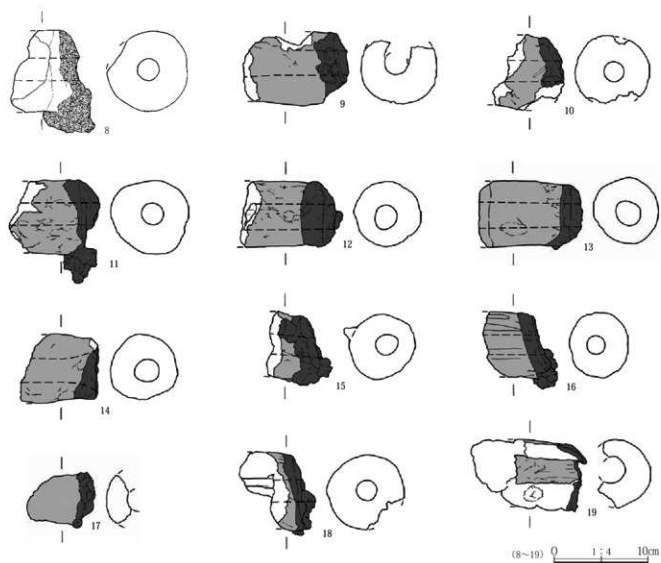
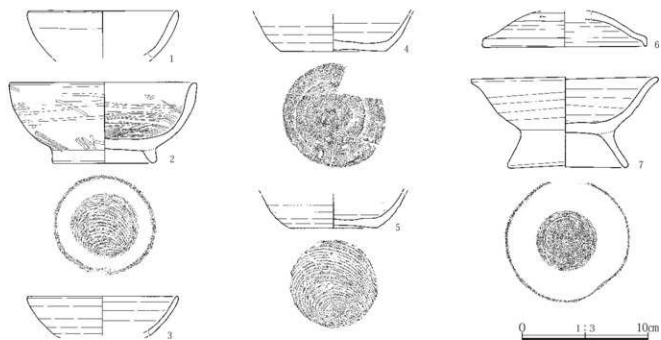
第716図 VI区27号住居(2)



凡例  
 ● 土器・土製品  
 ● 鉄製品・鉄滓  
 ○ 鉄滓  
 ⊙ 礎

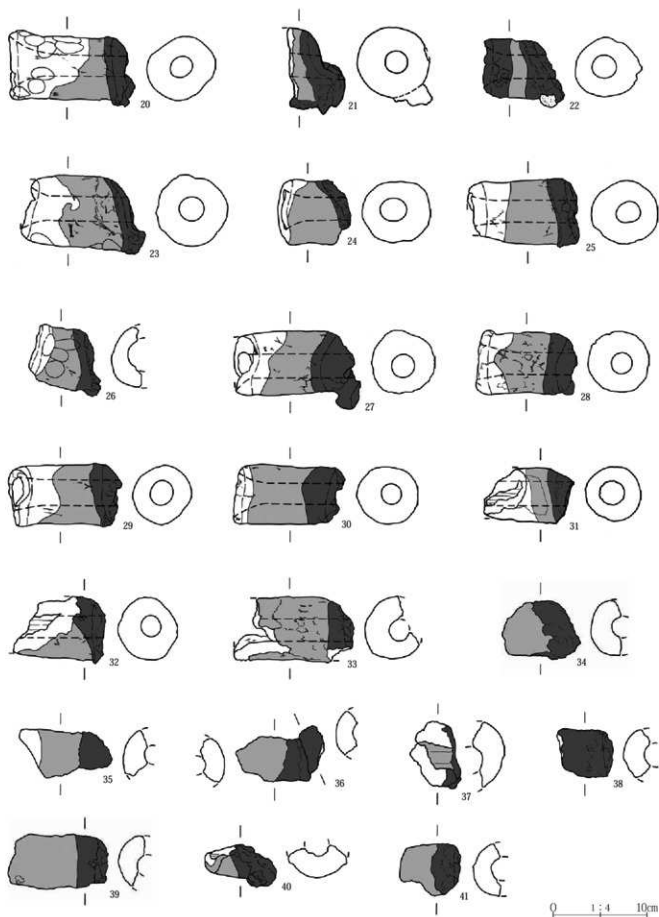
0 1:60 2m

第717図 VI区1号鍛冶

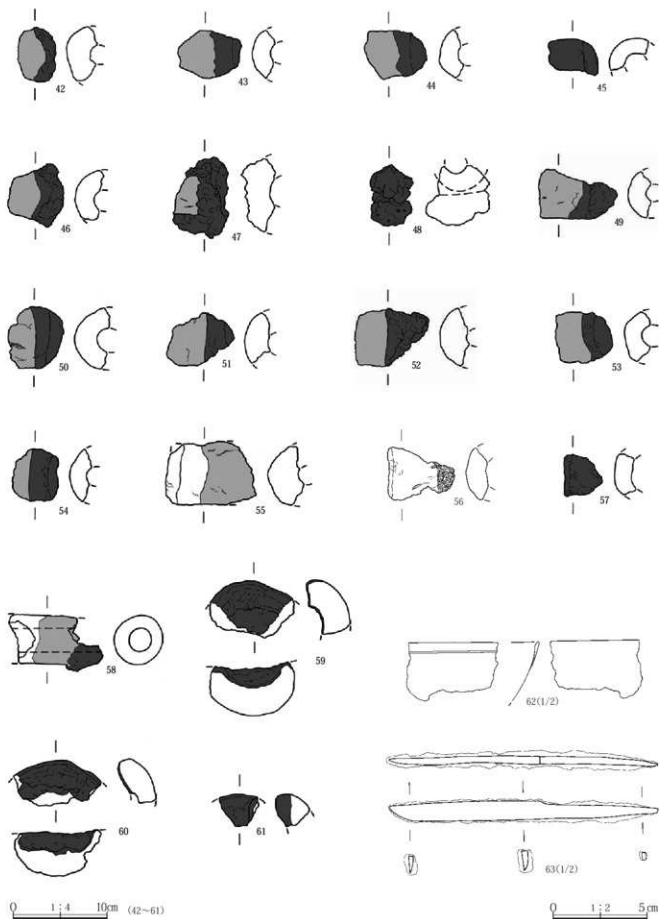


第718図 M区1号観治の出土遺物(1)

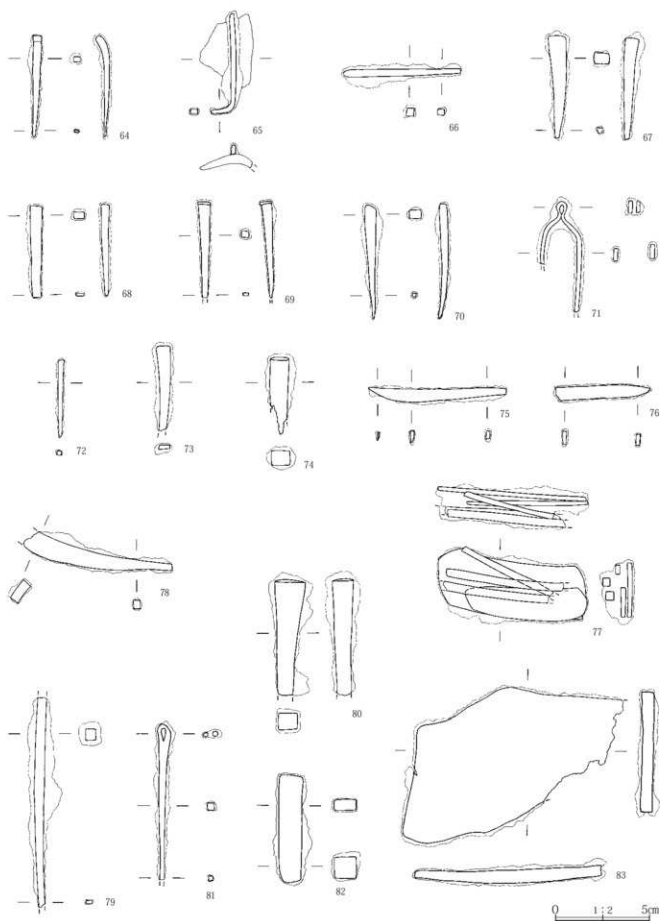




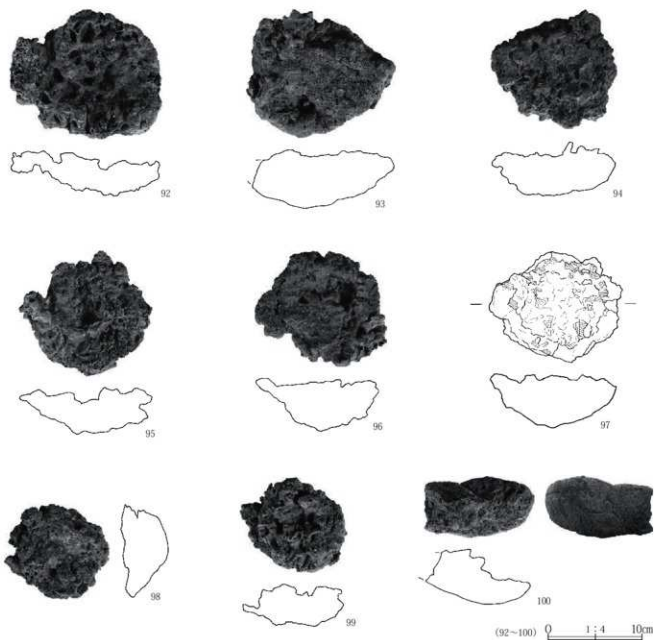
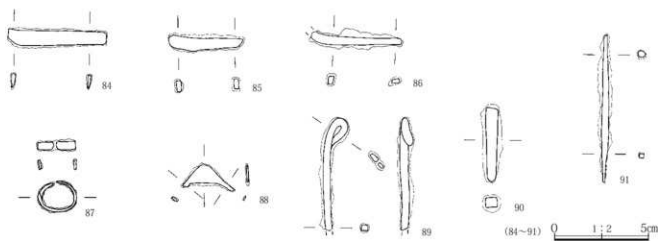
第719図 VI区1号殿治の出土遺物(2)



第720図 VI区1号鍛冶の出土遺物(3)

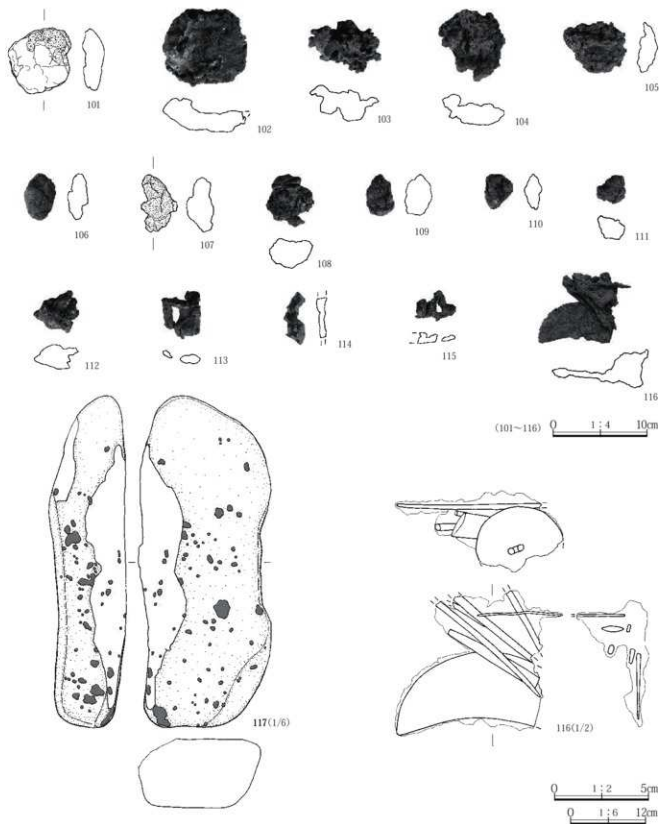


第721図 M区1号殿治の出土遺物(4)



第722図 M区1号鍛冶の出土遺物(5)

第4章 第2面の遺構と出土遺物



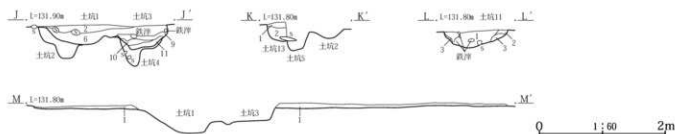
第723図 MIK1号殿治の出土遺物(6)

VI区 1号観測台					
椀形鋳造滓(特大)	95	椀形鋳造滓(中)	101	鉄塊系遺物	107 (分析資料 No.9)
	96		102		108
	97	椀形鋳造滓(小)	103	粘土質溶融物(ガラス化)	110 111 112
		椀形鋳造滓(特大)	104	小室の流動滓	113
	98		105		114 115 116
	99		106	滓再結晶滓(粉末付き)	117
	100				118 (分析資料 No.11)
		羽口第1グループ(塊鋳造滓)	119		120 121 122 123 124 125 126 127 128 129
		羽口第2グループ(塊鋳造滓)	130 (分析資料 No.11)		131
		羽口第3グループ(塊鋳造滓)	132 133 134 135 136		137 138 139 140 (分析資料 No.12)
		羽口先鋒部	141		142
		羽口第4グループ	143 144 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157		158 159
					160 161 162 163 164
		椀形鋳造滓(特大)	171		
		椀形鋳造滓(小)	172		
		羽口			
		塊鋳造物			
		VI区流動滓			
		V区羽口			
分析					

第724図 VI区 1号観測台構成図



第725図 VII区1号殿治(1)



## A-A' 土坑8

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi 1 \sim 5$ mm大)・炭化粒子( $\phi 3 \sim 10$ mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi 1 \sim 2$ mm大)・鉄滓を含む。多量の炭化物を含む。
- 3 灰黄褐色シルト質土(10YR6/2) 上層にPP二次堆積土あり。

## B-B' 土坑12

- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi 1 \sim 8$ mm大)・炭化粒子( $\phi 1 \sim 3$ mm大)を含む。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR6/3) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi 1 \sim 7$ mm大)・炭化粒子( $\phi 1 \sim 2$ mm大)を含む。

## D-D' 土坑7

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 多量の円礫( $\phi 30 \sim 200$ mm)が上部中央に集中して分布(1層土中に含む)。微量の炭化粒子( $\phi 1 \sim 5$ mm大)を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi 1 \sim 5$ mm大)・小円礫( $\phi 20 \sim 40$ mm大)を含む。締りやや弱い。
- 3 炭化物の焼土が多い地点。締りやや弱い。
- 4 灰黄褐色土(10YR5/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi 1 \sim 2$ mm大)・炭化粒子( $\phi 1 \sim 3$ mm大)・焼土粒( $\phi 1$ mm大)を含む。
- 5 にぶい黄褐色シルト質土(10YR7/3) FP配流。
- 6 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒・炭化粒子( $\phi 1 \sim 4$ mm大)を含む。

## F-F' 土坑15

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi 1 \sim 5$ mm大)・炭化粒子( $\phi 1 \sim 2$ mm大)・鉄滓を含む。
- 2 浅黄色シルト質土(2.5Y6/3) 微量の炭化粒子( $\phi 1$ mm大)を含む。
- 3 にぶい黄褐色シルト質土(10YR6/4) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi 1 \sim 2$ mm大)・炭化粒子( $\phi 1 \sim 3$ mm大)・鉄滓を含む。

## J-J' 土坑1~4

- 2 鉄滓の混じりが多い層 多量の礫( $\phi 5 \sim 30$ mm大)・鉄滓を含む。
- 6 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の炭化粒( $\phi 2 \sim 20$ mm大)・鉄滓混じり( $\phi 2 \sim 30$ mm大)を含む。
- 9 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の小礫( $\phi 2 \sim 20$ mm大)を含む。
- 10 灰黄褐色土(10YR4/2) フイゴの羽引出上。微量の小礫( $\phi 5 \sim 30$ mm大)・鉄滓( $\phi 5 \sim 40$ mm大)を含む。
- 11 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の礫( $\phi 10 \sim 40$ mm大)・鉄滓( $\phi 5 \sim 10$ mm大)を含む。

## L-L' 土坑11

- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi 1 \sim 8$ mm大)・炭化粒子( $\phi 1 \sim 7$ mm大)・鉄滓を含む。締り良。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR5/4) 少量の炭化物を含む。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR6/4) 微量の炭化粒子( $\phi 1$ mm大)を含む。

## 土坑9

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 少量の炭化粒子( $\phi 1 \sim 5$ mm大)・炭化物を含む。上層に多量の炭化物を含む。
- 2 にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) 極名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi 1 \sim 5$ mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の炭化粒子( $\phi 1 \sim 2$ mm大)を含む。
- 4 にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3) 極名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi 1 \sim 5$ mm大)・炭化粒子( $\phi 1 \sim 3$ mm大)を含む。

## C-C' 土坑16

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi 1 \sim 5$ mm大)・炭化粒子( $\phi 1 \sim 3$ mm大)を含む。
- 2 黒褐色シルト質土(10YR3/2) 多量の極名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi 1 \sim 2$ mm大)を含む。鍛造割片を認められる。締りやや弱。

## E-E' 土坑14

- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi 1 \sim 10$ mm大)・炭化物( $\phi 1 \sim 4$ mm大)・鉄滓を含む。
- 2 にぶい黄褐色シルト質土(10YR6/4) 壁の崩落上。微量の極名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi 1 \sim 10$ mm大)を含む。
- 3 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi 1 \sim 3$ mm大)・炭化物( $\phi 1 \sim 2$ mm大)を含む。
- 4 にぶい黄褐色シルト質土(10YR6/4) 微量の炭化粒子( $\phi 1 \sim 3$ mm大)・小円礫( $\phi 30$ mm大)を含む。

## I-I' 土坑1

- 1 鉄滓(再統合鉄滓) 極めて鉄の密度濃い。石( $\phi 5 \sim 50$ mm大)を混入。
- 2 鉄滓の混じり多い層 多量の礫( $\phi 5 \sim 30$ mm大)・鉄滓を含む。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の炭化粒( $\phi 2 \sim 15$ mm大)・鉄滓( $\phi 10 \sim 40$ mm大)を含む。
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の炭化粒( $\phi 3 \sim 10$ mm大)を含む。
- 5 灰黄褐色土(10YR4/2) 3層土に比べ、鉄滓を含む量が少ない。炭化粒を含まない。
- 6 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の炭化粒( $\phi 2 \sim 20$ mm大)・鉄滓混じり( $\phi 2 \sim 30$ mm大)を含む。
- 7 灰黄褐色土(10YR4/2) 微量の焼土粒( $\phi 2 \sim 3$ mm大)・炭化粒( $\phi 2 \sim 20$ mm大)を含む。
- 8 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2)中心層

## K-K' 土坑13

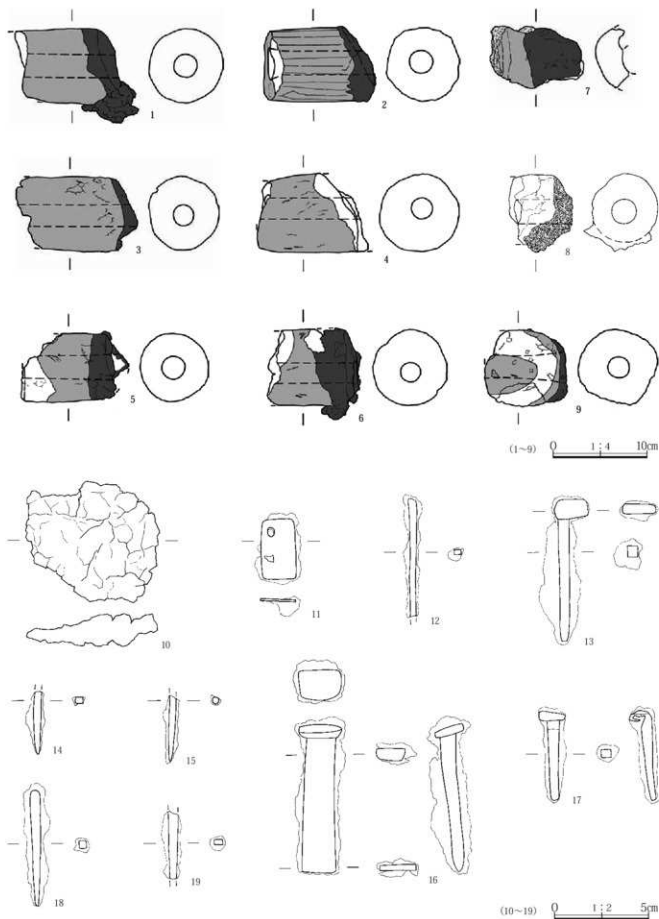
- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi 1 \sim 10$ mm大)・炭化粒子( $\phi 1 \sim 2$ mm大)を含む。他に羽口等。微量の鍛造割片を含む。
- 2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi 1 \sim 8$ mm大)・炭化粒子( $\phi 1 \sim 3$ mm大)・鉄滓・鍛造割片?を含む。

## M-M' 土坑1・3

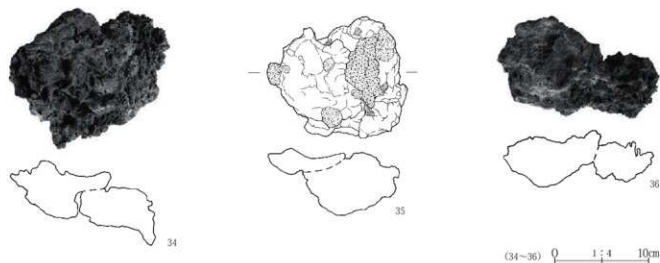
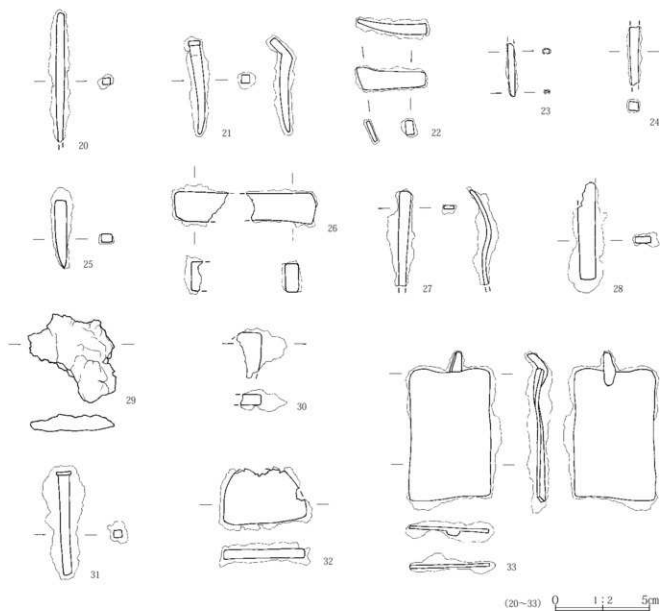
- 1 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2) 微量の極名ニツ岳白色軽石小粒( $\phi 1 \sim 10$ mm大)・炭化粒子( $\phi 1 \sim 2$ mm大)を含む。他に羽口等。微量の鍛造割片を含む。

第726図 VII区1号観治(2)

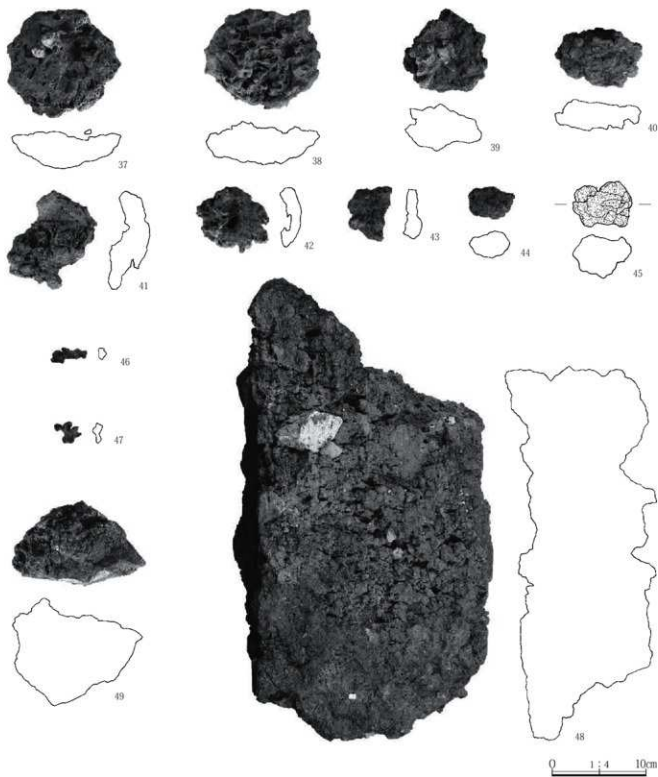




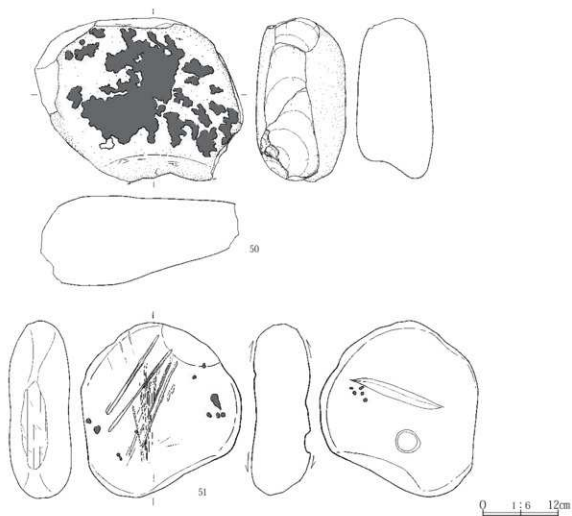
第727図 VII区1号殿治の出土遺物(1)



第728図 VII区1号鍛冶の出土遺物(2)



第729図 VII区1号殿治の出土遺物(3)



第730図 VII区1号観治の出土遺物(4)

楕形鋸治滓(特大)	楕形鋸治滓(小)	VI区 1号鋸治	VI区 Bグループ	VI区 18号住居	VI区 29号住居
45	楕形鋸治滓(磨小) (分相材料 No.5)	楕形鋸治滓(小)	楕形鋸治滓(中)	楕形鋸治滓(中)	楕形鋸治滓(小)
46	46	53	鉄塊系遺物	82	87
楕形鋸治滓(大)	楕形鋸治滓(磨小)	54	71	楕形鋸治滓(小)	羽口
47	鉄塊系遺物	55	72	83	88
48	55 (分相材料 No.6)	56	73	84	89
楕形鋸治滓(中)	56	57	74	鉄塊系遺物	VI区 Aグループ
49	57	58	75	(分相材料 No.7)	楕形鋸治滓(大)
50	58	59	76	81	楕形鋸治滓(小)
51	再結合滓	60	77	粘土質溶融物	91
52			78	粘土質溶融物(磨小)	92
分析	1	1	79	羽口	93
			80	86	94
			81	1	

第731図 VII区 1号鋸治構成図

辺は0.52m、短辺は0.36m、深さは0.51mである。

土坑5は楕円形を呈し、長径は0.54m、短径は0.49m、深さは0.40mである。

土坑6は歪んだ楕円形を呈し、長径は0.59m、短径は0.38m、深さは0.43mである。

土坑7は歪んだ隅の丸い長方形を呈し、長辺は2.32m、短辺は1.56m、深さは0.48mである。

土坑8は歪んだ長方形を呈し、長辺は1.00m、短辺は0.58m、深さは0.14mである。底面は炭化物が広がる。

土坑9は歪んだ隅の丸い長方形を呈し、長辺は1.48m、短辺は9.20m、深さは0.14mである。底面には炭化物と窪み状に焼土が広がる。

土坑11は歪んだ隅の丸い長方形を呈し、長辺は2.26m、短辺は1.04m、深さは0.26mである。土坑からは鉄滓が13点出土した。

土坑12は楕円形を呈し、長径は0.40m、短径は0.35m、深さは0.31mである。

土坑13は歪んだ円形を呈し、土坑5を切る。長径は0.41m、短径は0.35m、深さは0.19mである。

土坑14は歪んだ円形を呈し、長径は0.43m、短径は0.38m、深さは0.25mである。

土坑15は歪んだ楕円形を呈し、長径は0.68m、短径は0.40m、深さは0.22mである。

**土坑埋土** ニツ岳の白色軽石を含み炭化物やにぶい黄褐色砂質土ブロックを含む灰黄褐色砂質土が傾きながら成層し、土坑を埋める。

**遺物** 土器や羽口などの土製品、鉄製品や石製品などの遺物、鉄滓や礫など約700点が出土した。礫は亜円～亜角礫からなり長径は0.20～0.35mである。1号鍛冶からは羽口(1～9)、鉄製品(10～33)、鉄滓(34～49)金床石(50)、砥石(51)が出土した。

**時代** 1号鍛冶を構成する遺物包含層は10世紀前半の住居を覆うことから10世紀後半以降と考えられる。

### 3. XII区

1号鍛冶(第732～734図、PL.384・448)

グリッド 13-2区M1

**形状と規模** 7号住居の埋土を切って存在する窪みと4号住居の埋土上位から出土した遺物の広がりをも1号鍛冶と呼ぶ。窪みは隅の丸い方形を呈し、長辺は0.69m、短

辺は0.57m、深さは0.13mである。4号住居上位から検出された遺物は、窪みの西側で南北2.70m、東西3.00mの広がりを持ち、その分布は4号住居の範囲内に収まる。

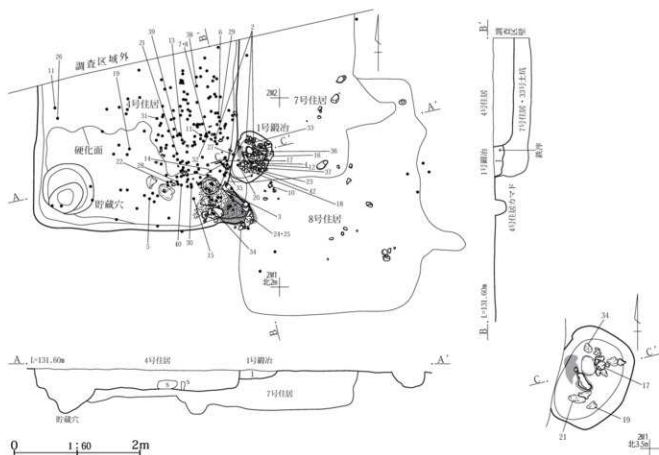
**重複** 窪みは4号住居に切れ、7・8号住居埋土を切る。4号住居の上位で検出された遺物を含む層の下底と4号住居埋土に明確な境界は認められない。このことから窪み周辺の遺物群は4号住居埋土の上位から検出され、住居埋土を覆うというより埋土の上部を構成するものと考えられる。

**埋土** 窪みをうめる埋土は、炭化物や焼土ブロックを多く含む暗灰色土である。

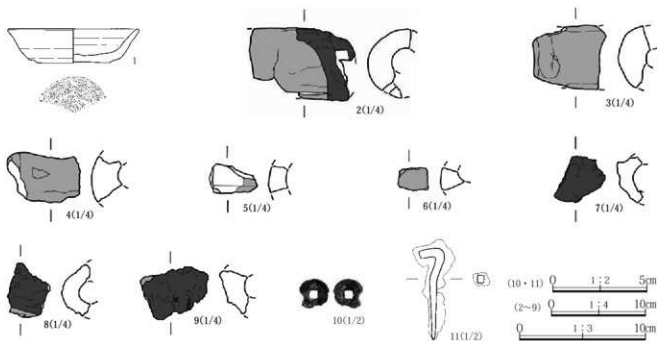
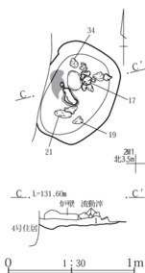
**遺物** 窪みと4号住居の埋土上位からは、須恵器の杯(1)、銅鏡(10)、鉄製品(11)、土製品の送風管(2～9)、炉壁(12～24)、炉底塊(25・26)、鉄滓(27～42)、礫など約300点が出土した。炉底塊は4号住居カマドの煙道壁から出土し、煙道の構築材として使用された可能性が極めて高い。礫は亜円～亜角礫からなり長径は0.05～0.30mである。

**時代** 窪みは10世紀前半の7号住居を切り、10世紀後半の4号住居に切られることから、平安時代10世紀中頃と考えられる。

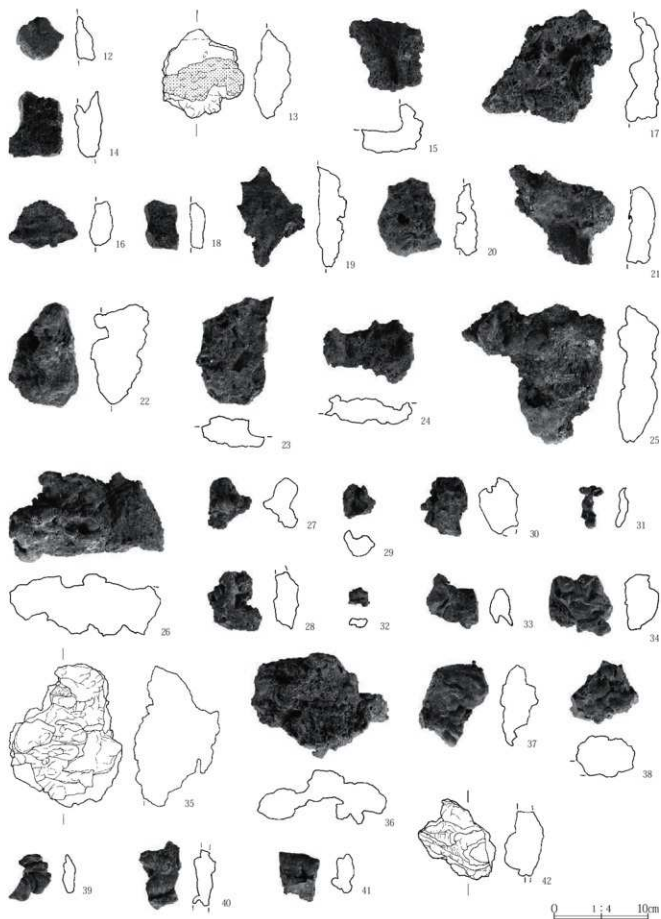
**所見** 1号鍛冶から出土した遺物群からは、炉壁、炉底、土製の送風管が出土しており、これらは平安時代の製鉄炉を構成する遺物である。7号住居を切る窪みは、炭化物や焼土ブロックを多く含み、上位から鉄滓が出土した。窪みの底部を構成する埋土は炭化物を含む還元帯、その上位にブロック化した焼土帯が成層する可能性もあるが、鉄滓や礫が上位から乱雑に多く出土しており、焼土帯が窪みを覆って検出されなかったので、窪みは製鉄炉の炉底と断定できる証拠が十分に得られなかった。これらは製鉄炉から廃棄された土壌や部材が窪み状の土坑底に堆積し、検出された可能性が指摘される。また出土した炉底は4号住居のカマド構築材として転用されており、遺構の構築順は7号住居・製鉄炉の廃棄土坑または製鉄炉・4号住居の順番になると考えられる。4号住居の上位から検出された遺物は、4号住居埋土から出土したと考えられる。遺物が住居の東半分には偏在して出土するのは住居構築時に破壊した遺物の供給源が4号住居東側の周堤などに保存され、住居の廃棄によって東側から供給された土壌とともに住居内に堆積したのと考えられる。



1 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物・焼土ブロックと微量の棒名二ツ房白色軽石を含む。締り強。



第732図 Ⅱ区1号鍛冶と出土遺物



第733図 X区1号鍛冶の出土遺物



		XII区 1号 階段台		XII区	
上段上半	炉壁	1	16	23	39
上段下半	製鉄炉 送風管基部	3	17	24	送風管
中段上半	製鉄炉 送風管基部	4	18	25	32
中段下半	製鉄炉 送風管基部	5		26	33
下段上半	製鉄炉 送風管基部	6	20	27	34
下段下半	製鉄炉 送風管基部	7			36
下段上半	製鉄炉 送風管基部	8			37
下段下半	製鉄炉 送風管基部	9			38
炉底付近	炉底塊	10			(炉底塊) 38
分析	分析	11	21	29	2

第734図 XII区 1号観測構成図

## 第8節 集石

### 1. V区

#### 1号集石(第735図)

グリッド 13-13区I 3

**形状と規模** 長径0.14~0.33mの垂円礫が面的に多く出土し、コの字形を呈する。長径は1.30m、短径は0.70m、面積は0.66㎡である。

**長軸方位** N55°E

**重複** なし。

**埋土** VII層を起源とする土壌から検出された。

**遺物** なし。

**所見** 周辺の10mの範囲から、2~4号集石が検出されており、一連の遺構群と考えられる。1・2号集石は1.50mの距離で接する。発掘調査では不明遺構とし、建物の礎石など根石の可能性が指摘されたが、柱列を示すような規則性に乏しい。

#### 2号集石(第735図)

グリッド 13-13区I 2

**形状と規模** 長径0.06~0.20mの垂円礫が面的に多く出土し、楕円形を呈する。長径は0.60m、短径は0.50m、面積は0.30㎡である。

**長軸方位** N60°E

**重複** なし。

**埋土** VII層を起源とする土壌から検出された。

**遺物** なし。

**所見** 周辺の10mの範囲から、1・3・4号集石が検出されており、一連の遺構群と考えられる。1・2号集石は1.50mの距離で接する。発掘調査では不明遺構とし、建物の礎石など根石の可能性が指摘されたが、柱列を示すような規則性に乏しい。

#### 3号集石(第735図)

グリッド 13-13区I 1

**形状と規模** 長径0.10~0.28mの円~垂円礫が9点出土し、ハの字形を呈する。長径は0.80m、短径は0.60m、面積は0.33㎡である。

**長軸方位** EW

**重複** なし。

**埋土** VII層を起源とする土壌から検出された。

**遺物** なし。

**所見** 周辺の10mの範囲から、2~4号集石が検出されており、一連の遺構群と考えられる。発掘調査では不明遺構とし、建物の礎石など根石の可能性が指摘されたが、柱列を示すような規則性に乏しい。

#### 4号集石(第735図)

グリッド 13-13区K 1

**形状と規模** 長径0.08~0.22m、最大径0.44mの円~垂円礫が多く出土し、大きな円礫を囲んで半月形を呈する。長径は1.35m、短径は1.00m、面積は1.00㎡である。

**長軸方位** N15°E

**重複** なし。

**埋土** VII層を起源とする土壌から検出された。

**遺物** なし。

**所見** 周辺の10mの範囲から、1~3号集石が検出されており、一連の遺構群と考えられる。4号集石は他の集石とやや離れて位置する。大きな扁平礫が礎石で小さな礫がそれを取り巻く根石のように観察されるが、このような形態の集石は単独で存在する。発掘調査では不明遺構とし、建物の礎石などの可能性が指摘されたが、柱列を示すような規則性に乏しい。

### 2. VI区

#### 1号集石(第736図)

グリッド 13-3区G 9

**形状と規模** 長径0.12~0.22m、最大径0.58mの円~垂円礫が多く出土し、大きな円礫と円形を呈する窪みに礫を検出した。長径は0.84m、短径は0.63m、深さは0.28mである。

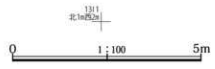
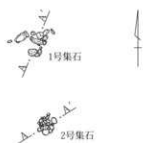
**長軸方位** N31°E

**重複** 18号溝を切る。

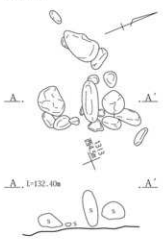
**埋土** 二ツ岳の白色軽石を含む灰黄褐色砂質土からなる。

**遺物** なし。

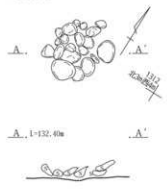
**所見** 周辺の15mの範囲から、N29°Wの方向に2~3号集石が検出されており、一連の遺構群と考えられる。大きな円礫は、窪みを埋めた小さな礫の上位に埋められ



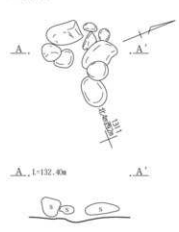
1号集石



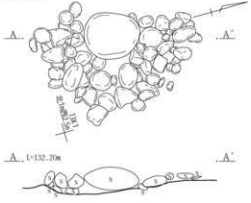
2号集石



3号集石



4号集石



第735図 V区1～4号集石

ている。発掘調査では不明遺構とし、柵などの可能性が指摘されたが、柱間を示すような規則性に乏しい。

#### 2号集石(第736図)

グリッド 13-3区F 9

**形状と規模** 長径0.10~0.22mの円~垂円礫が多く出土し、歪んだ円形の窪みに礫を検出した。長径は0.63m、短径は0.58m、深さは0.22mである。

**長軸方位** N67°E

**重複** 18号溝を切る。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなる。

**遺物** なし。

**所見** 周辺の15mの範囲から、N29°Wの方向に1・3・4号集石が検出されており、一連の遺構群と考えられる。発掘調査では不明遺構とし、柵などの可能性が指摘されたが、柱間を示すような規則性に乏しい。

#### 3号集石(第736図)

グリッド 13-3区F 8

**形状と規模** 長径0.08~0.20mの垂円礫が多く出土し、歪んだ楕円形を呈する。長径は0.92m、短径は0.86mである。

**長軸方位** N14°W

**重複** 27号住居を切る。

**遺物** なし。

**所見** 周辺の15mの範囲から、N29°Wの方向に1・2・4号集石が検出されており、一連の遺構群と考えられるが、3号集石はやや離れて位置する。発掘調査では不明遺構とし、柵などの可能性が指摘されたが、柱間を示すような規則性に乏しい。

#### 4号集石(第736図)

グリッド 13-3区E 7

**形状と規模** 長径0.06~0.20m、最大径0.41mの円~垂円礫が多く出土し、楕円形を呈する。長径は0.77m、短径は0.65mである。

**長軸方位** N20°W

**重複** 44号住居を切る。

**遺物** なし。

**所見** 周辺の15mの範囲から、N29°Wの方向に1~3号集石が検出されており、一連の遺構群と考えられる。

発掘調査では不明遺構とし、柵などの可能性が指摘されたが、柱間を示すような規則性に乏しい。

### 3. XII区

#### 1号集石(第737図、PL.385・448)

グリッド 13-2区K・L 2

**形状と規模** 北西~南北に長軸を有する隅丸長方形の浅い窪みから径0.04~0.15mの垂角~垂円礫が多く出土した。窪みの北部は調査区外に存在し、断面形状は浅い皿形を呈する。長辺は1.92m、短辺は1.64m、深さは0.03mである。

**長軸方位** N50°W

**重複** なし。

**埋土** ツツ岳の白色軽石を含む暗褐~黒褐色土からなる。

**遺物** 埋土から粗粒輝石安山岩の石製品(1)が出土した。

**所見** 周辺の遺構検出面から、XII層に帰属する0.05~0.30m大の垂円礫がXII層中に散在している。これらは地層中に密集せずに散在しており、明らかに1号集石の礫の出土状況とは異なっている。1号集石は、土坑に分類されるほど明確な遺構に埋積されていない。このことから遺構は冴などの耕作によって掘削された礫を集めて、浅い窪みに埋積したものである可能性が高い。

## 第9節 墓坑

### 1. VI区

#### 1号墓坑(第738図、PL.386)

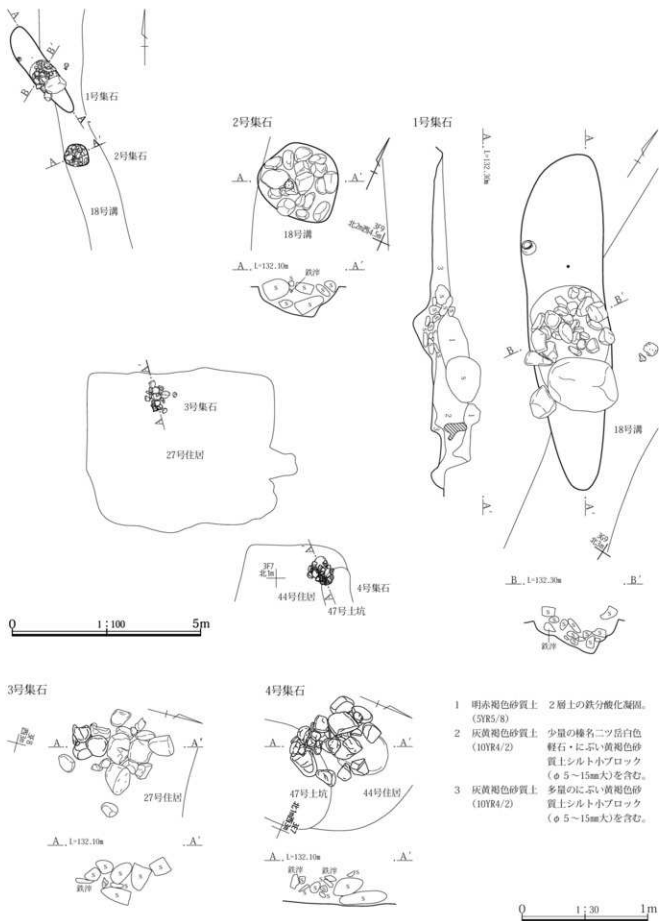
グリッド 13-3区J 10

**形状と規模** 南北に長軸を有する歪んだ楕円形を呈し、断面形状は浅い皿形を呈する。長径は2.04m、短径は1.10m、深さは0.26mである。ウマ1個体の動物遺存体が土坑の底面から出土した。ウマの骨格は頭部を北に、尾を南にして出土し、四肢は東に背を向けて西に横たわっている。前肢の手中骨と後肢の中足骨は、前肢部で平行に重なり合う。このような出土状態からウマは、四肢を前肢部で縛って運搬・埋葬された可能性がある。

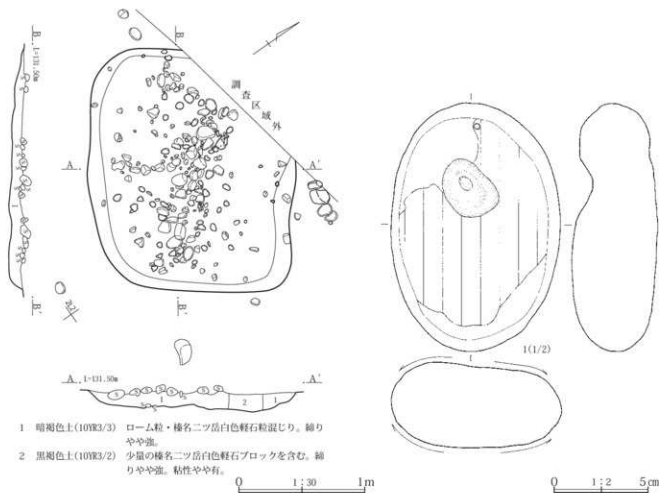
**長軸方位** N2°W

**重複** なし。16・17号住居に近接する。

**埋土** 灰黄褐色砂質土からなり、明るい火山灰質の色調からなる土はVIII層を起源とする埋土の可能性が高い。



第736図 VI区1~4号集石



- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・極名二ツ岳白色軽石粒混じり。締りやや強。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 少量の極名二ツ岳白色軽石ブロックを含む。締りやや強。粘性やや有。

第737図 XII区1号集石と出土遺物

遺物 なし。

所見 周辺の土坑の埋土の状況などから、中世から近世に属する可能性がある。

## 2. VII区

1号墓坑(第738図、PL.386・449)

グリッド 13-3区C12

形状と規模 隅丸方形を呈し、ドーナツ状の溝からなる特異な形状の土坑である。調査では16号住居として記録されたが墓坑に変更した。溝の断面形状は浅い皿形を呈する。長径は3.30m、短径は2.95m、溝の深さは0.34mである。

長軸方位 N15°E

重複 なし。

埋土 炭化物を含む黒褐色土からなる。

遺物 底0.15m上から小型甕(1)が出土した。

年代 遺物から10世紀代と考えられる。

## 3. X区

55号土坑(第738図、PL.387)

グリッド 13-13区G5

形状と規模 南西～北東方向に長軸を有す楕円形を呈し、ドーナツ状の溝からなる特異な形状の土坑である。溝の断面形状は箱形～半月形を呈する。長径は3.35m、短径は2.91m、溝の深さは0.42mである。

長軸方位 N35°W

重複 44・49号土坑に切られる。19号住居を切る。

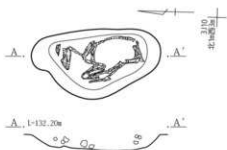
埋土 二ツ岳の白色軽石と炭化物を含む暗褐色土からなり、長径0.05～0.60mの垂円～円礫を多く含み、一部の礫の表面は赤褐色の焼土化を受けている。溝の下底にはにぶい黄褐色土が底を覆うように堆積する。

遺物 埋土から黒色土器の椀(2)が出土した。

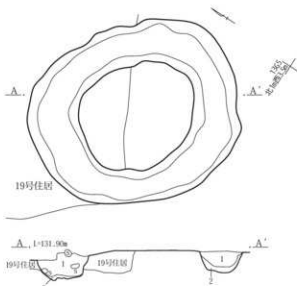
年代 10世紀前半に帰属する19号住居よりも新しく、埋土に浅間Bテフラを含まないため10世紀後半～11世紀と考えられる。

第4章 第2面の遺構と出土遺物

Ⅵ区1号墓坑

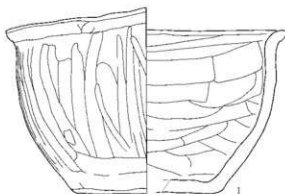


Ⅹ区55号土坑

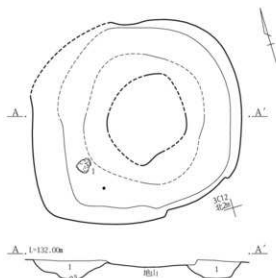


- 19号住居
- 19号住居
- 1 暗褐色土(10YR3/3) 極名二ツ岳白色軽石と少量の炭化物小ブロックを含む。締り強。粘性やや有。
  - 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 1層土と黄褐色土の混上。微量の軽石を含む。締り強。粘性やや有。

Ⅵ区1号墓坑

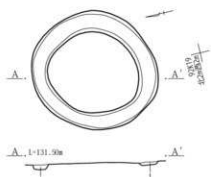


Ⅶ区1号墓坑



- 1 灰黄褐~黒褐色土(10YR4/2~3/2) 少量の極名二ツ岳白色軽石・小円礫・炭化物を含む。

Ⅹ区52号土坑



- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量のローム粒子を含む。締りやや強。粘性やや有。

0 1:60 2m

Ⅹ区55号土坑



0 1:3 10cm

第738図 Ⅵ区1号墓坑・Ⅶ区1号墓坑・Ⅹ区55号土坑・Ⅹ区52号土坑とⅦ区1号墓坑・Ⅹ区55号土坑の出土遺物

**所見** VII区1号墓坑、XII区の52号土坑とともに円形の周溝を有する溝からなり、調査時に土坑として分類されたため、それを踏襲した。西側に隣接する田口下田尻遺跡の調査区でも同様の遺構が346号土坑として検出されており、本遺跡で4基の検出例となっている。同様の遺構は前橋・高崎台地とその周辺の遺跡で検出されており、これらは鳥羽遺跡のB332号土坑、日高遺跡の52号土坑、徳丸仲田遺跡1区1号塚、二之宮宮下遺跡6号墓などで、特に鳥羽遺跡と徳丸仲田遺跡の土坑及び346号土坑は長径が3m前後を呈し55号土坑の規模と同様である。これらの遺構からは平安時代後半の遺物が出土しており、溝の埋土に炭化物や焼土を伴うことから古代の茶屋所と想定されている。

#### 4. XII区

52号土坑(第738図、PL.387)

グリッド 12-92区K19

**形状と規模** 円形を呈し、ドーナツ状の溝からなる特異な形状の土坑である。溝の断面形状は浅い皿形を呈する。長径は2.00m、短径は1.90m、溝の深さは0.16mである。  
**長軸方位** N13°E

**重複** 73号土坑を切る。

**埋土** 暗褐色土からなる。

**遺物** なし。

**年代** 埋土に浅間Bテフラを含まないため11世紀以前の古代と考えられる。

## 第10節 畠・耕作痕

### 1. V区

1号耕作痕(第739図)

グリッド 13-13区O1

**区画の規模** 調査区の南西部に連なる東西方向の耕作痕群である。区画の長さは9.20m、幅は2.30m、面積は11.83㎡である。

**規模** 耕作痕の形状は半月形で幅は0.22m、深さ0.12mである。

**走行方位** N60°E

**埋土** 暗褐色土である。

**遺物** なし。

**所見** 古代の集落遺構の検出面で認められた耕作痕群で奈良～平安時代の遺構群よりも新しい。

2号耕作痕(第739図)

グリッド 13-13区P19

**区画の規模** 調査区の南西部に連なる東西方向の耕作痕群である。区画の長さは5.20m、幅は4.30m、面積は11.83㎡である。

**規模** 耕作痕の形状は半月形で幅は0.22m、深さ0.15mである。

**走行方位** N55°E

**埋土** 暗褐色土である。

**遺物** なし。

**所見** 古代の集落遺構の検出面で認められた耕作痕群で奈良～平安時代の遺構群よりも新しい。

3号耕作痕(第739図)

グリッド 13-13区O17

**区画の規模** 調査区の南西部に連なる東西方向の耕作痕群である。区画の長さは10.60m、幅は1.90m、面積は11.65㎡である。

**規模** 耕作痕の形状は半月形で幅は0.20m、深さ0.04mである。

**走行方位** N85°E

**埋土** 暗褐色土である。

**遺物** なし。

**所見** 古代の集落遺構の検出面で認められた耕作痕群で奈良～平安時代の遺構群よりも新しい。

### 2. VI区

1号畠(第740図)

グリッド 13-3区I9

**区画の規模** 調査区中央の南部に連なる東西方向の溝状遺構群である。区画の長さは6.80m、幅は2.90mである。

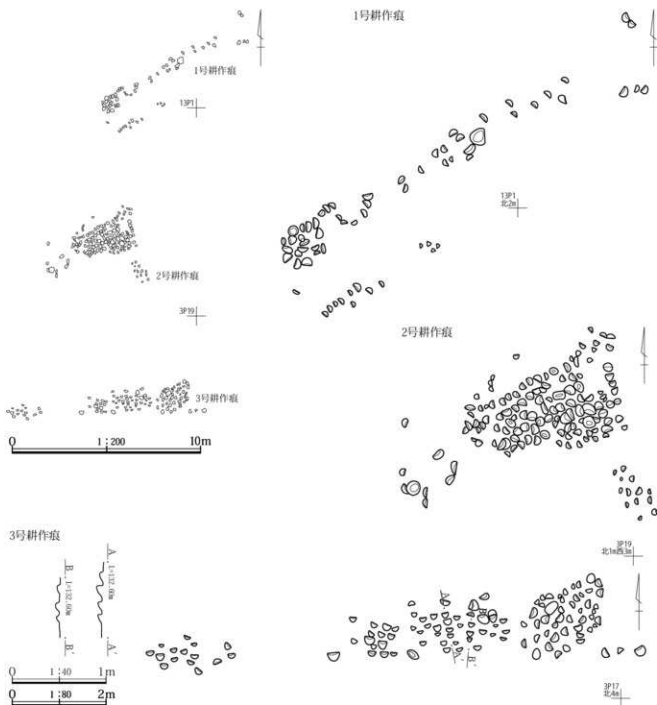
**規模** 溝は幅0.32m、深さ0.04～0.13mで6条であり、2条に切合いがある。

**走行方位** N70°E

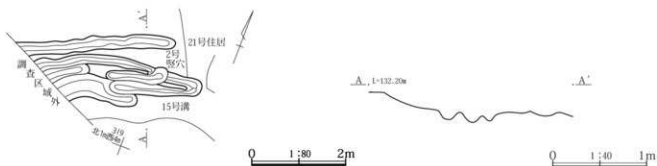
**遺物** なし。

**所見** 古代の集落遺構の検出面で認められた畠の畝に伴う溝状遺構で奈良～平安時代の遺構群よりも新しい。





第739図 VI区1～3号耕作痕



第740図 VI区1号品

## 第11節 遺構外から出土した遺物

### 1. V区(第741・742図, PL.449)

本節で述べるのは調査区ごとの遺構以外から出土した遺物で、住居や竪穴、土坑に分類されない不定形の窪みなどから出土している遺物などである。

V区は2面から遺物が出土し、土師器の杯(1・2)、須恵器の皿(3)、杯(4~13)、椀(14~16)、灰釉陶器の皿(17・18)や椀(19・20)、緑釉陶器の椀(21・22)、須恵器の甕(23)、土鍾(24~27)、土製紡錘車(28)、鉄釘(29~33)、刀子(34~36)、鉄鎌(37)が出土した。出土した遺物はおおむね古代の時期に属するものと考えられる。

### 2. VI区(第743・744図, PL.450)

VI区は2面から遺物が出土し、土師器の杯(1)、須恵器の杯(2・3)や椀(4~6)、灰釉陶器の椀(7・8)、壺(9)、須恵器の壺(10)、土師器の甕(11・12)、土鍾(13~19)古瀬戸陶器(20)や在地系土器の鉢(21・22)、鉄釘(23)、石臼(29)が出土した。出土した遺物はおおむね古代~中世の時期に属するものと考えられる。

### 3. VII区(第745~748図, PL.450・451)

VII区は2面を主体とし調査区一括の遺物も含まれる。弥生土器の壺(1・2)や土師器の杯(3・4)、須恵器の杯(5~9・11~20)、椀(21~28)、灰釉陶器の皿(29~32)、椀(33~40)、土師器の甕(41)、須恵器の甕(42)、羽釜(43・44)、かわらけ(10)、鉄鉢(45)、踏鉄(47)、鉄釘(48)、銅製の丸磨(46)、土製羽口(53・54)、石鎌(55)が出土した。出土した遺物はおおむね古代~中世の時期に属するものと考えられ、弥生土器はや弥生時代後期に帰属する。

### 4. VIII区(第749・750図, PL.451)

VIII区は2面を主体とし調査区一括の遺物も含まれる。須恵器の椀(1)、緑釉陶器の椀(2)、皿(3)、須恵器の羽釜(4)、土鍾(5)、肥前陶器(6)、益子陶器(7)、鉄釘(8~12)、鉄鎌(13)が出土した。出土した遺物は古代~近現代の時期に属するものと考えられる。

### 5. IX区(第751図, PL.451)

IX区は2面を主体とし、1面出土の遺物も含まれる。黒色土器の椀(1)、須恵器の杯(2)、椀(3~5)、灰釉陶器の皿(6)、椀(7~9)、須恵器の壺(10)、土師器の甕(11)、鉄釘(12)、鉄鎌(13)、鉄製紡錘車(14)が出土した。出土した遺物はおおむね古代の時期に属するものと考えられる。

### 6. X区(第752図, PL.452)

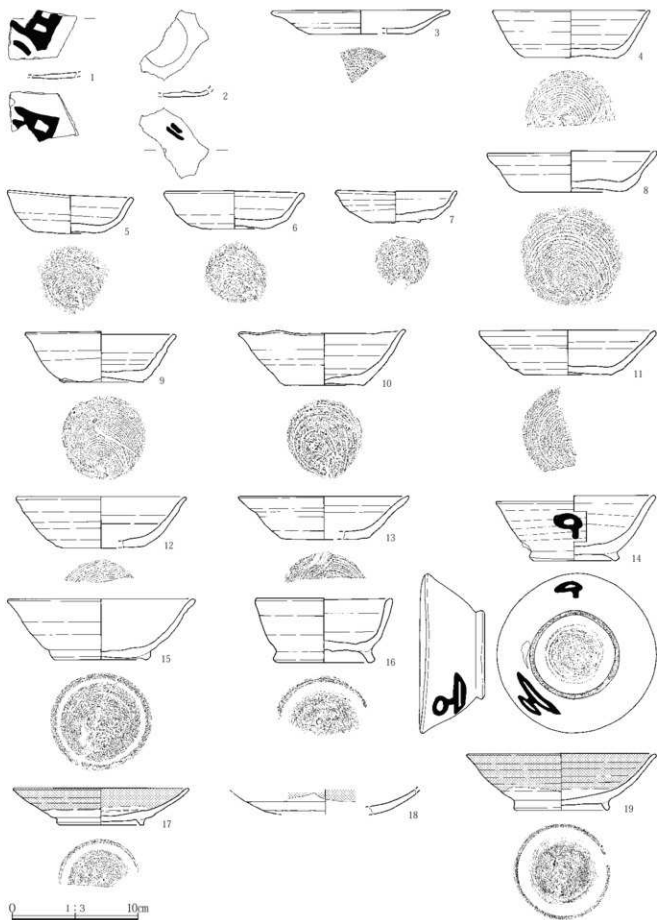
X区は1・2面から出土した遺物からなる。土師器の杯(1)、灰釉陶器の椀(2)、緑釉陶器の皿(3)、土師器の甕(4)、須恵器の羽釜(5・6)、鉄釘(7~9)が出土した。出土した遺物はおおむね古代の時期に属するものと考えられる。

### 7. XII区(第753図, PL.452)

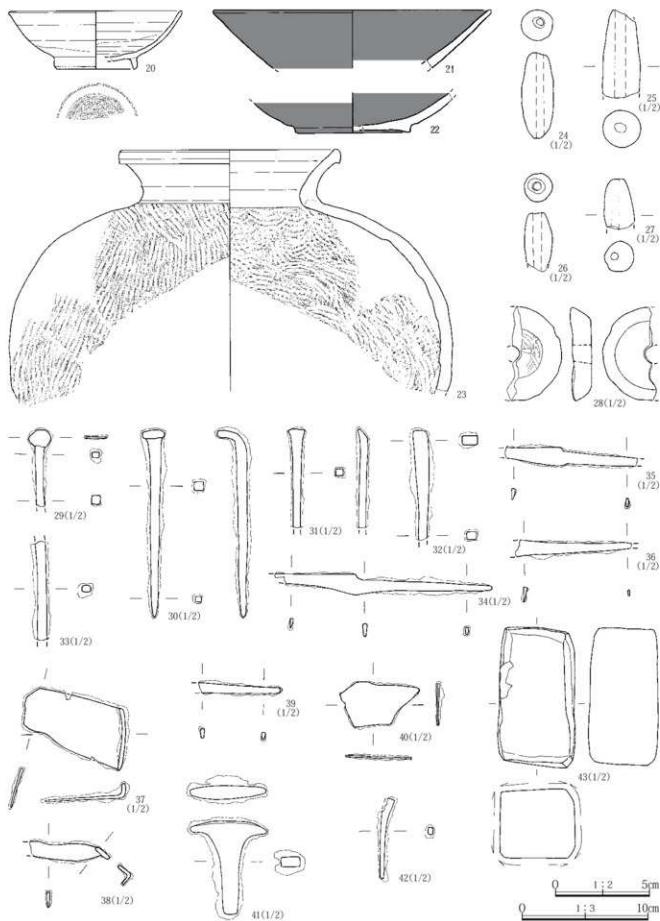
XII区は2面を主体とし調査区一括の遺物も含まれる。須恵器の杯(1・2)、灰釉陶器の椀(3)、土鍾(4・5)、京・信楽系陶器の碗(6)、鉄釘(7)が出土した。出土した遺物はおおむね古代の時期に属し、江戸時代の陶器が含まれる。

なお、報告書の本文や図に記載しなかった出土遺物は遺構別に巻末の第17表に掲載した。

第4章 第2面の遺構と出土遺物

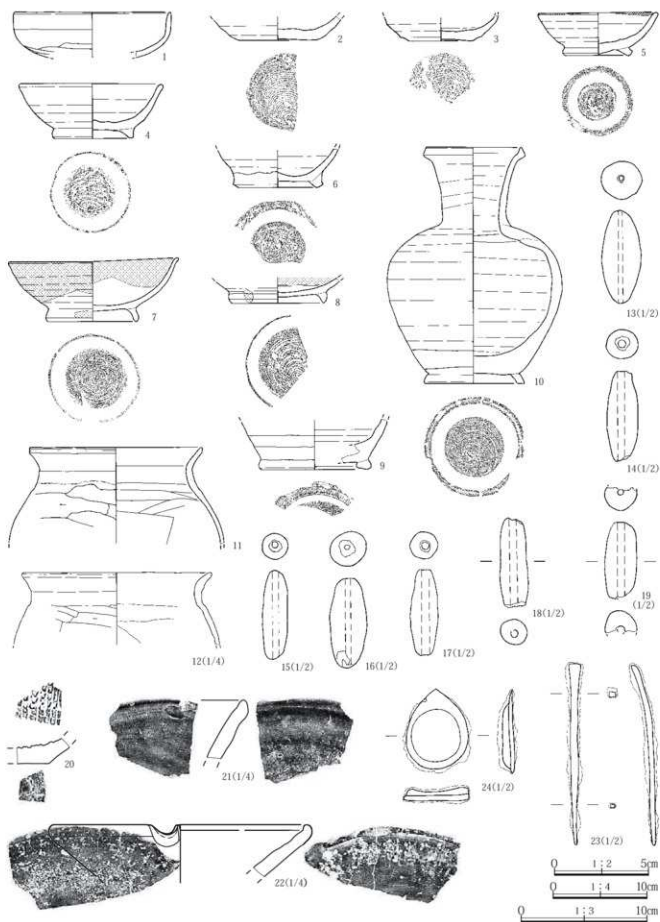


第741図 V区遺構外の出土遺物(1)



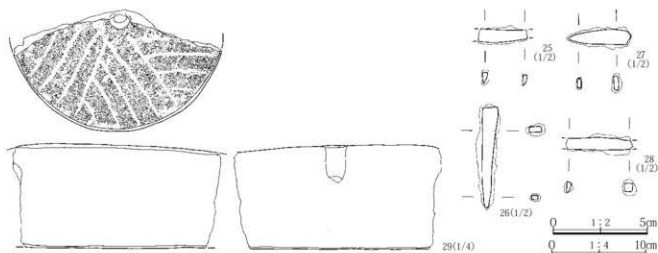
第742図 V区遺構外の出土遺物(2)

第4章 第2面の遺構と出土遺物

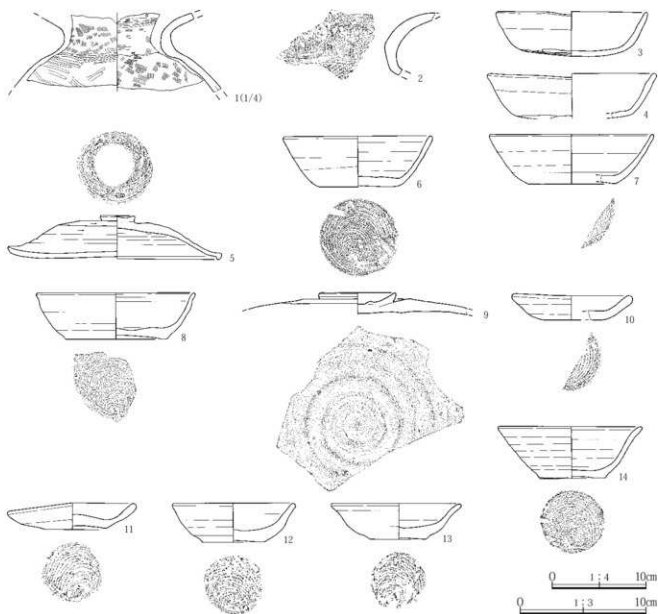


第743図 VI区遺構外の出土遺物(1)

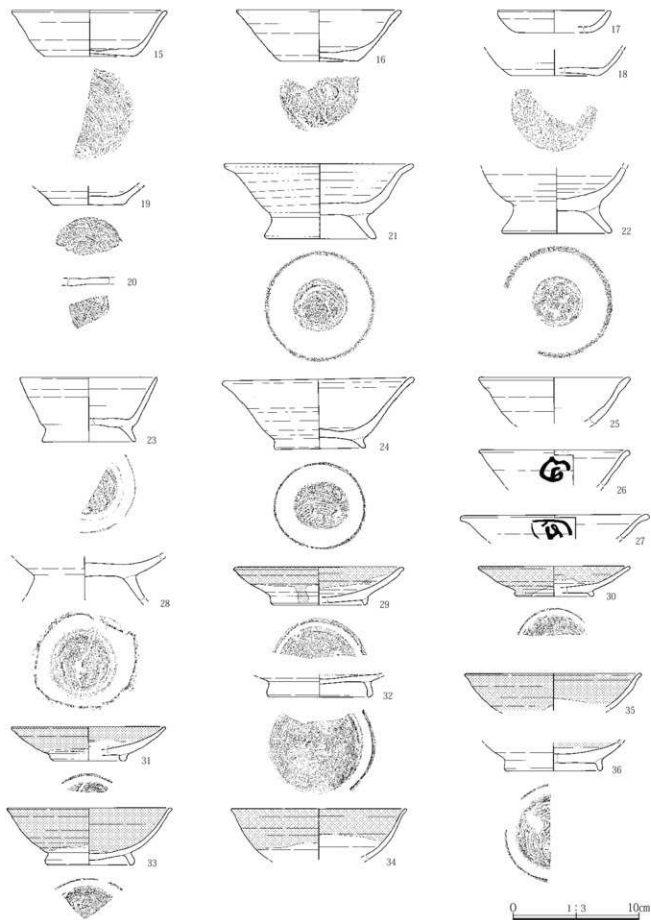
第11節 遺構外から出土した遺物



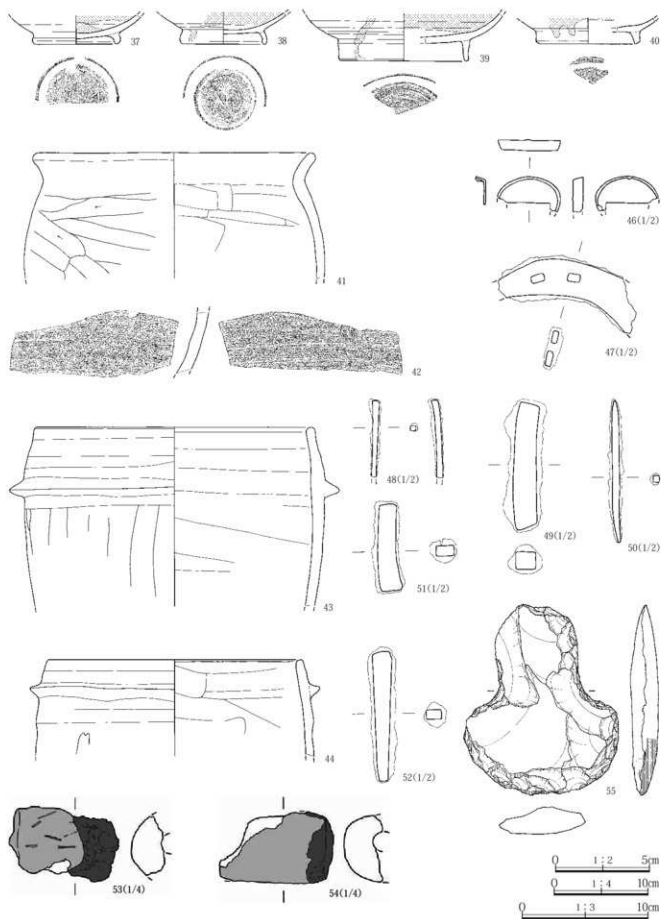
第744図 VI区遺構外の出土遺物(2)



第745図 VII区遺構外の出土遺物(1)

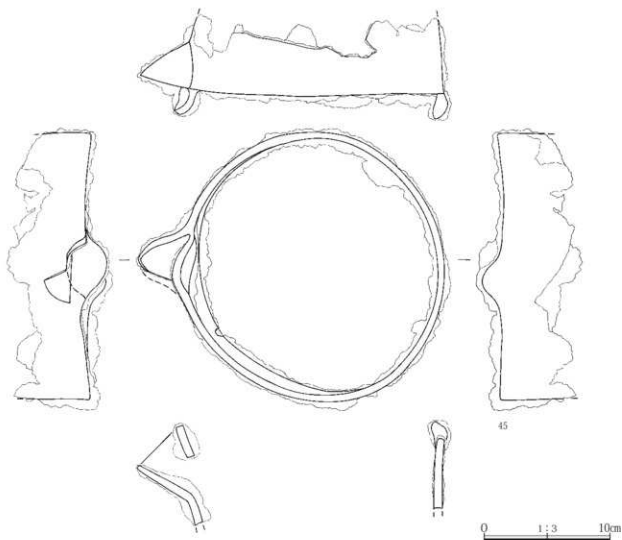


第746図 VII区遺構外の出土遺物(2)

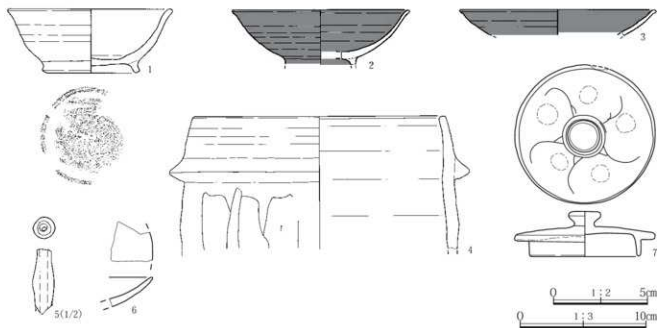


第747図 VII区遺構外の出土遺物(3)



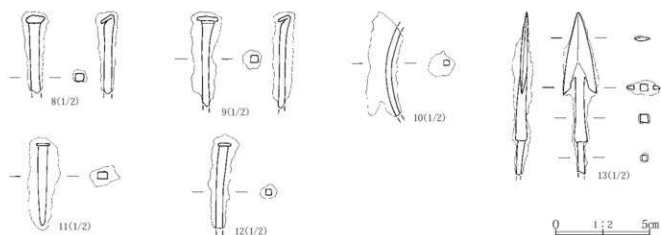


第748図 VII区遺構外の出土遺物(4)

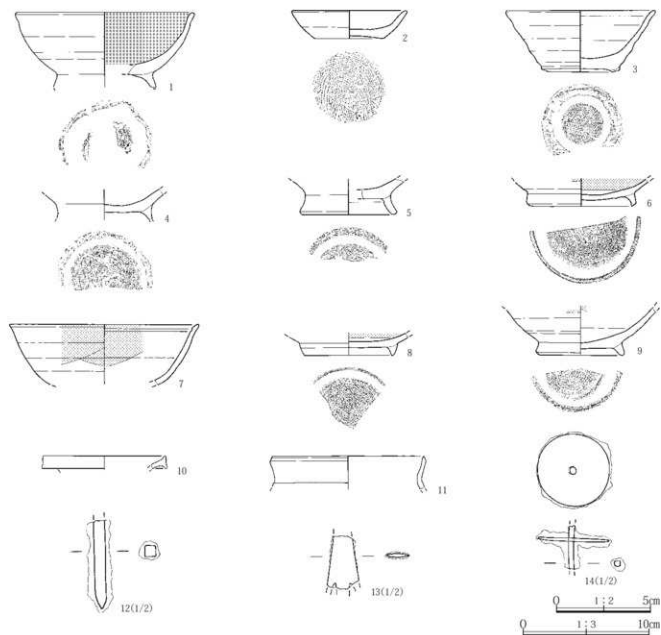


第749図 VII区遺構外の出土遺物(1)

第11節 遺構外から出土した遺物

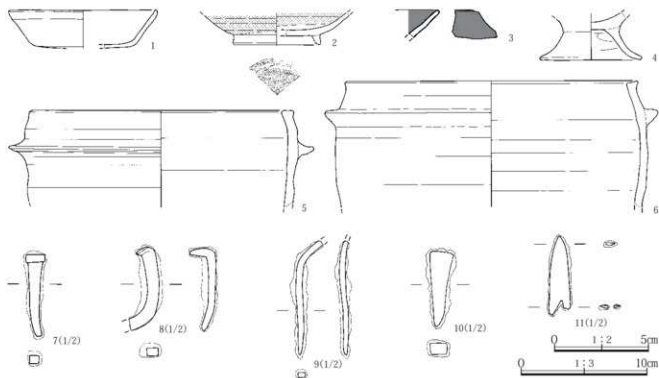


第750図 Ⅶ区遺構外の出土遺物(2)

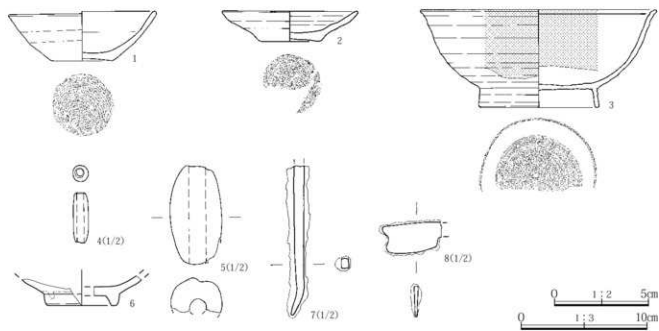


第751図 Ⅷ区遺構外の出土遺物

第4章 第2面の遺構と出土遺物



第752図 X区遺構外の出土遺物



第753図 XII区遺構外の出土遺物



第754図 2面遺構外の出土遺物

## 第5章 自然科学分析による遺跡の理解

### 第1節 VIII区の地層とテフラ

#### 1. はじめに

前橋市田口下田尻遺跡VIII区における発掘調査では、広瀬川低地帯西部の良好な土層断面が認められた。そこで、地質調査を行って堆積物の層序を記載するとともに、断面で認められたテフラについて、テフラ検出分析を実施して、指標テフラとの同定を実施した。調査分析の対象は、VIII区A地点の西壁、西壁南部、北壁の3点である(第5・755～757図)。

#### 2. 土層の層序

##### (1) 西壁

西壁では、垂円礫からなる礫層(層厚5cm以上、礫の最大径19.6mm)を基盤とする溝状の凹地が検出された(第755図)。それを埋める堆積物は、下位より黒泥層(層厚6cm)、垂円礫まじり黄色がかった灰色砂礫層(層厚6cm、礫の最大径16mm)、層理が発達した褐色砂層(層厚11cm)、青灰色細粒火山灰層(層厚0.6cm)、かすかに成層した黄灰色軽石質砂層(層厚17cm)、青灰色細粒火山灰層(層厚2cm)、層理が発達した灰色砂層(層厚7cm)、黄灰色砂層(層厚7cm)、暗灰色泥層(層厚6cm)、層理が発達した黄灰色砂層(層厚12cm)、成層した暗灰色腐植質シルト層(層厚4cm)、灰白色シルト層(層厚3cm)、成層した黄灰色砂層(層厚31cm)、黄灰色シルトブロックを含む暗褐色砂質土(層厚20cm)、白色軽石混じり若干色調が暗い灰褐色土(層厚15cm、軽石の最大径8mm)、白色軽石混じり灰褐色土(層厚8cm、軽石の最大径34mm)、白色軽石を含む砂まじり灰色土(層厚19cm、軽石の最大径18mm)、鉄分をやや多く含む黄灰色土(層厚3cm)、円磨された比較的粗粒の軽石を含む灰色土(層厚9cm、軽石の最大径48mm)、灰褐色土(層厚7cm)、灰色土(層厚9cm)、円磨された白色軽石や角礫を含む灰褐色土(層厚8cm、軽石の最大径28mm、角礫の最大径28mm)、円磨された白色軽石混じり灰色土(層厚16cm、軽石の最大径21mm)、白色軽

石混じり灰褐色土(層厚6cm、軽石の最大径16mm)、灰色表土(層厚19cm、上部15cmが耕作土)が認められる。

##### (2) 西壁南部

西壁で覆土の断面が認められた凹地の外側に位置する西壁南部では、下位より白色軽石混じりで若干褐色がかった灰色土(層厚7cm、軽石の最大径6mm)、灰色砂質シルト層(層厚0.8cm)、灰色がかった褐色土(層厚7cm)、黄色細粒火山灰層(層厚0.8cm)、褐色土(層厚0.1cm)、淘汰の良い若干桃色がかった灰色の砂層(層厚5cm)、褐色砂層(層厚3cm)、粗粒の白色軽石に富む褐色灰色砂層(層厚18cm、軽石の最大径91mm)が認められる(第756図)。これらの土層は、西壁南部の凹地の基盤に相当する。

##### (3) 北壁

北壁では、下位より灰色土(層厚15cm)、白色粗粒火山灰層(層厚0.2cm)、暗灰色砂礫層(層厚2cm、礫の最大径8mm)、黄灰色砂層(層厚2cm)、暗灰色砂礫層(層厚3cm、礫の最大径18mm)が認められる(第757図)。

### 3. テフラ検出分析

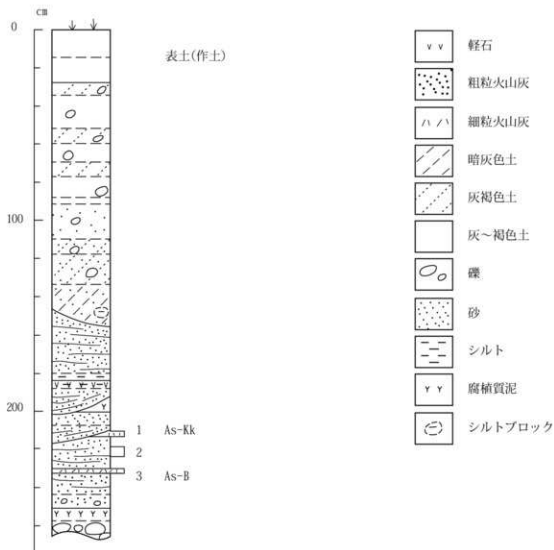
#### (1) 分析試料と分析方法

西壁、西壁南部、北壁で認められた土層のうち、テフラ層や特徴的なテフラ粒子を含む可能性が考えられた試料4点について、含まれるテフラ粒子の特徴を定性的に把握するテフラ検出分析を行った。分析対象試料は、土層断面から採取された試料のうち西壁の試料3および試料2、西壁南部の試料2、北壁の試料1の合計4試料である。テフラ検出分析の手順は次のとおりである。

- 1) 試料を適量(5g)秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 恒温乾燥器により80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の量や特徴を把握。

#### (2) 分析結果(第5表)

西壁の試料3には、スポンジ状に細かく発泡した白色の軽石(最大径3.0mm)や、スポンジ状に良く発泡した灰白色の軽石(最大径2.2mm)が少量含まれている。斑晶鉱物としては、前者に角閃石や斜方輝石、後者に斜方輝石



第755図 A地点西壁の土層柱状図  
数字はテフラの試料番号

や単斜輝石が特徴的に含まれている。また、ほかにこれらの細粒物である白色や灰白色のスポンジ状軽石型火山ガラスも少量認められる。

西壁の試料2には、淡褐色の軽石(最大径4.8mm)や軽石型ガラスが多く含まれている。軽石の斑品には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

西壁南部の試料2には、軽石は認められないものの、白色のスポンジ状軽石型ガラスが少量含まれている。全体として細粒の結晶に富み、重鉱物に角閃石や斜方輝石が認められる。

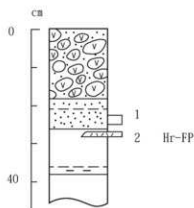
北壁の試料1には、斑品に角閃石や斜方輝石をもち、スポンジ状に細かく発泡した白色の軽石(最大径2.6mm)が少量含まれている。火山ガラスとしては、この軽石の細粒物である白色のスポンジ状軽石型ガラスのほかに、

繊維状に細かく発泡し光沢をもつ白色の軽石型ガラス、淡褐色の軽石型ガラス、灰白色のスポンジ状軽石型火山ガラスが比較的多く認められる。なお、本試料については、層厚が非常に薄いために純度は高くない。

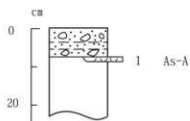
#### 4. 考察

テフラ検出分析で認められたテフラ粒子のうち、灰白色の軽石や軽石型ガラスは、色調、発泡様式、重鉱物の組み合わせなどから、3世紀後半に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979, 坂口, 2010)に由来すると考えられる。

また、白色の軽石や軽石型ガラスについては、その色調、発泡様式、重鉱物の組み合わせなどから、6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名ニツ岳沢川テフラ(If



第756図 A地点西壁南部の土層柱状図  
数字はテフラの試料番号



第757図 A地点北壁の土層柱状図

第5表 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
西壁	2	***	淡褐	4.8	***	pn	淡褐
	3	*	白, 灰白	3.0, 2.2	*	pn	白, 灰白
西壁南部	2				*	pn	白
北壁	1	*	白	2.6	**	pn	白, 淡褐, 灰白

\*\*\*: とくに多い, \*\*: 多い, \*: 中程度, \*: 少ない, 最大径の単位は, mm.  
bn: パブル型, pn: 軽石型.

-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992, 2003)や、6世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP, 新井, 1976 2, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992, 2003)、さらにそれらに由来する火山泥流堆積物などに由来する可能性が

高い。

淡褐色の軽石や軽石型ガラスと、細かく繊維束状に発泡し光沢をもつ白色軽石型ガラスは、それらの色調、発泡様式、重鉱物の組み合わせなどから、それぞれ1108(天仁元)年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ(As-B,

荒牧, 1968, 新井, 1979)と、1783(天明3)年に浅間火山から噴出した浅間A軽石(As-A, 荒牧, 1968, 新井, 1979)に由来すると考えられる。

以上のことから、西壁では、試料3と試料2の間に層位のある青灰色細粒火山灰層が、層相とその直上の砂層に含まれるテフラ粒子の特徴から、本遺跡とその周辺でのAs-Bの基底部、そして試料2が採取された砂層が比較的高純度のAs-Bの再堆積層と考えられる。また、試料1が採取された青灰色細粒火山灰層は、その層位や層相などから、1128(大治3)年に浅間火山から噴出した浅間粕川テフラ(As-Kk, 早田, 1990, 2004など)に同定される。

西壁南部の試料2が採取された黄色細粒火山灰層は、下位にHr-FAやHr-FPなどに由来する可能性のあるテフラ粒子が認められること、そしてその層相から、Hr-FPの最上層(I19, Soda, 1996, 早田, 2006)に同定される。したがって、そのすぐ上位にある水成堆積物は、Hr-FPの噴火に関係して発生した火山泥流堆積物(早田, 1989など)と考えられる。したがって、溝状の凹地の基盤には、少なくともHr-FPの火山泥流以前の堆積物が存在することになる。

北壁の試料1が採取された白色粗粒火山灰層には、特徴的にAs-Aに由来するテフラ粒子が含まれる。もともと層厚が薄いため試料自体の純度が低いこと、また層位や層相などを合わせると、白色の粗粒火山灰層は、As-Aと考えられる。したがって、そのすぐ上位の成層した水成堆積物は、As-Aの降灰直後に本遺跡周辺に到達したいわゆる浅間天明泥流堆積物の再堆積層と思われる。

## 5.まとめ

田口下田尻遺跡Ⅶ区において、地質調査とテフラ検出分析を行った。その結果、下位より浅間C軽石(As-C, 3世紀後半)、榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)、榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP, 6世紀中葉)、Hr-FPの噴火に関係して発生した火山泥流堆積物、浅間Bテフラ(As-B, 1108年)、浅間粕川テフラ(As-Kk, 1128年)、浅間A軽石(As-A, 1783年)、浅間天明泥流の再堆積層などを検出することができた。

文献

- 新井房夫(1962)関東盆地北西部地域の第四紀編年。群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.  
 新井房夫(1979)関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層。古学学ジャーナル, no.53, p.41-52.  
 荒牧重雄(1968)浅間火山の地質。地質研報, no.14, p.1-45.  
 町田 洋・新井房夫(1992)「火山灰アトラス-日本列島とその周辺」, 東京大学出版会, 276p.  
 町田 洋・新井房夫(2003)「新編火山灰アトラス-日本列島とその周辺」, 東京大学出版会, 336p.  
 坂口 一(1986)榛名二ツ岳起源FA・FP層の上層部と須志層。群馬県教育委員会編「筑波北原遺跡・今井神社古墳群・筑波青柳遺跡」, p.103-119.  
 坂口 一(2010)高崎市・中居町一丁目遺跡周辺集落の動向-中居町一丁目遺跡H22の水田耕作地と周辺集落との関係-。群馬県埋蔵文化財調査事業団編「中居町一丁目遺跡3」, p.17-22.  
 早田 勉(1989)6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害。第四紀研究, 27, p.297-312.  
 早田 勉(1990)浅間火山の生い立ち。古久考古通信, no.53, p.2-7.  
 Soda, T. (1996) Explosive activities of Haruna Volcano and their impacts on human life in the 6th century A.D. Geogr.Rept., Tokyo Metropol. Univ., no.31, p.37-52.  
 早田 勉(2004)火山灰編年学からみた浅間火山の噴火史とくに平安時代の噴火について-かみつけの里博物館編「1108-浅間火山-中世への胎動」, p.45-56.  
 早田 勉(2006)古墳時代の榛名大噴火-火山灰からさぐる噴火のうづりわり。かみつけの里博物館編「はるな30年物語」, p.54-66.

## 第2節 VII・VIII区の地層とテフラ

### 1.はじめに

関東地方北西部に位置する前橋市とその周辺には、榛名、赤城、浅間など北関東地方に位置する火山のほか、中部地方や中国地方、さらには九州地方の火山に由来するテフラ(tephra, いわゆる火山灰)が分布している。それらの中には、すでに年代や岩石記載の特徴が明らかにされているものがあり、それらとの層位関係を把握することで、地形や地層の形成年代のみならず、遺構や遺物包含層の層位や年代などについても明らかにできるようになっている。

前橋市田口下田尻遺跡の発掘調査でも、層位や起源が不明なテフラ層や火山泥流堆積物が検出されたことから、火山灰編年学的手法をもちいて土層の調査分析を行うことになった。最初に地質調査を実施して、土層の特徴と層序の記載を行い、高純度の室内分析用試料の採取を実施した。その後、室内でテフラ組成分析を実施してテフラ粒子の特徴把握を行った。さらに、火山ガラス、斜方輝石、角閃石の屈折率測定を実施して、指標テフラとの同定を行った。調査分析の対象となった地点は、Ⅶ区B地点およびⅦ区C地点の2地点である(第5・758・759図)。

## 2. 地層の層序

### (1) VII区B地点

VII区B地点では、最下位に発泡が比較的良好な灰白色軽石(最大径4mm)をわずかに含む灰色砂層(層厚20cm以上、軽石の最大径4mm)、淘汰の良い黄灰色砂層(層厚3cm)、暗灰褐色砂質土(層厚2cm)、成層したテフラ層(層厚8cm)、基底に礫を含み淘汰の良い暗灰色砂層(層厚5cm、礫の最大径11mm)、若干黄色がかった灰色砂層(層厚5cm)、褐灰色シルト層(層厚5cm)、黄灰色シルト質砂層(層厚2cm)、褐灰色土(層厚5cm)、緑灰色砂質シルト層(層厚0.5cm)、円磨された白色軽石を少量含む桃灰色シルト層(層厚2cm、軽石の最大径8mm)、灰褐色土(層厚2cm)、かすかに成層した黄灰色砂質細粒火山灰層(層厚0.9cm)、層理の発達した桃白色砂質シルト層(層厚6cm)、淘汰が良く若干黄色がかった灰色砂層(層厚3cm)、白色軽石に富みわずかに灰色がかった褐色泥流堆積物(層厚7cm、軽石の最大径41mm)、白色軽石や灰色岩片混じり黄色砂層(層厚18cm、軽石の最大径57mm、岩片の最大径104mm)が認められる(第758図)。

### (2) VII区C地点

VII区C地点では、下位より淘汰の良い灰色砂層(層厚10cm以上)、褐色砂質土(層厚2cm)、成層したテフラ層(層厚3.3cm)、逆級化構造をもつ若干桃色がかった暗灰色砂層(層厚4cm)、灰色砂層(層厚6cm)、褐色土(層厚2cm)、白色軽石に富む桃灰色砂層(層厚14cm、軽石の最大径11mm)、暗灰褐色土(層厚7cm)、桃白色シルト層(層厚3cm)、暗褐色土(層厚3cm)、かすかに成層した黄色砂質細粒火山灰層(層厚2cm)、桃白色砂質シルト層(層厚3cm)、白色軽石を少量含む黄色がかった灰色シルト質砂層(層厚8cm、軽石の最大径21mm)、白色軽石や桃白色軽石を多く含む暗灰褐色土(層厚13cm、軽石の最大径136mm)、白色軽石を少し含む黒灰褐色土(層厚4cm、軽石の最大径23mm)が認められる(第759図)。

## 3. テフラ検出分析

### (1) 分析試料と分析方法

テフラ層や火山泥流堆積物中などのテフラ粒子の特徴を定性的に明らかにするために、8試料を対象にテフラ検出分析を実施した。テフラ検出分析の手順は次のとお

りである。

- 1) 試料8gを秤量。
  - 2) 超音波洗浄装置を用いながら、ていねいに泥分を除去。
  - 3) 80℃で恒温乾燥。
  - 4) 実体顕微鏡下で、テフラ粒子の量や色調などを観察。
- (2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を、第6表に示す。試料1から軽石やスコリアさらに火山ガラスはほとんど検出されなかった。試料10には、細粒の白色軽石(最大径2.3mm)や、その細粒物の白色の軽石型ガラスが比較的多く含まれている。試料6では、比較的粗粒の白色軽石(最大径13.6mm)や、その細粒物の白色の軽石型ガラスが少量認められる。さらに試料4では白色の軽石型ガラスが比較的多く、また試料1には比較的粗粒の白色軽石(最大径11.2mm)や、白色の軽石型ガラスが多く含まれている。

C地点の試料1には、白色の細粒軽石(最大径4.9mm)や、その細粒物の白色の軽石型ガラスが多く含まれている。

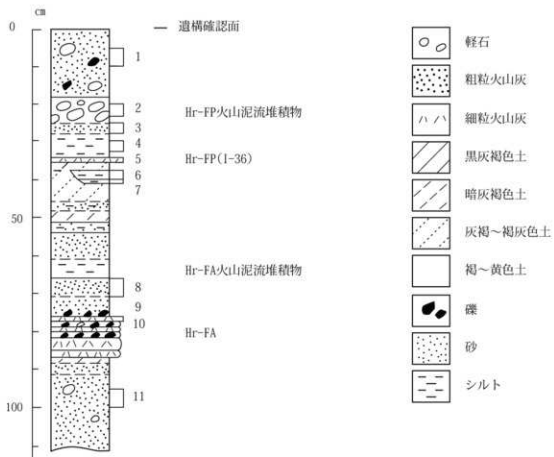
## 4. テフラ組成分析

### (1) 分析試料と分析方法

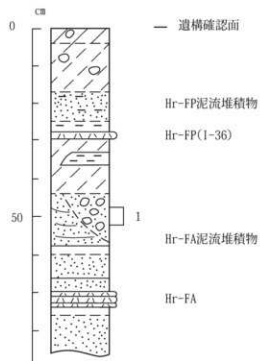
テフラ層や火山泥流堆積物中などのテフラ粒子の火山ガラスの含有率や重鉱物組成を明らかにするために、7試料を対象にテフラ組成分析を実施した。なお、VII区B地点の試料6については軽石を粉砕したもの、また試料1については全体試料のほか軽石を粉砕したものも分析対象とした。テフラ組成分析の手順は次のとおりである。

- 1) 軽石粒子について軽く粉砕し10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置を用いて泥分を除去。
- 3) 80℃で恒温乾燥。
- 4) 軽石2試料と、テフラ検出分析済みの試料のうち5試料について、分析篩で1/4-1/8mmおよび1/8-1/16mmの粒子を篩別。
- 5) 偏光顕微鏡下で250粒子を観察し、火山ガラス(形態色調別)、軽鉱物、重鉱物の含有率を求める(火山ガラス比分析)。
- 6) 偏光顕微鏡下で重鉱物250粒子を観察し、重鉱物組成を求める(重鉱物組成分析)。





第758図 B地点の土層柱状図  
数字はテフラの試料番号



第759図 C地点の土層柱状図  
数字はテフラの試料番号

第6表 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
B地点	1	***	白	11.2	***	ps	白
	4				**	ps	白
	5						
	6	*	白	13.6	*	ps	白
	7						
	10	*	白	2.3	**	ps	白
	11						
C地点	1	***	白	4.9	***	ps	白

\*\*\*:とくに多い, \*\*:多い, \*:中程度, \*:少ない.最大径の単位は, mm.

bs:バブル型, ps:軽石型, md:中間型.

## (2)分析結果

### 1)火山ガラス比

テフラ組成分析の結果を第7表と第8表に示す。軽石試料では、当然のことながら火山ガラスの含有率が高い(36.8～37.6%)。その一方で、成層したテフラ層の細粒降下テフラ層(試料10)で、その他のもの(岩片や風化物)の含有率が高い傾向にある(53.6%)。いずれの試料でも、含まれる火山ガラスのほとんどは、スポンジ状軽石型ガラスである。また試料の多くで、軽鉱物の含有率が高いものの、試料1や試料1の軽石でやや重鉱物の含有率が高い。

### 2)重鉱物組成

試料に含まれる重鉱物としては、不透明鉱物(黒色で光沢をもつもの:おもに磁鉄鉱)のほかでは、角閃石や斜方輝石が多い。また、試料によっては、単斜輝石も少量含まれている。試料の中では、試料7や試料5で、斜方輝石の含有率がやや高い傾向にある。

## 5.屈折率測定

### (1)測定試料と測定方法

B地点の試料6(軽石)とC地点の試料1の火山ガラス、斜方輝石、角閃石、B地点の試料5の火山ガラス、さらにB地点の試料1の斜方輝石と角閃石を対象として屈折率測定を実施した。測定に際しては、火山ガラスについて1/8-1/16mm粒径、斜方輝石および角閃石については1/4mmより大きい鉱物を実体顕微鏡下でピックアップし軽く粉砕して測定対象とした。また、測定には、温度変

化型屈折率測定装置(京都フィッション・トラック社RIM S2000)を利用した。

### (2)測定結果

屈折率測定の結果を第9表表示す。B地点の試料6(軽石)に含まれる火山ガラス(nd, 39粒子)、斜方輝石( $\gamma$ , 34粒子)、角閃石( $n$  2, 29粒子)の屈折率は、それぞれ1.504-1.508, 1.708-1.712, 1.672-1.679である。試料5に含まれる火山ガラス(nd, 17粒子)の屈折率は、1.503-1.507である。また、試料1(軽石)に含まれる斜方輝石( $\gamma$ , 31粒子)および角閃石( $n$  2, 31粒子)の屈折率は、それぞれ1.707-1.711と1.675-1.682である。

さらに、C地点の試料1に含まれる火山ガラス(nd, 31粒子)、斜方輝石( $\gamma$ , 30粒子)、角閃石( $n$  2, 30粒子)は、順に1.499-1.505, 1.707-1.711, 1.672-1.679である。

## 6.考察

### (1)指標テフラとの同定

調査分析対象の2地点で認められた成層した比較的厚いテフラ層(B地点・試料10のユニットを含む)については、層相から6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)に同定される。

B地点において試料5が採取された。かすかに成層した黄灰色砂質細粒火山灰層は、その層相から6世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP, 新井, 1962, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)の降下テフラ層のうち、最上部にある成層したテ

第7表 火山ガラスの分析結果

地点	試料	bw (cl)	bw (pb)	bw (br)	ad	ps (sp)	ps (fb)	軽鉱物	重鉱物	その他	合計
B地点	1	0	0	0	0	17	0	135	44	54	250
	1(軽石)	0	0	0	0	92	0	90	67	1	250
	5	0	0	0	1	1	0	118	21	109	250
	6(軽石)	0	0	0	0	94	0	113	42	1	250
	7	0	0	0	0	1	0	146	14	89	250
	10	0	0	0	0	6	0	84	26	134	250
C地点	1	0	0	0	2	11	0	145	26	66	250

bw : バブル型, ps : 軽石型, ad : 中間型, ps : 軽石型, cl : 無色透明, pb : 淡褐色, br : 褐色, sp : スポンジ状, fb : 繊維束状, 数字は粒子数。

第8表 重鉱物組成分析結果

地点	試料	ol	opx	cpx	am (oxy, ho)	bi	opq	その他	合計
B地点	1	0	51	3	114 (0)	0	78	4	250
	1(軽石)	0	49	2	156 (0)	0	42	1	250
	5	0	73	2	110 (7)	0	60	5	250
	6(軽石)	0	29	0	175 (0)	0	45	1	250
	7	0	70	0	112 (2)	0	63	5	250
	10	0	37	2	99 (9)	0	107	5	250
C地点	1	0	44	2	115 (1)	0	83	6	250

ol : カンラン石, opx : 斜方輝石, cpx : 単斜輝石, am : 角閃石, oxy, ho : 酸化角閃石, bi : 黒雲母, opq : 不透明鉱物(おもに磁鉄鉱), 数字は粒子数, #: 1/8-1/16mm, ほかは1/4-1/8mm。

第9表 屈折率測定結果

地点名	試料・テフラ	火山ガラス		斜方輝石		角閃石	
		屈折率(n)	測定点数	屈折率(γ)	測定点数	屈折率(n2)	測定点数
B地点	試料1(軽石)			1.707-1.711	31	1.675-1.682	31
	試料5	1.503-1.507	17				
	試料6(軽石)	1.504-1.508	39	1.708-1.712	34	1.672-1.679	29
C地点	試料1	1.499-1.505	31	1.707-1.711	30	1.672-1.679	30
指標テフラ	浅間A (As-A)	1.507-1.512		1.707-1.712			
	浅間B (As-B)	1.524-1.532		1.708-1.710			
	榛名ニッ岳伊香保(Hr-FP)	1.501-1.504		1.707-1.711		1.672-1.677	
	榛名ニッ岳渋川(Hr-FA)	1.500-1.502		1.707-1.711		1.671-1.695	
	榛名有馬(Hr-AA)	1.500-1.502		1.709-1.712		1.671-1.677	
	浅間C (As-C)	1.514-1.520		1.706-1.711			

屈折率測定は、温度変化型屈折率測定装置(RIS2000)による。Hr-AAの屈折率特性は町田ほか(1984)、ほかは町田・新井(2003)。

フラ層(1-36, 早田, 1993)に同定される。このテフラ層に関しては、これまでに火山ガラスや鉱物の屈折率特性の測定は行われていないように思われるが、今回の測定結果をみると、従来報告されたHr-FPの火山ガラスの屈折率よりやや高い傾向にある。

## (2)火山泥流堆積物の起源

C地点において、Hr-FAのすぐ上位にある軽石質の泥流堆積物(試料1)も、火山ガラスの屈折率特性が、Hr-FAと比較してやや広い傾向にあるものの、層位、重鉱物の含有率、斜方輝石や角閃石の含有率なども含める

と、やはりHr-FAの噴火に関係する火山泥流堆積物(早田, 1989, 1993など)と考えられる。また、B地点においてI-36のすぐ上位にある泥流堆積物(試料1)は、層位や層相さらに含まれる軽石の岩相などから、Hr-FPの噴火に関係した火山泥流堆積物(早田, 1989, 1993など)と考えられる。この火山泥流堆積物の発生時はすでに火砕流は発生してない段階と思われることから、上流域でのHr-FP火砕流(FPF=2, 新井, 1979)による河川のせき止めとその崩壊が火山泥流を引き起こした可能性がある。

一方、I-36のすぐ下位にある成層したシルト質堆積物(軽石: 試料6)の起源に関しては、まだ不明な点が多い。この火山泥流堆積物の起源としては、二通りが考えられる。ひとつは、Hr-FAに関係する火山泥流堆積物と解釈する考え方である。Hr-FAやその直上の火山泥流堆積物との間に時間間隙が認められるものの、Hr-FAの噴火の最後に白色の軽石を多く含む火砕流(S-12)が発生している(早田, 1993など)。それまでの石質岩片を多く噴出する火砕流のタイプから、軽石を多く含む火砕流の発生までいくらかの時間を要した可能性がある。

もう一つは、Hr-FPの噴火に関係した火山泥流堆積物と解釈する考え方である。やはり、I-36との間にも時間間隙があるものの、少なくとも試料6(軽石)の火山ガラスの屈折率特性はI-36とよく似ている(Hr-FAの最後の火砕流堆積物に含まれる軽石の岩石記載的特徴は不明)。とくに火山泥流堆積物を構成する砕屑物の起源となったと考えられるプリニー式噴火の噴煙柱の崩壊に伴う火砕流堆積物の発生(早田, 2006など)から、I-36の噴出の要因となった溶岩ドームの成長までの時間間隙の存在が推定されることによる。

従来、Hr-FAやHr-FPに関して、比較的遠隔地での火山灰編年学に有効な火山ガラスや鉱物の屈折率特性は明らかにされているものの、降下層ごと、また火砕流堆積物や火山泥流堆積物さらにそれらに含まれる重鉱物の組成や軽石の屈折率特性などについては、ほとんど不明なままとなっている。とくに、北関東地方では、古墳の石室の構築材として利用された角閃石安山岩は、一般的に榛名山の古墳時代の噴火で噴出したものと考えられているが、その正確な起源については不明なままである。このような地域の重要な考古学上の問題の解決のために、今回のような分析測定を実施してデータを収集する

必要がある。

なお、B地点の最下位の試料11採取層で認められた軽石については、岩相から3世紀後に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979, 坂口, 2010)と考えられる。

## 7.まとめ

前橋市田口下田尻遺跡において、地質調査とテフラ分析(テフラ検出分析, テフラ組成分析, 火山ガラスと鉱物の屈折率測定)を実施した。その結果、下位より榛名山二ツ岳浅川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)およびその噴火に関係した火山泥流堆積物、さらに榛名山二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP, 6世紀中葉)およびその噴火に関係した火山泥流堆積物など検出することができた。

### 文献

- 新井房夫(1962)関東盆地北西部地域の第四紀編年。群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.  
 新井房夫(1979)関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層。考古学ジャーナル, no.157, p.41-52.  
 荒牧重雄(1968)浅間火山の地質。地質研專報, no.45, 65 p.  
 町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス。東京大学出版会, 276 p.  
 町田 洋・新井房夫(2003)新編火山灰アトラス。東京大学出版会, 336 p.  
 坂口 一(1986)榛名山二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器。群馬県教育委員会編「筑碁北原遺跡・今井神社古墳群・筑碁青柳遺跡」, p.103-119.  
 坂口 一(2010)高崎市・中野町一丁目道路跡周辺集落の動向-中野町一丁目道路跡H22の水田耕作地と周辺集落との関係-。群馬県埋蔵文化財調査事業団編「中野町一丁目道路跡3」, p.17-22.  
 早田 勉(1989)6世紀における榛名山の2回の噴火とその災害。第四紀研究, 27, p.297-312.  
 早田 勉(1993)古墳時代におこった榛名山二ツ岳の噴火。新井房夫編「火山灰考古学」, 古今書院, p.128-150.  
 早田 勉(2006)古墳時代の榛名山噴火-火山灰からさぐる噴火のうづりかみ。かみつけの里博物館編「はるな30年物語。-古墳時代に榛名山が大噴火した。災害と向き合うヒト、そして復興へ」, p.54-66.

### 第3節 炭化材の樹種同定

#### 1. はじめに

前橋市田口町に所在する田口下田尻遺跡で平安時代の住居跡から出土した炭化材について、樹種同定を行った。

#### 2. 試料と方法

試料は、X区1号住居から出土した住居構築材と考えられる炭化材が15点(No. 1～15)、Ⅷ区4号住居のカマドから出土した燃料材と考えられる炭化材が2点(No. 16, 17)の、合計17点である。考古学的な所見から、いずれも10世紀頃と推定されている。

試料の形状と径は、現場で採取した際に記録した。観察用の試料は、カミソリまたは手で3断面(横断面・接線断面・放射断面)を割り出し、直径1cmの真鍮製試料台に試料を両面テープで固定した。その後、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡(KEYENCE 社製 VE-9800)を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

#### 3. 結果

樹種同定の結果、針葉樹はスギ1分類群、広葉樹はヤナギ属、クリ、コナラ属クヌギ節、クワ属、モモ、キハダの6分類群、その他にイネ科の草本があり、合計8分類群が確認された。X区1号住居では、針葉樹のスギ、広葉樹のヤナギ属とクリ、モモ、キハダ、イネ科の草本が確認された。Ⅷ区4号住居では、クヌギ節とクワ属が確認された。結果の一覧を第10表に示す。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版に示す。

(1)スギ *Cryptomeria japonica* (L.f.) D. Don スギ科 図版1 1a-1c(No.2)、2c(No.12)、3c(No.14)  
仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行はやや急である。分野壁孔は大型のスギ型で、1分野に通常2個並ぶ。

スギは暖帯から温帯下部に生育する常緑高木である。材は比較的軽軟で、切削加工は容易であり、割裂性は大きい。

(2)ヤナギ属 *Salix* ヤナギ科 図版1 4a-4c(No.1)、5a-5c(No.13)

やや小型の道管が、単独もしくは複数複合してやや密に分布する散孔材である。道管の穿孔は単一となる。放射組織は単列で、異性である。

ヤナギ属は暖帯、温帯、寒帯に広く生育する落葉高木または低木で、ケショウヤナギ、コゴメヤナギ、シダレヤナギなど日本では90種程ある。材は全般に軽軟で強度は低いが、靱性があり、切削加工は容易である。

(3)クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科 図版1 6a-6c(No.4)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火災状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、主に単列である。

クリは温帯下部から暖帯に分布する落葉高木である。材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。

(4)コナラ属クヌギ節 *Quercus* sect. *Aegilops* ブナ科 図版1・2 7a-7c(No.16)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では急に径を減じた円形で厚壁の小道管が単独で放射方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は単列同性と広放射組織がある。

クヌギ節は暖帯に生育する落葉高木で、クヌギとアベマキがある。材は重硬および強軟で、加工困難である。

(5)クワ属 *Morus* クワ科 図版2 8a-8c(No.17)

大型で丸い道管が年輪のはじめに配列し、晩材では徐々に径を減じた小道管が単独もしくは複数複合して斜線方向に配列する半環孔材である。道管の穿孔は単一である。軸方向柔組織は周囲状から翼状となる。放射組織は3～5列幅で、上下端の1～2細胞が直立もしくは方形細胞である異性である。

クワ属は温帯から暖帯、亜熱帯に分布する落葉高木で、ケグワ、マグワ、ヤマグワなどがある。材は堅硬で、靱性に富む。

(6)モモ *Prunus persica* Betsliバラ科 図版2 9a-9c(No.8)

半環孔性の散孔材で、年輪のはじめにやや大きな道管が1～3列程度並ぶ。晩材部では道管が単独で散在する。道管の穿孔は単一である。放射組織は異性で、1～7列幅である。

第10表 樹種同定結果

試料No.	地区	遺構	出土位置	器種(推定部位)	樹種	形状・径
No. 1	10区	1号住居跡	北側	建築部材(垂木)	ヤナギ属	割材、長径9cm
No. 2				建築部材(垂木)	スギ	割材、長径12cm
No. 3				建築部材(桁)	キハダ	芯持丸木、直径10cm
No. 4				建築部材(不明: No. 3の脇)	クリ	半割?、直径11cm
No. 5				建築部材(桁)	キハダ	半割~丸木、直径10cm
No. 6			建築部材(梁)	ヤナギ属	丸木、直径10cm	
No. 7			建築部材(垂木)	モモ	丸木?、直径8.5cm	
No. 8			建築部材(不明)	モモ	不明、7cm	
No. 9			建築部材(不明)	ヤナギ属	丸木、直径6.5cm	
No. 10			建築部材(不明)	ヤナギ属	丸木、直径6.5cm	
No. 11			建築部材(垂木)	ヤナギ属	不明、8cm	
No. 12			建築部材(垂木)	スギ	不明、9cm	
No. 13			建築部材(不明)	ヤナギ属	不明、7cm	
No. 14			中央	建築部材(不明)	スギ	不明、4cm
No. 15			北側	建築部材(壁材)	イネ科草本	丸~割れ、直径0.5cm
No. 16	12区	4号住居跡	カマド	燃料材	コナラ属クヌギ節	破片、3.5cm
No. 17			カマド	燃料材	クワ属	破片、3.5cm

モモは温帯に分布する落葉高木である。材は重硬である。

(7)キハダ *Phellodendron amurense* Pupr. ミカン科  
図版2 10a-10c (No. 3)、11a-11c (No. 5)

大型で丸い道管が早材部に配列し、晩材部ではごく小型で薄壁の小道管が集団をなして帯状~斜線状に配列する環孔材である。道管の穿孔は単一である。放射組織はほぼ同性で、1~6列幅のきれいな紡錘形となる。

キハダは温帯に分布する落葉高木である。材はやや軽軟で加工容易だが、水湿に強い。

(8)イネ科 Gramineae 図版2 12a-12c (No. 15)

柔細胞と維管束で構成される単子葉類で、維管束が柔細胞中に散在する不斉中心柱である。稈の形状は丸く、直径5mmの中空で明瞭な節がみられるため、イネ科の草本と思われる。

#### 4. 考察

遺構別の樹種構成を第11表に示す。X区の1号住居から出土した建築部材と、XII区の4号住居の燃料材では異なる樹種が確認された。

X区1号住居の建築部材では、桁はキハダ、梁はヤナギ属、垂木はスギとヤナギ属、モモ、部位不明の材はスギ、ヤナギ属、クリ、モモであった。垂木と部位不明で確認されたスギと、梁と垂木、部位不明で確認されたヤナギ属は、軽軟で加工容易な材である。垂木と部位不明で確認されたモモとクリは、重硬および割製困難で、耐朽性のある材である。桁に利用されていたキハダは、材

第11表 遺構別の樹種構成

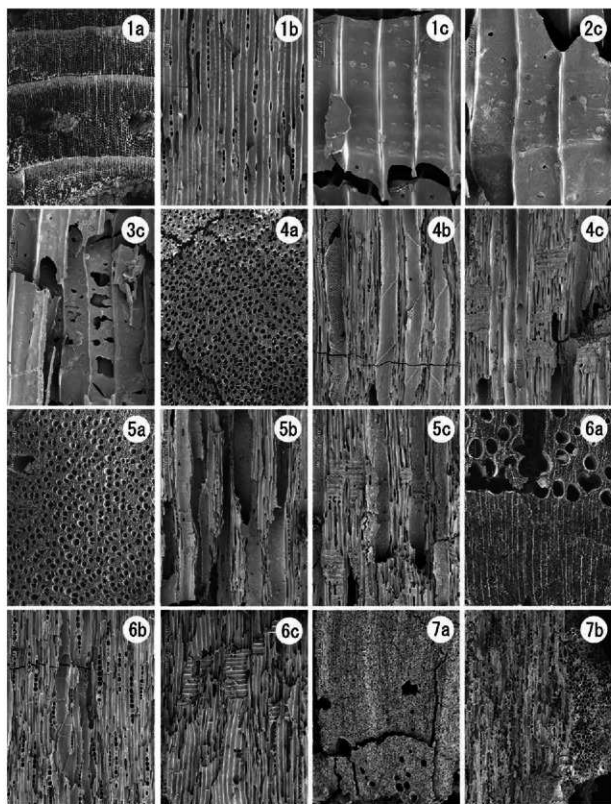
分類群	地区	10区				12区		計
		遺構	1号住居跡		4号住居跡			
器種	推定部位	桁	梁	垂木	不明	壁材	燃料材	
スギ			2	1			3	
ヤナギ属		1	2	3			6	
クリ				1			1	
コナラ属クヌギ節							1	
クワ属							1	
モモ			1	1			2	
キハダ		2					2	
イネ科草本						1	1	
計		2	1	5	5	1	2	17

はやや軽軟で加工容易であるが、水湿に強い性質を持つ。

また、壁材はイネ科の草本であった。残存状態から土壁の内側の素材と考えられ、編組であった可能性がある。

北関東で建築材に利用される樹種は、縄文時代はクリが圧倒的に多い。弥生時代以降は、平安時代までクヌギ節やコナラ節を主体とした落葉広葉樹の利用が多いが、古墳時代末期から平安時代初期はクリがやや増加する傾向が確認されている(伊東・山田, 2012)。田口下田尻遺跡の1号住居の建築材でもクリが1点確認されたが、ヤナギ属やキハダ、モモなどの広葉樹や針葉樹のスギなど多種類の樹種が使用されていた。したがって、特定の樹種を選択して利用したのではなく、多種類の木材を組み合わせて使用していたと推測される。

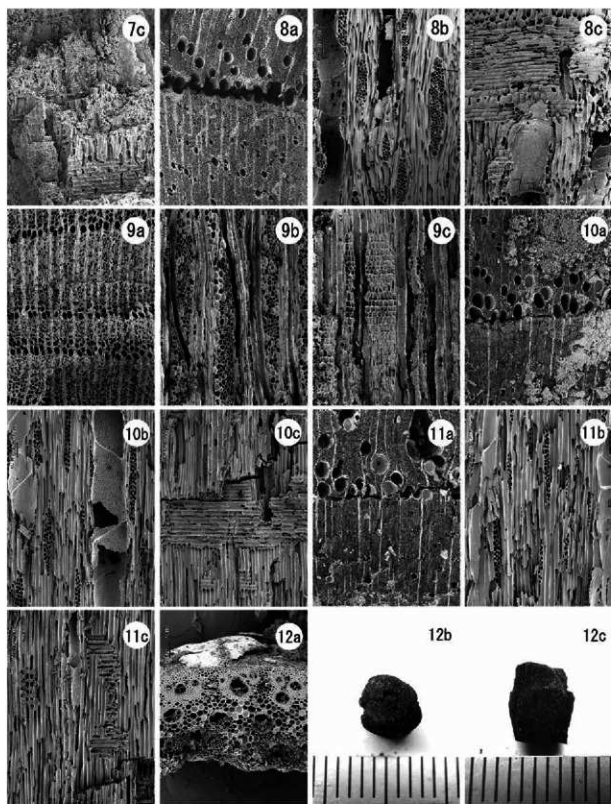
XII区4号住居のカマドから出土した炭化材は、クヌギ節とクワ属であった。いずれも重厚な材で、燃料材としても適している。特にクヌギ節は、群馬県内では窯跡や製鉄などで燃料材として多用される傾向がある(伊東・



図版1 田口下田尻遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(1)

1 a-1 c.スギ(No. 2)、2 c.スギ(No.12)、3 c.スギ(No.14)、4 a-4 c.ヤナギ属(No. 1)、5 a-5 c.ヤナギ属(No.13)、6 a-6 c.クリ(No. 4)、7 a-7 b.コナラ属クスギ節(No.16)

a:横断面、b:接線断面、c:放射断面



図版2 田口下田尻遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(2)  
 7 c.コナラ属クヌギ節(No.16)、8 a-8 c.クワ属(No.17)、9 a-9 c.モモ(No.8)、10 a-10 c.キハダ(No.3)、  
 11 a-11 c.キハダ(No.5)、12 a-12 c.イネ科(No.15)  
 a:横断面、b:接線断面、c:放射断面[12(No.15)=a:横断面、b:全体写真(上)、c:全体写真(横)]



山田, 2012)。分析点数が少ないため利用傾向までは把握できないが、周辺遺跡の木材利用の傾向と類似している可能性がある。

文献  
伊東隆夫・山田昌久編(2012)木の考古学-出土木製品用材データベース-。449 p. 海青社。

## 第4節 遺跡から出土した獣骨

### 1. VI区1号墓坑

#### ウマ

1 頭分がほぼ完存状態で、楕円形に近い形の土壌中に埋存していた。頭部を北に尾部を南に、四肢を西に背を東に向け横たわり、前肢・後肢は折り曲げられていた。前肢の中手骨と後肢の中足骨はほぼ平行に重なり合い、この部分が轉られて運び込まれた可能性も考えられる。

時代 中世～近世初頭

馬格 小型在來馬相当

出土時はほぼ完存状態であったが、現状では破損がはなはだしく、体高推定に役立つ計測値はほとんど得られなかった。

そこで、出土時の写真と実測図から比較的骨端部の保存状態良好な左上腕骨、左中手骨、左中足骨の全長を求め、林田・山内(1957)の体高推定法に従って、体高を算出すると、それぞれ119.7cm、121.4cm、107.2cmとの結果となった。3者の単純平均は116.1cmであり、本馬が日本の小型在來馬・トカラ馬相当の馬格であったことを示唆している。

現存する出土骨で、有効な計測値が得られたのはごくわずかで、右後骨の中央骨体幅31.8mm、右中手骨の中央骨体幅22.6mmなどである。

年齢 老齡馬

歯の咬耗度が極端に進んで、どの歯も歯冠高が極めて低い。

上顎臼歯では、ほとんどの歯が過度の咬耗により咬耗面のエナメル層が外周に残るだけとなっている。下顎臼歯でも、咬耗が極端に進んだことで、ほとんどの歯でエナメル層が前葉と後葉に分離し、歯冠部をわずかに残すだけとなっている。

切歯でも咬耗が著しく、咬耗面中心部エナメル層は小

さくなり、第3切歯ではすでに消失したものが3本、消失直前のものが1本である。

このような咬耗の状況からみると、本馬は20歳前後のきわめて高齢な老齡馬と推定される。

性別 雌馬

出土時の写真・実測図ともに犬歯が該当部に見当たらない。切歯は上顎切歯、下顎切歯ともに12本がすべて現存馬歯の中に確認できるが、犬歯は検出されない。このことから雌馬と判断される。

異常咬耗 全体的に咬耗が著しいが、なかでも異常に咬耗が進んでいるのが、上顎臼歯では左第2前臼歯、右第2前臼歯、右第2後臼歯、下顎では左第3前臼歯、右第3前臼歯、右第4前臼歯である。このため臼歯列咬合面での凹凸がはなはだしい。この異常咬耗がどのような原因で発生したかについてははっきりしない。

また、上顎右第2後臼歯では歯冠幅(頬舌径)が膨らんで大きく、舌側へ大きく張り出している。咬耗が極度に進むにつれて、舌側にセメント質が新たに生成付加され歯冠幅が増していったものと思われる。

死因: これほど過度に咬耗が進むと、咀嚼も十分に行うことができず、胃腸への負担もまして、時には消化不良を起こしたり、胃腸を壊すこともあったろう。慢性的栄養失調状態にあったことも考えられる。

直接的死因を知ることはできないが、いずれにしても、この個体の死因は老衰が根源にあったということは容易に想像できる。天寿を全うするまで面倒を見てきた飼い主のこの馬に対する愛情が伺える。

### 2. V区7号溝

#### ウマ

ウマの左上顎臼歯で、歯冠長22.6+mm、歯冠幅17.0+mm、頬側歯冠高38.0+mmである。歯根は分岐している。牡馬である。

ニホンシカ

ニホンシカの臼歯片で、数10片に分離している。歯冠高13.1mmである。

### 3. VII区18号住居

#### ウマ

ウマの右上顎臼歯で、10数片に分離している。歯の後

## 臼歯咬合面の状態

## 上顎臼歯

第2前臼歯	左	咬耗は過度に進み、エナメル質は外周にごくわずかに残存するのみ
	右	エナメル質は外周にのみ残り、遠心齧齧根、遠心内齧齧根の歯髓腔が開口
第3前臼歯	左	エナメル質は外周にのみ残り、前小窩・後小窩では消失
	右	エナメル質は外周と後小窩にごくわずかに残り、前小窩では消失
第4前臼歯	左	エナメル質は外周にのみ残り、前小窩・後小窩では消失。遠心舌齧齧根の歯髓腔開口
	右	エナメル質は外周にのみ残り、前小窩・後小窩では消失
第1後臼歯	左	エナメル質は外周にのみ残り、前小窩・後小窩では消失
	右	エナメル質は外周にのみ残り、前小窩・後小窩では消失
第2後臼歯	左	不明
	右	エナメル質は頰側の外周のみ残存。歯冠幅が異常に大きい。頰側遠心根の歯髓腔開口
第3後臼歯	左	エナメル質は外周と前小窩と後小窩にごく僅かに残存するのみ
	右	エナメル質は外周と前小窩と後小窩にごく僅かに残存するのみ

## 下顎臼歯

第2前臼歯	左	エナメル質は咬合面のほぼ外周だけに残存。前葉と後葉は分離には至らず
	右	エナメル質は咬合面のほぼ外周だけに残存。前葉と後葉は分離には至らず
第3前臼歯	左	過度の咬耗によりエナメル質は前葉と後葉が大きく分離。近心根の歯髓腔は開口
	右	過度の咬耗によりエナメル質は前葉と後葉が大きく分離。近心根、遠心根の歯髓腔は開口
第4前臼歯	左	エナメル質は前葉と後葉が大きく分離
	右	過度の咬耗によりエナメル質は後葉の外周のみに残存
第1後臼歯	左	エナメル質は前葉と後葉が大きく分離
	右	エナメル質は前葉と後葉が分離。前根の歯髓腔は開口
第2後臼歯	左	エナメル質は前葉と後葉が分離
	右	エナメル質は前葉と後葉で分離直前
第3後臼歯	左	エナメル質は外周とわずかに中央部に残存。前葉と後葉は分離には至らず
	右	エナメル質は外周と中央部に円形に残るだけである。前葉と後葉は分離には至らず

## 上顎臼歯計測値

	第2前臼歯		第3前臼歯		第4前臼歯		第1後臼歯		第2後臼歯		第3後臼歯	
	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右
歯冠近遠心径	26.0+	26.0±	23.3	23.1	22.6	21.3	19.8	19.2	18.6	27.0	26.3+	
歯冠頬舌径	23.2	15.9	23.8	24.4	23.3	25.4	22.5	22.5	31.4	20.0	19.3	
原齧齧幅			10.0	10.3	9.3	10.4		11.5			13.3	
頰側歯冠高	12.5	10.8*	7.2	19.6*	8.7	16.5*	5.3	16.2*		14.4*	8.1	14.5*
舌側歯冠高	6.4	19.4*	20.1*	27.0*	18.8+*	26.2*	17.7*	22.4*		11.2*	9.4	15.4+*
咬合面の傾斜		120°	100°	100°	92°	95°	90°	93°			70°	70°
中齧齧幅			3.8	4.1	4.1	4.2	4.1	4.3		5.0	4.7	4.7

単位: mm

## 下顎臼歯計測値

	第2前臼歯		第3前臼歯		第4前臼歯		第1後臼歯		第2後臼歯		第3後臼歯	
	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右
歯冠近遠心径	27.2	28.6	24.0	24.8	21.5	21.7	20.6	19.8	20.5	19.6	29.7	28.5
歯冠頬舌径	12.6	12.4	13.7	13.4		12.6	13.0	11.9	12.1	10.9	10.9	9.9
頰側歯冠高		18.0*	7.8*	3.6*	2.0*	12.8*	6.4*	15.2*	12.4*	13.3*	20.3*	19.0*
舌側歯冠高		17.0*	11.7*	10.4*	6.6*	16.0*	10.6*	18.8*	12.7*	18.0*	24.5*	22.1*
咬合面の傾斜	107°	105°				95°	85°	80°	65°	68°	70°	70°
下内齧齧幅												
歯根の様子												

単位: mm

※印: セメント質部を計測

右上顎全臼歯列長: 140.0±mm

左下顎全臼歯列長: 138.2±mm

右下顎全臼歯列長: 135.8±mm

## 切歯計測値

## 上顎

	左			右		
	第3切歯	第2切歯	第1切歯	第1切歯	第2切歯	第3切歯
歯冠長	12.3	11.7	11.6	11.6	11.8	11.6
歯冠幅	9.5	9.4	8.9	9.1	9.6	9.9
歯冠高	33.5+	39.9+	42.4+	44.7+	47.0+	47.3+

## 下顎

	左			右		
	第3切歯	第2切歯	第1切歯	第1切歯	第2切歯	第3切歯
歯冠長	12.8	13.7	12.9	12.6	13.0	14.5
歯冠幅	10.5	10.5	10.4	10.4	10.6	8.7
歯冠高	29.0+	39.4+	38.1+	35.4+	40.3+	35.2+

単位: mm

## 第760号 Ⅵ区1号墓坑臼歯計測

方への湾曲度の合いや、咬合面の傾斜が60°と小さいことから、第3後臼歯と判断される。歯冠長24.3+mm、歯冠高46.5mm、中附鐘幅4.1mmである。牡胎馬と思われる。

#### 4.VII区18号住居

##### ウマ

ウマの右上顎臼歯で、10数片に分離している。第2後臼歯の可能性が高い。頰側歯冠高49.6mm、中附鐘幅3.6mm、咬合面の傾斜80°である。牡胎馬と思われる。

#### 5.VII区79・112号住居

##### ウマ

ウマの上顎臼歯片で、10数片に分離している。歯冠高36.0±mmである。

#### 6.VII区1号畠

##### ウマ

動物骨ではない。

#### 7.V区36号住居No16

##### ウマ?

ウマのものと思われる数10片に分離した微細歯片である。歯冠高は27.3+mmである。

#### 8.VI区1号鍛冶

##### ウマ

ウマの下顎臼歯で、歯の湾曲の度合いや、咬合面の傾斜が60°と小さいことから、第3後臼歯と判断される。歯冠高は44.5+mmあり、牡胎馬と思われる。

#### 9.VI区1号鍛冶

##### ウマ

ウマの右下顎臼歯で、10数片に分離している。咬耗はすでに始まっていて、歯冠高は58.9+mmあり、幼胎馬と思われる。

#### 10.VI区1号鍛冶

##### ウマ

ウマの右下顎臼歯で、10数片に分離している。歯の後方への湾曲の度合いが強いことから、第3後臼歯の可能

性が高い。歯冠高は64.7mmと高く、幼胎馬と思われる。

#### 11.X区11号溝No.5

ウシかウマのものと思われる歯片であるが、いずれかの判断は困難である。

#### 12.X区8号溝No.1

##### ウシ

ウシの左上顎第3後臼歯で、10数片に分離している。歯冠長32.8mm、歯冠幅18.6+mm、頰側歯冠高34.6mmである。牡胎牛である。

#### 13.X区1面一括

##### ウマ

ウマの上顎臼歯で、20数片に分離した細片である。歯冠高は56.9+mmあり、幼胎馬と思われる。

#### 14.X区6号溝

##### ウシ

ウシの臼歯片で、保存長25.3×11.2mmである。

#### 15.X区13号住居No.1

##### ウシ又はウマ

ウシかウマのものと思われる歯片であるが、いずれかの判断は困難である。保存長36.6×15.1mm。

#### 16.XIII区67号土坑

##### ウマ

ウマの右上顎臼歯で、数10片に分離している。歯冠幅22.6+(2.0±)mm、歯冠高52.9(±1.0)mmで、牡胎馬と思われる。

##### 文献

- 林田重幸・山内忠平(1957) 馬における骨長より体高の推定法。鹿児島大学農学部学術報告, 6, 146-156
- 西中川駿・松元光春(1991) 遺跡出土骨同定のための基礎研究—特に在来種および現代種の骨の計測値の比較「古代遺跡から見たわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究」平成2年度文部省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書, 164-188.
- 野村晋一(1977)「鹿児島馬学」西川書店
- 須川章夫・月瀬 東(1977)「牛の解剖学-骨学編-」文永堂

## 第5節 遺跡から出土した鉄関連遺物他の金属学的調査

VI・VII・X区製の鉄・鍛冶関連遺物の分析調査を行なった。分析を行った対象遺物は、VII区1号鍛冶、VII区1号鍛冶、VII区18号住居、X区1号鍛冶である。以下に調査結果の概要を述べる。

製鉄は火山岩起源の中チタン砂鉄を原料とする。生成鉄塊は除滓や成分調整を目的とした精錬鍛冶を施す。鍛冶素材は製鉄一貫体制からの半製品と共に、廢鉄器を再利用した放鉄(iron scrap)処理調連も確認できた。鍛冶素材の炭素含有量は、亜共析鋼(<0.77% C)から共析・過共析鋼(>0.77% C)まであって、硬・軟組合せ素材からの高靱性を保つ鋭利・刃物の製作が推測された。一方、材胎土(炉壁、送風管、羽口)は、化学組成から在地の安山岩質火山岩起源表土の充当が指摘できた。塩基性成分(CaO+MgO)の多寡から耐火度は1190℃と<1120℃に分かれている。

### 1. はじめに

田口下田尻遺跡は前橋市田口町地内に所在する。前橋台地北部の沖積地に立地した拠点的な集落遺跡である。当該地は古代より鍛冶活動の活発な土地柄であって、2012年に6点の椀形鍛冶滓の分析調査を済ませている。(注1)しかし、その後に製鉄炉の可能性のあるX区1号鍛冶の検出もあって、鉄生産の実態をより深く探るため、材胎土や鉄塊系遺物を加えて分析調査を行った。

### 2. 調査方法

試料の概要を第12表に示す。調査項目は以下のとおりである。

#### (1)肉眼観察

分析調査を実施する遺物の外観の特徴など、調査前の観察所見を記載した。

#### (2)マクロ組織

本来は肉眼またはルーペで観察した組織であるが、本稿では顕微鏡埋込み試料の断面全体像を、投影機の5倍で撮影したものを指す。当調査は、顕微鏡検査によるよりも広い範囲にわたって、組織の分布状態、形状、大きさなどの観察ができる利点がある。

#### 第5節 遺跡から出土した鉄関連遺物他の金属学的調査

#### (3)顕微鏡組織

鉄滓の鉱物組成や金属部の組織観察、非金属介在物の調査などを目的とする。

試料観察面を設定・切り出し後、試験片は樹脂に埋込み、エメリー研磨紙の#150、#240、#320、#600、#1000、及びダイヤモンド粒子の3μmと1μmで鏡面研磨した。また観察には金属反射顕微鏡を用い、特徴的・代表的な視野を選択して写真撮影を行った。

#### (4)ピッカース断面硬度

鉄滓中の鉱物と、金属鉄の組織同定を目的として、ピッカース断面硬度計(Vickers Hardness Tester)を用いて硬さの測定を行った。試験は鏡面研磨した試料に136°の頂角をもったダイヤモンドを押し込み、その時に生じた窪みの面積をもって、その荷重を除いた商を硬度値としている。試料は顕微鏡を用いて併用した。

#### (5)化学組成分析

出土鉄滓の性状を調査するため、構成成分の定量分析を実施した。試料の化学組成を第13表に示す。全鉄分(Total Fe)、金属鉄(Metallic Fe)、酸化第一鉄(FeO)は容量法で行った。

炭素(C)、硫黄(S)は燃焼容量法、燃焼赤外吸収法で、二酸化硅素(SiO<sub>2</sub>)、酸化アルミニウム(Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、酸化カルシウム(CaO)、酸化マグネシウム(MgO)、酸化カリウム(K<sub>2</sub>O)、酸化ナトリウム(Na<sub>2</sub>O)、酸化マンガン(MnO)、二酸化チタン(TiO<sub>2</sub>)、酸化クロム(Cr<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、五酸化燐(P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>)、バナジウム(V)、銅(Cu)、二酸化ジルコニウム(ZrO<sub>2</sub>)はICP (Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer)法及び誘導結合プラズマ発光分光分析で行った。

#### (6)耐火度

耐火度の加熱に耐える温度とは、溶融現象が進行の途上で軟化変形を起こす状態の温度で表示することを定め、これを耐火度と呼んでいる。胎土をゼーグルコーンという三角錐の試験片に作り、1分間当たり10℃の速度で1000℃まで温度上昇させ、それ以降は4℃に昇温速度をおとし、試験片が荷重なしに自重だけで軟化し崩れる温度を示している。

#### (7)X線回折

X線回折(XRD)は、井澤英二九州大学名誉教授に依頼し、九州大学地球資源工学部門のX線回折装置 理学UltimaIVを使用した。回折分析の結果を第14表に示す。X

線はCu K $\alpha_1$  (40kV, 20mA)を用い、全自動モノクロメーター、発散スリット2/3°、受光スリット0.3mm、データ取得幅0.02° (2 $\theta$ )、走査速度2°/minの条件で2-65° (2 $\theta$ )を走査範囲とした。

#### (8) 試料の履歴と調査項目

遺物種類 金属学的な分析を行う以前に、考古学的な観察によって判定した遺物の種類である。

法量 資料の残存する最大長、最大幅、最大厚、重量を計測したものである。

磁着度 鉄滓分類用の「標準磁石」を用いて資料との反応単位を1から順に数字で表現したもので、数値が大きいくほど磁性が強い。(歴博報告書58・59集「日本・韓国の鉄製産技術」資料編国立歴史民俗博物館1994に準じた)

遺存度 資料が破片の場合、破面がいくつあるかを記す。  
 メタル度 特殊金属探知機によって判定された金属鉄の残留度を示すもので、最も金属鉄が依存しないものから遺存するものまで6段階に分け、「なし」、「錆化( $\Delta$ )」、「H( $\circ$ )」、「M( $\odot$ )」、「L( $\bullet$ )」、「特L( $\star$ )」と表示した。

分析 分析実施項目を $\circ$ 印で示す。

所見 分析前の外形や破面・断面の状況、木炭痕や気孔の有無、及び付着物やその他の状況について詳細に記す。  
 分析箇所 資料をどのように調査・分析するか記す。

### 3. 調査結果

#### X区1号鍛冶

TAG-19 炉壁

##### (1) 肉眼観察

内面上半に砂鉄焼結部の残る炉壁片である。内面の下半2/3は砂鉄焼結部より滓化が進み、小さな垂れが生じ始める。外面はやや青色に還元し、胎土にスサを大量に含む。

##### (2) マクロ組織

Photo. 1の③に示す。左側の白色地に黒点発生が滓化部で、右手黒褐色部が砂鉄焼結部である。

##### (3) 顕微鏡組織

Photo. 1の②～⑤に示す。②は製鉄原料の投入砂鉄粒子の形態を示す。0.2～0.4mm径の半還元砂鉄は、磁鉄鉱(Magnetite: Fe $_3$ O $_4$ ・FeO)と格子組織のチタン鉄鉱(Ilmenite: FeO・TiO $_2$ )の混在で、火山岩起源砂鉄に分類される。各砂鉄粒子の外周は還元によりウルボスピネル

(Ulvöspinel: 2FeO・TiO $_2$ )が晶出し始める。④は胎土である。微細な鱗片状粘土鉱物のセリサイト(sericite)と0.2mm以下の石英破片が微量存在する。石英に高温クラックの痕跡が無いので、この部分の被熱は軽度である。1000℃を超えたであろうか。

##### (4) ピッカース断面硬度

Photo. 1の③は磁鉄鉱砂鉄粒子の硬度測定の圧痕を示す。値は530Hv・300gfであった。磁鉄鉱の文献硬度値は542～592Hvであり(2)、僅かに下限値を切るが磁鉄鉱粒子で大過ない。⑤は溶融ガラスの圧痕で、588Hv・500gfが得られた。ガラスの文献硬度値は639～884Hvである。軟質傾向は風化の影響であろうか。

##### (5) 化学組成分析

滓化部分を避けた胎土側の分析である。試料の強熱減量(Ig loss)は、4.23%と熱影響を受けて結晶構造水がかなり飛散したものであった。鉄分(Fe $_2$ O $_3$ )は3.58%と高値でなく、軟化性は適度に保つ。57.18% SiO $_2$ は花崗岩起源の土壌に比べて少なく、20.07% Al $_2$ O $_3$ が高い値で、かつ2.20% MgO、3.05% CaO、3.08% Na $_2$ Oも高く、0.89% K $_2$ Oは低い。当胎土の性格は、安山岩質の火山岩が起源の表土の様である(井澤英二先生コメント)。塩基性成分(CaO+MgO)は5.25%と高く、製鉄炉壁としては溶剤働きが見込まれて有利な選択と考えられる。ただし耐火度は若干低下するだろう。

##### (6) 耐火度

1120℃以下の数値である。小型自立炉(西浦北型)の炉壁として使用に耐えうる性状と見做される。

##### (7) X線回折

石英(SiO $_2$ )、クリストバライト(SiO $_2$ )、斜長石[(Na, Ca)(Si, Al)AlSi $_3$ O $_8$ ]、カリ長石[KAlSi $_3$ O $_8$ ]と微量の磁鉄鉱からなる。ガラスは少量生成している。被熱の状況は、クリストバライトが生成していることから、1000℃を超えたと推測される。

#### TAG-20 送風管

##### (1) 肉眼観察

平面が不整形形状の小型自立炉(西浦北型)の送風管(羽口)の破片の可能性をもつ。外面長軸方向にナデ整形。厚さ1.9cmとやや薄手。胎土はきめ細かく、石英質の白色粒を含む。

## (2) マクロ組織

Photo. 1の⑥に示す。断面の全体が素地を構成する微細な鱗片状粘土鉱物に0.05mm以下の石英破片が微量点状存在する。比較的低温で焼成されている。胎土の溶融滓化の傾向は全く認められない。

## (3) 顕微鏡組織

Photo. 1の⑦⑧に示す。粘土鉱物セリサイトや石英片に加熱変化を残さない。後述X線回折によりクリストバライト(cristobalite:  $\text{SiO}_2$ )の挙動が明らかになり焼成温度の予測も詳らかになる。

## (4) 化学組成分析

試料の強熱減量(Ig loss)は10.43%と高く、結晶構造水の飛散は認められない。鉄分( $\text{Fe}_2\text{O}_3$ ) 3.96%は特別多くはなく軟化性は確保される。54.58%  $\text{SiO}_2$ は少なく、20.83%  $\text{Al}_2\text{O}_3$ は高い。また、2.29%  $\text{CaO}$ 、1.68%  $\text{MgO}$ 、1.91%  $\text{Na}_2\text{O}$ も多く、0.69%  $\text{K}_2\text{O}$ は少ない。前述伊壁胎土に近似した組成から火山岩質火山岩起源土壌と共通する。塩基性成分( $\text{CaO}+\text{MgO}$ )は3.97%と伊壁胎土(5.25%)より低下する。耐火度に対して有利な成分組成である。意識した成分配合であろうか。

## (5) 耐火度

1190℃と伊壁胎土の1120℃以下よりも僅かながら高温側に移る。塩基性成分の寄与するところであろうか。

## (6) X線回折

クリストバライト、石英、斜長石、カリ長石からなる。ガラスが生成している。石英は残存しているもの、大部分はクリストバライトに転移している。

## TAG-21 流動滓

## (1) 肉眼観察

2段流動滓である。上段が厚手で下段は薄い。上下側面は生きており、左側面が欠けている。表皮の色調は暗紫紅色で、部分的に黒褐色となる。上段の上面に流れ皺があるが、狭い間隔で重層しており、上段に乗る流動滓はやや粘性が高い。下段の下面は左右方向に向かう浅い桶状を呈する。破面に見られる滓質は緻密で、光沢のある灰褐色である。内面には部分的に気孔が散在する。

## (2) マクロ組織

断面全体像をPhoto. 2の①に示す。滓質はほぼ均等で上・下面の性状差は認められない。

## (3) 顕微鏡組織

Photo. 2の②～⑤に示す。②は平均的な鉱物相である。淡茶褐色多角形結晶のウルボスピネル(Ulvöspinel:  $2\text{FeO}\cdot\text{TiO}_2$ )と白色粒状結晶のウスタイト(wüstite:  $\text{FeO}$ )、こちらは粒内に微小ウルボスピネルを析出。これらの間隙に淡灰色盤状結晶のファヤライト(fayalite:  $2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$ )が埋める。火山岩砂鉄起源の製錬滓の典型的な晶癖である。③は上段流動滓表皮に付着した磁鉄鉱砂鉄である。未溶解0.15mm径の粒子が計測された。

## (4) ピッカース断面硬度

Photo. 2の③は付着砂鉄の硬度測定の際の圧痕である。硬度値は557Hv・200gfであった。磁鉄鉱(マグネタイト)の文献硬度値は505～592Hvであり、この範囲に収まる。④は代表鉱物相の淡茶褐色多角形結晶で、値は729Hv・300gfを呈する。文献にはウルボスピネルの硬度値範囲の明記がないがマグネタイト地にチタン(Ti)を固溶するので、600Hv以上ならばウルボスピネルで大過ない。経験則でもある。⑤は白色粒状結晶の硬度圧痕である。520Hv・100gfが得られた。ウスタイト文献硬度値の446～503Hvの上限を僅かに超えるが、チタン固溶結晶なので妥当な値と考える。

## (5) 化学組成分析

流動滓は7.07%  $\text{TiO}_2$ 、0.25% Vと砂鉄特有成分のチタン、バナジウムに富む。34.43%全鉄分(Total Fe)は低値寄り、造滓成分( $\text{SiO}_2+\text{Al}_2\text{O}_3+\text{CaO}+\text{MgO}+\text{K}_2\text{O}+\text{Na}_2\text{O}$ )の42.93%台は火山岩起源砂鉄原料の製錬滓分類で問題はない。顕微鏡観察のウルボスピネル鉱物相の対応もとれた。

## (6) X線回折

構成鉱物は主に磁鉄鉱とキルシュスタイナイト[ $\text{CaFeSiO}_4$ ]からなり、微量の石英が存在する。磁鉄鉱はウルボスピネルとの中間組成に相当するチタン磁鉄鉱である。キルシュスタイナイトはファヤライト[ $\text{Fe}_2\text{SiO}_4$ ]:  $2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$ 成分を25%ほど含んでいる。ガラスは少量である。

## TAG-22 流動滓

## (1) 肉眼観察

流れの良い重層流動滓の破片である。上下面及び下側面が生きている。表皮は平滑で、部分的に流れ皺の痕跡

を残す。表皮色調は暗葉紅色で、部分的な黒褐色を呈する。下面表面には灰褐色の珪粉が薄く固着。破面滓質は緻密で内面上部に気孔が散在する。

(2) マクロ組織

Photo. 2の⑥に示す。断面は均等な鉱物相を有し、偏析は殆んど認められない。

(3) 顕微鏡組織

Photo. 2の⑦⑧に示す。主要鉱物はウルボスピネルとウスタイト、これにファヤライトが加わる。前述TAG-21流動滓と同系鉱物であるが、これらの各結晶は小型で炉内滞留時間が短く十分に成長しきっていない。火山岩砂鉄起源の製錬滓である。

(4) ビッカース断面硬度

Photo. 2の⑧に淡茶褐色多角形結晶の2点の硬度測定印痕を示す。値は742HV・200gfと708HV・200gfであった。ウルボスピネルに同定できる。

(5) 化学組成分析

38.05%全鉄分(Total Fe) -7.24% TiO<sub>2</sub>-0.25% V組成は火山岩砂鉄起源の製錬滓に分類できる。前述TAG-21流動滓と同系は顕微鏡組織の鉱物相と共通する。

小結

小型自立炉の珪粉胎土は、火山岩質火山岩起源の表土が使用される。57.18% SiO<sub>2</sub>は花崗岩起源の土壌に比べて少なく、アルミナが20.07%と高く、かつ2.20% MgO、3.05% CaOも高値で、0.89% K<sub>2</sub>Oは低い。溶剤効果の塩基性成分(CaO+MgO)は多めの5.23%で耐火度は<1120℃を保つ。一方通風管は同系土壌ながら塩基性成分(CaO+MgO)は3.97%と低下し、耐火度は1190℃と僅かに上昇する。経験則による技術力か。流動滓はウルボスピネル+ウスタイトの鉱物相で、7.0%台TiO<sub>2</sub>-0.25% Vの中子タン火山岩起源砂鉄原料の製錬滓に分類できた。

Ⅶ区1号鍛冶

TAG-23 椀形鍛冶滓

(1) 肉眼観察

平面が不整形をした大型(1219.1g)のほぼ完形椀形鍛冶滓である。上面は二段気味で、中央部にひと回り小さな薄手の椀形鍛冶滓が乗ったような形状である。内部から錆が滲み出ており、全体に鉄部を含有している。中央やや左の上面に比較的金属鉄が多く残存している。滓

全体が酸化土砂に覆われている。滓質は密で比重は高い。表面に細かい木炭痕が確認できる。顕微鏡観察は滓部(S)と金属鉄部(M)の2ヶ所より採取した。

TAG-23- (S) 滓部分

(2) マクロ組織

Photo. 3の①に示す。滓部断面は気孔少なく緻密で鉱物相の偏析も少ない均等質であった。

(3) 顕微鏡組織

Photo. 3の②③に示す。鉱物相は白色粒状結晶のウスタイトで粒内に微細ウルボスピネルを析出する。これに淡灰色盤状結晶のファヤライトで構成される。荒鉄の除滓処理を目的とした精錬鍛冶滓の晶癖である。

(4) ビッカース断面硬度

Photo. 3の③に白色楕円状結晶の硬度測定印痕を示す。硬度値は366HV・100gfと低値である。鉱物結晶構造はウスタイトに想定できるが、文献硬度値の446HV～503HVの下限値を大きく外れる。風化起因の異常値であろう。

TAG-23- (M) 金属鉄部分

(2) マクロ組織

Photo. 3の④に示す。滓断面には除滓処理に際して残留した4～5mmの金属鉄(銀白色)が2ヶ所に隣接して認められる。

(3) 顕微鏡組織

Photo. 3の⑤～⑧にナイトル(5%硝酸アルコール液)で腐食(etch)した組織を示す。⑤⑧はフェライト(ferrite: α鉄、純鉄)地に黒色層状のパーライト(Pearlite)を少量析出した亜共析鋼(<0.77% C)である。⑥⑦は炭素(C)を殆んど含まないフェライト単相に近い極低炭素鋼(<0.005% C)で、軟質鉄素材の確保が推定される。

(4) ビッカース断面硬度

Photo. 3の⑥～⑧に示す。⑥はフェライト単相部の硬度印痕である。値は82.9HV・200gfは組織に見合った妥当な数値であろう。⑦は微量パーライト部の印痕で104HV・100gfが得られた。⑧は2点の硬度値を示す。左側はフェライト・パーライト組織で103HV・200gfで左程問題はない。右側はパーライト狙いで、印痕が若干フェライトに食み出す。値は165HV・100gfと低値傾向にある。パーライトの正常経験則は230HV前後である。フェライト側への食み出しと風化による誤差と推定される。

## (5)化学組成分析

滓と金属鉄を込みにした定量分析値である。製錬滓に比べると全鉄分(Total Fe) 48.63%と多く、金属鉄(metallic Fe)も1.0%を含む。脈石成分は鍛冶滓の除滓反応から2.08% TiO<sub>2</sub>、0.11% Vと低減する。同じくマンガンも0.50%から0.14% MnOと変化をみる。成分値からも精錬鍛冶への分類は支障ない。

## TAG-24 鉄塊系遺物

## (1)肉眼観察

平面が不整形円形をした小塊状(186.6g)の鉄塊系遺物である。表面は赤褐色土砂に覆われ、放射割れを発生。比重は高い。

## (2)マクロ組織

Photo. 4の①に示す。断面の大部分は銀白色の金属鉄ながら、外周部と中核部の一部は茶褐色で錆化が進む。小割鉄塊の可能性をもち、表皮スラッグは残さない。

## (3)顕微鏡組織

Photo. 4の②~⑨に示す。②③は外周部の錆化層である。錆化淡褐色はパーライト地で白色網目状析セメントイト痕跡を残す。過共析鋼(>0.77% C)である。④~⑨は金属鉄部をナイタル腐食した組織を示す。こちらも黒色層状パーライトと白色板状初析セメントイトで構成される。局部組織として⑤の中央に約5μm径の黄褐色非金属介在物の硫化鉄(FeS)を検出。この硫化鉄の周囲には点状相のFe-Fe<sub>3</sub>C-Fe<sub>3</sub>P共晶であるステダイト(steadite)が白くみえる。ともかくもほぼ断面全体が過共析鋼の鋼である。農工具類は軟鉄(TAG-23含鉄部分)と当鋼の組合せで、鋭利鉄器の製作があった事が推定される。

## (4)ピッカース断面硬度

⑧⑨は硬度測定の圧痕を示す。⑧は2点の測定結果である。左側の黒色層状部は318HV・200gfと硬い。右側の白黒斑部は247HV・200gfで軟らかい。単独層でなく、フェライト混りの影響と読める。⑨は3点の硬度値を示す。左側と上部の黒色層状部は、前者で221HV・300gfと後者の187HV・300gfとバラツキをもつパーライト地である。中央の白色板状組織は硬質で449HV・300gfで初析セメントイトである。ここでは硬度値の相対的な比較検討ができた。

## (5)化学組成分析

鉄塊系遺物の中央部は金属鉄を残すが、全体的には錆化が進む。分析は酸化物定量に頼らざるを得ない。45.05%全鉄分(Total Fe)に対して金属鉄(metallic Fe)は3.71%、酸化第2鉄(Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)が増加して52.29%を占める。砂鉄特有成分は0.31% TiO<sub>2</sub>-0.02% Vと低減傾向が著しい。

## 小結

VII区1号鍛冶は除滓や鉄素材の成分調整を目的とした精錬鍛冶工場の可能性をもつ。鍛冶滓の含鉄部分や鉄塊系遺物の炭素含有量からみて、軟・硬組合せの鋭利鉄器の製作が肯定できる。

## VII区18号住居

## TAG-25 鉄塊系遺物

## (1)肉眼観察

平面が不整形円形をした小塊状(168.8g)の鉄塊系遺物である。表面は茶褐色酸化土砂に覆われている。比重が高く放射割れが発生し、金属鉄の遺存が予測される。

## (2)マクロ組織

Photo. 5の①に示す。厚く酸化土砂に覆われた内部は銀白色の金属鉄が点蝕を受けつつも残存する。なお鉄塊表皮には、備かに滓や砂鉄粒の付着が認められる。製錬系鉄塊の搬入の可能性が指摘できる。

## (3)顕微鏡組織

Photo. 5の②~⑨に示す。②③は付着砂鉄である。③は格子状組織をもつチタン鉄鉍粒子(Ilaenite: FeO・TiO<sub>2</sub>)で0.15mm径と観察できる。④は鉄塊の表皮スラッグで、微小結晶のウルボスピネルがデンドライト状に晶出する。灰白色卵状結晶は錆化鉄粒である。前述TAG-21、22の流動滓の鉍物相に近似する。⑤はFe-Fe<sub>3</sub>C-Fe<sub>3</sub>P共晶ステダイトで、⑥は焼偏析を伴う過共析鋼(>0.77% C)域であり、⑦の焼偏析である。金属鉄はパーライト地にフェライトを伴う垂共析鋼(<0.77% C)に分類される。

## (4)ピッカース断面硬度

Photo. 5の⑧の硬度測定箇所は黒色層状組織のパーライト地で、値は156HV・200gfと若干軟質傾向を呈した。⑨はフェライト地でパーライト析出の少ない箇所ながら、硬度値は195HV・500gfと硬質であった。風化による材質変調が起きたのだろうか。

## (5)化学組成分析



該品も酸化物定量分析を実施した。全鉄分(Total Fe)は47.60%に対して、金属鉄(metallic Fe)が1.48%、酸化第2鉄(Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)は多くて54.28%を占める。砂鉄特有成分の二酸化チタン(TiO<sub>2</sub>)は僅かに高めの0.58%は表皮スラグや付着砂鉄の影響であろう。

#### 小结

18号住居は9世紀第1～3四半期と他の10世紀以降の遺構より若干推定年代の異なる遺構である。床面直上出土の当鉄塊系物は、製錬系鉄塊が鍛冶原料として搬入された証になろう。炭素含有量はバラツキをもつ亜共析～過共析鋼であった。

### VI区1号鍛冶

#### TAG-26 楕形鍛冶滓(大)

##### (1)肉眼観察

平面は不整楕円形をした大型楕形鍛冶滓(922g)のほぼ完形品である。全体に鉄分が多く、内部より錆が滲みでる。上面中央に比較的金属を多く残存する。滓の一部は酸化土砂に覆われている。滓質は密で比重は高い。表面に細かい木炭痕が多く確認できる。

##### (2)マクロ組織

Photo. 6の①に示す。断面は小気孔を発生した滓部に錆化鉄が点在する。滓には特別大きな偏析は認められない。

##### (3)顕微鏡組織

Photo. 6の②③に示す。主要鉱物相はウスタイトとその粒内に茶褐色微細析出物を含む結晶と、淡灰色盤状結晶のファヤライトである。表層には白色粒状ウスタイトと淡褐色多角形結晶のヘルシナイト(鉄スピネル:FeO·Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)が晶出する。当楕形鍛冶滓は除滓や成分調整を目的とした精錬鍛冶滓に分類される。

##### (4)ピッカース断面硬度

Photo. 6の③に白色デンドライト状結晶の硬度測定の際の圧痕を示す。硬度値は463Hv・100gfが得られた。文献硬度からみてウスタイトに同定できる。

##### (5)化学組成分析

肉眼観察では含鉄塊形滓の可能性を提示したが、検鏡結果と化学組成からは金属の存在は不明瞭となる。全鉄分(Total Fe)は48.88%に対して、金属鉄(metallic Fe)は0.30%と低値で、酸化第2鉄(Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)も27.55%と多く

ない。砂鉄特有成分の1.74% TiO<sub>2</sub>、0.12% Vは精錬鍛冶滓レベルを保持する。

#### TAG-27 鉄塊系遺物

##### (1)肉眼観察

平面は不整三角形の鉄塊遺物である。表面は赤褐色の酸化土砂に覆われ、大きな放射割れを発生。比重は高く金属鉄を残す。

##### (2)マクロ組織

Photo. 6の④に示す。断面は厚く酸化土砂に覆われた内部に大部分は錆化するが、左上部に僅かに金属鉄が遺存する。少量の表皮スラグを付着。

##### (3)顕微鏡組織

Photo. 6の⑤～⑧に示す。⑤は表層付着の鍛冶剥片(注3)である。表層白色ヘマタイト(Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、中間色淡灰白色のマグネタイト(Magnetite: Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>)、内層は非晶質ウスタイト(FeO)の三層分離剥片が辛うじて読み取れる。⑥⑧はナイタル腐食後の金属組織を示す。⑥は白色針状結晶の析析セメントタイトで、素地は黒色層状パーライトから過共析鋼(>0.77% C)、⑧は全面パーライトの共析鋼(0.77% C)と炭素(C)に若干のバラツキをもつ鋼であった。⑦は表皮スラグのウスタイトであり、当鉄塊は鍛冶系に分類できる。

##### (4)ピッカース断面硬度

⑦は表皮スラグの白色粒状結晶の硬度測定の際の圧痕である。値は453Hv・100gfでウスタイトに同定できる。⑧は全面パーライト品出の金属鉄で、硬度値は273Hv・200gfを得た。組織に見合った妥当な数値である。

##### (5)化学組成分析

酸化物定量である。全鉄分(Total Fe) 53.30%に対して、金属鉄(metallic Fe) 2.59%、大部分は酸化第2鉄(Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)で49.86%を占める。砂鉄特有成分二酸化チタン(TiO<sub>2</sub>) 0.30%、バナジウム(V) 0.02%と低値である。鉄塊系遺物の分類で大過ない。

#### TAG-28 羽口

##### (1)肉眼観察

鍛冶羽口の先端部片。内径2.2cm、厚さ2.6～3.4cmと厚手。胎土はややきめ細かい。先端部は平坦に溶損。

##### (2)マクロ組織

Photo. 7の①に示す。断面素地は溶化・侵食なしの粘土鉱物に石英破片と砂鉄粒子が極めて微量で存在する。

#### (3)顕微鏡組織

Photo. 7の②③に示す。微細な鱗片状粘土鉱物セリサイトに白色石英片(0.1mm径以下)と淡灰白色砂鉄(0.2～0.5mm径)が混在する。

#### (4)化学組成分析

胎土分析である。強熱減量(Ig loss)は7.79%を確保しているが、一部の結晶構造水の飛散は免れない。しかし、20.94%  $Al_2O_3$ -1.37%  $Na_2O$ 組成は前述が壁(TAG-19)や送風管(TAG-20)に近似して、安山岩質火山岩起源表土と類推できる。また砂鉄粒子の混入は0.8%  $TiO_2$ の成分値から裏付けられる。なお、塩基性成分( $CaO+MgO$ )は6.40%と高値で高耐火度は望めない。

(5)耐火度：1120℃以下である。前述が壁(TAG-1)と大差なく、在地が材の充当と考えられる。

(6)X線回折：図4に示す。構成鉱物はクリストバライトと斜長石からなる。ガラスが生成している。石英はすべてクリストバライトに転移している。1000℃を超える被熱と推測される。

### TAG-29 羽口

#### (1)肉眼観察

鍛冶羽口の先端部片。内径2.3cm、厚さ2.5～2.9cmとやや厚手。胎土は粗粒で、石英質の白色粒を多く含む。先端部が水平に溶損する。

#### (2)マクロ組織

Photo. 7の④に示す。断面胎土は溶損先端に隣接して溶化はないが、高温の影響から焼結層となる。

#### (3)顕微鏡組織

Photo. 7の⑤～⑧に示す。胎土と滓の2箇所を撮影対象とした。⑤は滓に付着した木炭片である。木材組織は研磨面が無作為から樹種同定は難しい。大方の見当では、環孔材の黒炭までは発言できようか。⑥は胎土の粘土鉱物セリサイトで、高温被熱から非晶質化に向う。これに0.1mm径未満の砂鉄：磁鉄鉱が点在する。⑦⑧は羽口先端溶着スラグの鉱物相を示す。淡茶褐色多角形結晶のウルボスピネル、白色粒状結晶のウスタイト(粒内析出Ti酸化物)が晶出する。前述流動滓(TAG-21、22)に酷似組織であり、製錬滓とも判別されそうである。品位の低い

鉄塊の除滓処理を施した羽口と分類すべきであろう。

#### (4)ピッカース断面硬度

Photo. 7の⑦⑧に滓鉱物相の硬度測定の圧痕を示す。

⑦の淡茶褐色多角形結晶は692Hv・200gfからウルボスピネル、⑧の白色デンドライト結晶は517Hv・100gfからウスタイトに同定される。

#### (5)化学組成分析

強熱減量(Ig loss)は1.69%と少なく、結晶構造水の大部分が飛散した胎土分析である。53.12%  $SiO_2$ と21.11%  $Al_2O_3$ 組成は安山岩質火山岩起源表土と見做され、塩基性成分( $CaO+MgO$ )は6.12%も多く、かつ1.13%  $TiO_2$ と胎土に砂鉄を含むところは、前述羽口(TAG-28)の化学組成に近似する。母材産地は共通する可能性大と考えられる。

#### (6)耐火度

化学組成に対応した<1120℃であった。

#### (7)X線回折

構成鉱物はクリストバライトと石英、斜長石、カリ長石からなる。ムライト(mullite:  $3Al_2O_3 \cdot 2SiO_2$ )と少量のガラスも生成している。

### TAG-30 羽口

#### (1)肉眼観察

鍛冶羽口の先端部破片。内径2.7cmとやや大きめ。厚さ1.2～1.3cmと薄め。胎土は粗粒。先端部が凸状に溶損している。

#### (2)マクロ組織

Photo. 8の①に示す。断面の大部分は熱影響を殆んど受けていない原質層である。胎土は黒点砂鉄粒子と微細白色石英破片が認められる。

#### (3)顕微鏡組織

Photo. 8の②③に示す。②は微細な鱗片状粘土鉱物セリサイト素地で、これに0.2～0.4mm砂鉄(写真中央白色粒)と0.02mm前後の石英破片で構成される。③はセリサイト地に大粒石英破片構成の視野である。

(4)化学組成分析：熱影響が殆んど無い胎土で、強熱減量(Ig loss)は10.06%と大きい。47.67%  $SiO_2$ の低値と19.97%  $Al_2O_3$ 高値から安山岩質火山岩起源表土で、塩基性成分( $CaO+MgO$ )は8.17%を含む。0.92%  $TiO_2$ は砂鉄含みで前述(TAG-28、29)の化学組成に近似する。三者は同

系が材と認定できる。

(5)耐火度

化学組成と組織はなく耐火度は $<1120^{\circ}\text{C}$ であった。

(6)X線回折

構成鉱物はクリストバライトと石英、斜長石、カリ長石からなる。ガラスも生成している。

TAG-31 梘形鍛冶滓(小)

(1)肉眼観察

平面は不整形円形をした小型(148.6g)のほぼ完形の梘形鍛冶滓である。上面左半は羽口頸部起源の粘土質溶解物が付着している。上面左端部の欠損面は羽口頸部との溶着の痕跡か。欠損部からは内部の気泡が多く観察されるが、滓の比重は高く、滓質は密である。上面下半と下面に酸化土砂が付着している。上面右上の破面に光沢のある緑色の微細遺物がある。

(2)マクロ組織

Photo. 9の①に示す。該品は故鉄(iron scrap)処理滓の可能性が高い。故鉄はゲーサイト(goethite:  $\alpha\text{-FeO}$ )からなる棒状鉄器断面輪郭(内部空洞化)が②③と④⑤では約幅5.5mm、厚み3mm、⑥⑦は約7mm角として痕跡を残存する。鉄粉れ起因で断面形状は乱れをもつ。3点の鉄器片は低炭素材にて高融点(純鉄1536 $^{\circ}\text{C}$ →铸铁4.3%で1153 $^{\circ}\text{C}$ )のため溶融しきれなかったと考えられる。故鉄の外周の鉱物相は酸化第1鉄のウスタイト(wüstite:  $\text{FeO}$ )晶出から鍛冶滓と認定できる。

(3)顕微鏡組織

Photo. 9の②~⑨に示す。3点の鉄器はゲーサイトの断面輪郭を残して内部空洞化が観察できる。鉄器表面は酸化雰囲気曝露されてウスタイトを晶出している。故鉄(iron scrap)溶融まとめから熱不足で外れた未消化鉄器断面痕跡が検出できた。肉眼観察で上面右上の破面に光沢のある緑色の微細遺物があると指摘したのは、銅・鉄組合せ品の溶融物の可能性があるやも知れぬ。⑧は付着木炭片の木材組織を示す。剖断面(木口、柎目、板目)の方向が定かでない、樹種同定は控えておく。⑨は白色粒状ウスタイトの拡大組織である。

(4)ピッカース断面硬度

Photo. 9の⑨にウスタイト結晶粒の2点の硬度測定の際の圧痕を示す。値は505、508HV・100gfである。当鉱物は

ウスタイトに同定できて鍛冶滓の裏付けになる。

(5)化学組成分析

全鉄分(Total Fe)は50.15%と高く、かつ砂鉄脈石成分の0.24%  $\text{TiO}_2$ 、0.01% V、0.02% Mn等の低減化が著しい。前述梘形滓TAG-23、26は1.74~2.08%  $\text{TiO}_2$ 、0.11~0.12% V、0.14~0.16% Mnとなり、その差異は明瞭で、故鉄の高純度成分が表われる。また、0.02% Cuは従来品の0.01% Cuより僅かに上昇し、鉄・銅製品の溶融の反映を推測できよう。

(6)X線回折

構成鉱物はウスタイトとファヤライト、磁鉄鉱と微量の石英からなる。

TAG-32 羽口

(1)肉眼観察

鍛冶羽口の先端部片。内径2.7cmとやや大きめ。厚さ1.2~1.3cmと薄め。胎土は粗粒。ややきめ細かい。先端部が凸状に溶損。

(2)マクロ組織

Photo. 8の④に示す。胎土側の試料採取指示である。原質層には素焼き胎土に黒色砂鉄粒子混入と白色石英破片が目につく。当然ガラス化侵蝕層や焼結層の生成はない。

(3)顕微鏡組織

Photo. 8の⑤~⑧に示す。⑤は胎土素地を構成する微細な鱗片状粘土鉱物セリサイトに囲まれた混入生砂鉄である。その周囲には細かい石英破片が散在する。⑥は⑤の拡大組織を示す。⑦⑧はセリサイトと石英破片で、これらに高温クラック・溶融組織の痕跡は認められない。溶損部から離れた試料採取であって、この溶化なしの位置からは銅関連の羽口か否かの判別は無理である。

(4)化学組成分析

胎土の強熱減量(Ig loss)は、7.95%と比較的大きく、結晶構造水の飛散は低めの試料である。鉄分( $\text{Fe}_2\text{O}_3$ )3.86%は軟化性に有利で、塩基性成分( $\text{CaO}+\text{MgO}$ )4.17%の少なさは耐火性に寄与しよう。砂鉄由来の二酸化チタン( $\text{TiO}_2$ )0.95%は検鏡結果に矛盾しない。該品も炉壁や送風管、更には既述羽口3点と同系の54.94%  $\text{SiO}_2$ 、21.24%  $\text{Al}_2\text{O}_3$ 組成の安山岩質火山岩起源表土に分類できる。

## (5)耐火度

1190℃を確保した。前述送風管(TAG-20)に近似する。化学組成の低塩基性組成も共通項となる。

## (6)X線回折

クリストバライトと石英、斜長石、カリ長石からなる。少量のガラスも生成している。微量の磁鉄鉱が認められる。

## 小結

Ⅵ区1号鍛冶は、微細な粒状鋼滓や鋼関連の坩堝が出土しており、銅・鉄複合工房と想定されている。今回の分析調査で以下に示す3点の項目から鉄鍛冶作業が認定できた。

(1) TAG-26大型焼形鍛冶滓(922g)は、鉱物相に微細ウルボスピネル含みのウスタイト(FeO)晶出、1.74% TiO<sub>2</sub>、0.12% V組成は除滓と成分調整を目論んだ精錬鍛冶滓である。

(2) TAG-3小型焼形滓(146g)は、マクロ・ミクロ組織で、ウスタイト共伴に棒状鉄器断面(幅5.5mm、厚み3mmや7mm角)の痕跡を留め、故鉄(iron scrap)処理滓に分類できる。該品の緑色付着物(緑青)は銅細工を伴う廃鉄器原料に起因する可能性をもつ。通常焼形鍛冶滓は0.01% Cuが、こちらは0.02% Cuと微量増加が認められた。

(3)羽口4点の胎土組成は、Ⅻ区1号製鉄炉の炉壁や送風管に近似して、安山岩質の火山岩起源の表土の使用であった。耐火度も<1120℃と1190℃で差異がない。一方、TAG-29羽口の先端溶融付着滓の鉱物相は、ウスタイト(FeO)とウルボスピネル(2FeO・TiO<sub>2</sub>)の共存で精錬鍛冶滓を裏付けた。

## まとめ

田口下田尻遺跡(Ⅵ・Ⅶ・Ⅹ区)出土の製鉄・鍛冶関連遺物の個々のまとめを第14表に示す。

(1)Ⅹ区1号鍛冶(製鉄炉)は火山岩起源中チタン砂鉄を原料とした小型自立炉(西浦北型)の操業である。流動滓の鉱物相はウルボスピネル(2FeO・TiO<sub>2</sub>)とウスタイト(粒内微細Ti酸化物含み)を晶出し、化学組成は7.0%台TiO<sub>2</sub>、0.25% Vレベルである。製鉄炉壁と送風管胎土は、安山岩質火山岩起源の表土で、化学組成は54.58～57.18% SiO<sub>2</sub>と花崗岩起源の土壌(>60%)に比べて少ない。20.07～20.83% Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>は高い値を示し、MgOとCaO、

Na<sub>2</sub>Oの値は高く、K<sub>2</sub>Oは低い等の特徴を有す。一方、炉壁は塩基性成分(CaO+MgO)は5.25%と高く、送風管は3.97%と低下する。耐火度は前者で<1120℃。後者は1190℃であって、溶け易い炉壁は製錬時の溶剤(Flux)効果の狙いからの選択かも知れぬ。

(2)Ⅶ区1号鍛冶出土大型焼形滓(1219.1g)とⅥ区1号鍛冶出土滓(922.1g)の鉱物相は、微細Ti酸化物含みのウスタイトで、1.74%～2.08% TiO<sub>2</sub>、0.11～0.12% V組成は流動滓(製錬滓)からの傾向で、両者の繋がりと思われる。

(3)Ⅵ区1号鍛冶出土の小型焼形鍛冶滓(148.6g)は、マクロ・ミクロ組織で5×3mm長方形や7mm方形断面棒状鉄器の痕跡を留め、廃鉄器を原料とした故鉄(iron scrap)処理滓に認定できた。(2012年調査時でも検出している)(注4)。鉄滓表面付着の緑色(緑青)は銅・鉄組合せ廃鉄器充当の名残であろう。

(4)鍛冶原料鉄の鉄塊系遺物はⅦ区18号住居出土が表皮スラグに製錬鉱物ウルボスピネルを固着した亜共析鋼(<0.77% C)であった。Ⅶ区1号鍛冶の鉄塊系遺物は共析鋼～過共析鋼(>0.77% C)の鋼である。この差は小型自立炉の操業改善の効果か否か興味を呼ぶ。いずれにしろ、当遺跡内の鍛冶製品は、高・低炭素量の相違ある素材の組合せから高靱性鋭利刃物の製作が窺われて、高度の鍛冶技術を擁したものと考えられる。

(5)Ⅵ区1号鍛冶は製鉄炉の炉材と同系胎土を用いた羽口であった。こちらも安山岩質火山岩起源表土の使用で、耐火度に差異はなかった。

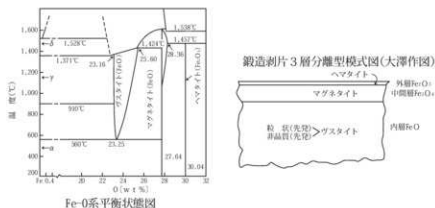
## 注

(1)大澤正己2012「田口上田尻遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査」『田口上田尻遺跡・下田尻遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

(2)日本学術振興会製鉄第54委員会(1968)「焼結鉱組織写真および識別法」日本工業新聞社 ウスタイトは446～503bv、マグネタイトは505～592bv、ファイヤライトは655～713bvの範囲が提示されている。また、ウルボスピネルの硬度値範囲の明記がないが、マグネタイトにチタン(Ti)を固溶するので、600bv以上であればウルボスピネルと同一している。それにアルミナ(Al)が加わり、ウルボスピネルとヘーシナイトを端成分とする固溶体となると更に硬度値は上昇する。このため700bvを超える値では、ウルボスピネルとヘーシナイトの固溶体の可能性が考えられる。

(3)鍛造割片とは鉄素材を大気中で加熱、鍛打したとき、表面酸化膜が剥離、飛散したものを指す。俗に鉄肌(金肌)やスケールとも呼ばれる。鍛造割片の酸化膜相は、外層は微粉のヘマタイト(Hematite: Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、中間層マグネタイト(Magnetite: Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>)、大部分は内層ウスタイト(Küstelite: FeO)の3層から構成される。このうちのヘマタイト相は1450℃を越えたと存在しなく、ウスタイト相は570℃以上で生成されるのはFe-O系平衡状態図から説明される。

## 第5章 自然科学分析による遺跡の理解



Fe-O系平衡状態図

- (4) -①大澤正己 2012「田口上田尻・下田尻遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査」『田口上田尻遺跡・下田尻遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- (4) -②大澤正己 2014「松本田遺跡4次調査6区出土製鉄・鍛冶関連遺物の金属学的調査」『松本田5』福岡市埋蔵文化財調査報告書 第1242集 福岡市教育委員会
- (4) -③大澤正己2015「カワラケ田遺跡出土鍛冶関連遺物分析調査」『東九州自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告』-17-筑見大塚古墳カワラケ田遺跡2次調査3 (NFK)九州歴史資料館
- (4) -④大澤正己2016「金武古墳群第8次発掘調査出土鋳銅及び製鉄・鍛冶関連遺物の分析調査」『金武古墳群2』-第8次調査報告-福岡市埋蔵文化財調査報告書第1280集

第12表 試料の履歴と調査項目

試料番号	調査区	遺構	遺物番号	検出図No.	名称	計測値			調査項目					備考			
						大きさ(mm)	重量(g)	磁着度	メタル度	マイクロ組織	顕微鏡組織	ピッカース断面硬度	X線回折		EPMA	化学分析	耐久度
TAG-19	XI	1号線治	13	2	鉄釘	94×87×39	185.8	-	-	○	○				○	○	粘土
TAG-20	XI	1号線治	5	19	3号風管	51×32×19	23.2	-	-	○	○				○	○	粘土
TAG-21	XI	1号線治	35	31	流動弁	119×151×94	1787.9	-	-	○	○				○		漆
TAG-22	XI	1号線治	42	38	流動弁	83×86×44	236.3	-	-	○	○				○		漆
TAG-23	VI	1号線治	35	46	輪形鍍金漆 弁・メタル	148×130×79	1219.1	-	-	○○	○○				○○		漆、メタル 断面硬度
TAG-24	VI	1号線治	45	56	鉄塊系遺物	63×48×49	186.6	-	-	○	○				○		メタル 断面硬度
TAG-25	VI	18号住居	38	84	鉄塊系遺物	57×50×37	168.8	-	-	○	○				○		メタル 断面硬度
TAG-26	VI	1号線治	97	100	輪形鍍金漆	140×117×58	922.1	-	-	○	○				○		漆
TAG-27	VI	1号線治	107	108	鉄塊系遺物	39×60×35	72.8	-	-	○	○				○		メタル 断面硬度
TAG-28	VI	1号線治	8	121	鉄口	89×86×108	528.3	-	-	○	○				○	○	粘土
TAG-29	VI	1号線治	21	134	鉄口	60×90×86	275.8	-	-	○	○				○	○	粘土
TAG-30	VI	1号線治	31	144	鉄口	96×58×58	192.9	-	-	○	○				○	○	粘土
TAG-31	VI	1号線治	101	175	輪形鍍金漆	66×70×28	148.6	-	-	○	○				○		漆
TAG-32	VI	1号線治	58	176	鉄口	100×61×50	160.6	-	-	○	○				○	○	粘土

第13表 試料の組成

試料 番号	遺跡 名称	全鉄分 (Total Fe)	金属質 (Metal Fe)	酸化 第1鉄 (FeO)	酸化 第2鉄 (Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub> )	二酸化 アルミ ニウム (Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> )	酸化 アルミ カリン ニウム (CaO)	酸化 マグ ネシ ウム (MgO)	酸化 カリ ウム (K <sub>2</sub> O)	酸化 ナトリ ウム (Na <sub>2</sub> O)	酸化 マン ガン (MnO)	酸化 チタン (TiO <sub>2</sub> )	酸化 クロム (Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub> )	珪質 (SiO <sub>2</sub> )	五酸化 燐 (P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> )	炭素 含量 (C)	log <sub>10</sub> loss	バナ ジウ ム (V)	銅 (Cu)	二酸化 ジルコ ニウム (ZrO <sub>2</sub> )	耐火度 (°C)	溶解 成分	溶解 成分	注			
																								Total	Fe		
TAC-19	Ⅱ 1号跡治	5.30	0.05	3.53	3.58	57.18	30.07	3.05	2.20	2.80	2.08	0.07	0.77	0.03	0.027	0.20	1.22	4.24	0.02	0.02	-0.01	<1120	85.47	16.126	0.145		
TAC-20	Ⅱ 1号跡治	4.02	0.02	1.58	3.96	54.58	20.83	2.29	1.68	1.91	0.69	0.68	<0.01	0.027	0.28	0.41	10.43	0.01	0.01	0.01	0.01	1190	81.98	20.393	0.169		
TAC-21	Ⅱ 1号跡治	34.43	0.37	34.04	10.34	22.93	7.85	6.69	3.77	0.95	0.74	5.70	7.07	0.04	0.060	0.63	0.28	-	0.25	<0.01	0.01	-	42.93	1.247	0.205		
TAC-22	Ⅱ 1号跡治	38.05	0.30	39.64	9.37	18.41	6.52	7.89	3.86	0.87	0.49	0.52	7.24	0.04	0.055	0.59	0.21	-	0.25	<0.01	<0.01	-	38.04	1.000	0.190		
TAC-23	Ⅱ 1号跡治	48.63	1.00	39.67	24.01	16.26	5.93	2.31	1.51	0.70	0.40	0.14	2.08	0.03	0.12	0.16	0.44	-	0.11	<0.01	0.01	-	27.11	0.557	0.043		
TAC-24	Ⅱ 1号跡治	48.05	3.71	9.98	52.29	14.72	3.95	0.69	0.64	0.31	0.39	0.06	0.31	0.02	0.27	0.13	1.65	-	0.02	0.01	<0.01	-	20.70	0.431	0.006		
TAC-25	Ⅱ 18号住居	47.60	1.48	10.49	54.28	14.75	3.52	0.73	1.53	0.27	0.39	0.05	0.58	0.02	0.02	0.30	0.75	-	0.02	0.01	<0.01	-	21.19	0.445	0.012		
TAC-26	Ⅱ 1号跡治	48.88	0.30	37.06	27.55	15.74	6.09	2.00	2.30	0.41	0.27	0.16	1.74	0.04	0.055	0.29	0.32	-	0.12	0.01	<0.01	-	26.81	0.548	0.036		
TAC-27	Ⅱ 1号跡治	33.39	2.59	20.49	49.86	9.98	2.75	0.62	0.50	0.43	0.24	<0.01	0.30	0.02	0.17	0.25	0.76	-	0.02	0.02	<0.01	-	14.52	0.272	0.006		
TAC-28	Ⅱ 1号跡治	7.10	0.04	3.30	6.42	50.87	26.94	2.71	3.69	0.24	1.37	0.14	0.80	<0.01	0.011	0.18	0.26	7.79	0.02	<0.01	<0.01	<1120	79.82	11.242	0.113		
TAC-29	Ⅱ 1号跡治	8.23	0.06	3.45	7.84	53.12	21.11	3.16	2.96	0.90	1.87	0.14	1.13	0.03	0.011	0.14	0.55	1.69	0.03	0.02	0.02	<1120	83.12	10.100	0.137		
TAC-30	Ⅱ 1号跡治	6.77	0.04	3.16	6.10	47.67	19.97	4.00	4.17	0.51	1.39	0.13	0.92	0.01	0.028	0.12	0.62	10.06	0.02	0.02	0.01	<1120	77.71	11.479	0.136		
TAC-31	Ⅱ 1号跡治	50.15	0.09	34.76	32.93	15.62	4.34	1.61	0.88	0.81	0.42	0.02	0.24	0.02	0.044	0.15	0.47	-	0.01	0.02	<0.01	-	23.68	0.472	0.005		
TAC-32	Ⅱ 1号跡治	4.28	0.08	1.94	3.86	54.94	21.24	2.33	1.84	1.36	2.07	0.05	0.95	0.03	0.022	0.16	0.24	7.95	0.02	0.01	0.01	1190	83.78	19.575	0.222		

第14表 出土遺物の調査結果

品目 番号	調査区	遺構	名称	顕微鏡組織・X線回折	化学組成(%)							所見	
					TotalFe	Fe <sub>0</sub>	塩基性 成分	Ti <sub>0</sub>	V	Mn <sub>0</sub>	ガラス 質成分		Cu
TAG-19	Ⅷ	1号竪治	砂型	Is, se, g, q, C, Pl, Kf, nt	5.30	3.58	5.25	0.77	0.02	0.07	85.47	0.02	相模砂土は火山岩質火山岩起源の表土、 火山起源砂鉄原料の製錬炉、耐火度 1120℃
TAG-20	Ⅷ	1号竪治	返炭管	g, ab, Pl, se, c, q, Pl, Kf	4.02	3.96	3.97	0.68	0.01	0.09	81.98	<0.01	火山岩質火山岩起源の表土、1号砂型炉 土と同系、耐火度1190℃
TAG-21	Ⅷ	1号竪治	流動炉	U, W(含Ti), f, nt, k, q	34.43	10.34	10.46	7.07	0.25	0.50	42.43	<0.01	火山岩起源砂鉄原料の製錬炉
TAG-22	Ⅷ	1号竪治	流動炉	U, W(含Ti), f	38.05	9.37	11.75	7.24	0.25	0.52	38.04	<0.01	火山岩起源砂鉄原料の製錬炉
TAG-23	Ⅷ	1号竪治	焼印製造炉	W(含Ti), f, fe	48.63	24.01	3.82	2.08	0.11	0.14	27.11	<0.01	精錬治煉
TAG-24	Ⅷ	1号竪治	鉄塊系遺物	fe・P, Pec	48.05	52.29	1.33	0.31	0.02	0.06	20.70	0.01	具析組成—過共析鋼(<0.77% C)
TAG-25	Ⅷ	18号住居	鉄塊系遺物	Is, fe, P, st, 滓: U, W	47.60	54.28	2.26	0.58	0.02	0.05	21.19	0.01	表皮スラグにウルボスニセルを抽出した 製錬系具析鋼
TAG-26	Ⅷ	1号竪治	焼印製造炉	W(含Ti)+f	48.88	27.55	4.30	1.74	0.12	0.16	26.81	0.01	精錬治煉
TAG-27	Ⅷ	1号竪治	鉄塊系遺物	P・C, Pec, 滓: W	53.39	49.86	1.12	0.30	0.02	<0.01	14.52	0.02	酸治系高炭鉄塊(>0.77% C)
TAG-28	Ⅷ	1号竪治	引口	Is, se, c, Pl	7.10	6.42	6.40	0.80	0.02	0.14	79.82	<0.01	火山岩質火山岩起源の表土、1, 2と同 系鋼土、耐火度1120℃
TAG-29	Ⅷ	1号竪治	引口	as: U+W, ch, se, c, q, Pl, Kf, nt	8.23	7.84	6.12	1.13	0.03	0.14	83.12	0.02	精錬治煉引口?新土は1, 2, 10と同 系、耐火度1120℃
TAG-30	Ⅷ	1号竪治	引口	Is, se, c, q, Pl, Kf	6.77	6.10	8.17	0.92	0.02	0.13	77.71	0.02	新土は1, 2, 10, 11と同系、耐火度< 1120℃
TAG-31	Ⅷ	1号竪治	焼印製造炉	g, W, f, nt, q, 7mm角幅55×厚3mm, 断面数部片	50.15	32.93	2.49	0.24	0.01	0.02	23.68	0.02	酸治(焼鉄器)廻り滓
TAG-32	Ⅷ	1号竪治	引口	ce, c, q, Pl, Kf, nt	4.28	3.86	4.17	0.95	0.02	0.05	83.78	0.01	新土は1, 2, 10, 11, 30と同系、耐火 度1190℃

Is: Iron sand (砂鉄), se: serratite (微細な鱗片状工業薬物), g: glass (SiO<sub>2</sub>-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-CaO-H<sub>2</sub>O-K<sub>2</sub>O), q: quartz, 石英(SiO<sub>2</sub>),  
Pl: Plagioclase, 斜長石(Na,Ca)(Si,Al)AlSi<sub>3</sub>O<sub>8</sub>, U: Uvölsapine (2FeO・TiO<sub>2</sub>), W: Wüstite (FeO), f: fayalite (FeO・SiO<sub>2</sub>), fe: ferrite (純鉄, α-Fe), P: Pearlite (フェライトとセメンタイトの共析), pec:  
peritectoid cementite (析出セメントイド),  
st: strodite (Fe-Fe<sub>3</sub>C三元共晶), C: Cementite (Fe<sub>3</sub>C), as: molten slag (Uvölsapine, Wüstite), ch: charcoal (木炭), gr: graphite (α-FeO (β-FeO))  
c: cristobalite (SiO<sub>2</sub>)クリストバライト, Kf: k-feldsparカリ長石(KAlSi<sub>3</sub>O<sub>8</sub>), nt: magnetite磁鉄鉱(Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>), k: kirschsteinite-ferrosilicite(FeSi<sub>2</sub>),  
nt: magnetite磁鉄鉱(Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>), k: kirschsteinite-ferrosilicite(FeSi<sub>2</sub>),  
ml: millite Δ-Fe<sub>2</sub>(O, S, Si<sub>2</sub>O<sub>7</sub>)



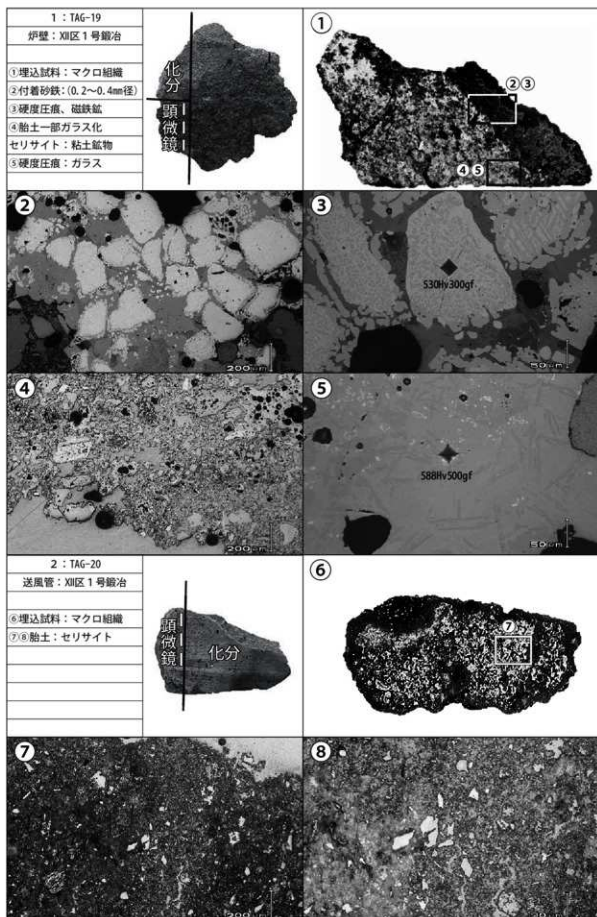


Photo. 1

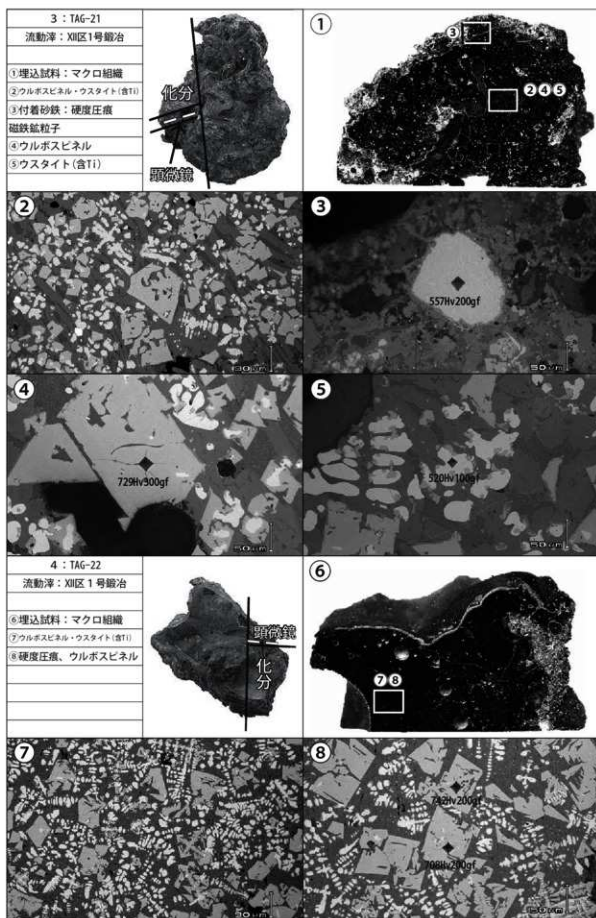


Photo. 2

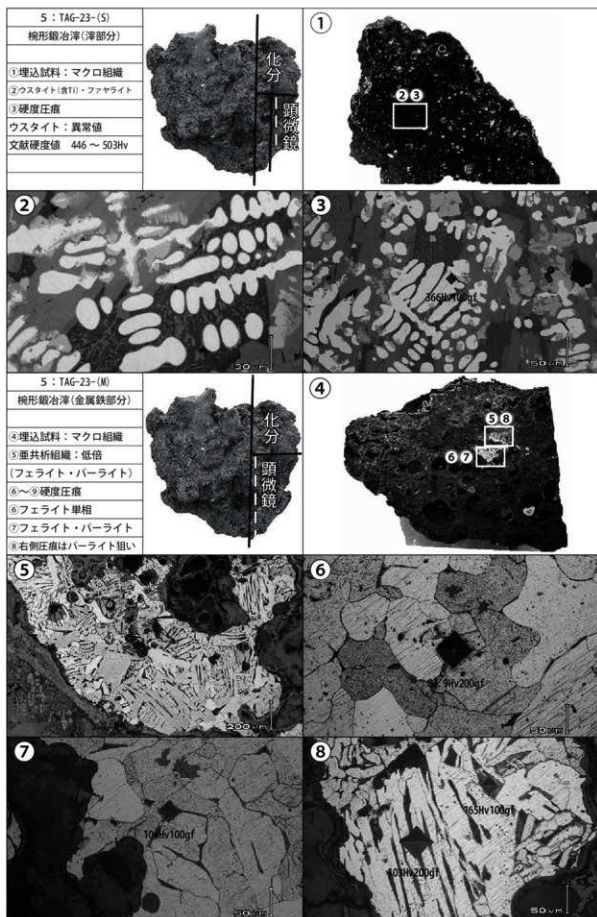


Photo. 3

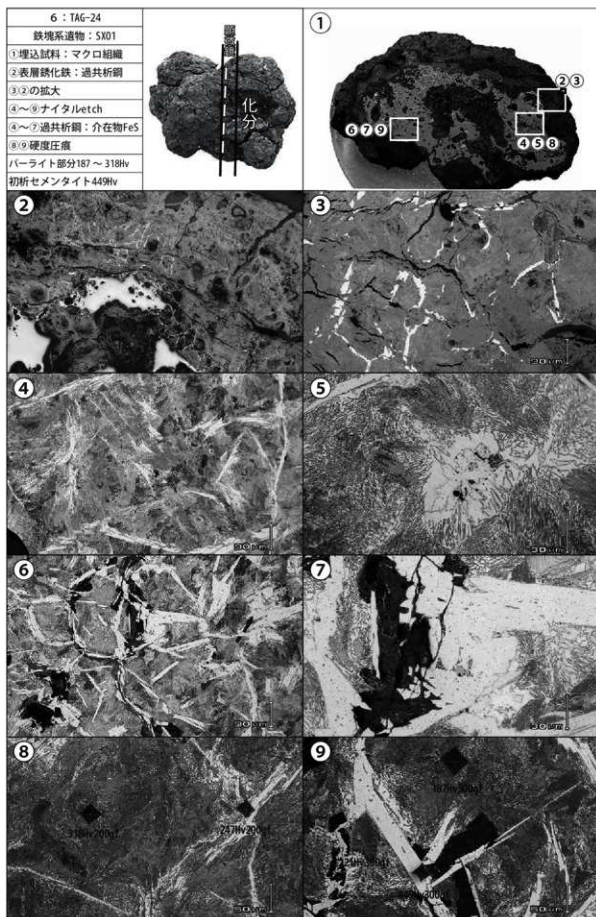


Photo. 4

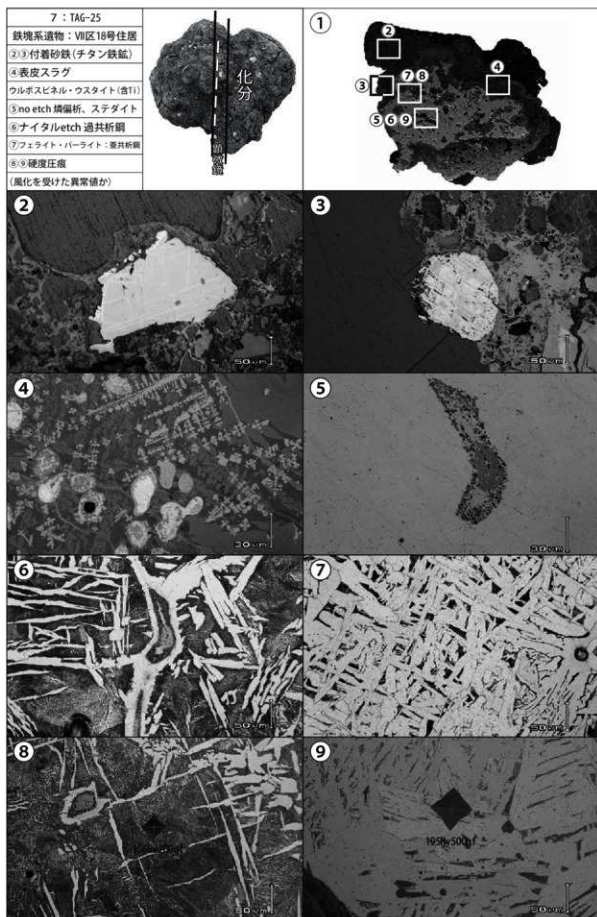


Photo. 5

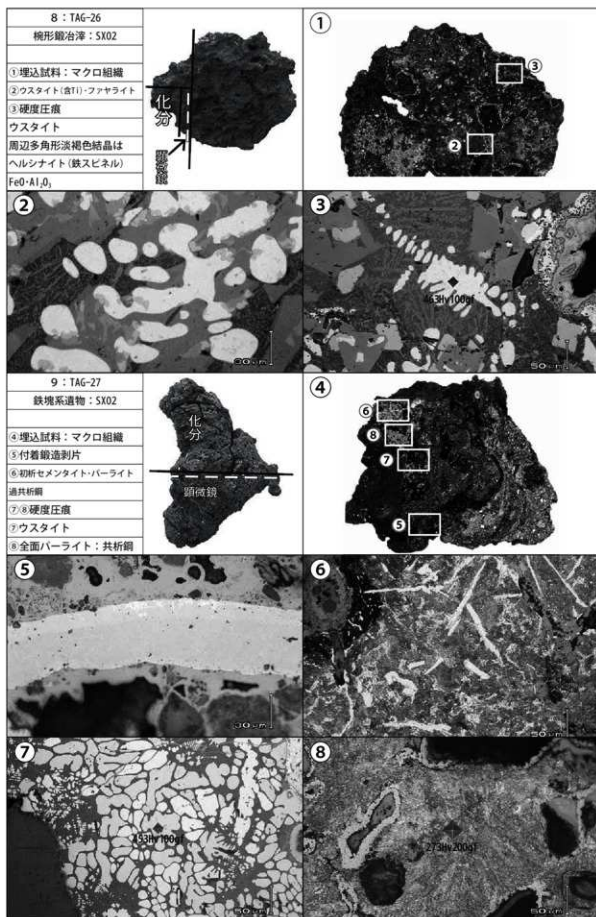


Photo. 6

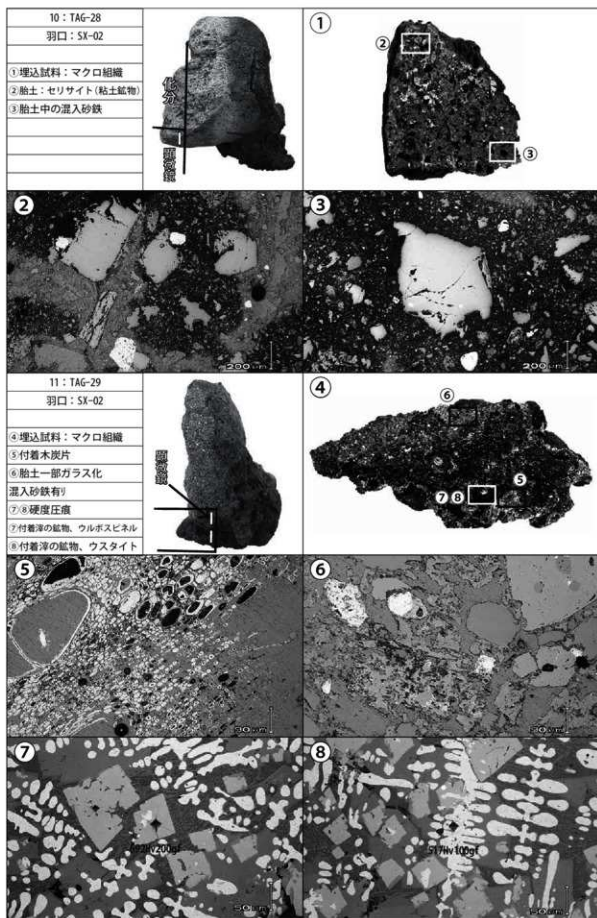


Photo. 7

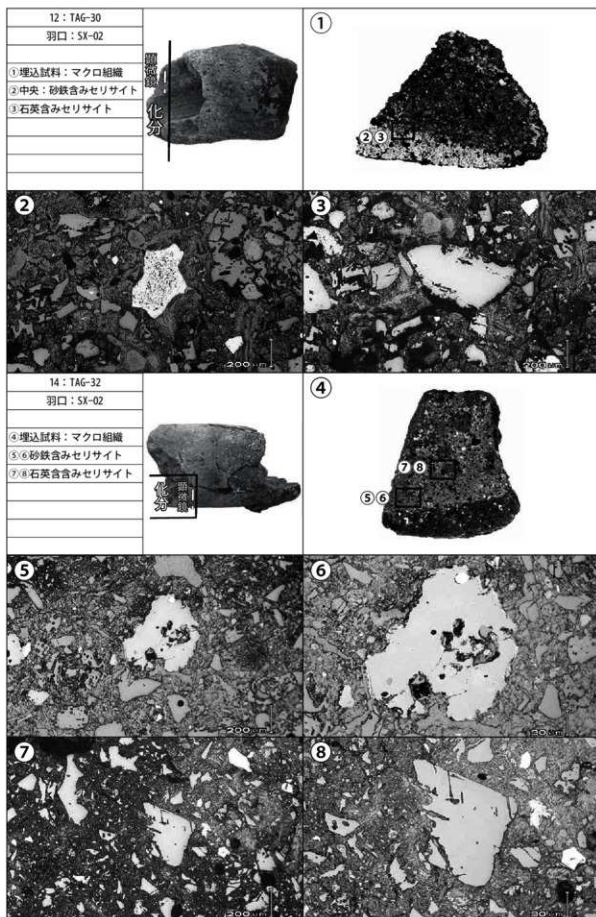


Photo. 8



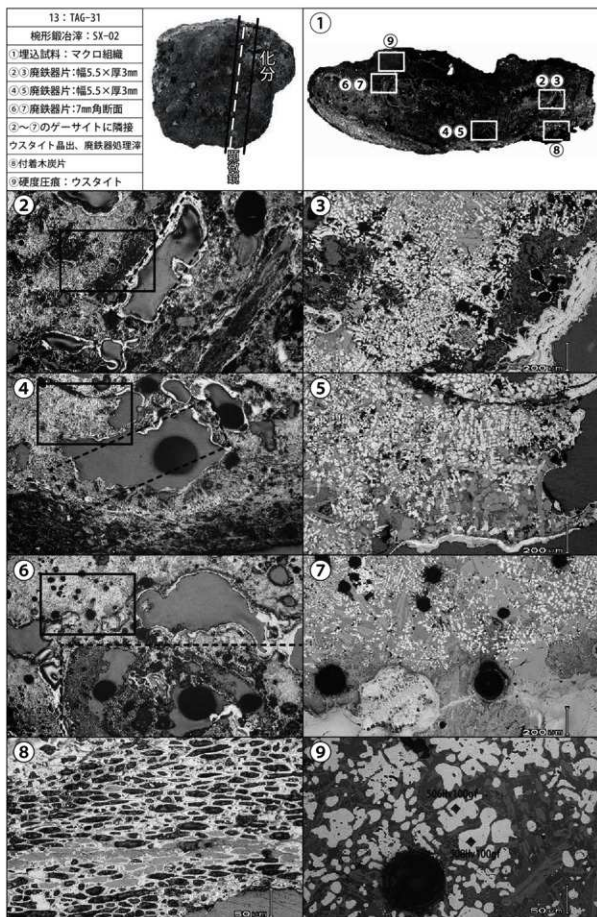


Photo. 9

## 第6節 自然科学分析の成果とまとめ

### 1. 地層とテフラ

Ⅶ・Ⅷ区から検出した地層の観察を行い、テフラを同定・対比して遺跡に分布する堆積物の年代を決定した。分析は株式会社火山灰考古学研究所に委託して実施した。

Ⅶ区からⅧ区の遺構検出面下の堆積物について、地層の観察を行い下位より榛名二ツ岳沖川テフラ(Hr-FA)、Hr-FAが火山泥流堆積物、榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP(1-36))、Hr-FP泥流堆積物を検出した。これらの堆積物は、遺構群が立地する自然堤防からなる微高地を刻む小さな谷を埋める堆積物で、火山泥流は遺跡の北側に位置する利根川田五流路の谷を埋めた泥流堆積物の本体よりもたらされた縁辺部の流下堆積物である。

また、Ⅷ区では遺構検出面の上位に見られる堆積物から下位より浅間Bテフラ(As-B)、浅間新川テフラ(As-Kk)、浅間Aテフラ(As-A)が検出された。これによって田口下田尻遺跡の調査区外で検出された浅間Cテフラ(As-C)以降の主要な指標テフラが調査区より検出され、調査区で検出された古墳時代から近世に至る遺構群と遺構検出面が火山灰層序との関わりの中で位置づけることが可能となった。

### 2. 炭化材の樹種同定

X区1号住居から出土した住居構築材と考えられる炭化材の観察を行い、樹種の同定を行った。分析は株式会社パレオ・ラボに委託して実施した。

炭化材が出土した1号住居は平安時代10世紀第4半期に帰属する竪穴住居で、長辺は5.28m、短辺は4.85m、深さは0.44m、面積は18.75㎡であり、調査区で検出された住居の中では比較的大きなものに相当する。埋土は二ツ岳の白色軽石を含む黄褐～暗褐色土が竪穴の中央に向かって緩く傾きながら成層し、床面付近が炭化物を多く含む暗褐色土からなる。炭化物は床上0.03～0.05mに暗褐色土を挟んで層厚0.02～0.05mが覆っており、一定の方向性を有して分布していることから垂木や部材などが炭化したものと考えられた。

分析結果は針葉樹のスギ、広葉樹のヤナギ属、クリ、モモ、キハダ、イネ科の草本が確認された。竪穴住居を構成する

部材との関係では、桁はキハダ、梁はヤナギ属、垂木はスギとヤナギ属、モモが使用されており多種類の木材を使用して竪穴住居の構築材を形成したことが明らかとなった。

### 3. 遺跡から出土した獣骨

Ⅶ区1号墓坑から出土したウマの動物遺存体は、調査現場での所見では、埋葬の方が頭部を北にしていることから、まるで「北頭西頭」を意識しているようでもあり、また、前後の脚先が重なっていたことから、この部分が轉られて搬送されたものと推察された。また、体格が現存する木曾馬等の在来馬より小さく感じられたため、幼齡馬の埋葬と考えられ、幼くして死去したために手厚く葬られたものと推測した。

しかし鑑定の結果は、トカラ馬相当の小型在来馬で2歳前後の老齡の雌馬、消化不良を引き起こすであろう程の臼歯列咬合面の異常咬耗を含む著しい歯列の摩耗、死因は天授を全うしたであろう老衰、との見解が示された。

遺構の年代は、中世～近世初頭と判断される。この時期にあつて馬は、神社奉納の神馬などの特別な例を除き、農耕の使役や合戦の騎馬などの有益な労働源であつたことが推察される。では、逆に戦乱が続く乱世にあつて、使役に耐えられなくなった老齡馬の扱いは如何様のものであつたろうか。本例が物語るものは、中世の馬の在り方を考える上で、極めて重要な事例となるものと考えられる。

### 4. 遺跡から出土した鉄関連遺物他の金属学的調査

Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ区の鍛冶遺構及びⅦ区18号住居から出土した鉄関連遺物の観察を行い、金属学的な分析・調査を実施した。分析は日鉄冶金テクノロジー株式会社(報告者は大澤正巳)に委託して実施した。

Ⅸ区の1号鍛冶(製鉄炉)で行われた製鉄は、火山岩起源の中子タン砂鉄を原料とした小型自立炉での操業である。生成した鉄塊は除滓や成分調整を目的とした精錬鍛冶を施している。

Ⅶ区1号鍛冶の鍛冶素材は製鉄から得られた半製品と共に、廃鉄器を再利用した故鉄の処理調査が確認できた。

Ⅶ区の18号住居と1号鍛冶では鍛冶素材の炭素含有量は、垂共析鋼から共析・過共析鋼までが存在し、硬鉄・軟鉄の組合せ素材からの高靱性を保つ鍛削・刃物の製作が推測され、この時代における集落の鉄生産を考えるうえで興味深い。

## 第6章 調査成果のまとめ

### 第1節 古代集落の変遷

#### 1. 古墳時代～平安時代

今回の発掘調査で検出された建物は、竪穴住居が304棟、竪穴が15棟、掘立柱建物は6棟の合計325棟に及んでいる。遺構から出土した遺物や遺構の重複関係から明らかになった新旧関係から構築年代(100年間)ごとの竪穴住居の推定分布を第761～766図に示す。

本遺跡に集落が形成されるのは古墳時代前期の4世紀代である。すでに調査が行われた田口上田尻遺跡と田口下田尻遺跡Ⅰ～Ⅳ区では古墳時代3世紀後半から5世紀後半の集落が存在することが明らかになっており、今回の調査で検出された古墳時代前期に属する竪穴住居5棟はいずれもV区とⅥ区に分布し、調査区の西側に偏在している。これらの住居はすでに発掘された田口上田尻遺跡と田口下田尻遺跡Ⅰ～Ⅳ区の4世紀の集落域の東側縁辺の一部を構成するものと考えられ、あわせて両遺跡からは4世紀代の竪穴住居が57棟検出されたことになる。

今回の調査では5～6世紀の遺構が検出されていないことから、田口上田尻遺跡から田口下田尻遺跡にまたがる両遺跡の集落は、古墳時代前期の3世紀後半に集落の形成が始まり、4世紀をピークにして5世紀後半には集落が途絶え、その後7世紀から再び集落が形成されることが明らかとなった。

この間の集落空白期に関して、直接の要因を求めることは周辺地域の遺跡との遺構数の動向を調べる必要があるが察的には以下の事柄が想定できる。

5世紀代の前橋台地周辺の利根川流域では各地で大規模な氾濫が起き、田口下田尻遺跡の周辺遺跡である川端根岸遺跡などで洪水堆積物が低地や水路を覆っている。また、5世紀第4四半期頃から榛名火山の活動が開始され、有馬・渋川・伊香保噴火による火山災害が周辺各地に及んでいる。これらの火山活動によって生じた火山泥流堆積物は当時の利根川流路に達して、自然堤防を乗り越えた一部の堆積物は旧利根川流路である広瀬川低地帯にも及んだと考えられる。

これらの河川災害によって広瀬川低地を開発した水田の大部分が被災し、集落の生産基盤となっていた地域が壊滅したことで集落の存続に長時間の空白期間を与えたことが想像される。

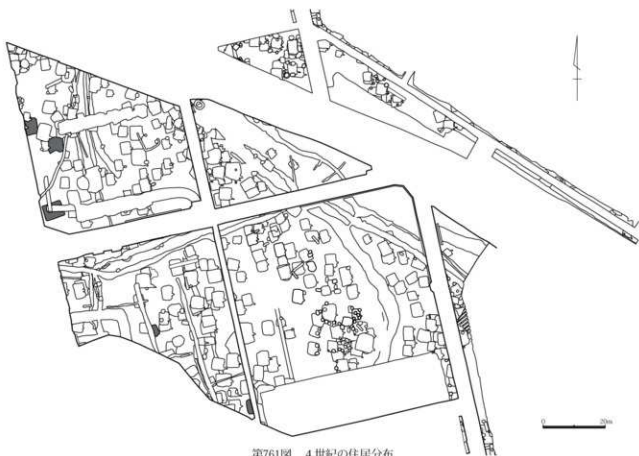
古墳時代後半の集落空白期を経て、再び遺跡に集落が形成されるのは飛鳥時代に入ってからである。7世紀後半に3棟、奈良時代8世紀の前半が5棟、後半が9棟と7～8世紀にかけて住居は微増の傾向にある。特に7世紀代の住居は規模の大きなものが認められ、大家族による積極的な再開発の姿が見てとれる。

8世紀の集落は調査区のV区を中心に調査区の中央から北西に偏在して存在し、竪穴住居は規模の小さなものが多く、まとめて住居が分布するといった特徴がある。9世紀になると前半が17棟、後半が50棟に急増し、竪穴住居の分布も調査区全体に満遍なく広がりをもつ。9世紀から規模の大きな竪穴住居が調査区に点在するようになり、小～中規模の住居とともに大きさが混在しながら調査区全体に広がりをもつ。

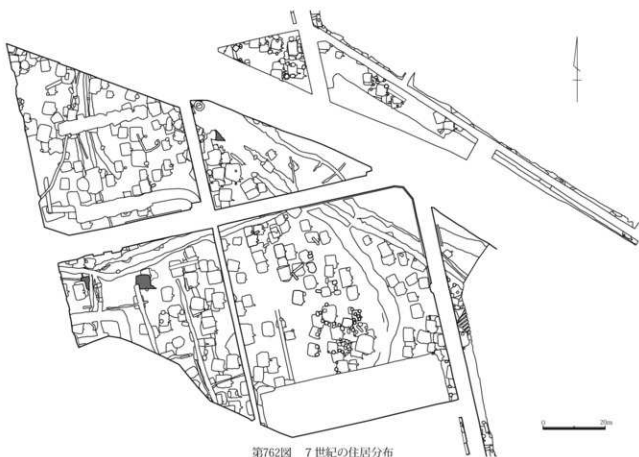
10世紀代は集落内の竪穴住居の増加が著しく、住居数のピークとなっている。特にⅨ区からⅦ区にかけての溝周辺には微高地に所狭しと、住居が並んで分布する。10世紀前半は87棟、後半が88棟となっている。10世紀のそれは9世紀前半の住居数に対して5倍以上の住居数であり、規模の大きな竪穴住居が重複して、一定の場所を確保しながら林立する様相を呈する。

10世紀の住居急増期から一転して11世紀は竪穴住居が急激に数を減らしている。11世紀前半が12棟、後半は1棟のみとなり竪穴住居に限っては7世紀の住居数と同じ規模まで数を減らしている。11世紀に残された住居はⅥ・Ⅶ区を中心に分散して存在し、比較的規模の大きなものが認められるといった特徴を有する。

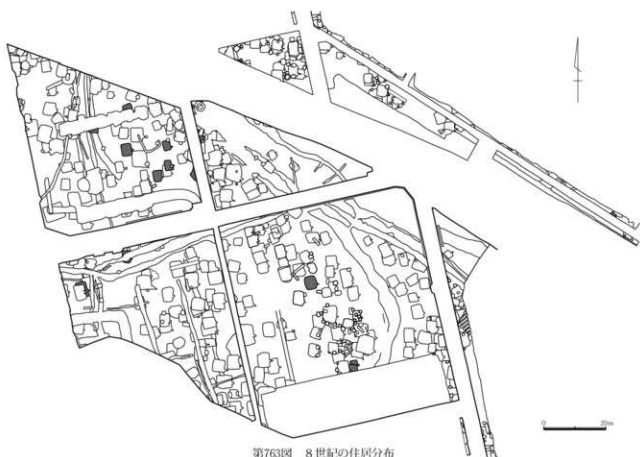
田口下田尻遺跡の集落内には鍛冶遺構の存在が認められ、Ⅵ区1号鍛冶は27号住居の廃屋を利用した鍛冶工房で10世紀代と想定される。Ⅶ区の1号鍛冶は10世紀後半の鍛冶工房と考えられる。Ⅸ区の1号鍛冶は小型自立炉の製鉄炉であった可能性が高く、9世紀中頃と考えられ



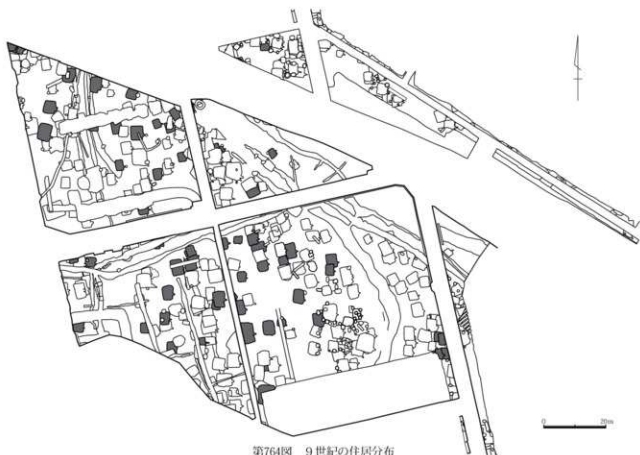
第761図 4世紀の住居分布



第762図 7世紀の住居分布



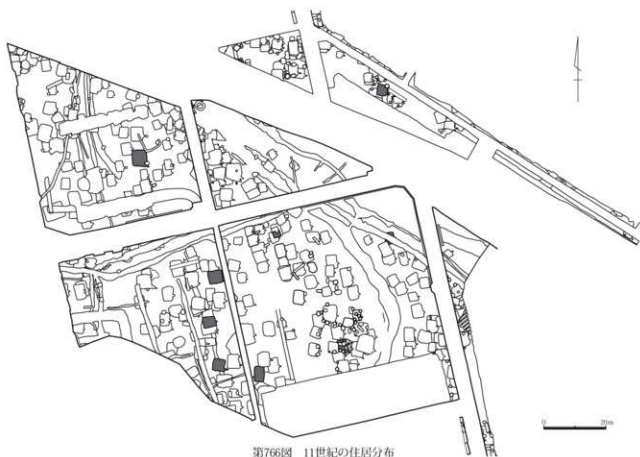
第763図 8世紀の住居分布



第764図 9世紀の住居分布



第765図 10世紀の住居分布



第766図 11世紀の住居分布

る。このように調査区の竪穴住居急増期に調査区内では3地点の鍛冶関連遺構が認められることから、集落内で人口増を伴って行われた生業の一部は製鉄から鍛冶工房といった鉄生産にかかわる産業が行われた可能性が高いものと考えられる。

## 2. 田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡の飛鳥時代以降の集落変遷

2012年に刊行された田口上田尻遺跡、田口下田尻遺跡Ⅰ～Ⅳ区は、調査区の西側に位置する。今回の発掘調査によって旧利根川流路の右岸に位置する微高地上に形成された古代集落は、東西にわたって二度の調査が行われ、集落のおおよその全貌を捉えたことになる。両遺跡から検出された竪穴住居は619棟に及んでいる。両遺跡の飛鳥時代から平安時代にわたる半世紀(50年間)ごとの竪穴住居の推定分布を図に示す。

古墳時代後半の集落空白期から、再び遺跡に集落が形成されるのは飛鳥時代に入ってからである。7世紀前半に17棟、後半に32棟の竪穴住居が構築された(第767・768図)。7世紀の集落分布は前半から後半にかけて集落域が西から東へ拡大し、後半では遺跡西部に規模の大きな住居を中核として複数のまとまりからなる住居の分布が認められる。

奈良時代8世紀は前半が15棟、後半が21棟と7世紀よりも一旦は減少し、後半は微増の傾向にある(第769・770図)。8世紀の集落は調査区の中心から周辺にかけて拡大し、竪穴住居は規模の小さなものが幾つかのまとまりをもって東西に分散して存在する。

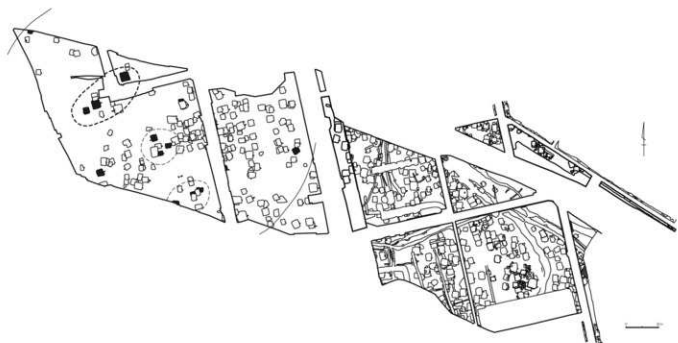
平安時代9世紀になると前半が23棟で8世紀後半から微増であるが、後半は74棟に急増し、竪穴住居の分布も西から東に拡大している(第771・772図)。9世紀は規模の大きな竪穴住居が遺跡の東部にブロックをなして位置しており、7世紀にはじまった西側の集落の形成は、中心部が遺跡の東側に移動する。このような変化は、8世紀の集落減少とともに東西に分散した住居分布を経てなされたものであり、7世紀後半の集落形成と9世紀後半のそれは別々の要因でなされたもので、これには律令制の導入や弘仁地震からの震災復興などといった外的な政治的要因が想定される。

10世紀代は集落内の竪穴住居の増加が著しく、住居数

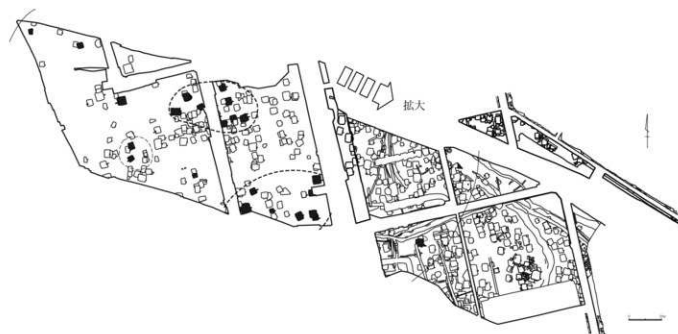
のピークとなっている。これは10世紀前半が127棟、後半が146棟となっている(第773・774図)。10世紀の竪穴住居は9世紀後半の住居数に対して倍近くに増加し、規模の大きな竪穴住居が重複して林立する様相を呈する。前半は遺跡の東部に住居のブロックが溝を隔てて存在するが、後半は遺跡の西側にも同様の住居分布が認められ、10世紀後半に集落域の中心は東から西に拡大して、そのピークを迎えている。これらの住居急増の要因としてはⅡ区で検出された鍛冶遺構(製鉄炉)や排滓場と考えられるⅥ・Ⅶ区の鍛冶遺構の存在が上げられる。10世紀は製鉄とその材料加工を主にした生業の場として集落が拡大したのと考えられる。

11世紀は、10世紀にピークを迎えた集落が規模の大きな竪穴住居を残して急激に数を減らす(第775・776図)。11世紀前半が12棟、後半は4棟のみとなる。11世紀に残存する住居は10世紀に集落の中心を構成した遺跡東側の溝群右岸の微高地に存在し、比較的規模の大きな住居が特徴的に認められる。

田口上田尻遺跡と田口下田尻遺跡の集落は、7世紀の集落形成から11世紀の竪穴住居消失に至るまでの約500年間に遺跡の東西で集落の中心が移動し、集落域が東へ拡大するなどの変遷が明らかとなった。このような集落域の変化は集落内部の人口増加や生業の変化などとともに政治的な外的要因が考えられる。また、田口下田尻遺跡と同様に利根川流路の右岸の微高地に位置する関根赤城遺跡や関根細ヶ沢遺跡でも本遺跡と同様に10世紀代に急激な集落の拡大が認められる。このような集落拡大の要因の一つには本遺跡や関根細ヶ沢遺跡で検出された製鉄関連遺構の存在に求められ、集落周辺域での製鉄業が10世紀の遺跡拡大をもたらした要因の一つである可能性は極めて高いものと思われる。

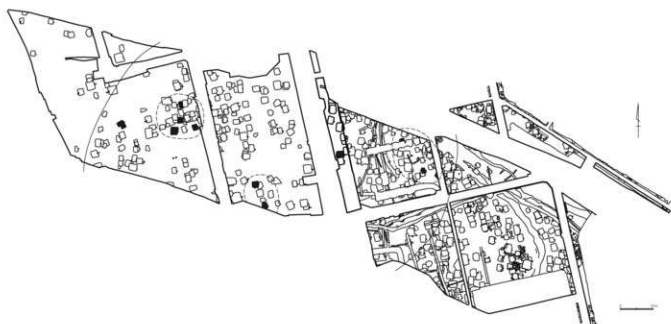


第767図 7世紀前半の住居分布

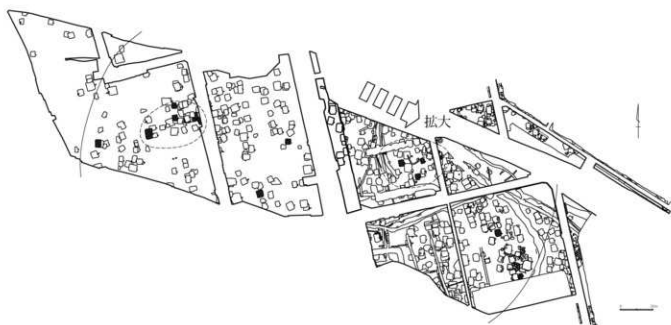


第768図 7世紀後半の住居分布

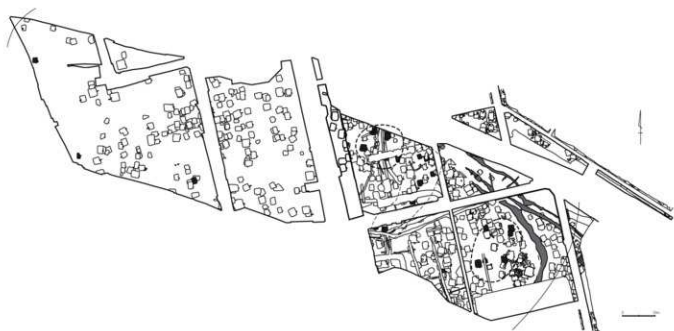




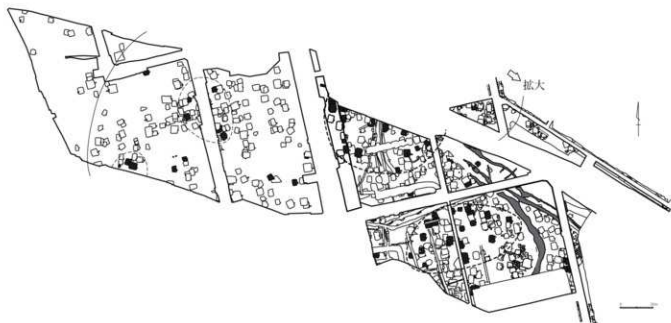
第769図 8世紀前半の住居分布



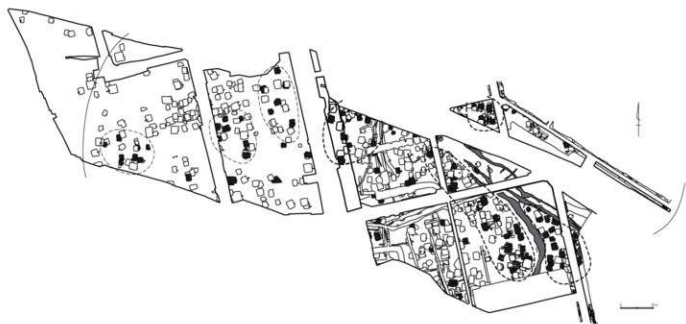
第770図 8世紀後半の住居分布



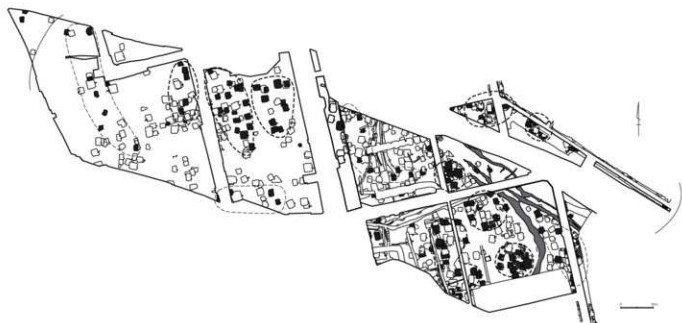
第771図 9世紀前半の住居分布



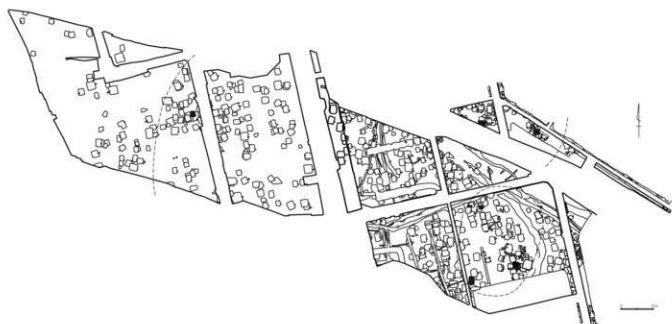
第772図 9世紀後半の住居分布



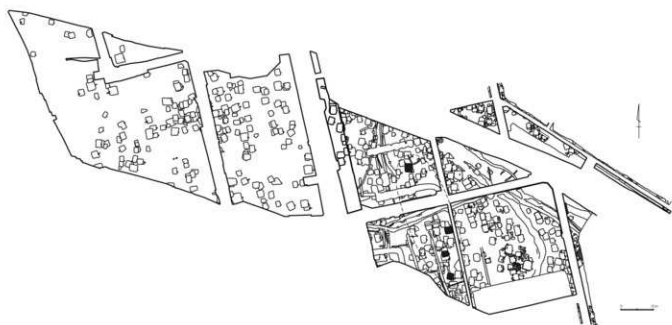
第773図 10世紀前半の住居分布



第774図 10世紀後半の住居分布



第775図 11世紀前半の住居分布



第776図 11世紀後半の住居分布

## 第2節 田口下田尻遺跡出土の施釉陶器について

### 1. はじめに

前橋市田口下田尻遺跡は、赤城山南西麓に位置する集落遺跡である。遺跡地は2005年～2009年にかけて発掘調査が実施された田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡<sup>1)</sup>の東側に隣接しており、同一の遺跡である。発掘調査は対象面積15,630.4㎡に及び、東側の発掘調査と併せると31,115㎡になる。田口下田尻遺跡では竪穴住居304棟、掘立柱建物6棟、竪穴溝3基、土坑611基、溝59条など多くの遺構が検出され、これに伴う遺物が出土している。

検出した遺構は古墳時代前期から中期、飛鳥・奈良・平安時代から中近世に比定され、竪穴住居の多くは飛鳥・奈良・平安時代に比定される。飛鳥・奈良・平安時代に比定される竪穴住居の多くはさらに9世紀後半～10世紀代に位置づけられ、以前に発掘調査が行われ「田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡」(以後、「田口上田尻・下田尻遺跡」と称する)として報告された調査範囲と同様な変遷を見ることができる。田口上田尻・下田尻遺跡では多くの施釉陶器、特に緑釉陶器は113点と群馬県内の出土例としては5番目の数量があり、注目を集めている。今回、報告する「田口下田尻遺跡」でも多くの緑釉陶器・灰釉陶器の出土を見ることができた。

こうした状況から施釉陶器については第4章で図示していない未掲載の施釉陶器についても観察し、周辺遺跡などとの比較検討を行うこととした。なお、緑釉陶器については田口上田尻・下田尻遺跡と併せて検討を行う必要があるとみられるので、再度この項で未掲載のものについても図示と観察を行うことにした。数量については同一個体とみられるものでも接合しないものはそれぞれを1点として点数に数えている。

### 2. 出土した施釉陶器について

出土した施釉陶器は図示できなかった未掲載のものも含めて2159点である。内訳は灰釉陶器が2077点、緑釉陶器が82点である。そのうち、図示したものは灰釉陶器218点、緑釉陶器は本文中に20点が掲載してある。なお、

前記のように本項を執筆するにあたり残りの62点についても図示するとともに本文中に掲載したものについても集成のため第777図に再掲載してある。

灰釉陶器の器種は椀、深椀、輪花椀、皿、段皿、折縁皿、耳皿、小瓶、長頸壺、広口壺、平瓶がある。また、小破片のため器種の判断ができなかった器種不明も多く存在するが、これらも上記の器種に該当するとみられ、特殊な器種が存在する可能性は低い。大まかな比率では椀・皿などの供膳具が9割、小瓶や長頸壺などの貯蔵具が1割である。貯蔵具は全体的に小型の製品が多くみられたが、その中においてⅧ区8号住居から出土した長頸壺は底部から胴部下位の破片ではあるが底径15cm前後を測るやや大型品である。

椀・皿などの供膳具では圧倒的に一般的にみることができ椀・皿が多く、この他では小椀、輪花椀、段皿、折縁皿、耳皿が存在していた。これらの器種は実測個体では1～5点とわずかな点数しかなく、未掲載のものの中でもほとんどみることができなかった。

緑釉陶器は82点が出土しているが、残存状態はⅥ区25号住居から出土している第209図5・6の段皿が一部欠損状態の他は4分の1以下の残存率か小破片である。その中でも第778・779図の追加掲載分として掲載したものは体部などの小破片が多い。

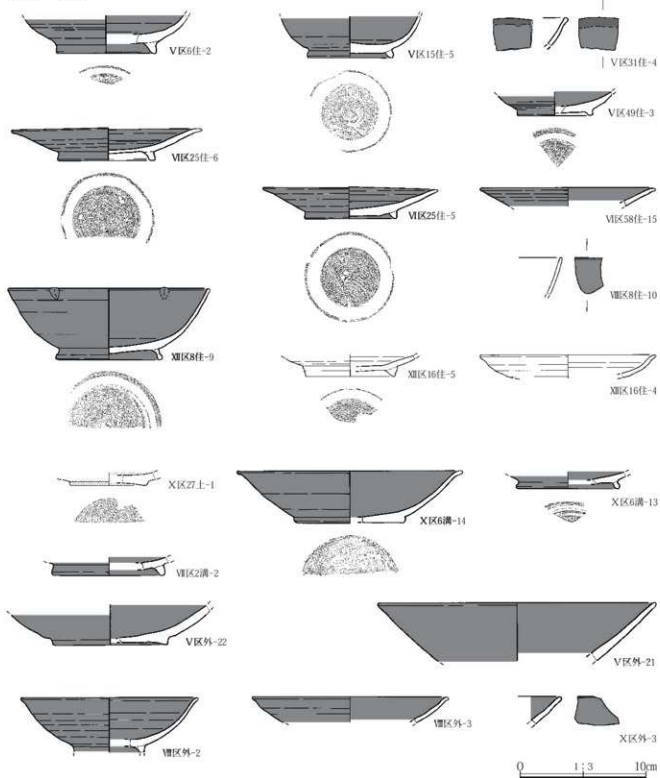
緑釉陶器の器種は椀67点、稜椀、輪花椀各1点、皿9点、段皿3点、器種が明確でないものが1点で、長頸壺や小瓶などの瓶類などはみられない。

施釉陶器を出土している遺構は竪穴住居、竪穴、土坑、溝など多く見られるが、その大部分は未掲載のものを含めても10点前後で一遺構からの出土した量はあまり多くない。なお、Ⅹ区6号溝からは未掲載分として第778図に示したように11点の緑釉陶器が出土しているが、第637図14の椀と同様な胎土が観察できることから11点のうち点数は同一個体とみられる。

### 3. 施釉陶器の生産地・時期

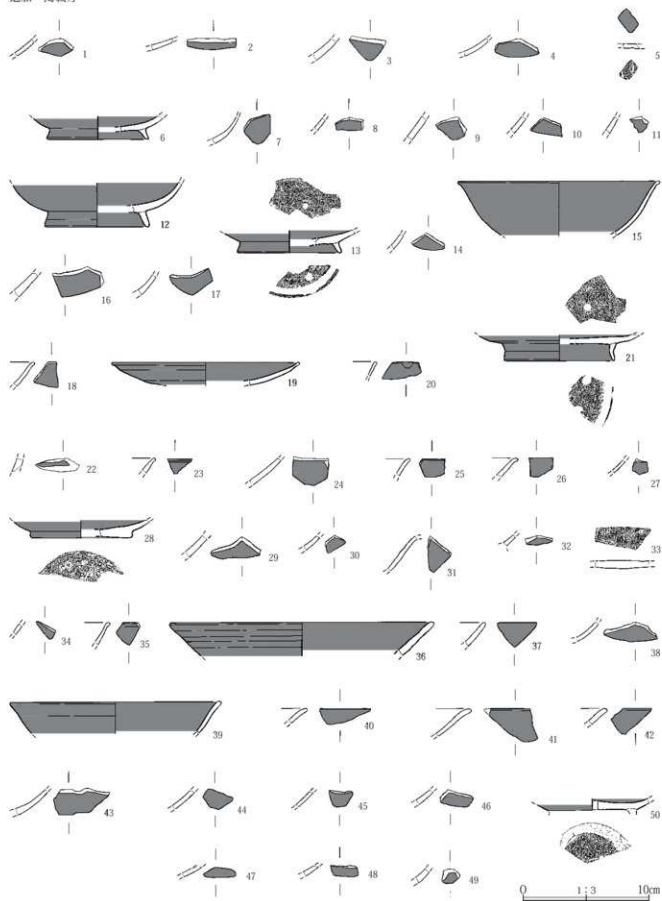
今回、灰釉陶器で掲載できなかったものについては数量が多いため全点の詳細な観察を行うことができなかったが、概観すると前記のように椀・皿類が大部分を占めている。また、口縁部や底部など時期の判断が可能な部位を見ると口縁部の外反が弱く、高台が明確な稜をもた

第4章 掲載分

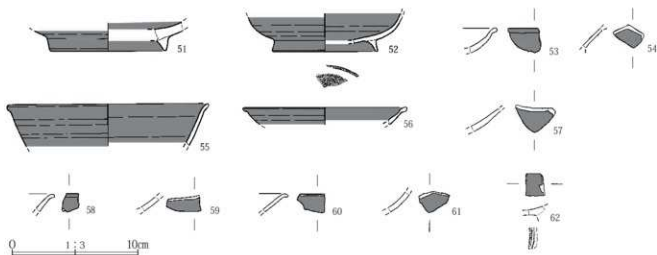


第777図 田口下田尻遺跡出土緑軸陶器集成(1)

追加 掲載分



第778図 田口下田尻遺跡出土緑釉陶器集成(2)



第779図 田口下田尻遺跡出土緑釉陶器集成(3)

ない三日月形を呈するものが多くみられ、胎土・色調も緻密で灰白色のものが多いことから東濃地方で生産された大原2号窯式期の製品が大部分を占めるとみられる。この概観した様相については図示した灰釉陶器からも裏付けることができる。灰釉陶器の生産地では猿投山西南麓古窯跡群とみられる製品はV区6号住居から出土した小型長頸壺(第76図3)、VI区54号住居から出土した平瓶(第256図5)、VI区29号住居から出土した皿(第216図7)、V区42号住居から出土した椀(第127図2)、X区13号住居から出土した椀(第534図10)など5点に対して残りは東濃地方の製品である。

生産の時期は猿投山西南麓古窯跡群<sup>12</sup>の製品が原始灰釉と呼称される折戸10号窯式期から本格的な灰釉陶器としての黒笹14号窯式期、黒笹90号窯式期である。東濃地方の製品は光ヶ丘1号窯式期～丸石2号窯式期まで出土しているが、時期の判断ができない32点を除くと光ヶ丘1号窯式期が30点、大原2号窯式期が117点、虎溪山1号窯式期が32点、丸石2号窯式期が2点である。未掲載のものについても概観すると同様な状態である。また、この結果は当然なことではあるが竪穴住居の棟数推移に近い状態である。

緑釉陶器は82点が出土しているが、この点数は接合関係がみられない個体をすべて1点として数えているためで前記のようにX区6号溝から出土した小破片の中には第637図14と胎土等が同様とみられるものが存在しており、実際の個体数は若干少ないとみられる。なお、82点のうち、平安京近郊産とみられる製品は21点で残り61点

は近江を含む東海地方産とみられる。

平安京近郊産<sup>13</sup>の製品では9世紀前半から10世紀前半までの段階のものが確認されている。その中でも9世紀前半代は16点と多く、次いで9世紀末から10世紀前半代が3点、9世紀後半代は2点である。なお、9世紀後半代の2点はともにV区の低地から出土した椀(遺構外扱い第742図21・22)の2個体である。この2個体は胎土も近似していることから同一個体の可能性も窺える。なお、第742図22は高台が円盤状に近い形態であるが、中央部が大きく窪むことから9世紀前半ではなく9世紀後半の製品と判断した。

東海地方産は胎土等から判断したがほとんどが小破片のため時期などの判断が難しく時期不明としたものが35点存在した。時期の比定が可能なものでは9世紀後半代が7点、10世紀前半代が15点、10世紀後半代が3点、10世紀代とみられるが、詳細な判断がつかないものが1点である。なお、高台が残存しているものでは高台端部の内側に段を有する個体は確認されなかったことから近江産または三河二川産は存在していないとみられる。

#### 4. 特出される灰釉陶器

灰釉陶器の多くは検出された竪穴住居の存続時期による棟数と同様に10世紀前半代の大原2号窯式期に比定されるものが圧倒的に多くみられた。その中において、V区6号住居から出土した小型長頸壺(第76図3)とVI区54号住居から出土した平瓶(第256図5)は8世紀後半代、猿投山西南麓古窯跡群の須恵器・灰釉陶器の編年<sup>14</sup>に



おける折戸10号竪式期に比定される原始灰軸と呼称される製品である。なお、原始灰軸を出土したV区6号竪穴住居は9世紀代、M区54号竪穴住居は9世紀第3四半期に比定される住居である。

この原始灰軸と呼称される製品は県内に搬入された量は少なく、今までの出土量もわずかである。ちなみに田口上田尻・下田尻遺跡からの出土は確認されていない。

原始灰軸については筆者らによって前橋市中之沢室沢遺跡<sup>15</sup>から出土したのものについての検討を行う中で記載してあるように中之沢室沢遺跡から出土した小型長頸壺や浄瓶、短頸壺蓋の他に、県内からの出土例は高崎市矢田遺跡から小型長頸壺、前橋市時沢組屋戸遺跡から短頸壺蓋、伊勢崎市十三宝塚遺跡から浄瓶や水瓶などわずかな出土例しか見られない。

田口下田尻遺跡から出土した原始灰軸はV区6号住居が床面から21cm、M区54号竪穴住居が埋没中からの出土で混入の可能性もあるが、中之沢室沢遺跡や矢田遺跡の例をみると伝世された可能性も窺える。この原始灰軸陶器の用途については平城京でも浄瓶や水瓶、長頸壺とともにミニチュアの横瓶や長頸壺が興福寺一乗院宸殿下層下土坑からまもって出土しており、原始灰軸陶器自体が仏具として発注されたことが知られている。県内でも十三宝塚遺跡<sup>16</sup>から出土したものは遺跡の性格や浄瓶や水瓶などの器種から仏具として用いられているものと考えられる。また、中之沢室沢遺跡では竪穴住居からの出土であるが伝世品であることや遺跡内から浄瓶や仏鉢の出土がみられることなどから僧侶の居住を指摘し、原始灰軸も仏具として使用されていたことを指摘した。田口下田尻遺跡の場合、出土位置から住居に伴うとは断定できないが、集落内に堂宇などの施設や僧侶の存在が窺える資料と言えるのではないだろうか。

## 5. 緑釉陶器について

緑釉陶器については前記のように残存率が悪く、ほとんど小破片の状態で出土している。この状態は田口上田尻・下田尻遺跡においても同様な状態であった。また、器種も田口上田尻・下田尻遺跡と同様に椀や皿など供膳具だけで多くの面で田口上田尻・下田尻遺跡の調査成果と同様である。

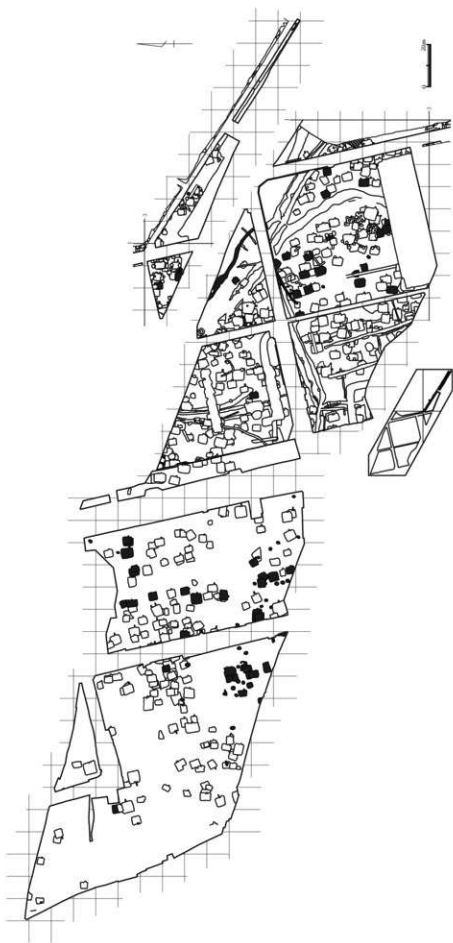
田口上田尻・下田尻遺跡の出土状況を見ると多くは竪

穴住居から出土しているが、その出土量は多くても5～6点で、ほとんどは1～3点である。また、その分布は第780図のように田口上田尻・下田尻遺跡では遺跡の南側に集中して出土し、さらに南側では遺構に伴わないものも多くみることができた。田口下田尻遺跡でも竪穴住居からの出土は1～2点と同様である。出土状況はVII区の竪穴住居から多く出土しており、遺構外からはまもった出土をみることはできなかった。このことは田口上田尻・下田尻遺跡の集落を営んでいた富豪層が入手した緑釉陶器を再分配した結果と考えられるが、田口上田尻・下田尻遺跡の南側からは遺構に伴わない緑釉陶器が多く出土していることから調査対象外の南に富豪層の居宅などが存在していた可能性も窺える。

田口上田尻・下田尻遺跡と田口下田尻遺跡では出土した緑釉陶器について多くの共通点がみられるが、生産地では田口上田尻・下田尻遺跡から平安京近郊産がみられなかったのに対して、田口下田尻遺跡の中では22点の平安京近郊産の緑釉陶器が出土している点が異なっていた。

田口下田尻遺跡から出土した平安京近郊産の緑釉陶器は9世紀前半代から10世紀前半代にかけての製品である。出土した緑釉陶器の中には体部の小破片もあるが、X区6号溝から出土した椀(第637図14)のように確実に平安京近郊産の9世紀前半代の製品に比定できるものと胎土や釉薬の色調が同一であることから判断したものも存在する。このような胎土等から判断したものを含め、9世紀前半代が16点、9世紀後半が2点、9世紀末から10世紀前半が3点であった。この平安京近郊産が集落に搬入された経緯としては税物を平安京に輸送した帰路に平安京の市で入手したか、国司などから賜ったものかわからない。また、竪穴住居への分配された要因については読み取ることはできないが、田口下田尻遺跡だけから出土していることは何らかの背景があったと考えられる。なお、X区6号溝からの出土は緑釉陶器の性格を考えると単なる廃棄だけでなく祭祀などに使用された可能性も想定される。

また、10世紀前半代のものの中には緑釉陶器素地がみられた。この製品は器形が在地の須恵器と異なることと器面に丁寧にへら磨きが施され、高台と底部の間の断面観察で接合した形跡が観察できないことから、高台が削



第780図 田口上田尻・下田尻遺跡緑釉陶器出土位置図

第15表 漆輪陶器出土についての比較

遺跡名	所在地	性 格	時 代	調査面積 ㎡	緑釉陶器		灰釉陶器	
					出土点数	100㎡あたりの 出土点数	出土点数	100㎡あたりの 出土点数
田口下田尻遺跡遺跡	前橋市田口町	集落	古墳時代、飛鳥～平安時代	15,630	82	0.5	2,077	13.3
田口上田尻・下田尻遺跡	前橋市田口町	集落	古墳時代、飛鳥～平安時代	15,485	113	0.73	1,211	7.8
上記2調査の合計				31,115	195	0.63	3,288	10.6
関根畑ケ沢遺跡	前橋市関根町	集落	平安時代	9,303	20	0.215	109	1.2
日輪寺観音前遺跡	前橋市日輪寺町	集落	平安時代	9,207	7	0.076	568	6.2
元総社寺田遺跡	前橋市元総社町	国府城の祭祀	古墳時代～平安時代	4,550	11	0.24	547	12.0
天神遺跡(Ⅱ・Ⅲを含む)	前橋市元総社町	国府城の祭祀集落	古墳時代～平安時代	2,722	178	6.54	1,965	72.2
稲荷塚道東遺跡	前橋市総社町	国府岡縁の集落	平安時代	6,500	0	0	223	3.4
山王庵寺	前橋市総社町	寺院	飛鳥時代創建	1,431	36	2.5		
下東西清水上遺跡	前橋市青梨子町	集落・富豪層の居宅	飛鳥～平安時代	8,225	51	0.6	1,162	14.1
清里陣馬遺跡	吉岡町陣馬	空閑地開発の拠点集落	平安時代	4,130	168	4.1	1,234	29.9
十日市遺跡	吉岡町南下	空閑地開発の集落	平安時代	13,170	0	0	36	0.003
三ツ寺大下IV遺跡	高崎市三ツ寺	拠点集落	平安時代	3,700	116	3.1	82	2.2
下芝五反田遺跡	高崎市下芝町	空閑地開発の集落	平安時代	9,050	24	0.27	5,436	60.1
関遺跡・上西相遺跡	伊勢崎市本間町池	集落	古墳時代～平安時代	5,669	0	0	16	0.003
波志江中野面遺跡	伊勢崎市波子江未	空閑地開発の集落	平安時代	20,954	4	0.0002	24	0.001
波志江西屋敷遺跡	伊勢崎市波子江未	空閑地開発の集落	平安時代	18,215	0	0	25	0.001
福島曲戸遺跡	玉村町福島	集落、富豪層の居宅	平安時代	11,399	117	1.03	2,011	17.6
下原遺跡	長野原町林	山間地開発の集落・交通路の祭祀	平安時代	15,495	0	0	144	0.9
楡木川遺跡	長野原町林	山間地開発の集落	平安時代	13,000	0	0	183	1.4

斜数字は報告書に掲載されている個体のみ、未掲載分をささない。

り出しによる緑釉陶器素地と判断され、高台の形状が輪高台であることなどから時期の判断材料にしている。

緑釉陶器素地については2016年8月1日に当事業団ホームページに掲載したように県内での公表事例としては初出とみられるが、関東地方では相模国府城から出土<sup>17</sup>が知られているだけで、他の出土例はみられないようである。また、生産地でも窯跡や灰原などからの出土は知られているが、消費遺跡から出土例はほとんど知られていない。そうした中で平安京近郊では京都府乙訓地域の消費遺跡からまとまった出土例が知られている他、京都府長岡京内の一部や京都府一乗寺向畑遺跡から出土していることが知られている。

この様相について高橋照彦氏は緑釉陶器が平安京内で集中的に消費されたのに対して乙訓地域では緑釉陶器より質の劣る緑釉陶器素地がまとまって消費された図式が捉えられるとしている<sup>18</sup>。しかし、地方ではまとまって緑釉陶器素地が出土することは少なく、緑釉陶器素地自体も極まれな出土例であることから、田口下田尻遺跡に緑釉陶器素地が搬入された経緯としては平安京の市に流通していた緑釉陶器を購入した中に紛れていたか、または珍しさなどで入手した可能性が想定される。

## 6. 他の遺跡との比較

今回の田口下田尻遺跡と田口上田尻・下田尻遺跡からは前記のように多くの施釉陶器が出土している。この数量は第15表に示したように周辺遺跡だけでなく県内の発掘調査の事例でも突出した数量を示している。特に緑釉陶器は195点と前橋市天神遺跡の178点を超過して県内では最も多い数量を出土している。

しかし、他遺跡との比較するにあたっては遺跡によって条件が異なるため単純に比較しても「多い・少ない」の比較にしかならないため高橋照彦氏が提示した100㎡当たりの出土点数による比較を試みた<sup>19</sup>。筆者は今までにいくつかの発掘調査された遺跡で施釉陶器の観察及び分析を実施している。こうした遺跡と施釉陶器を多く出土している遺跡を取り上げて作成したものが第15表である。

この表から、灰釉陶器の比率は上野国府城の元総社寺田遺跡、下東西・清水上遺跡、日輪寺観音前遺跡に近い値である。緑釉陶器は数量的に近い天神遺跡や清里陣馬

遺跡、三ツ寺大下IV遺跡とは比率の値でやや差がみられるが、福島曲戸遺跡や下東西・清水上遺跡とは近い値が示された。また、緑釉陶器では埼玉県中堀遺跡から328点、北島遺跡から434点と大量に出土している。中堀遺跡は多くの掘立柱建物が出され勅旨田・親王賜田の管理施設とされている。北島遺跡は溝で区画された内部に四面庇をもつ大型の掘立柱建物をはじめ区画溝外ではあるが同時期に三面庇をもつ大型の掘立柱建物が出され富豪層の居宅とされている。両遺跡とも100㎡当たりの値は中堀遺跡が1.2点、北島遺跡が4.34点を示しており、田口上田尻・下田尻遺跡の値0.63点が出土量としては決して少ない値ではないことがわかる。

こうした施釉陶器を多く出土し、100㎡当たりの比率も高い遺跡については国府城では国司館<sup>20</sup>が想定されることや中堀遺跡のような公的施設、北島遺跡、清里陣馬遺跡、三ツ寺大下IV遺跡、福島曲戸遺跡、日輪寺観音前遺跡のように富豪層の居宅が存在したとみられる遺跡である。

## 7. まとめ

今回、田口下田尻遺跡から出土した施釉陶器について検討した結果、施釉陶器は一般的な集落より数量、比率の面でかなり多いことが示された。こうした背景には日輪寺観音前遺跡のような富豪層の居宅とみられる区画溝や掘立柱建物群などの遺構の存在は確認されないが、近隣に富豪層が存在した可能性が高い。また、緑釉陶器をみると遺構外から小破片が多く出土している。これは産地から輸送してきた緑釉陶器が途中で破損したため破棄した可能性がある。このことは当時運送を担っていた「鞍馬党」の存在が窺え、田口上田尻・下田尻遺跡が鞍馬党の拠点集落であった可能性がある。

この地域では日輪寺観音前遺跡、関根堀ケ沢遺跡の成果から、集落は9世紀後半から拡大していることがわかっていく。この集落の拡大は当時の社会情勢からみると富豪層による空地開発が行われる中で形成されたと考えられ、施釉陶器は富豪層によって「非日常の供膳具<sup>21</sup>」として導入されたものが堅牢住居の庶民に再分配された結果と想定される。

## 注

- 注1 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2012「田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡」。  
緑輪陶器については編集者の松岡正信氏によって「緑輪陶器と灰輪陶器の素地補修」のなかで総括している。
- 注2 猿投山古窯跡群産の灰輪陶器の編年については城ヶ谷和広「編年論」『愛知県史 別編 古代量投系 第5巻1』を参照した。
- 注3 京都近郊産の緑輪陶器の編年については高橋照彦2003「平安京近郊の緑輪陶器生産」『古代の上器研究会第7回シンポジウム 古代の上器研究平安時代の緑輪陶器一生産地の様相を中心に』古代の上器研究会を参照した。
- 注4 注2と同じ
- 注5 神谷佳明・松岡正信・梅澤克典2016「中ノ沢宮沢遺跡群出土の原始灰輪陶器について」『群馬文化』第327号による。
- 注6 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1992「史跡十三宝塚遺跡による」。
- 注7 相模国府城の平塚市坂戸B遺跡や金目遺跡群などからの出土例が知られている。  
平塚市博物館史編さん担当2001「平塚市内出土の緑輪陶器 平塚市史別編考古 基礎資料集2」他
- 注8 緑輪陶器素地の平安京周辺の出土状況については次の文献を参照した。高橋照彦1999「土器の流通・消費からみた平安京とその周辺」『国立歴史民俗博物館研究報告』第78集国立歴史民俗博物館
- 注9 高橋照彦氏は官衙における施輪陶器を検討する際に種々の差異が存在することから各遺跡の出土比較を同格にするために100㎡当たりの出土量で比較している。高橋照彦2015「都と地方の上器」『第188回古代官衙・集落研究会報告書 官衙・集落と上器1—宮都・官衙と上器—』独立行政法人 奈良文化財研究所
- 注10 前橋市天神遺跡からは掘立柱建物などは検出されていないが、第15表に示した豊富な施輪陶器の他に白磁や青磁、銅鍮や蛇尾等の金属製品が出土している。こうした遺物の出土状況は下野国府における推定国司館に近い。こうしたことから天神遺跡の近接地に国司館が存在していたことが窺える。なお、下野国府の国司館については次の文献を参照した。高橋照彦2001「地方官衙出土の平安時代の緑輪陶器」『月刊考古学ジャーナル』No.475ニューサイエンス社
- 注11 施輪陶器が非日常のものであることは筆者らによって指摘した。前野邦男・神谷佳明・松岡正信1992「群馬における施輪陶器の様相について(1)」『研究紀要』9 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

## 引用・参考文献

- 古代の上器研究会1994「古代の上器研究—律令的土器様式の東・西3施輪陶器—」
- 東海上器研究会2015「第3回東海上器研究会 灰輪陶器生産における地方産の成立と展開」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1981「清里陣馬遺跡」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1996「元総社寺田遺跡Ⅲ」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1998「下東西清水上遺跡」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1999「下芝五反田遺跡—奈良・平安時代以降編—」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2001「波志江中野面遺跡(1)」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2001「波志江西屋敷遺跡」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団「福島曲戸遺跡・上福島遺跡」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2003「稲荷塚東遺跡」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2007「下原遺跡Ⅱ」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008「榎木Ⅱ遺跡(1)」
- 前橋市教育委員会2012「山王庵寺—平成22年度調査報告—」
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2012「田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡」
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2013「新屋敷遺跡・上西根遺跡・間道跡(1)」
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2013「十日市遺跡・住道跡・千代間南遺跡・千代間北遺跡」
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2015「関根堀ヶ沢遺跡」
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2017「日輪寺銀首前遺跡」
- 高崎市教育委員会2001「保徳田徳昌寺遺跡・三ツ寺大下IV遺跡」
- 前橋市教育委員会・前橋市埋蔵文化財発掘調査団1987「天神遺跡」,1989「天神Ⅱ遺跡」
- 前橋市教育委員会2008「天神Ⅲ遺跡」
- 前橋市教育委員会2012「山王庵寺」
- (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団1997「中堀遺跡」
- (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団2002「北島遺跡V」

第16表 遺構の対照

区	調査時の遺構名	変更後の遺構名	備考		
V	21	住居	9	住居	統合
	25	住居		欠番	変更
	50	住居		欠番	変更
	51	住居		欠番	削除
	54	住居	35	住居	統合
	55	住居	34	住居	統合
	57	住居	30	住居	統合
	60	住居	61	住居	統合
	62	住居	70	住居	統合
	75	住居		欠番	削除
	77	住居		欠番	削除
	78	住居		欠番	削除
	13	溝	6	溝	統合
	30	土坑		欠番	変更
	32	土坑		欠番	変更
	38	土坑		欠番	変更
	42	土坑		欠番	変更
	45	土坑		欠番	削除
	53	土坑	52	土坑	統合
	57	土坑		欠番	変更
	90	土坑		欠番	変更
	91	土坑		欠番	変更
	92	土坑		欠番	変更
	93	土坑		欠番	変更
	95	土坑		欠番	変更
	97	土坑		欠番	変更
	105	土坑		欠番	変更
	1	SX	1	集石	変更
	2	SX	2	集石	変更
	3	SX	3	集石	変更
	4	SX	4	集石	変更
	5	高研作痕		欠番	削除
	6	高研作痕		欠番	削除
	7	高研作痕		欠番	削除
	8	高研作痕		欠番	削除
	9	高研作痕		欠番	削除
	10	高研作痕		欠番	削除
	11	高研作痕		欠番	削除
	12	高研作痕		欠番	削除
	13	高研作痕		欠番	削除
	14	高研作痕		欠番	削除
	15	高研作痕		欠番	削除
	16	高研作痕		欠番	削除
17	高研作痕		欠番	削除	
18	高研作痕		欠番	削除	
19	高研作痕		欠番	削除	
3	住居		欠番	削除	
13	住居		欠番	削除	
35	住居	34	住居	統合	
36	住居		欠番	削除	
50	住居	51	住居	統合	
12	住居	50	土坑	変更	
18	溝		欠番	削除	
12	土坑		欠番	削除	
33	土坑		欠番	削除	
50	土坑		欠番	変更	
51	土坑		欠番	変更	
3	SX	1	集石	変更	
3	SX	2	集石	変更	
3	SX	3	集石	変更	
4	SX	4	集石	変更	
11	住居		欠番	削除	
15	住居		欠番	変更	

区	調査時の遺構名	変更後の遺構名	備考		
VI	16	住居	1	竪坑	変更
	17	住居		欠番	変更
	41	住居		欠番	削除
	46	住居		欠番	欠番
	50	住居	49	住居	統合
	58	住居	54	住居	統合
	61	住居		欠番	欠番
	69	住居		欠番	欠番
	80	住居		欠番	欠番
	81	住居		欠番	欠番
	83	住居		欠番	欠番
	88	住居	45	住居	統合
	93	住居	49	住居	統合
	99	住居	86	住居	統合
	107	住居		欠番	削除
	108	住居	64	住居	統合
	109	住居		欠番	削除
	113	住居	79	住居	統合
	114	住居		欠番	削除
	118	住居		欠番	削除
	120	住居		欠番	削除
	1	溝	13	溝	統合
	113	土坑		欠番	変更
	124	土坑		欠番	変更
	125	土坑		欠番	変更
	136	土坑		欠番	変更
	140	土坑		欠番	変更
	149	土坑		欠番	変更
	151	土坑		欠番	変更
	152	土坑		欠番	変更
	161	土坑		欠番	変更
	1	SX	1	殿治	変更
	1	高研作痕		欠番	変更
VII		1	竪	新規	
	9	住居		欠番	削除
	11	住居	3	住居	統合
	13	住居	12	住居	統合
	26	住居		欠番	削除
	4	土坑		欠番	削除
	34	土坑		欠番	変更
	13	住居		欠番	削除
	16	住居	19	住居	統合
	21	住居		欠番	削除
IX	23	住居	14	住居	統合
	24	住居	22	住居	統合
	25	住居		欠番	削除
	27	住居		欠番	削除
	25	住居		欠番	削除
	28	住居		欠番	欠番
	29	住居		欠番	削除
X	32	住居		欠番	削除
	3	溝		欠番	削除
	4	溝		欠番	削除
	5	溝		欠番	削除
	9	溝		欠番	削除
	40	土坑		欠番	削除
	1	住居		欠番	変更
	2	住居		欠番	変更
	3	住居		欠番	削除
	5	住居		欠番	削除
XI	1	配石		欠番	削除
	6	住居		欠番	削除
	1	SX	1	殿治	変更

## 未掲載遺物一覧

第17表 田口下田尻遺跡 未掲載遺物一覧

区	遺構 No.	遺構種	土師器			須恵器			黒色土器		灰釉陶器		緑釉陶器		瓦	不明	その他	合計
			杯・ 椀類	費	不明	杯・椀	花柄等 他	費	羽釜・ 甗	不明	杯・ 椀類	直	検・皿	飯類				
V	1	住居	点数	20	32	17		1	6									81
			重量	72	665	580		165	270			5						1816
V	2	住居	点数	85	22	37			7									152
			重量	270	250	270			405			11						1206
V	3	住居	点数	45	5	15			3									68
			重量	133	125	100			168									526
V	4	住居	点数	18	15	7		1	6									47
			重量	38	55	32		225	270									620
V	5	住居	点数	105	246	79		3				6						439
			重量	282	990	635		25				33						1965
V	6	住居	点数	40	54	25		10	1			1						131
			重量	116	770	351		163	27			3						1430
V	6・7	住居	点数									1						1
			重量									2						2
V	7	住居	点数		12		6	5	1			4						28
			重量		204		45	580	42			17						888
V	8	住居	点数	2	6		6											14
			重量	14	168		72											254
V	9	住居	点数	17	35		15	4										71
			重量	65	100		100	220										485
V	9・10	住居	点数	86	118		77	17										298
			重量	235	575		520	470										1800
V	10	住居	点数	9	31		8	3	8			3						62
			重量	24	400		43	39	407			70						983
V	11	住居	点数		12		10		7									29
			重量		290		49		170									509
V	12	住居	点数	16	185		26	3	1			2						233
			重量	95	1089		218	35	30			33						1500
V	13	住居	点数	13	20		9	2	2			3						49
			重量	28	925		265	390	80			29						1717
V	13・14	住居	点数	37	231		76	4	28			12		1				389
			重量	181	1188		570	74	696			76		4				2789
V	14	住居	点数	9	28		7	1										45
			重量	22	473		147	27										669
V	15	住居	点数	41		13		4		3								61
			重量	1480		382		258		50								2170
V	15・16	住居	点数	3	23		10		1			1						38
			重量	6	127		46		29			10						218
V	16	住居	点数		16		3											19
			重量		138		15											153
V	16・17	住居	点数									1						1
			重量									2						2
V	15・16・17	住居	点数	28	64		22	2	31									147
			重量	122	447		115	53	516									1253
V	17	住居	点数				2		2									4
			重量				209		223									432
V	18	住居	点数	12			3	2										17
			重量	30			24	10										64
V	19	住居	点数	3	82		6	10										101
			重量	4	1396		56	357										1813
V	20	住居	点数	14	45		11					1						71
			重量	56	375		114					19						564
V	22	住居	点数	26	51		17	3	2			3						103
			重量	106	403		227	232	47			22						1053
V	23	住居	点数	15	20		6	5										46
			重量	34	90		27	91										242
V	24	住居	点数	1	1		1											3
			重量	6	19		7											32
V	25	住居	点数				2											2
			重量				22											22
V	27	住居	点数	12	92		8		14									126
			重量	37	635		219		367									1258
V	28	住居	点数	168	588		98	10				5		1				871
			重量	515	2690		666	488				71		6				4441
V	29	住居	点数	2	23		10	1	30									66
			重量	15	954		176	29	1536									2710
V	30	住居	点数	20	181		28	15	32			1		6	5			288
			重量	65	1100		303	850	1120			95		334	75			3942





## 未掲載遺物一覧

区	遺構 No.	遺構種	土師器				須恵器				黒色土器		灰輪陶器		緑輪陶器		瓦	不明	その他	合計	
			杯・ 碗類	費	不明	杯・碗 類	長頸 甕	費	羽釜・ 甌	不明	杯・ 碗類	壺	椀・皿	瓶類	不明	椀・皿					瓶類
V	64	住居	点数 重量	6 50		1 10		2 184	1 62											60 685	
V	65	住居	点数 重量	8 13		7 117		1 2418	21 62											50 2657	
V	65・66	住居	点数 重量	42 135	113 654	14 73		4 77												173 939	
V	66	住居	点数 重量	16 73	74 855	6 69														96 997	
V	67	住居	点数 重量	70 246	112 1320	31 181		8 186				3 13								224 1946	
V	68	住居	点数 重量	7 18	3 3															10 21	
V	69	住居	点数 重量	9 81	15 87	3 38		1 10	1 68										2 6	31 190	縄文あり
V	71	住居	点数 重量	34 132	50 600	33 500	2 159	10 442	1 67			1 3								230 1903	
V	72	住居	点数 重量	11 83	63 559	5 36		1 12				5 132								85 822	
V	73	住居	点数 重量	30 148		6 269	1 175	3 441												40 1033	
V	74	住居	点数 重量	16 74		3 22		12 1400	8 1140			1 156								40 2792	
V	76	住居	点数 重量	9 60		1 10		1 18				1 6								12 94	
VI	1	住居	点数 重量	107 370	107 595	40 39		5 121	2 150			4 8	1 15							266 1298	
VI	1・10	住居	点数 重量	21 148	64 729	6 180		2 25	18 536											111 1618	
VI	2	住居	点数 重量	79 331	181 876	39 476		13 317				2 14							2 15	316 2029	縄文あり
VI	3	住居	点数 重量	22 50	46 274	15 107		4 100	2 53			2 7								91 591	
VI	4	住居	点数 重量	122 316	202 1575	54 428	1 14	11 377	8 215			1 6	3 44							402 2975	
VI	5	住居	点数 重量	10 79	43 597	17 52		16 430				4 21								90 1179	
VI	6	住居	点数 重量	97 461	149 1049	30 278		7 120	13 323			11 49								307 2280	
VI	7	住居	点数 重量	43 298	88 615	43 301		3 136	5 302			1 8								183 1660	
VI	8	住居	点数 重量	46 224	61 442	20 125		5 78												132 869	
VI	6・7・8	住居	点数 重量	75 406	218 1012	61 517		17 277	5 102			12 60								388 2374	
VI	9	住居	点数 重量	104 487	304 1385	107 727		7 532				1 1								523 3132	
VI	10	住居	点数 重量	20 69	55 221	3 13		1 10												79 313	
VI	11	住居	点数 重量	2 6	30 265	8 28		4 42												44 341	
VI	12	住居	点数 重量	9 27	2 145	3 7		19 75												33 254	
VI	13	住居	点数 重量	1 27				3 92												4 119	
VI	14	住居	点数 重量	12 42	22 229	6 44														40 315	
VI	15	住居	点数 重量	5 53	179 1303	27 221		6 139	2 73											219 1789	
VI	16	住居	点数 重量	15 115	232 928	48 350		9 203												304 1596	
VI	17	住居	点数 重量	26 73	108 470	33 226		6 77	10 661			1 4								184 1511	
VI	18	住居	点数 重量	6 37	65 436	3 5	1 12					1 1								76 491	
VI	19	住居	点数 重量	45 247	192 1057	26 247		9 203	25 239											297 1993	
VI	20	住居	点数 重量	89 300	83 706	41 265		9 351	17 734			1 15								240 2371	

区	遺構 No.	遺構種	土師器			須恵器			黒色土器		灰輪陶器		緑輪陶器		瓦	不明	その他	合計
			杯・ 碗類	費	不明	杯・碗 長頸 色	費	羽釜・ 甌	不明	杯・ 碗類	壺	椀・皿 瓶類	不明	椀・皿 瓶類				
VI	21	住居	点数 重量	23 238	26 159	12 159			25 775			1 1					87 1281	
VI	22	住居	点数 重量	34 106		58 583		8 260									100 949	
VI	23	住居	点数 重量		2 44												2 44	
VI	24	住居	点数 重量	35 100	33 111		1 33	3 91	23 631								95 966	
VI	25	住居	点数 重量	59 158	90 996	25 462		12 177	32 1322			6 46					224 3161	
VI	26	住居	点数 重量	2 7	12 366												14 373	
VI	27	住居	点数 重量		12 45	1 2											13 47	
VI	28	住居	点数 重量	12 40	105 344	35 303		38 1308	4 307			2 10					196 2402	
VI	29	住居	点数 重量	73 223	397 2159	103 1001	5 51	17 719				1 10					596 4163	
VI	30	住居	点数 重量	56 164	183 893	60 510		27 423				2 4					328 1994	
VI	31	住居	点数 重量	9 27	37 304	22 218		6 163				1 48					75 760	
VI	32	住居	点数 重量	13 55	48 493	28 326		17 473	2 58			4 18					112 1423	
VI	33	住居	点数 重量	9 23	59 412	18 248		7 391									93 1074	
VI	34	住居	点数 重量	23 151	192 1098	39 440		8 824									262 2513	
VI	35	住居	点数 重量	60 378	132 975	58 543		14 621	6 72								270 2589	
VI	36	住居	点数 重量		2 19	1 11		2 23									5 53	
VI	37	住居	点数 重量	79 230	327 1618	139 1039		29 832	74 1686			5 27					653 5432	
VI	38	住居	点数 重量	22 56	38 739	26 182	2 67	11 333	15 411			2 9					116 1797	
VI	39	住居	点数 重量	6 14	43 240	31 195		10 212				1 12					91 673	
VI	40	住居	点数 重量			1 23		2 158	1 85								4 266	
VI	39・40	住居	点数 重量	27 97	69 380	45 323	10 665	3 88				1 11	1 5			1 21	157 1590	
VI	41	住居	点数 重量	7 27	2 52	1 3											10 82	
VI	42	住居	点数 重量	3 16	8 84			1 15	9 215								21 330	
VI	41・42	住居	点数 重量			48 368		4 769	48 2296			1 10					101 3443	
VI	43	住居	点数 重量	13 45	73 366	16 183		3 116				1 2					106 712	
VI	44	住居	点数 重量	48 98	52 376	24 184		2 51	9 513								135 1222	
VI	45	住居	点数 重量	9 43	72 404	18 161		4 61									103 669	
VI	46	住居	点数 重量	7 35	147 550	63 400		47 1580	4 313			4 35	1 27			4 153	277 3093	
VI	47	住居	点数 重量	1 2	8 19	6 24		12 427	1 10			1 1					29 483	
VI	48	住居	点数 重量	276 684	95 886	94 1088		14 361	31 1229			8 18					518 4266	
VI	49	住居	点数 重量	45 146	99 474	37 258		17 757				3 23					201 1658	
VI	50	住居	点数 重量	34 68	36 306	9 159		3 108				1 2					83 643	
VI	51	住居	点数 重量	3 15	34 174	9 83	1 7	10 381	2 101								59 761	
VI	52	住居	点数 重量	19 61	23 89	17 71		11 487									70 708	



区	遺構 No.	遺構種	土師器			須恵器				黒色土器			灰釉陶器			緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計
			杯・ 碗類	甕	不明	杯・碗 類	長頸 甕	甕	羽釜・ 甌	不明	杯・ 碗類	壺	横・皿 瓶類	不明	横・皿 瓶類	不明	不明	不明				
Ⅶ	28	住居	点数 重量	15 33 35 147		15 88	3 189	1 19				2 9									69 487	
Ⅶ	29	住居	点数 重量	29 100 90 470		54 438	4 62	2 22			4 17	1 19									184 1128	
Ⅶ	30	住居	点数 重量	7 26 60 134		9 134	2 330	13 480			1 5										41 1035	
Ⅶ	31	住居	点数 重量	26 683		42 208	8 435	1 38	20 968			2 17									99 2349	
Ⅶ	32	住居	点数 重量	19 51 33 627		20 199	8 746				4 23			1 1							85 1647	
Ⅶ	33	住居	点数 重量	5 140		2 32															7 172	
Ⅶ	34	住居	点数 重量	45 100 120 865		90 718	10 306	6 190			5 31			1 18							277 2228	
Ⅶ	35	住居	点数 重量	11 49 48 178		21 110	4 70				2 5										86 412	
Ⅶ	36	住居	点数 重量	89 254 244 2500		115 854	16 386	1 65			15 93			2 10							482 4162	
Ⅶ	37	住居	点数 重量	98 1006		35 224	16 682	13 557						1 2							163 2471	
Ⅶ	38	住居	点数 重量	21 68 37 362		44 49	4 291	18 947			6 31										130 1748	
Ⅶ	39	住居	点数 重量	57 175 163 1232		52 425	8 453	1 17													281 2302	
Ⅶ	40	住居	点数 重量	69 1154		54 375	9 456	18 611						1 9							151 2605	
Ⅶ	41	住居	点数 重量	22 78 78		9 73	5 53	1 15			1 4										40 301	
Ⅶ	42	住居	点数 重量	35 80 561		28 231	10 245	18 660				1 8									142 1785	
Ⅶ	43	住居	点数 重量	113 490 253 1658		38 342	2 40	3 188	1 62												410 2780	
Ⅶ	44	住居	点数 重量	130 498 253 1451		116 1064	3 144	2 342	2 72		1 9										519 3580	
Ⅶ	45	住居	点数 重量	10 99 100 1124		54 620	3 78	9 149	23 971		11 59			21 11							210 3100	
Ⅶ	47	住居	点数 重量	30 116 29 364		31 176		13 392			9 38										112 1086	
Ⅶ	48	住居	点数 重量	7 59		9 122	11 119	5 149													32 449	
Ⅶ	49	住居	点数 重量	21 428		8 75	5 185	2 51													36 739	
Ⅶ	50	住居	点数 重量	1 5 37 633		9 71	6 130												7 50		60 889	
Ⅶ	51	住居	点数 重量	7 19 35 538		32 409	2 185	3 37			4 13										84 1228	
Ⅶ	52	住居	点数 重量	25 98 18 294		11 85	2 51	4 144					1 1								61 673	
Ⅶ	53	住居	点数 重量	19 51 18 241		10 94	3 126	4 97													54 609	
Ⅶ	54	住居	点数 重量	33 97 89 960		26 187		37 904			3 9										188 2157	
Ⅶ	55	住居	点数 重量	13 32 16 393		4 30	16 393	2 323													51 1171	
Ⅶ	56	住居	点数 重量	26 84 50 870		21 207	5 101	4 120			6 34							1 80			113 1496	
Ⅶ	57	住居	点数 重量	87 297 112 1024		84 910	19 1429	22 723			14 71										338 4454	
Ⅶ	58	住居	点数 重量	12 66 68 619		11 71	4 126				2 11										97 893	
Ⅶ	59	住居	点数 重量	68 245 92 1882		44 303	65 1202	8 218			16 87										293 3937	
Ⅶ	60	住居	点数 重量	72 196 180 1624		55 621	16 438	18 444			11 28										352 3351	
Ⅶ	61	住居	点数 重量	23 195		5 13	6 82				1 4										35 294	
Ⅶ	62	住居	点数 重量	9 17 7 62		11 12		8 315			2 4										37 410	



区	遺構 No.	遺構種	土師器			須恵器			黒色土器		灰輪陶器		緑輪陶器		瓦	不明	その他	合計
			杯・ 碗類	費	不明	杯・碗 類	長頸 びん 類	費	羽釜・ 甌	不明	杯・ 碗類	壺	椀・皿 類	不明				
Ⅶ	96	住居	点数 重量	22 85	36 429			3 30	6 150				1 2				68 696	
Ⅶ	97	住居	点数 重量	51 120	63 352	38 200		4 51	49 921		3 13						208 1657	
Ⅶ	98	住居	点数 重量	4 22	14 169	10 88		10 524	24 656		4 24						66 1483	
Ⅶ	99	住居	点数 重量	1 6	1 3	3 30											5 39	
Ⅶ	100	住居	点数 重量	14 98	5 61	3 16			5 125								27 300	
Ⅶ	101	住居	点数 重量	2 5		1 13					1 19						4 37	
Ⅶ	102	住居	点数 重量		33 213	13 160	12 469	10 345									68 1187	
Ⅶ	103	住居	点数 重量	31 80	93 834	35 507	10 481				1 2						170 1904	
Ⅶ	104	住居	点数 重量	7 28	20 326	4 36	1 5				1 3						33 398	
Ⅶ	105	住居	点数 重量	7 97	5 16	3 16	1 84										16 213	
Ⅶ	106	住居	点数 重量	36 84	28 164	25 153	20 675				4 41	1 1					114 1118	
Ⅶ	108	住居	点数 重量	2 38	2 9	2 9					1 3						5 50	
Ⅶ	109	住居	点数 重量	1 6		1 3		2 57									4 66	
Ⅶ	110	住居	点数 重量	1 5	39 195	9 59	4 183				2 11						55 453	
Ⅶ	111	住居	点数 重量	3 8	23 614	4 56		4 83			1 5						35 766	
Ⅶ	112	住居	点数 重量	5 18	12 38		2 29										19 85	
Ⅶ	113	住居	点数 重量	1 13							1 6						2 19	
Ⅶ	116	住居	点数 重量	16 132		5 28	2 105	14 369									37 634	
Ⅶ	117	住居	点数 重量	15 619			3 361										18 980	
Ⅶ	118	住居	点数 重量					1 75		1 1							2 76	
Ⅶ	119	住居	点数 重量	5 66		7 66	1 12	10 375		2 6							25 525	
Ⅶ	119-117- 118	住居	点数 重量	2 6		15 108	2 17	44 699		6 43							69 873	
Ⅶ	1	住居	点数 重量	2 10													2 10	
Ⅶ	2	住居	点数 重量	3 30	10 398	3 67					2 20						18 515	
Ⅶ	3	住居	点数 重量	3 5	32 760	70 240	12 288	38 1500		1 34	16 195	10 127					182 3649	
Ⅶ	4	住居	点数 重量	9 38	21 201	6 196	4 80	5 480			2 8				1 66		48 1069	
Ⅶ	5	住居	点数 重量	2 9		1 6											3 15	
Ⅶ	6	住居	点数 重量	12 322		7 88		5 73		2 8							26 491	
Ⅶ	7	住居	点数 重量	2 10	23 660	6 74		6 147		2 6							39 897	
Ⅶ	8	住居	点数 重量	2 10	5 144	7 53	1 262	3 254									18 723	
Ⅶ	9	住居	点数 重量	5 82		1 24				1 4							7 110	
Ⅶ	10	住居	点数 重量	40 1390		13 81	1 23			1 2							55 1496	
Ⅶ	11	住居	点数 重量	1 18		2 29	1 25	1 36									5 108	
Ⅶ	12	住居	点数 重量	9 20	28 326	13 193	7 119	14 476		1 2							72 1136	

## 未掲載遺物一覧

区	遺構No.	遺構種	土師器			須恵器			黒色土器		灰輪陶器		緑輪陶器		瓦	不明	その他	合計
			杯・碗類	甕	不明	杯・碗類	長頸瓶類	甕	羽釜・瓶	不明	杯・碗類	壺	椀・皿	瓶類				
Ⅶ	13	住居	点数	12	120		16		10	15					8			181
			重量	84	1180		116		249	383					61			2073
Ⅶ	14	住居	点数	6	3		6		3	1				2			21	
			重量	23	77		59		28	19				20			226	
Ⅶ	15	住居	点数		10		10	1	4								25	
			重量		70		160	57	49								336	
Ⅶ	16	住居	点数		15		5		2	1							23	
			重量		129		57		14	26							226	
Ⅶ	17	住居	点数		8		4		3	3							18	
			重量		365		55		51	73							544	
Ⅶ	18	住居	点数		7												7	
			重量		43												43	
Ⅶ	19	住居	点数	2	8				2								12	
			重量	12	66				40								118	
Ⅶ	20	住居	点数		11			1									12	
			重量		53		16										69	
Ⅶ	21	住居	点数		9				2								11	
			重量		103				70								173	
Ⅶ	22	住居	点数		4		7		2								13	
			重量		38		55		73								166	
Ⅶ	23	住居	点数		1												1	
			重量		79												79	
Ⅶ	25	住居	点数		1		1		1								3	
			重量		3		31		194								228	
Ⅸ	1	住居	点数	14	45		33		8	4		3		6			113	
			重量	52	1480		495		240	169		21		39			2496	
Ⅸ	2	住居	点数		9		5		1	3				2			20	
			重量		189		59		18	45				6			317	
Ⅸ	3	住居	点数		1				2								4	
			重量		3				7	26							36	
Ⅸ	4	住居	点数		3		9		11	10		25					58	
			重量		10		49		85	136		476					756	
Ⅸ	5	住居	点数		1				1			6					8	
			重量		23		4			99							126	
Ⅸ	6	住居	点数	8	22		31		7					1			69	
			重量	25	464		199		407					4			1099	
Ⅸ	7	住居	点数		2		2			8							18	
			重量		30		13		28			201					272	
Ⅸ	9	住居	点数		12		72		6	20				7	1		118	
			重量		53		376		141	326				29	26		951	
Ⅸ	9・10	住居	点数	15	6		20		3								44	
			重量	46	76		137		71								330	
Ⅸ	10	住居	点数		20		14		47					11			96	
			重量		63		400		327	161				50			1001	
Ⅸ	11	住居	点数		49		55		12	18				3	1		138	
			重量		311		288		542	533				5	14		1693	
Ⅸ	12	住居	点数	7	27		7		9	7				1		3	61	
			重量	22	486		74		400	361				2		7	1352	
Ⅸ	13	住居	点数		21		13			8							1	
			重量		186		91			118							8	
Ⅸ	14	住居	点数		1		17		2	9					3		32	
			重量		14		79		85	248				7			433	
Ⅸ	15	住居	点数		27		4		4	9							44	
			重量		990		80		160	682							1912	
Ⅸ	16	住居	点数		1		3		2								6	
			重量		3		31		3								37	
Ⅸ	17	住居	点数		7		17		12	2	2						40	
			重量		18		272		122	40	139						591	
Ⅸ	18	住居	点数		10		30		15	3	4			1			63	
			重量		46		550		123	37	163			4			923	
Ⅸ	20	住居	点数				2		1	2							5	
			重量				5		22	49							76	
Ⅸ	22	住居	点数	4	24		20		4	9				1			62	
			重量	10	640		147		118	292				4			1211	
Ⅸ	23	住居	点数		1				1								2	
			重量		3				13								16	
Ⅸ	24	住居	点数		2		2		21	2							27	
			重量		9		92		177	52							330	

区	遺構 原	遺構種	土師器			須恵器			黒色土器		灰輪陶器		緑輪陶器		瓦	不明	その他	合計
			杯・ 碗類	費	不明	杯・碗	高脚の 壺	費	羽釜・ 甕	不明	杯・ 碗類	壺	碗・皿	瓶類				
IX	25	住居	点数	7	4		7		1	1								24
			重量	16	24		15		20	28			4					118
IX	26	住居	点数	4	8		17		1	5								35
			重量	15	247		132		50	374			15					818
IX	27	住居	点数	1	5		4			1								11
			重量	5	43		30			20								
X	1	住居	点数	228	274		106		7	15			8					638
			重量	510	2723		750		180	920			53					
X	2	住居	点数	17	77		26		7	20			3	1				151
			重量	50	567		195		115	1154			26	10				
X	3	住居	点数	115	65		60		6	11			9	1				267
			重量	510	990		258		112	635			72	7				
X	4	住居	点数	21	13		9							3				46
			重量	46	51		60							14				
X	5	住居	点数	5	27		2		1					2				37
			重量	13	384		10		30					24				
X	6	住居	点数	19	26		3											48
			重量	70	296		25											
X	7	住居	点数	11	41		10					2						64
			重量	78	328		102					115						
X	8	住居	点数	6	10		13											29
			重量	10	20		154											
X	9	住居	点数	154	88		100		19			5		1				367
			重量	503	592		1030		695			20		22				
X	10	住居	点数	143	73		33		6			2						257
			重量	452	620		176		876			8						
X	11	住居	点数	85	12		24	3	7				5					136
			重量	205	344		127	113	391					12				
X	12	住居	点数	42	70		30			5		1		4	1			153
			重量	124	530		254		121		15		15	12	7			
X	13	住居	点数	107	67		36		20				2	1				233
			重量	363	520		400		963				9	9				
X	14	住居	点数	200	63		109		17	42		2		11			1	445
			重量	562	408		898		671	1235		8		55				16
X	15	住居	点数	41	58		38		7			2	3					149
			重量	134	324		422		198			8	20					
X	16	住居	点数	63	32		61		5				1	1				163
			重量	254	168		456		159			9	99					
X	17	住居	点数	7	9		5		1	3								26
			重量	23	61		120		35	97			1					
X	18	住居	点数	16	130		48		13	16			8					231
			重量	63	532		358		530	678			31					
X	19	住居	点数	3	27					11								42
			重量	12	500					725			10					
X	20	住居	点数	2			1											3
			重量	10			2											
X	21	住居	点数	11			3			16								30
			重量	22			11			282								
X	22	住居	点数	13	16		7		2	1			2					41
			重量	61	125		80		390	43			10					
X	23	住居	点数	2	25		2		1									30
			重量	22	132		15		35									
X	24	住居	点数	37	51		3		3									94
			重量	82	482		21		393									
X	25	住居	点数	2	17													19
			重量	9	163													
X	26	住居	点数	5	13		3											21
			重量	17	38		9											
X	27	住居	点数	1	1					2			1		1			6
			重量	1	138					71			7		7			
X	28	住居	点数	43	19		11						1					74
			重量	93	111		121						2					
X	29	住居	点数	19	46		14		2		1		3					85
			重量	74	219		153		75			9		55				
X	30	住居	点数	2	73		19		1				3					98
			重量	29	377		122		87				15					
X	31	住居	点数	2														2
			重量	18														



## 未掲載遺物一覧

区	遺構 No.	遺構種	土師器			須恵器			黒色土器		灰輪陶器		緑輪陶器		瓦	不明	その他	合計
			杯・ 碗類	費	不明	杯・碗 類	長頸 瓶 費	羽釜・ 甌	不明	杯・ 碗類	壺	椀・皿 瓶類	不明	椀・皿 瓶類				
X	32	住居	点数	2	1			1										5
			重量	4	5			4		29								
XI	1	住居	点数		1													1
			重量		1													
XI	2	住居	点数		3													3
			重量		24													
XI	4	住居	点数	8			15		8			2						33
			重量	15			183		480			7						
XI	1	住居	点数	10	1		5		2			2						46
			重量	21	6		77		64		523			7				
XI	2	住居	点数	2	43		1		4									50
			重量	4	300		13		59									
XI	3	住居	点数		6		1		2			1						10
			重量		18		1		13				2					
XI	4	住居	点数	20	6		6		14		19		3		1			63
			重量	275	54		54		240		708		17		7			
XI	5	住居	点数	1			1											2
			重量	10			7											
XI	6	住居	点数				1		1									2
			重量				26		45									
XI	7	住居	点数	4	20		18		7		20							70
			重量	16	78		164		203		1169							1
XI	8	住居	点数	17	74		37		17		28		12		1			186
			重量	68	622		410		890		1265		126		1			
XI	11	住居	点数	5			20		8		60		6		2			101
			重量	17			622		185		1413		276		41			
XI	12	住居	点数	9	40		53		12		74		10					198
			重量	16	301		485		393		928		47					
XI	13	住居	点数	3	1		4		1									6
			重量	5	7		4		6									
XI	14	住居	点数	10	69		12		1		23		21		1			252
			重量	36	421		82		26		239		2595		120		3	
XI	15	住居	点数				7		5		10		1					23
			重量				81		170		343		2					
XI	15・16	住居	点数	6	18		2		8				3					37
			重量	15	126		42		170				30					
XI	16	住居	点数	33	4		46		22		95		4		15			219
			重量	64	75		616		259		3740		26		168			
XI	18	住居	点数				37		12				1					50
			重量				475		382					2				
XI	19	住居	点数	11	8		53		21		7		6					106
			重量	31	51		541		1150		91		35					
XI	20	住居	点数	11	15		17		4		3		2		6			58
			重量	43	135		92		50		46		7		16			
XI	21	住居	点数		18		20		7		16		4					65
			重量		125		353		76		569		25					
XI	22	住居	点数						5									5
			重量						264									
XI	9	住居	点数										1					1
			重量											6				
XI	10	住居	点数	4			72		12		159		8		2			257
			重量	15			909		632		5620		41		57			
		住居 不明	点数											1				1
			重量												1			
V	2	竪穴	点数	2	5				1									8
			重量	6	37				39									
V	3	竪穴	点数		1													1
			重量		14													
V	5	竪穴	点数	39	38		10		7									94
			重量	124	167		48		72									
V	6	竪穴	点数	15	13		13						1					42
			重量	43	154		121						4					
VII	3	竪穴	点数	1	13		3		20		7							44
			重量	4	33		5		1044		174							
VI	1	竪穴	点数		2		1		1									4
			重量		10		1		65									
VI	2	竪穴	点数		1													1
			重量		66													

区	遺構 No.	遺構種	土師器			須恵器			黒色土器		灰輪陶器		緑輪陶器		瓦	不明	その他	合計
			杯・ 碗類	甕	不明	杯・碗	長頸 瓶 他	甕	羽釜・ 甌	不明	杯・ 碗類	壺	椀・皿	瓶類				
VI	3	整穴	点数	28	78		69	2	41	6								226
			重量	139	300		531	6	853	100			2					
VI	4	整穴	点数	2	11				3									16
			重量	17	41					23								
VI	5	整穴	点数		1													1
			重量		3													
VI	6	整穴	点数	2	11		5		2									20
			重量	6	132		66		36									
VII	1	整穴	点数	1	59				1									61
			重量	5	267		8											
IX	1	整穴	点数	1	2				1									5
			重量	4	42				14					1				
XII	1	鍛冶	点数	30	72		70		23	13								216
			重量	59	640		388		362	322								
VII	1	鍛冶 周辺	点数	5	13		4											22
			重量	12	33		15											
V	1	土坑	点数	2	4		4											11
			重量	5	15		19											
V	2	土坑	点数		3		1											4
			重量		11		3											
V	3	土坑	点数				5		2									7
			重量				33		134									
V	4	土坑	点数		5		1		1									7
			重量		40		14		16									
V	5	土坑	点数	6	13		11		1	5								36
			重量	35	43		94		237	44								
V	7	土坑	点数	1			1											2
			重量	4			3											
V	8	土坑	点数	1														1
			重量	7														
V	10	土坑	点数	4	6				2									12
			重量	10	24				20									
V	11	土坑	点数				1											1
			重量				22											
V	12	土坑	点数		1													1
			重量		9													
V	15	土坑	点数	3	4		4											11
			重量	22	28		22											
V	16	土坑	点数	1														1
			重量	20														
V	17	土坑	点数		1													1
			重量		11													
V	18	土坑	点数		3													3
			重量		15													
V	20	土坑	点数				1											1
			重量				24											
V	21	土坑	点数	6														6
			重量	11														
V	22	土坑	点数	3	3													6
			重量	8	16													
V	23	土坑	点数	3	6													9
			重量	19	46													
V	29	土坑	点数	18	56		24	2	10									111
			重量	138	498		495	101	755									
V	30	土坑	点数		3		2											5
			重量		18		25											
V	31	土坑	点数	3	8													11
			重量	6	34													
V	32	土坑	点数		4													4
			重量		50													
V	34	土坑	点数		1													1
			重量		15													
V	35	土坑	点数	2			5		3	3								13
			重量	15			52		38	85								
V	36	土坑	点数	7	12		4		3									26
			重量	24	99		35		58									
V	38	土坑	点数		2				1									3
			重量		70				46									

## 未掲載遺物一覧

区	遺構 No.	遺構種	土師器		須恵器				黒色土器		灰釉陶器		緑釉陶器		瓦	不明	その他	合計
			杯・ 碗類	費	不明	杯・碗	高脚 皿	費	羽釜・ 甌	不明	杯・ 碗類	甑	椀・皿	瓶類				
V	40	土坑	点数 重量	4 8														4 8
V	41	土坑	点数 重量	1 21														1 21
V	42	土坑	点数 重量	1 79				1 25										2 104
V	43	土坑	点数 重量	2 7 303					1 154							1 14		11 478
V	46	土坑	点数 重量	3 15		2 24		2 51		1 12								8 102
V	47	土坑	点数 重量	3 16				1 26		1 2								5 44
V	48	土坑	点数 重量	3 6	3 6													6 12
V	49	土坑	点数 重量	1 3	2 31	1 9												4 43
V	50	土坑	点数 重量	2 18	2 9	4 128		1 56										9 211
V	51	土坑	点数 重量	15 80	17 100	6 88		1 32										39 300
V	54	土坑	点数 重量	1 35														1 35
V	58	土坑	点数 重量	12 82	12 34			1 62										25 178
V	59	土坑	点数 重量	16 69		7 47												23 116
V	60	土坑	点数 重量	2 9	7 20	4 12		2 20										15 61
V	61	土坑	点数 重量	4 14		1 5												5 19
V	62	土坑	点数 重量	2 5														2 5
V	67	土坑	点数 重量	1 23														1 23
V	71	土坑	点数 重量	2 13	14 107	5 72	1 13											22 205
V	73	土坑	点数 重量	3 45	8 45	2 102												13 192
V	76	土坑	点数 重量	3 5	6 26													9 31
V	78	土坑	点数 重量	1 8														1 8
V	79	土坑	点数 重量	5 12														5 12
V	80	土坑	点数 重量	5 14		2 71				1 2								8 87
V	82	土坑	点数 重量	2 8		1 8		1 15										4 31
V	84	土坑	点数 重量	3 6	1 6	3 21												7 33
V	92	土坑	点数 重量	2 34														2 34
V	93	土坑	点数 重量	32 82	15 63	1 1												48 146
V	94	土坑	点数 重量	4 11		1 3												5 14
V	95	土坑	点数 重量	4 11	5 46	1 24												10 81
V	96	土坑	点数 重量	5 36	1 7	2 38												8 81
V	101	土坑	点数 重量	1 37														1 37
V	104	土坑	点数 重量	1 5		1 5		2 39	1 43									5 92
V	106	土坑	点数 重量								1 19							1 19
V	115	土坑	点数 重量			10 127		1 100										11 227

区	遺構 No.	遺構種	土師器			須恵器			黒色土器		灰輪陶器		緑輪陶器		瓦	不明	その他	合計
			杯・ 碗類	費	不明	杯・ 碗類	長頸 壺	費	羽釜・ 甌	不明	杯・ 碗類	壺	椀・皿	瓶類				
V	116	土坑	点数 重量	8 10 23 87		2 28											20 138	
V	107	土坑	点数 重量	13 44 7 42			1 66			1							22 153	
V	108	土坑	点数 重量	6 39 7 137		2 122											15 298	
VI	1	土坑	点数 重量	4 12													4 12	
VI	2	土坑	点数 重量			1 7											1 7	
VI	4	土坑	点数 重量	1 4		2 10											3 14	
VI	5	土坑	点数 重量	2 3													2 3	
VI	8	土坑	点数 重量	6 17		1 5											7 22	
VI	9	土坑	点数 重量	3 10		1 17											4 27	
VI	11	土坑	点数 重量			1 10											1 10	
VI	12	土坑	点数 重量	11 24													11 24	
VI	13・14・ 15	土坑	点数 重量	9 45 41 64		9 26	3 14				1 4						63 153	
VI	13	土坑	点数 重量	8 15 9 88		3 21											20 124	
VI	14	土坑	点数 重量	1 6		1 8											2 14	
VI	15	土坑	点数 重量	9 28		3 46											12 74	
VI	16	土坑	点数 重量	8 22 7 23		3 13	3 16				1 6						22 80	
VI	18	土坑	点数 重量	9 430		3 26											12 456	
VI	19・20	土坑	点数 重量	4 36		3 16											7 52	
VI	20	土坑	点数 重量	5 20		1 2											6 22	
VI	22	土坑	点数 重量	1 19 2 140													3 159	
VI	23	土坑	点数 重量	37 427													37 427	
VI	24	土坑	点数 重量	1 6													1 6	
VI	26	土坑	点数 重量	1 4 1 2		2 13											4 19	
VI	28	土坑	点数 重量	11 37		2 15											13 52	
VI	29	土坑	点数 重量	4 7 6 20		3 47	2 22										15 96	
VI	30	土坑	点数 重量	9 20 23 159			1 42										33 221	
VI	31	土坑	点数 重量	1 26													1 26	
VI	31・32	土坑	点数 重量	16 90			1 14										17 104	
VI	33	土坑	点数 重量	2 4 3 12		2 30	1 31										8 77	
VI	34	土坑	点数 重量	2 6 106													8 112	
VI	36	土坑	点数 重量	3 12 11 79		5 51											19 142	
VI	37	土坑	点数 重量	9 24 21 76		3 16	1 11				1 3						35 130	
VI	39	土坑	点数 重量	3 12 8 20		1 5		95									17 132	
VI	44	土坑	点数 重量	2 9													2 9	

## 未掲載遺物一覧

区	遺構 No.	遺構種	土師器		須恵器				黒色土器		灰輪陶器		緑輪陶器		瓦	不明	その他	合計
			杯・ 碗類	不明	杯・碗	長頸 瓶 他	費	羽釜・ 瓶	不明	杯・ 碗類	壺	椀・皿	瓶類	不明				
VI	49	土坑	点数 重量	2 15														2 15
VII	1	土坑	点数 重量	5 38	1 8			4 10				1 2						11 58
VII	2	土坑	点数 重量	10 19	9 146	3 7		4 24				1 2						27 198
VII	3	土坑	点数 重量	1 3														1 3
VII	4	土坑	点数 重量	1 3	2 42	1 8		2 24										6 77
VII	5	土坑	点数 重量	4 29	4 17	2 8												10 54
VII	6	土坑	点数 重量	5 13	5 55	3 8		2 61				1 8						16 145
VII	7	土坑	点数 重量	9 33	4 66	10 83												23 182
VII	8	土坑	点数 重量	1 1				1 22										2 23
VII	9	土坑	点数 重量					1 14										1 14
VII	10	土坑	点数 重量									1 7						1 7
VII	12	土坑	点数 重量					1 4										1 4
VII	14	土坑	点数 重量	3 9	5 17							2 7						10 33
VII	15	土坑	点数 重量	3 24		1 5	1 18											5 47
VII	17	土坑	点数 重量	1 5		1 22	1 15											3 42
VII	18	土坑	点数 重量	3 8														3 8
VII	19	土坑	点数 重量	9 66	2 11			2 30	2 88			1 1						16 196
VII	20	土坑	点数 重量	1 1														1 1
VII	21	土坑	点数 重量	7 26		1 3	1 41	2 24										11 94
VII	23	土坑	点数 重量	2 2		1 1												4 4
VII	24	土坑	点数 重量	7 30		1 5	1 28											17 63
VII	25	土坑	点数 重量	5 11								1 1						6 12
VII	26	土坑	点数 重量	1 4	3 14	3 12												7 30
VII	27	土坑	点数 重量	5 260														5 260
VII	28	土坑	点数 重量	3 7	2 12	3 15	1 40											9 74
VII	30	土坑	点数 重量	1 3														1 3
VII	31	土坑	点数 重量	1 2	5 105	1 5	1 202											8 314
VII	34	土坑	点数 重量	6 9	3 39	2 12												11 60
VII	35	土坑	点数 重量	3 8		1 24												4 32
VII	36	土坑	点数 重量	1 13								1 9						2 22
VII	37	土坑	点数 重量			1 10												1 10
VII	38	土坑	点数 重量	1 2	1 13	1 4												3 19
VII	39	土坑	点数 重量	2 20														2 20
VII	40	土坑	点数 重量	2 3	1 7	4 12												7 22

区	遺構 No.	遺構種	土師器			須恵器				黒色土器		灰輪陶器		緑輪陶器		瓦	不明	その他	合計
			杯・ 碗類	費	不明	杯・碗 類	長頸 瓶 他	費	羽釜・ 甌	不明	杯・ 碗類	壺	椀・皿 瓶類	不明	椀・皿 瓶類				
Ⅶ	41	土坑	点数 重量	2 5	2 33		4 47												8 85
Ⅶ	42	土坑	点数 重量				1 17												1 17
Ⅶ	46	土坑	点数 重量				1 5												1 5
Ⅶ	47	土坑	点数 重量	3 21	2 21														5 42
Ⅶ	48	土坑	点数 重量	2 5								1 4							3 9
Ⅶ	49	土坑	点数 重量	7 21	3 26		5 31	2 70											17 148
Ⅶ	50	土坑	点数 重量	1 2	2 7		1 5												4 14
Ⅶ	51	土坑	点数 重量	2 7	2 7		1 5	1 5	2 46										6 63
Ⅶ	52	土坑	点数 重量						1 9										1 9
Ⅶ	53	土坑	点数 重量	2 10	4 15			1 10											7 35
Ⅶ	55	土坑	点数 重量	11 40	5 43		2 24	4 187	3 83										25 377
Ⅶ	56	土坑	点数 重量	8 18	7 64			1 50				1 18							17 150
Ⅶ	57	土坑	点数 重量	9 23	3 16		4 32	3 49											19 120
Ⅶ	58	土坑	点数 重量	13 27	6 71		3 63	3 27				3 6							28 194
Ⅶ	59・71	土坑	点数 重量	4 12	3 14		2 46	3 14	3 48			1 8							16 142
Ⅶ	60	土坑	点数 重量	1 4	2 65		2 51					1 2							6 122
Ⅶ	61	土坑	点数 重量	2 8	3 57														5 65
Ⅶ	64	土坑	点数 重量	6 20	3 33		2 25												11 78
Ⅶ	65	土坑	点数 重量	2 5	4 38		1 4	2 14	16 428			4 20							29 509
Ⅶ	66	土坑	点数 重量	3 22				3 21	2 38										8 81
Ⅶ	67	土坑	点数 重量	6 57	23 130		16 93	38 762	2 116			10 50		1 6					96 1214
Ⅶ	68	土坑	点数 重量	5 13			9 62	5 97											19 172
Ⅶ	69	土坑	点数 重量	1 2			5 41	7 343											13 386
Ⅶ	70	土坑	点数 重量	7 31	3 24		4 59	4 106				1 2							19 222
Ⅶ	72	土坑	点数 重量	8 27	8 81		8 78		3 95			1 19							28 300
Ⅶ	73	土坑	点数 重量	1 2			2 15	1 72											4 89
Ⅶ	74	土坑	点数 重量	2 6	5 43		3 27	3 41	2 26										15 143
Ⅶ	76	土坑	点数 重量	1 36															1 36
Ⅶ	77	土坑	点数 重量	1 13			1 5		2 51										4 69
Ⅶ	78	土坑	点数 重量	4 7	5 53			1 44	9 223										19 327
Ⅶ	79	土坑	点数 重量	2 4				2 70	2 54										6 128
Ⅶ	80	土坑	点数 重量	5 10	2 12		4 32	1 35											12 89
Ⅶ	81	土坑	点数 重量	2 4	5 23		5 20	1 20				3 9							16 76
Ⅶ	82	土坑	点数 重量	4 11			2 9												6 20

## 未掲載遺物一覧

区	遺構 No.	遺構種	土師器			須恵器				黒色土器		灰輪陶器		緑輪陶器		瓦	不明	その他	合計
			杯・ 碗類	費	不明	杯・碗	長頸 瓶 他	費	羽釜・ 瓶	不明	杯・ 碗類	壺	椀・皿	瓶類	不明				
Ⅶ	83	土坑	点数 重量	3 12	1 3														4 15
Ⅶ	84	土坑	点数 重量	7 9	7 30	5 30	2 110				3 20							24 199	
Ⅶ	85	土坑	点数 重量				3 722											3 722	
Ⅶ	86	土坑	点数 重量		1 34													1 34	
Ⅶ	88	土坑	点数 重量			1 40												1 40	
Ⅶ	89	土坑	点数 重量	4 8		1 13												5 21	
Ⅶ	91	土坑	点数 重量		1 71													1 71	
Ⅶ	92	土坑	点数 重量	3 11	9 103	4 29	5 115	1 23			2 22							24 303	
Ⅶ	93	土坑	点数 重量		1 3													1 3	
Ⅶ	94	土坑	点数 重量		3 14													3 14	
Ⅶ	95	土坑	点数 重量	8 21	4 18	1 6	2 68											15 113	
Ⅶ	96	土坑	点数 重量	1 7														1 7	
Ⅶ	97	土坑	点数 重量	5 11		1 2	4 102											10 115	
Ⅶ	98	土坑	点数 重量			1 14												1 14	
Ⅶ	100	土坑	点数 重量	1 6			7 19	6 94			1 7							15 126	
Ⅶ	101	土坑	点数 重量	2 3				1 22										3 25	
Ⅶ	104	土坑	点数 重量		1 13			1 33										2 46	
Ⅶ	105	土坑	点数 重量	1 8			3 123	1 28										5 159	
Ⅶ	106	土坑	点数 重量	1 3	3 35	1 3	1 37											6 78	
Ⅶ	107	土坑	点数 重量		2 10		1 101											3 111	
Ⅶ	111	土坑	点数 重量	7 17	11 56	4 33	8 207				3 8							33 321	
Ⅶ	112	土坑	点数 重量	2 3	7 43	5 28	4 121				2 4							20 199	
Ⅶ	113	土坑	点数 重量	1 4		6 56	9 178	1 41										17 279	
Ⅶ	114	土坑	点数 重量	8 37		3 19	2 30											13 86	
Ⅶ	116	土坑	点数 重量	1 1		2 14												3 15	
Ⅶ	117	土坑	点数 重量	2 4		3 40	3 46											8 90	
Ⅶ	119	土坑	点数 重量	5 38			1 10											6 48	
Ⅶ	124	土坑	点数 重量			2 8	1 16											3 24	
Ⅶ	125	土坑	点数 重量	2 4		4 20												6 24	
Ⅶ	127	土坑	点数 重量	2 30			3 82											5 112	
Ⅶ	128	土坑	点数 重量	1 14														1 14	
Ⅶ	133	土坑	点数 重量	1 5	11 77	1 6		1 19			1 2							15 109	
Ⅶ	134	土坑	点数 重量	2 7			1 8											3 15	
Ⅶ	135	土坑	点数 重量			1 4					1 3							2 7	

区	遺構 No.	遺構種	土師器		須恵器			黒色土器		灰輪陶器		緑輪陶器		瓦	不明	その他	合計
			杯・ 碗類	費	不明	杯・碗	兵部 甲	費	羽釜・ 瓶	不明	杯・ 碗類	壺	椀・皿				
Ⅶ	138	土坑	点数 重量				1 35										1 35
Ⅶ	141	土坑	点数 重量	3 60			4 106	1 15			1 6						9 187
Ⅶ	142	土坑	点数 重量	4 15													4 15
Ⅶ	143	土坑	点数 重量	2 3													2 3
Ⅶ	144	土坑	点数 重量	1 3													1 3
Ⅶ	145	土坑	点数 重量					1 84									1 84
Ⅶ	146	土坑	点数 重量					1 48									1 48
Ⅶ	147	土坑	点数 重量			2 27		5 157									7 184
Ⅶ	148	土坑	点数 重量	4 25													4 25
Ⅶ	149	土坑	点数 重量	1 4				1 80									2 84
Ⅶ	155	土坑	点数 重量					1 52									1 52
Ⅶ	156	土坑	点数 重量	3 21													3 21
Ⅶ	158	土坑	点数 重量	1 32													1 32
Ⅶ	161	土坑	点数 重量	2 21													2 21
Ⅶ	162	土坑	点数 重量	1 3	1 35	1 4											3 42
Ⅶ	163	土坑	点数 重量	1 9				2 70									3 79
Ⅶ	164	土坑	点数 重量	1 9													1 9
Ⅶ	165	土坑	点数 重量	2 17				2 75									4 92
Ⅶ	169	土坑	点数 重量	3 9		4 16											7 25
Ⅶ	170	土坑	点数 重量	2 4			2 56	1 57									5 117
Ⅶ	171	土坑	点数 重量	1 6		2 18											3 24
Ⅶ	173	土坑	点数 重量	1 5	8 50	2 8											11 63
Ⅶ	174	土坑	点数 重量	1 4		1 13		1 126									3 143
Ⅶ	175	土坑	点数 重量	2 7		4 39	2 30										8 76
Ⅶ	178	土坑	点数 重量			1 9					1 30						2 39
Ⅶ	179	土坑	点数 重量	1 7			2 23										3 30
Ⅶ	181	土坑	点数 重量	1 5	6 35	2 11	3 32	4 33									16 116
Ⅶ	182	土坑	点数 重量	2 12	2 28		2 46				1 7						7 93
Ⅶ	183	土坑	点数 重量	5 19	3 26		1 3										9 48
Ⅶ	185	土坑	点数 重量	5 27	3 14												8 41
Ⅶ	186	土坑	点数 重量	4 10	4 16		2 10										10 26
Ⅶ	187	土坑	点数 重量	2 7	6 8												8 15
Ⅶ	189	土坑	点数 重量					1 44									1 44
Ⅶ	192	土坑	点数 重量				2 67										2 67



## 未掲載遺物一覧

区	遺構 No.	遺構種	土師器			須恵器				黒色土器		灰輪陶器		緑輪陶器		瓦	不明	その他	合計
			杯・ 碗類	費	不明	杯・碗	長頸 瓶	費	羽釜・ 甌	不明	杯・ 碗類	壺	椀・皿	瓶類	不明				
Ⅶ	194	土坑	点数 重量	1 14															1 14
Ⅶ	203・ 204	土坑	点数 重量	2 21	1 3		3 65	1 7				5 31							12 127
Ⅶ	206	土坑	点数 重量		4 6														4 6
Ⅶ	208	土坑	点数 重量	5 20	4 62	4 72		2 74	2 26										17 254
Ⅶ	209	土坑	点数 重量			2 12													2 12
Ⅶ	210	土坑	点数 重量	1 1		1 3													2 4
Ⅶ	212	土坑	点数 重量	1 1	6 109	1 30					1 2								9 142
Ⅶ	1	土坑	点数 重量	1 8		1 26													2 34
Ⅶ	2	土坑	点数 重量				1 232					1 14							2 246
Ⅶ	3	土坑	点数 重量	4 66			2 24	1 35					1 7						8 132
Ⅶ	4	土坑	点数 重量	7 256		3 12	1 11												11 279
Ⅶ	7	土坑	点数 重量	1 13								1 3	1 21						3 37
Ⅶ	8	土坑	点数 重量			1 11		1											1 12
Ⅶ	9	土坑	点数 重量	2 27		1 8		24											27 35
Ⅶ	10	土坑	点数 重量	1 9															1 9
Ⅶ	11	土坑	点数 重量			1 18	1 31												2 49
Ⅶ	15	土坑	点数 重量	1 2	4 29														5 31
Ⅶ	16	土坑	点数 重量	4 12			5 61												9 73
Ⅶ	17	土坑	点数 重量	9 14			1 3												10 17
Ⅶ	20	土坑	点数 重量	1 6				1 29											2 35
Ⅶ	22	土坑	点数 重量	2 56															2 56
Ⅶ	23	土坑	点数 重量	2 22	9 126	1 16		1 23											13 187
Ⅶ	24	土坑	点数 重量	2 6		1 9													3 15
Ⅶ	25	土坑	点数 重量	1 7		1 11													2 18
Ⅶ	26	土坑	点数 重量			1 54													1 54
Ⅶ	27	土坑	点数 重量	3 90		4 21		1 63											8 174
Ⅶ	28	土坑	点数 重量	2 22		1 46		1 738											16 784
Ⅶ	30	土坑	点数 重量	1 8		3 13													4 21
Ⅶ	31	土坑	点数 重量	2 24															2 24
Ⅶ	32	土坑	点数 重量	11 222				3 136				1 5							15 363
Ⅶ	33	土坑	点数 重量	1 3		3 43		4 31											8 77
Ⅶ	35	土坑	点数 重量			1 10		6 100				1 4							8 114
Ⅶ	37	土坑	点数 重量	1 1	7 64														8 65
Ⅶ	38	土坑	点数 重量			1 11													1 11

区	遺構 No.	遺構種	土師器			須恵器			黒色土器		灰輪陶器		緑輪陶器		瓦	不明	その他	合計
			杯・ 碗類	費	不明	杯・ 碗類	長頸 瓶 他	費	羽釜・ 甌	不明	杯・ 碗類	壺	椀・皿 瓶類	不明				
Ⅶ	41	土坑	点数 重量	2 42		1 18		1 24				1 5					5 89	
Ⅶ	43	土坑	点数 重量	1 14		1 3			1 106								3 123	
Ⅶ	44	土坑	点数 重量	3 25				1 7									4 32	
Ⅶ	45	土坑	点数 重量	3 14	1 6	2 3		2 11	7 93								15 127	
Ⅶ	47	土坑	点数 重量			3 96		1 26	1 34								5 156	
Ⅶ	57	土坑	点数 重量			3 34											3 34	
Ⅶ	58	土坑	点数 重量					2 40									2 40	
Ⅶ	59	土坑	点数 重量												1 58		1 58	
Ⅶ	61	土坑	点数 重量	1 3	5 16	2 4											8 23	
Ⅶ	62	土坑	点数 重量	3 8		2 8											5 16	
Ⅶ	63	土坑	点数 重量	2 2		2 9											4 11	
Ⅶ	64	土坑	点数 重量	1 14		1 60											2 74	
Ⅶ	65	土坑	点数 重量			1 4											1 4	
Ⅶ	69	土坑	点数 重量	1 4													1 4	
Ⅸ	1	土坑	点数 重量					1 19									1 19	
Ⅸ	2	土坑	点数 重量	1 6													1 6	
Ⅸ	4	土坑	点数 重量							2 10							2 10	
Ⅸ	6	土坑	点数 重量	3 60													3 60	
Ⅸ	7	土坑	点数 重量								1 2						1 2	
Ⅸ	8	土坑	点数 重量			1 6		1 5									2 11	
Ⅸ	10	土坑	点数 重量	2 5					1 28								3 33	
Ⅸ	11	土坑	点数 重量			1 9											1 9	
Ⅸ	12	土坑	点数 重量	1 4	1 6	2 12											4 22	
Ⅸ	15	土坑	点数 重量					1 9									1 9	
Ⅸ	19	土坑	点数 重量	4 13		1 3		2 36									7 52	
Ⅸ	26	土坑	点数 重量				1 9										1 9	
Ⅸ	27	土坑	点数 重量	9 25													9 25	
Ⅸ	28	土坑	点数 重量			8 41		2 61									10 102	
Ⅸ	34	土坑	点数 重量	1 2						1 2	1 1						3 5	
Ⅸ	38	土坑	点数 重量	1 5		1 2		1 41									3 48	
Ⅸ	39	土坑	点数 重量						1 16								1 16	
Ⅸ	40	土坑	点数 重量	2 19		1 24											3 43	
Ⅸ	42	土坑	点数 重量	2 7	3 153	2 13			1 93	1 45							9 311	
Ⅸ	43	土坑	点数 重量										1 1				1 1	

## 未掲載遺物一覧

区	遺構 No.	遺構種	土師器			須恵器			黒色土器		灰輪陶器		緑輪陶器		瓦	不明	その他	合計
			杯・ 碗類	費	不明	杯・碗 類	長頸 瓶 他	費	不明	羽釜・ 甌	不明	杯・ 碗類	壺	椀・皿 瓶類				
IX	46	土坑	点数	4			10		2				1					17
			重量	9			68		89				4					
IX	43	土坑	点数		24		92		14				4					134
			重量		332		467		325				14					
IX	44	土坑	点数	1			1			2								4
			重量		8			11			166							
IX	45	土坑	点数				8		3									11
			重量					35		221								
IX	50	土坑	点数	1			1											2
			重量		50			4										
IX	51	土坑	点数	2			1		1									4
			重量		8			3		15								
X	8	土坑	点数				1		1									2
			重量					41		5								
X	9	土坑	点数				1											1
			重量					36										
X	11	土坑	点数	2														2
			重量		7													
X	16	土坑	点数	1			1											2
			重量		1			1										
X	17	土坑	点数	2														2
			重量		4													
X	18	土坑	点数				2											2
			重量					37										
X	19	土坑	点数				2											2
			重量					19										
X	20	土坑	点数	1			2											3
			重量		1			6										
X	21	土坑	点数		2													2
			重量		15													
X	23	土坑	点数	1														1
			重量		9													
X	26	土坑	点数	5														5
			重量		24													
X	27	土坑	点数				1											1
			重量					32										
X	30	土坑	点数	5														5
			重量		16													
X	32	土坑	点数				1											1
			重量					5										
X	33	土坑	点数				3											3
			重量					7										
X	35	土坑	点数		2		1											3
			重量		12			2										
X	36	土坑	点数		5		1											6
			重量		8			2										
X	38	土坑	点数	11			8											19
			重量		36			35										
X	41	土坑	点数				3											3
			重量					8										
X	45	土坑	点数	6			1											7
			重量		12			6										
X	46	土坑	点数				1		2									3
			重量					6		55								
X	47	土坑	点数				3											3
			重量					40										
X	49	土坑	点数	5			2											7
			重量		11			7										
X	50	土坑	点数				2											2
			重量					16										
X	55	土坑	点数	3	15		1		2									21
			重量		8	482		13		17								
X	57	土坑	点数	5			3											8
			重量		9			44										
X	59	土坑	点数				1											1
			重量					42										
X	60	土坑	点数	27	5		15					1						48
			重量		72	166		75					2					

区	遺構 No.	遺構種	土師器			須恵器			黒色土器		灰釉陶器		緑釉陶器		瓦	不明	その他	合計
			杯・ 碗類	費	不明	杯・碗	高脚 皿	費	羽釜・ 甌	不明	杯・ 碗類	壺	椀・皿	瓶類				
X	68	土坑	点数 重量	1 7													1 7	
XI	1	土坑	点数 重量			1 6		1 8									2 14	
XII	1	土坑	点数 重量									1 7					1 7	
XII	2	土坑	点数 重量	3 30		1 6											4 36	
XII	6	土坑	点数 重量	1 3													1 3	
XII	7	土坑	点数 重量	1 28													1 28	
XII	8	土坑	点数 重量	8 20	13 60	3 25		3 35	6 125								33 265	
XII	9	土坑	点数 重量	8 20		2 10		7 57	23 765		1 7						41 859	
XII	11	土坑	点数 重量					2 33									2 33	
XII	14	土坑	点数 重量			1 4		1 10									2 14	
XII	15	土坑	点数 重量	1 3					1 34								2 37	
XII	19	土坑	点数 重量	1 11		3 19											4 30	
XII	20	土坑	点数 重量														0 0	
XII	21	土坑	点数 重量	1 3		2 78											3 81	
XII	23	土坑	点数 重量		2 30												2 30	
XII	25	土坑	点数 重量	3 9	2 14	1 4		2 40			2 12						10 79	
XII	28	土坑	点数 重量	1 3		1 37											2 40	
XII	29	土坑	点数 重量	3 4		3 20			13 181		1 3						20 208	
XII	30	土坑	点数 重量								1 18						1 18	
XII	31	土坑	点数 重量	2 8					10 88								12 96	
XII	35	土坑	点数 重量					2 46									2 46	
XII	36	土坑	点数 重量	1 31													1 31	
XII	37	土坑	点数 重量	4 17	9 104	7 53		10 276									30 450	
XII	38	土坑	点数 重量			5 11											5 11	
XII	39	土坑	点数 重量	1 10		1 10											2 20	
XII	41	土坑	点数 重量	2 18		2 4		1 15	3 15								8 52	
XII	42	土坑	点数 重量	2 11	2 17	3 58		3 58									10 144	
XII	43	土坑	点数 重量	4 25		4 40			4 60								12 125	
XII	44	土坑	点数 重量	2 7	11 76	7 152											20 235	
XII	46	土坑	点数 重量	1 2		2 13										1 7	4 22	
XII	47	土坑	点数 重量	1 2		4 32		1 9	2 16								8 59	
XII	48	土坑	点数 重量	2 4	3 30						3 33						8 67	
XII	49・50	土坑	点数 重量					1 24	2 31		1 5						4 60	
XII	51	土坑	点数 重量	10 35		3 23					1 3						14 61	

## 未掲載遺物一覧

区	遺構 No.	遺構種	土師器			須恵器				黒色土器			灰釉陶器			緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計
			杯・ 碗類	費	不明	杯・碗	長頸 壺	費	羽釜・ 甗	不明	杯・ 碗類	壺	楕・皿	瓶類	不明	碗・皿	瓶類	不明				
XII	52	土坑	点数 重量	4 10		3 17										1 1						8 28
XII	53	土坑	点数 重量	7 22		10 63			13 147				1 4									31 236
XII	57	土坑	点数 重量	1 5		1 2																2 7
XII	59	土坑	点数 重量	4 5		2 6			7 85				1 24									14 120
XII	60	土坑	点数 重量			2 13		3 68														5 81
XII	61	土坑	点数 重量	5 35		1 7																6 42
XII	62	土坑	点数 重量					1 12	3 22													4 34
XII	65	土坑	点数 重量			4 20			1 38													5 58
XII	67	土坑	点数 重量	1 4		4 42							1 3									6 49
XII	68	土坑	点数 重量	4 24		3 31		1 5														8 60
XII	69	土坑	点数 重量			1 14			1 22				1 5									3 41
XII	70	土坑	点数 重量			3 20			3 40											1 3	7 62	軟質陶器
XII	71	土坑	点数 重量	1 2		1 8			1 52													3 62
XII	73	土坑	点数 重量						2 211													2 211
XII	74	土坑	点数 重量	2 11				2 89														4 100
XII	75	土坑	点数 重量						1 42													1 42
XII	76	土坑	点数 重量	2 16		3 31		2 39	2 57													9 143
XII	77	土坑	点数 重量			1 8																1 8
XII	80	土坑	点数 重量	2 18		1 18			1 36													4 72
XII	81	土坑	点数 重量						2 36				1 5									3 41
XII	85	土坑	点数 重量			10 19						4 13	1 3									15 35
V	4	ピット	点数 重量						7 250													7 250
V	10	ピット	点数 重量			1 5																1 5
VI	12	ピット	点数 重量	1 3					1 3													2 6
VI	14	ピット	点数 重量					1 12														1 12
VI	20	ピット	点数 重量	1 3																		1 3
VI	31	ピット	点数 重量	1 12																		1 12
VI	37	ピット	点数 重量	1 5																		1 5
VII	3	ピット	点数 重量	3 12																	1 11	4 23
VII	5	ピット	点数 重量	1 3		1 4																2 7
VII	6	ピット	点数 重量	2 4																		2 4
VII	7	ピット	点数 重量	10 63	7 71																	17 134
VII	8	ピット	点数 重量	1 16	2 7																	3 23
VII	9	ピット	点数 重量	2 7	2 17																	4 24

区	遺構 No.	遺構種	土師器			須恵器				黒色土器		灰輪陶器		緑輪陶器		瓦	不明	その他	合計
			杯・ 碗類	費	不明	杯・碗 類	長頸 瓶 他	費	羽釜・ 甌	不明	杯・ 碗類	壺	椀・皿 瓶類	不明	椀・皿 瓶類				
VII	11	ビット	点数 重量	1 4			2 70												3 74
VII	13	ビット	点数 重量				1 8												1 8
VII	14	ビット	点数 重量		2 7														2 7
VII	15	ビット	点数 重量				3 15												3 15
VII	17	ビット	点数 重量	1 4			5 28												6 32
VII	22	ビット	点数 重量	1 5															1 5
VII	31	ビット	点数 重量	1 3															1 3
VII	2	ビット	点数 重量		1 21		2 7												3 28
VII	7	ビット	点数 重量		2 59														2 59
IX	8	ビット	点数 重量		2 28		1 2												3 30
IX	9	ビット	点数 重量	1 11															1 11
X	4	ビット	点数 重量	2 5			1 4												3 9
X	9	ビット	点数 重量				1 10												1 10
XI	7	ビット	点数 重量	3 13				1 23											4 36
XI	9	ビット	点数 重量		3 9														3 9
XI	16	ビット	点数 重量				1 16												1 16
XI	19	ビット	点数 重量	1 2				2 75											3 77
XI	20	ビット	点数 重量	1 3															1 3
XI	25	ビット	点数 重量					2 43											2 43
XI	27	ビット	点数 重量		1 5						1 1								2 6
XI	28	ビット	点数 重量	1 13															1 13
XI	32	ビット	点数 重量		2 11			1 26											3 37
XI	38	ビット	点数 重量					1 25											1 25
XI	39	ビット	点数 重量	1 2	1 6														2 8
XI	42	ビット	点数 重量	1 2															1 2
XI	43	ビット	点数 重量	1 43								1 4							2 47
XI	45	ビット	点数 重量	1 8				2 9											3 17
XI	46	ビット	点数 重量									1 6							1 6
XI	48	ビット	点数 重量					1 24											1 24
XI	50	ビット	点数 重量	1 6	1 7					1 5									3 18
XI	51	ビット	点数 重量		1 11														1 11
XI	52	ビット	点数 重量				1 2	1 36											2 38
XI	53	ビット	点数 重量					1 8											1 8
XI	54	ビット	点数 重量				1 5												1 5

## 未掲載遺物一覧

区	遺構 No.	遺構種	土師器			須恵器			黒色土器			灰輪陶器			緑輪陶器			瓦	不明	その他	合計
			杯・ 碗類	費	不明	杯・ 碗	長頸の 壺	費	不明	羽釜・ 甌	不明	杯・ 碗類	壺	椀・ 皿	瓶類	不明	椀・ 皿				
XII	55	ピット	点数 重量			1 5		1 5												2 10	
XII	56	ピット	点数 重量	2 11																2 11	
XII	59	ピット	点数 重量					2 32												2 32	
XII	65	ピット	点数 重量	1 15																1 15	
XII	66	ピット	点数 重量	1 96																1 96	
XII	67	ピット	点数 重量									1 3								1 3	
XII	81	ピット	点数 重量	1 17																1 17	
XII	82	ピット	点数 重量	1 47																1 47	
XII	89	ピット	点数 重量						2 26			1 6								3 32	
XII	92	ピット	点数 重量			1 5														1 5	
XII	110	ピット	点数 重量			2 19		1 27												3 46	
XII	111	ピット	点数 重量	1 6																1 6	
XII	116	ピット	点数 重量	1 4																1 4	
V	1	溝	点数 重量	7 38		1 17	1 71	2 17												11 143	
V	2	溝	点数 重量	4 15 30	6 30	3 17	7 113	6 113				2 6	2 18							23 199	
V	5	溝	点数 重量	2 9	2 24	2 24		1 35						1 1						6 69	
V	6	溝	点数 重量	1 2 44	9 44	1 3	1 32	1 32												12 81	
V	7	溝	点数 重量	9 59 194	17 194	9 66	1 28	1 28												36 347	
V	7・8	溝	点数 重量	95 300 253	50 253	24 220	2 34	14 432					1 2							186 1241	
V	10	溝	点数 重量	9 50 406	44 406	7 41	1 30	1 10				1 3								63 540	
V	10・11	溝	点数 重量	4 13 332	21 332	1 2														26 347	
V	11	溝	点数 重量	2 6 13	3 13	3 57	1 117	1 117												9 193	
V	12	溝	点数 重量			1 26	1 53	1 53												2 79	
V	13	溝	点数 重量			1 16	1 71	1 71												2 87	
VI	1	溝	点数 重量	33 127 806	206 806	74 429	17 478	17 478				6 21								336 1861	
VI	2	溝	点数 重量	23 91 302	64 302	23 182	14 492	14 492				3 13								127 1080	
VI	3	溝	点数 重量	7 18 105	36 105	6 41														49 164	
VI	4	溝	点数 重量			5 21	3 35	3 35												8 56	
VI	5	溝	点数 重量	1 1 12	6 12		1 8	1 8												8 21	
VI	6	溝	点数 重量	63 159 250	64 250	29 177	6 227	6 227				1 3								163 816	
VI	7	溝	点数 重量	1 4 6	2 6	2 6														5 16	
VI	8	溝	点数 重量	1 5	1 15	1 15														2 20	
VI	9	溝	点数 重量	41 195 890	139 890	43 496	3 130 1253	29 112	5 112			7 77						2 33	269 3186	縄文	
VI	10	溝	点数 重量	7 35 10	2 10	3 36	1 33	1 33												13 114	

区	遺構 No.	遺構種	土師器			須恵器			黒色土器			灰釉陶器			緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計
			杯・ 碗類	甕	不明	杯・碗	高脚 皿	甕	羽釜・ 甌	不明	杯・ 碗類	壺	検・皿	瓶類	不明	検・皿	瓶類				
VI	12	溝	点数 垂量					1												1	
								4												4	
VI	13	溝	点数 垂量	74 370	35 278		21 116		8 191	1 9									1 79	140 1043	
VI	14	溝	点数 垂量	19 57	141 938		11 159	1 6	12 254	1 8										185 1422	
VI	15・35	溝・ 上坑	点数 垂量	10 53		2 35		1 11											1 17	14 116	
VI	16	溝	点数 垂量	2 24																2 24	
VI	17	溝	点数 垂量	27 125	116 878		33 389	27 601	3 85			3 19								209 2097	
			点数 垂量	4 15	8 31		3 36	4 61												19 143	
VI	18	溝	点数 垂量	3 13																3 13	
VI	19	溝	点数 垂量	1 6	5 47		2 21	3 25												11 99	
VI	42	溝	点数 垂量	46 137	17 224		43 409	12 476				5 24				2 6				125 1276	
VII	1	溝	点数 垂量	16 40	17 212		17 148	6 360	1 48			5 16								62 824	
VII	2	溝	点数 垂量	70 182	146 1179		58 311	1 17	32 565	2 54		23 88								332 2396	
VII	3	溝	点数 垂量	16 53		6 32		2 80	1 24											25 189	
VII	4	溝	点数 垂量	35 233		14 110	1 24	12 231	2 61			2 9	1 6							67 674	
VII	5	溝	点数 垂量	2 9	3 14			3 49												8 72	
VII	6	溝	点数 垂量	32 83	35 380		11 86	2 22	1 15			2 5	1 8							84 599	
VII	8	溝	点数 垂量	22 110	112 1569		47 560	34 1436	2 72			16 160	1 43							234 3950	
VII	9	溝	点数 垂量	24 293	21 520		20 177	2 41	8 422	5 472		9 48								89 1973	
VII	10	溝	点数 垂量	78 221	33 559		39 278	23 1056	4 130			12 66								189 2310	
VII	11	溝	点数 垂量	14 78	1 54		11 173	38 1257	1 39			3 38	5 128							73 1767	
VII	12	溝	点数 垂量	9 25	23 80		12 67	6 72	10 105			8 59								68 408	
VIII	1	溝	点数 垂量	5 10	16 161		11 205	2 274	14 420			1 2								49 1072	
VIII	2	溝	点数 垂量	1 23		3 45														4 68	
VIII	3	溝	点数 垂量						1 43											1 43	
VIII	7	溝	点数 垂量																		
IX	11	溝	点数 垂量									1 3	1 20							2 22	
X	1	溝	点数 垂量	6 14	9 157		7 20													191 191	
X	2	溝	点数 垂量	29 82	18 84		8 89				1 2								1 35	57 292	
X	3	溝	点数 垂量	22 36	30 170		5 15	3 17	2 37											62 275	
X	4	溝	点数 垂量	5 22	27 75		11 117	1 81	8 157			1 2								53 454	
X	5	溝	点数 垂量	17 38	13 56		14 65	2 23				1 1								47 183	
X	6	溝	点数 垂量	417 1955	160 1418		411 3227	61 2000				37 221	6 78		10 29					1102 9458	
X	7	溝	点数 垂量	17 58	16 85		25 112	3 37				1 2								62 365	
X	8	溝	点数 垂量	16 41	7 45		4 361	10 274				6 11		1 1						81 817	
X	9	溝	点数 垂量				2 25	5 88	3 84			2 8								12 232	





区	遺構 No.	遺構種	土師器		須恵器		黒色土器		灰輪陶器		緑輪陶器		瓦	不明	その他	合計		
			杯・ 碗類	費	不明	杯・碗 類	長頸 瓶 他	費	羽釜・ 甌	不明	杯・ 碗類	壺					椀・皿	瓶類
VI	2	不明遺構 D-5	点数	3	9												12	
			重量	8	29													37
VI	2	不明遺構 E-1	点数	4				1									5	
			重量	18				13										31
VI	2	不明遺構 E-2	点数	23	17		16	1									57	
			重量	43	40		76	13										172
VI	2	不明遺構 E-3	点数	35	42		19	4									100	
			重量	81	132		92	83										388
VI	2	不明遺構 E-4	点数	20	30		16	2									68	
			重量	39	76		76	41										232
VI	2	不明遺構 E-5	点数	14	15		1										30	
			重量	43	25		14											82
VI	2	不明遺構 F-1	点数	8	1		1										9	
			重量	13	1		1											14
VI	2	不明遺構 F-2	点数	17	23		10										50	
			重量	39	49		61											149
VI	2	不明遺構 F-3	点数	11	49		22										82	
			重量	36	119		111											266
VI	2	不明遺構 F-4	点数	8	22		9	1									40	
			重量	34	67		54	16										171
VI	2	不明遺構 F-5	点数	14	4		1										19	
			重量	29	26		90											145
VI	2	不明遺構 G-1	点数	7	6		2	1									16	
			重量	6	21		5	13										45
VI	2	不明遺構 G-2	点数	11	28		5										44	
			重量	26	77		15											118
VI	2	不明遺構 G-3	点数	13	33		9	3	2								60	
			重量	35	203		40	44	38									360
VI	2	不明遺構 G-4	点数	8	19		17	2									46	
			重量	26	195		97	26										344
VI	2	不明遺構 G-5	点数	5	10		5	2									22	
			重量	8	70		22	11										111
VI	2	不明遺構 H-1	点数	3	2												5	
			重量	4	11													15
VI	2	不明遺構 H-2	点数	4	8		2	1									15	
			重量	5	46		3	24										78
VI	2	不明遺構 H-3	点数	7	18		12	1									39	
			重量	8	178		67	69					1					18
VI	2	不明遺構 H-4	点数	7	15		1	1									24	
			重量	56	78		6	30										170
VI	2	不明遺構 H-5	点数	3	3		3										6	
			重量	20	43		43											63
VI	3	不明遺構	点数	1	2												3	
			重量	3	14													17
VI	4	不明遺構	点数	1	4			1									6	
			重量	2	17			23										42
VII		不明遺構	点数	192	149		71	40	30								483	
			重量	585	841		792	1135	576									3934
VI	D-2	グリップ	点数	11													11	
			重量	16														16
V	2	面	点数	1366	1450		684	4	69	281		1		60	14	1	2	3932
			重量	4237	8464		7285	88	2015	5710		15		350	159	18		
VI	2	面	点数	238	1946		428	10	209	16				24	7		17	2795
			重量	1413	12899		4067	113	4914	354					199	72		
VII	1	面	点数	1				2										3
			重量	1				21										
VIII	1	面	点数	10	28		8	8	1									67
			重量	28	341		114	153	43									
IX	1	面	点数	1	2		1	7										13
			重量	3	28		2	463										
IX	2	面	点数	10	30		19	10	6				2		6	8		91
			重量	36	432		215	498	279		20		21	94				
X	1	面	点数	62	141		51	35										291
			重量	170	1036		321	607										
X	2	面	点数	309	860		561	2	118	272								2191
			重量	1370	5090		4857	33	4140	4753								
XII	1	面	点数	16	23		13	69										127
			重量	50	84		84	199	744									



## 抄 録

書名ふりがな	たぐちしもたじりいせき
書 名	田口下田尻遺跡
副 書 名	一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書
巻 次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	第625集
編著者名	新倉明彦・矢口裕之
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20170317
作成法人 I D	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住 所	群馬県渋川市北碓町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	たぐちしもたじりいせき
遺 跡 名	田口下田尻遺跡(前橋市0008遺跡)
所在地ふりがな	ぐんまけんまえばししたぐちまち・せきねまち
遺跡所在地	群馬県前橋市田口町・関根町
市町村コード	10201
遺跡番号	0008
北緯(世界測地系)	362632
東経(世界測地系)	1390249
調査期間	20110501-20120331/20130401-20130831
調査面積	15630
調査原因	道路建設
種 別	田畑
主な時代	古墳/飛鳥/奈良/平安/中・近世
遺跡概要	集落-古墳-住居5+飛鳥-住居3+奈良-住居12+平安-住居260+古代-住居24+古代-竪穴15+古代-掘立柱建物6+土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器/溝-古代-44+中・近世-15/土坑-古代-592+中・近世-19/鍛冶-平安-3+製鉄関連遺物/集石-古代7/配石-中・近世-2/墓坑-平安-3+中世-1/畠・耕作痕-古代-5+中・近世-2/復旧痕-近世-12
特記事項	浅間山の天明噴火災害の復旧作業に伴う遺構、奈良～平安時代の大規模な集落と平安時代の製鉄炉を含む鍛冶遺構、集落からは丸軋・極衡が出土し、緑釉陶器が多数出土した。
要 約	旧利根川の自然堤防上から見つかった古代集落で、隣接する過年度の調査区と合わせて、最盛期の10世紀には約270棟の竪穴住居が検出された。調査区内では集落は古墳時代3世紀後半にはじまり、古墳時代後半の集落空白期を経て、平安時代に急激に拡大した。

公益財団法人群馬埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第625集

## 田口下田尻遺跡 本文編

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書

---

平成29(2017)年3月10日 印刷

平成29(2017)年3月17日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／松本印刷工業株式会社

---



# 田口下田尻遺跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書

遺物観察表・写真図版編

2017.3

国 土 交 通 省  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

# 田口下田尻遺跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書

遺物観察表・写真図版編

2017.3

国 土 交 通 省  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 遺物觀察表



## V区3号段旧土

神岡 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/構成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考			
第25段 PL-388	1	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢	理上 底部片	口 底	— —	高 —	— —	微塵量含む。/灰 白/	底部回転糸切無調整。底部内面すり目。内外面踏輪軸輪後、 外面を扱う。	江戸時代。
第25段 PL-388	2	在地系土器 焙烙 口縁部1/8	理上 口縁部1/8	口 底	— —	高 —	— —	白色。黒色鉱物粒 含む。/灰白/	断面灰白色。器表黒色。体部内面下位器表のみ灰白色。内 面に1箇所内耳貼り付け痕残る。体部外面下端磨削り。	江戸時代。
第25段 PL-388	3	鉄製品 不詳	理上 一部欠損	長 幅	10.9 1.5	厚 重	1.3 19.02		断面正方形の角棒状で一端に向かへへ細くなりやや尖る。角 釘破片とみられるが頭部は劣化破損し詳細は不明。	

## V区1面2号溝

第32段 PL-388	1	肥前磁器 碗	理上 体部から底部 1/5	口 底	— (4.2)	高 —	— —	— —	夾雑物含まない。 /白/	外面染付。内面無文。高台内1重彫線。	17世紀後葉～ 18世紀中葉。
第32段 PL-388	2	瀬戸・美濃 陶器 菊皿か	理上 底部1/2	口 底	— (6.6)	高 —	— —	— —	夾雑物含まない。 /灰白/	底部内面周縁の素地に波状の凹凸がある。内面から高台内 内周縁厚い長石軸。貫入入る。底部内面と高台内に円彫ピン 痕2ヶ所。	17世紀前葉～ 中葉。
第32段 PL-388	3	丹波陶器 すり鉢	理上 口縁部片	口 底	— —	高 —	— —	— —	礫含む。/淡黄/ 口縁部上方に屈曲し、玉縁状を呈する。内外面踏輪。		17世紀後半～ 18世紀前半。
第32段 PL-388	4	常滑陶器 費か	理上 体部片	口 底	— —	高 —	— —	— —	鉱物粒少量含む。 /灰/	断面灰色。器表にふい。褐色。外面刷毛状工具による斜位磨 で。内面横位断面。	
第32段 PL-388	5	在地系土器 片口鉢か	理上 口縁部片	口 底	— —	高 —	— —	— —	白色鉱物粒含む。 /橙/	断面褐色。器表黒褐色。口縁部端面上面平坦。口縁部端内 面小さく突き出る。	中世。
第32段 PL-388	6	在地系土器 内耳皿	理上 口縁部片	口 底	— —	高 —	— —	— —	器壁やや厚く。口縁部短い。内耳は粘土層を器壁に通して いる可能性高い。口縁部は実測より開く可能性高い。		14世紀後半～ 15世紀中葉。

## VII区1面2号溝

第34段	1	須恵器 椀	理上 口縁部下位～底 部1/4	底	6.0				細砂粒/酸化焰/淡 黄	ロク口整形。回転右回り。底部は回転ナデ。高台は貼付。	
第34段	2	埴輪陶器 皿	理上 底部片	底	8.6 8.4				微砂粒/還元焰/黄 灰	ロク口整形。高台は貼付。全面的に施輪。	
第34段	3	須恵器 長頸壺	理上 口縁部片	口	10.5				細砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形。	

## VII区1面3号溝

第35段	1	須恵器 杯	理上 口縁部下位～底 部1/4	底	6.8				細砂粒/還元焰/褐 灰	ロク口整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第35段	2	須恵器 鉢	理上 口縁部片						細砂粒/還元焰/淡 黄	ロク口整形。	
第35段	3	埴輪陶器 椀	理上 口縁部下位～高 台部	底	7.5 6.9				微砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形。回転右回り。底部は回転ナデ。高台は貼付。 施輪方法不明。	大原2号窯式 期。
第35段	4	埴輪陶器 小瓶	理上 底部片	底	5.8				微砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。施輪 方法不明。	
第35段	5	土師器 費	理上 口縁部～胴部上 位片	口	20.4				細砂粒・粗砂粒/ 良好/灰黄褐色	口縁部は横ナデ。胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	

## VII区1面5号溝

第36段	1	須恵器 椀	理上 高台部	底	6.1 6.3				細砂粒/酸化焰/橙	ロク口整形。回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第36段	2	埴輪陶器 椀	理上 口縁部上位～高 台部1/2	底	7.2 6.8				微砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形。回転右回り。底部は回転ナデ。高台は貼付。 施輪方法不明。	大原2号窯式 期。
第36段	3	須恵器 費	理上 口縁部片						細砂粒/還元焰/赤 灰	ロク口整形。	

## VII区1面8号溝

第38段	1	須恵器 杯蓋	理上 高台部	幅	5.8				細砂粒/酸化焰/明 黄褐色	ロク口整形。回転右回り。握みは貼付。	
第38段 PL-388	2	瀬戸・美濃 陶器 尾呂碗	理上 口縁部片	口 底	— —	高 —	— —	— —	白色。黒色鉱物粒少量 含む。/灰/	胎輪軸輪後、口縁部に灰輪軸輪。	17世紀後葉～ 18世紀前葉。

## X区1面2号溝

第41段	1	須恵器 直直土 底部片	底	5.8					細砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第41段	2	埴輪陶器 皿	理上 底部片	底	6.7 6.0				微砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形。回転右回り。底部は回転ナデ。高台は貼付。	光ヶ丘1号窯 式期か。
第41段 PL-388	3	鉄製品 不詳	理上	長 幅	4.7 0.8	厚 重	0.6 3.25			断面円形の丸棒状鉄製品。端部は丸く反対側は劣化破損す る。	

## VII区1号溝

第42段 PL-388	1	土製品 土鉢	理上 完形	長 径	3.3 1.3	孔 重	0.4 4.4		微砂粒/良好/に よ い黄橙	外面はナデ。	
第42段 PL-388	2	土製品 土鉢	理上 破片	径 孔	1.5 0.6				微砂粒/良好/赤 褐色	外面はナデ。	

## VII区5号土坑

第48段 PL-388	1	石製品 砥石	理上	長 幅	(5.6) (2.6)	厚 重	(1.4) 31.0		砥沢石	砥面は正面認められる。裏面、内側面、上面には御湯タガ ネ痕が明確に認められる。下部欠損。	
----------------	---	-----------	----	--------	----------------	--------	---------------	--	-----	---	--

## VII区6号土坑

検出 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第44回 PL-388	2	銅製品 不詳	埋土 一部欠損	長 1.6 幅 1.3 厚 0.1 重 0.32		厚さ0.5mmほどの薄い板で周囲は凸凹するが円形に近い。全体に劣化が著しく破損し詳細は不明。	

## VII区13号土坑

第45回	1	須臾器 羽釜	底から11cm上 口縁部～胴部上 位片	口 17.6 底 21.8		細砂粒/酸化焰/明 灰黄	口クロ整形、罫は貼付。胴部に内線が通る。	
------	---	-----------	---------------------------	------------------	--	-----------------	----------------------	--

## VII区17号土坑

第45回	2	土師器 甕	埋土 口縁部片	口 13.6		細砂粒/良好/灰黄 褐色	口唇部はナデ、胴部はヘラナデ。内面はヘラナデ。	
------	---	----------	------------	--------	--	-----------------	-------------------------	--

## Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ区1面 遺構外

第46回 PL-388	1	肥前陶器 引器手碗	V区1面一括 体部以下1/4	口 一 底 (4.8)	高 一	夾雑物ほとんど含 まない。/灰黄/	高台端部を除き透明釉。買入る。高台内の挟り浅い。	17世紀末～ 18世紀前半。
第46回	2	瀬戸・美濃 陶器 碗	V区1面一括 体部1/3、底部 1/2	口 一 底 (4.7)	高 一	白色鉱物粒少量含 む。/灰-浅黄/	内面から高台端部輪。	江戸時代。
第46回 PL-388	3	龍泉窯系 青磁碗	V区1面一括 口縁部片	口 一 底 一	高 一	黒色粒少量含む。 /灰白/	器壁やや厚く、端部丸みを帯びる。	15・16世紀。
第46回 PL-388	4	瀬戸・美濃 陶器 皿	V区1面一括 底部1/4	口 一 底 一	高 一	夾雑物ほとんど含 まない。/灰白/	内外面灰釉。買入る。丸皿か。	大室期。
第46回 PL-388	5	瀬戸・美濃 陶器 鉢	X区1面一括 口縁部片	口 一 底 一	高 一	夾雑物含まない。 /淡黄/	口縁部外反して非厚。内外面黄瀬戸釉。内面脚輪流す。	17世紀中葉～ 後葉。
第46回 PL-388	6	龍泉窯系 青磁碗	X区1面一括 体部片	口 一 底 一	高 一	夾雑物ほとんど含 まない。/褐色/	外面片形による縦蓮弁文。内外面青磁釉。	13世紀。

## V区1号住居

第65回 PL-388	1	土師器 碗	カマド使用面か ら5cmと7cm上が 接合	口 11.0 底 5.7	台 7.1 高 5.5	細砂粒・濁粒/良 好/橙	高台は貼付。口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り、底部は高台貼付時のナデのため整形不明。	
第65回 PL-001	2	土師器 碗	床面直上と7cm 上が接合	口 14.8 底 7.2	台 6.7 高 5.1	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	高台は貼付。口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り、底部は高台貼付時のナデのため整形不明。	
第65回 PL-388	3	須臾器 杯	床面から7cm上 3/4	口 9.5 底 5.0	高 3.3	細砂粒・濁粒/酸 化焰/にぶい橙	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第65回 PL-388	4	須臾器 碗	床面から7cmと9 cm上が接合 口縁部一部欠	口 10.6 底 6.0	台 6.9 高 4.9	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	口クロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第65回 PL-389	5	須臾器 碗	カマド使用面直 上と7cm上が接 合	口 10.9 底 6.7	台 6.8 高 5.2	細砂粒・濁粒/酸 化焰/にぶい黄橙	口クロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第65回 PL-389	6	須臾器 碗	床面直上 3/4、台部・口縁 部一部欠	口 14.7 底 7.6	台 8 高 5.8	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/浅黄橙	口クロ整形、回転右回り。底部は高台貼付時のナデで不明。	
第65回 PL-389	7	灰輪陶器 輪化皿	床面から8cm上 口縁部一部欠	口 12.7 底 6.8	台 6.8 高 2.8	微砂粒/還元焰/灰 黄	口クロ整形、回転右回り。	
第66回 PL-388	8	土師器 甕	カマド使用面 5cmと6cmと10cm 上が接合	口 25.5 底 6.0	高 25 幅 26.3	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	
第66回 PL-388	9	須臾器 羽釜	床面直上と5cm と7cm上が接合 3/4、底部欠	口 20.4 底 25.2	台 20	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	口クロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。備輪方法は酒け掛けか。	輪花4カ所。 大原2号窯式 期。

## V区2号住居

第68回 PL-389	1	須臾器 碗	カマド使用面か ら8cm上	口 10.9 底 5.5	台 6.4 高 5.2	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	口クロ整形、回転右回り。底部は高台貼付時のナデで不明。	
第68回 PL-389	2	須臾器 碗	床面直上 口縁部一部欠	口 11.1 底 7.2	台 7.8 高 5.2	細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	口クロ整形、回転右回り。底部は高台貼付時のナデで不明。体部に焼成後の穿孔あり。	
第68回	3	須臾器 碗	埋土	底 5.3		細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第68回	4	須臾器 羽釜	床面から22cm上 口縁部片	口 17.1 底 21.8		細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	口クロ整形、回転右回りか。罫は貼付。	
第68回 PL-389	5	須臾器 羽釜	カマド使用面直 上と7cmと8cm上 が接合 口縁部～胴部上 位片	口 20.9 底 26.0		細砂粒・粗砂粒・ 濁粒/酸化焰/橙	口クロ整形、回転右回りか。罫は貼付。	
第68回 PL-389	6	須臾器 羽釜	カマド使用面直 上と7cm上が接 合 口縁部～胴部上 位1/4	口 25.0 底 28.4		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/橙	口クロ整形？回転不明。罫は貼付、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	

## V区3号住居

棟号 PL.No.	No.	種 類 種 種	出土位置 残 存 率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第69号 PL-389	1	須臾器 羽釜	カマド使用面直上 口縁部片	口 径	24.8 28.8	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/ぶい・黄 橙	ロクロ整形、回転右回りか。罫は貼付。	

## V区4号住居

第71号 PL-389	1	須臾器 椀	床面直上 3/4	口 径	13.2 7.0	台 高	5.9 5.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩・内面焼/ ぶい・黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第71号 PL-389	2	須臾器 羽釜	カマド使用面直上 と6cmと13cm 上が接合 口縁部～胴部中 位1/4	口 径	17.8 21.6			細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。罫は貼付、胴部下平にへら削り。
第71号 PL-389	3	鉄製品 鉄鍔	床面から14cm上 破片	長 幅	2.2 2.1	厚 重	0.4 1.69		無茎鍔の破片で先端および胴側の両端とも劣化破損する。中央部に0.3cm程の内孔を持つが周囲に木質等の痕跡は見られない。

## V区5号住居

第74号 PL-389	1	土師器 杯	埋上 1/4	口 径	12.0			細砂粒/良好/明赤	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら削り。
第74号 PL-389	2	須臾器 杯	貯蔵穴底から19 cm上 3/4	口 径	12.7 5.8	高	3.8	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第74号 PL-389	3	須臾器 杯	貯蔵穴直上と 掘方埋土が接合 3/4	口 径	13.3 6.0	高	4.6	細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第74号 PL-389	4	須臾器 杯	埋上	口 径	12.9 5.2	高	3.9	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩・焼/明赤	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第74号	5	土師器 甕	床面直上と15cm 上が接合 口縁部片	口 径	19.8			細砂粒/良好/赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。
第74号 PL-389	6	鉄製品 刀子	床面直上 破片	長 幅	3.7 1.3	厚 重	2.1 5.90		断面狭三角形でくの字に曲がった刀子破片で、両端は破損後磨化する。
第74号 PL-389	7	鉄製品 釘	床面から6cm上 ほぼ完形	長 幅	5.7 2.8	厚 重	2.7 24.44		先部分で折れ面が角釘で、頭部は丸形の傘状だが全体に厚く硬い錆に覆われ木質等の痕跡は確認できない。
第74号 PL-389	8	鉄製品 釘	床面から10cm上 ほぼ完形	長 幅	2.5 2.5	厚 重	2.3 11.94		先端が細く実る角釘で、頭部は丸形の傘状だが全体に厚く硬い錆に覆われ木質等の痕跡は確認できない。
第74号 PL-389	9	石製品 砥石	埋上 1/3	長 幅	(5.2) 3.1	厚 重	3.2 62.4	砥沢石	砥面は4面認められる。正面は、下方に向かい研ぎ減りする。下部欠損。

## V区12号住居

第74号 PL-389	10	須臾器 杯	掘方直上 1/4	口 径	12.7 6.0	高	4.1	細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第74号 PL-389	11	鉄製品 不詳	一部欠損 一部欠損	長 幅	16.9 1.6	厚 重	1.2 39.81		断面はほぼ正方形で、両端に向かい、細くなり片方は劣化破損もう一方は正常に実る。

## V区6号住居

第76号 PL-390	1	須臾器 杯	掘方直上 口縁部片	口 径	13.0 5.8	高	4.7	細砂粒/還元塩/黄 灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り無調整。
第76号 PL-390	2	埴輪陶器 椀	カマド使用面直上 破片	底 径	7.9 7.8	台 高		火燒物見られない/ 還元塩/赤地/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付。釉薬は透明感のある淡緑色。
第76号 PL-390	3	須臾器 小瓶長頸壺	床面から28cm上 口縁部片	底 径	4.8 4.7	台 高		微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。施釉方法は不明。
第76号 PL-390	4	土製品 羽口	床面直上	長 幅	8.4 8.6	厚 重	8.3 546.41		基部片。内径約2.5cm、厚さ約2～3cm。指頭圧痕あり。胎土は細砂粒。
第76号 PL-390	5	鉄製品 不詳	床面から10cm上 ほぼ完形	長 幅	6.6 3.1	厚 重	2.1 55.16		全体に厚く硬い錆に覆われる鉄製品で、放射割れが多数発生し鈍造とみられる。錆化が著しく詳細形状等不明。

## V区7号住居

第76号 PL-390	6	須臾器 椀	貯蔵穴底から11 cmと13cmが接合 口縁部、底部一 部欠	口 径	13.2 6.6	高	6.1	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰黄	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り無調整。
第76号 PL-390	7	埴輪陶器 小瓶	床面直上 口縁部片	底 径	6.1			細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り無調整。施釉方法は淡け掛付。
第76号 PL-390	8	鉄製品 不詳	掘方直上 ほぼ完形	長 幅	5.7 1.2	厚 重	1.0 9.05		全体に厚く硬い錆に覆われる鉄製品で、錆化が著しく内部は劣化し詳細形状等不明。

## V区8号住居

第78号 PL-390	1	土師器 杯	カマド使用面直上 と17cm上が接 合 1/3	口 径	12.0 6.5	高	4.3	細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐色	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半は手持ちへら削り。底部は破砕か。
----------------	---	----------	----------------------------------	--------	-------------	---	-----	---------------------	-------------------------------------

## V区9号住居

第81号 PL-390	1	土師器 杯	カマド掘方直上 1/4	口 径	11.8 7.6	高	3.0	細砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら削り。
第81号	2	須臾器 蓋	埋上 掴み部～天井中 ほど	口 径	4.0			細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。掴み部は貼付、天井部中ほどは回転へら削り。

種目 PL.No.	No.	種類	出上位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第81図 PL.390	3	須恵器 椀	床面から6cm下 1/2	口 14.0 底 5.8	細砂粒/還元焰・ 焼/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切りががすかに残る。高台は貼付が剥落。	
第81図	4	土師器 台付甕	床面から7cm上 胴部中央～底部 1/4	口 8.1	細砂粒/良好/橙	胴部と脚部は接合。胴部はへう削り、脚部は横ナデ。内面は胴部がへうナデ。	外面と脚部内面にスズ?付着。
第81図	5	土師器 甕	床面から17cm上 口縁部～胴部上 位片	口 13.8 胴 15.8	細砂粒/良好/にぶ い赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう削り。内面は胴部がへうナデ。	
V区10号住居							
第81図 PL.390	6	須恵器 杯	床面から5cm下 1/4	口 11.2 底 7.0	高 3.3 細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。口縁部や底部に重ね置き痕が残る。	
第81図	7	須恵器 杯	貯蔵穴底から53 cm上と貯蔵穴の 床から23cm上が 接合 口縁部～底部片	口 12.2 底 4.8	高 3.1 細砂粒/還元焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第81図	8	須恵器 椀	カマド使用面か ら5cm上 1/4	口 13.6 底 6.2	台 5.8 4.6 細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第81図	9	須恵器 羽釜	床面直上と貯蔵 穴底から25cmと 30cm上が接合 口縁部片	口 23.6 脚 27.3	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。罫は貼付。	
V区11号住居							
第83図	1	土師器 上杯	床面直上 1/4	口 13.6 底 7.0	高 4.4 細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤褐色	口縁部は横ナデ、体部と底部はへう削り、口縁部下にナデ部分が残る。	
第83図	2	土師器 羽釜	床面直上 口縁部片	口 20 脚 23.7	細砂粒/還元焰/橙	ロクロ整形、回転右回りか。罫は貼付。	
V区13号住居							
第86図	1	須恵器 杯	床面から5cm下 と榎方理土が接 合 1/3	口 12.4 底 7.2	高 3.4 細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。内外面に陶灰付着。	
第86図 PL.390	2	須恵器 杯	床面から24cm上 1/3	口 9.3 底 5.2	高 2.8 細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第86図 PL.390	3	須恵器 椀	床面直上	口 11.0 底 4.8	高 4.0 細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第86図 PL.390	4	須恵器 椀	貯蔵穴底から20 cm上 3/4	口 12.8 底 5.7	台 6.7 5.1 細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第86図	5	須恵器 椀	床面から23cm上 1/3	口 12.8 底 7.3	台 6.9 5.4 細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第86図 PL.390	6	須恵器 椀	貯蔵穴底から18 cm上 1/2、台部欠	口 15.8 底 6.6	細砂粒/還元焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部の整形は全面ナデのため不明。高台は貼付が剥落。	
第86図	7	灰輪陶器 椀	床面から12cm上 底部1/2	口 7.8 底 8.0	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。無輪方法は不明。	大原2号窯式 期。
V区20号住居							
第86図	8	灰輪陶器 上杯	理土 底部片	口 8.0 底 7.5	高 8.0 微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。無輪方法は漬け掛けか。	虎渡山1号窯 式期。
第86図	9	土師器 甕	理土 口縁部片	口 21.8	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう削り。内面は胴部がへうナデ。	
V区14号住居							
第88図 PL.390	1	須恵器 椀	床面から7cm上 1/2	口 11.8 底 6.7	台 7.0 6.0 細砂粒/還元焰・ 焼/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部の整形は不明。高台は貼付。	
第88図 PL.390	2	灰輪陶器 皿	床面から7cm下 1/2	口 13.6 底 6.6	台 6.5 2.8 灰雑物無/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ。高台は貼付。無輪方法は漬け掛けか。	大原2号窯式 期。
第88図	3	土師器 甕	床面直上と5cm 上が接合 口縁部～胴部 1/4	口 19.2 胴 19.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/浅黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう削り。内面は胴部がへうナデ。	
V区38号住居							
第88図	4	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部上 位片	口 19.8	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう削り。内面は胴部がへうナデ。	
第88図 PL.390	5	鉄製品 釘	理土 一部欠損	長 8.3 幅 1.0	厚 0.8 重 8.45	断面はほぼ正方形の向釘で、先端は鋸状に細くなり頭部は劣化破損し不明。木質等の痕跡は見られない。	
第88図 PL.390	6	鉄製品 釘	床面から14cm上 一部欠損	長 7.8 幅 1.1	厚 1.0 重 10.60	断面はほぼ正方形の向釘で、先端は細くなるが頭部は劣化破損する。頭は厚く伸ばし折り曲げる。木質等の痕跡は見られない。	
第88図 PL.390	7	石製品 紡輪	床面直上 完形	長 4.0 幅 1.0	厚 0.9 重 25.5	蛇紋岩 表面ともよく磨削されている。表面はほぼ平坦であるが、裏面はやや凸状である。側面は、部分的に刀子状工具による加工痕が残る。径約1mmの軸穴が穿孔されている。	逆台形状 (薄型)

## V区15号住居

棟号 PL.No.	No.	種類	出上位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第91図 PL.391	1	黒色土器 椀	掘方直上 1/2	口 底	13.0 7.0	台 高 6.6 5.6	細砂粒/酸化塩/に ぶい橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付。 内面はへう磨き。	
第91図 PL.391	2	須恵器 杯	掘方直上 完形	口 底	9.5 5.3	高 3.2	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第91図 PL.391	3	須恵器 杯	カマド使用面から 15cm上 口縁部一部欠	口 底	9.3 4.7	高 3.5	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第91図 PL.391	4	須恵器 杯	床面直上 3/4	口 底	9.7 5.5	高 2.8	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第91図 PL.391	5	緑釉陶器 椀	床面から26cm上 3/4	底 台	6.6 6.6		灰雑物無/還元塩/ 灰オリーブ	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付。内外面ともロ 口痕等をナデ消している。	二次被熱を受け ている。東 海10世紀前半 代か。
第91図 PL.391	6	灰釉陶器 皿	埋上 1/2	口 底	11.8 6.6	台 高 6.4 2.3	灰雑物無/還元塩/ 灰白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ナデ、高台は貼付。 施釉方法は漬け掛け。	虎渓山1号窯 式期。
第91図 PL.391	7	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部下 位1/3	口 跨	23.6 27.8		細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回りか。罫は貼付。胴部下半はへう削 り。内面は胴部下半にへうナデ。	

## V区16号住居

第91図 PL.391	8	鉄製品 刀子	床面直上 破片	長 幅	8.3 2.1	厚 重 13.28		刀子の面から茎破片で、鈍側には明確な面を持つが刃側は 破損跡があり刃の有り無し不明。刃は刃から3cm程で破損・ 磨化する。	
----------------	---	-----------	------------	--------	------------	-----------------	--	---	--

## V区17号住居

第91図	9	灰釉陶器 椀	貯蔵穴底から13 cm上 口縁部片	口 底	12.9 5.0		灰雑物無/還元塩/ 灰白	ロクロ整形、回転方向不明。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第91図	10	須恵器 羽釜	貯蔵穴底から18 cm上 口縁部片	口 跨	20.9 25.4		細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回りか。罫は貼付。	

## V区18号住居

第93図	1	須恵器 杯	埋上 1/4	口 底	12.2 5.9	高 3.3	細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り無調整。	
第93図	2	須恵器 羽釜	掘方直上 口縁部片	口 跨	21.8 21.2		細砂粒/還元塩/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。罫は貼付。胴部はへう削り。	

## V区19号住居

第95図	1	土師器 高杯	貯蔵穴底から12 cm上 杯部1/2	口 底	19.4 6.6		細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	杯身部と脚部は接合。杯身は口縁部がへう削り後へう磨き。 底部から脚部はへう削り。内面杯身部はへう目後へう磨き。	
第95図	2	土師器 高杯	床面直上 脚部				細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	杯身部と脚部は接合。	
第95図 PL.391	3	土師器 小型罫	床面直上と6cm 上が接合 1/2	口 底	12.1 4.1	高 13.7 12.1	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。胴部は上位がハゲ目、中位以下と底部は へう削り。内面胴部は木口状工具によるへうナデ。	
第95図 PL.391	4	土師器 小型罫	床面直上と8cm 上が接合 口縁部～胴部下 位1/2	口 胴	10.6 10.2		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部横ナデ。胴部は上位がへう削り、中位にハゲ目。内 面胴部は木口状工具によるへうナデ。	

## V区22号住居

第96図 PL.391	1	須恵器 椀	カマド使用面直 上と6cm上が接 合 1/3	口 底	14.0 6.0	高 4.7	細砂粒/酸化塩/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第96図 PL.391	2	灰釉陶器 椀	カマド使用面直 上と7cm上と掘 方直上が接合 1/3	口 底	17.4 7.3	台 高 7.0 5.5	細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。 施釉方法は刷毛塗りか。	光ヶ丘1号窯 式期。
第96図	3	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上 口縁部片	口 跨	19.0 23.0		細砂粒/還元塩/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。罫は貼付。	

## V区23号住居

第96図 PL.391	4	銅製品 丸駒	床面から7cm上 破片	長 幅	3.5 2.1	厚 重 0.4 1.96		銅製の丸駒破片で、全体に錆化するが一部表面には平滑な 面が残るが鍍金等の痕跡は確認できない。表面は凸凹が顕 著で成型の痕跡とみられる。足金は基部から欠損する。	
----------------	---	-----------	----------------	--------	------------	-----------------------	--	---	--

## V区24号住居

第100図	1	土師器 罫	カマド掘方直上 口縁部片	口 底	20.7		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	内外面に土砂が付着しているため整形不明。	
第100図	2	須恵器 羽釜	カマド使用面から 11cm上 口縁部～胴部片	口 跨	22.9 26.8		細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰黄褐	ロクロ整形、回転右回りか。罫は貼付。胴部下位にへう削り。	
第100図 PL.391	3	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上と7cmと8cm上 が接合 口縁部～胴部 1/4	口 跨	23.7 27.8		細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。罫は貼付。胴部下半にへう削 り。内面は胴部がへうナデ。	

## V区27号住居

棟号 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第100図	4	土師器 費	貯蔵穴上の床面 直上 口縁部3/4	口	19.4		細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう削り。内面は胴部がへうナデ。

## V区28号住居

第104図 PL.391	1	土師器 杯	特ド埋土 1/4	口	12.0 9.2	高 3.5	細砂粒/良好/褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへう削り。
第104図 PL.392	2	須恵器 椀	床面から10cm下 1/3	口	13.5 7.2	台 6.9 6.3	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第104図	3	土師器 費	掘方から7cm下 口縁部～胴部上 位1/2	口	19.4		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう削り。内面は胴部がへうナデ。
第104図	4	土師器 費	床面直上 口縁部片	口	19.4		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう削り。内面は胴部がへうナデ。

## V区29号住居

第104図 PL.391	5	須恵器 椀	カマド使用面か ら6cm上 3/4	口	12.0 7.0	台 7.0 5.6	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/灰黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第104図 PL.391	6	須恵器 椀	床面直上 3/4	口	12.6 7.0	台 7.6 5.9	細砂粒・粗砂粒・ 褐粒/酸化焰/浅黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。
第104図 PL.391	7	須恵器 椀	埋土 2/3	口	11.0 6.2	台 6.4 4.6	細砂粒/酸化焰/ 焼/灰黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へうナデ、高台は貼付。土坑口
第104図 PL.391	8	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上と5cmと6cmと 7cm上が接合 口縁部～胴部下 位1/3	口 罫	21.9 25.7		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転方向不明。外面胴部に輪植痕が残る。罫は貼付。胴部はへう削り。内面胴部はへうナデ。

## V区30号住居

第106図 PL.392	1	土師器 椀	床面直上 口縁部～部欠	口	13.0 7.6	台 8.8 5.7	細砂粒・粗砂粒/ 褐粒・石英/良好/ にぶい黄橙	高台は貼付。口縁部と高台は横ナデ、体部は上平がナデ、下半がへう削り。底部はナデか、内面は底部と胴部にへうナデ。
第106図 PL.392	2	土師器 椀	床面直上 3/4	口	14.8 7.6	台 9.2 6.7	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄 橙	高台は貼付。口縁部と高台は横ナデ、体部はナデか、内面底部はへうナデ。
第106図 PL.392	3	須恵器 椀	床面直上 1/3	口	11.6 6.2	台 6.4 4.2	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第106図 PL.392	4	土師器 小型費	床面から9cmと 19cm上とカマド 使用面直上と 12cmと14cm上が 接合 底部欠1/3	口 罫	13.8 16.0		細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	ロクロ整形、回転方向不明。口縁部から頸部は横ナデ、胴部下位はへう削り。
第106図 PL.392	5	須恵器 長頸壺	床面直上と7cm と15cm上が接合 口縁部～胴部下 位1/3	口 罫	12.4 20.2		細砂粒/還元焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。頸部と胴部は接合、内面にナデが残る。胴部下半に回転へう削り。
第106図 PL.392	6	須恵器 羽釜	床面から9cmと 12cmと15cmと19 cm上が接合 口縁部～胴部下 位1/3	口 罫	21.4 26.4		細砂粒/還元焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。内面胴部に輪植痕が残る。罫は貼付。胴部下半はへう削り、内面胴部はへうナデ。
第106図 PL.392	7	鉄製品 不詳	掘方から7cm上 破片	長 幅	13.7 1.1	厚 重 0.9 13.61		断面はほぼ円形で、端に向かい細くなるが端部は丸み持ち、反対側は丸状に破出する。形状から紡錘車の軸軸と考えられるが詳細は不明。
第106図 PL.392	8	石製品 砥石	床面直上 1/2	長 幅	(15.6) (6.0)	厚 重 (5.2) 483.3	砥沢石	砥面は3面認められる。正面は、下方にむかい研ぎ残りする。右側面には対置し傷が認められる。裏面全体から下部にかけて欠損。

## V区31号住居

第108図 PL.392	1	土師器 椀	貯蔵穴底から17 cm上 3/4	口	13.9 7.0	台 高 6.9 5.7	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	高台は貼付。口縁部と高台は横ナデ、体部は上手がナデ、下半にへう削り、底部はナデ。内面は底部から口唇部にかけてへう磨き。
第108図	2	黒色土器 椀	床面直上 1/4	口	14.2 7.0	台 高 6.6 5.6	細砂粒/還元焰/浅 黄	内面黒色処理か。ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。内面はへう磨き。
第108図 PL.392	3	灰釉陶器 小瓶	床面直上 胴部～底部3/4	底	5.3 7.0		夾雑物無/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。胴部の一部にナデ。施釉方法不明。
第108図	4	緑釉陶器 椀	埋土 口縁部片	口			微砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形。口唇部に濃い釉薬、口縁部は口唇部よりやや淡い釉薬が施釉されている。
第108図	5	土師器 費	貯蔵穴上の床面 直上 口縁部片	口 罫	19.0 18.6		細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう削り。内面は胴部がへうナデ。
第108図	6	須恵器 羽釜	床面から16cm上 と貯蔵穴底から 28cm上が接合 口縁部片	口 罫	20.0 24.3		細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。罫は貼付。胴部はロクロ直をナデ消している。



棟号 PL.No.	No.	種類 器種	出上位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第108棟	7	須臾器 羽釜	床面直上と10cmと12cmと上カマド使用面から5cmと9cmと上貯蔵/底から19cmと20cmと22cm上が接合 胴部～底部3/4				細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回りか。底部はナデ、胴部下位にへら削り。	
V区32号住居									
第109棟	1	須臾器 椀	床面直上 口縁部～底部片	口 底	11.8 5.0	高 4.0	細砂粒/酸化焰/に ぶい椀	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
V区33号住居									
第111棟	1	土師器 小型甕	理上 口縁部～胴部 1/4	口 胴	12.6 14.2		細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部は上位にナデ、中位はへら削り。内面胴部はへらナデ。	
第111棟	2	須臾器 羽釜	カマド使用面から17cm上 口縁部～胴部片	口 胴	18.6 22.9		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。罫は貼付、胴部下位にへら削り。	
第111棟 PL-392	3	鉄製品 不詳	床面直上 ほぼ完形	長 幅	6.7 2.2	厚 重	1.4 37.66	全体に厚く硬い跡に覆われる鉄製品で、断面長方形の内枠状の鉄製品で全体に厚く硬い跡に覆われ詳細形状等不明。	
V区34号住居									
第112棟	1	須臾器 椀	床面から14cmと20cm上が接合 1/3	口 底	13.6 7.7	高 8.6 5.9	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部の整形技法は不明。高台は貼付。	
第112棟	2	須臾器 椀	理上 底部～体部	底 台	6.2 5.3		細砂粒/還元焰/ 内外焼/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転系切り後高台を貼付。	
第112棟	3	須臾器 椀	理上 底部～体部下位	底 台	6.0 5.4		細砂粒/還元焰/ 外焼/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転系切り後高台を貼付。	
第112棟	4	灰釉陶器 椀	理上 口縁部～体部片	口 胴	18.0		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。施釉方法不明。	光ヶ丘1号窯式期～大塚2号窯式期。
第112棟	5	灰釉陶器 長頸壺	理上 胴部片	胴	19.2		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。胴部下半回転へら削り。施釉方法不明。	
第112棟	6	須臾器 羽釜	竈方から6cm上と 側方理上とが接合 口縁部～胴部上 位片	口 胴	19.4 22.0	胴	22.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回りか。罫は貼付。
V区35号住居									
第114棟 PL-392	1	土師器 杯	床面から29cm上 1/3	口 底	11.8 8.0	高	2.9	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら削り。
第114棟	2	土師器 杯	理上	口 底	12.2 9.8			細砂粒/良好/菊	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら削り。
第114棟	3	須臾器 杯	床面から40cm上 1/4	口 底	13.0 6.8	高	4.1	細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。
第114棟	4	須臾器 椀	竈方理上 1/4	口 底	12.2 5.6	高	3.3	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。
第114棟	5	土師器 小型甕	床面から10cmと12cmと30cm上とが接合 口縁部～胴部上位1/2	口 胴	19.8			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。
第114棟 PL-392	6	土製品 土罽	カマド1使用面 から40cm上 完形	長 幅	4.6 1.8	孔 重	0.5 11.2	細砂粒/良好/灰黄	外面はナデ。
第114棟 PL-392	7	石製品 砥石	理上 完形	長 幅	29.0 17.0	厚 重	10.4 5200.0	粗粒輝石安山岩	砥面は3面認められる。正面と裏面は中央がやや窪んだ形面を呈し、正面には浅い断面J字状の線条痕が集中する。左側面は著しく内湾した形態である。
V区36号住居									
第117棟	1	土師器 杯	理上 口縁部～底部 1/3	口 底	11.4 6.0	高	5.0	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がへら削り、底部はナデ。
第117棟 PL-393	2	須臾器 椀	床面直上 3/4	口 底	12.8 6.8	台 高	5.4 4.9	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰・焼/暗灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転系切り後高台を貼付。
第117棟 PL-393	3	須臾器 椀	床面直上と7cm 上と接合 1/3	口 底	13.3 6.4	台 高	7.0 5.2	細砂粒/還元焰/ 焼/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転系切り後高台を貼付。
第117棟 PL-393	4	須臾器 椀	床面直上 3/4	口 底	14.0 6.9	台 高	7.7 6.0	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転系切り後高台を貼付。
第117棟 PL-393	5	須臾器 椀	床面直上 1/3	口 底	13.5 7.2	台 高	6.8 4.8	細砂粒/還元焰/ 焼/暗灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。
第117棟 PL-393	6	須臾器 椀	床面直上 1/3	口 底	15.9 7.0			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転系切り後高台を貼付しているが、高台は剥落。

検出 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第117図	7	須恵器 鉢蓋	貯蔵/底から15cm上 口縁部1/3	口 径	19.0 23.6		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転方向不明。蓋は貼付。	
V区37号住居									
第118図 PL-393	1	土師器 杯	床面から13cm上 1/3	口 径	15.3 11.5		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(踵下)から底部は手持ちへら削り。	外面の口縁部と体部の一部にススが付着。
第118図	2	土師器 費	カマド使用面から16cm上 口縁部～胴部上位1/3	口 径	23.8		細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	
V区39号住居									
第119図	1	土師器 杯	カマド埋土	口 径	12.0 8.2		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら削り。	
第119図 PL-393	2	須恵器 杯	埋土	口 径	11.9 7.8	高 3.7	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第119図	3	土師器 費	掘方埋土 口縁部片	口 径	19.0		細砂粒/良好/ぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	
第119図	4	土師器 費	床面直上 口縁部片	口 径	22.0		細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	
V区40号住居									
第122図 PL-393	1	須恵器 杯	床面直上 完形	口 径	9.1 5.6	高 2.2	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/灰黄濁	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転系切り無調整。	
第122図	2	須恵器 耳皿	掘方埋土 1/2	口 径	5.3 5.8		細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り後高台を貼付。	
第122図 PL-393	3	土師器 費	カマド使用面から6cmと10cm上 が接合 口縁部～胴部下 位1/3	口 径	23.4 25.8		細砂粒・粗砂粒/ 良好/ぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	
第122図	4	土師器 費	床面直上 口縁部～胴部下 位1/4	口 径	26.2 27.0		細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤濁	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は上半がナデ、下半はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	
第122図	5	土師器 費	カマド使用面直上と5cmと6cm上 が接合 口縁部～胴部 1/4	口 径	23.6		細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤濁	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	
第122図 PL-393	6	鉄製品 鏝	埋土 破片	長	3.6 2.1	厚 0.8 8.10		鉄酸化物。全体に厚く錆に覆われ本体は脆弱化する。片方の側面は基部から破損跡化、基部は劣化破損する。	
第122図 PL-393	7	鉄製品 刀子	床面から6cm上 完形	長	13.9 1.7	厚 0.7 17.16		棟・刃部ともに明確な間を持つ刀子。柄および茎とも木質等の痕跡は見られない。	
第122図 PL-393	8	鉄製品 不詳	床面直上 ほぼ完形	長	4.1 4.5	厚 1.7 30.09		両端に円形の穴を持つU字の鉄製品で、錆の状況から長い棒状の鉄製品を両端でループ状に折り返し作成したとみられる。	
第122図 PL-393	9	鉄製品 不詳	埋土 ほぼ完形	長	4.1 3.6	厚 2.5 19.03		扁平な断面を持つ輪状鉄製品で、側面に扁平な突出部を持つ。全体に厚い錆に覆われ本体は脆弱なため詳細は不明。	
第122図 PL-393	10	鉄製品 不詳	埋土 一部欠損	長	2.7 1.1	厚 0.9 2.63		断面狭長方形の鉄製品破片、一端は丸みをもち軽微な反折跡は劣化破損する。	
第123図 PL-393	11	鉄製品 不詳	埋土 ほぼ完形	長	4.1 2.3	厚 1.1 5.44		木の葉形の鉄製品、厚さ1mmほどで対部等の形状は見られない。	
第123図 PL-393	12	鉄製品 鏝	床面直上 破片	長	7.6 6.7	厚 1.2 23.88		刃に対して大きく傾けて柄装着部を折り曲げた鏝破片。刃は柄から8cm程度で劣化破損、柄装着部分に木質の痕跡は確認できない。	
第123図 PL-393	13	石製品 砥石	床面から14cm上 1/2	長 幅	(4.9) (3.1)	厚 重	2.0 43.6	砥沢石	砥面は確認認められる。両側面はほぼ平坦であるが、表面及び側面は内湾した形態である。上面は曲面であり、磨輪に対して斜めで研ぎ減りとも判断されることから、上面も砥面として利用された可能性がある。下部欠損。
第123図 PL-393	14	石製品 砥石	床面から12cm上 4/5	長 幅	(7.3) (3.3)	厚 重	2.1 55.9	砥沢石	砥面は確認認められる。両側面は下方にむかい著しく研ぎ減りする。正面の上部に、小さな短冊状の平坦な研面が折り重なるように認められる。下部欠損。
V区41号住居									
第125図 PL-393	1	土師器 杯	床面から30cmと 32cm上 接合 1/4	口 径	11.8 9.0	高 3.1	細砂粒/良好/ぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら削り。	
第125図	2	須恵器 杯	埋土 破片	口 径	12.0 7.0	高 3.3	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第125図 PL-393	3	須恵器 杯	埋土	口 径	9.6 6.2	高 4.1	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り後側面を回転へら削り。	
第125図	4	土師器 台付費	カマド使用面から32cm上 胴部下位～底部	口 径	4.0		細砂粒/良好/赤濁	脚部は貼付。胴部は外面がへら削り、内面はへらナデ。	

種別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第125図	5	土師器 甕	カマド使用面から 28cm上とカマ ド掘方直土が接 合 口縁部～胴部上 位3/4	口 胴	13.8 16.2		細砂粒/良好/に ぶい赤褐色	口縁部は横ナデ、腰部はナデ、底部は手持ちへう削り。	
V区42号住居									
第127図 PL.393	1	須恵器 椀	床面直上 1/2	口 底	13.3 5.0	高 3.9	細砂粒/酸化塩/浅 黄褐色	口クロ整形、回転方向不明。底部の整形は磨滅のため不明。	
第127図 PL.393	2	灰土陶器 椀	床面直上 1/3	口 底	15.6 8.4	台 高 4.8	細砂粒/還元塩/灰 白	口クロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。 無輪方法は刷毛塗りか。	9世紀後半代、 産地不明。
第127図	3	須恵器 割釜	床面直上 口縁部～胴部上 位片	口 跨	20.0 19.8		細砂粒/酸化塩/橙	口クロ整形、回転方向不明。罫は貼付。	
V区43号住居									
第129図 PL.394	1	土師器 杯	床面直上 完形	口 底	11.5 9.7	高 3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、腰部はナデ、底部は手持ちへう削り。	
第129図 PL.394	2	土師器 杯	床面直上 3/4	口 底	12.2 10.0	高 3.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、腰部はナデ、底部は手持ちへう削り。	
第129図 PL.394	3	土師器 杯	床面直上 3/4	口 底	12.0 10.0	高 3.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、腰部はナデ、底部は手持ちへう削り。	
第129図 PL.394	4	土師器 杯	床面直上 3/4	口 底	12.6 10.8	高 3.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、腰部はナデ、底部は手持ちへう削り。	
第129図 PL.394	5	土師器 杯	床面から9cmと 12cm上が接合 1/3	口 底	12.8 10.0	高 3.3	細砂粒/良好/明褐色	口縁部は横ナデ、腰部はナデ、底部は手持ちへう削り。	
第129図	6	土師器 杯	カマド埋土 1/3	口 底	11.8 9.2	高 3.1	細砂粒/良好/に ぶい赤	口縁部は横ナデ、腰部はナデ、底部は手持ちへう削り。	
第129図 PL.394	7	須恵器 杯	床面直上 口縁部一部欠	口 底	12.1 6.8	高 3.3	細砂粒/還元塩/に ぶい黄	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転 へう削り。	
第129図 PL.394	8	須恵器 杯	床面直上 3/4	口 底	13.0 8	高 3.8	細砂粒/還元塩/灰 白	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転 へう削り。	
第129図 PL.394	9	須恵器 杯	床面から9cm上 1/3	口 底	12.7 8.0	高 3.5	細砂粒/還元塩/灰	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第129図 PL.394	10	須恵器 杯	床面直上 1/3	口 底	11.8 6.8	高 3.7	細砂粒/還元塩/灰 黄	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第129図	11	須恵器 杯	床面から10cm上 1/4	口 底	12.0 7.2	高 3.9	細砂粒/還元塩/灰 白	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第129図	12	須恵器 杯	埋土 1/4	口 底	12.2 7.0	高 3.6	細砂粒/還元塩/灰 白	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第129図 PL.394	13	須恵器 椀	床面直上 口縁部一部欠	口 底	15.6 8.6	台 高 8.3	細砂粒/還元塩/灰	口クロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第129図 PL.394	14	須恵器 椀	床面直上 1/2	口 底	16.2 8.6	台 高 8.1	細砂粒/還元塩/灰 白	口クロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第129図	15	須恵器 割釜	床面から14cm上 口縁部～胴部上 位片	口 跨	19.6 23.8	胴 25.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/にぶい黄	口クロ整形、回転右回りか。	
第129図 PL.394	16	鉄製品 刀子	埋土 破片	長 幅	7.2 1.2	厚 重 0.5 6.20		刀子破片。種類には関を持ち、関から2.5cm程で劣化破損 する。茎は端部を劣化破損する。木質等の痕跡は見られない。	16は同一個体
第129図 PL.394	16	鉄製品 刀子	埋土 破片	長 幅	2.6 0.7	厚 重 0.3 0.78		刀子対部分の破片。同一個体とみられるが直接は接合しない。	16は同一個体
V区44号住居									
第130図	1	土師器 杯	埋土 口縁部～底部片	口 底	10.8 7.4	高 3.4	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ、腰部(種下)から底部は手持ちへう削り。	
第130図 PL.394	2	土師器 杯	埋土 3/4	口 底	11.8 8.4	高 3.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、腰部はナデ、底部は手持ちへう削り。	
第130図 PL.394	3	須恵器 杯	掘方直上と掘方 埋土が接合 1/4	口 底	12.1 7.4	高 3.8	細砂粒/還元塩/灰 白	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
V区45号住居									
第132図 PL.394	1	黒色土器 杯	床面から9cm上 口縁部一部欠	口 台	10.6 5.7	高 4.5	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄褐色	内面黒色処理。口クロ整形、回転右回り。底部回転糸切り 後高台を貼付。内面はへう磨き。	
第132図	2	須恵器 椀	掘方直上 1/3	口 底	8.3 8.8		細砂粒/還元塩/灰 白	口クロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第132図	3	土師器 甕	床面直上と8cm 上が接合 口縁部～胴部上 位片	口 跨	22.4		細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう削り。内面は胴部が へうナデ。	
第132図	4	土師器 割釜	カマド使用面直 上と掘方埋土が 接合 口縁部～胴部上 位片	口 跨	18.6 20.6		細砂粒/良好/に ぶい黄褐色	罫は貼付。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう削り。内 面は胴部がへうナデ。	

## V区46号住居

棟号 PL.No.	No.	種 類 種 種	出上位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第133図 PL.394	1	須忠器 椀	理上 底部～体部片	底 7.8	高 8.0	細砂粒/酸化塩/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第133図 PL.394	2	須忠器 壺	理上 底部～体部片	底 10.8	高 11.6	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り後高台を貼付。	
第133図 PL.394	3	土師器 甕	理上 口縁部～胴部上 位片	口 20.2	高 20.2	細砂粒/良好/ぶ い橙	口縁部から胴部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第133図 PL.394	4	鉄製品 刀子	床面から7cm上 破片	長 7.6	厚 0.7 幅 1.1	重 5.92	細身の刀子破片。茎側で字の形に折れ面が破損箇所化する。	
第133図 PL.394	5	鉄製品 不詳	理上 破片	長 4.0	厚 0.7 幅 0.6	重 2.26	断面やや丸みを持つ正方形で、両端とも破損・錆化する。木質等の痕跡は見られない。	
第133図 PL.394	6	鉄製品 刀子	理上 破片	長 4.6	厚 0.7 幅 1.5	重 6.12	刀子破片。棟間に刃を持ち間から2cm程で破損・錆化する。茎には木質等の痕跡は見られず端部は劣化破損する。	

## V区47号住居

第135図 PL.394	1	土師器 杯	床面から7cm上 1/4	口 10.8	高 3.0	細砂粒/良好/ぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。	内面にスガが付着。
第135図 PL.394	2	鉄製品 不詳	床面から20cm上 ほぼ完形	長 3.4	厚 0.6 幅 0.8	重 1.51	断面四角の角棒状で一端に向かいやや細くなるが尖らない。全体に厚く筋に覆われ本体脆弱なため詳細は不明であるが両端とも破損・錆化の可能性あり。	
第135図 PL.394	3	鉄製品 不詳	床面から20cm上 一部欠損	長 6.5	厚 1.2 幅 1.5	重 17.24	断面四角の角棒状鉄製品。端部は角型で釘頭のような明確な形状は持たない。他の端部は劣化破損する。木質等の痕跡は見られない。	

## V区48号住居

第136図 PL.394	1	土師器 杯	理上 1/3	口 12.8	高 3.5	細砂粒/良好/ぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。	
第136図 PL.394	2	黒色土器 椀	掘方直上 台部のみ	底 7.8	高 8.0	細砂粒/酸化塩/ ぶい黄褐	内面黒色処理。底部回転糸切り後高台を貼付。内面はヘラ磨き。	外面底部に「大」の墨書。
第136図 PL.394	3	須忠器 椀	床面直上 1/4	口 15.2	高 4.8	細砂粒/酸化塩/ ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第136図 PL.394	4	須忠器 羽釜	床面直上と6cm と8cm上が接合 口縁部～胴部 1/4	口 22.6	高 24.6	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/橙	ロクロ整形、回転方向不明。器は貼付、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第136図 PL.394	5	鉄製品 かこ	理上 ほぼ完形	長 6.6	厚 1.6 幅 5.7	重 56.31	U字形の輪軸と丁字形の刺金を組み合わせたかこで、全体に厚く筋に覆われ内部は脆弱なため詳細は不明。	

## V区49号住居

第138図 PL.394	1	須忠器 杯	カマド使用面直 上 完形	口 12.9	高 3.9	細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第138図 PL.394	2	須忠器 杯	理上 3/4 底部欠	口 12.9	高 3.6	細砂粒/還元塩/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第138図 PL.394	3	輪軸陶器 椀	理上 底部片	底 6.0	高 5.8	微砂粒/還元塩/褐 灰	ロクロ整形、回転方向不明。高台は削りだし。底部外面と高台内面を除き輪軸。	畿内10C.前 半。

## V区52号住居

第139図 PL.394	1	土製品 土鏝	床面直上 完形	長 4.2	孔 0.5 幅 1.8	高 10.6	細砂粒/良好/ぶ い黄橙	外面はナデ。	
第139図 PL.394	2	鉄製品 鉄板	床面直上 一部欠損	長 6.9	厚 1.2 幅 5.4	重 28.06		長方形の鉄板で中央部に0.8cmの隅丸方形の穴を持つ。穴周辺部分の鉄板は片側に凹み、反対面にはイネ科植物の穴とみられる植物痕跡が付着するが、やや浮いた位置に見られる付随するものは不明。	

## V区53号住居

第141図 PL.395	1	器台	床面から8cm上 1/2	口 8.8	高 8.1	細砂粒/良好/ぶ い黄橙	受け部と胴部は接合か。外面はほぼ全面ヘラ磨き。内面は	脚部に透孔が3カ所。
第141図 PL.395	2	器台	床面直上 脚部一部欠	口 8.8	高 8.5	細砂粒/良好/灰 黄	受け部と胴部は接合か。外面はほぼ全面ヘラ磨き。内面は	
第141図 PL.395	3	土師器 鉢	床面から6cm上 口縁部一部欠	口 10.8	高 7.4	細砂粒/良好/ぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。体部はハケ目。底部はヘラ削り。内面は	
第141図 PL.395	4	土師器 用	床面直上と6cm 上 が接合 1/4,底部欠	口 13.7	高 19.6	細砂粒/良好/ぶ い黄橙	口縁部と胴部の上位・中位はヘラ磨き。胴部下位はヘラ削り。内面は口縁部がヘラ磨き。胴部はヘラナデ。	
第141図 PL.395	5	土師器 甕	床面から8cm上 3/4	底 7.6	高 20.9	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/ぶい黄橙	頸部に凸帯貼付。胴部はヘラ削り後ヘラ磨き。底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第142図 PL.396	6	土師器 甕	床面直上 胴部一部欠	口 13.4	高 25.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部はヘラ削り後ヘラ磨き。底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第142図 PL.395	7	土師器 壺	床面直上と7cm 上 が接合 3/4,口縁部欠	底 8.7	高 13.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/ぶい橙	頸部に凸帯が貼付。口縁部下平は縦位のナデ。頸部凸帯に刺突文。胴部は器面磨減のため不鮮明。底部はヘラ削り。	
第142図 PL.395	8	土師器 小型甕	床面直上と7cm と8cm上 が接合 口縁部～胴部 1/2	口 11.8	高 11.8	細砂粒/良好/ぶ い黄橙	口縁部から胴部上半はハケ目(1cmあたり6本)、下半はナデ。内面は口縁部が横ナデ。胴部はヘラナデ。	
第142図 PL.395	9	土師器 小型甕	床面直上と6cm 上 が接合 3/4	口 13.1	高 15.0	細砂粒/良好/橙	器面磨減のため整形不鮮明であるが、口縁部から胴部は部分的にハケ目が残る。底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

種別 PL.No.	No.	種類	出上位置 残存率	計測値		胎上/横成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第142図	10	土師器 甕	埋上 底部～胴部下半	底	5.0		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	底部はへら削り、胴部はハケ目(1cmあたり7本)。内面はへ らナデ。
第142図	11	土師器 甕	埋上 底部～胴部	胴	21.4		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	底部から胴部はへら削り、一部にハケ目が残る。内面はハ ケ目後ナデ。
第142図	12	土師器 土付甕	埋上 口縁部～胴部上	口	19.6		粗砂粒/良好/浅黄 橙片	口縁部は横ナデ、胴部はハケ目(1cmあたり7～8本)。内面 胴部はナデ。
第142図	13	土師器 土付甕	床面から19cm上 口縁部	口	19.8		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はハケ目(1cmあたり7本)。内面胴部 はへらナデと一部ナデ。
第143図 PL.396	14	土師器 甕	床面直上と5cm と8cmと9cm上が 接合	口 底	14.4 6.0	高 29.5 24.5	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はへら削り後へらナデ・へら磨き、 底部はへら削り。内面は口縁部がハケ目後横ナデ、胴部は へらナデ。

V区56号住居

第144図	1	土師器 杯	貯蔵穴底から6 cm上	口 底	13.2 7.8	高 4.6	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら削り。	
第144図 PL.396	2	須恵器 杯	貯蔵穴底から 20cm上で床面 の高さに同じ	口 底	11.8 6.4	高 3.5	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第144図 PL.396	3	須恵器 碗	床面から21cm上 と貯蔵穴底から 9cm上が接合 口縁部一部欠	口	12.2 6.2	高 4.5	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第144図 PL.396	4	須恵器 杯	床面から8cm上	口 底	13.8 7.0	台 高 5.1 5.1	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第145図	5	須恵器 碗	埋上	口 底	13.2 6.4	高 3.4	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。器面 磨滅。	
第145図	6	須恵器 碗	貯蔵穴底から13 cm上	口 底	13.8 7.2	台 高 5.5	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第145図 PL.396	7	須恵器 碗	床面直上	口 底	14.1 6.0	台 高 4.8	細砂粒/還元焰・ 燧/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第145図	8	土師器 甕	床面直上と8cm 上が接合 口縁部～胴部下 位1/3	口	17.6 19.4		細砂粒/良好/明褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部が へらナデ、上位は木口が残る。	胴部下位に焼 成前の穿孔あり。
第145図 PL.396	9	鉄製品 紡錘車	床面直上 破片	長 幅	5.0 0.4	厚 重 0.4 1.77		紡錘車の紡錘端部破片。断面はほぼ円形で端部は均丸に曲 がる。他の破片とは直接接合しないが同一個体と考えられ る。	9は同一個体
第145図 PL.396	9	鉄製品 紡錘車	床面直上 破片	長 幅	4.8 0.5	厚 重 0.5 2.44		紡錘車の紡錘破片。断面はほぼ円形で内端とも劣化破損す る。他の破片とは直接接合しないが同一個体と考えられる。	9は同一個体
第145図 PL.396	9	鉄製品 紡錘車	床面直上 一部欠損	長 幅	16.1 4.8	厚 重 4.6 71.82		蛇紋岩製の紡錘と両端が劣化破損する紡錘が組み合わさる 紡錘車。紡錘の平面面には六角形の一部とも見られる線刻 が刻まれる。	9は同一個体。石製紡錘は蛇 紋岩。長4.8 幅4.6 厚1.7

V区58号住居

第148図 PL.397	1	土師器 高杯	床面直上	口 底	11.3 5.7	髷 高 16.4 11.2	細砂粒/良好/明赤 褐	杯身部と胴部は接合。杯身部・胴部ともへら磨き、胴部は 器面剥落のため不詳。内面は杯身部がへら磨き、胴部は へらナデ。	胴部に上下一 対の透孔あり
第148図	2	土師器 高杯	床面から5cm上 杯部3/4	口	11.6		細砂粒/良好/にぶ い褐	杯身部と胴部は接合。杯身部は内外面ともへら磨き。	
第148図	3	土師器 高杯	床面から5cm上 杯部底部	底	6.0		細砂粒/良好/橙	杯身部と胴部は接合。杯身部・胴部ともへら磨き。内面は 杯身部がへら磨き、胴部はへらナデ。	胴部に透孔あり。
第148図	4	土師器 小型壺	床面から10cm上 口縁部欠	底	3.6 10.6		細砂粒/良好/褐	内外面とも器面磨滅のため整形、胴部は外面がへら 削り、内面がへらナデか。	
第148図	5	土師器 甕	床面直上 胴上1/2	頸 胴	11.0 19.4		細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はハケ目(1cmあたり4～5本)、中位 は器面磨滅のため不明。内面はハケ目。	
第148図 PL.397	6	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部下 位1/3	口 胴	24.8 30.4		細砂粒/良好/橙	口唇部は横ナデ、口縁部から胴部はへら削り、内面は口縁 部から胴部にかけてへら磨き、内外面ともい器面磨滅部分 があり、整形が不明な方あり。	
第148図	7	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部片	口 跨	19.5 22.2		細砂粒/還元焰/に ぶい赤褐	ロクロ整形、回転方不明。跨は貼付、胴部はへら削り。 内面はへらナデ。	

V区59号住居

第150図 PL.397	1	黒色土器 完形	床面直上	口 底	14.7 7.0	台 高 6.9 6.3	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/にぶい黄 橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り 後高台を貼付。内面はへら磨き。	
第150図 PL.397	2	須恵器 碗	貯蔵穴底から16 cm上で床面の高 き	口 底	11.9 6.4	台 高 6.0 4.9	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第150図 PL.397	3	須恵器 碗	床面直上 台部欠	口 底	15.6 8.8		細砂粒・粗砂粒・ 長石粒/還元焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。	高台は打ち欠 きによる二次 調整か。

種別 PL.No.	No.	種 類 種 別	出上位置 残 存 率	計測値			胎上/模成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第1509 PL-397	4	須恵器 椀	床面直上 3/4	口 14.0	台 7.6	高 8.7	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/濁	ロクロ整形、回転右回り。底部切り離し技法不明、高台は貼付、体部上位に回転へら削り。	
第1509 PL-397	5	須恵器 椀	床面直上 3/4	口 13.4	台 6.3	高 8.6	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第1509 PL-397	6	須恵器 椀	床面直上 3/4	口 11.2	台 6.2	高 6.0	細砂粒/還元塩/ にぶい黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第1509	7	須恵器 椀	床面直上 1/3	口 13.8	台 7.4	高 6.6	細砂粒・粗砂粒/ 片岩/酸化塩/にぶい黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第1509	8	須恵器 椀	床面直上 1/3	口 11.6	台 6.0	高 6.2	細砂粒/酸化塩/ にぶい黄	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ナデ、高台は貼付。	
第1509	9	須恵器 椀	カマド使用面直上と6cm上が接合	口 12.2	台 6.0	高 5.4	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/灰黄	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ナデ、高台は貼付。	
第1510 PL-397	10	灰釉陶器 皿	埋上 1/4	口 12.8	台 7.4	高 7.0	微砂粒/還元塩/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ナデ、高台は貼付。無輪方法は漬け掛け。	大原2号窯式削。
第1518	11	須恵器 羽釜	カマド使用面直上と6cm上が接合	口 21.2	脚 25.2		細砂粒/酸化塩/ にぶい黄	ロクロ整形、回転方向不明。罫は貼付、胴部はへら削り。内面胴部はへらナデ。	
第1518 PL-397	12	鉄製品 刀子	埋上 一部欠損	長 10.0	厚 2.3	重 0.7		樽衝に面を持つ刀子破片。刃は研ぎ減りのためか茎より細く間から2.5cm程で破損する。茎部は長く完形で木質等の付着は見られない。	
第1518 PL-397	13	鉄製品 不詳	床面直上 一部欠損	長 20.6	厚 1.1	重 1.0		断面丸から丸みを持つ四形の棒状で、中央部が太く両端に向かって細くなる。表面に糸・植物痕跡等は見られないが、紡錘車の棒軸の可能性もある。	

V区63号住居

第1549	1	須恵器 椀	カマド使用面直上 1/3	口 11.4	台 6.3	高 7.7	細砂粒/酸化塩/ にぶい濁	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第1549	2	須恵器 椀	カマド使用面直上と21cm上が接合	口 13.8	台 7.1		細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。	
第1549	3	須恵器 胴部小片	埋上				細砂粒/還元塩/灰白	ロクロ整形。	内面に赤色塗彩?
第1549	4	須恵器 羽釜	カマド使用面直上と6cmと7cmと12cm上が接合 口縁部～胴部中位1/3	口 20.6	脚 25.7		細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい濁	ロクロ整形、回転右回りか。罫は貼付、胴部下半にへらナデ。	
第1549	5	須恵器 羽釜	カマド使用面直上と61号住居カマド使用面から11cm上の埋上中 口縁部1/3	口 21.4	脚 26.0		細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい濁	ロクロ整形、回転右回り。罫は貼付、胴部は中位以下にへら削り。	

V区61号住居

第1558 PL-396	1	須恵器 椀	床面から13cm上 完形	口 13.0	台 5.4	高 4.2	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第1558	2	黒色土器 椀	床面直上と7cmと15cm上が接合 1/3	口 12.5	台 3.5	高 5.4	細砂粒/酸化塩/明赤	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付。	
第1558 PL-396	3	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部下位1/3	口 21.3	脚 24.5		細砂粒/酸化塩/ にぶい黄	ロクロ整形、回転右回り。罫は貼付、胴部は中位以下にへら削り。内面は胴部上位にへらナデ。	
第1558 PL-396	4	土製品 土罫	床面直上 完形	長 5.5	孔 2.3	重 0.4	細砂粒/良好/ にぶい黄	外面はナデ。	
第1558 PL-396	5	鉄製品 刀子	床面直上 破片	長 7.7	厚 1.4	重 0.7		両端とも劣化破損する刀子破片。穂・刀鏑ともに緩やかな面を持つ。表面に木質等の痕跡は見られない。	
第1558 PL-396	6	鉄製品 紡錘車	カマド使用面直上 破片	長 6.3	厚 4.9	重 5.1		紡錘車の破片。棒軸はほぼ完形で棒軸とは斜めに接続するが、埋藏中の酸化変形とみられる。	
第1558 PL-396	7	鉄製品 不詳	埋上 一部欠損	長 18.3	厚 3.3	重 0.6		断面は丸から丸みを持つ四形の棒状で、中央部が太く両端に向かって細くなる。弓状に浅く曲がり両端ともわずかに劣化破損する。表面に糸・植物痕跡等は見られないが、紡錘車の棒軸の可能性もある。	
第1558 PL-396	8	石製品 紡輪	床面から15cm上 2/3	長 (3.9)	厚 一	重 1.3	砥沢石	全面が良く研磨されている。径約8mmの孔を両側穿孔する。遊台形状	

V区73号住居

第1561	1	須恵器 椀	床面から10cm上 1/2	口 13.8	台 6.6	高 6.3	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
-------	---	----------	------------------	-----------	----------	----------	--------------------	----------------------------	--

種目 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値		胎土/模成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第156図	2	須恵器 斜釜	カマド使用面から 9cm上	口 径	18.8 23.6	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/明黄	ロクロ整形、回転右回り。罫は貼付、胴部はナデか。		
第156図 PL-397	3	鉄製品 刀子	掘方から9cm上 ほぼ完成	長 幅	18.2 1.9	厚 重	0.9 17.05	細身の刀子で棟側には明確な面を持つ。対側には間は見られないが対部が弧状に曲がることと案に対して細いことから研ぎ減りによる結果とも考えられる。	
V区70号住居									
第159図	1	須恵器 椀	床面直上 1/2	口 径	12.2 6.4	高	4.3	細砂粒/酸化塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。底部はナデにより切り離し技法不明。
第159図 PL-398	2	須恵器 椀	埋土 1/3	口 径	12.8 4.6	高	5.0	細砂粒/酸化塩/粗 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整、体部下平はナデ。
第159図 PL-398	3	須恵器 椀	埋土 3/4	口 径	13.8 5.6	高	4.4	細砂粒/酸化塩/浅 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整、体部下位はナデ。
第159図 PL-398	4	須恵器 椀	埋土 1/4	口 径	12.8 5.5	高	4.2	細砂粒/酸化塩/浅 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第159図 PL-398	5	須恵器 椀	埋土 口縁部片	口 径	12.2			細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。
第159図 PL-398	6	灰釉陶器 土が接合	床面直上と13cm 上	口 径	16.3 7.2	台 高	7.0 5.8	微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。釉施方法は掛け掛り。
第159図	7	土師器 小型甕	掘方埋土 1/3	口 径	11.6 14.2	厚 重		細砂粒/良好/にぶ い濁	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。
第159図 PL-398	8	鉄製品 鎌	掘方埋土 破片	長 幅	6.2 4.4	厚 重	2.1 30.90		鎌破片とみられる鉄製品で、柄装着部は端部を大きく折り曲げる。刃は柄装着部から5cm程で直角に破損劣化する。木質等の痕跡は見られない。
第159図 PL-398	9	鉄製品 刀子	床面直上 破片	長 幅	9.5 3.9	厚 重	1.5 28.02		刀子の刃から茎の破片。棟側にはなだらかな面を持ち刃はすぐに大きく折れ曲がり破損劣化する。茎は全体を柄部に覆われる。
第159図 PL-398	10	鉄製品 鎌	埋土 ほぼ完成	長 幅	5.7 2.5	厚 重	0.6 10.55		鑿形の鉄鎌で先端角は劣化破損。茎は断面長方形で短く木質等の痕跡は見られない。
第159図 PL-398	11	鉄製品 紡錘車	埋土から5cm上 一部欠損	長 幅	14.1 5.1	厚 重	5.0 25.17		ほぼ円形の棒輪と断面やや円錐形になった円形の棒輪からなる紡錘車で棒輪の一方は棒輪近くで劣化破損する。繊維等の痕跡は見られない。
第159図 PL-398	12	鉄製品 不詳	埋土 ほぼ完成	長 幅	6.3 1.1	厚 重	0.9 6.60		断面長方形で一端は角型部の端部に向かい細くなるが鋭利には尖らない。木質等の痕跡は見られない。
第159図 PL-398	13	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	5.7 1.1	厚 重	0.6 6.05		棒状の鉄製品破片で、一端は断面長方形の板状で破損劣化、他の端部に向かい細くなり断面も正方形に近くなる。木質等の痕跡は見られない。
第159図 PL-398	14	鉄製品 不詳	床面から10cm上 ほぼ完成	長 幅	11.7 2.0	厚 重	1.1 34.70		断面長方形で細い板状鉄製品。一端はやや丸みのある角形で他の端部は細くなるが尖らない。1/3ほどの位置で浅くくの字に折れかたれる。
V区64号住居									
第160図 PL-398	1	土師器 杯	床面直上 完成	口 径	12.2 3.4	高		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちへら削り。
第160図	2	須恵器 杯	床面直上 1/4	口 径	13.0 8.0	高	3.8	細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第160図 PL-398	3	須恵器 杯	床面直上と9cm 上が接合	口 径	12.0 8.1	高	3.6	細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へら削り、やや磨減している。
第160図	4	須恵器 高杯	床面から14cm上 脚部					細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。杯身部と脚部は接合。脚部中に2条の凹線が走る。
第160図 PL-398	5	石製品 砥石	床面から5cm上 完成	長 幅	9.8 4.3	厚 重	3.8 200.0	砥沢石	砥面は4面認められる。正面及び裏面は研ぎ減りにより内湾した形態である。左側面全体には対ならし傷が認められる。上面は砥面ではないが、対ならし傷と想定される線条痕が認められる。
V区65号住居									
第162図 PL-398	1	須恵器 杯	床面直上 3/4	口 径	10.4 4.0	高	3.3	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第162図	2	土師器 甕	床面から10cm上 口縁部～胴部片	口 径	23.8 25.6	厚 重		細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい濁	外面胴部に輪積痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。
第162図	3	須恵器 斜釜	カマド使用面直上 口縁部～胴部 1/4	口 径	22.9 26.6	厚 重		細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転方向不明。罫は貼付、胴部はへら削り。内面胴部はへらナデ。
V区66号住居									
第162図	4	土師器 杯	床面直上 1/4	口 径	12.0	高		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部と底部はへら削り。
第162図	5	須恵器 短頸甕	掘方直上 口縁部端部欠	口 径	3.4	厚 重		細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。柄は貼付、天井部は回転へら削り。
V区67号住居									
第166図 PL-398	1	須恵器 杯	カマド使用面から 7cm上	口 径	13.8 8.2	高	4.2	細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後肩縁部を回転へら削り。

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第166図 PL.398	2	土師器 費	カマド使用面直上 口縁部～胴部 1/4	口 19.0 胴 20.0		細砂粒/良好/に ぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第166図 PL.398	3	灰釉陶器 器	埋土 胴部片	胴 27.8		微砂粒/還元焰/灰 白	口クロ整形。胴部下半は回転ヘラ削り。施軸方法不明。 大原2号窯式 期～虎沢山 号窯式期。	
第166図 PL.398	4	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 4.8 幅 0.8	厚 重 0.7 2.83		断面長方形の板状で端部に向かいやや細くなり端部は内 面に終わるが表面に木質等の痕跡は確認できない。他端は劣 化破損で刀子等の破片の可能性あり。	
V区69号住居								
第166図 PL.398	5	須恵器 椀	床面から9cm上 3/4	口 15.9 底 7.2	台 高 7.4 6.7	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	口クロ整形。回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。	
第166図 PL.398	6	鉄製品 小刀	床面から12cm上 破片	長 12.8 幅 2.4	厚 重 1.3 47.64		断面狭三角形で小刀の破片とみられる。横側に刃を持つが 曇との境で破損崩壊する。	
V区68号住居								
第167図 PL.398	1	土師器 杯	床面から16cm上 3/4	口 14.2 高 4.6		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底 部は手持ちヘラ削り。	
V区71号住居								
第169図 PL.398	1	灰釉陶器 瓶	埋土 把手片			微砂粒/還元焰/灰 黄	手持瓶の把手部分。施軸方法不明。	
第169図 PL.398	2	土製品 土鏝	埋土 完形	長 4.2 幅 1.2	孔 重 0.4 5.2	微砂粒/良好/浅黄 橙	外面はナデ。	
V区72号住居								
第171図 PL.398	1	土師器 杯	床面から24cm上 1/4	口 12.0 底 10.8		細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第171図 PL.398	2	須恵器 杯	床面直上 3/4	口 11.8 底 6.7	高 3.9	細砂粒・粗砂粒・ 長石粒/還元焰/黄 灰	口クロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第171図 PL.398	3	須恵器 椀	床面から29cm上 1/4	底 6.4 台 6.8		細砂粒/還元焰/灰 白	口クロ整形。回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第171図 PL.398	4	土師器 小型費	床面直上 口縁部～胴部 1/3	口 13.6 胴 15.6		細砂粒/良好/に ぶい赤黄	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第171図 PL.398	5	石製品 砥石	床面から31cm上 2/3	長 8(5.5) 幅 4.2	厚 重 2.7 139.1		砥面は4面認められる。正面は下方にむかいやや研ぎ減り している。右側面及び裏面はやや外湾した形態である。下 部欠損。	
V区74号住居								
第174図 PL.399	1	黒色土器 椀	カマド使用面 から18cm上 1/3	口 13.5 底 5.6	台 高 7.1 5.8	細砂粒/酸化焰/灰 黄	内面黒色処理。口クロ整形。回転右回り。底部はナデ、高 台は貼付。内面は底部から口縁部までヘラ磨き。	
第174図 PL.399	2	黒色土器 椀	貯蔵穴から26cm 上で床面の高さ 口縁部、台部一 部欠	口 12.4 底 5.4	台 高 6.9 5.8	細砂粒/酸化焰/淡 黄	内面黒色処理。口クロ整形。回転右回り。底部はナデ、高 台は貼付。内面は底部から口縁部までヘラ磨き。	
第174図 PL.399	3	須恵器 椀	床面直上 3/4	口 13.8 底 7.8	台 高 8.8 5.4	細砂粒/酸化焰・ 徳/灰黄	口クロ整形。回転右回り。底部切り難し技法は不明、高台 は貼付。	
第174図 PL.399	4	須恵器 杯	貯蔵穴底から22 cm上 完形	口 10.3 底 5.9	高 3.1	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	口クロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第174図 PL.399	5	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上と7cm上が接 合 口縁部～胴部下 位3/4	口 18.4 胴 22.0		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	口クロ整形。回転方向不明。胴は貼付、胴部はヘラ削り。 内面はヘラナデ。	外面の一部に ススが付着。
第174図 PL.399	6	鉄製品 不詳	床面から6cm下 破片	長 5.3 幅 1.0	厚 重 0.7 4.07		断面四角で端部は劣化破損、他の端部はやや細くなり丸 くなる。木質等の痕跡は見られない。	
V区76号住居								
第174図 PL.399	7	須恵器 杯	カマド側方埋土 1/4	口 10.9 底 6.2	高 3.7	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	口クロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第174図 PL.399	8	土師器 費	カマド使用面 から5cmと8cm上 が接 合 口縁部～胴部片	口 22.8 胴 24.0		細砂粒/良好/灰黄 濁	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部 はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第174図 PL.399	9	土師器 費	カマド使用面直 上とカマド側方 埋土上が接合 口縁部～胴部 3/4	口 20.6 胴 22.1		細砂粒/良好/橙	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部 はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第174図 PL.399	10	石製品 砥石	床面から13cm上 1/3	長 幅 (9.7) (4.7)	厚 重 2.8 127.7		砥面は4面認められる。正面及び裏面は研ぎ減りにより内 湾した形態である。上部は欠損するが上方右側に径約3mm の孔が認められることから、欠損後に穿孔し継続利用した ものと考えられる。	



MIK1号住居

棟号 PL.No.	No.	種 類 種 種	出上位置 残 存 率	計測値		胎上/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第177	1	床輪陶器 鏡	床面から8cm上 口縁部片	口	13.8		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。施釉方法は刷毛塗りか。 光ケ丘1号窯式 期。
第177	2	床輪陶器 鏡	埋上 口縁部中央～高 台部1/3	底	7.1	高	尖穂物無/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。施釉 方法は漬け掛けか。
第177	3	須臾器 羽釜	瓢箪から6cm上 口縁部～胴部上 位片	口	20.7		細砂粒・褐色/酸 化焰/釉	ロクロ整形、回転方向不明。罫は貼付。
第177	4	須臾器 羽釜	カマド使用面から 7cm上と床面 から17cm上が接 合 口縁部片	口	21.6 26.5		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転方向不明。罫は貼付。内面胴部はヘラナデ。
第177	5	土製品 土鉢	カマド廻方埋上 完形	長	3.6	孔	0.4 微砂粒/良好/浅黄 橙	外面はナデ。

MIK10号住居

第178	1	土師器 小型罫	カマド使用面直上 口縁部片	口	11.8		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	台付罫か。
第178	2	土師器 罫	カマド使用面直上 口縁～底部1/2	口	22.5	高	30.1 20.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は 底部から胴部がヘラナデ。
第178	3	土師器 罫	カマド使用面から 11cmと15cm上 が接合 口縁部片	口	17.8		細砂粒/良好/にぶ い赤	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第178	4	土師器 罫	床面から4cm上 口縁部片	口	20.8		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第178	5	土師器 罫	カマド使用面直上 胴部～底部片	底	6.4 23.4	胴		細砂粒/良好/明赤 褐	底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。

MIK2号住居

第180	1	須臾器 器	埋上 口縁部片	口	15.0		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。天井部中央部は回転ヘラ削り。
第180	2	須臾器 鏡	埋上 口縁部片	口	16.6		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。
第180	3	須臾器 鏡(コップ 形)	埋上 口縁部片	口	11.8		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。
第180	4	土師器 罫	床面直上とカマ ド使用面直上が 接合 口縁～胴部1/2	口	18.7 20.0		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。
第180	5	鉄製品 鉄鉢	床面から18cm上 一部欠損	長	11.3	厚	1.1 28.10	幅広で先端は丸みを持つ。胴削りは両端とも欠く。茎は細く 長いが厚く銘に覆われ矢筈等の痕跡は確認できない。 両端とも美化或損する角棒状鉄製品。一端は断面はほぼ正 方形で、一方は薄く長方形となる。表面は厚く銘に覆われ木 質等の痕跡は確認できない。
第180	6	鉄製品 不詳	床面から17cm上 破片	長	6.7	厚	1.5 17.82	

MIK4号住居

第182	1	須臾器 罫	カマド使用面から 10cm上 口縁部片	口	17.4		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。天井部中央部は回転ヘラ削り。 内面にカエリを有す。	
第182	2	土師器 罫	床面直上とカマ ド使用面直上 が接合 口縁～底部1/2	口	22.4	高	32.5 20.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から 胴部がヘラナデ。
第182	3	土師器 罫	床面から22cm上 口縁～胴部1/3	口	18.2		細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	

MIK5号住居

第183	1	須臾器 杯	カマド廻方埋上 口縁部片	口	11.2		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。
第183	2	須臾器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部上 位片	口	20.0 24.0		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。罫は貼付。

MIK6号住居

第186	1	土師器 杯	床面直上 2/3	口	12.4	高	4.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/暗赤褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底 面は手持ちヘラ削り。
第186	2	須臾器 鏡	土坑1の底から 6cm上 1/3	口	12.3 6.3	台	5.7 4.0	細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第186	3	須臾器 鏡	床面から21cm上 口縁～底部1/3	口	14.8 7.4	台	7.0 5.3	細砂粒・粗砂粒・ 長石粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。

挿入 PL.No.	No.	種 類 種 別	出上位置 残 存 率	計測値		肌上/横成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第186図 PL-400	4	須臾器 杓	理上 口縁部片	口	13.6			内外面とも黒色処理。ロクロ整形、回転右回りか。
第186図 PL-400	5	須臾器 杓	方マド使用面から 7cm上 口縁部-体部1/2	底台	6.4 6.0		細砂粒/酸化塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第186図 PL-400	6	灰釉陶器 皿	床面から29cm上 口縁部-底台1/2	口	12.2	台 6.2 高 3.0	微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。施釉方法は洗け掛け。
第186図 PL-400	7	灰釉陶器 杓	床面から29cm上 口縁部片	口	15.8		微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。施釉方法は洗け掛け。
第186図 PL-400	8	須臾器 杓	方マド使用面直上 口縁部-胴部下位 1/4	底	15.6		細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は手持ちへラ削り、胴部下位は回転へら削り。内面底部はナデ。
第186図 PL-400	9	須臾器 羽釜	床面直上 口縁部-胴部1/3	口	19.0 22.0		細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰白	ロクロ整形、回転右回り。罫は貼付。
第186図 PL-400	10	須臾器 羽釜	上坑口の底と5cm と9cmと14cm上 が接合 口縁部-胴部1/3	口	19.6 24.0	胴 23.6	細砂粒/酸化塩/白 い	ロクロ整形、回転右回りか。罫は貼付、胴部上平はナデ、下平はへら削り。
第186図 PL-400	11	須臾器 羽釜	上坑口の底と6cm と7cmと方マド 取方直上が接合 口縁部-胴部1/2	口	19.6 24.4	胴 24.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/黄灰	ロクロ整形、回転右回りか。罫は貼付、胴部上平はナデ、下平はへら削り。
第186図 PL-400	12	土製品 土鉢	理上 完形	長	4.2	孔 0.3 重 6.7	微細粒/良好/白 い	外面はナデ。
第186図 PL-400	13	鉄製品 鉄蓋	方マド使用面から 16cm上 ほぼ完形	長	6.5	厚 1.0 重 14.71		瘡形の鉄蓋で両端は横に広がり尖る。蓋との境を回る形の段を持つ。蓋は断面正方形で短く木質等の痕跡は確認できない。
第186図 PL-400	14	鉄製品 刀子	床面直上 破片	長	4.0	厚 0.9 幅 4.85		刃の大部分を劣化破損により欠く刀子。棟側には明瞭な間を持つ蓋全体を覆う形で広葉樹散孔材の木質痕跡が残る。
第186図 PL-400	15	鉄製品 刀子	床面直上 ほぼ完形	長	25.8	厚 0.9 幅 35.83		細く長い刀子で棟側に明瞭な間を持つ。刃側には見られないが、刃は細くゆるくカーブを持ち研ぎ減りの可能性がある。蓋には木質の痕跡は確認できない。
第186図 PL-400	16	鉄製品 不詳	床面から17cm上 一部欠損	長	3.3	厚 0.8 幅 3.85		し字形で曲がる断面はほぼ正方形の鉄製品。一端は尖り反対側は細くなりながらわずかに曲がり破損する。
M区7号住居								
第189図 PL-400	1	土師器 杯	床面から20cm上 口縁部-底台1/2	口	11.8 3.4		細砂粒/良好/明 濁	口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちへラ削り。
第189図 PL-400	2	須臾器 蓋	床面から5cm上 と胴方理1/2が接 合 口縁部一部欠	口	15.7 3.3	高 2.8	細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。横みは貼付、天井部中央部は回転へら削り。
第189図 PL-400	3	土師器 杓	床面直上と5cm と5cm上が接合 口縁部-胴部片	口	22.9 21.2		細砂粒/良好/明 赤濁	口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。
第189図 PL-400	4	土師器 杓	床面直上 口縁部片	口	23.6		細砂粒/良好/暗 赤濁	口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。
M区8号住居								
第189図 PL-400	5	土師器 杯	床面直上と7cm と10cm上が接合 底部	口	12.8 12.4	高 4.2	細砂粒/やや軟質/ 橙	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちへラ削り。
第189図 PL-400	6	鉄製品 釘	床面から29cm上 一部欠損	長	4.3 1.1	厚 1.1 幅 6.10		断面はほぼ正方形の角釘で、頭は薄く広大きく折り曲げる。先端部は劣化破損する。
M区9号住居								
第190図 PL-400	1	土師器 杯	胴方から12cm上 口縁部-底台1/2	口	12.5 8.0	高 3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへラ削り。
第190図 PL-400	2	須臾器 杓	方マド使用面から 14cm上 口縁部片	口	12.8		細砂粒/還元塩/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。
第190図 PL-400	3	須臾器 杓	理上 底部1/3	底	5.5		細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第190図 PL-400	4	須臾器 杓	理上 底部片	底	5.5		細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第190図 PL-400	5	須臾器 長頸壺	胴方から4cm上 口縁部片	口	11.2		細砂粒/還元塩/濁 灰	ロクロ整形、回転右回りか。
第190図 PL-400	6	土師器 杓	方マド使用面から 10cmと胴方から 15cm上が接合 口縁部-胴部1/3	口	18.8		細砂粒/良好/明 赤濁	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。
第190図 PL-400	7	土師器 杓	床面から7cm上 口縁部-胴部片	口	20.5		細砂粒/良好/白 い	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。

種別 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第190期 PL-400	8	鉄製品 鎌	床面から14cm上 破片	長 6.1 幅 6.7	厚 1.6 重 40.78		柄装着部分をほぼ直角に折り曲げた鉄鎌。柄装着部端から8cm程で破損箇所化しその先端側2.5cm程でヘビヒン状に折れ曲がる。	
VI区11号住居								
第191期 PL-401	1	須臾器 椀	カマド脇方直上 口縁部片	口 14.8		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄褐色	ロク口整形。回転石回りか。	
第191期 PL-401	2	灰釉陶器 椀	カマド脇方直上 口縁～底部1/3	口 13.2 底 6.5	台 6.4 高 4.6	微砂粒/還元焰/灰 黄	ロク口整形。回転石回り。底部は回転ナデ。高台は貼付。集輪方法は漬け掛けか。	大原2号京式 期。
第191期 PL-401	3	須臾器 把手付壺	カマド脇方から 20cm上 製部片	胴 27.0		細砂粒/酸化焰/明 黄褐色	ロク口整形。回転方向不明。把手は貼付。	
第191期 PL-401	4	土師器 甕	カマド脇方から 8cmと15cm上 口縁～胴部1/3	口 18.6		細砂粒/良好/赤褐	口縁部から頸部は横ナデ。胴部はへら削り。内面は製部がへらナデ。	
VI区14号住居								
第192期 PL-401	1	須臾器 壺	埋土 破片	底 台 11.0 13.0		細砂粒/還元焰/黄 灰	ロク口整形。回転石回り。底部は回転ナデ。	
VI区15号住居								
第193期 PL-401	1	須臾器 椀	床面直上 2/3	口 14.2 底 6.5	台 6.4 高 5.0	細砂粒/酸化焰/灰	ロク口整形。回転石回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第193期 PL-401	2	須臾器 椀	床面直上 3/4	口 14.1 底 5.3	台 5.3 高 5.6	細砂粒/酸化焰/ にぶい	ロク口整形。回転石回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第193期 PL-401	3	須臾器 椀	埋土 口縁～底部1/3	口 14.0 底 6.8	台 5.8 高 5.4	細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロク口整形。回転石回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第193期 PL-401	4	須臾器 椀	床面から7cm上 破片	口 6.5 底 5.4		細砂粒/酸化焰/ にぶい	ロク口整形。回転石回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第193期 PL-401	5	鉄製品 刀子	床面直上 破片	長 7.2 幅 1.6	厚 0.6 重 7.37		両端破損跡化する刀子とみられる鉄製品破片。本質等の痕跡は見られない。	
第193期 PL-401	6	鉄製品 不詳	埋土 ほぼ正六角形	長 2.9 幅 0.9	厚 0.6 重 3.60		断面長方形の角棒状で片側は細くなりやや尖る。反対側の端部は角形。	
第194期 PL-401	7	礫石器 敲石	床面直上 完形	長 19.6 幅 5.9	厚 4.4 重 914.0	輝緑岩	棒状の垂内溝を利用している。上下端部に敲打痕が集中しともに平坦面が形成されている。表面と裏面において、上方及び下方の二箇所敲打痕が集中する部分が認められる。	
VI区16号住居								
第196期 PL-401	1	土師器 杯	床面から9cm上 完形	口 11.6 底 7.7	高 3.3	細砂粒/良好/に ぶい	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへら削り。	
第196期 PL-401	2	黒色土器 椀	床面から8cm上 と13cm埋土に接合 口縁部～口縁部 下位片	口 14.4		細砂粒/酸化焰/ オリープ黒	内外面とも黒色処理。ロク口整形。回転方向不明。	
第196期 PL-401	3	鉄製品 釘	掘方から15cm上 破片	長 5.0 幅 1.3	厚 1.2 重 14.14		断面正から長方形の角釘とみられる鉄製品。頭部は角型で先端側は劣化破損する。本質等の痕跡は見られない。	
第196期 PL-401	4	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 5.8 幅 0.9	厚 0.8 重 6.40		断面長方形の棒状鉄製品で一端は劣化破損。表面は硬い錆に覆われ詳細は不明。	
VI区17号住居								
第196期 PL-401	5	須臾器 椀	床面直上 2/3	口 11.4 底 6.5	台 6.9 高 5.5	細砂粒・粗砂粒・ 泥粒/還元焰/にぶ い	ロク口整形。回転石回り。底部は回転ナデ。高台は貼付。	
第196期 PL-401	6	須臾器 椀	床面から9cm上 高台のみ	底 9.0		細砂粒/酸化焰/ にぶい	ロク口整形。回転石回り。底部は回転ナデ。高台は貼付。	
第196期 PL-401	7	土師器 甕	カマド使用面直上 口縁～胴部1/3	口 23.0 胴 24.6		細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ。胴部はへら削り。内面は製部がへらナデ。	
VI区18号住居								
第198期 PL-401	1	土師器 高杯	床面から18cm上 製部片			細砂粒/良好/橙	脚部は外面が履位のへら磨き。内面はへらナデ。脚部中に透孔を有す。	
第198期 PL-401	2	土師器 甕	埋土 破片	底 5.6		細砂粒/良好/にぶ い	底部は木葉痕が残る。胴部はへら削り。内面はへらナデ。	
第198期 PL-401	3	土師器 甕	床面から9cm上 破片	底 6.0		細砂粒/良好/灰褐	底部と胴部はへら削り。内面はへらナデ。	
第198期 PL-401	4	瀬戸・美濃 陶器 甕	埋土 底部1/2	口 底	高 一	白色鉱物微量含 む。/淡黄/	内面から高台胎輪痕。高台輪以下鉄化痕。	江戸時代。
VI区19号住居								
第201期 PL-401	1	土師器 杯	埋土 口縁部片	口 10.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部は上半がナデ。下半がへら削り。底部は手持ちへら削り。	
第201期 PL-401	2	須臾器 椀	床面から29cm上 口縁～底部片	口 15.9 底 12.0	台 11.6 高 3.9	細砂粒/還元焰/灰	ロク口整形。回転石回り。底部の整形は不明。高台は貼付。	
第201期 PL-401	3	土師器 甕	床面直上 口縁～胴部片	口 19.6		細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい	口縁部は横ナデ。胴部はへら削り。内面は製部がへらナデ。	

MIK20号住居

棟号 PL.No.	No.	種 類 種 種	出上位置 残 存 率	計測値		胎土/焼成/色調 残 存 材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第20204	4	須臾器 椀	床面直上とカマ 下使用面から 13cm上が接合 底部片	底 7.0 台 6.4		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転系切り後高台を貼付。	
第20204	5	灰釉陶器 椀	カマ下使用面か ら14cm上	口 13.2 底 6.0 台 高 3.4		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。施軸 方法は綱毛塗りか。	光ヶ丘1号窯 式附。
第20204 PL-401	6	灰釉陶器 椀	床面直上 3/4	口 15.0 底 6.2 台 高 3.0		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。施軸 方法は漬け掛け。	大原2号窯式 附。
第20204 PL-401	7	灰釉陶器 輪花椀	床面直上 2/3	口 16.8 底 7.5 台 高 5.5		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。施軸 方法は漬け掛け。口縁部の輪花については1カ所のみ残存。	大原2号窯式 附。
第20204 PL-401	8	須臾器 羽釜	床面直上 口縁～胴部1/3	口 19.0 脚 23.2		細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。脚は貼付。	

MIK21号住居

第20301	1	須臾器 椀	床面から16cm上 底部片	底 7.0		細砂粒/酸化焰/に ぶい椀	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。	
第20301	2	須臾器 飯 甌	床面直上と5cm 上が接合 脚部	底 23.6		細砂粒/酸化焰/に ぶい椀	ロクロ整形、回転方向不明。胴部はへら削り。内面胴部は へラナデ。	
第20301	3	須臾器 飯 甌	床面直上 脚部	底 22.8		細砂粒/酸化焰/に ぶい椀	ロクロ整形、回転方向不明。底部は横ナデ。内面胴部はへ ラナデ。	

MIK22号住居

第20504 PL-401	1	須臾器 椀	床面直上 3/4	口 13.0 台 高 6.7 4.8		細砂粒/酸化焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転系切り後高台を貼付。	
第20504	2	須臾器 椀	床面から6cmと 9cm上が接合 底部～体部1/3	底 67.3 台 6.6		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/暗灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転系切り後高台を貼付。	
第20504 PL-401	3	土師器 費	カマ下使用面と 7～12cm上の遺 物群が接合 口縁～胴部1/2	口 18.9 脚 21.3		細砂粒/良好/橙	口縁部から胴部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部が へラナデ。	
第20504 PL-401	4	土師器 費	床面直上と5cm 上が接合 口縁～胴部1/2	口 19.3		細砂粒/良好/橙	外面口縁部に輪積れが残る。口縁部から胴部は横ナデ、胴 部はへら削り。内面は胴部がへラナデ。	
第20504	5	土師器 費	床面から14cm上 口縁部1/4	口 19.7		細砂粒/良好/橙	外面胴部に輪積れが残る。口縁部から胴部は横ナデ、胴部 はへら削り。内面は胴部がへラナデ。	

MIK24号住居

第20801	1	須臾器 杯	斲方理上 底部片	底 5.4		細砂粒/酸化焰・ 焼/黒濁	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第20801 PL-401	2	灰釉陶器 耳杯	理上 1/2	底 5.0		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。施軸 方法不明。	
第20801	3	灰釉陶器 椀	床面から7cm上 口縁～底部1/3	口 16.2 底 9.0 台 高 6.1		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。施軸 方法は漬け掛け。	虎渓山1号窯 式附。
第20801	4	灰釉陶器 椀	床面から7cm上 底部1/3	底 6.6 台 6.1		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。施軸 方法は綱毛塗りか。	光ヶ丘1号窯 式附か。
第20801	5	灰釉陶器 長頸壺	床面直上 頸部～体部1/4	底 9.0 台 9.0		細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。胴部中位に回転へら削り。	6と同一個体 か。
第20801	6	灰釉陶器 長頸壺	理上 底部～体部1/3	底 9.0		細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転系切り後高台を貼付。 胴部下位に回転へら削り。自然釉か。	折戸10号窯式 附か。
第20801	7	須臾器 羽釜	床面から4cm下 口縁部片	口 21.8 脚 26.4		細砂粒/還元焰/浅 黄	ロクロ整形、回転方向不明。脚は貼付。	
第20801 PL-401	8	石製品 砥石	床面直上 1/2	長 (8.0) 厚 6.3 重 (4.0) 251.2		砥沢石	砥面は4面認められる。正面は下方にむきよく著しく研ぎ減 りする。下部欠損。	

MIK25号住居

第20904 PL-402	1	須臾器 杯	床面から20cm上 口縁部一部欠	口 10.2 底 5.3 高 3.4		細砂粒・粗砂粒・ 粗砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第20904	2	須臾器 杯	理上 1/3	口 10.6 底 5.9 高 2.7		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第20904 PL-402	3	須臾器 椀	床面直上 3/4	口 11.5 底 6.1 台 高 6.1 4.8		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転系切り後高台を貼付。	
第20904 PL-402	4	灰釉陶器 椀	床面直上 1/2	口 12.8 底 7.4 台 高 2.5		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へラナデ、高台は貼 付。施軸方法は漬け掛け。	虎渓山1号窯 式附。
第20904 PL-402	5	灰釉陶器 段皿	床面から32cmと 34cm上が接合 口縁部一部欠	口 13.6 底 7.4 台 高 2.5		微砂粒/還元焰/浅 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転系切り後高台を貼付。 施軸は全面。	東海10C.前半 代か。
第20904 PL-402	6	緑釉陶器 段皿	床面から27cmと 36cmと38cm上 が接合	口 14.8 底 7.4 台 高 2.6		細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へラナデ、高台は貼 付。施軸は高台内部は施軸されていない。	東海10C.前半 代か。
第20904	7	須臾器 盤	床面から20cmと 35cm上が接合 1/2	口 20.0 底 13.6 台 高 4.3		細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へら削り、高台は貼付。	

棟号 PL.No.	No.	種 類	出上位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第210回 PL-402	8	須臾器 鉢蓋	床面直上と4cm 上が接合 口縁～胴部1/3	口 径	21.8 26.2		細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転方向不明。罫は貼付、胴部はヘラ削り。 内面はヘラナデ。	
第210回	9	須臾器 鉢蓋	床面から11cm上 口縁～胴部1/3	口 径	19.8 28.5		細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。罫は貼付、胴部はヘラ削り。 内面はヘラナデ。	
VI区26号住居									
第212回 PL-402	1	土師器 鉢	床面から18cm上 口縁～底部1/3	口 径	13.6 5.2	高 6.8	細砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り後最下部を残しヘラ磨き、 単位などは磨滅のため不鮮明。内面は底部から体部はヘラ ナデ。	
第212回	2	土師器 甕	床面から5cm上 口縁～胴部1/4	口 径	11.6		細砂粒/良好/暗黄	口縁部から胴部はハケ目。内面胴部はヘラナデ。	
VI区28号住居									
第214回 PL-402	1	須臾器 杯	腹方直上	口 径	8.4 5.3	高 1.6	細砂粒・粗砂粒・ 濁粒/酸化塩/にぶ い橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第214回 PL-402	2	須臾器 杯	床面から39cm上 1/2	口 径	9.2 4.8	高 1.9	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第214回	3	灰輪陶器 皿	床面直上 口縁部片	口 径	13.9 7.8	台 高	2.2 2.1	微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部切り離し技法は不明。虎渡山口堂 式製。施輪方法は漬け掛け。
第214回 PL-402	4	鉄製品 不詳	埋上 ほぼ完形	長 幅	3.9 1.5	厚 重	1.1 10.01		断面長方形で一端に向かへく楕円状に薄くなるが、やへ弧 状に曲る。
第214回 PL-402	5	石製品 砥石	床面から5cm上 1/2	長 幅	7.8 7.0	厚 重	4.5 213.0	砥沢石	砥面は2面認められる。正面は研ぎ減りによりやや内湾す る。左側面には対なし集が認められる。上面は砥面では ないが細かな線条集が認められる。右側面及び下部欠損。
VI区29号住居									
第216回 PL-402	1	須臾器 皿	貯蔵穴底から 25cm上 3/4	口 径	13.1 6.9	台 高	6.6 3.4	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第216回	2	須臾器 皿	埋上 口縁～底部1/3	口 径	13.2 8.1	台 高	8.4 2.7	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第216回 PL-402	3	須臾器 皿	貯蔵穴底22cm と腹方直上と胴 方から4cmと5cm 上が接合 3/4	口 径	15.0 6.5			細砂粒・粗砂粒・ 片岩/還元塩/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付、 高台は剥落。
第216回 PL-402	4	須臾器 杯	貯蔵穴底22cmと 24cm上が接合 3/4	口 径	12.5 6.2	高 3.8	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第216回 PL-402	5	須臾器 碗	貯蔵穴底から 28cm上の床面付 近	口 径	14.8 6.0	台 高	5.0 5.5	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい濁	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第216回	6	須臾器 碗	腹方埋上 口縁部片	口 径	13.8			細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。
第216回 PL-402	7	灰輪陶器 皿?	埋上 底部片	口 径	7.2 6.6	台 高		微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。 施輪は内面のみには刷毛塗り。
第217回 PL-402	8	須臾器 把手付壺	床面直上と5cm と9cmと12cm上 と貯蔵穴底から 27cm上が接合 口縁～胴部1/2	口 径	16.7			細砂粒/還元塩/灰 白	胴部と頸部はロクロ整形、回転右回り。把手はナデ、胴部 に貼付。
第217回 PL-402	9	土師器 台付甕	貯蔵穴底から 21cmと23cmと 25cm上が接合 口縁～胴部1/2	口 径	11.8 3.8	胴 高	14.1	細砂粒/良好/橙	胴部と頸部は接合。口脣部は横ナデ、口縁部から頸部はナ デ、胴部はヘラ削り、底部から脚部は横ナデ。内面は口縁 部が横ナデ。頸部はナデ、胴部はヘラナデ。
第217回 PL-402	10	土師器 甕	床面直上と腹方 埋上が接合 口縁～底部3/4	口 径	19.3 3.0	高 胴	26.7 26.3	細砂粒/良好/橙	外面頸部と内面胴部に輪痕が残る。口縁部から頸部は横 ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘ ラナデ。
第217回 PL-402	11	土師器 甕	貯蔵穴から19cm と21cm上が接合 口縁～胴部	口 径	19.7			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。
VI区30号住居									
第220回	1	須臾器 碗	埋上 口縁～底部1/3	口 径	12.0 6.6			細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰白	ロクロ整形、回転方向不明。底部の整形も不明。
第220回 PL-403	2	鉄製品 破釘	埋上	長 幅	3.7 0.8	厚 重	0.9 2.79		断面丸みを持つ棒状の鉄製品でわずかに曲がる。内端とも 劣化破損し詳細は不明。
VI区31号住居									
第220回	3	須臾器 碗	床面直上 口縁～底部1/2	口 径	14.0 7.6	台 高	7.0 5.3	細砂粒・濁粒/酸 化塩/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第220回	4	須臾器 碗	床面から14cm上 底部～体部1/2	口 径	7.0 6.2	底 台		細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第220回 PL-403	5	鉄製品 不詳	床面から9cm上 破片	長 幅	5.6 1.2	厚 重	0.8 6.13		断面長方形から狭三角で端部は破損蝕食他の端部は細くな るが尖らない。片子等の全体とみられるが全体に錆に覆われ 本体脆弱なため詳細は不詳。

## MIX33号住居

棟別 PL.No.	No.	種 類 種 種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第220図	6	須恵器 鉢	床面から20cm上 底部～体部1/3	底 径	6.8 6.4		細砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形、回転方向不明。底部切り離し技法不明、高台は貼付。	
第220図	7	土師器 土器	甗方から15cm上 口縁部片	口 径	19.4		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、頸部はナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第220図 PL-403	8	石製品 砥石	床面から33cm上 4/5	長 幅	(7.5) (5.3)	厚 重	1.9 103.3	砥沢石	砥面は3面認められる。正面及び裏面はほぼ平坦である。左側面は研ぎ減りにより内湾する。上部及び下部の一部欠損。

## MIX32号住居

第222図	1	土師器 杯	埋上 1/3	底 径	8.0 5.2	高	2.1	細砂粒/良好/ぶい 黄橙	口縁部横ナデ、体部はヘラ削り、底部は器面磨滅のため不明。内面はヘラナデ。	平面形態は扇形か。
第222図 PL-403	2	黒色土器 鉢	カマド使用面直上	口 径	14.5 6.5	台 高	6.7 2.1	細砂粒/酸化焼/橙	本来は内面黒色処理か、ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。内面は全面にヘラ磨き。	
第222図 PL-403	3	須恵器 杯	床面から14cm上 完形	口 径	9.7 4.8	高	5.7	細砂粒/酸化焼/淡 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	二次被熱を受けている。
第222図	4	灰輪陶器 埋上	口縁部片	口 径	14.6			微砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。施釉方法は漬け掛けか。	丸石2号窯式 期。
第222図 PL-403	5	石製品 石製品	埋上 完形	長 幅	5.1 6.4	厚 重	5.4 263.7	粗粒輝石安山岩	丁寧に研磨によって極度に整形している。	

## MIX34号住居

第225図	1	土師器 杯	甗方から17cm上 口縁～底部1/2	口 径	11.6 3.1			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第225図	2	土師器 鉢	床面から28cm上 口縁部片	口 径	22.8			細砂粒/良好/ぶい 地	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底部は手持ちヘラ削り。	
第225図	3	須恵器 杯	床面から32cmと 33cm上が接合 口縁～底部1/3	口 径	12.3 7.9	高	3.7	細砂粒/酸化焼/灰 濁	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。底部疑似高台状を呈す。	
第225図 PL-403	4	須恵器 杯	床面から22cm上 2/3	口 径	11.7 7.0	高	3.9	細砂粒/還元焼/濁 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第225図 PL-403	5	須恵器 杯	埋上 口縁部片	口 径	12.2 8.0	高	3.2	細砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削りか。	
第225図	6	須恵器 杯	埋上 底部片	口 径	7.0			細砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
第225図	7	須恵器 杯	甗方から14cm 上 3/4	口 径	13.0 5.3	高	4.9	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焼/ぶい 地	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第225図	8	土師器 土器	床面から7cm下 口縁～胴部片	口 径	19.8			細砂粒/良好/ぶい 地	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第225図	9	土師器 土器	甗方埋上 口縁部片	口 径	17.0			細砂粒/良好/明赤 濁	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第225図 PL-403	10	鉄製品 釘	埋上 一部欠損	長 幅	5.2 0.8	厚 重	0.8 6.14		断面はほぼ正方形の角釘。頭は薄く延びし直角に曲げる。先端部は酸化破損する。	
第225図 PL-403	11	鉄製品 鎌	床面から20cm上 ほぼ完形	長 幅	14.5 6.9	厚 重	1.5 38.66		柄装着部を大きく曲げた鉄鎌。刃は柄装着部より3cm付近から細くなり先端は角ばった形となり研ぎ減りの可能性がある。木質等の痕跡は見られない。	
第225図 PL-403	12	鉄製品 不詳	埋上 一部欠損	長 幅	3.6 2.2	厚 重	1.4 11.18		幅2cm長さ6cmの楕円形の鉄製品で中央付近からU字形に折れ曲がる。内端に3～4mmほどの穴を持ち片方は長さ2cm程の釘が残り一方の穴は端部が破損する。	

## MIX43号住居

第226図 PL-403	13	須恵器 鉢	カマド使用面か ら22cm上 口縁～底部2/3	口 径	14.8 6.1	高	5.4	細砂粒/酸化焼/灰 濁	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第226図 PL-403	14	須恵器 鉢	カマド使用面か ら12cm上 口縁～底部1/3	口 径	14.3 6.6	台 高	7.8 6.6	細砂粒/酸化焼/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第226図 PL-403	15	須恵器 鉢	カマド使用面か ら20cm上 口縁～底部1/3	口 径	14.8 7.0	台 高	8.0 6.8	細砂粒/酸化焼/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台を貼付。	
第226図	16	須恵器 鉢	床面から18cm上 口縁～底部1/4	口 径	13.7 7.0			細砂粒/酸化焼/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台を貼付がが剥落。	
第226図	17	灰輪陶器 鉢	埋上 口縁部片	口 径	16.2			微砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転方向不明。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第226図	18	灰輪陶器 鉢	床面から13cm上 底部1/4	底 径	8.2 8.0			微砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ナデ、高台は貼付。	大原2号窯式 期。
第226図 PL-403	19	鉄製品 不詳	甗方から9cm上 ほぼ完形	長 幅	10.3 1.2	厚 重	1.0 11.96		断面やや丸みを持つ正方形で、内端に向かい細くなり断面は丸みを持つ。一方端は折り返しルーブ状で他の端部は細くなるが端部は1.5mmほどの角形。木質等の痕跡は見られない。	

## MIX37号住居

第228図 PL-403	1	須恵器 杯	甗方埋上 ほぼ完形	口 径	9.4 4.6	高	3.2	細砂粒/酸化焼/淡 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第228図	2	須恵器 鉢	床面から4cm下 口縁～底部1/4	口 径	13.0 6.4	高	3.6	細砂粒/酸化焼/淡 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	

棟号 PL_No.	No.	種類	出上位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第228図	3	須忠器 匳	甗方理上 口縁~底部1/3	口 底	14.2 6.0	高 3.6	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第228図	4	土師器 甗	甗方理上 底部1/2	底	9.0		細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	底部と製部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第228図 PL-403	5	鉄製品 刀子	理上 破片	長 幅	3.1 1.3	厚 重 0.5 3.92		棒・対照とともに明瞭な鋸を打つ刀ノズル。両端とも破損 化する。	
第228図 PL-403	6	鉄製品 不詳	理上 破片	長 幅	3.2 2.3	厚 重 0.2 2.60		五角形をした薄い板状の鉄製品で一角は劣化破損し反対側 の端部はやや曲がり破損後の錆化の可能性もある。	

Ⅵ区38号住居

第230図 PL-403	7	須忠器 匳	床面から9cm上 2/3	口 底	15.2 7.5	高 4.0	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。	
第230図	8	須忠器 匳	甗方理上 口縁~底部1/3	口 底	15.2 8.0	高 4.1	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整か。	
第230図 PL-403	9	土師器 甗	甗方理上 口縁~胴部1/4	口 底	28.6		細砂粒/良好/明赤 濁	口縁部は横ナデ、製部はヘラ削り。内面は口縁部から製部 がヘラナデ。	
第230図	10	須忠器 甗	カマド使用面か ら8cm上 底部~胴部下位 片1/4	底	9.3		細砂粒/酸化塩/に ぶい黄	ロクロ整形、回転右回りか。底部と製部はヘラ削り。	
第230図 PL-403	11	土製品 土鍔	理上 ほぼ完成形	長 幅	4.5 2.0	孔 重 0.4 17.2	細砂粒/良好/黒濁	外面はナデ。	

Ⅵ区57号住居

第230図 PL-403	12	須忠器 匳	床面から16cm上 口縁~底部1/2	口 底	11.2 5.3	台 高 6.4 4.5	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/明黄濁	ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。	
第230図 PL-403	13	土製品 土鍔	甗方理上 完成形	長 幅	5.6 2.2	孔 重 0.3 20.1	微砂粒/良好/にぶ い黄	外面はナデ、両端部は平坦面をつくる。	

Ⅵ区39号住居

第232図 PL-404	1	黒色土器 匳	床面から6cm上 口縁~底部1/3	口 底	14.0 7.4	高 5.6	細砂粒/酸化塩/暗 灰黄	内外面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へ ら削り。	
第232図	2	須忠器 杯	甗方から9cm上 底部1/2	口 底	10.6 10.8		細砂粒/還元塩/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へら削り。	
第232図 PL-404	3	須忠器 杯	床面直上 口縁~底部1/2	口 底	11.8 6.0	高 4.1	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	外面体部と内 面底部に墨 書。
第232図 PL-404	4	須忠器 匳	床面直上 口縁~底部1/2	口 底	13.8 7.4	台 高 7.0 5.3	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周縁をナデ、 高台は貼付。	
第232図	5	須忠器 匳	カマド下方から 21cm上 口縁~底部1/4	口 底	11.0 5.0	高 3.9	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第232図	6	須忠器 匳	床面から5cm上 口縁部片	口 底	22.8		細砂粒/還元塩/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。	
第232図	7	灰地陶器 匳	床面から15cm上 口縁部片	口 底	16.0		微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。施釉方法は漬け掛けか。	大原2号窯式 期。
第233図	8	須忠器 羽釜	床面から29cm上 口縁部片	口 底	19.8 23.5		細砂粒/酸化塩/に ぶい黄	ロクロ整形、回転右回りか。罫は貼付。	
第233図	9	須忠器 羽釜	床面から32cm上 口縁部片	口 底	19.8 23.0		細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰白	ロクロ整形、回転方向不明。罫は貼付、製部はヘラ削り。	
第233図	10	須忠器 羽釜	床面から21cm上 口縁部~胴部上 位片	口 底	19.0 23.3		細砂粒/酸化塩/に ぶい黄	ロクロ整形、回転右回りか。罫は貼付。	
第233図 PL-404	11	須忠器 羽釜	床面から9cmと 23cmとで接合 口縁~胴部片	口 底	19.8 23.5		細砂粒/酸化塩/に ぶい黄	ロクロ整形、回転右回りか。罫は貼付。	
第233図 PL-404	12	鉄製品 鋸	理上 破片	長 幅	3.3 3.4	厚 重 1.1 7.61		雁又の鋸跡と見られる破片。先端は両側に大きく開き葉側 は細く断面は正方形で破損跡化と見られるが、全体に厚い 跡に覆われ本体脆弱なため詳細は不明。	
第233図 PL-404	13	鉄製品 釘	理上 ほぼ完成形	長 幅	3.8 0.6	厚 重 0.5 1.67		断面はほぼ正方形の角釘。頭は角型で折り返し等は見られ ない。先端は細くなり尖る。木質等の痕跡は見られない。	
第233図	14	鉄洋 流動洋	床面直上	長 短	9.3 8.3	厚 重 4.8 44.36		外面が紫黒色の流動性の高い流動洋。洋質部、比重が高い 上面流れ皺が生じている。気泡が多く内在している。	横成No175

Ⅵ区41号住居

第236図 PL-404	1	黒色土器 匳	床面直上 2/3	口 底	14.9 7.3	高 4.4	細砂粒・濁粒/酸 化塩/にぶい黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。口縁 部から体部はヘラ磨き。内面は全面ヘラ磨き。	本来は内面 とも黒色処理 か。二次焼熱 を受けてい る。
第236図 PL-404	2	黒色土器 匳	カマド使用面直 上3/4	口 底	14.6 7.1	高 4.7	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄	内外面とも黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部は回 転糸切り無調整。外面は口縁部から体部はヘラ磨き、器面 磨滅のため単位不詳。内面は全面ヘラ磨き。	
第236図 PL-404	3	黒色土器 匳	床面直上 口縁部一部欠	口 底	14.0 6.4	台 高 8.0 6.5	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄 橙	内外面とも黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部ナデ、 高台は貼付。口縁部から体部はヘラ磨き。内面はヘラナ デか。	
第236図 PL-404	4	須忠器 杯	床面直上 3/4	口 底	9.3 6.4	高 2.0	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	

棟号 PL.No.	No.	種類 種	出上位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第236区 PL-404	5	須恵器 杯	床面直上 完形	口 9.2 高 2.3 底 6.0	細砂粒/酸化塩/浅 黄橙	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第236区 PL-404	6	須恵器 杯	廻方から20cm上 完形	口 9.6 高 2.6 底 5.8	細砂粒/酸化塩/に ぶい橙	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第236区 PL-404	7	須恵器 杯	床面直上 3/4	口 8.5 高 2.3 底 5.4	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第236区 PL-404	8	須恵器 杯	床面直上 3/4	口 9.4 高 2.3 底 6.2	細砂粒/酸化塩/浅 黄橙	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第236区 PL-404	9	須恵器 杯	床面直上 3/4	口 10.3 高 2.7 底 6.5	細砂粒/酸化塩/浅 黄橙	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第236区 PL-404	10	須恵器 杯	廻方から16cm上 口縁～底部1/2	口 12.0 高 3.8 底 6.6	細砂粒/酸化塩/浅 黄	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第236区 PL-404	11	須恵器 椀	床面直上 3/4	口 10.9 台 6.5 底 6.7 高 4.9	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい橙	口クロ整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。	
第236区 PL-404	12	須恵器 椀	床面直上 3/5	口 13.6 台 8.4 底 7.3 高 5.3	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/浅黄橙	口クロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台は貼付。	
第236区 PL-404	13	須恵器 椀	廻方直上 高台部一部欠	口 14.5 台 8.0 底 7.3 高 5.7	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/浅黄橙	口クロ整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。	
第236区 PL-404	14	須恵器 椀	床面直上 高台部一部欠	口 14.1 台 8.5 底 6.7 高 5.4	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/浅黄橙	口クロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台は貼付。	
第236区 PL-404	15	須恵器 椀	廻方から14cm上 脚部3/4欠	口 14.6 台 8.4 底 7.0 高 6.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄 橙	口クロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台は貼付。	
第237区 PL-404	16	灰胎陶器 椀	床面直上 1/2	口 15.6 台 7.8 底 8.0 高 6.8	微砂粒/還元塩/灰 白	口クロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	虎渓山1号器 式附。
第237区 PL-404	17	土師器 割茶	カマド使用面から 11cm上 口縁部片	口 22.0 厚 1.4 底 24.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	罫は貼付。口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面はへらナデ。	
第237区 PL-404	18	鉄製品 蓋	床面直上 一部欠損	長 13.2 厚 30.14 幅 5.4	1.4 3.0	覆又の鉄蓋で、片方の先端は劣化破損する。釜との境では急に広がり段を持つ。釜は断面正方形で劣化破損する。	
第237区 PL-404	19	鉄製品 不詳	理上 破片	長 3.4 厚 0.5 幅 0.9 厚 2.34	0.5 2.34	断面正から長方形の棒状鉄製品。中央から捻じれるように曲がり、一端はさらにしの字に強く曲がる。	
第237区 PL-404	20	石製品 砥石	床面直上 ほぼ完形	長 7.9 厚 2.8 幅 6.0 厚 128.5	砥沢石	砥面は4面認められる。正面及び裏面は下方にむきい著しく研ぎ減りする。内側面も下方にむきい研ぎ減りする。下部の一部欠損。	

MI区42号住居

第238区 PL-405	1	須恵器 杯	41号住居床面直上と 床面直上が 接合 3/4	口 9.5 高 2.6 底 6.4	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第238区 PL-405	2	須恵器 杯	床面直上 口縁～底部1/3	口 10.0 高 2.7 底 4.8	細砂粒/酸化塩/浅 黄	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	内面体部にス スが付着。
第238区 PL-405	3	須恵器 椀	カマド使用面から 5cm下 脚部1/4欠	口 14.4 台 8.2 底 7.6 高 5.9	細砂粒・粗砂粒・ 粗粒/酸化塩/にぶ い黄橙	口クロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台は貼付。	
第238区 PL-405	4	須恵器 椀	床面から12cm上 口縁部下位～高 台部	底 6.1 台 6.2	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	口クロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。	
第238区 PL-405	5	土師器 片蓋	カマド使用面直上 口縁～胴部下位 1/3	口 23.2 厚 24.0 底 24.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤褐	口縁部から胴部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	
第238区 PL-405	6	須恵器 割茶	カマド使用面直上 口縁～胴部下位 1/3	口 22.8 厚 28.0 底 28.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい橙	口クロ整形、回転方向不明。罫は貼付、胴部はへら削り。内面胴部は下半へらナデ。	
第238区 PL-405	7	須恵器 割茶	カマド使用面直上 口縁部～胴部上 位片	口 22.2 厚 26.0 底 26.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい橙	口クロ整形、回転方向不明。罫は貼付。胴部はへら削り、内面胴部はへらナデ。	
第238区 PL-405	8	鉄製品 釘	床面から10cm上 ほぼ完形	長 4.3 厚 0.5 幅 0.7 厚 2.01	0.5 2.01	断面はほぼ正方形の角釘。頭は角形で先端は細くなり尖る。木質等の痕跡は見られない。	

MI区44号住居

第239区 PL-405	1	須恵器 椀	カマド廻方から 4cm上 底部片	底 6.5 台 5.6	細砂粒/酸化塩/橙	口クロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第239区 PL-405	2	須恵器 割茶	カマド廻方から 6cm上 口縁～胴部上位 片	口 23.6 厚 27.0 底 27.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい橙	口クロ整形、回転方向不明。罫は貼付、胴部はへら削り。	



## M区45号住居

棟号 PL.No.	No.	種 類 種 種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第240区 PL-405	1	須臾器 杯	埋土 底部片	底	6.0	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第240区	2	須臾器 椀	埋土 底部片	底	8.4 8.0	細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第240区	3	土師器 費	床面直上 口縁部片	口	18.0	細砂粒/良好/明濁	口縁部から頸部は横ナデ。胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第240区	4	須臾器 費	床面から29cm上 胴部片			細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰	頸部に補強帯が付。外面には平打り痕。内面には同心円状アケ目が見られる。	
第240区 PL-405	5	土製品 土師	床面から28cm上 完形	長	3.8	細砂粒/良好/黒濁	外面はナデ。	孔重 13.7
第240区 PL-405	6	鉄製品 釘	埋土	長	4.7			
第240区 PL-405	7	鉄製品 不詳	床面から15cm上 一部欠損	長	7.1	厚重 1.0 7.50	断面はほぼ正方形の角棒状の鉄製品破片。頭は劣化破損。先端は急に細くなり尖る。角釘破片とも見られるが先端部は断面円形で他の種類の可能性もある。	

## M区46号住居

第242区 PL-405	1	黒色土器 椀	床面から16cm上 1/2	口 底	15.5 7.4	細砂粒/還元塩/に ぶい黄橙	内外面とも黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ。高台は貼付。口縁部から体部はヘラ磨き。内面は全面ヘラ磨き。		
第242区	2	黒色土器 椀	埋方埋土 1/4	口 底	14.4 6.6	台高 6.6 5.5	細砂粒/還元塩/灰 黄濁	内外面とも黒色処理。底部回転糸切り後高台を貼付。内面は放射状にヘラ磨き。器面一部磨滅のため不鮮明。	
第242区	3	須臾器 杯	床面直上 1/2	口 底	14.6 6.8	台高 3.8	細砂粒/還元塩/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第242区	4	須臾器 椀	埋土 口縁部1/4	口 底	10.8 6.3	細砂粒/還元塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。高台が貼付か。		
第242区	5	土師器 費	カマド使用面か ら7cm上 口縁部～胴部上 位片	口	24.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄濁	口縁部は横ナデ。頸部はナデ。胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。		
第242区	6	土師器 費	カマド使用面か ら11cm上 口縁部～胴部上 位片	口	23.6	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部から頸部は横ナデ。胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。		

## M区47号住居

第244区	1	黒色土器 椀	床面直上 1/2	口 底	11.2 6.9	台高 6.9 4.5	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰黄濁	内外面とも黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第244区	2	黒色土器 椀	床面直上 口縁部下位～底 部1/2	口 底	6.0 6.4	細砂粒/還元塩/明 黄濁	内外面とも黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。		
第244区 PL-405	3	須臾器 杯	床面直上 口縁部一部欠	口 底	9.2 4.7	台高 3.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/にぶい濁	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第244区 PL-405	4	須臾器 椀	床面直上 2/3	口 底	10.6 5.8	台高 6.0 5.1	細砂粒/還元塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第244区 PL-405	5	須臾器 椀	床面直上 完形	口 底	11.0 6.1	台高 6.2 4.4	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/にぶい濁	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第244区 PL-405	6	須臾器 椀	床面直上 2/3	口 底	10.8 6.5	台高 5.9 4.8	細砂粒・粗砂粒・ 粗粒/還元塩/にぶ い濁	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ。高台を貼付。	
第244区	7	灰輪陶器 椀	床面から32cm上 口縁部片	口	15.8	微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。	
第244区 PL-405	8	須臾器 費	床面直上 底部～胴部片	口 底	16.4	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/浅黄	ロクロ整形、回転右回り。底部はヘラ削り。胴部最下部もヘラ削り。内面底部から胴部下位はヘラナデ。		
第244区	9	須臾器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部上 位片	口 跨	25.0 28.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/明赤濁	ロクロ整形、回転方向不明。跨は貼付。胴部はヘラ削り。		
第244区	10	須臾器 羽釜	床面から10cm上 口縁部～胴部上 位片	口	22.8	細砂粒/還元塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。跨は貼付が脱落。		
第244区 PL-405	11	須臾器 羽釜	床面から5cm上 口縁部～胴部上位 1/4	口 跨	24.2 27.8	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/にぶい濁	ロクロ整形、回転方向不明。跨は貼付。胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。器面磨滅のため不鮮明。		
第244区	12	須臾器 羽釜	床面から6cmと 10cmと28cm上が 接合 口縁部～胴部上位	口 跨	21.8 25.4	細砂粒/還元塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。跨は貼付。胴部下半にヘラ削り。		

## M区58号住居

第244区	13	須臾器 杯	床面から23cm上 口縁部下位～底 部片	口 底	4.2	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/にぶい濁	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。底部は疑似似台状を見す。		
第244区 PL-405	14	灰輪陶器 皿	カマド使用面直 上 口縁部～底部1/2	口 底	12.0 6.4	台高 6.0 2.2	微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ。高台は貼付。施釉方法不明。	大原2号窯式 期。
第244区	15	緑釉陶器 椀	床面から8cm上 口縁部片	口	13.6	微細流/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。	東海10C.前 段皿か。	

## M区48号住居

棟号 PL.No.	No.	種 類 種 種	出土位置 残 存 率	計測値		胎土/焼成/色調 石・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第246回 PL-406	1	須臾器 杯	床面直上 3/4	口 底	10.0 4.0	高 3.2	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。 底部は疑似高台状を呈す。
第246回 PL-406	2	須臾器 杯	床面から7cm上 3/4	口 底	9.3 4.4	高 3.1	細砂粒・粗砂粒・ 粗粒/酸化塩/にぶい 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。 底部は疑似高台状を呈す。
第246回 PL-406	3	須臾器 碗	床面から17cm上 口縁～底部1/2	口 底	10.6 5.5	高 5.6 4.4	細砂粒/酸化塩/明 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第246回 PL-406	4	須臾器 碗	床面から15cm上 3/5	口 底	11.2 6.3	高 5.9 4.3	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第246回 PL-406	5	須臾器 碗	埋上	口 底	13.4 5.3		細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。
第246回	6	須臾器 羽釜	床面直上と16cm と25cm上が接合 口縁～胴部中位	口 跨	24.8 30.0		細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか、外面胴部に輪積み痕が残る。 跨は貼付、胴部はへら削り。
第247回	7	須臾器 羽釜	床面から13cm上 口縁～胴部中位	口 跨	24.0 28.0		細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/橙	ロクロ整形、回転右回りか。跨は貼付、胴部はへら削り。 跨の内面にへらナデ。
第247回	8	須臾器 羽釜	床面直上 口縁～胴部中位 1/4	口 跨	24.0 28.4		細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/橙	ロクロ整形、回転右回りか、外面胴部に輪積み痕が残る。 跨は貼付、胴部はへら削り。
第247回 PL-406	9	須臾器 羽釜	床面直上と11cm 上が接合 口縁～胴部1/4	口 跨	23.2 27.2		細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回りか。跨は貼付、胴部はへら削り。 内面はへらナデ。
第247回 PL-406	10	鉄製品 紡錘車	掘方埋上 一部欠損	長 幅	4.7 4.3	厚 重 0.4 9.06		紡錘車の輪軸破片。中央には4mmほどの円穴を持つ、穴の 縁は片側にあめくられるように折れ面がある。
第247回	11	鉄製品 不詳	埋上 破片	長 幅	6.5 2.6	厚 重 0.9 12.87		断面楕円・長方形で楕円の鉄製品。楕円の端部は尖らず他の 端部は劣化破損する。
第247回	12	石製品 砥石	埋上 完形	長 幅	7.3 2.9	厚 重 2.5 76.5	砥沢石	砥面は4面認められる。正面は下方にむかい研ぎ減りする。 裏面及び両側面はほぼ平坦である。上方の内側面に径約 5mmの孔を内側穿孔する。上面及び下面は砥面ではないが、 細かな継ぎ目が見られる。

## M区49号住居

第251回	1	須臾器 碗	掘方埋上 口縁破片	口	14.6		細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。
第251回	2	須臾器 碗	掘方埋上 口縁部下位～高 台部1/2	底 台	6.2 6.0		細砂粒/酸化塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第251回 PL-406	3	灰輪陶器 器	床面から25cm上 底部～体部片	底 台	7.4 7.0		微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。 輪軸方法は誤り掛け。
第251回 PL-406	4	須臾器 小瓶	床面直上 口縁部欠	口 胴	8.2 10.0		細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台はつま み出しか。
第251回 PL-406	5	鉄製品 紡錘車	埋上 破片	長 幅	4.3 4.0	厚 重 0.6 7.94		紡錘車の紡錘破片。円形の紡錘と見られるが縁は破損より 凹凸がありさらに劣化破損により2/3を欠く。紡錘の穴 は筋により窪み筋も残存しない。
第251回 PL-406	6	鉄製品 釘	埋上 破片	長 幅	4.2 1.1	厚 重 1.1 9.24		断面正方形の角釘とみられる鉄製品破片で、両端とも破損 跡化し詳細は不明。
第251回 PL-406	7	鉄製品 釘	埋上 破片	長 幅	4.2 1.0	厚 重 1.0 4.01		断面正方形の角釘とみられる鉄製品破片で、頭部は破損跡 化し先端は細くなり尖る。表面は鋭い筋に覆われ本体脆弱 なため詳細は不明。
第251回 PL-406	8	鉄製品 不詳	埋上 破片	長 幅	6.6 4.0	厚 重 2.0 71.05		厚さ1cm程度の鋳造鉄製品の破片。

## M区51号住居

第251回	9	須臾器 杯	掘方埋上 口縁～底部片	口 底	8.6 6.4	高 1.8	細砂粒/酸化塩/淡 黄	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り無調整。
第251回	10	須臾器 杯	掘方直上 高台部片	底 台	7.5		細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、切り離し技法 は不明、高台は貼付。
第251回 PL-406	11	土師器 甕	方々下使用面直 上と掘方から 5cm上が接合 口縁～底面1/4	口 底	31.6 14.2	高 26.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤褐	口唇部は横ナデ、口縁部から胴部はへら削り、底部もへら 削り。内面は口縁部がナデ、胴部はへらナデ。
第251回	12	須臾器 羽釜	床面直上 口縁～胴部上位 片	口 跨	22.6 26.0		細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄 褐	ロクロ整形、回転方向不明。外面胴部に輪積み痕が残る。跨 は貼付、胴部はへら削り。
第251回 PL-406	13	鉄製品 不詳	床面から20cm上 破片	長 幅	13.6 1.4	厚 重 1.0 9.37		断面円形でわずかに曲がる棒状の鉄製品破片。紡錘車の棒 軸の可能性があるが両端とも劣化破損し詳細不明。

## M区55号住居

第251回 PL-406	14	土師器 杯	埋上 底部片				細砂粒/良好/橙	底部は手持ちへら削り。	底部の内外面 に墨書。
第251回	15	須臾器 杯	埋上 底部～体部片	底 台	6.0		細砂粒/酸化塩/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第251回	16	須臾器 碗	埋上 底部片	底 台	6.0 5.6		細砂粒/酸化塩/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第251回	17	灰輪陶器 器	埋上 口縁部片	口	12.0		細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。輪軸方法は誤り掛け。	大原2号窯式 期。

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出上位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第25209 PL-406	18	鉄製品 不詳	埋上 破片	長 幅	14.3 8.8	厚 重	1.8 255.60	鑄造鉄製品破片。全体的に破損錆化し本来形状は不明。	
第25209 PL-406	19	石製品 石製品	掘方から12cm上 完形	長 幅	17.5 15.4	厚 重	10.5 3788.5	粗粒輝石安山岩	

Ⅳ区52号住居

第25409 PL-405	1	鉄製品 不詳	床面から11cm上 破片	長 幅	14.0 0.9	厚 重	0.6 13.16	断面長方形の角棒状鉄製品。内端に向かい細くなるが端部は角形で別の角棒状鉄製品が溶け付着する。	
------------------	---	-----------	-----------------	--------	-------------	--------	--------------	--	--

Ⅳ区53号住居

第25509 PL-407	1	土師器 杯	床面直上 ほぼ完形	口 底	11.7 8.2	高	3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへう削り。	
第25509 PL-407	2	須臾器 杯蓋	埋上 1/4	口 幅	15.8 6.2	高	2.1	細砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形、回転右回り。幅みは貼付、天井部は中程まで 回転へう削り。内面のカエリ内側にカキ目。	
第25509 PL-407	3	須臾器 杯	掘方埋上 口縁～底部1/3	口 底	12.6 6.4	高	3.9	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第25509 PL-407	4	須臾器 杯	床面から10cm上 口縁～底部1/4	口 底	12.6 7.0	高	3.5	細砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第25509 PL-407	5	須臾器 杯	床面から23cm上 口縁部下位～底 部	底	5.6			細砂粒/還元焰/黄 灰	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第25509 PL-407	6	須臾器 杯	床面直上 口縁部下位～底 部	底	5.8			細砂粒・黒色粒/ 還元焰/黄灰	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第25509 PL-407	7	須臾器 椀	掘方直上 3/4	口 底	14.3 7.7	台 高	7.3 6.1	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/にぶい濁	ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	内面底部に墨 書、「東ノカ」。
第25509 PL-407	8	須臾器 椀	床面から30cm上 口縁～底部1/3	口 底	15.0 8.0	台 高	7.6 6.2	細砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第25509 PL-407	9	須臾器 椀	掘方埋上 口縁～底部1/3	口 底	14.0 6.7	台 高	6.8 6.8	細砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。	
第25509 PL-407	10	須臾器 椀	床面から51cm上 1/4	口 底	14.4 8.4	台 高	6.8 6.8	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロク口整形、回転右回り。底部切り難し技法不明、高台は 貼付。高台は欠損後研磨して再利用か。	
第25509 PL-407	11	灰釉陶器 長頸壺	埋上 口縁部片	口 底	10.2			微砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形。	
第25509 PL-407	12	土師器 台付甕	埋上 脚部片	脚	9.0			細砂粒/良好/明赤 濁	脚部は内外面とも横ナデ。	
第25509 PL-407	13	須臾器 壺	床面から34cm上 胴部下位～底部 片	底 台	14.2 14.4			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/にぶい濁	ロク口整形、回転方向不明。底部はナデ、高台は貼付。	
第25509 PL-407	14	須臾器 甕	床面直上と掘方 から5cm上が接 合 頸部～胴部片	頸	15.0			細砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形、回転方向不明。内面は胴部下位にアテ具痕が 残る。	
第25609 PL-407	15	鉄製品 ヤリガンナ	埋上 一部欠損	長 幅	7.5 1.5	厚 重	0.8 9.77		ヤリガンナとみられる鉄製品で、先端は反り返り尖らず丸 みを持つ。全体に硬い錆に覆われ本体脆弱なため詳細は不 明。	
第25609 PL-407	16	鉄製品 刀子	床面直上 一部欠損	長 幅	20.7 2.0	厚 重	0.9 46.16		棒・刃側ともに明顯な欠けを持つ刀子。刃の先端部は劣化破 損する。茎は長く端部付近に一部に広葉樹材の本質痕跡が 残存する。	
第25609 PL-407	17	鉄製品 釘	埋上 破片	長 幅	5.2 1.5	厚 重	1.2 17.15		断面長方形の角棒状鉄製品。頭部は角形で先端部は破損す る。	
第25609 PL-407	18	鉄製品 不詳	埋上 破片	長 幅	4.1 0.8	厚 重	0.5 2.46		断面長方形で端部はやや薄くなり角形で終わる。他の端部 は破損錆化している。	
第25609 PL-407	19	鉄製品 不詳	埋上 破片	長 幅	5.3 2.2	厚 重	2.0 22.36		断面丸みのある四角で端部は傘型の形状を持ち、3cmほど 離れた位置にも傘形から円盤状の突起をもち端部は角 形。	

Ⅳ区54号住居

第25609 PL-406	1	須臾器 椀	埋上 口縁部片	口	14.8			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロク口整形。回転方向不明。	
第25609 PL-406	2	須臾器 椀	埋上 口縁部片	口	13.8			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロク口整形。回転方向不明。	
第25609 PL-406	3	須臾器 椀	埋上 口縁部片	口	15.0			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロク口整形。回転右回りか。	
第25609 PL-406	4	須臾器 椀	埋上 口縁部片	口	18.0			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロク口整形。回転右回りか。	
第25609 PL-406	5	灰釉陶器 平瓶	埋上 肩部～胴部上位	径	19.0			微砂粒/還元焰/灰 黄	ロク口整形。回転右回り。降灰が付着か。	折戸10号壺式 甕～黒田14号 壺式甕。
第25709 PL-406	6	土師器 甕	床面直上 口縁～胴部1/4	口 脚	22.4 24.1			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう削り。内面は胴部が へうナデ。	
第25709 PL-406	7	土師器 甕	埋上 口縁部片	口	19.4			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう削り。内面は胴部が へうナデ。	
第25709 PL-406	8	須臾器 甕	床面から13cm上 口縁部片	口	25.0			細砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形。回転右回りか。	

種別 Pl.No.	No.	種 器 種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第257図 PL.406	9	鉄製品 ヤリガンナ	盤方から4cm上 ほぼ完成	長 幅	1.2	厚 重	0.8 17.24		ヤリガンナとみられる鉄製品で、先端は反り返るのが対部は直線的。先端は尖るが使用によるものかや非対称的な形状を持つ。対近くの葉は断面正方形で端に向かい薄くなり断面長方形になる。端部から4cm程にハキキの痕跡が見られるが部分的で確定はできない。木質等の痕跡は確認できない。
Ⅴ区56号住居									
第258図 PL.406	1	須恵器 杯	床面直上 3/4	口 底	12.3 6.9	高	4.1	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	口ク口整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第258図	2	須恵器 杯	床面から5cm上 口縁部片	口	14.0			細砂粒/還元焰/灰 白	口ク口整形。回転右回りか。
第258図	3	須恵器 椀	床面から8cm上 口縁部片	口	13.8			細砂粒/還元焰/灰 白	口ク口整形。回転右回りか。内面の体部下位に重ね焼き痕が残る。
Ⅴ区1号住居									
第252図	1	須恵器 椀	カマド埋土 口縁部片	口	13.0			細砂粒/酸化焰/浅 黄	口ク口整形。
第252図 PL.407	2	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部下 位1/3	口	20.6			細砂粒/良好/浅黄	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。
Ⅴ区2号住居									
第263図	1	須恵器 椀	床面直上 口縁部～底部 1/3	口 底	14.6 6.8	台 高	6.0 5.2	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄	口ク口整形。回転右回り。底部は回転糸切り後高台を貼付。
第263図 PL.407	2	鉄製品 紡錘車	埋土 完成	長 幅	23.5 6.9	厚 重	6.8 76.00		完成の紡錘車。紡輪はほぼ円形で紡輪は中央部の断面は円形に近く上端に向かい徐々に細くなり端部は薄く延ばし捻じれながら？状に曲がる。下端に向かい細くなり端部はやや傘型に丸くなる。
Ⅴ区3号住居									
第256図	1	須恵器 杯	埋土 口縁部片	口	10.7			細砂粒/酸化焰/灰 白	口ク口整形。
第256図	2	須恵器 杯	埋土 底部片	底	5.0			細砂粒/酸化焰/浅 黄	口ク口整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第256図 PL.407	3	須恵器 椀	床面直上 口縁部～底部 1/3	口 底	14.7 7.0	台 高	8.2 6.5	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄	口ク口整形。回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。
第256図 PL.407	4	須恵器 椀	カマド使用面から 5cmと27cm上 が接合 口縁部～底部 2/3台部欠	口	14.0 6.0			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	口ク口整形。回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。高台が欠損後底部を磨き磨き使用か。
第256図	5	須恵器 椀	埋土 底部片	底	6.0			細砂粒/酸化焰/焼 /浅黄橙	口ク口整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第256図 PL.407	6	灰釉陶器 皿	カマド使用面から 13cm上 口縁部～底部 1/3	口 底	13.6 7.2	台 高	6.6 3.1	微砂粒/還元焰/灰 白	口ク口整形。回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。
第256図	7	灰釉陶器 皿	埋土 口縁部片	口	14.0			微砂粒/還元焰/に ぶい黄橙	口ク口整形。回転方向不明。施釉方法は漬け掛け。
第256図	8	須恵器 甕	埋土 口縁部片	口	18.8			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	口ク口整形。
Ⅴ区5号住居									
第256図 PL.408	9	須恵器 杯	カマド使用面から 6cmと20cm上 が接合 3/4	口 底	13.6 5.6	高	3.9	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	口ク口整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第256図	10	須恵器 杯	貯蔵穴直上 1/2	口 底	13.6 6.6	高	4.7	細砂粒/酸化焰/灰 黄	口ク口整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第256図	11	須恵器 椀	カマド使用面から 14cm上 口縁部～底部 1/4	口	13.8 6.8	台 高	7.2 5.1	細砂粒/酸化焰/灰 黄	口ク口整形。回転右回り。底部は回転糸切り後高台を貼付。
第256図	12	須恵器 椀	床面直上 胴部中位～底部 1/3	底	6.6 6.0			細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	口ク口整形。回転右回り。底部は回転糸切り後高台を貼付。
第256図	13	須恵器 椀	カマド使用面から 35cm上 体部下位～底部	底 台	7.4 6.4			細砂粒/酸化焰/灰 白	口ク口整形。回転右回り。底部は回転糸切り後高台を貼付。
第256図	14	灰釉陶器 椀	床面から7cm上 底部1/2	底 台	7.4 6.4			微砂粒/還元焰/灰 白	口ク口整形。回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は刷毛塗り、内面底部にも一律施釉。
第256図	15	土師器 甕	カマド使用面から 5cmと6cm上 口縁部片	口	17.2			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はナデ。胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。
第256図 PL.408	16	灰釉陶器 長頸壺	床面から13cm上 胴部下位～底部 片	底 台	7.5 7.6			細砂粒/還元焰/灰 白	口ク口整形。回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法不明。

棟図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出上位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第266図 PL-408	17	石製品 紡輪	床面から25cm上 完形	長 5.4	厚 1.4	重 50.0	変質デイスait	表裏面ともよく研磨されておりほぼ平坦である。径約6mmの軸穴孔が内側穿孔されている。	逆台形状 (薄型)
Ⅵ区4号住居									
第269図	1	灰釉陶器 耳杯	埋土 破片				細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。施釉方法不明。	
第269図	2	須臾器 鉢	カマド1使用面直上 口縁部片	口 28.6			細砂粒/酸化焰/淡 黄	ロクロ整形。回転右回りか。	
第269図	3	土師器 甕	カマド2使用面直上 口縁部～胴部中 位1/4	口 20.2			細砂粒・粗砂粒/ 良好/黄灰	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第269図	4	須臾器 羽釜	カマド1使用面直上と7cm上が 接合 口縁部～胴部下 位1/4	口 17.2 跨 21.6			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/橙	ロクロ整形。回転右回り。跨は貼付、胴部下平にヘラ削り。	
第269図	5	須臾器 甕	床面直上 口縁部～頸部片	口 26.6			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形。回転右回りか。	
Ⅵ区28号住居									
第269図 PL-408	6	鉄製品 不詳	床面から13cm上 破片	長 4.3 幅 1.1	厚 0.7 重 6.28			断面長方形の短冊形の鉄製品で若干捻じれが見られる。内 面ともやや斜めな角形だが破損跡の可能性はある。	
Ⅵ区6号住居									
第273図 PL-408	1	土師器 杯	貯蔵穴直上 3/4	口 11.9 底 8.8	高 3.3		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。	外面底部に 「土」の墨書。
第273図	2	須臾器 杯	埋土 1/3	口 11.5 底 6.1	高 3.0		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/オリーブ 灰	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
Ⅵ区7号住居									
第273図 PL-408	3	土師器 甕	カマド使用面から 5cmと12cm上 が接合 口縁部～胴部下 位1/2	口 27.8			細砂粒・粗砂粒/ 良好/ぶい赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第273図	4	土師器 甕(腹に転 用)	床面直上と5cm 上が接合 口縁部～胴部下 位1/3	口 24.8 底 15.4	高 22.1		細砂粒・粗砂粒/ 良好/黒褐	口縁部は横ナデ、胴部は木口に残るヘラ削り、頸部下に指 頭痕が残る。内面は胴部が木口に残るヘラナデ。	
Ⅵ区8号住居									
第273図	5	須臾器 椀	床面直上と7cm と貯蔵穴底から 34cm上が接合 口縁部～底部 1/3	口 14.6 底 6.6	高 4.2		細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第273図	6	須臾器 椀	床面直上 口縁部～底部 1/3	口 13.6			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。	
第273図	7	須臾器 椀	床面から15cm上 底部～体部下位	口 6.4 底 5.6	高 5.6		細砂粒/酸化焰/ぶ い黄橙	ロクロ整形。回転右回りか。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第273図 PL-408	8	須臾器 椀	床面直上と20cm 上が接合 口縁部～底部 1/2	口 19.9 底 8.1	台 高 8.3 8.3		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/黄灰	ロクロ整形。回転右回りか。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第273図 PL-408	9	土師器 甕	床面直上と14cm と16cm上が接合 口縁部～胴部下 位1/2	口 19.8			細砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第274図	10	土師器 甕	カマド使用面から 18cm上 口縁部1/2	口 21.2			細砂粒/良好/橙	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部 はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第274図 PL-408	11	土師器 甕	カマド使用面直 上と8cmと17cm 上が接合 3/4	口 20.4 底 3.1	高 27.2		細砂粒/良好/ぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は 底部から胴部がヘラナデ。	
第273図	12	土師器 甕	カマド使用面から 14cm上と床面 から 16cm上が接合 口縁部～胴部 1/3	口 19.6			細砂粒/良好/ぶ い赤褐	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部 はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第274図 PL-408	13	鉄製品 不詳	貯蔵穴底から 20cm上 ほぼ完形	長 16.4 幅 3.4	厚 重 0.8 34.74			三日月形の鉄製品で一端は両側から折り面げ基の様な形状 を示すが、柄を取り付けたような痕跡は見られない。	
Ⅵ区9号住居									
第276図	1	土師器 甕	床面直上 口縁部片	口 32.2			細砂粒/良好/ぶ い赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	

Ⅷ区10号住居

棟号 PL.No.	No.	種 類 種 種	出土位置 残 存 率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第278Ⅷ	1	灰釉陶器 皿	埋土 口縁部片	口	14.6		微砂粒/還元焰/灰 黄	ロク口整形、回転右回りか。施釉方法は刷毛塗り。	光ヶ丘1号窯 式期。
第278Ⅷ	2	灰釉陶器 皿	埋土 底部～体部下半 片	底	7.0		微砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。施釉方法は刷毛塗り。	光ヶ丘1号窯 式期。
第278Ⅷ	3	土師器 費	床面直上 口縁部1/2	口	19.6		細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第278Ⅷ	4	土師器 費	カマド使用面から 6cmと8cm上 口縁部～胴部上 位1/3	口	17.8		細砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第278Ⅷ PL-409	5	鉄製品 紡錘車・紡 輪	埋土 一部欠損	長 幅	6.1 5.9	厚 重	2.4 45.56	直径5.5cmの円形の紡錘車の紡輪。紡輪部分は錆化により 変形化する。6の紡輪と接合する。	
第278Ⅷ PL-409	6	鉄製品 紡錘車・紡 輪	埋土 一部欠損	長 幅	13.7 1.6	厚 重	1.4 26.69	断面が丸に近い四角形の棒状鉄製品。表面は硬い錆に厚く 覆われ本体脆弱。同一住居に出土した紡錘車の紡輪5に接 合する。	
第278Ⅷ PL-409	7	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	7.5 1.1	厚 重	1.2 14.49	断面が丸に近い四角形の棒状鉄製品。表面は硬い錆に厚く 覆われ本体脆弱なため詳細は不明。	

Ⅷ区12号住居

第279Ⅷ	1	土師器 費	埋土 口縁部片	口	16.9		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
-------	---	----------	------------	---	------	--	----------------	-----------------------------	--

Ⅷ区13号住居

第281Ⅷ	1	須恵器 検	埋土 底部1/2	底	6.9		細砂粒/還元焰/灰 黄	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り後高台を貼付 であるが、脱落。	
第281Ⅷ	2	灰釉陶器 検	埋土 底部片	底	8.2 8.0		微砂粒/還元焰/に ぶい黄	ロク口整形、回転右回りか。底部は回転ヘラナデ、高台は 貼付。施釉方法は不明。	

Ⅷ区14号住居

第283Ⅷ PL-409	1	土師器 杯	床面から6cm上 完形	口	11.8 9.2	高	3.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第283Ⅷ PL-409	2	須恵器 杯蓋	埋土 3/4	口	18.7 4.4	高	3.5	細砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形、回転右回り。天井部は中程まで回転ヘラ削り、 握みは貼付。	
第283Ⅷ PL-409	3	須恵器 杯	床面直上と5cm 上が接合 底部一部欠	口 底	12.1 6.2	高	3.5	細砂粒・粗砂粒・ 片岩/還元焰/灰	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第283Ⅷ PL-409	4	須恵器 杯	床面直上と26cm と30cm上が接合 3/4	口 底	13.2 6.6	高	3.8	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/黄灰	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第283Ⅷ PL-409	5	須恵器 杯	カマド使用面と 9cmと11cm上が 接合 3/4	口 底	12.7 7.6	高	4.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第283Ⅷ PL-409	6	須恵器 短頸壺	床面から24cm上 1/3	口	6.0			細砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形、回転右回りか。底部から胴部下位は回転ヘラ 削り。	
第283Ⅷ PL-409	7	須恵器 広口壺	床面から29cm上 口縁部片	口	14.4			細砂粒/還元焰/に ぶい黄	ロク口整形、回転右回りか。	
第284Ⅷ PL-409	8	土師器 費	床面直上と8cm と11cm上が接合 口縁部～胴部中 位1/2	口	21.0			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第284Ⅷ	9	土師器 費	カマド使用面から 35cm上 口縁部～胴部上 位1/3	口	21.0			細砂粒/良好/赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第284Ⅷ PL-409	10	土師器 費	床面直上と6cm と7cmと9cm上 が接合 口縁部～胴部 1/2	口	20.8			細砂粒/良好/橙	内面胴部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部 はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第284Ⅷ	11	須恵器 製餅器	Ⅷ区2面一括 製餅器					細砂粒/還元焰/灰 白	外面は平行引き直をヘラナデでナデ消している。内面には 同心円状アテ具痕が残る。	
第284Ⅷ PL-409	12	鉄製品 鎌?	坑底から25cm上 破片	長 幅	9.5 3.6	厚 重	0.6 100.00		断面薄く、板状で片側は尖る。鉄製の鎌片と考えられるが両 端とも劣化破損し詳細は不明。	
第284Ⅷ PL-409	13	製作地不詳 青磁碗か	埋土 体部下位片	口 底	— —	高 —	—		夾雑物ほとんど含まない。 内面陶による亀文。外面の釉に粗い貫入。肥前磁器か。	江戸時代か。

Ⅷ区18号住居

第286Ⅷ PL-410	1	土師器 杯	貯蔵穴から12 cm上 口縁部一部欠	口	14.0 9.2	高	4.3	細砂粒/良好/ぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。内面口縁部に放射 状増文。	
第286Ⅷ PL-410	2	土師器 杯	床面直上と5cm 上が接合 3/4	口	11.7			細砂粒/良好/ぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底 部は手持ちヘラ削り。	
第286Ⅷ PL-410	3	土師器 杯	床面から11cm上 口縁部一部欠	口 底	12.1 9.1	高	3.1	細砂粒/良好/ぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	

種別 PL_No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第286	4	土師器 杯	床面直上 3/4	口 底	11.7 8.4	高 3.1	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへう削り。	
第286 PL-410	5	土師器 杯	床面から10cmと 15cm上が接合 3/4	口 底	10.9 9.0		細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部と横ナデ、体部はナデ、指頭痕が残る。底部は手持ちへう削り。	
第286 PL-410	6	土師器 杯	掘方直上 1/2	口 底	12.2 8.7	高 2.9	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへう削り。	
第286	7	土師器 杯	埋上 1/2	口 底	12.0 9.4	高 3.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへう削り。	
第286 PL-410	8	土師器 杯	貯蔵穴貳から12 cm上 1/3	口 底	11.5 8.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへう削り。	
第286	9	土師器 杯	掘方埋上 1/3	口 底	12.3 8.4		細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへう削り。	
第286	10	土師器 杯	床面から10cm上 1/4	口 底	12.2 9.0	高 3.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへう削り。	
第286	11	土師器 杯	埋上 1/4	口 底	11.8 8.6	高 3.1	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへう削り。	
第286	12	須恵器 杯蓋	須恵器 杯蓋 1/2	口 底	15.2		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は中程まで回転へう削り、 横みは貼付であるが、剥落。	
第286	13	須恵器 杯蓋	貯蔵穴貳直上と 19cm上が接合 1/3	口 底			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。天井部は中程まで回転へう削り。	
第286 PL-410	14	須恵器 杯	床面直上と29cm 上が接合 3/4	口 底	11.8 7.4	高 3.1	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は糸切り後四角をナデ。	
第286 PL-410	15	須恵器 杯	掘方直上 1/2	口 底	12.6 8.6	高 3.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第286 PL-410	16	須恵器 杯	カマド使用面直 上 1/3	口 底	13.0 7.0	高 3.4	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第286 PL-410	17	須恵器 杯	掘方から8cm上 1/3	口 底	11.9 6.8	高 3.3	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第286	18	須恵器 杯	カマド使用面直 上 1/3	口 底	12.7 7.8	高 2.9	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第286 PL-410	19	須恵器 碗	床面直上 1/2	口 底	13.5 7.3	高 4.0	細砂粒/酸化焰/浅 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第288 PL-410	20	須恵器 碗	床面から23cm上 1/2	口 底	10.6 6.4	台 高 4.9	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第288	21	須恵器 碗	床面から24cm上 底部へ体部1/2	口 底	8.6 8.2		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第288	22	須恵器 碗	床面直上 底部片	口 底	8.0 7.6		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第288 PL-410	23	須恵器 広口壺	埋上 口縁部片	口 底	15.4		細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形。	
第288	24	土師器 費	埋上 口縁部片	口 底	13.8		細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう削り。内面は胴部が へうナデ。	
第288	25	土師器 費	貯蔵穴貳から12 cm上 口縁部1/2	口 底	18.5		細砂粒/良好/明赤 褐	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部 はへう削り。内面は胴部がへうナデ。	
第288	26	須恵器 費	床面直上 口縁部片	口 底			細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転方向不明。口縁部は凹縁による区画、内 部に波状文が施文。	
第288	27	須恵器 費	カマド使用面直 上 胴部片	口 底			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	内外面ともへうナデ、外面にはかすかに甲子痕が残る、内 面もア字貝痕がかすかに残る。	
第288	28	須恵器 費	床面から17cm上 胴部片	口 底			細砂粒/還元焰/灰	外面には平行甲子痕、内面には同心円状ア字貝痕が残る。	
第288 PL-410	29	土製品 羽口	床面直上	長 幅	11.0 8.4	厚 重 4.5 274.73		先端部から体部片。厚さ約3cm。指頭圧痕あり。胎土は粗 砂粒。先端部は凸状に溶損。	構成No86
第288 PL-410	30	鉄製品 刀子	掘方から12cm上 ほぼ完形	長 幅	16.4 1.9	厚 重 1.5 39.97		棟側には明瞭な面を持つ刀子。刃側はなだらかに茎に移行 する。茎は端部から1.5cm付近でくの字形に折れ曲がる。	
第288 PL-410	31	鉄製品 刀子	埋上 破片	長 幅	5.9 1.6	厚 重 0.5 9.77		棟側にはわずかな面を持つ刀子。刃側は劣化破損し刃側な だらかに茎に移行する。茎は間から0.5cm付近で破損顕化す る。	
第288 PL-410	32	鉄製品 楔?	埋上 ほぼ完形	長 幅	7.6 2.3	厚 重 1.6 39.47		断面長方形の筒形鉄製品で一端に向かい広がりが薄く なり尖る。他の端部は厚く角形で反り返り等は見られない が楔と考えられる。	
第288 PL-410	33	鉄製品 釘	埋上 破片	長 幅	8.4 1.6	厚 重 1.4 19.68		断面長方形の筒形鉄製品で一端に向かい広がりが薄く なり尖る。他の端部は厚く角形で反り返り等は見られない が楔と考えられる。	
第288 PL-410	34	鉄製品 不詳	埋上 破片	長 幅	6.0 1.3	厚 重 1.2 7.67		断面はほぼ正方形に近い角棒状で端部に向かい薄くなり ループ状に曲がり端部は本体とクロスする。他の端部は劣化破 損する。	

検出 PL-No.	No.	種 類 種 別	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第288図 PL-410	35	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	8.9 0.8	厚 重	0.8 8.21	断面円形の棒状鉄製品で端部に向かい細くなり断面は角張る。他の端部は劣化破損、紡錘車の紡軸の可能性があるが断定はできない。		
第289図 PL-410	36	鉄製品 不詳	埋土 一部欠損	長 幅	8.6 4.1	厚 重	2.2 40.41	断面狭三角形でやや弧を描く長方形の鉄製品。一方の端部の角がほぼ伸びるが1cm程で丸く終る。この端部は破損の可能性があるが全体に厚く錆に覆われており詳細は不明。		
第289図 PL-410	37	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	6.6 4.1	厚 重	3.5 91.84	三角形の板状鉄製品。中央でU字形に深く折れ面がかる。		
第289図	38	鉄滓 鉄塊系遺物	埋土	長 幅	5.7 5.0	厚 重	3.7 168.83	分析資料№7参照	構成№84・分析資料№7	
第289図	39	鉄滓 粘土質溶液物	埋土	長 短	4.5 4.0	厚 重	1.9 31.47	気泡が内在し、滓質粗。	構成№85	
第289図	40	鉄滓 椀形鍛冶滓 (中)	埋土	長 短	8.1 7.0	厚 重	3.8 255.22	平面不整形円形。側面欠損。上面左方向から工具痕有。	構成№82	
第289図	41	鉄滓 椀形鍛冶滓 (小)	床面直上	長 幅	7.3 8.9	厚 重	3.8 240.33	平面ほぼ円形。右側面欠損。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。	構成№83	
第289図 PL-410	42	石製品 砥石	カマド埋土 2/3	長 幅	(9.5) 4.5	厚 重	(4.3) 200.2	流紋岩	砥面は3面認められる。表面及び裏面は下方にむかい研ぎ減りする。下部欠損。	
Ⅵ区19号住居										
第291図	1	須臾器 杯	埋土 底部1/2	底	6.2			細砂粒/酸化塩/浅黄	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第291図	2	須臾器 杯	埋土 底部1/2	底	6.6			細砂粒/酸化塩/灰黄	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第291図	3	須臾器 椀	床面から6cm上 高台部	台	9.5			細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/明赤褐	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。	
第291図 PL-409	4	灰釉陶器 皿	埋土 破片	底	6.6 6.4			微砂粒/還元塩/灰白	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は掛け掛け。	大原2号窯式 附。
第291図 PL-409	5	灰釉陶器 長頸壺	床面直上 1/2底部欠	口	11.2			微砂粒/還元塩/灰白	ロクロ整形。回転右回り。頸部は胴部に接合。胴部下半は回転ヘラ削り。施釉方法は刷毛塗るか。	先ヶ丘1号窯式 附。
第291図 PL-409	6	石製品 丸駒	床面から51cm上 完形	長 幅	2.4 3.3	厚 重	0.6 6.4	洞長岩?	正面及び裏面は研ぎされ光沢が著しい。裏面には線条痕として研ぎ痕が残る。裏面側3ヶ所に磨り穴を穿つ。	
Ⅵ区20号住居										
第292図	1	須臾器 杯	床面から17cm上 1/3	口 底	11.8 7.0	高	3.4	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰白	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
Ⅵ区21号住居										
第296図 PL-410	1	須臾器 杯	埋土 3/4	口 底	9.3 5.2	高	2.9	細砂粒・粗砂粒/ 濁粒/酸化塩/ぶい 橙	ロクロ整形。回転右回り。底部整形は器面不良のため不明。	
第296図 PL-410	2	須臾器 杯	床面から6cm上 3/4	口 底	9.8 4.9	高	2.7	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/橙	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第296図	3	須臾器 杯	カマド側方直上 1/3	口 底	11.4 5.8	高	3.2	細砂粒/還元塩/黄 灰	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第296図 PL-410	4	須臾器 椀	床面直上 3/4	底 台	7.3 7.4			細砂粒/酸化塩/橙	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第296図	5	灰釉陶器 埋土 底部	埋土 底部	底 台	7.0 6.0			微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は不明。	大原2号窯式 附。
第296図	6	灰釉陶器 椀	カマド側方直上 底部1/2	底 台	8.6 8.6			微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は不明。	虎沼山1号窯 式附。
第296図 PL-410	7	土器 農器	カマド使用面直上 と5cmと6cmと 7cm上が接合 3/4底部欠	口	22.1			細砂粒・粗砂粒/ 良好/ぶい、橙	口縁部は横ナデ、胴部は上位から中位がヘラナデ、下位はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第296図 PL-410	8	鉄製品 紡錘車・紡 輪	ほぼ完形	長 幅	6.3 6.3	厚 重	1.5 45.23		ほぼ円形の紡輪で。紡輪は遺存せず中央の穴は錆化により塞がる。	
第296図 PL-410	9	鉄製品 釘	埋土 一部欠損	長 幅	4.6 1.2	厚 重	0.9 5.26		断面四角の角削、調整では広がり端部は斜めに曲がる。先端側に向かい徐々に細くなるが端部は鋭利には突らない。	
第296図	10	鉄滓 椀形鍛冶滓 (大)	埋土	長 短	11.1 12.1	厚 重	6.6 69.87		平面円形。やや二段気味。左側面欠損。酸化土砂に覆われている。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。	構成№90
第296図 PL-410	11	石製品 丸駒	床面から10cm上 1/2	長 幅	(2.4) (2.0)	厚 重	0.5 3.2	洞長岩?	正面及び裏面は研ぎされ光沢が著しい。裏面には線条痕として研ぎ痕が残る。裏面に2ヶ所の磨り穴が残る。	
Ⅵ区22号住居										
第296図	12	須臾器 椀	貯蔵穴底直上 1/4	口 底	12.9 7.2	台 高	6.2 4.6	細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第296図 PL-411	13	須臾器 長頸壺か 底部	カマド使用面直上 と12cm上が接 合	底 台	9.5 9.5			細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰黄	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。胴部下位に回転ヘラ削り。	



種別 PL_No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第296図 PL-411	14	灰釉陶器 皿	床面から9cmと 40cm上が接合 3/4	口 底	14.3 7.2	台 高	6.8 3.2	微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は刷毛塗布。	光ヶ丘1号窯 式期。
第296図	15	灰釉陶器 皿	貯蔵穴底から15 cm上の床面付近 1/3	口 底	13.4 6.6	台 高	6.4 3.2	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大塚2号窯式 期。
第296図	16	土師器 鬚	床面直上 口縁部片	口 底	15.9 6.9			細砂粒/良好/にぶ い濁	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴割がヘラナデ。	
第296図	17	須恵器 羽釜	貯蔵穴底から19 cm上 口縁部片	口 底	17.2 22.2			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転方向不明。罫は貼付。	
第297図 PL-411	18	鉄製品 鏡	埋上 一部欠損	長 幅	9.5 1.8	厚 重	1.4 24.58		三角形の先端を持つ鉄鏡。茎との境には段を持ち、茎は0.5cm程で破損している。全体に厚く筋に覆われ本体は彫割で詳細は不明。	
第297図 PL-411	19	鉄製品 釘	破片	長 幅	6.1 3.7	厚 重	0.9 10.64		断面はほぼ正方形の角棒状でし字状に曲がる鉄製品。全体に硬い筋に覆われ本体彫割で詳細は不明。	
第297図 PL-411	20	鉄製品 刀子	床面直上 ほぼ完成	長 幅	15.8 1.9	厚 重	1.3 21.51		棟削りに明瞭な凹を持つ刀子。刃部は直線的に茎に移行するが、刃は茎に比し細く研ぎ減りによる形状と考えられる。全体に厚く筋に覆われ木質等の痕跡確認できない。	
第297図 PL-411	21	鉄製品 不詳	埋上 破片	長 幅	11.4 3.7	厚 重	1.8 79.56		断面長方形で三角形の鉄製品。鋳造鉄製品の破片とみられるが全体に放射状に著しく詳細は不明。	
Ⅷ区92号住居										
第298図 PL-411	1	須恵器 皿	埋上 口縁部一部欠	口 底	13.0 7.0	台 高	7.0 3.1	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転系切り後高台を貼付。内面底部は磨り磨かれ手織り、転用態として使用か。	
第298図 PL-411	2	須恵器 椀	貯蔵穴埋上 口縁部一部欠	口 底	14.5 6.1	台 高	6.8 5.9	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転系切り後高台を貼付。	
第298図 PL-411	3	須恵器 椀	床面から23cm上 口縁部片	口 底	14.8 6.8			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。	
第298図	4	須恵器 椀	床面から20cm上 1/4	口 底	7.1 6.8			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転系切り後高台を貼付。	
Ⅷ区23号住居										
第301図 PL-411	1	黒色土器 椀	カマド使用面直 上 完成	口 底	11.4 5.4	台 高	5.8 4.5	細砂粒/酸化焰/明 赤濁	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部回転系切り後高台を貼付。内面ヘラ磨き。	内外面の口唇 部にスガが付 着。
第301図 PL-411	2	須恵器 杯	カマド使用面か ら6cm上 完成	口 底	9.6 6.4	高	2.6	微砂粒/酸化焰/浅 黄濁	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第301図 PL-411	3	須恵器 杯	床面から18cm上 完成	口 底	9.1 6.3	高	2.7	細砂粒/酸化焰/浅 黄濁	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第301図 PL-411	4	須恵器 杯	床面直上 完成	口 底	9.1 5	高	2.8	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄濁	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第301図 PL-411	5	須恵器 杯	床面直上 完成	口 底	8.9 5.5	高	2.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/浅黄濁	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第301図 PL-411	6	須恵器 杯	床面直上 完成	口 底	9.4 6.0	高	2.2	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄濁	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第301図 PL-411	7	須恵器 杯	床面直上 口縁部一部欠	口 底	9.0 5.9	高	2.6	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄濁	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。体部下位に回転ヘラナデ。	
第301図 PL-411	8	須恵器 杯	床面から32cm上 3/4	口 底	9.0 6.0	高	2.4	細砂粒/酸化焰/浅 黄濁	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第301図 PL-411	9	須恵器 杯	床面から11cm上 3/4	口 底	8.9 6.2	高	2.1	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/浅黄濁	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第301図 PL-411	10	須恵器 杯	床面から13cm上 3/4	口 底	8.9 5.7	高	2.3	細砂粒/酸化焰/浅 黄濁	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第301図	11	須恵器 椀	埋上 底部	口 底	6.0 7.8			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄濁	ロクロ整形、回転右回り。高台は小型の杯状のものを機身に貼付。	
第301図	12	灰釉陶器 段皿	床面から17cm上 口縁部片	口 底	12.4 7.0			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。施釉方法は不明。	虎沢山1号窯 式期。
第301図	13	灰釉陶器 椀	カマド使用面直 上と8cm上が接 合 3/4	口 底	7.0 7.0			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り後回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	虎沢山1号窯 式期。
第301図 PL-411	14	土師器 羽釜	カマド使用面か ら32cm上 口縁部～胴部 1/2	口 底	23.0 26.5			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄濁	罫は貼付、口縁部は横ナデ、胴部は下から罫へ向けてのヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第301図	15	土師器 羽釜	床面から19cm上 口縁部片	口 底	18.3 22.8			細砂粒/良好/にぶ い黄濁	罫は貼付、口縁部は横ナデ、胴部は下から罫へ向けてのヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第301図	16	土師器 羽釜	カマド使用面直 上と6cm上が接 合 口縁部片	口 底	23.9 27.5			細砂粒/良好/にぶ い濁	罫は貼付、口縁部は横ナデ、胴部は下から罫へ向けてのヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第301図	17	土師器 羽釜	カマド使用面直 上 口縁部片	口 底	22.5 26.6			細砂粒/良好/にぶ い濁	罫は貼付、口縁部は横ナデ、胴部は下から罫へ向けてのヘラ削り。内面はヘラナデ。	

種別 PL.No.	No.	種 類 種 別	出上位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第301図	18	須臾器 費	床面直上と7cm 上が接合 底部片				細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	底部から胴部下位はヘラナデ。内面もヘラナデ、アテ具痕 がみかすに残る。	
第301図	19	鉄滓 椀形鍛冶滓 (極小)	楕出面	長 6.2	厚 重	2.5 111.34		平面不整形円形。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。洋質 は密で、比重が高い。上下面に微細な木炭痕がみられる。	構成No92

Ⅴ区24号住居

第301図	20	灰輪陶器 皿	床面から14cm上 破片	口	13.6		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。施釉方法は洗い掛け。	虎渡山1号室 式附。
-------	----	-----------	-----------------	---	------	--	----------------	------------------------	---------------

Ⅴ区25号住居

第303図	1	須臾器 椀	埋上 破片	口	12.6		細砂粒/酸化焰/粗 白	ロクロ整形、回転右回りか。		
第303図	2	灰輪陶器 椀	埋上 1/3	口 底	13.4 6.8	台 高	6.0 4.0	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。施釉方法は洗い掛けか。	大原2号室式 附。
第303図	3	灰輪陶器 皿	床面直上 底部～体部1/4	口 底	7.2 6.8			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。施釉方法は洗い掛けか。	大原2号室式 附。
第303図	4	灰輪陶器 長頸壺か	床面直上 底部	口 底	9.0 8.7			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。	
第303図	5	須臾器 羽釜	床面直上 口縁部片	口 径	21.7 26.0			微砂粒/還元焰/に ぶい濁	ロクロ整形、回転方向不明。罫は貼付。	
第303図 PL-411	6	鉄製品 刀子	埋上 一部欠損	長 幅	11.7 1.5	厚 重	0.8 17.91		横側面に明瞭な間を持つ刀子。刃側は消極的に某に移行し間 は見られないが、研ぎ減りによる結果の可能性もある。某 は1.5cm程度で破損し全体に厚く錆に覆われる。	
第303図 PL-411	7	石製品 砥石	埋上 1/2	長 幅	(5.4) 3.7	厚 重	2.0 59.0	砥沢石	砥面は4面認められる。正面は研ぎ減りにより内湾する。 両側面もやや内湾する。上部欠損。	

Ⅴ区29号住居

第307図 PL-412	1	須臾器 杯	カマド使用面から 5cm上 1/3	口 底	9.1 5.0	高	2.4	細砂粒/酸化焰/淡 赤濁	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	焼成時の歪み 大。
第307図 PL-412	2	須臾器 杯	カマド使用面直上 1/2	口 底	9.0 5.0	高	2.0	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄濁	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。	
第307図	3	須臾器 杯	カマド使用面直上 1/3	口 底	9.0 5.6	高	2.0	細砂粒/酸化焰/浅 黄濁	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第307図 PL-412	4	須臾器 椀	埋上 1/4	口	11.6			細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形。	垣根に転用 か。
第307図 PL-412	5	鉄製品 刀子	床面直上 破片	長 幅	11.5 1.4	厚 重	0.8 13.87		横・対側ともに明瞭な間を持つ刀子。刃の先端側は劣化破損 する。某は長く鋭に覆われるため木質面跡は確認できな い。	
第307図 PL-412	6	鉄製品 鏝	掘方埋上 破片	長 幅	7.4 2.2	厚 重	1.0 16.04		断面狭菱形の鉄鏝破片。錆化が著しく某側は劣化破損する。	
第307図 PL-412	7	鉄製品 鏝	床面直上 ほぼ完成	長 幅	11.3 5.8	厚 重	1.4 34.75		雁股の鉄鏝。某との境近くで広がり、境を一周する形で段 を持つ。某は断面ほぼ正方形でややゆるくなるが角形で終 わる。	
第307図 PL-412	8	鉄製品 釘	カマド使用面直上 ほぼ完成	長 幅	8.3 1.1	厚 重	0.8 8.93		断面ほぼ正方形の角釘とみられる鉄製品。頭は角形で先端 に向かい徐々に細くなるが先端は尖らない。	
第307図 PL-412	9	鉄製品 不詳	床面から10cm上 破片	長 幅	5.4 4.0	厚 重	1.1 29.45		断面長方形の鉄製品。全体に放射線が多く鋳造鉄製品の 破片とみられる。	
第307図 PL-412	10	鉄製品 不詳	カマド掘方から 11cm上 破片	長 幅	5.2 1.7	厚 重	1.3 20.86		断面長方形の鉄製品で全体に厚く鋭い錆に覆われ詳細は不 明。	
第307図 PL-412	11	鉄製品 不詳	床面から14cm上 破片	長 幅	4.8 1.1	厚 重	1.0 6.59		断面ほぼ正方形の鉄製品。全体に厚い錆に覆われ本体脆弱 なため詳細は不明。	
第307図 PL-412	12	鉄製品 不詳	床面から16cm上 ほぼ完成	長 幅	7.6 1.8	厚 重	1.2 38.08		断面長方形の角棒状鉄製品。両端は角形で終わる。	
第307図 PL-412	13	土製品 割口	カマド掘方から 9cm上	長 幅	6.6 5.4	厚 重	3.6 78.63		先端部片。厚さ約3cm。胎土は粗砂粒。	構成No88
第307図 PL-412	14	土製品 割口	カマド掘方から 6cm上	長 幅	6.3 5.3	厚 重	3.7 89.84		先端部片。厚さ約3cm。胎土は粗砂粒。先端部は凸状に溶損。	構成No89
第307図	15	鉄滓 椀形鍛冶滓 (小)	カマド掘方直上	長 短	8.0 6.3	厚 重	2.5 125.33		平面楕円形。下部欠損。薄手。錆が滲み出ており、色調 は黒褐色。洋質は密で、比重が高い。	構成No87

Ⅴ区94号住居

第308図	16	須臾器 椀	掘方直上 口縁部片	口	12.1			細砂粒/酸化焰/明 黄濁	ロクロ整形。	
第308図 PL-412	17	須臾器 椀	掘方から9cm上 底部～体部下半 片	底 台	6.8 6.1			細砂粒/酸化焰/黄 灰	ロクロ整形、高台は貼付。	

Ⅴ区100号住居

第308図	18	須臾器 椀	床面直上 口縁部片	口	17.0			細砂粒/良好/灰黄 濁	ロクロ整形、回転右回りか。	
-------	----	----------	--------------	---	------	--	--	----------------	---------------	--

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出上位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第308図	19	灰軸陶器 小瓶	床面から12cm上と 堀方から6cm上 が接合 胴部片				微砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、胴部下位に回転ヘラ削り。		
第308図	20	土師器 甕	床面直上と6cm 上が接合 口縁部片	口	18.0		細砂粒/良好/にぶ い堀	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。		
第308図 PL.412	21	銅製品 鏡	床面直上 破片	長	5.9	厚	1.0	高さ約1cmでやや内側に傾く縁を持つ銅鏡破片で鏡面にメッキ等の痕跡は見られない。鏡背面には模様が刻まれるが破片のため全貌は不明。	銅鏡直径8.6	
第308図 PL.412	22	鉄製品 不詳	床面直上 破片	長	5.1	厚	1.6	厚さ0.4cm程の湾曲する板状鉄製品破片。全体に放射割れが入り鋳造鉄製品の破片と見られる。		
Ⅴ区30号住居										
第310図	1	須臾器 椀	床面から14cm上 底部	底	5.7			細砂粒/酸化焼/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第310図	2	須臾器 椀	床面直上 1/3	底	6.6			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焼/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第310図 PL.411	3	灰軸陶器 長頸壺	床面直上 頸部のみ					微砂粒/還元焼/灰 オリーブ	ロクロ整形、回転右回りか。頸部は胴部に接合。	
Ⅴ区101号住居										
第310図	4	灰軸陶器 椀	理上 口縁部片	口	11.6			微砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。施釉方法不明。	大原2号窯式 期。
第310図 PL.412	5	鉄製品 鎌	掘方理上 破片	長	11.9	厚	1.2		鎌破片。先端は破損箇所は柄装部前部は劣化破損により残存しない。	
Ⅴ区31号住居										
第312図 PL.412	1	須臾器 椀	床面直上 完形	口	11.3	高	4.0	細砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第312図	2	須臾器 椀	掘方理上 口縁部片	口	15.7			細砂粒/還元焼/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。	
第312図	3	須臾器 椀	理上 高台片	底	7.6			細砂粒/酸化焼/灰 黄	ロクロ整形。	
第312図	4	灰軸陶器 椀	理上 底部1/2	底	6.6			ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。施釉方法は漬け掛けか。	大原2号窯式 期。	
第312図	5	灰軸陶器 壺	床面から12cm上 底部のみ	底	9.7			細砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第312図 PL.412	6	須臾器 羽釜	カマド使用面直 上と床面から12 cm上とが接合 口縁部～胴部 1/4	口	22.9	高	25.6	細砂粒/酸化焼/に ぶい堀	ロクロ整形、回転右回りか。罫は貼付。	
第313図 PL.412	7	須臾器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部 1/3	口	20.4	高	23.4	細砂粒/酸化焼/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。罫は貼付、胴部にヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第313図	8	須臾器 羽釜	カマド使用面直 上 口縁部～胴部 1/4	口	18.2	高	21.4	細砂粒/酸化焼/灰 黄濁	ロクロ整形、回転右回りか。胴部は下位から上位にかけてのヘラ削り。	
第313図	9	須臾器 羽釜	カマド使用面直 上 胴部片	底	7.4			細砂粒/酸化焼/灰 黄濁	ロクロ整形、回転右回り。胴部下半と底部は手持ちヘラ削り。	
第313図 PL.412	10	鉄製品 鏡	理上 ほぼ完形	長	11.7	厚	1.4		先端は断面狭菱形の鉄鏡。茎との境で両側に段を持つ。茎は断面ほぼ正方形で徐々に細くなりやや実る。跡により木質等の痕跡は確認できない。	
Ⅴ区32号住居										
第314図	1	須臾器 椀	床面直上 底部	底	7.6			細砂粒/酸化焼/に ぶい堀	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第314図	2	灰軸陶器 皿	掘方理上 底部片	底	8.0			微砂粒/還元焼/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。内面底部は研磨か。	大原2号窯式 期。
第314図 PL.411	3	鉄製品 不詳	理上 破片	長	9.0	厚	2.1		厚さ0.4cm程の湾曲する板状鉄製品破片。全体に放射割れが入り鋳造鉄製品の破片と見られる。	
Ⅴ区33号住居										
第317図	1	灰軸陶器 椀	カマド理上 底部片	底	8.6			微砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法不明。	
第317図	2	土師器 甕	理上 口縁部片	口	23.8			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい 橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第317図	3	須臾器 羽釜	理上 口縁部片	口	19.2	高	20.4	細砂粒/酸化焼/に ぶい堀	ロクロ整形、回転方向不明。罫は貼付、胴部はヘラ削り。	
Ⅴ区36号住居										
第317図	4	黒色土器 杯	掘方直上 1/4	口	14.2	高	4.3	細砂粒/酸化焼/明 濁	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。内面へら磨き。	
第317図 PL.412	5	須臾器 杯	理上 3/4	口	9.8	高	3.1	細砂粒/酸化焼/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	

種別 PL.No.	No.	種 器 種	出上位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第317図	6	須恵器 椀	床面から6cm上 底部～体部下位	口径 5.0	高 2.0	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第317図	7	須恵器 椀	床面から15cm上 底部～体部下位	口径 8.6		細砂粒/酸化焰/に ぶい・黄橙	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付。	
第317図	8	須恵器 椀	上坑2底直上 底部	口径 8.4		細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第317図 PL-412	9	須恵器 高杯	床面から9cm上 脚部片			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。杯身と脚部は接合。	
第317図	10	灰輪陶器 皿	床面から22cm上 口縁部1/3	口径 14.0		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。施釉方法は不明。	大原2号窯式 期。
第317図	11	灰輪陶器 椀	床面直上 底部～体部下半 片	口径 9.4 高 9.0		微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。体部下位に回転ヘラ削り。施釉方法不明。	虎渡山1号窯 式期。
第317図	12	灰輪陶器 椀	床面から6cm上 底部1/2	口径 7.2 高 7.0		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は掛け掛け。	大原2号窯式 期。
第317図	13	土師器 羽釜	上坑2底直上 口縁部片	口径 21.5 高 26.4		細砂粒/良好/にぶ い・黄	器は貼付、口縁部は横ナデ、胴部はへら削り、内面はへら 削り。	
第317図	14	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部片	口径 21.6 高 26.8		細砂粒/酸化焰/粗 黄	ロクロ整形、回転方向不明。罫は貼付。	
第318図 PL-412	15	鉄製品 刀子	床面から25cm上 一部欠損	長 14.2 厚 1.8	重 1.2 24.50		棟側に明瞭な間を待つ刀子。刃は非常に細く茎は10.8cm程 で破損。全体に錆に覆われる。	
第318図 PL-412	16	鉄製品 刀子	床面から16cm上 一部欠損	長 16.9 厚 1.8	重 1.6 34.24		棟・対側ともに明瞭な間を持つ刀子。全体に硬い錆に覆わ れ本体は脆弱なため詳細は不明。	
第318図 PL-412	17	鉄製品 釘	床面から15cm上 ほぼ完形	長 6.2 厚 3.0	重 0.8 8.07		断面四角でくの字状に折れ曲がる角釘。頭は角形で先端に 向いて細くする。木質等の痕跡は確認できない。	
第318図 PL-412	18	鉄洋 機形磨治淨 (小)	埋上	長 9.6 短 8.1	厚 3.0 重 233.33		平面指形。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は構 成で、比重が高い。	構成No91
第318図 PL-412	19	石製品 砥石	床面直上 ほぼ完形	長 42.2 幅 21.2	厚 重 14.8 (100g)		表面の上から上面にかけては棒状の工具痕が認められ、 加工時の痕跡と考えられる。左側面は3つの面で構成さ れるが、いずれも著しく内湾した形である。右側面は 1つの面で構成されやや内湾する。	荒砥

Ⅷ区34号住居

第320図 PL-413	1	須恵器 杯	床面から8cmと 10cm上が接合 3/4	口径 11.0 底 7.0	高 2.9	細砂粒/酸化焰/に ぶい・粗	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第320図 PL-413	2	須恵器 杯	埋上 口縁部片			細砂粒/酸化焰/に ぶい・黄橙	ロクロ整形。	外面口縁部に 「Ⅷ」の墨書。
第320図	3	須恵器 椀	カマド使用面か ら11cm上	口径 16.8		細砂粒/酸化焰/に ぶい・黄橙	ロクロ整形。	
第320図	4	須恵器 椀	埋上 脚部片	口径 10.8		細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形。	
第320図 PL-413	5	灰輪陶器 皿	床面から13cm上 完形	口径 11.6 底 6.4	台 高 6.1 2.4	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。施釉方法は掛け掛け。	大原2号窯式 期。
第320図	6	灰輪陶器 椀	埋上 底部1/4	口径 8.0 底 7.6		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。施釉方法不明。	大原2号窯式 期。
第320図	7	灰輪陶器 長頸壺	埋上 口縁部片	口径 17.0		微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形。施釉方法不明。	
第320図 PL-413	8	鉄製品 刀子	床面直上 一部欠損	長 19.7 幅 1.7	厚 重 1.0 35.09		棟側になだらかな間を持つ刀子。刃側はなだらかに茎に 移行するが、茎に比し刃の幅は狭く崩れ減りの可能性も考 えられる。厚く錆に覆われ本体は空洞化するため木質等の 痕跡は確認できない。	
第320図 PL-413	9	鉄製品 不詳	床面から22cm上 一部欠損	長 4.6 幅 2.7	厚 重 1.1 9.22		木の彫形をした薄板状鉄製品。一端はU字状に折れ曲がり 他の端部は酸化破損する。	
第320図 PL-413	10	鉄製品 不詳	埋上 一部欠損	長 7.1 幅 2.4	厚 重 1.2 17.05		薄い板状の鉄製品で、扁平な筒状に折り曲げられた形状。	
第320図 PL-413	11	鉄製品 不詳	床面から11cm上 破片	長 5.9 幅 1.8	厚 重 0.7 9.57		彫形をした薄い板状の鉄製品。全体に錆に覆われ本体は空 洞化するため詳細は不明。	

Ⅷ区35号住居

第321図	1	須恵器 杯	カマド使用面直 上	口径 12.0 底 7.0	高 3.2	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第321図	2	灰輪陶器 皿	埋上 口縁部片	口径 13.0		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。施釉方法は掛け掛け。	大原2号窯式 期。

Ⅷ区37号住居

第323図 PL-413	1	須恵器 杯	床面直上 3/4	口径 10.0 底 5.2	高 2.9	細砂粒/酸化焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第323図 PL-413	2	須恵器 杯	床面直上 3/4	口径 10.9 底 5.4	高 2.9	細砂粒/酸化焰/に ぶい・黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第323図	3	須恵器 杯	床面直上 1/3	口径 10.6 底 5.8	高 2.8	細砂粒/酸化焰/浅 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部はへら削り。	

棟号 PL.No.	No.	種 類 器 種	出上位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第323図	4	須恵器 杯	床面直上 1/3	口 底	12.4 6.0	高 3.7	細砂粒/酸化塩/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。		
第323図	5	須恵器 杯	床面から14cm上 3/4	底	5.6		細砂粒/酸化塩/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。		
第323図	6	須恵器 杯	貯蔵穴或から12 cm上 1/4	口 底	12.0 5.0	高 3.3	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。		
第323図 PL.413	7	須恵器 碗	床面直上と側方 埋土が接合 1/3	口 底	14.5 7.6	台 5.3 5.5	細砂粒/酸化塩/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。		
第323図	8	須恵器 碗	床面から9cm上 台部1/2	口 底	7.0 9.0	高 3.9	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。		
第324図 PL.413	9	灰釉陶器 皿	カマド使用面直 上	口 底	12.7 7.0	台 6.8 2.4	微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	虎沢山1号窯 式期。	
第324図 PL.413	10	灰釉陶器 碗	床面から12cm上 1/2	口 底	12.4 6.4	台 6.0 3.9	微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。	
第324図 PL.413	11	須恵器 長頸壺	床面から7cm上 口縁部～頸部	口	11.5		細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。口縁部上位と下位に各2条の凹線が通る。		
第324図 PL.413	12	土師器 甕	カマド使用面直 上と床面から16 cm上が接合 口縁部～胴部 1/3	口	25.6		細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。		
第324図	13	須恵器 羽釜	床面から7cm上 口縁部片	口 跨	21.8 25.0		細砂粒/還元塩/灰 黄	ロクロ整形、回転方向不明。跨は貼付。		
第324図	14	須恵器 羽釜	床面から6cm下 と側方直上と接 合 口縁部片	口 跨	17.8 20.6		細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。跨は貼付、胴部中位にヘラ削り。		
第324図 PL.413	15	石製品 石製品	埋土 完形	長 幅	8.2 7.8	厚 重	256.1	粗粒輝石安山岩	正面には漏斗状の孔が認められ、上端部径約5cm、底部径約2cm、深さ約2cmを測る。孔は全体的に滑らかである。裏面には浅い皿状の孔が認められ、上端部径約3cm、底部径約1cm、深さ約1cmを測る。孔は曲面であるが幅がいびつが認められる。	

Ⅷ区38号住居

第326図 PL.413	1	須恵器 杯	床面から8cm上 1/2	口 底	11.8 6.5	高 3.6	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は疑似高台状を呈し、回転糸切り無調整。円柱づくり、円柱径5.0cm	
第326図	2	須恵器 碗	床面から9cm上 1/3	口 底	10.6 5.0	高 3.9	細砂粒/酸化塩/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第326図	3	須恵器 碗	床面から6cmと9 cm上が接合 1/3	口 底	13.7 8.5	高 8.0 6.2	細砂粒/酸化塩/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第326図 PL.413	4	須恵器 碗	床面直上と9cm 上が接合 3/4	口 底	11.8 6.2	台 5.9 4.7	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第326図	5	須恵器 碗	埋土 口縁部片	口	13.8		細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。	
第326図	6	須恵器 碗	床面直上と6cm 上が接合 底部3/4	口 底	8.2 8.5		細砂粒/酸化塩/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第327図	7	灰釉陶器 碗	床面から14cm上 底部1/2	口 底	6.6 6.0		微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	大原2号窯式 期～虎沢山1号 窯式期。
第326図 PL.413	8	灰釉陶器 長頸壺	床面から18cm上 口縁部片	口	12.8		細砂粒/還元塩/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。	
第327図 PL.413	9	須恵器 羽釜	床面直上と12cm と17cmと18cm上 が接合 口縁部～胴部下 位1/2	口 跨	20.0 24.9		細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/橙	ロクロ整形、回転方向不明。跨は貼付、胴部中位から下位にヘラ削り。	
第327図	10	須恵器 羽釜	床面直上と13cm 上が接合 口縁部～胴部 中位1/4	口 跨	19.5 24.6		細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。跨は貼付、胴部にヘラ削り痕が残る。	
第327図	11	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部片	口 跨	20.8 19.8		細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。跨は貼付。	
第327図 PL.413	12	須恵器 羽釜	埋土 口縁部～胴部 中位1/3	口 跨	20.7 25.4		細砂粒/酸化塩/橙	ロクロ整形、回転方向不明。跨は貼付、胴部中位から下位にヘラ削り。	
第327図	13	須恵器 甕	床面直上と9cm 上が接合 口縁部片	口			細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰	ロクロ整形、回転右回り。	

Ⅷ区39号住居

棟号 PL.No.	No.	種 類 種 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第329区 PL-414	1	須置器 杯	床面直上 3/4	口 底	12.8 6.2	高 3.7	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第329区 PL-414	2	須置器 椀	床面直上と10cm 上が接合 1/4	口 底	15.3 9.0	台 高 9.2 5.5	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第329区 PL-414	3	須置器 椀	床面から8cmと 12cm上が接合 口縁部1/2	口 底	14.2		細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。	
第329区 PL-414	4	灰釉陶器 長頸壺	カマド使用面直上 と5cm上と床 面直上と6cmと 10cm上が接合 3/4	底 台	9.8 7.0		微砂粒・黒色粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。 施釉方法は降灰が全面的に付着しているため不明。	黒地90号窯式 期。
第329区	5	土師器 甕	カマド使用面直上 と10cm上と床 面から8cm上が 接合 口縁部1/2	口 底	19.0		細砂粒/良好/橙	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部 はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第329区	6	土師器 甕	カマド使用面直上 口縁部片	口 底	18.4		細砂粒/良好/橙	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部 はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	

Ⅷ区40号住居

第331区 PL-414	1	須置器 耳杯	床面から18cm上 2/3	底 台	5.8 5.4		細砂粒/酸化焰/に ぶい/黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第331区 PL-414	2	須置器 杯	カマド使用面か ら14cm上 3/4	口 底	11.3 6.1	高 3.8	細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第331区 PL-414	3	須置器 杯	床面から9cm上 3/4	口 底	11.3 5.5	高 3.8	細砂粒/酸化焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第331区	4	須置器 椀	床面直上 口縁部片	口 底	13.0		細砂粒/酸化焰/灰 黄濁	ロクロ整形、回転右回りか。	
第331区	5	須置器 椀	床面直上 1/3	口 底	5.4		細砂粒/酸化焰/明 赤濁	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第331区	6	須置器 椀	カマド使用面か ら10cm上 1/4	口 底	12.6 7.0	台 高 7.2 4.4	細砂粒/酸化焰/に ぶい/黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第332区	7	須置器 椀	カマド使用面か ら8cm上 底部	底 台	7.5 8.4		細砂粒/酸化焰/に ぶい/濁	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第332区 PL-414	8	灰釉陶器 椀	床面直上と16cm 上が接合 2/3	口 底	13.2 6.8	台 高 6.9 4.5	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第331区	9	灰釉陶器 椀	床面直上 口縁部片	口 底	12.8		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。施釉方法は不明。	
第332区 PL-414	10	須置器 鉢	カマド使用面直上 3/4	口 底	9.0 5.3	高 5.6	細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、胴部下位 はヘラナデ。	
第332区	11	須置器 長頸壺	カマド使用面か ら13cm上 口縁部片	口 底	19.4		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形。	
第332区	12	須置器 甕	床面から9cm上 底部片	底 台	27.8		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい/黄 橙	ロクロ整形、回転方向不明。内外面ともヘラナデ。	
第332区	13	土師器 割釜	カマド使用面か ら20cm上 口縁部片	口 底	21.0 24		細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転方向不明。罫は貼付、胴部はヘラ削り。 内面胴部はヘラナデ。	
第332区 PL-414	14	須置器 割釜	カマド使用面か ら11cmと17cm上 が接合 口縁部～胴部中 位1/2	口 底	19.0 24.4		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/灰濁	ロクロ整形、回転右回りか。罫は貼付、胴部はヘラ削り。	
第332区 PL-414	15	鉄製品 石	床面から9cm上 ほぼ完形	長 幅	23.1 17.0	厚 重 3.2 506.89		U字形の鋳・鍛先。先端は三角形で柄装着部分に木質等の 痕跡は見られない。	
第332区 PL-414	16	石製品 砥石	埋上 完形	長 幅	5.0 3.0	厚 重 1.4 25.2	流紋岩?	砥面は面認められる。上面は三つの作出面で構成される。 下面は二つの作出面で構成される。正面には多方向の細かな 縦条痕が認められる。	

Ⅷ区42号住居

第334区	1	須置器 杯	カマド使用面か ら9cm上 1/4	口 底	9.4 5.5	高 3.0	細砂粒/酸化焰/に ぶい/濁	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第334区	2	須置器 椀	カマド使用面直上 と6cm上 1/4	口 底	15.5 7.8		細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第334区	3	灰釉陶器 椀	埋上 1/4	口 底	13.8		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。底部周囲は回転ヘラ削り。内 面口唇部に1条の凹線が通る。施釉方法は漬け掛け。	内 虎山1号窯 式期。

種別 PL-No.	No.	種 類 器 種	出上位置 残 存 率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第334図	4	灰釉陶器 椀	理上 1/4	口 13.8		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか、内面口唇部に1条の凹線が通る。 施釉方法は漬け掛け。	虎渓山1号窯 式期。
第334図	5	灰釉陶器 椀	床面から6cm上 1/4	底 7.0 台 6.8		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。施釉方法は不明。	虎渓山1号窯 式期。
第334図	6	土師器 甕	床面直上 口縁部片	口 21.6		細砂粒/良好/にぶ い黄褐色	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第334図	7	須恵器 甕	理上 破片	口 20.8		微砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形。	
第334図	8	須恵器 羽釜	カマド使用面から 8cm上と床面 から5cm上が接 合 胴部中位～底部 片	底 6.0		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/にぶい褐色	ロクロ整形、回転右回り。底部はヘラナデ、胴部はヘラ削 り。内面は底部と底部周囲はヘラナデ。	
第334図	9	鉄製品 不詳	床面から12cm上 破片	長 5.5 幅 1.5	厚 1.4 重 10.76		断面長方形で狭三角形をした鉄製品。全体に硬い錆に厚く 覆われ本体脆弱なため詳細は不明。	
Ⅴ区43号住居								
第336図	1	土師器 杯	床面から11cm上 完形	口 12.7 高 3.8		細砂粒/良好/褐色	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底 部は手持ちヘラ削り。	
第336図	2	土師器 杯	床面直上 完形	口 12.1 高 3.3		細砂粒/良好/にぶ い褐色	口縁部は横ナデ、体部と底部は手持ちヘラ削り。	
第336図	3	土師器 杯	カマド使用面直 上と10cmと22c mと25cmと26cm上 が接合	口 12.4 高 3.6		細砂粒/良好/にぶ い褐色	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底 部は手持ちヘラ削り。	
第336図	4	土師器 杯	床面直上 3/4	口 14.2 高 4.1		細砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底 部は手持ちヘラ削り。	
第336図	5	須恵器 杯	理上 1/4	口 12.0 底 6.8	高 4.2	微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第336図	6	須恵器 椀	床面から39cm上 が接合	底 7.2		微砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	内面は還元 焰。
第336図	7	須恵器 長頸壺	理上 1/4			細砂粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形、回転右回り。胴部天井部は風船技法がみられる。	
第336図	8	土師器 甕	カマド使用面から 37cm上 口縁部～胴部中 位1/4	口 14.8		細砂粒/良好/にぶ い褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第336図	9	土師器 甕	床面直上 口縁部片	口 15.7		細砂粒/良好/にぶ い褐色	外面口縁部に輪積りが残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴 部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第337図	10	土師器 甕	床面直上と5cm ～12cmの遺物 群が接合 3/4・底部欠	口 21.4		細砂粒/良好/にぶ い褐色	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第337図	11	土師器 甕	床面から7cm上 とカマド使用面 から19cm上が接 合 口縁部片	口 21.6		細砂粒/良好/にぶ い黄褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第337図	12	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部 1/4	口 27.8		細砂粒/良好/にぶ い黄褐色	外面胴部に輪積りが残る。口縁部は横ナデ、一部に指頭痕 が残る。胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第337図	13	須恵器 甕	理上 胴部片			微砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	外面は平甲子痕、内面は同心円状アケ貝痕が残る。	
第337図	14	銅製品 不詳	理上 破片	長 2.2 幅 2.0	厚 1.0 重 8.17		不定形な形状の銅製品。製品と判断できる形状は見られず 跡部修理の材料の可能性がある。	
Ⅴ区44号住居								
第339図	1	土師器 杯	床面から10cm上 1/4	口 12.6 底 10.0	高 3.1	細砂粒/良好/にぶ い黄褐色	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第339図	2	須恵器 甕	床面から12cmと 15cm上が接合 1/2	口 14.4 底 7.8	台 7.8 高 3.4	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第339図	3	須恵器 甕	床面から7cm上 底部	底 7.0 台 6.6		微砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第339図	4	須恵器 杯	理上 底部1/2	底 7.0		細砂粒/還元焰/に ぶい褐色	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第339図	5	須恵器 椀	理上 1/4	口 13.8 底 6.0	高 3.6	微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転方向不明。底部は回転糸切り無調整。	
第339図	6	須恵器 椀	床面から16cm上 3/4	底 6.0		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第339図	7	須恵器 椀	床面直上 1/2	口 14.4 底 7.2	台 7.6 高 5.3	微砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第339図	8	須恵器 椀	床面から35cm上 口縁部～底部片	口 16.0 底 8.0	台 6.8 高 6.2	微砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	

棟号 PL.No.	No.	種 類 器 種	出上位置 残 存 率	計測値		胎上/模成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第339図	9	須臾器 機	床面から13cmと 42cm上が接合 1/3	底 台	6.6 6.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰黄	ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第339図	10	須臾器 機	理上	底	5.5	細砂粒/還元塩/灰 白	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第340図	11	須臾器 機	床面から13cm上 1/3	口 14.4 底 7.4	台 7.0 高 6.2	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰黄	ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第340図	12	須臾器 機	床面から19cmと 22cm上が接合 底部片	底 台	8.8 9.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰オリー ブ	ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第340図	13	土師器 小型甕	理上 口縁部～胴部上 位1/2	口	11.6	細砂粒/良好/にぶ い紺	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部 はへう削り。内面は胴部がへラナデ。	
第340図	14	土師器 甕	床面から26cm上 口縁部片	口	18.6	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう削り。内面は胴部が へラナデ。	
第340図 PL.415	15	土師器 甕	カマド使用面直上 と床面から30 cm上が接合 口縁部～胴部上 位	口	19.4	細砂粒/良好/にぶ い橙	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部 はへう削り。内面は胴部がへラナデ。	
第340図	16	土師器 甕	カマド使用面直上 口縁部片	口	21.3	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう削り。内面は胴部が へラナデ。	
第340図	17	須臾器 機	理上 口縁部片	口	23.0	細砂粒/還元塩/灰 白	ロク口整形。	
第340図 PL.415	18	鉄製品 刀子	一部欠損	長 幅	7.3 1.4	厚 重 0.8 7.51	棟側に明確な間を持ち、刃側はくの字状に茎に移行する茎 は1cm程で劣化破損する。	
Ⅷ区45号住居								
第342図	1	須臾器 杯	理上 1/3	口 12.1 底 6.6	高 4.2	細砂粒/酸化塩/浅 黄	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第342図 PL.415	2	須臾器 機	床面直上 3/4	口 13.6 底 7.7	台 7.8 高 6.1	細砂粒/酸化塩/淡 黄	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り後へう削り、 高台は貼付。	
第342図	3	須臾器 機	理上 口縁部片	口	15.7	細砂粒/酸化塩/黄 灰	ロク口整形。	
第342図	4	須臾器 機	床面直上 底部	底 台	5.7 5.7	細砂粒/酸化塩/橙	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り後へラナデ、 高台は貼付。	
第342図	5	須臾器 機	床面から30cm上 底部	底 台	6.6 6.6	細砂粒/酸化塩/浅 黄橙	ロク口整形、回転右回り。底部は回転へラナデ、高台貼付。	
第342図	6	須臾器 機	床面直上 底部	底 台	6.4 6.0	細砂粒/酸化塩/に ぶい橙	ロク口整形、回転右回り。底部は回転へラナデか、高台貼付。	
第342図	7	須臾器 機	床面から29cm上 底部	底 台	7.4 8.4	細砂粒/酸化塩/橙	ロク口整形、回転右回り。底部は回転へラナデ、高台貼付。	
第342図	8	灰輪陶器 器	床面から34cm上 1/4	口 12.6 底 7.2	台 6.8 高 1.9	微砂粒/還元塩/灰 白	ロク口整形、回転右回り。底部は回転へラナデ、高台は貼 付。施輪方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第342図 PL.415	9	灰輪陶器 機	カマド使用面直上 1/4	口 15.2 底 8.0	台 7.5 高 5.0	微砂粒/還元塩/灰 白	ロク口整形、回転右回り。底部は回転へラナデ、高台は貼 付。施輪方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第342図	10	灰輪陶器 機	床面から22cm上 口縁部片	口	16.2	微砂粒/還元塩/灰 白	ロク口整形、回転右回りか。施輪方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第342図	11	灰輪陶器 機	理上 底部片	底 台	7.0 6.6	微砂粒/還元塩/灰 白	ロク口整形、回転右回り。底部は回転へラナデ、高台は貼 付。施輪方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第342図	12	土師器 甕	床面から5cm上 口縁部～胴部片	口	15.6	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面口縁部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴 部はへう削り。内面は胴部がへラナデ。	
第342図	13	須臾器 羽釜	床面から16cm上 口縁部片	口 跨	20.0 25.2	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/橙	ロク口整形、回転方向不明。跨は貼付。	
第342図	14	須臾器 羽釜	カマド使用面直上 口縁部片	口 跨	19.8 24.4	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/橙	ロク口整形、回転方向不明。跨は貼付。	
第343図	15	須臾器 羽釜	カマド使用面直上 と10cmと13cm 上が接合 胴部下位～底部 片	底	5.8	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/橙	ロク口整形、回転方向不明。底部と胴部はへう削り。	
第343図 PL.415	16	鉄製品 釘	ほぼ完形	長 幅	8.2 1.5	厚 重 1.1 13.66	断面長方形から正方形の角釘。頭部分で幅が広がるが折 返しは現れない。先端に向かい細くなり尖る。	
Ⅷ区47号住居								
第346図 PL.415	1	黒色土器 機	床面直上 3/4	口 10.9 底 6.6	台 6.5 高 4.6	細砂粒/酸化塩/に ぶい橙	内外面とも黒色処理。ロク口整形、回転方向不明。底部は へう削り後高台を貼付。外面口縁部は横位のへう磨き。内 面は全面へう磨き後口縁部に放射状へう磨き。	
第346図	2	黒色土器 機	床面直上 底部	底 台	7.0 7.4	細砂粒/酸化塩/明 黄橙	内面黒色処理。ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り 後高台を貼付。内面はへう磨き。	
第346図	3	須臾器 機	理上 口縁部1/2	口	12.8	細砂粒/酸化塩/灰 黄橙	ロク口整形。	



種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第346図	4	須恵器 椀	カマド使用面から 7cm上 口縁部片	口	13.8			細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形。	
第346図	5	灰輪陶器 小椀	甌方直上 口縁部片	口	11.2			微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。施釉方法は漬け掛けか。	大原2号窯式 期。
第346図 PL-415	6	鉄製品 鍔	床面から18cm上 ほぼ完形	長 幅	11.7 1.4	厚 重	1.1 11.05		鍔身の鉄鍔。片側の隅割り先端は劣化破損する。某との境を一周する形で段を持つ。先端から基にかけて緩く波を打つように変形する。	

Ⅵ区48号住居

第346図 PL-416	7	土師器 杯	床面から9cm上 1/2	口	11.8	高	3.1		細砂粒/良好/明色	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら削り。	外面底部に墨書。
第346図 PL-416	8	土師器 杯	床面から11cm上 1/4	口	12.3	高	3.3		細砂粒/良好/明赤 色	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら削り。	
第346図	9	土師器 杯	埋上 1/3	口	12.2	高	3.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がへら削り、底部は手持ちへら削り。	
第347図 PL-416	10	須恵器 杯	床面直上 完形	口	12.4	高	3.9		細砂粒/還元塩/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	
第347図 PL-416	11	須恵器 杯	床面直上 3/4	口	11.2	高	4.2		細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第347図 PL-416	12	須恵器 杯	埋上 2/3	口	11.0	高	3.5		細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。底部は疑似高台状を呈す。	
第347図 PL-416	13	須恵器 杯	床面から13cm上 1/2	口	12.6	高	3.6		細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第347図	14	須恵器 杯	カマド使用面から 9cm上 1/4	口	11.8	高	3.7		細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。底部は疑似高台状を呈す。	

Ⅵ区49号住居

第350図	1	黒色土器 椀	カマド2使用面 から9cm上 底部	底	7.0 7.2				細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。内面はへら磨き。	
第350図 PL-416	2	須恵器 椀	カマド1の使用 面から8cm上 3/4	口	14.8 6.8	台 高	7.2 7.1		細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付。	
第350図	3	須恵器 椀	カマド1の使用 面から9cm上 口縁部片	口	13.7				細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形。	
第350図	4	須恵器 椀	床面から16cm上 底部	底	7.2 6.8				細砂粒/酸化塩/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付。	
第350図	5	須恵器 封蓋	床面から21cm上 口縁部片	口	16.9				細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/橙	ロクロ整形、回転方向不明。跨は貼付。	
第350図	6	須恵器 封蓋	床面直上 口縁部片	口	19.6 24.4	跨			細砂粒/酸化塩/橙	ロクロ整形、回転方向不明。跨は貼付。	
第350図	7	須恵器 甕	埋上 口縁部片						細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、波状文を3段施文、障灰が付着し詳細不明。	

Ⅵ区51号住居

第352図	1	須恵器 杯	床面から7cm上 底部～体部下位 片	底	5.0				細砂粒/酸化塩/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第352図 PL-416	2	須恵器 椀	埋上 1/2	口	13.8 6.6	高	5.1		細砂粒/酸化塩/浅 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部切り離し技法は器面磨滅のため不明。	
第352図	3	須恵器 椀	床面から5cm上 底部～体部下位 片	底	5.4				細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第352図	4	須恵器 椀	床面から5cm上 底部	底	7.0 7.1				細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付。	
第352図 PL-416	5	鉄製品 鉄輪	床面直上 一部欠損	長 幅	10.1 9.8	厚 重	3.7 90.88			直径9.5cm、高さ3.2cm程の浅い半球形の鉄製輪。内容物の痕跡および外面の埋付着等は見られない。	
第352図 PL-416	6	鉄製品 鉄鏝	床面直上 ほぼ完形	長 幅	8.8 2.3	厚 重	2.2 48.42			薄い鉄板を筒状に折り曲げた鉄鏝。上部には別つくりの釣り手とみられる穴の開いた鉄片入れている。	

Ⅵ区52号住居

第353図	1	灰輪陶器 甕	床面直上 底部1/2	底	7.0 6.4				微砂粒/還元塩/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付。施釉方法不明。	高台の形態は、光ケ丘1号窯式期か。
第353図	2	須恵器 封蓋	床面直上 口縁部片	口	19.8 25.6	跨			細砂粒/酸化塩/に ぶい橙	ロクロ整形、回転方向不明。跨は貼付。	

Ⅵ区53号住居

第354図	1	須恵器 椀	埋上 底部1/2	底	6.6 6.0	台			細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
-------	---	----------	-------------	---	------------	---	--	--	----------------	----------------------------	--

Ⅵ区54号住居

第357図	1	須恵器 椀	貯蔵穴から34 cm上 底部1/2	底	7.2 7.3				細砂粒・黒色粒/ 還元塩/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付。	
第357図	2	灰輪陶器 椀	埋上 口縁部片	口	12.8				微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。施釉方法不明。	

棟号 PL.No.	No.	種 類 器 種	出上位置 残 存 率	計測値			胎上/横成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第357回	3	土師器 小型甕	床面直上と6cm 上が接合 口縁部～胴部中 位1/3	口	10.8		細砂粒/良好/ふい 濁	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は口縁部 から胴部がヘラナデ。	
第357回	4	土師器 甕	貯蔵穴底から3 cm上 口縁部～胴部片	口	17.8		細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第357回	5	土師器 甕	貯蔵穴底から38 cm 口縁部片	口	24.5		細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第357回	6	土師器 甕	底から2cmと6cm が接合 底部片	底	7.9		細砂粒/良好/橙	底部は砂底、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第357回	7	土師器 甕	床面から14cm上 底部～胴部片	底	11.4		細砂粒・粗砂粒/ 良好/ふい・黄濁	底部はヘラ削りか、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第357回 PL.416	8	鉄製品 不詳	埋上 ほぼ完形	長	6.8	厚 1.1	重 7.44	断面長方形の棒状鉄製品。両端に向かい細くなり釘の頭 的な形状は持たない。	
第357回 PL.416	9	鉄製品 不詳	床面直上 破片	長	4.3	厚 0.9	重 10.13	薄い板状の鉄製品。やや捻じれるように折れ曲がるが、全 体に跡に覆われ本体強弱なため詳細は不明。	
Ⅷ区55号住居									
第359回 PL.416	1	黒色土器 椀	床面から7cm上 底部欠	口 底	10.3 5.4			細砂粒/酸化塩/に ふい・黄橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り 後高台を貼付。内面はヘラ磨き。
第359回 PL.416	2	土師器 甕	甕方直上 口縁部～胴部 中位片	口	22.2			細砂粒・粗砂粒/ 良好/ふい・濁	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。
第359回 PL.416	3	須恵器 羽釜	床面直上と甕方 直上が接合 口縁部～胴部上 位1/2	口 跨	21.2 26.6			細砂粒・粗砂粒/ 濁粒/酸化塩/橙	ロクロ整形。回転右回りか。外面胴部に輪積痕が残る。跨 は貼付、胴部にヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。
第359回	4	須恵器 羽釜	方マド使用面直 上	口 跨	22.6 25.9			細砂粒・粗砂粒/ 濁粒/酸化塩/橙	ロクロ整形。回転右回りか。跨は貼付、胴部にヘラ削り。 内面胴部はヘラナデ。
第360回 PL.416	5	須恵器 羽釜	方マド使用面直 上と床面から8 cm下が接合 口縁部～胴部上 位1/3	口	21.0 24.8			細砂粒・粗砂粒/ 濁粒/酸化塩/橙	ロクロ整形。回転右回りか。外面胴部に輪積痕が残る。跨 は貼付、胴部にヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。
第360回 PL.416	6	鉄製品 鏝	床面から15cm上 一部欠損	長 幅	9.9 1.3	厚 1.1	重 18.03		三角形の先端を持つ鉄鏝。茎との境では内側に小さな 段を持つ。茎は細く曲がり端部は劣化破損する。
Ⅷ区56号住居									
第362回	1	黒色土器 底部	床面から6cm上	底	6.0			細砂粒/酸化塩/に ふい・橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ ナデ、高台は貼付。内面はヘラ磨き。
第362回 PL.417	2	須恵器 小型椀	床面から18cm上 口縁部一部欠	口 底	8.0 4.2	台 高	4.5 4.1	細砂粒/酸化塩/淡 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。
第362回 PL.417	3	須恵器 小型椀	床面から17cm上 1/2	口 底	7.8 4.6	台 高	4.4 4.1	細砂粒/酸化塩/淡 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。
第362回	4	須恵器 小型椀	床面から10cm上 1/4	口 底	5.0 4.7	台 高	5.0 4.7	細砂粒/酸化塩/淡 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。
第362回 PL.417	5	須恵器 小型椀	埋上	口 底	8.5 5.0	台 高	5.0 4.5	細砂粒/酸化塩/淡 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。
第362回	6	須恵器 小型椀	床面から23cm上 1/4	口 底	8.2 4.4	台 高	4.6 3.9	細砂粒/酸化塩/淡 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。
第362回 PL.417	7	灰輪陶器 椀	埋上 方マド使用面直 上と7cm～25cm 上の遺物群が接 合 口縁部～胴部下 位1/2	口 底	15.2 8.4	台 高	8.0 5.1	微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。捺輪方法は漬け掛け。
第362回 PL.417	8	土師器 甕	床面直上と7cm 上との遺物群が接 合 口縁部～胴部下 位1/2	口 底	23.8 10.4			細砂粒・粗砂粒/ 良好/ふい・橙	口縁部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から 胴部がヘラナデ。
第362回 PL.417	9	鉄製品 釘?	床面直上 破片	長 幅	4.2 1.0	厚 重	0.9 5.42		断面はほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品破片。両端とも角 度で破損の可能性があるので、全体に厚い跡に覆われ詳細は 不明。
第362回 PL.417	10	鉄製品 釘	床面直上 ほぼ完形	長 幅	8.8 1.7	厚 重	1.5 25.69		断面はほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品。頭は三角形で先 端側に向かい細くなりやや尖る。厚い跡に覆われ木質等の 痕跡は確認できない。
第362回 PL.417	11	鉄製品 不詳	床面直上 一部欠損	長 幅	15.5 1.5	厚 重	1.3 38.72		断面はほぼ正方形の角棒状で両端に向かい細くなりやや尖る が一端は劣化破損する。
Ⅷ区57号住居									
第364回 PL.417	1	須恵器 甕	甕方直上 3/4	口 底	13.8 7.4	台 高	7.1 3.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰黄	ロクロ整形。回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第364回 PL.417	2	須恵器 杯	方マド使用面か ら28cm上 3/4	口 底	10.8 5.1	高	3.3	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にふい・濁	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。

棟号 PL.No.	No.	種 類 器 種	出上位置 残 存 率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第364回 PL-417	3	須臾器 機	掘方直上 口縁一部、高台	口 14.1 底 7.0		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。 高台が欠損後研磨して高さを揃えて使用している。	
第364回 PL-417	4	須臾器 機	カマド使用面から 20cmと23cm上 が接合	口 8.1 底 10.2		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第365回	5	須臾器 機	床面直上 口縁部片	口 13.6		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形。	
第365回	6	須臾器 機	床面から20cm上 底部	口 8.4 底 10.0		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第365回	7	灰輪陶器 機	掘方理上 口縁部片	口 14.2		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、施輪方法不明。	大原2号窯式 期。
第365回	8	灰輪陶器 機	床面から7cm上 底部	口 7.4 底 7.0		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。 施輪方法不明。	大原2号窯式 期。
第365回	9	灰輪陶器 機	理上 底部	口 6.4 底 6.0		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。 施輪方法不明。	大原2号窯式 期。
第365回	10	灰輪陶器 長頸壺	貯蔵穴底から9 cm上 底部	口 9.0 底 8.7		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。 施輪方法不明。	光ヶ丘1号窯 式期。
第365回	11	須臾器 瓶	理上 口縁部片	口 19.0		細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形。	
第365回 PL-417	12	須臾器 羽釜	カマド使用面から 6cmと19cmと 20cm上が接合 口縁部～胴部下 位1/2	口 20.0 底 25.0		細砂粒/還元焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回りか。外面胴部に輪積痕が残る。鍋 は貼付、胴部にへら削り。内面胴部はヘラナデ。	
第365回	13	須臾器 羽釜	カマド使用面から 19cm上 口縁部片	口 17.0 底 21.4		細砂粒/還元焰/に ぶい橙	ロクロ整形、回転方向不明。鍋は貼付、胴部にへら削り。	
第365回 PL-418	14	須臾器 機	カマド使用面直 上 口縁部片			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転方向不明。口縁部には3～4葉1単位の波 状文が段以上並ぶ。内面に降灰が厚く付着。	
第365回 PL-417	15	鉄製品 釘?	掘方から6cm上 破片	長 8.1 幅 1.2	厚 0.8 重 8.55		断面長方形の角棒状で一端に向かいへら削り、先端は劣化破損 している。他の端部も劣化破損しているため全体形状は不明。	
第365回 PL-417	16	鉄製品 釘	カマド理上 ほぼ完成形	長 3.7 幅 0.8	厚 0.9 重 2.82		断面ほぼ正方形の角釘。頭は角形で先端に向かいへら削りな りである。本質等の痕跡は確認できない。	
第365回 PL-417	17	鉄製品 器具	理上 ほぼ完成形	長 4.7 幅 5.4	厚 2.4 重 57.50		先端部が広く膨らんだ形状の輪金に下字形の筋金を持つ枝 肌。全体に錆に覆われ帯本体の残存は確認できない。	
第365回 PL-417	18	鉄製品 紡錘車・紡 輪	理上 ほぼ完成形	長 4.0 幅 3.9	厚 1.4 重 17.56		ほぼ円形の紡輪で、紡輪は遺存せず中央の穴は開口化により 塞がる。	
第365回 PL-417	19	鉄製品 不詳	理上 ほぼ完成形	長 4.1 幅 0.9	厚 0.7 重 2.95		断面長方形の角棒状鉄製品。両端ともやや丸みを持ち終わ る。	
第366回 PL-418	20	石製品 石製品	床面から10cm上 完成	長 25.4 底 23.9	厚 8.1 重 7130.0	粗粒輝石安山岩	表面及び裏面は全体的に非常に滑らかである。表面の3ヶ 所に向い血状の孔が認められる。孔の内面は比較的滑らか である。扁平な内溝を利用している。	
Ⅷ区59号住居								
第367回	1	土師器 杯	理上 底部～体部下半	口 4.5		細砂粒/還元焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第367回	2	灰輪陶器 皿	理上 口縁部片	口 14.8		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。施輪方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第367回	3	灰輪陶器 角皿	床面から19cm上 口縁部片	口 17.0		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。施輪方法は不明。	光ヶ丘1号窯 式期。
第367回	4	灰輪陶器 機	理上 底部	口 7.2 底 7.0		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。 施輪方法不明。	大原2号窯式 期。
第367回 PL-418	5	白磁器 機	理上 口縁部片	口 21.1 底 25.0		灰濁物無/還元焰/ 灰白	口唇部は玉縁状を呈す。	
第367回	6	須臾器 羽釜	床面から28cm上 口縁部～胴部中 位片	口 21.1 底 25.0		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転方向不明。鍋は貼付。	
第367回 PL-418	7	須臾器 機	底から25cm上 口縁部片	口 14.2		細砂粒/還元焰/に ぶい橙	ロクロ整形。口唇部下に凸帯が貼付。	
第367回	8	鉄製品 釘	掘方から26cm上 破片	長 4.5 幅 2.8	厚 0.7 重 6.45		断面正方形の角釘。頭部は劣化破損、先端から2.5cm程 で直角に曲がる。本質等の痕跡は見られない。	
第367回 PL-418	9	鉄製品 釘	掘方から26cm上 ほぼ完成形	長 3.5 幅 1.0	厚 1.2 重 8.31		断面長方形の角釘と見られる鉄製品。頭は薄く凹字の字 に折り曲がる。先端に向かいへら削り、先端は鋭く尖る。	
Ⅷ区60号住居								
第370回 PL-418	1	須臾器 杯	理上 完成	口 8.0 底 5.5	高 1.5	細砂粒/還元焰/淡 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第370回	2	灰輪陶器 機	理上 底部片	口 8.0		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。 高台端部に重ね焼き痕が残る。	大原2号窯式 期。

種別 PL.No.	No.	種類	出上位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	底	高				
第370図 PL-418	3	灰釉陶器 段皿	腹方理上 口縁部片	口	13.6		微砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形、回転右回りか。施釉方法不明。	虎沢山1号窯 式期～丸石2 号窯式期。	
第370図 PL-418	4	灰釉陶器 椀	理上 口縁部片	口	13.88		微砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形、回転右回り。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯 式期。	
第370図	5	土師器 甕	床面直上 口縁部片	口	24.4		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。		
Ⅵ区97号住居										
第370図	6	灰釉陶器 皿	理上 底部1/3	底 台	6.6 6.5		微砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付。施釉方法不明。	大原2号窯 式期。	
第370図	7	灰釉陶器 段皿	理上 口縁部片	口	14.6		微砂粒/還元焰/灰 黄	ロク口整形、回転右回りか。体部下位は回転へら削り。施釉方法不明。	虎沢山1号窯 式期。	
第370図 PL-418	8	鉄製品 不詳	床面直上 破片	長 幅	4.3 3.5	厚 重	0.7 11.70	薄い板状鉄製品破片。一部端部は折り返したように肥厚する。		
Ⅵ区62号住居										
第371図	1	須臾器 椀	特'腹方理上 口縁部～底部片	口	11.8		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロク口整形。		
第371図	2	灰釉陶器 椀	理上 口縁部～底部片	口	11.8	台 高	5.9 2.2	微砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付。	丸石2号窯 式期。
第371図	3	須臾器 羽釜	理上 口縁部片	口	23.6	跨	25.4	細砂粒/酸化焰/黄 灰	ロク口整形、回転方向不明。跨は貼付。	
Ⅵ区63号住居										
第374図 PL-418	1	黒色土器 椀	カマド使用面か ら9cm上 口縁部2/3欠	口	13.7	台 高	7.0 6.0	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	内面黒色処理が、二次焼熟を受ける。ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。内面は全面へら磨き。	
第374図	2	黒色土器 椀	床面から6cm上 口縁部片	口	13.6			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	内面黒色処理が、二次焼熟を受ける。ロク口整形、回転右回り。内面は全面へら磨き。	
第374図 PL-418	3	須臾器 杯	カマド使用面か ら9cm上 1/3	口	13.7	高	5.1	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第374図 PL-418	4	須臾器 椀	カマド使用面か ら13cm上 1/3	口	15.0	台 高	10.0 7.2	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロク口整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付。	
第374図	5	灰釉陶器 皿	床面直上 破片	口	11.8	台 高	6.4 2.1	微砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛けか。	虎沢山1号窯 式期。
第374図 PL-418	6	土師器 甕	カマド使用面直 上と6caと18cm 上が接合 口縁部～胴部上 位1/3	口	23.8			細砂粒/良好/浅黄 橙	ロク口整形、回転方向不明。内面はへらナデ。	北陸系ロク口 甕。
Ⅵ区64号住居										
第375図 PL-418	7	黒色土器 椀	床面直上 3/4	口	13.5	台 高	7.5 5.1	細砂粒/酸化焰/浅 黄	内面黒色処理。ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。内面はへら磨き、口縁部は刺磨のため不鮮明。	
第375図 PL-418	8	黒色土器 椀	カマド使用面か ら25cm上 3/4	口	13.7	台 高	7.3 5.6	細砂粒/酸化焰/浅 黄	内面黒色処理。ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。内面はへら磨き。	
第375図	9	須臾器 杯	床面直上 底部～体部片	底	8.0			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロク口整形、回転右回り。右底部は回転糸切り無調整。	
第375図 PL-418	10	須臾器 椀	床面から21cm上 口縁部一部欠	口	9.4	高	3.6	細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。底部は疑似高台状を呈す。	
第375図 PL-418	11	須臾器 椀	床面直上	口	14.1	台 高	6.1 5.2	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/灰白	ロク口整形、回転右回り。底部の切り難し技法は器面磨滅のため不明。高台は貼付。	
第375図 PL-418	12	須臾器 椀	カマド使用面直 上 口縁部一部欠	口	12.2	台 高	7.9 4.8	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/灰黄	ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第375図 PL-418	13	須臾器 椀	床面から11cm上 1/3	口	14.8	台 高	6.6 5.3	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第375図	14	須臾器 椀	カマド理上 口縁部片	口	12.4			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロク口整形、回転右回りか。体部下位に回転へら削り。	
第375図	15	須臾器 椀	床面から13cm上 1/3	底 台	7.0 10.0			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロク口整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付。	
第375図	16	灰釉陶器 椀	床面から20cm上 1/3	口	13.5	台 高	7.2 4.1	微砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯 式期。
第375図	17	灰釉陶器 椀	理上 破片	口	12.1			微砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形、回転右回りか。施釉方法は漬け掛けか。	大原2号窯 式期。
第375図	18	灰釉陶器 椀	床面から26cm上 底部	底 台	6.1 5.8			微砂粒/還元焰/灰 黄	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り後高台を貼付。施釉方法は漬け掛けか。	大原2号窯 式期～虎沢山1 号窯式期。
第375図	19	須臾器 甕	床面直上 胴部下位～底部 1/3	底	18.4			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/橙	ロク口整形、回転方向不明。底部と胴部下部は回転へら削り。内面はアテ具痕がみかすかに残る。	
第375図	20	土師器 甕	床面から10cm上 口縁部～胴部上 位1/3	口	18.6			細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	外面胴部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	

Ⅷ区65号住居

棟号 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値		胎土/焼成/色調 石・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第377Ⅷ PL-418	1	黒色土器	カマド使用面6cm上 底部～体部	底 7.0 7.4		細砂粒/酸化塩/に ぶい・黄橙	内面黒色処理。ロクロ整形。回転右回り。底部回転系切り 後高台を貼付。内面はへう磨き。	
第377Ⅷ PL-418	2	須臾器 椀	カマド使用面直上 口縁部一部欠	口 13.6 7.4	台 7.2 6.2	細砂粒/酸化塩/灰 黄	ロクロ整形。回転右回り。底部回転系切り後高台を貼付。	
第377Ⅷ	3	須臾器 椀	カマド使用面直上	口 13.4 7.2	台 7.2 5.3	細砂粒/酸化塩/浅 黄	ロクロ整形。回転右回り。底部回転系切り後高台を貼付。	
第377Ⅷ	4	須臾器 甕	床面から23cm上 底部～体部	底 3.9		細砂粒/酸化塩/に ぶい・橙	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第377Ⅷ	5	須臾器 甕	カマド使用面8cm上 口縁部片	底 23.8		細砂粒/酸化塩/に ぶい・橙	ロクロ整形。	
第377Ⅷ PL-418	6	土製品 土鉢	埋上 完形	長 4.0 1.2	孔 重 0.4 5.3	微砂粒/良好/灰 濁	外面ナデ。	
第377Ⅷ PL-418	7	鉄製品 刀子	床面直上 破片	長 8.9 1.6	厚 重 1.2 12.27		棟・刃側ともに明瞭な間を持つ刀子。刃の先端劣化破損し、 刃は周辺近くで大きくカーブし研ぎ減りとみられる。茎は1 cm程で劣化破損する。	

Ⅷ区66号住居

第379Ⅷ PL-419	1	須臾器 椀	床面直上 3/4	底 6.9		細砂粒/酸化塩/に ぶい・橙	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転ヘラナデ。高台は貼付。	
第379Ⅷ	2	須臾器 椀	床面直上 底部1/2	底 台 8.0 7.6		細砂粒/酸化塩/に ぶい・黄橙	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転ヘラナデ。高台は貼付。	
第379Ⅷ	3	灰釉陶器 皿	床面から7cm上	口 11.8 6.0	台 高 5.6 2.7	微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転ヘラナデ。高台は貼 付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第379Ⅷ PL-419	4	灰釉陶器 椀	床面直上と11cm 上が接合	口 12.8 7.4	台 高 7.0 4.0	微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転ヘラナデ。高台は貼 付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第379Ⅷ PL-419	5	灰釉陶器 土師器 甕	床面から5cm上 底部～体部	底 台 8.4 8.2		微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転ヘラナデ。高台は貼 付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第379Ⅷ	6	土師器 甕	カマド使用面直上 口縁部片	口 24.0		細砂粒/良好/に ぶい・黄橙	口縁部から頸部は横ナデ。胴部はへう削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第379Ⅷ	7	土師器 羽釜	腰方直上 口縁部片	口 25.8 27.6		細砂粒/良好/に ぶい・黄橙	胴は貼付。胴部は横位のへう削り。内面は口縁部が横ナデ、 胴部はヘラナデ。	
第379Ⅷ PL-419	8	須臾器 羽釜	カマド使用面直上 と8cmと12cm 上が接合 口縁部～胴部中 位1/2	口 20.2 23.8		細砂粒/酸化塩/明 濁	ロクロ整形。回転方向不明。罫は貼付。胴部は上から下 へのへう削り。内面はヘラナデ。	
第379Ⅷ	9	須臾器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部上 位片	口 24.8 27.3		細砂粒/酸化塩/に ぶい・黄橙	ロクロ整形。回転方向不明。罫は貼付。胴部は上から下 へのへう削り。内面はヘラナデ。	
第379Ⅷ	10	須臾器 羽釜	床面直上 口縁部片	口 25.6 30.0		細砂粒/酸化塩/灰 黄濁	ロクロ整形。回転方向不明。罫は貼付。胴部は上から下 へのへう削り。内面はヘラナデ。	

Ⅷ区67号住居

第381Ⅷ PL-418	1	須臾器 杯	床面から13cm上 底部～体部	底 4.0		細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい・橙	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転系切り無調整。底部 は疑似高台状を呈す。	
第381Ⅷ	2	須臾器 椀	埋上 底部1/2	底 台 7.4 8.6		細砂粒/酸化塩/橙	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転ヘラナデ。高台は貼付。	
第381Ⅷ	3	土師器 土師器 羽釜	カマド使用面直上 口縁部～胴部上 位	口 25.6 30.4		細砂粒/良好/に ぶい・黄橙	罫は貼付。胴部は横位のへう削り。内面は口縁部が横ナデ、 胴部はヘラナデ。	

Ⅷ区68号住居

第383Ⅷ PL-419	1	須臾器 杯	床面から6cm上	口 底 8.2 5.0	高 2.2	細砂粒/酸化塩/浅 黄橙	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第383Ⅷ PL-419	2	灰釉陶器 椀	床面直上 底部下位～高台 部1/3	底 台 7.4 7.0		微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転ヘラナデ。高台は貼 付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第383Ⅷ PL-419	3	土師器 小型甕	床面直上 口縁部～胴部下 位1/2	口 14.9		細砂粒・粗砂粒/ 良好/灰濁	口縁部は横ナデ。胴部はへう削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第383Ⅷ PL-419	4	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部上 位1/3	口 20.4		細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい・濁	口縁部は横ナデ。胴部上位はナデ。中位はへう削り。内面 は胴部がヘラナデ。	
第383Ⅷ PL-419	5	土師器 甕	床面から5cm上 口縁部～胴部中 位片	口 25.5		細砂粒/良好/明赤 濁	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ。胴部 はへう削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第383Ⅷ	6	土師器 甕	床面直上 口縁部片	口 20.2		細砂粒・粗砂粒/ 良好/濁	口縁部から頸部は横ナデ。胴部はへう削り。内面は胴部が ヘラナデ。	
第383Ⅷ	7	土師器 甕	床面から5cm上 口縁部片	口 26.0		細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい・橙	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ。胴部 はへう削り。内面は胴部がヘラナデ。	

Ⅷ区70号住居

棟別 No.	種 類 種 別	出上位置 残 存 率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第385区 PL-40	1 須忠器 椀	床面直上 3/4	底 6.0	高 6.4	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第385区	2 灰輪陶器 皿	埋上 1/3	口 14.1	台 6.2	微砂粒/還元塩/灰 白	ロク口整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は直け掛けか。	大原2号窯式 製。
第385区 PL-419	3 灰輪陶器 杯	床面直上 1/2	口 13.2	台 6.5	微砂粒/還元塩/灰 黄	ロク口整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。体部下位に回転ヘラ削り。施釉方法は直け掛け。	大原2号窯式 製。
第385区 PL-419	4 土師器 甕	床面直上と6cm 上が接合 口縁部～胴部中 位1/2	口 17.8		細砂粒/良好/橙	外面に輪積痕が残る。口縁部から胴部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第385区 PL-419	5 須忠器 羽釜	床面から5cm上 口縁部片	口 19.0	跨 24.4	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい橙	ロク口整形、回転方向不明。跨は貼付。	
第385区	6 不明 羽釜	床面直上と7cm 上が接合 口縁部片	口 21.8	跨 27.0	細砂粒/酸化塩/に ぶい橙	ロク口整形、回転方向不明。跨は貼付、胴部はヘラ削り。	

Ⅷ区71号住居

第388区 PL-420	1 須忠器 杯	床面直上 3/4	口 10.0	高 3.8	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第388区 PL-420	2 須忠器 椀	床面から5cm上 1/3	口 14.6	台 6.6	細砂粒/酸化塩/橙	ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付、高台は剥落。口縁部から体部は器面磨滅。	
第388区	3 須忠器 杯	床面から8cm上 口縁部片	口 13.8		細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロク口整形、回転右回りか。	
第388区 PL-420	4 須忠器 長頸壺	床面から8cm上 頸部1/2			細砂粒/酸化塩/黄 灰	ロク口整形、回転右回りか。頸部下位にヘラナデ。	
第388区	5 須忠器 長頸壺	床面直上 底部	底 12.0	台 11.6	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい橙	ロク口整形、回転右回りか。底部の整形は器面磨滅のため不明、高台は貼付、胴部下位にヘラ削り。	
第388区	6 須忠器 羽釜	貯蔵穴底から 6cm上 口縁部片	口 19.9	跨 23.0	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロク口整形、回転方向不明。跨は貼付。	
第388区	7 須忠器 羽釜	埋上 口縁部～胴部上 位片	口 21.8	跨 24.8	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロク口整形、回転右回りか。跨は貼付、胴部はヘラナデ、内面胴部もヘラナデ。	
第389区	8 須忠器 羽釜	床面直上と土坑 2底から14cm上 が接合 口縁部片	口 23.8	跨 27.3	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロク口整形、回転方向不明。跨は貼付。	
第389区 PL-420	9 須忠器 甕	床面直上と5cm と6cmと10cm上 が接合 胴部上位～底部 3/4	底 12.2		細砂粒/酸化塩/黄 灰	ロク口整形、回転右回り。底部と胴部下半は手持ちヘラ削り、胴部上半は回転ヘラナデ。	
第389区 PL-420	10 石製品 砥石	床面直上 完形	長 7.2	厚 2.6	砥沢石	砥面は4面認められる。上方に径約4mmの孔が認められ内側穿孔されている。上下面に小さな漏斗状の孔が集中する。左右側面には、上方と下方に一つずつ漏斗状の孔が認められる。正裏面には、下方に一つの漏斗状の孔が認められる。孔の内面はいずれも滑らかであり、工具を回転させることで形成されたと考えられる。	

Ⅷ区91号住居

第389区 PL-411	11 須忠器 椀	床面から17cm上 2/3	口 14.5	台 6.6	細砂粒/還元塩/灰 白	ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第389区 PL-419	12 須忠器 椀	方マ下使用面直 上 2/3	口 13.8	台 6.2	細砂粒/酸化塩/黄 灰	ロク口整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第389区 PL-419	13 須忠器 椀	床面から34cm上 1/3	口 13.4		細砂粒/酸化塩/灰 白	ロク口整形。	外面に「加主」 の墨書。
第389区	14 須忠器 椀	床面から25cm上 1/4	口 16.0	台 6.4	細砂粒/酸化塩/灰 黄	ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第389区	15 土師器 甕	床面直上 口縁部片	口 18.0		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から胴部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	

Ⅷ区72号住居

第391区 PL-420	1 須忠器 椀	床面から5cm上 完形	口 14.2	台 6.8	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄	ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	内外面の口縁 部にスズが付着。
第391区	2 須忠器 椀	床面から29cm上 1/3	口 13.6	台 6.0	細砂粒/還元塩/灰 白	ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第391区	3 須忠器 椀	貯蔵穴底から 16cm上 1/3	口 13.8	台 7.4	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄	ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第391区	4 須忠器 羽釜	床面から12cmと 18cm上が接合 口縁部～胴部上 位片	口 17.2	跨 22.4	細砂粒/酸化塩/灰 黄	ロク口整形、回転方向不明。跨は貼付。	

種別 PL.No.	No.	種 類 種 別	出土位置 残 存 率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
第391図	5	須臾器 羽釜	埋土 口縁部～胴部上 位片	口 径	22.8 25.2		細砂粒・粗粒/酸 化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形。回転方向不明。罫は貼付、胴部はヘラナデ、 内面胴部もヘラナデ。	
第391図	6	鉄製品 刀子	床面直上 破片	長 幅	7.3 1.1	厚 重	0.8 8.25	断面縦い台形状で刀子の茎と見られる。刃側は破損削れ し茎尻は酸化破損する。木質等の痕跡は見られない。	
Ⅷ区73号住居									
第393図	1	土師器 小型甕	床面直上 口縁部～胴部中 位片	口 径	10.5			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。
第393図	2	須臾器 瓶	床面直上 胴部片	脚	22.4			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/黄灰	ロクロ整形。
第393図	3	須臾器 甕	床面直上 胴部片					細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/黄灰	外面はヘラナデ、内面はアテ貝歯の痕跡が残る。
第393図	4	鉄製品 鎌	床面直上 ほぼ完形	長 幅	14.8 8.2	厚 重	2.0 58.58		幅広い鉄鎌。柄装着部は小さく十字状に折り曲げる。柄 装着部分に木質等の痕跡は見られない。
第393図	5	鉄製品 刀子	床面直上 ほぼ完形	長 幅	18.8 2.5	厚 重	1.3 32.34		棟側に明顯な間を持つ刀子。茎は長く柄と見られる広葉樹 散孔材の木質が見える。
第393図	6	鉄製品 釘	床面直上 ほぼ完形	長 幅	4.0 1.1	厚 重	1.1 4.61		断面はほぼ正方形に近い角形。頭は薄く幅広く伸びる字に 折り曲げる。本体に直行する板目材の痕跡が見られるが不明 瞭。
第393図	7	鉄製品 刀子	床面直上 破片	長 幅	5.5 1.2	厚 重	0.8 4.43		棟・対側ともに明顯な間を持つ刀子破片とこれと同一個体 と見られる茎破片だが直接接合はしない。木質等の痕跡 は見られない。
第393図	7	鉄製品 刀子	床面直上 破片	長 幅	2.5 0.6	厚 重	0.5 0.66		
第393図	8	鉄製品 刀子	床面直上 破片	長 幅	7.1 1.2	厚 重	1.1 7.02		棟側に間を持つ刀子。刃は10.5cm程で破損する。茎は全体 を柄材と見られる広葉樹散孔材の木質痕跡に覆われる。柄 は丸木で中心部分に茎を挿入する。
第393図	9	鉄製品 不詳	床面直上 一部欠損	長 幅	9.0 1.3	厚 重	1.3 14.15		断面はほぼ正方形の角棒状の鉄製品。一端に向かい徐々に細 くなるが端部は角形で終わる。他の端部は酸化破損する。 厚さ0.4cm程の湾曲する板状鉄製品破片。全体に放射割れ が入り跡造鉄製品の破片と見られる。
第393図	10	鉄製品 不詳	床面から5cm上 破片	長 幅	4.9 4.7	厚 重	1.5 27.76		
Ⅷ区74号住居									
第398図	1	須臾器 椀	カマド1層方 から12cm上 口縁部一部欠 片	口 径	12.3 5.8	高	4.2	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/灰白	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第398図	2	須臾器 椀	床面から29cm上 口縁部片	口 径	11.6			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形。回転右回りか。
第398図	3	須臾器 椀	床面から17cm上 口縁部片	口 径	13.0			細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形。回転右回りか。
第398図	4	須臾器 椀	床面から12cm上 1/2	口 径	12.4 5.6	台 高	5.1 4.9	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形。回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第398図	5	須臾器 椀	床面から22cm上 1/3	口 径	16.6			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/浅黄	ロクロ整形。回転右回りか。
第398図	6	須臾器 椀	床面から33cm上 1/3	口 径	6.2 5.7	底 高	6.2 5.7	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第398図	7	須臾器 椀	埋土 底部～体部	口 径	7.2 6.7			細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形。回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第398図	8	灰地陶器 皿	埋土 1/6	口 径	12.7 7.4	台 高	7.0 2.9	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。回転右回りか。体部下位に回転ヘラ削り。施 輪方法は漬け掛け。
第398図	9	灰地陶器 椀	床面から14cm上 1/3	口 径	14.2 7.4	台 高	7.0 4.0	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。施輪方法は刷毛塗り。
第398図	10	灰地陶器 椀	床面から18cm上 口縁部片	口 径	15.0			微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形。回転右回りか。施輪方法は漬け掛け。大原2号式 式期。
第398図	11	灰地陶器 椀	カマド埋土 口縁部片	口 径	16.0			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。回転右回りか。体部下位に回転ヘラ削り。施 輪方法は漬け掛け。大原2号式 式期。
第398図	12	須臾器 把手付瓶	カマド2使用面 から45cm上 胴部片					細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形。回転右回り。把手は貼付。
第398図	13	土師器 甕	埋土 口縁部片	口 径	16.8			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ。
第398図	14	土師器 甕	カマド2使用面 から20cmと24cm と26cm上が接合 口縁部～胴部上 位1/3	口 径	21.6			細砂粒・粗砂粒/ 良好/赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。
第398図	15	土師器 甕	カマド使用面 から33cmと36cm上 口縁部～胴部中 位3/4	口 径	19.2			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。
第398図	16	須臾器 羽釜	カマド2使用面 直上と17cm～ 48cmの遺物群が 接合 口縁部～胴部下 位1/2	口 径	18.0 23.4	脚 高	18.0 23.4	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形。回転右回り。罫は貼付、胴部は中位から下位 にヘラ削り。

棟号 PL.No.	No.	種類 器種	出上位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第398回 PL.421	17	須恵器 甕	カマド2使用面 直上と5cm～ 47cmの遺物群が 接合 胴部上位～底部 1/3	底	7.0		細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい橙	ロクロ整形。底部はヘラ削りか、胴部は横位と縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第398回 PL.421	18	鉄製品 鏝	掘方理上 一部欠損	長 幅	6.6 4.0	厚 重	1.3 21.58	雁又の鉄鏝。茎との境は両側に段を持ち茎は短く角形で終わり破損の可能性有るが、全体に厚く錆に覆われ詳細は不明。	

Ⅷ区102号住居

第399回	1	須恵器 椀	カマド1の掘方 から16cm上 口縁部片	口	14.0			細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形。回転右回りか。	
第399回	2	灰輪陶器 椀	理上 口縁部片	口	14.8			微砂粒/還元塩/灰 黄	ロクロ整形。回転右回りか。施軸方法は漬け掛け。口縁端部にススが付着。	大原2号窯式 期。
第399回	3	土師器 付冨	床面から20cm上 底部～胴部片	脚	10.6			細砂粒/良好/浅黄 橙	胴部は貼付、胴部はヘラ削りか、胴部は横ナデ。内面胴部はヘラナデ。	
第399回 PL.421	4	須恵器 羽釜	床面直上と15cm ～30cm上の遺 物群が接合 口縁～胴部中位 1/3	口 跨	20.2 24.0			細砂粒/酸化塩/浅 黄橙	ロクロ整形。回転方向不明。跨は貼付。	
第399回	5	須恵器 羽釜	カマド1使用面 から5cm上 口縁部片	口 跨	21.2 21.2			細砂粒/酸化塩/に ぶい橙	ロクロ整形。回転方向不明。跨は貼付。	

Ⅷ区103号住居

第401回	1	須恵器 杯	貯蔵穴底から 15cm上 1/4	口 底	14.2 8.4	高	3.4	細砂粒・黒色粒/ 還元塩/灰	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り後回転ヘラ削りか。	
第401回 PL.421	2	須恵器 椀	床面直上 3/4	口 底	15.6 7.7	台 高	7.3 5.4	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形。回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第401回	3	須恵器 椀	床面直上 1/4	口 底	13.4 7.4	台 高	7.0 5.0	細砂粒/酸化塩/に ぶい橙	ロクロ整形。回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第401回 PL.421	4	須恵器 長頸壺	床面から46cm上 口縁部～頸部片	口	16.2			細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形。回転右回りか。口唇部に凹線が1条並ぶ。	
第401回 PL.421	5	鉄製品 紡錘車	床面直上 破片	長 幅	7.7 5.3	厚 重	5.3 48.07		ほぼ円形の紡輪と紡輪が現る紡錘車。紡輪中央は断面丸みを持つ角形で端部に向かい細くなる。ともに断面は丸くなる。端部から3cm程でくの字に折れ面がある。	

Ⅷ区75号住居

第404回	1	須恵器 椀	掘方から5cm上 口縁部～体部片	口	15.7			細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄	内面黒色処理。ロクロ整形。	
第404回	2	須恵器 椀	カマド使用面直 上 底部	底 台	6.5 6.6			細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/灰黄	ロクロ整形。回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第404回	3	灰輪陶器 皿	理上 底部片	底 台	7.2 7.0			微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形。回転右回りか。底部は回転ヘラナデ。高台は貼付。施軸方法不明。	光ヶ丘1号窯 式期～大原2 号窯式期。
第404回 PL.422	4	土師器 付冨	床面直上 底部一部欠	口 跨	14.8 19.7	高	13.1	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	跨は貼付。口唇部は平坦面を作る。口縁部は横ナデ。胴部と底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	
第404回 PL.422	5	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部下 位1/3	口 跨	22.6 29.2			細砂粒・粗砂粒/ 褐粒/酸化塩/明褐	ロクロ整形。回転方向不明。跨は貼付、胴部は下位から上位へのヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第404回	6	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部上 位	口 跨	24.0 28.6			細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形。回転方向不明。跨は貼付、胴部は上位から下位へのヘラ削り。	
第404回	7	須恵器 羽釜	床面から10cm上 口縁部片	口 跨	23.4 26.8			細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい赤 褐	ロクロ整形。回転方向不明。跨は貼付、胴部は下位から上位へのヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第404回	8	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上 口縁部片	口 跨	22.4 27.2			細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/灰黄橙	ロクロ整形。回転方向不明。跨は貼付、胴部は下位から上位へのヘラ削り。内面はヘラナデ。	

Ⅷ区111号住居

第404回	9	須恵器 杯	掘方から5cm上 1/4	口 底	10.0 7.0	高	1.4	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/橙	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第404回	10	須恵器 椀	床面直上 1/3	口 底	15.0 7.0	台 高	9.0 6.9	細砂粒/酸化塩/焼 にぶい黄橙	ロクロ整形。回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第404回	11	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部上 位片	口	21.8			細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ。胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第404回 PL.421	12	須恵器 羽釜	掘方理上 口縁部～胴部中位	口 跨	24.8 28.8			細砂粒・粗粒/酸 化塩/明黄橙	胴部外面に輪積痕が現る。ロクロ整形。回転右回りか。跨は貼付。胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第404回 PL.421	13	石製品 砥石	理上 不明	長 幅	(4.1) (3.4)	厚 重	(1.4) 22.5	砥沢石	砥面は2面認められる。正面及び右側面はほぼ平組である。上下面及び右側面から裏面に欠けて欠損。	



Ⅷ区76号住居

棟号 PL.No.	No.	種 類 種 種	出土位置 残 存 率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第406号 PL-422	1	須臾器 杯	床面から21cm上 口縁部一部欠	口 11.6 底 5.5	高 3.8	細砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第406号 PL-422	2	須臾器 椀	埋上 3/4	口 12.8 底 7.2	高 4.6	細砂粒/酸化焼/に ぶい焼	ロクロ整形、回転方向不明。器面磨滅のため詳細不明。	
第406号 PL-422	3	須臾器 椀	床面から12cm上 1/3	口 13.2 底 6.2	台 6.6 高 6.0	細砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第406号	4	灰釉陶器 椀	床面から11cm上 底	6.0 5.8		細砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。胎部下位に回転ヘラナデ。	大原2号窯式 期。
第406号	5	須臾器 長頸壺	埋上 底	9.8 9.8		細砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。胎部下位に回転ヘラナデ。	
第406号	6	須臾器 長頸壺	埋上 底	13.8 13.0		細砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。胎部下位に回転ヘラナデ。	
第406号	7	土師器 小型甕	床面から8cm上 口縁部片	口 14.8		細砂粒/良好/にぶ い焼	口縁部から頸部は横ナデ。胴部はへら削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第406号	8	土師器 小型甕	床面から7cm上 口縁部片	口 21.6		細砂粒/良好/にぶ い焼	口縁部から頸部は横ナデ。胴部はへら削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第406号 PL-422	9	鉄製品 刀子	床面から12cm上 破片	長 4.9 幅 1.9	厚 0.7 重 6.22		棒・対側ともに明確な間を持つ刀子。刃は0.5cm程度で破損し錆に覆われる。茎の一部表面には正葉樹材の木質痕跡が残る。	
第406号 PL-422	10	鉄製品 紡錘車	埋上 一部欠損	長 16.2 幅 5.5	厚 5.2 重 38.33		やや歪な円形の紡輪に対しやや斜めに貫通する紡輪からなる紡錘車。紡輪は紡輪付では断面は角歪み端に向かい細くなるともに断面は丸くなる。一方の端部は完全丸みを持つ他の端部は劣化破損する。	

Ⅷ区110号住居

第406号	11	須臾器 椀	埋上 口縁部片	口 14.0		細砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。	
第406号	12	土師器 小型甕	埋上 口縁部片	口 14.2		細砂粒/良好/にぶ い焼	口縁部から頸部は横ナデ。	

Ⅷ区77号住居

第409号	1	黒色土器 椀	埋上 1/3	底 6.6		細砂粒/酸化焼/黒 褐色	内外面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。高台は剥落。	
第409号	2	須臾器 皿	床面から21cm上 1/3	口 13.6 底 7.6	台 7.2 高 2.3	細砂粒/還元焼/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第409号 PL-422	3	須臾器 杯	床面から11cm上 3/4	口 13.1 底 6.2	高 3.4	細砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第409号	4	須臾器 杯	貯蔵穴底から 12cm上 3/4	口 13.5 底 5.7	高 3.9	細砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第409号	5	須臾器 杯	床面から10cm上 1/3	底 6.4		細砂粒/還元焼/濁 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第409号 PL-422	6	須臾器 椀	床面から9cm上 3/4	口 13.3 底 6.8	台 6.3 高 4.7	細砂粒/還元焼/浅 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第409号 PL-422	7	須臾器 椀	床面直上 1/4	口 14.2 底 6.8	台 7.3 高 5.3	細砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第409号	8	須臾器 椀	割方から13cm上 1/4	口 12.6 底 6.0	高 3.6	細砂粒/還元焼/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第409号	9	須臾器 椀	床面直上 1/4	口 14.0 底 6.8	台 6.0 高 5.3	細砂粒/酸化焼/に ぶい焼	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第409号	10	須臾器 椀	埋上 口縁部片	口 13.4		細砂粒/還元焼/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。	
第409号	11	須臾器 椀	床面から22cm上 口縁部片	口 15.0		細砂粒/酸化焼/に ぶい焼	ロクロ整形、回転右回り。	
第409号	12	須臾器 椀	床面直上 底	6.9 6.3		細砂粒・粗砂粒/ 還元焼/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第409号	13	須臾器 椀	割方から9cm上 底	6.4 6.0		細砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第409号	14	土師器 小型甕	床面直上 口縁部片	口 12.0		細砂粒/良好/にぶ い赤焼	外面頸部に輪軸が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第409号	15	土師器 小型甕	カマド割方から 10cm上 口縁部→胴部 中位1/3	口 11.6		細砂粒/良好/にぶ い黄焼	外面口縁部と頸部に輪軸が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は口縁部下半から胴部にヘラナデ。	
第409号	16	土師器 椀	割方直上 口縁部片	口 18.3		細砂粒/良好/にぶ い焼	口縁部から頸部は横ナデ。胴部はへら削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第409号	17	土師器 椀	床面から11cm上 口縁部片	口 20.0		細砂粒/良好/焼	口縁部から頸部は横ナデ。胴部はへら削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第409号 PL-422	18	鉄製品 釘?	床面直上 破片	長 6.4 幅 2.2	厚 1.2 重 13.42		断面はほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品。し字形に曲がるが全体に厚く錆に覆われ詳細は不明。	

Ⅷ区112号住居

第410号 PL-422	19	須臾器 椀	カマド使用面から 10cm上 3/4	口 13.9 底 6.4	台 5.6 高 5.0	細砂粒/酸化焼/に ぶい黄焼	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
-----------------	----	----------	--------------------------	-----------------------	----------------------	-------------------	----------------------------	--

棟号 PL.No.	No.	種類 器種	出上位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第410図	20	須臾器 検	カマド使用面から 6cm上	底 6.2	8.2 6.2	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロク口整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第410図	21	須臾器 検	掘方埋土 底部片	底 6.0	6.8 6.0	細砂粒/酸化焰/灰 白	ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
Ⅷ区78号住居								
第412図 PL.422	1	須臾器 検	カマド使用面直上 1/2	口 13.7 底 6.5	高 5.6	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロク口整形、回転右回り。底部と体部下位は回転ヘラ削り、 底部に焼成後の穿孔、再利用か。	
第412図 PL.422	2	須臾器 検	カマド使用面直上 1/2	口 13.0 底 6.3	台 5.7 高 4.9	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第412図 PL.422	3	須臾器 検	床面直上 1/3	口 12.3 底 6.8	台 6.8 高 5.9	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第412図 PL.422	4	須臾器 検	埋土 1/4	口 18.4 底 8.0		細砂粒・粗砂粒・ 片岩/酸化焰/にぶ い黄橙	ロク口整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。高台を打ち欠き端部を磨削して再使用か。	
第412図	5	灰釉陶器 輪花検	カマド使用面から 5cm上 口縁～体部片	口 19.8		微砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形、回転右回りか。口唇部に輪花。施釉方法は漬 け掛け。二次焼成を受けている。	大原2号窯式 削。
第412図	6	須臾器 羽釜	埋土 口縁部～胴部下 位1/3	口 18.1 口 22.1	脚	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロク口整形、回転右回り。脚は貼付。	
第412図 PL.422	7	鉄製品 釘?	床面から23cm上 破片	長 3.4 幅 1.3	厚 1.1 重 3.34		断面はほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品。わずかに曲がり 内端は破損と見られるが全体に厚く筋に覆われ詳細は不 明。	
Ⅷ区79号住居								
第414図	1	須臾器 杯	埋土 底部片	底 5.6		細砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第414図	2	須臾器 杯	床面から9cm上 底部片	底 5.6		細砂粒/酸化焰/煙 /黒濁	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第414図	3	須臾器 検	掘方から21cmと 22cm上が1接合 1/3	口 13.6 底 7.4	台 7.8 高 6.6	細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロク口整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、かすかに 糸切り痕が残る。高台は貼付。内面底部に強いロク口痕。	
第414図	4	須臾器 検	埋土 口縁部片	口 12.8		細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロク口整形、回転右回りか。	
第414図	5	須臾器 検	掘方から30cm上 底部	底 6.6 底 6.4		細砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第414図	6	須臾器 検	掘方から26cm上 底部	底 6.0 底 5.7		細砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第414図	7	須臾器 検	掘方から18cm上 底部	底 6.6 底 5.9		細砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第414図	8	灰釉陶器 検	掘方から28cm上 口縁部下位～高 台部片	底 8.2 底 7.8		微砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形、回転右回りか。底部は回転ヘラナデ、高台は 貼付。施釉方法不明。	大原2号窯式 削。
第414図 PL.423	9	鉄製品 釘?	埋土 破片	長 3.3 幅 1.1	厚 1.0 重 4.43		断面はほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品。内端は破損と見 られるが全体に厚く筋に覆われ詳細は不明。	
Ⅷ区82号住居								
第416図	1	須臾器 杯	床面から51cm上 1/3	口 8.7 底 5.0	高 2.3	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第416図	2	須臾器 杯	埋土 1/3	口 8.6 底 5.0	高 1.7	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第416図 PL.423	3	須臾器 検	床面から5cm上 3/4	口 9.9 底 6.0	台 5.8 高 4.1	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄	ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第416図	4	須臾器 検	床面から7cm上 底部	底 7.2 底 8.2		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロク口整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第416図	5	須臾器 検	埋土 口縁部片	口 11.8		細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロク口整形、回転右回りか。	
第416図	6	須臾器 羽釜	カマド使用面直上 口縁部～胴部上 位片	口 20.2 口 25.0	脚	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロク口整形、回転方向不明。脚は貼付、胴部にヘラ削り。	
Ⅷ区85号住居								
第417図 PL.423	7	土師器 杯	掘方直上 完形	口 12.5 高 3.3		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上平がナデ、下平がヘラ削り、底 部は手持ちヘラ削り。	
Ⅷ区84号住居								
第418図	1	灰釉陶器 検	埋土 口縁部片	口 13.0		微砂粒/還元焰/灰 白	ロク口整形、回転右回りか。施釉方法不明。	大原2号窯式 削。
第418図 PL.423	2	鉄製品 鏡	埋土 ほぼ完形	長 14.4 幅 1.8	厚 1.4 重 21.80		先端は細く尖る鉄鏡。断面は薄い片丸形で某との境を一周 する形で段を持つ。某は断面正方形で端部は細く尖りぞみ。 断面はほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品。頭は角形で破損 の可能性もある。先端部で浅くしの字に曲がる。	
第418図 PL.423	3	鉄製品 釘	床面から11cm上 一部欠削	長 8.4 幅 1.5	厚 1.0 重 8.79		断面はほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品。頭は角形で破損 の可能性もある。先端部で浅くしの字に曲がる。	
第418図 PL.423	4	鉄製品 釘	埋土 ほぼ完形	長 5.7 幅 0.9	厚 0.8 重 4.64		断面はほぼ正方形の角釘。頭はやや斜めに角張る。木質等の 痕跡は確認できない。	

## Ⅷ区86号住居

棟目 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第423R PL-423	1	須臾器 杯	床面から8cmと 12cm上が接合 3/4	口 9.0	高 4.9	2.0	細砂粒/酸化塩/浅 黄褐色	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。	
第423R PL-423	2	須臾器 杯	床面直上 3/4	口 9.0	高 4.5	2.0	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄褐色	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。	
第423R PL-423	3	須臾器 杯	掘方直上 1/3	口 8.7	高 5.1	1.8	細砂粒/酸化塩/に ぶい褐色	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。	
第423R PL-423	4	須臾器 杯	床面直上と5cmと 6cmと11cm上 が接合 口縁部一部欠	口 9.2	高 4.2	2.2	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/浅黄	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。	
第423R PL-423	5	須臾器 杯	埋上 3/4	口 9.0	高 4.9	2.1	細砂粒/酸化塩/灰 白	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。	
第423R PL-423	6	須臾器 杯	床面から8cm上 3/4	口 8.5	高 4.6	2.3	細砂粒/酸化塩/浅 黄褐色	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。	
第423R	7	須臾器 杯	床面から11cm上 1/3	口 9.4	高 4.8		細砂粒/酸化塩/灰 黄	ロクロ整形、回転方向不明。底部は回転糸切り無調整。	
第423R	8	須臾器 杯	床面から11cm上 口縁部片	口 12.8			細砂粒/酸化塩/灰 黄	ロクロ整形。	
第423R PL-423	9	須臾器 碗	床面直上 1/4	口 16.3	高 7.4	4.9	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/潮灰	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。	
第423R PL-423	10	須臾器 碗	床面直上と11cmと 15cm上が接合 1/3	口 20.6	台 9.3	10.4 7.2	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄褐色	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ。高台は貼付。	
第423R	11	灰釉陶器 皿	埋上 口縁部片	口 12.8			微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。体部下半は回転ヘラ削り。施軸方法不明。	大塚2号窯式 期。
第423R	12	灰釉陶器 碗	床面直上 口縁部下位～高 台部	底 7.0	台 6.5		微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。施軸方法不明。	大塚2号窯式 期。
第423R PL-423	13	須臾器 瓶	床面から8cm～ 17cm上の遺物群 とカマド使用面 から15cm上が接 合 1/3	口 31.0	脚 37.0		細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい赤 褐色	ロクロ整形、回転方向不明。頸は貼付、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。頸に2孔一対の穿孔あり。	
第423R	14	土師器 甕	床面直上と7cmと 11cm上が接合 口縁～胴部中位 1/4	口 30.0			細砂粒/良好/にぶ い赤褐色	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	焼成時の歪み が口縁部にみ られる。
第424R PL-423	15	鉄製品 鉄	床面から18cm上 破片	長 9.6	厚 3.4	1.3 25.85		覆又の鉄鏝。先端は両側とも破損と見られる。茎に向かい幅をひろげるとの境を一周する段を持つ。茎は断面正方形で長く端部は劣化破損する。	
第424R PL-423	16	鉄製品 釘	床面直上 破片	長 8.6	厚 1.4	1.4 12.63		断面はほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品。全体に厚く錆に覆われ詳細は不明。	
第424R PL-423	17	鉄製品 刀子	床面直上 一部欠損	長 18.0	厚 2.5	1.6 52.82		鍔・刃部ともに明確な段を持つ刀子。刃の先端および茎尻は劣化破損する。厚く錆に覆われ木質等の痕跡は確認できない。	
第424R PL-423	18	鉄製品 鏝	埋上 破片	長 5.9	厚 1.9	1.1 9.86		先端三角形に尖る鉄鏝。断面は狭い菱形で側部は劣化破損する。	
第424R PL-423	19	鉄製品 不詳	床面から10cm上 破片	長 5.1	厚 3.9	2.0 43.72		厚さ0.7cm程の菱形をした鉄製品破片。多数の放射割れが入り踏造鉄製品の破片と見られる。	
第424R PL-423	20	鉄製品？ 不詳	掘方埋上 破片	長 3.6	厚 1.4	1.2 6.42		薄い鉄板を筒状に丸めた鉄製品。中央部は開くが錆化に伴うものと考えられる。	
第424R PL-423	21	鉄製品？ 不詳	掘方埋上 破片	長 3.9	厚 1.5	1.3 9.38		薄い鉄板を筒状に丸めた鉄製品。	
第424R PL-423	22	鉄滓 椀形煎治滓 (中)	床面から8cm上	長 8.7	厚 9.1	4.0 296.38		平面不整形円形。左側部欠損。錆が薄み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。上下面に微細な木炭痕がみられる。	構成%70
第424R PL-423	23	石製品 磨石	床面直上 ほぼ定形	長 9.1	厚 4.9	2.9 98.8	砥沢石	全面よく研磨され整形されている。正面上方から上面にかけて1字状に径約6mmの孔が内側穿孔される。	

## Ⅷ区87号住居

第427R PL-424	1	黒色土器 碗	床面直上 口縁部一部欠	口 9.6	台 底 4.7	4.8 3.6	細砂粒/酸化塩/黒 褐色	内外表面色処理。ロクロ整形、回転右回り。内外面ともほぼ全面ヘラ磨き。	内面口縁部に 付着物あり。
第427R	2	須臾器 碗	床面から10cm上 底部・体部下位	底 6.6	台 底 6.8		細砂粒/酸化塩/淡 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ。高台は貼付。	
第427R	3	灰釉陶器 碗	掘方直上 底部1/4	底 7.0	台 底 7.0		微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ。高台は貼付。施軸方法は漬け掛け。内面底部に重ね焼き痕が残る。	大塚2号窯式 期。
第427R	4	灰釉陶器 碗	埋上 底部片	底 7.0	台 底 6.8		微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ。高台は貼付。施軸方法不明。	光ヶ丘1号窯 式期～大塚2 号窯式期。
第427R	5	土師器 甕	床面から5cmと 7cm上が接合 口縁部～胴部 中位片	口 20.1			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤褐 色	口縁部は横ナデ、胴部は上位がナデ、中位はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	

種別 PL-No.	No.	種類	出上位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考			
第427図 PL-424	6	鉄製品 釘	床面直上 一部欠損	長 幅	4.9 0.9	厚 重	0.8 3.77		断面はほぼ正方形の角釘。頭は薄く広げつぶれるほどに強く折れ曲がる。先端は氧化破損する。		
第427図 PL-424	7	石製品 砥石	理上 完形	長 幅	4.5 2.5	厚 重	1.4 23.7		砥面は4面認められる。正面及び裏面は研ぎ減りによりやや内湾する。		
Ⅷ区89号住居											
第429図 PL-424	1	須忠器 杯	床面から11cm上 口縁部一部欠	口 底	12.6 6.2	高	3.4		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第429図	2	須忠器 杯	床面から15cm上 底部～体部	底	6.4				細砂粒/還元焰/黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第429図	3	須忠器 杯	理上 底部1/2	底	9.0 9.0				細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第429図	4	土師器 台付費	床面から12cm上	脚	8.4				細砂粒/良好/橙	脚部は貼付。胴部はへら削り、脚部は横ナデ。内面は胴部がへらナデ。脚部はナデ。	
第429図	5	須忠器 費	理上 口縁部片						細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形。	
第429図	6	灰釉陶器 瓶	理上 胴部片						微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、把手は貼付。降灰により施釉方法は不明。	
第429図 PL-424	7	鉄製品 不詳	理上 一部欠損	長 幅	6.8 1.4	厚 重	1.3 12.60			断面はほぼ正方形の角棒状の鉄製品。端部は丸みを持ち他端は氧化破損する。	
Ⅷ区95号住居											
第431図 PL-424	1	須忠器 杯	カマド使用面直 上と6cmと12cm 上が接合 口縁部一部欠	口 底	12.4 7.2	高	3.5		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	外面口縁部に 墨書。
第431図	2	須忠器 杯	床面から8cm上 底部～体部中位	底	8.2 8.0				細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第431図 PL-424	3	土師器 費	床面直上 口縁～胴部中位	口	18.4				細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	
第431図	4	土師器 費	カマド使用面直 上と8cmと9cm上 と壺方から22cm 上が接合 胴部下位～底部	底	4.0				細砂粒/良好/暗赤 褐	底部と胴部はへら削り。内面はへらナデ。	
第431図 PL-424	5	鉄製品 刀子	カマド壺方から 11cm上 一部欠損	長 幅	9.7 1.6	厚 重	0.7 8.49			横側に明確な間を持つ刀子。刃は細くやや弧を描きカーブする。茎は0.6cm程で破損跡化する。	
Ⅷ区96号住居											
第433図 PL-424	1	土師器 杯	床面直上と壺方 から10cmと11cm が接合 3/4	口 高	13.7 3.6				細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部と底部はへら削り。	内面底部に墨 書。
第433図	2	土師器 杯	床面から13cm上 1/3	口	12.2				細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がへら削り、底部は手持ちへら削り。	
第433図	3	黒色土器 椀	床面直上 口縁部片	口	16.2				細砂粒・雲母/酸 化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。内面はへら磨き。二次被熱で吸炭が消滅。	
第433図 PL-424	4	須忠器 杯蓋	床面直上と壺方 から6cmと9cm上 が接合 3/4	口 高	13.9 3.4	高	2.9		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程が回転へら削り。	
第433図 PL-424	5	土師器 台付費	カマド使用面直 上と19cm上とカ マド壺方から 7cmと10cm上 が接合 胴部下位～脚部	脚	11.8				細砂粒/良好/にぶ い黄	脚部は貼付。胴部はへら削り、脚部は横ナデ。内面は胴部がへらナデ。	
Ⅷ区98号住居											
第435図	1	須忠器 椀	壺方から5cm上 3/4	底 台	7.2 6.8				細砂粒/還元焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第435図	2	土師器 費	カマド使用面直 上 口縁～胴部中位	口	21.4				細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄	口縁部は横ナデ、頸部に指頭痕が残る。胴部はへらナデ。内面は胴部がへらナデ。	
第435図	3	土師器 羽釜	理上 口縁部～胴部上 位片	口 径	15.6 20.6				細砂粒/良好/灰 白	脚は貼付。口縁部は横ナデ、内面はへらナデ。	
第435図	4	須忠器 費	床面から17cm上 口縁部片						細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転方向不明。	
第436図 PL-424	5	鉄製品 鏝	理上 一部欠損	長 幅	10.5 2.3	厚 重	1.9 7.65			先端は片対形の長頭鏝。両側に棘を持ち茎は0.5cm程で破損跡化する。中央付近で浅くくの字に折れ面がある。	
第436図 PL-424	6	鉄製品 鏝	理上 一部欠損	長 幅	9.2 1.8	厚 重	1.1 13.98			先端三角の鉄鏝。断面は薄い二等辺三角形で胴部は浅い。茎までは直筒形で茎との段を一両する段を持つ。茎は1cm程で氧化破損する。	
第436図 PL-424	7	鉄製品 刀子	床面直上 破片	長 幅	3.8 1.1	厚 重	0.6 2.78			刀子の破片。一片は刃部分の破片でもう一片は横側に明確な間を持つ刃から茎の破片で二片は直接接合しないが同一個体と考えられる。それぞれの端部は氧化破損する。	7は同一個 体と考えら れる。

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第436図 PL.424	7	鉄製品 刀子	床面直上	長 7.5 幅 2.0	厚 0.7 重 10.53			7は同一個体
Ⅷ区104号住居								
第438図 PL.424	1	土師器 杯	床面直上	口 15.1 底 12.3	高 3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(椀下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第438図 PL.424	2	土師器 杯	床面直上	口 14.8 底 12.3	高 3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(椀下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第438図 PL.424	3	土師器 杯	床面直上	口 14.8 底 13.0	高 3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(椀下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第438図 PL.425	4	土師器 杯	床面直上	口 12.2 底 3.2		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底部は手持ちヘラ削り。	
第438図 PL.425	5	土師器 杯	床面直上	口 14.3 底 4.1		細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底部は手持ちヘラ削り。	
第438図 PL.425	6	土師器 杯	床面から5cm上	口 12.6 底 3.3		細砂粒/良好/明赤橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底部は手持ちヘラ削り。	
第438図 PL.425	7	土師器 杯	床面から22cm上	口 12.7		細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底部は手持ちヘラ削り。	
第438図 PL.425	8	須恵器 杯	床面から14cm上	口 9.0 底 4.7	高 2.9	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第438図 PL.425	9	須恵器 碗	掘方埋土 底部1/2	底 8.3 幅 8.0		細砂粒/酸化塩/淡黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第438図 PL.425	10	礫石器 杯状碗	床面直上	長 16.7 幅 6.4	厚 4.3 重 648.1	黒色頁岩	棒状の垂円盤である。内側縁のほぼ中央に集中した敲打痕が認められ縁辺がつぶれた状態である。特に右側縁は敲打により内湾した形態となる。	敲打痕あり
第438図 PL.425	11	礫石器 杯状碗	床面直上	長 16.6 幅 6.9	厚 4.7 重 776.6	粗粒輝石安山岩	棒状の内盤である。内側縁のほぼ中央に集中した敲打痕が認められ縁辺がつぶれた状態である。内側縁は敲打により内湾した形態となる。	敲打痕あり
Ⅷ区105号住居								
第440図 PL.425	1	須恵器 杯	カマド使用面から5.6cm上	口 15.0		細砂粒/酸化塩/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。	
第440図 PL.425	2	須恵器 杯	床面から24cm上 体部～底部	底 6.5		細砂粒/酸化塩/淡黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第440図 PL.425	3	須恵器 杯	カマド使用面から8cm上 底部～体部下位	底 6.2 幅 6.3		細砂粒/酸化塩/橙	ロクロ整形、回転右回り。高台は内盤状の粘土板を貼付し、端部をつまみあげている。高台も回転系切り。	
第440図 PL.425	4	灰釉陶器 輪花皿	カマド使用面から13cm上	口 12.5 底 6.8	台 高 6.8 2.3	微砂粒/還元塩/灰白	輪花は4カ所。ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り後周囲をヘラナデし、高台を貼付。施釉方法は漬り掛け。	虎渓山1号窯式附。
第440図 PL.425	5	土製品 弁口	埋土	長 8.1 幅 7.7	厚 2.5 重 222.02		先端部片。内径約2.5cm、厚さ2～2.5cm。胎土は粗砂粒。先端部はほぼ平坦に溶指。	構成No72
第440図 PL.425	6	土製品 弁口	カマド使用面から10cm上	長 9.3 幅 7.0	厚 4.0 重 151.75		体部片。厚さ約3.5cm。指頭圧痕あり。胎土は粗砂粒。	構成No74
第440図 PL.425	7	土製品 弁口	掘方から6cm上	長 7.8 幅 5.8	厚 2.5 重 91.86		体部から基部片。基底部欠損。厚さ約2.5cm。指頭圧痕あり。基部は押圧痕あり、ラッパ状に整形。胎土は粗砂粒。	構成No75
第440図 PL.425	8	土製品 弁口	埋土	長 4.5 幅 7.7	厚 4.3 重 116.20		先端部片。厚さ約3.5cm。胎土は粗砂粒。先端部は平坦に溶指。送風角度は約5°。	構成No73
第440図 PL.425	9	鉄滓 鉄塊系遺物	埋土	長 2.8 幅 3.2	厚 2.4 重 26.49		表面に酸化土砂が付着。放射割れ激しい。僅かに金属鉄が残存か。	構成No71
Ⅷ区106号住居								
第442図 PL.425	1	黒色土器 杯	床面直上	口 13.6 底 5.8		細砂粒/酸化塩/にぶい橙	内面黒色処理が二次焼成で酸化。ロクロ整形、回転右回り。底部回転系切り後高台を貼付、高台欠損後再調整。	
第442図 PL.425	2	須恵器 杯	床面から7cm上	口 10.0 底 5.6	高 3.6	細砂粒/酸化塩/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第442図 PL.425	3	須恵器 杯	床面直上	口 11.3 底 5.6	高 3.4	細砂粒/酸化塩/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第442図 PL.425	4	灰釉陶器 碗	床面直上 底部下位～高台部	底 8.4 幅 8.0		微砂粒/還元塩/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付、胴部下位は回転ヘラ削り。施釉方法不明。	虎渓山1号窯式附。
第442図 PL.425	5	須恵器 弁蓋	カマド使用面直上と5cm～16cm上の遺物層が接合	口 18.9 幅 24.2		細砂粒/酸化塩/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。鉤は貼付、胴部下平に上から下へのヘラ削り。	
第442図 PL.425	6	鉄製品 刀子	床面直上	長 7.3 幅 2.2	厚 1.2 重 18.08		横・対側ともになだらかな間を持つ刀子破片。両端とも劣化破損する。厚い筋に覆われ木質等の痕跡は確認できない。	
Ⅷ区116号住居								
第444図 PL.425	1	灰釉陶器 段皿	埋土	口 12.8		微砂粒/還元塩/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。	
第444図 PL.425	2	灰釉陶器 底皿	床面から5cm上	底 8.0 幅 7.9		微砂粒/還元塩/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法不明。	虎渓山1号窯式附。
第444図 PL.425	3	灰釉陶器 碗	埋土 高台部片	底 7.2 幅 6.8		微砂粒/還元塩/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法不明。	大原2号窯式附。

種別 PL.No.	No.	種類	出上位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考		
第444図	4	灰輪陶器 須器 杯	理上 口縁部下位～高 台部片	底 口	7.6 7.0		微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り、底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は刷毛塗り、内面底部にも施釉。	光ヶ丘1号窯 式期。	
第444図	5	灰輪陶器 須器 杯	理上 口縁部下位～高 台部片	底 口	8.0 8.2		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り、底部は回転ヘラナデ、高台は貼付、胴部下位は回転ヘラ削り。施釉方法不明。		
第444図	6	土師器 費	床面直上 口縁～胴部片	口	23.0		細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は上位がヘラナデ、中位はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。		
Ⅷ区117号住居										
第444図 PL-425	7	須器 杯	床面から17cm上 3/4	口 底	9.0 4.8	台	2.8	細砂粒/還元焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第444図	8	須器 杯	床面から5cm上 口縁部片	口	13.8			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。	
第444図 PL-425	9	灰輪陶器 皿	床面から9cm上 完形	口 底	14.0 5.4	台	7.2 3.1	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後回転ヘラナデ、高台は貼付するが、底部突出。施釉方法は洗け掛け。	内面底部に凹 線が通る、凹 削りか。
第444図 PL-425	10	灰輪陶器 皿	床面から10cm上 底部～胴部下位 片	底 台	9.6 9.7			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り、底部は回転ヘラナデ、高台は貼付、胴部下位は回転ヘラ削り。施釉方法は刷毛塗りか。	
第444図	11	土師器 費	床面直上 口縁部片	口	21.2			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
Ⅷ区119号住居										
第445図	1	須器 羽釜	理上 口縁部片	口	18.2			細砂粒/酸化焰/橙	外面口縁部に輪指痕が現る。ロクロ整形、罫は貼付。	
Ⅷ区2号住居										
第448図 PL-426	1	灰輪陶器 椀	理上 口縁部片	口	12.4			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。施釉方法は洗け掛け。	
第448図 PL-426	2	土師器 費	カマド使用面直上 口縁部～胴部下 位片	口	15.8			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラナデ。内面体部はヘラナデ。	
第448図 PL-426	3	須器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部上 位片	口	19.8			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/淡黄	ロクロ整形、罫は貼付。	
Ⅷ区3号住居										
第451図 PL-426	1	黒色土器 椀	製方から6cm上 1/3、底部欠	口 底	13.6 7.2			細砂粒/酸化焰/灰 黄褐	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付。内面はヘラ磨き。	二次被熱を受 け、吸灰が消 滅。
第451図 PL-426	2	黒色土器 椀	床面直上 1/4	口 底	13.7 7.1	台	7.2 6.0	微砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付。内面はヘラ磨き。	二次被熱を受 け、吸灰が消 滅。
第451図 PL-426	3	須器 杯	床面から31cm上 1/3	口	12.5 5.8	高	3.8	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第451図 PL-426	4	須器 杯	床面直上	口	11.2 5.5	高	4.6	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第451図 PL-426	5	須器 杯	床面直上 口縁部一部欠	口	11.0 5.2	高	4.3	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第451図 PL-426	6	須器 杯	床面直上と8cm 上が接合 口縁部一部欠	口 底	12.8 7.0	台	7.5 6.1	細砂粒/酸化焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第451図 PL-426	7	土師器 費	床面から5cm上 口縁部～胴部 中位1/4	口	12.2			細砂粒・粗砂粒/ 良好/明褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第451図 PL-426	8	須器 羽釜	床面から18cmと 28cm上が接合 口縁部片	口	20.0 24.4	高	24.4	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、罫は貼付。	
第451図 PL-426	9	鉄製品 刀子	床面から23cm上 一部欠削	長 幅	15.5 2.1	厚 重	1.3 34.18		横・対側ともに明瞭な間を持つ刀子。茎は1.5cm程で劣化破損する。刃は茎に比して細く先端も丸みを帯びた研ぎ減りの可能性が有る。	
第451図 PL-426	10	鉄製品 刀子	床面から28cm上 ほぼ完形	長 幅	13.6 2.0	厚 重	1.1 17.50		横・対側ともに間を持つ刀子。茎は全長の半分以上を上を止めるほど長い。刃は短く研ぎ減りの可能性が有る。	
第451図 PL-426	11	鉄製品 不詳	床面から40cm上 破片	長 幅	11.0 1.5	厚 重	1.4 189.0		断面丸から四角の棒状の鉄製品。一端に向かい、細くなりややみ突る。他の端部は劣化破損する。	
第451図 PL-426	12	在地系土器 不詳	床面から28cm上 体部片	口 底	— —	高 —	— —	白色鉱物粒を含む/ 灰白/	断面灰白色、外面器表暗褐色、内面器表黒色。外面丁字断面で調整。内面輪軸調整。内面調整部の指圧痕状成形残存。	中世以降。
Ⅷ区4号住居										
第453図 PL-426	1	須器 杯	床面から7cm上 2/3	口 底	14.0 6.8	台	7.0 6.4	細砂粒多/酸化焰/ にぶい橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後高台を貼付。内面はヘラ磨き、器面磨減のため単位不明。	
第453図 PL-426	2	須器 羽釜	床面から9cm上 口縁部～胴部 中位片	口	21.0 24.8	高	24.8	細砂粒・粗砂粒/ 粗粒/酸化焰/にぶ い橙	ロクロ整形、罫は貼付。胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第453図 PL-426	3	鉄製品 不詳	製方直上 破片	長 幅	6.2 3.4	厚 重	1.1 11.24		断面正方形から長方形の角棒状鉄製品でコの字状に曲がり内端とも劣化破損する。	

Ⅷ区5号住居

棟号 PL.No.	No.	種 類 種 種	出上位置 残 存 率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第454回	4	須臾器 鉢	床面直上 1/2	口 底	16.8 6.7	高 4.3	細砂粒/酸化塩/ ふい黄粒	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。

Ⅷ区6号住居

第454回	5	須臾器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部片	口 跨	20.8 26.6		細砂粒・粗砂粒・ 濁粒/酸化塩/ふい 黄粒	ロクロ整形。跨は貼付。
第454回 PL-426	6	鉄製品 不詳	側方直上 ほぼ完成	長 幅	5.3 4.1	厚 重	1.1 15.41	断面狭長方形でし字状に曲がる鉄製品。全体に厚く錆に覆われるため詳細は不明。

Ⅷ区7号住居

第454回	7	須臾器 甌	床面から6cm上 底部～高台部片	口 底	6.5 7.8		細砂粒・粗砂粒・ 濁粒/酸化塩/ふい 黄粒	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第454回 PL-426	8	石製品 砥石	床面から17cm上 完成	長 幅	5.8 2.9	厚 重	4.1 105.0	砥沢石 砥面は4面認められる。正面及び裏面は下部にむかい研ぎ減りする。上面と下面は砥面ではないが、細かな線条痕が認められる。

Ⅷ区8号住居

第455回	1	黒色土器 椀	床面直上 口縁部下位～高 台部	口 底	6.9 7.5		細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/ふい黄 粒	内面黒色処理、二次焼結のため一部のみ残存。ロクロ整形、 回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。内面は放射状 へら書き。
第455回	2	須臾器 鉢	床面直上 口縁部～体部片	口 跨	12.8		細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/ふい黄 粒	ロクロ整形、回転右回りか。
第455回 PL-427	3	灰輪陶器 底部	床面直上 底部	口 跨	14.4 14.5		細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ。高台は貼 付。胴部下位は回転へら削り。内面砥部はナデ。
第455回 PL-427	4	土師器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部中 位1/4	口 跨	20.0 24.4		細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/濁	ロクロ整形。跨は貼付、胴部は下位へ向けてのへら削り。 内面はへらナデ。

Ⅷ区10号住居

第456回 PL-427	1	須臾器 甌	床面直上と6cm 上が接合 口縁部一部欠	口 底	11.2 6.3	高 1.8	細砂粒/酸化塩/ ふい黄粒	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	内面の一部に 煤が付着。
-----------------	---	----------	----------------------------	--------	-------------	----------	------------------	--------------------------	-----------------

Ⅷ区12号住居

第459回	1	須臾器 鉢	Ⅷ区2面一括 底部～高台部	口 底	8.3 8.6		細砂粒/酸化塩/ ふい黄粒	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第459回	2	須臾器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部上 位片	口 跨	20.6 25.2		細砂粒/酸化塩/ ふい黄粒	ロクロ整形。外面に輪軸が残る。
第459回 PL-427	3	鉄製品 不詳	理上 破片	長 幅	5.0 1.2	厚 重	1.0 5.90	断面丸みを角形の棒状鉄製品破片。両端とも劣化破損する。

Ⅷ区23号住居

第459回	4	土師器 把手付鍋	カマド使用面か ら9cm上 口縁部～胴部上 位片	口 跨	25.8		細砂粒・粗砂粒/ 良好/濁	口縁部下に幅7cmほどの把手が一対貼付。口縁部は横ナ デ、把手はナデ、胴部はへら削り。内面は口縁部がナデ、 胴部はへらナデ。
-------	---	-------------	-----------------------------------	--------	------	--	------------------	--

Ⅷ区14号住居

第460回 PL-427	1	灰輪陶器 椀	床面から20cm上 1/4	口 底	12.5 7.4	台 高	7.0 4.1	微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。 輪軸方法不明。	大原2号窯式 期。
-----------------	---	-----------	------------------	--------	-------------	--------	------------	----------------	---------------------------------------	--------------

Ⅷ区15号住居

第462回 PL-427	1	須臾器 鉢	床面直上 完成	口 底	14.9 6.8	台 高	8.5 6.3	細砂粒/酸化塩/ ふい黄粒	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付。
第462回 PL-427	2	須臾器 鉢	床面直上 口縁部一部欠	口 底	13.6 7.1	台 高	7.5 6.1	細砂粒/酸化塩/ ふい黄粒	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付。
第462回 PL-427	3	須臾器 椀	床面から7cm上 1/2	口 底	15.6 7.0	台 高	8.1 6.3	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/灰濁	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第462回	4	須臾器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部上 位片	口 跨	21.6 25.4			細砂粒/酸化塩/ ふい黄粒	ロクロ整形。跨は貼付。

Ⅷ区16号住居

第463回 PL-427	1	灰輪陶器 椀	理上 体部下位～高台 部1/3	口 底	7.1 6.8			微砂粒/還元塩/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼 付。輪軸方法不明。	光ヶ丘1号窯 式期。
第463回	2	須臾器 羽釜	カマド使用面直 上 口縁部～胴部上 位1/2	口 跨	19.2 24.8			細砂粒/酸化塩/ ふい黄粒	ロクロ整形。跨は貼付。	
第463回 PL-427	3	鉄製品 鉄	床面から8cm上 一部欠損	長 幅	8.2 1.6	厚 重	1.2 14.39		先端三角形の鉄線。某近くで幅広くなり某との境を一周す る段を持つ。某はわずかに曲がり1cm程で劣化破損する。	
第463回 PL-427	4	鉄製品 不詳	床面から8cm上 破片	長 幅	4.2 1.7	厚 重	0.7 2.78		断面はほぼ正方形の角棒状鉄製品破片。Jの字状に曲がり内 端とも劣化破損する。	

Ⅷ区17号住居

第464回	1	土師器 甌	床面から30cm上 口縁部～胴部中 位片	口 底	20.6			細砂粒・粗砂粒/ 良好/ふい黄	口縁部から胴部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部が へらナデ。
-------	---	----------	----------------------------	--------	------	--	--	--------------------	-------------------------------------

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出上位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第4618号 PL-427	2	土師器 羽釜	床面から31cm上 口縁部～胴部上 位1/3	口 径	35.5 38.9	細砂粒/ 良好/周	外面胴部に輪積痕が残る。罫は貼付。口縁部は横ナデ、胴部はへう削り。内面はへうナデ。		
Ⅷ区18号住居									
第465号	1	須臾器 台付費	理上 台面1/4	脚	8.6	細砂粒/良好/にぶ い黄	脚部は貼付。脚部は横ナデ。		
Ⅷ区19号住居									
第466号	1	土師器 杯	カマド使用面か ら10cm上 1/4	口 径	13.0 5.2	高 3.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がへう削り、底部は砂底。	
第466号 PL-427	2	黒色土器 椀	床面直上 体部下位～底部	口 径	6.0 5.5	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄	内面黒色処理。ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	外面体部に墨書。	
Ⅷ区21号住居									
第469号 PL-427	1	土師器 杯	床面直上 ほぼ完形	口 径	12.8 3.0	細砂粒/良好/にぶ い赤	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がへう削り、底部は手持ちへう削り。		
第469号 PL-427	2	土師器 杯	床面直上 口縁部～部欠	口 径	13.0 3.2	細砂粒/良好/にぶ い赤	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がへう削り、底部は手持ちへう削り。		
第469号 PL-427	3	土師器 杯	床面直上 3/4	口 径	12.6 3.1	細砂粒/良好/にぶ い	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへう削り。		
第469号	4	須臾器 杯	床面から10cmと 11cm上の接合 1/3	口 径	11.6 5.8	高 3.5	細砂粒/酸化塩/明 灰黄	内面黒色処理。ロク口整形、回転右回り。底部はナデ。	
第469号 PL-427	5	須臾器 杯	床面直上 口縁部～部欠	口 径	13.3 7.1	高 3.9	細砂粒/還元塩/灰 白	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。体部下位に回転へう削り。	
第469号	6	土師器 費	床面から8cm上 口縁部～胴部上 位片	口 径	19.8	細砂粒/良好/灰黄 周	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう削り。内面は胴部がへうナデ。		
第469号	7	石製品 砥石	床面直上 1/2	長 幅	(6.6) 4.9	厚 重	2.9 116.9	砥沢石 砥面は4面認められる。正面及び裏面は下部にむかい研ぎ減りする。右側面には断面V字状の線維痕が集中する。下部欠損。	
Ⅷ区24号住居									
第471号	1	黒色土器 椀	カマド側方理上 口縁部下位～底 部1/4	口 径	7.2	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄	内面黒色処理。ロク口整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。内面はへう磨き。		
第471号 PL-428	2	須臾器 杯	床面直上 3/4	口 径	9.3 4.9	高 2.5	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第471号 PL-428	3	須臾器 椀	床面直上 口縁部～底部	口 径	13.8 6.6	台 8.0 8.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/灰白	ロク口整形、回転右回り。底部は回転へうナデ、高台は貼付。	内面に副粒付着。増埴に使用か。
第471号 PL-428	4	須臾器 椀	カマド使用面か ら7cm上 1/3	口 径	14.2 6.6	台 7.3 5.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄	ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第471号 PL-428	5	須臾器 椀	側方から2cm上 1/3	口 径	15.3 6.8	台 7.3 5.3	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄	ロク口整形、回転右回り。底部は回転へうナデ、高台は貼付。	内面に副粒付着。
第472号	6	須臾器 椀	床面直上 1/3	口 径	10.5 5.6	台 5.7 4.9	細砂粒/酸化塩/椀	ロク口整形、回転右回り。底部は回転へうナデ、高台は貼付。	
第472号 PL-428	7	須臾器 椀	側方から7cm上 口縁部欠・口縁 部下位～底部 1/2	口 径	7.8 8.3	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄	ロク口整形、回転右回り。底部は回転へうナデ、高台は貼付。		
第472号	8	土師器 羽釜	カマド使用面直上 口縁部～胴部上 位片	口 径	25.8 29.6	細砂粒/酸化塩/周 灰	ロク口整形。罫は貼付。内面はへうナデ。		
第472号 PL-428	9	須臾器 羽釜	床面直上とカマ ド使用面直上が 接合 口縁部～胴部下 位3/4	口 径	23.4 28.2	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄	ロク口整形。外面胴部に輪積痕が残る。罫は貼付。胴部はへう削り。	外面口縁部に刻書。	
第472号 PL-428	10	鉄製品 刀子	床面直上 破片	長 幅	2.1 0.9	厚 重	0.6 1.40	刀子の部分の破片。同一個体と見られるが直接接合はしない。	10は同一個体
第472号 PL-428	10	鉄製品 刀子	床面直上 破片	長 幅	4.2 1.4	厚 重	0.9 5.54	刀子破片、極端に平直な面を持ち対照はなだらかに茎に移行する。刃先端部および茎尻を劣化破損する。同一個体と見られるが直接接合はしない。	10は同一個体
第472号 PL-428	10	鉄製品 刀子	床面直上 破片	長 幅	3.6 0.8	厚 重	0.5 1.54	刀子茎の破片。同一個体と見られるが直接接合はしない。木質等の痕跡は見られない。	10は同一個体
Ⅷ区19号住居									
第477号	1	須臾器 杯	床面から20cm上 1/3	口 径	14.8 6.6	高 3.6	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第477号	2	須臾器 杯	床面から7cm上 口縁部～体部 1/3	口 径	9.0	細砂粒・粗砂粒・ 粗粒/酸化塩/にぶ い黄	ロク口整形、回転方向不明。		



検出 PL.No.	No.	種 類 器 種	出上位置 残 存 率	計測値			胎上/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第477図 PL.428	3	須恵器 杯	理上 口縁部～体部下 位1/3	口	14.2		細砂粒/酸化塩/濁 灰	ロクロ整形、回転右回り。	
第477図 PL.428	4	須恵器 鉢	床面から8cm上 底部1/4	底	10.5		細砂粒/酸化塩/に ぶい橙	ロクロ整形、回転方向不明。高台は剥落か。	
第477図 PL.428	5	須恵器 椀	縦方から5cm～ 8cm上の遺物群 が接合	口 底	13.0 6.5	台 高	8.0 7.1	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄 橙	内面黒色処理か。ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘ ラナデ。高台は貼付。
第477図 PL.428	6	土師器 費	カマド使用面直 上 口縁部～胴部 中位片	口	25.8			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ、胴部には大量の指痕が残る。内面胴部 はヘラナデ。
第477図 PL.428	7	土師器 費	カマド使用面直 上 口縁部～胴部 中位片	口	29.6			細砂粒・粗砂粒/ 良好/灰褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラナデ。内面は胴部が ヘラナデ。
第477図 PL.428	8	須恵器 費	カマド縦方から 6cm上 口縁部片	口	44.3			細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/黄灰	ロクロ整形。口縁部上位にナデがみられる。
第477図 PL.428	9	土製品 土罐	床面から14cm上 完形	長 幅	3.6 0.8	孔 重	0.3 3.0	微砂粒/良好/黒褐	外面はナデ。
第477図 PL.428	10	鉄製品 不詳	理上 一部欠損	長 幅	3.3 3.0	厚 重	3.3 11.19		やや三角形の輪状の鉄製品の一面面に断面長方形の角棒状 の鉄製品が接合する。端部は破損の可能性もあるが全体に 厚く鉛に覆われ詳細は不明。

Ⅹ区2号住居

第477図 PL.428	11	灰釉陶器 鉢	理上 底部1/4	底 台	7.6 7.6			微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。内面底部に重ね焼き痕が残る。 底部は回転ナデ、高台は貼付。施釉方法は不明。	大原2号窯式 期。
第477図 PL.428	12	土師器 費	縦方理上 口縁部～胴部 上位片	口	20.6			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。内面は胴部に木口が残 るヘラナデ。	

Ⅹ区3号住居

第478図 PL.428	1	灰釉陶器 鉢	理上 底部小片	底 台	7.7 7.8			微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形。底部はヘラナデ、高台は貼付。施釉方法不明。	大原2号窯式 期。
-----------------	---	-----------	------------	--------	------------	--	--	----------------	-----------------------------	--------------

Ⅹ区4号住居

第482図 PL.428	1	須恵器 杯	理上 1/2	口 底	14.2 6.6	高	3.6	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第482図 PL.428	2	須恵器 杯	理上 口縁部～底部 片	口 底	8.4 6.0	高	2.4	細砂粒/酸化塩/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第482図 PL.428	3	土師器 費	床面から6cm上 口縁部～胴部 片	口	24.7			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ後部分的にナデ。内面は 胴部がヘラナデ。	
第482図 PL.428	4	土師器 費	床面直上 胴部下位～底部 片	底	15.2			細砂粒・粗砂粒/ 良好/暗褐	底部と胴部はヘラナデ。内面はヘラナデ。	
第482図 PL.428	5	鉄製品 不詳	床面直上 ほぼ完形	長 幅	12.0 5.1	厚 重	2.1 70.56		断面丸みのある正方形。？状に曲がり先端は細く尖り気味。 釘の一形態とも見られるが全体に厚く鉛に覆われ詳細は不 明。	

Ⅹ区5号住居

第482図 PL.428	6	須恵器 椀	カマド理上 口縁部～体部下 位片	口	12.4			細砂粒/酸化塩/黄 橙	ロクロ整形。	
第482図 PL.428	7	土師器 羽釜	カマド使用面直 上と6cm上が接 合 口縁部～胴部 1/2	口 跨	23.0 26.5			細砂粒・粗砂粒/ 良好/濁	跨は貼付。口縁部は横ナデ、胴部は縦方向のナデ、下半に 横方向のヘラナデ。内面はヘラナデ。	
第482図 PL.428	8	土師器 羽釜	カマド使用面直 上と12cm上が接 合 口縁部～胴部 1/2	口 跨	22.8 28.0			細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	跨は貼付。口縁部は横ナデ、胴部は縦方向のナデ、中位か ら下位にヘラナデ。内面はヘラナデ。	

Ⅹ区6号住居

第485図 PL.429	1	須恵器 杯	カマド使用面直 上 完形	口 底	8.2 5.2	高	2.3	細砂粒/酸化塩/に ぶい橙	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。	内外面の一部 に煤が付着。
第485図 PL.429	2	須恵器 杯	床面から12cm上 口縁部～底部 3/4	口 底	8.9 6.1	高	2.6	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第485図 PL.429	3	須恵器 杯	床面直上 口縁部～底部 3/4	口 底	8.4 5.8	高	2.4	細砂粒/酸化塩/に ぶい橙	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。	
第485図 PL.429	4	須恵器 杯	縦方理上 口縁部～底部 片1/4	口 底	9.0 5.8	高	1.6	細砂粒/酸化塩/浅 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	

棟図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出上位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第485図 PL-429	5	須恵器 鉢	カマド使用面直上 口縁部～底部 1/3	口 径	15.5 6.0	高 4.7	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第485図	6	須恵器 鉢	埋上 口縁部～体部下 位片	口 径	10.8		細砂粒/酸化塩/灰 黄	ロクロ整形。	
第485図	7	灰釉陶器 鉢	埋上 口縁部～体部下 位片	口 径	15.2		微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形。施釉方法不明。	光ヶ丘1号窯 式附～大塚2 号窯式附。
第485図	8	灰釉陶器 壺	床面直上 胴部直上				微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形。回転右回りか。胴部下位は回転へら削り施釉 方法は刷毛塗りか。	
第485図 PL-429	9	石製品 砥石	床面直上 1/2	長 幅	(6.6) 4.9	厚 重	2.9 116.9	砥沢石	砥面は4面認められる。正面及び裏面は下部にむかい研ぎ 減りする。右側面には断面V字状の線条痕が集中する。下 部欠損。

## IX区7号住居

第485図 PL-429	10	須恵器 鉢	埋上 高台部片	底 径	8.5 9.6			細砂粒/酸化塩/に ぶい橙	ロクロ整形。底部は回転ナデ。高台は貼付。	
	11	鉄製品 刀子	破片	長 幅	5.5 2.0	厚 重	0.9 7.56		棟・対脚ともに明確な刃を持つ刀子破片。両端とも破損固 化する。	

## IX区9号住居

第489図 PL-429	1	黒色土器 鉢	カマド使用面直上 口縁部～底部 1/2	口 径	10.0 4.5	台 高	5.1 5.1	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形。回転右回り。内面黒色処理。底部は回転ナデ、 高台は貼付。内面はへら磨き。	
第489図 PL-429	2	須恵器 皿	カマド使用面直上 口縁部～底部 3/4	口 径	10.8 4.9	台 高	6.8 3.6	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄橙	ロクロ整形。底部は回転ナデ。高台は貼付。	
第489図 PL-429	3	須恵器 杯	カマド使用面直上 完形	口 径	9.7 5.6	高 2.6		細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第489図 PL-429	4	須恵器 杯	床面直上とカマ ド使用面直上が 接合 口縁部～底部 3/4	口 径	9.5 4.5	高 3.0		細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/橙	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り後一部へら削 りか。	
第489図 PL-429	5	須恵器 杯	カマド使用面直上 口縁部～底部 1/2	口 径	9.8 6.1	高 2.6		細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄橙	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第490図 PL-429	6	須恵器 鉢	埋上 口縁部～底部 1/2	口 径	9.4 6.0	高 2.5		細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第490図	7	須恵器 鉢	カマド使用面直上 口縁部～底部片	口 径	8.8 5.2	高 2.1		細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄橙	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第490図	8	須恵器 杯	埋上 口縁部～底部片	口 径	9.2 6.8	高 2.0		細砂粒/酸化塩/灰 黄	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第490図 PL-429	9	灰釉陶器 鉢	埋上 底部～高台部	口 径	7.2 7.0			細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形。回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。 施釉方法は刷毛塗り。	虎沢山1号窯 式附。
第490図	10	土師器 費	カマド使用面直上 と7cmと13cm 上が接合 口縁部～胴部上 位	口 径	26.2			細砂粒・粗砂粒/ 良好/灰黄緑	外面胴部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ。胴部 はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	
第490図	11	土師器 費	カマド使用面から 17cm上 口縁部～胴部上 位	口 径	21.5			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ。胴部はへら削り。内面は胴部が へらナデ。	
第490図 PL-429	12	鉄製品 不詳	埋上 破片	長 幅	5.5 2.8	厚 重	2.4 40.70		断面長四角形鉄製品破片。一方端部は氧化破損する。全体 に厚く錆に覆われ木質等は確認できない。	
第490図 PL-429	13	鉄製品 不詳	埋上 破片	長 幅	4.8 1.1	厚 重	1.1 6.13		丸い断面を持つ棒状鉄製品破片。両端とも氧化破損する。	

## IX区10号住居

第491図 PL-429	1	須恵器 杯	胴部直上 ほぼ完形	口 径	8.7 5.0	高 2.5		細砂粒/酸化塩/に ぶい橙	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第491図 PL-429	2	須恵器 杯	床面直上 口縁部～底部 3/4	口 径	10.5 6.3	高 2.5		細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第491図	3	須恵器 杯	床面から7cm上 口縁部～底部	口 径	9.5 6.2	高 2.3		細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第491図	4	須恵器 杯	床面直上 口縁部～底部 1/3	口 径	12.4 5.8	高 3.7		細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	

棟号 PL.No.	No.	種類 種	出上位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考		
第491区	5	須忠器 杯	床面直上 口縁部～底部	口 底	9.6 5.8	高 2.1	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第491区	6	須忠器 杯	床面直上 口縁部～底部	口 底	9.8 6.4	高 2.7	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第491区	7	須忠器 椀	床面直上 底部	口 底	6.8 8.1		細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロク口整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。	
第491区	8	灰釉陶器 皿	製方から11cm上 体部下位～高台 部片	口 底	5.8 6.4		微砂粒/還元塩/灰 白	ロク口整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。 施軸方法不明。	大原2号窯式 期。
第491区	9	灰釉陶器 椀	埋上 口縁部片	口	15.0		微砂粒/還元塩/灰 白	ロク口整形。施軸方法不明。	大原2号窯式 期。
第491区	10	灰釉陶器 椀	埋上 口縁部～体部下 位片	口	14.4		微砂粒/還元塩/灰 白	ロク口整形、内面口唇部下に凹線が内巻する。施軸方法不明。	虎渓山1号窯 式期。
第491区 PL.429	11	黒色土器 広口壺	床面直上と9号 住居カマ下使用 面直上が接合 口縁部～頸部	口	16.0		細砂粒/酸化塩/浅 黄橙	ロク口整形、吸込は二次焼成を受けたため消失。外面 底部はへら磨き。内面は口縁部がへら磨き、頸部はへらナ デ。	
第491区	12	鉄製品 不詳	床面から13cm上 ほぼ完形	長 幅	4.3 1.4	厚 重	1.3 13.97	断面はほぼ正方形の鉄製品。両端ともやや丸みを持つ角形。	

IX区11号住居

第492区 PL.429	1	須忠器 杯	製方から21cm上 口縁部～底部 3/4	口 底	8.5 5.0	高	1.9	細砂粒/酸化塩/浅 黄橙	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第492区 PL.429	2	須忠器 杯	製方から7cmと 23cm上が接合 3/4	口 底	8.9 6.7	高	2.2	細砂粒・粗砂粒・ 褐粉/酸化塩/橙	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第492区	3	須忠器 杯	床面直上 口縁部～底部片	口 底	9.6 7.0	高	2.6	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄 橙	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第492区	4	須忠器 皿	製方から14cm上 口縁部～高台部 片	口 底	11.0 4.7			細砂粒/酸化塩/に ぶい橙	ロク口整形。底部はナデ、高台は貼付。	
第492区 PL.429	5	須忠器 椀	床面直上 高台部一部欠	口 底	12.1 6.7	高	7.9 6.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/浅黄橙	ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第492区	6	須忠器 椀	床面直上 口縁部～底部 1/3	口 底	14.3 7.5			細砂粒/酸化塩・ 塊/黒褐色	ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第492区	7	須忠器 椀	床面直上 口縁部上位～高 台部3/4	口 底	7.4 7.9			細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/浅黄橙	ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第492区	8	須忠器 椀	埋上 口縁部下部～高 台部1/3	口 底	6.0 6.0			細砂粒/酸化塩/灰 黄濁	ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第492区	9	須忠器 椀	埋上 口縁部下部～高 台部1/4	口 底	7.0 7.0			細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰白	ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第492区	10	灰釉陶器 椀	製方から28cm上 口縁中位～高台 部片	口 底	7.5 7.0			微砂粒/還元塩/灰 白	ロク口整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼 付。施軸方法不明。	虎渓山1号窯 式期。
第492区 PL.429	11	灰釉陶器 長頸壺	床面から8cm上 口縁部上位～胴 部上位1/2	口 底	6.4			微砂粒/還元塩/灰 白	ロク口整形、回転右回り。頸部は胴部に接合。施軸方法不明。	虎渓山1号窯 式期。
第492区	12	土師器 甕	製方直上と23cm 上が接合 口縁部～胴部上 位	口	21.4			粗砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	外面胴部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部 はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	
第492区 PL.430	13	須忠器 甕	床面直上と9cm 上が接合 2/3	口 底	22.6 16.6	高 脚	40.3 33.3	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/浅黄橙	ロク口整形、回転右回り。底部と胴部下平はへら削り。	
第492区 PL.429	14	鉄製品 釘	床面直上 破片	長 幅	2.6 0.6	厚 重	0.6 0.99		断面はほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品。一端に向かい 側となるが両端とも劣化破損する。一部表面にわずかな木質 痕が見られる。	14は同一個体
第492区 PL.429	14	鉄製品 釘	床面直上 破片	長 幅	2.2 0.3	厚 重	0.2 0.20		断面はほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品破片。先端に向か い側となるが両端とも劣化破損する。側面は劣化破損する。	14は同一個体
第492区 PL.429	15	鉄製品 釘	床面直上 破片	長 幅	3.1 1.1	厚 重	1.0 3.90		断面はほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品。頭部分は角形で 先端側は劣化破損する。	
第492区 PL.429	16	鉄製品 釘	床面直上 ほぼ完形	長 幅	7.6 3.7	厚 重	1.8 19.68		断面はほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品。頭はやや幅広に 延ばし短く折り曲げる。頭から6cm程で先端部2.5cmを直角 に曲げる。	
第492区 PL.429	17	鉄製品 釘	床面直上 破片	長 幅	7.5 3.0	厚 重	1.4 12.74		断面はほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品。頭側は劣化破損 し先端から2.5cm程で直角に曲がる。	
第493区 PL.430	18	鉄製品 釘	床面直上 ほぼ完形	長 幅	8.1 3.4	厚 重	1.3 15.85		断面はほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品。頭部分は中央か ら2つに別り両側に広げられた形状を持つ。先端に向かい側々 に側となるが尖らない。	

種別 PL-No.	No.	種類	出上位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第493図 PL-430	19	鉄製品 釘	床面直上 ほぼ完形	長 7.9 幅 4.0	厚 1.5 重 18.00	断面はほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品。頭はやや幅広く延ばし短く直角に曲げる。頭から7cm程で直角に曲げ、その先3cm程で先端部分を内側に折り曲げる。	
第493図 PL-430	20	鉄製品 鉄	床面直上 破片	長 7.0 幅 1.1	厚 0.9 重 7.20	先端部分が破損錆化する鉄線。某近くでわずかに幅を広げ某との境を一閃する段を持つ。某は断面はほぼ正方形で先端近くでわずかに曲がる。	
第493図 PL-430	21	鉄製品 鉄	掘方から25cm上 一部欠損	長 10.9 幅 2.2	厚 1.0 重 16.20	先端はやや丸みを持つ柳葉形をした鉄線。断面は薄い紡錘形。某の境で広がり、境を一閃する段を持つ。某は2mm程で面がり端部は劣化破損する。	21は同一個体
第493図 PL-430	21	鉄製品 鉄	掘方から25cm上 一部欠損	長 3.3 幅 1.0	厚 0.3 重 1.05	鉄線の某破片。断面は長方形で内端とも劣化破損するが破片と考えられる。	21は同一個体
第493図 PL-430	22	石製品 砥石	床面直上 不明	長 (7.4) 幅 (6.9)	厚 5.1 重 298.3	砥沢石	砥面は3面認められる。各砥面はいずれもほぼ平坦である。

Ⅸ区12号住居

第494図 PL-430	1	灰輪陶器 皿	埋上 底部～高台部片	底台 9.4 9.0		微砂粒/還元焰/灰白	口クロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。施釉方法不明。	大原2号窯式期。
第494図 PL-430	2	須恵器 甕	カムド使用面から14cmと17cm上 が接合 口縁部～胴部中位	口 14.1 胴 20.0		細砂粒/還元焰/灰白	口クロ整形。	

Ⅸ区14号住居

第497図 PL-430	1	黒色土器 椀	床面直上 1/3	口 15.0 底 7.7	台高 7.6 5.9	細砂粒/還元焰/橙	内面黒色処理が二次被熱により飛炭が消失。口クロ整形、回転右回りか。底部切り離し不明。高台は貼付。内面はヘラ磨き。器面磨減のため単位不明。	
第497図	2	須恵器 椀	床面直上 口縁部～体部下位片	口 16.5		細砂粒/還元焰/橙	口クロ整形。	
第497図	3	土師器 費	カムド使用面直上 口縁部～胴部上 位片	口 24.3		細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部はナデ、胴部はヘラナデ、一部に指頭痕が残る。内面胴部はヘラナデ。	

Ⅸ区15号住居

第499図 PL-430	1	須恵器 杯	床面直上 ほぼ完形	口 10.9 底 6.0	高 3.1	細砂粒/還元焰/灰白	口クロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。	
第499図	2	須恵器 杯	カムド使用面から7cm上 1/4	底 6.4		細砂粒/還元焰/黄灰	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第499図	3	須恵器 杯	床面から5cm上 底部	底台 7.7 7.4		細砂粒/還元焰/灰白	口クロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第499図	4	土師器 台付費	埋上 胴部下位片	底 7.0		細砂粒/良好/黄灰	脚部は貼付が剥落。胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第499図	5	土師器 費	カムド使用面直上 口縁部～胴部中 位1/4	口 13.0		細砂粒/良好/灰褐	外面胴部に輪積痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部はヘラ磨き。内面胴部はヘラナデ。	
第499図 PL-430	6	土師器 費	カムド使用面から11cm上 口縁部～胴部 下位片	口 19.0 胴 20.8		細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部から胴部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ、一部に木口が残る。	
第499図	7	土師器 費	カムド使用面直上 とから14cm上 が接合 口縁部～胴部中 位片	口 18.6		細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部から胴部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第499図	8	土師器 費	カムド使用面直上 口縁部～胴部下 位片	口 15.0 胴 16.3		細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部から胴部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第499図	9	須恵器 羽釜	カムド使用面直上 と6cm上 が接合 口縁部～胴部中 位片	口 22.6 跨 27.0		細砂粒/還元焰/ ふい/黄橙	口クロ整形。跨は貼付。	
第499図	10	須恵器 羽釜	カムド使用面から21cm上 口縁部～胴部中 位片	口 21.7 跨 26.6		細砂粒/還元焰/ ふい/橙	口クロ整形。跨は貼付。	

Ⅸ区17号住居

第501図	1	土師器 鉢	床面直上と11cm 上 が接合 口縁部～胴部上 位片	口 22.0		細砂粒/良好/黒褐	口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面はナデ。	
第501図	2	須恵器 椀	カムド使用面から6cm上 口縁部片	口 12.8		細砂粒/還元焰/灰黄褐	口クロ整形。	

種別 PL.No.	No.	種類	出上位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第501図	3	灰釉陶器 皿	カマド使用面直上 体部～底部片	底 台	9.1 8.6		微砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。 施釉方法は漬け掛けか。	大原2号窯式 期。
IX区18号住居									
第504図 PL.430	1	須恵器 杯	掘方から6cm上 口縁部一部欠	口 底	8.6 5.1	高 2.1	細砂粒・粗粒/酸 化焼/浅黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第504図	2	須恵器 杯	埋上 1/4	口 底	9.0 5.0	高 2.0	細砂粒・粗砂粒・ 濁粒/酸化焼/にぶ い黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第504図	3	須恵器 杯	埋上 口縁部～底部片	口 底	7.9 5.0	高 1.9	細砂粒/酸化焼/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第504図	4	灰釉陶器 輪花椀	埋上 口縁部片	口 底	8.8		微砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形。かすかに口縁部を内側に押して輪花にした痕跡が残る。施釉方法は漬け掛けか。	虎渓山1号窯 式期。
第504図 PL.430	5	鉄製品 不詳	埋上 ほぼ完形	長 幅	4.3 1.6	厚 重 4.37		三角形をした薄い板状の鉄製品。全体にわずかに捻じれる ように曲がる。	
第504図 PL.430	6	鉄製品 不詳	埋上 一部欠損	長 幅	4.1 1.7	厚 重 6.54		舌状をした薄い鉄製品。全体に弧状に曲がり一方の端部で は強く曲がり破損する。厚い筋に覆われ対角等確認できな い。	
IX区22号住居									
第504図 PL.430	7	須恵器 杯	掘方から10cm上 口縁部～底部	口 底	11.0 5.1	高 3.4	細砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第504図	8	須恵器 杯	埋上 体部～底部片	口 底	5.8		細砂粒/酸化焼/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第504図	9	須恵器 杯	掘方から12cm上 底部	口 底	4.4		細砂粒/酸化焼/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第504図	10	須恵器 椀	掘方埋上 1/3	口 底	11.6 5.2	高 3.8	細砂粒/酸化焼/暗 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第504図 PL.430	11	須恵器 椀	埋上 口縁部～底部 1/4	口 底	13.2 6.0	台 高 5.4	細砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第504図 PL.430	12	須恵器 椀	掘方から30cm上 底部下位～高台 部	底 台	7.4 7.4		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焼/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	外面体部に墨 書。
第504図	13	須恵器 椀	埋上 口縁部中位～底 部片	口 底	5.6		細砂粒/酸化焼/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第504図	14	須恵器 甕	埋上 胴部片				細砂粒/還元焼/灰 白	外面は平行引き筋が残り、上部に3本の凹線が通る。内面 は同心状アテ貝痕が残る。	
IX区26号住居									
第506図 PL.431	1	黒色土器 椀	床面直上 1/2	口 底	10.8 5.6	台 高 4.4	細砂粒/酸化焼/浅 黄	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、 高台は貼付。内面はヘラ磨き。	
第506図 PL.431	2	須恵器 杯	床面直上 完形	口 底	9.0 5.6	高 2.7	細砂粒・粗砂粒・ 濁粒/酸化焼/にぶ い黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第506図 PL.431	3	須恵器 杯	床面から10cm上 3/4	口 底	8.9 6.6	高 2.7	細砂粒/酸化焼/明 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第506図 PL.431	4	須恵器 杯	カマド使用面直 上 3/4	口 底	9.0 5.8	高 2.2	細砂粒・粗砂粒・ 濁粒/酸化焼/にぶ い黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第506図 PL.431	5	須恵器 杯	床面から8cm上 3/4	口 底	8.5 5.9	高 2.4	細砂粒/酸化焼/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第506図 PL.431	6	須恵器 杯	カマド使用面か ら6cm上 3/4	口 底	8.8 5.2	高 2.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焼/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第506図 PL.431	7	須恵器 杯	床面から6cm上 1/2	口 底	8.6 5.4	高 2.5	細砂粒・濁粒/酸 化焼/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第506図	8	灰釉陶器 椀	掘方から13cm上 口縁部～体部下 位片	口 底	14.8		微砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。施釉方法不明。	大原2号窯式 期。
第506図	9	土師器 甕	カマド使用面直 上 胴部～底部片	底	8.6		細砂粒・粗砂粒/ 良好/灰濁	底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第506図 PL.431	10	土師器 羽釜	掘方から6cmと 15cmと17cm上が 接合 口縁部～胴部 1/3	口 罫	23.6 27.7		細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい橙	罫は貼付。口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面はヘラ ナデ、器面磨滅のため単位不明。	
第506図	11	土師器 羽釜	掘方直上 口縁部片	口 罫	18.2 23.6		細砂粒/良好/明赤 濁	外面口縁部に輪横筋が残る。罫は貼付。外面の整形は器面 磨滅のため不明。内面はヘラナデか。	
X区1号住居									
第509図 PL.431	1	黒色土器 椀	床面から8cm上 1/3	口 底	13.8 8.0	台 高 5.8	細砂粒/酸化焼/に ぶい黄濁	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切 り後罫のみ回転ナデ、高台は貼付。内面はヘラ磨き、器 面磨滅のため単位不明。	

種別 PL-No.	No.	種類	出上位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第509図 PL-431	2	須忠器 杯	床面から9cm上 完形	口 9.5 高 2.3 底 4.7	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄褐色	口ロコ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第509図 PL-431	3	須忠器 杯	床面から11cm上 口縁部一部欠	口 9.0 高 2.6 底 5.4	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄褐色	口ロコ整形。回転左回り。底部は回転糸切り無調整。	
第509図 PL-431	4	須忠器 杯	床面直上 3/4	口 9.4 高 3.3 底 4.7	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄褐色	口ロコ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第509図 PL-431	5	須忠器 杯	床面直上 2/3	口 10.9 高 2.9 底 5.5	細砂粒/酸化塩/灰 黄褐色	口ロコ整形。回転左回り。底部は回転糸切り無調整。内面 底部は使用時の磨滅がみられる。	
第509図	6	灰輪陶器 皿	理上 口縁部下位～高 台部片	底 8.3 台 8.0	微砂粒/還元塩/灰 黄	口ロコ整形。底部は回転ヘラナデ。高台は貼付。施輪方法 不明。	大原2号窯式 期。
第511図	7	灰輪陶器 皿	床面直上 口縁部下位～高 台部片	底 7.0 台 6.9	微砂粒/還元塩/灰 白	口ロコ整形。底部は回転ヘラナデ。高台は貼付。施輪方法 不明。	大原2号窯式 期。
第511図	8	灰輪陶器 椀	床面から20cm上 口縁部片	口 16.0	微砂粒/還元塩/灰 白	口ロコ整形。回転右回りか。施輪方法は誤り掛け。	虎沢山1号窯 式期。
第511図	9	灰輪陶器 椀	理上 口縁部下位～高 台部片	底 8.0 台 7.6	微砂粒/還元塩/灰 白	口ロコ整形。高台は貼付。施輪方法不明。	虎沢山1号窯 式期。
第511図	10	須忠器 壺	床面直上 胴部下位～底部	底 6.6	細砂粒/還元塩/灰 白	口ロコ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第511図	11	土師器 小型甕	瓶方から1cm上 口縁部～胴部中 位1/4	口 12.2	細砂粒/良好/にぶ い褐色	口縁部から頸部は椀ナデ。胴部はへら削り。内面は胴部が へらナデ。	
第511図 PL-431	12	土師器 甕	カマド2使用面 直上と23cm上が 接合 1/4	口 28.0 高 22.6 底 17.6 脚 31.5	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤褐色	罅は貼付。口縁部上位はナデ。中位・下位はナデ。胴部は ナデ後へら削り。内面はへらナデ。	
第511図 PL-431	13	須忠器 羽釜	カマド1使用面 から14cmと17cm 上が接合 口縁部～胴部中 位1/3	口 19.6 脚 25.0	細砂粒/酸化塩/灰 黄	口ロコ整形。罅は貼付。胴部にへらナデ。	
第511図 PL-431	14	鉄製品	瓶方から24cm上 破片	長 6.7 厚 1.1 幅 1.6 重 12.23		鉄鍔破片。先端は斜め三角形だが全体に厚く錆に覆われて いるため詳細は不明。茎との境を一周する形ので段を持つ。 茎は劣化破損する。	
第511図 PL-431	15	鉄製品 鉄鎧車	カマド理上 破片	長 3.9 厚 0.6 幅 2.5 重 4.54		紡輪の破片。波打つように曲がり破損錆化する。紡輪の一方 は劣化破損した痕跡をとどめる。	
第511図 PL-431	16	鉄製品 のこぎり	床面直上 破片	長 10.1 厚 0.6 幅 2.1 重 14.80		先端部を劣化破損するのこぎり破片。刃の平面形状から横 引きのこぎりの可能性が有るが、各刃の先端は破損しあざ りの形状も確認できない。茎は底部2cm付近でくの字に曲 がり木質等の痕跡は見られない。	
第511図 PL-431	17	鉄製品 不詳	床面から11cm上 ほぼ完形	長 4.9 厚 3.2 幅 3.5 重 32.60		長方形の鉄板二枚を貫通する形で棒状の鉄製品が接続す る。一枚の鉄板は湾曲し3cm程の差離れを持つが内部の表面 には木質等の痕跡は見られない。	
第511図 PL-431	18	鉄製品 不詳	床面から7cm上 破片	長 8.6 厚 1.2 幅 3.1 重 30.26		2×5cm程の鉄板側面に長さ8cm直径5mmほどの丸棒状鉄製品 が接続する。螺蓋の様な形状を持つが穴等は見られない。	
第511図 PL-431	19	鉄製品 不詳	理上 破片	長 8.3 厚 0.8 幅 1.0 重 6.66		断面丸みのある四角の鉄製品。本体は劣化空調化するが、 周囲を二枚の削り削る木質面が覆う。茎および柄の錆化し たものと考えられるが詳細不明。	
第511図 PL-431	20	鉄製品 不詳	床面直上 破片	長 3.5 厚 0.9 幅 0.8 重 8.10		断面長方形の狭い棒状の鉄製品でつの子状に曲がり端部は 破損の可能性が有る。	
X区2号住居							
第513図	1	土師器 甕	床面から25cm上 口縁部～胴部上 位片	口 25.4	細砂粒/良好/褐色	口縁部は縦位のへらナデ。胴部もへらナデ後一部にへら磨 き。内面は口縁部が横ナデ。胴部はへらナデ。	
第513図 PL-432	2	鉄製品 釜	瓶方直上 破片	長 5.6 厚 0.6 幅 1.8 重 7.53		楕円の鉄製品。ほぼ底の端部は投じれるように折れ曲がり、 茎の破損したものと考えられる。	
第513図 PL-432	3	鉄製品 釘	床面直上 ほぼ完形	長 3.9 厚 1.1 幅 2.2 重 5.73		断面丸みのある正方形の角釘と見られる鉄製品。頭はわず かに張り出すように折れ曲がり、先端はやや細くなるが尖ら ない。	
第513図 PL-432	4	鉄製品 不詳	床面から19cm上 破片	長 6.3 厚 0.9 幅 0.9 重 5.77		断面円形の丸棒状鉄製品で両端とも劣化破損する。	
X区3号住居							
第516図	1	須忠器 (高足)	床面から16cm上 脚部	口 14.8	細砂粒・粗砂粒・ 長石/酸化塩/橙	口ロコ整形。回転右回り。台部は貼付。	
第516図	2	灰輪陶器 椀	カマド使用面か ら23cm上 底部～体部片	底 8.3 台 8.0	微砂粒/還元塩/灰 白	口ロコ整形。回転右回りか。高台は貼付。施輪方法不明。	大原2号窯式 期。
第516図 PL-432	3	鉄製品 刀子	瓶方から3cm上 一部欠損	長 16.6 厚 1.2 幅 2.0 重 37.41		棒・刀剣ともに明瞭な痕を持つ刀子。茎尻は劣化破損する。	
第516図 PL-432	4	鉄製品 不詳	理上 破片	長 9.4 厚 1.6 幅 1.6 重 8.90		断面ほぼ正方形の棒状鉄製品。先端は細くなり尖る。他の 端部は劣化破損する。	
第516図 PL-432	5	鉄製品 不詳	床面から14cm上 破片	長 11.5 厚 1.1 幅 1.4 重 14.8		断面丸から四角の棒状の鉄製品。一端に向かい細くなりや や尖る。他の端部は劣化破損する。	

種別 PL-No.	No.	種類 器種	出上位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第516図 PL-432	6	鉄製品 不詳	床面から18cm上 ほぼ完成	長 幅 18.8 1.3 厚 重 1.3 28.84		断面やや丸みのある正方形、両端に向かい細くなるが丸みを持って終わる。	
X区11号住居							
第518図 PL-432	1	灰釉陶器 椀	貯蔵穴底面直上と 9cm上が接合 口縁部～胴部中 位1/3	口 幅 15.8		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。施釉方法は漬け掛けか。大原2号窯式 期。
X区12号住居							
第518図 PL-432	2	土師器 杯(高足)	床面から19cm上 台部1/2	台 幅 12.9		細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形。
第518図 PL-432	3	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部～唇部片 間	口 幅 22.8 26.4		細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形。唇は貼付。
X区4号住居							
第519図 PL-432	1	土師器 甕	床面直上～ 11cm上の遺物層 が接合 口縁部～胴部下 位1/3	口 幅 31.6		細砂粒・粗砂粒/ 片岩/良好/黒褐	口縁部から頸部は横ナデ。胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。
第519図 PL-432	2	鉄製品 不詳	床面から4cm上 ほぼ完成	長 幅 5.1 1.5 厚 重 9.63			断面長方形の鉄製品で平面形は？形だが全体に厚く錆に覆 われオリジナル形状が破損によるかは不明。
X区5号住居							
第522図 PL-432	1	鉄製品 不詳	理上 ほぼ完成	長 幅 11.9 1.1 厚 重 13.31			断面長方形の角棒状の鉄製品。一端は角形で反対側に向かい 徐々に細くなり尖る。
X区6号住居							
第524図 PL-432	1	土師器 杯	床面直上と製方 理上が接合 完成	口 幅 12.8 8.0 高 3.6		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第524図 PL-432	2	土師器 杯	床面直上 1/2	口 幅 12.2 9.0 高 2.9		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第524図 PL-432	3	須恵器 蓋	床面直上 口縁部一部欠 け	口 幅 17.3 8.4 高 2.5		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい濁	ロクロ整形、回転右回り。天井部に回転糸切り痕が残る。
第524図 PL-432	4	須恵器 杯	床面直上 3/4	口 幅 12.7 6.5 高 3.5		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
X区7号住居							
第525図 PL-433	1	土師器 杯	床面から23cm上 口縁部～底部片 間	口 幅 13.0 3.5		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底部 は手持ちヘラ削り。
第525図 PL-433	2	土師器 杯	製方から7cm上 口縁部～体部中 位1/3	口 幅 14.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底部 は手持ちヘラ削り。
第525図 PL-433	3	灰釉陶器 椀	製方から7cm上 底部～高台部 1/2	底 幅 7.4 7.1		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。 施釉方法不明。
X区24号住居							
第528図 PL-433	1	土師器 甕	カマド使用面と 16cm上が接合 口縁部～胴部下 位1/3	口 幅 20.4 22.0		細砂粒/良好/にぶ い濁	口縁部から頸部は横ナデ。胴部はヘラ削り。内面は胴部が ヘラナデ。
第528図 PL-433	2	鉄製品 鏝・鏝先	理上 破片	長 幅 11.5 3.3 厚 重 1.9 81.52			U字形の鏝または鏝先と見られる鉄製品。断面は大きく開 いたYの字状で一端は破損錆着する。
第528図 PL-433	3	鉄製品 不詳	理上 ほぼ完成	長 幅 9.7 6.9 厚 重 3.4 125.16			断面長方形の蹄形鉄製品と面が大きく曲がる大釘状の鉄製 品2点が斜めに交差し錆着する。
第528図 PL-433	4	鉄製品 刀子	理上 一部欠損	長 幅 13.8 1.4 厚 重 17.51			棒・対照ともに明瞭な刃を持つ刀子。刃の先端側は劣化破 損する。茎に木質等の痕跡は見られない。
X区9号住居							
第529図 PL-433	1	土師器 杯	理上 口縁部片	口 幅 9.8 3.0 高 3.0		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第529図 PL-433	2	須恵器 皿	理上 口縁部～高台部 片	口 幅 11.6 6.6 高 7.0 1.7		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。
第529図 PL-433	3	須恵器 杯	理上(6溝埋 入?) 3/4	口 幅 12.5 7.6 高 3.1		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
X区10号住居							
第531図 PL-433	1	土師器 杯	床面から9cm上 3/4	口 幅 11.7 3.5 高 3.5		細砂粒/良好/にぶ い濁	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り、体 部に指頭痕が残る。
第531図 PL-433	2	土師器 杯	床面直上 口縁部片	口 幅 12.0 9.0 高 2.0		細砂粒/良好/明濁	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。
第531図 PL-433	3	須恵器 皿	床面から8cm上 1/2	口 幅 12.8 6.5 高 6.2 2.8		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第531図 PL-433	4	須恵器 皿	床面直上 底部のみ	口 幅 7.0 7.4 高 7.4		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。 口縁部を打ち欠き、転用として二次利用か。

種別 PL_No.	No.	種 類 種 別	出上位置 残 存 率	計測値		胎上/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第531図 PL-433	5	須恵器 杯	床面直上と11cm 上が接合 1/3	口 底	11.8 6.0	高 3.8	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第531図 PL-433	6	須恵器 杯	床面直上と16cm 上が接合 1/4	口 底	15.3 7.0	台 高 6.5 5.4	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後回転ナデ、高台は貼付。	
第531図 PL-433	7	土師器 小型壺	床面直上 口縁部～胴部上 位片	口 底	11.6		細砂粒/良好/明赤 褐	内面頸部に輪積が見える。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう削り。内面は胴部がへうナデ。	
第531図 PL-433	8	鉄製品 刀子	床面から9cm上 一部欠損	長 幅	25.6 1.9	厚 重 1.1 45.00		棟・刃部ともに明瞭な刃を持つ刀子。先端は破損跡化する。茅灰付定には広葉樹散孔材の本質酸が付着する。	
第531図 PL-433	9	鉄製品 不詳	床面直上 破片	長 幅	8.6 1.0	厚 重 1.0 12.46		断面丸みのある内角形で棒状の鉄製品一端は氧化破損し反対側は端部は丸みを持つ。	
X区13号住居									
第533図 PL-433	1	土師器 杯	埋上 1/3	口 底	11.8 8.0	高 2.9	細砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへう削り。	
第533図 PL-433	2	土師器 杯	甎方埋上 口縁部～底部 1/4	口 底	11.8 8.3		細砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへう削り。	
第533図 PL-433	3	黒色土器 耳皿	床面直上 1/2	底 台	4.2 4.1		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	内面黒色処理、一部二次被熱により飛炭が消失。ロクロ整形、回転右回りか。底部回転糸切り後高台を貼付。内面はへう磨き。	外面底部に墨書。
第533図 PL-433	4	須恵器 皿	甎方から3cm上 2/3	口 底	13.6 5.8	台 高 6.2 2.4	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第533図 PL-433	5	須恵器 杯	床面直上 完形	口 底	12.0 6.1	高 3.3	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第533図 PL-433	6	須恵器 椀	カマド使用面直 上 完形	口 底	12.2 5.6	台 高 5.5 5.1	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付後、回転ナデ。	内外面口唇部の一部に煤が付着。
第533図 PL-434	7	須恵器 椀	カマド使用面直 上 口縁部一部欠	口 底	13.1 6.5	高 4.4	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/焼/にぶ い黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第533図 PL-434	8	須恵器 椀	床面から6cm上 1/3	口 底	13.4 6.9	台 高 6.3 5.7	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。	
第533図 PL-434	9	須恵器 椀	カマド使用面直 上 1/3	口 底	12.8 6.0		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付、高台は剥落。	
第534図 PL-434	10	灰釉陶器 杯	カマド使用面直 上 1/2	口 底	16.8 8.8	台 高 9.0 4.9	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へうナデ、高台は貼付。施釉方法は刷毛塗りか。	東海産9C、後半代か。
第534図 PL-434	11	灰釉陶器 長頸壺	カマド使用面直 上 胴部上位～底部 1/3	底	8.2		細砂粒/還元焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へうナデ、高台は貼付。胴部下位は段の回転へう削り。施釉方法は刷毛塗り。	光ヶ丘1号窯式。
第534図 PL-434	12	土師器 小型壺	カマド使用面直 上 完形	口 底	14.0 6.6	高 14.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部と胴部下半は手持ちへう削り。	北陸系ロクロ製。
第534図 PL-434	13	土師器 甌	床面直上 口縁部～胴部上 位片	口 底	18.0		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう削り。内面は胴部がへうナデ。	
第534図 PL-434	14	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上 口縁部～胴部下 位3/4	口 底	20.4 24.1		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。跨は貼付。胴部下位はへう削り。内面は一部にへうナデ。	
第534図 PL-434	15	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上 口縁部～胴部下 位	口 底	19.0 23.5		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。胴部下位に手持ちへう削り。	
第534図 PL-434	16	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上 胴部下位～底部 1/2	底	12.5		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部と胴部下位は手持ちへう削り。内面底部はへうナデ。	
第534図 PL-434	17	須恵器 甌	カマド使用面直 上 胴部下位～底部	底	16.4		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部と胴部下位は手持ちへう削り。内面はへうナデ。	
第535図 PL-433	18	鉄製品 鎌	甎方から10cm上 ほぼ完形	長 幅	23.9 5.6	厚 重 2.5 395.04		柄装着部を大きく斜めに折り曲げた鉄鎌。刃は直線的だが柄装着部端から7cm程でわずかにカーブする。柄装着部分に木質等の痕跡は見られない。	
第535図 PL-433	19	鉄製品 不詳	甎方埋上 破片	長 幅	2.7 2.5	厚 重 0.7 6.31		短冊形をした薄い板状の鉄製品。表面に穴等は確認できない。	
X区14号住居									
第539図 PL-435	1	黒色土器 椀	床面から15cm上 完形	口 底	10.8 5.3	台 高 5.5 3.9	細砂粒/酸化焰/黒	内外面とも黒色処理。ロクロ整形。底部はナデ、高台は貼付。体部から口縁部は内外面ともへう磨き。	内外面の口唇部に付着物あり。



種別 PL-No.	No.	種類	出上位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第5398 PL-435	2	須臾器 杯	床面から26cm上 ほぼ完成	口 8.8 高 2.0 底 5.3	細砂粒/酸化塩/灰 黄釉	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。	
第5398 PL-435	3	須臾器 杯	床面から9cm上 1/2	口 9.6 高 2.1 底 4.7	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄釉	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第5398 PL-435	4	土師器 口縁部～胴部中 位片	カマド3個方から 9cm上	口 24.6 径 29.8	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄	罅は貼付。口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は木口 残るヘラナデ。	
第5408 PL-435	5	鉄製品 釘	床面から13cm上 ほぼ完成	長 8.1 厚 1.0 幅 0.9 13.56		断面長方形の角釘。頭部は幅を広げながら緩やかに曲がる。 先端付近で細くなり尖る。	
第5408 PL-435	6	鉄製品 釘?	床面直上 ほぼ完成	長 12.9 厚 1.5 幅 2.0 重 32.71		断面四角形の角釘と見られる鉄製品。頭部では徐々に広がる が角型に終わる。先端に向かい細くなるが鋭利には尖ら ない。	
第5408 PL-435	7	鉄製品 刀子	床面から32cm上 破片	長 7.8 厚 0.6 幅 1.3 6.46		横・対側ともなだらかに革に移る刀子。刃部は0.5cm 程で劣化破損する。茎は細長く木質等の痕跡は見られない。	
第5408 PL-435	8	鉄製品 刀子	埋上 破片	長 6.1 厚 0.4 幅 2.0 重 6.49		断面狭三角形の刀子と見られる鉄製品破片。茎部は劣化破 損する。	
第5408 PL-435	9	鉄製品 鏝	埋上 一部欠損	長 11.2 厚 1.1 幅 2.0 重 21.48		先端は狭三角の鉄鏝。先端断面はやや丸みを持つ菱形。茎 との境では両端に段を持つ。茎は2.5cm程で劣化破損する。	
第5408 PL-435	10	鉄製品 不詳	床面から14cm上 破片	長 17.1 厚 1.7 幅 2.0 重 32.53		断面円形の丸棒状の鉄製品。端部はやや細くなるが丸みを持 つ。反対側は劣化破損する。	
第5408 PL-435	11	鉄製品 不詳	埋上 破片	長 5.9 厚 0.5 幅 0.7 重 3.27		断面は丸みを持つ円形の棒状鉄製品。一端に向かい細くなり 。反対側は劣化破損する。	
X区15号住居							
第5438 PL-435	1	黒色土器 杯	カマド使用面から 24cm上 1/3	口 11.8 高 3.8 底 5.8	細砂粒/酸化塩/黒 褐色	内外面とも黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部は回 転糸切り無調整。	
第5438 PL-435	2	須臾器 杯	床面直上 完成	口 10.7 高 3.6 底 4.9	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄 釉	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第5438 PL-435	3	須臾器 杯	カマド使用面から 33cm上 3/4	口 10.2 高 2.9 底 4.4	微砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第5448 PL-435	4	須臾器 碗	床面直上 1/2	口 15.1 高 7.8 底 7.8	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄 釉	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第5448 PL-435	5	須臾器 碗	床面直上 高台部	底 7.8 高 8.6 幅 8.6	細砂粒/酸化塩/に ぶい赤釉	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第5448 PL-435	6	灰釉陶器 皿	埋上 口縁部一部欠 損	口 11.7 高 6.8 底 7.3 幅 6.8	微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。施釉方法は裏掛け。	大原2号宮式 廟、折鉢皿。
第5448 PL-435	7	須臾器 羽釜	カマド使用面直 上 口縁部～胴部上 位片	口 25.8 径 30.2	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄 褐色	ロクロ整形。罅は貼付。胴部はへら削り。	
第5448 PL-435	8	鉄製品 刀子	埋上 破片	長 6.9 厚 1.0 幅 1.7 重 13.42		断面狭三角形の刀子と見られる鉄製品破片。茎部は劣化破 損する。	
X区17号住居							
第5448 PL-435	9	須臾器 杯	床面直上 3/4	口 12.4 高 5.5 底 5.9 幅 4.8	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄釉	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
X区26号住居							
第5448 PL-435	10	須臾器 羽釜	床面から5cm上 口縁部～胴部上 位片	口 21.2 径 24.4	細砂粒/酸化塩/粗	ロクロ整形。罅は貼付。	
X区16号住居							
第5458 PL-435	1	土師器 杯	床面から9cm上 1/4	口 12.6 底 9.0	細砂粒/良好/赤赤 褐色	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら削り。	
第5458 PL-435	2	須臾器 皿	床面から15cm上 3/4	口 13.6 台 5.9 底 6.1 高 3.3	細砂粒/酸化塩/粗	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第5458 PL-435	3	須臾器 杯	床面から18cmと 23cm上が接合 1/2	口 13.1 高 4.2 底 5.3	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄 釉	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第5458 PL-435	4	須臾器 碗	床面から16cm上 3/4	口 14.5 高 5.4 底 6.1 幅 5.5	細砂粒/酸化塩/灰 黄釉	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第5458 PL-435	5	須臾器 碗	床面直上と12cm 上が接合 3/4	口 14.8 高 6.8 底 7.0 幅 6.1	細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第5458 PL-435	6	須臾器 碗	床面から8cm上 3/4	口 14.0 台 6.6 底 7.2 高 5.7	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部切り難し技法不明、高台は 貼付。	
第5458 PL-436	7	須臾器 碗	床面直上と6cm 上が接合 口縁部一部欠 損	口 21.4 台 11.7 底 11.6 高 10.9	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	外面体部に火 傷が残る。
第5468 PL-436	8	須臾器 碗	床面直上 1/3	口 13.8 台 7.2 底 7.4 高 4.9	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部切り難し技法不明、高台は 貼付。	

棟号 PL.No.	No.	種 類 器 種	出上位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第546区 PL-436	9	須恵器 椀	床面から11cm上 1/3	口 底	13.8 6.2	台 高	5.6 3.8	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第546区	10	須恵器 椀	床面から19cm上 1/3	口 底	14.8 6.2	台 高	6.0 5.3	細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部切り難し技法不明、高台は貼付。
第546区	11	土師器 小型壺	床面から21cm上 口縁部～胴部上 位片	口	12.6			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。
第546区 PL-436	12	鉄製品 刀子	埋上 破片	長 幅	8.0 1.5	厚 重	0.7 7.87		棒・対照ともに間を持つ刀子。某は細長く端部は劣化破損する。柄表面にわずかに広葉樹材の木質部が付着する。
X区18号住居									
第549区	1	須恵器 皿	榎方から10cm上 口縁部～底部片 3/4	口 底	12.6 8.0	台 高	7.6 2.2	細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第549区 PL-436	2	須恵器 杯	床面から21cm上 3/4	口	9.3	高	2.4	細砂粒/酸化塩/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第549区 PL-436	3	須恵器 椀	榎方から9cmと 11cm上が接合 完形	口 底	14.2 6.6	台 高	5.9 5.1	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第549区 PL-436	4	須恵器 椀	榎方から7cm上 3/4	口 底	14.4 6.3	台 高	5.0 5.2	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第549区	5	須恵器 椀	榎方から4cm上 口縁部～底部片	口 底	15.6 8.1	台 高	7.2 4.8	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰やア	ロクロ整形、回転右回り。底部切り難し技法不明、高台は貼付。
第549区	6	須恵器 椀	榎方から9cm上 口縁部～体部下 位片	口	21.0			細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形。
第549区	7	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上と24cm上が接 合 口縁部～胴部上 位片	口 跨	18.0 21.4			細砂粒/酸化塩/に ぶい橙	ロクロ整形。跨は貼付。
第549区 PL-436	8	鉄製品 不詳	埋上 破片	長 幅	5.0 0.5	厚 重	0.4 1.17		幅0.4cmほどの幅の狭い板状の鉄製品で両端は同じ方向に曲がり破損跡と見られる。
X区22号住居									
第550区	9	土師器 杯	床面直上	口 底	10.7 6.4	高	2.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ。底部は手持ちへら削り。
第550区	10	須恵器 皿	榎方から1cm上 口縁部片	口	14.4			細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
X区23号住居									
第550区	11	土師器 費	カマド使用面直 上 口縁部～胴部上 位片	口	19.4			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。
X区19号住居									
第552区 PL-436	1	須恵器 羽釜	床面から23cm上 口縁部～胴部中 位1/4	口 跨	23.2 27.8			細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/暗褐	ロクロ整形。跨は貼付。胴部はへら削り。
X区31号住居									
第552区	2	土師器 杯	埋上 1/4	口 底	10.8 6.8	高	3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ。底部は手持ちへら削り。
X区21号住居									
第554区	1	須恵器 羽釜	カマド使用面直 上 口縁部～胴部中 位片	口 跨	21.8 26.0			細砂粒/酸化塩/に ぶい橙	ロクロ整形。跨は貼付。胴部はへら削り。
X区27号住居									
第556区	1	土師器 費	床面直上 口縁部～胴部中 位片	口 胴	20.4 22.0			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。
第556区 PL-436	2	鉄製品 不詳	埋上 破片	長 幅	5.5 0.9	厚 重	0.9 4.72		断面はほぼ正方形の角棒状鉄製品で端部から2cm程度でく字に曲がり。先端は尖らない。反対側は劣化破損する。
X区4号住居									
第558区	1	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部中 位片	口 跨	18.0 21.4			細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形。跨は貼付。
X区1号住居									
第559区	1	須恵器 椀	床面から12cm上 高台部1/2	底 台	7.6 8.4			細砂粒/酸化塩/淡 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第559区	2	須恵器 費	床面から26cm上 胴部片					細砂粒/還元塩/灰 白	内外面ともへらナデ。
X区2号住居									
第561区 PL-436	1	須恵器 杯	カマド使用面直 上 3/4	口 底	12.0 6.0	高	4.0	細砂粒/酸化塩/に ぶい赤褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。

棟号 PL.No.	No.	種類 器種	出上位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第561図 PL-436	2	須臾器 椀	カマド使用面から16cm上 ほぼ完形	口 底	13.7 6.1	台 高	6.2 5.3	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第561図 PL-436	3	須臾器 椀	カマド使用面から16cm上 口縁部一部欠	口 底	14.6 7.6	高	5.8	細砂粒/酸化焰/ 煤/灰黄褐色	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	内面体部に刻書。
第561図	4	土師器 費	カマド使用面から14cm上 口縁部～胴部上 位片	口	15.8			細砂粒/良好/褐色	外面胴部に輪積痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	
第561図 PL-436	5	鉄製品 釘	掘方から5cm上 一部欠損	長 幅	5.0 1.3	厚 重	1.0 6.39		断面長方形の角釘。頭部ややや幅を広げるが厚変わらず折り返しもない。先端に向かい細くなり斜めに劣化破損する。	
Ⅷ区4号住居										
第564図 PL-436	1	土師器 費	床面から10cm上 とカマド使用面 から6cm上が接合 1/2	口 底	25.5 11.0	高 脚	30.9 26.0	細砂粒・粗砂粒/ 良好/褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はへら削り。内面は底部から胴部がへらナデ。	
Ⅷ区7号住居										
第567図 PL-437	1	灰輪陶器 椀	カマド使用面直上 1/4	口 底	14.8 8.0			細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付。体部下位に2段の回転へら削り。施釉方法は漆け掛け。	大原2号窯式 期。
第567図	2	灰輪陶器 椀	埋土 高台部1/2	口 底	6.8 6.6			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付。施釉方法は刷毛塗りか。	大原2号窯式 期。
第567図	3	須臾器 散	カマド使用面直上 と29cmと39cm 上が接合 胴部上位～胴部 下位片	口 底	31.5			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 褐色	ロクロ整形。胴部下位の頸部付近はへらナデ。内面に小欠が2カ所。	
第567図 PL-437	4	須臾器 羽釜	カマド使用面直上 と床面から6cm 上が接合 口縁部～胴部下 位1/4	口 底	20.0 25.8			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 褐色	ロクロ整形。罫は貼付。胴部下半はへら削り。	
第567図 PL-437	5	鉄製品 釘	埋土 ほぼ完形	長 幅	6.4 1.2	厚 重	1.7 9.06		断面はほぼ正方形の角釘。頭は幅を広げ短く直角に折り曲げる。先端はやや細くなるが尖らない。	
Ⅷ区8号住居										
第567図 PL-437	6	土師器 杯	土坑1底直上 3/4	口 底	13.0 6.5	高	4.5	細砂粒/良好/赤褐色	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部はへらナデか。	
第567図 PL-437	7	須臾器 椀	床面直上 3/4	口 底	11.9 5.5	台 高	5.6 4.5	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第567図	8	須臾器 椀	埋土 底部～胴部下位 片	口 底	6.4 5.6			細砂粒/還元焰/ 煤/オリブ灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	内面底部に刻書。
第567図 PL-437	9	緑釉陶器 輪花椀	床面から20cm上 1/3	口 底	16.0 7.8	台 高	8.4 5.6	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付。体部から口縁部にロクロ痕が残る。内面底部にトナリ痕が残る。釉薬に濃淡がみられる。	東海産9C、 後平代。
第567図 PL-437	10	緑釉陶器 椀	床面から8cm上 口縁部片					微砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。内外面とも施釉。	稜椀か。
第567図	11	土師器 費	土坑2底直上 口縁部～胴部上 位1/3	口 脚	18.2 20.8			細砂粒/良好/灰褐色	口縁部は横ナデ、頸部に指頭痕が残る。胴部はへら削り。内面胴部はへらナデ。	
第567図 PL-437	12	鉄製品 不詳	埋土 ほぼ完形	長 幅	6.4 1.5	厚 重	1.3 20.30		断面正方形に近い角棒状の鉄製品。一端は角形だが、反対側は丸みを持つ。厚く硬い。錆に覆われ本体脆弱なため詳細は不明。	
第567図 PL-437	13	石製品 石製品	床面から26cm上 1/2	長 幅	(6.9) (4.1)	厚 重	(2.3) 29.6	二ツ房軽石	外面全体に部分的な研磨が認められ整形されている。中心に径約10mmの孔が認められ、内面は滑らかである。	
Ⅷ区10号住居										
第570図 PL-437	1	須臾器 杯	土坑3底直上 完形	口 底	9.0 4.6	高	2.7	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 褐色	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。口縁部は2カ所を押しあげられたため歪みがみられる。	
第570図 PL-437	2	須臾器 杯	床面から7cm上 1/4	口 底	9.6 4.8	高	3.6	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄褐色	ロクロ整形、回転右回り。底部は砂底か。器面磨減のため不鮮明。	
第570図 PL-437	3	須臾器 椀	床面直上 2/3	口 底	10.0 5.4	台 高	5.3 3.9	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄褐色	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第570図	4	須臾器 椀	カマド使用面から18cm上 口縁部下位～底部 1/2	口 底	5.3 5.4			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄褐色	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第570図 PL-437	5	須臾器 羽釜	床面直上とカマ ド使用面直上が 接合 口縁部～胴部下 位1/4	口 脚	24.2 27.4			細砂粒/酸化焰/浅 黄褐色	ロクロ整形。罫は貼付。胴部はへら削り。内面はへらナデ。	

種別 PL.No.	No.	種類	出上位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第570区 PL-437	6	須臾器 羽釜	カマド使用面直上と17cm上が接合 口縁部～胴部中位片	口 径	21.4 25.4		細砂粒/酸化塩/明赤褐	ロクロ整形。罫は貼付。胴部は下位へ向けてのヘラ削り。
第570区 PL-437	7	鉄製品 刀子?	埋上 破片	長 幅	4.9 1.7	厚重 8.44		断面薄い三角形で刀子先端破片と見られる鉄製品。端部は破損跡化する。
第570区 PL-437	8	鉄製品 錠具	床面直上 破片	長 幅	5.5 3.9	厚重 1.0 18.21		コの字形の輪金とT字形の刺金からなる錠具。輪金は内端とも劣化破損する。刺金は長く輪金よりも1cm以上突出する。
第570区	9	鉄滓 流動滓	床面から28cm上	長 短	12.5 11.8	厚重 5.2 304.75		外面が紫黒色の流動性の高い流動滓。滓密度。比重が高い。上面は流れ皺が生じている。断面は光沢がある灰褐色。底面に8mm程度の凹凸した砂が付着。

郷区11号住居

第572区 PL-438	1	黒色土器 椀	埋上 2/3	口 底	15.8 8.0		細砂粒/酸化塩/黒	内外面とも黒色処理。ロクロ整形。底部切り離し技法不明。高台は貼付。縁部から体部はヘラ磨き。器面磨滅のため単位不詳。内面は蓮華文状にヘラ磨きが施されている。
第572区 PL-438	2	須臾器 杯	カマド使用面から5cm上 口縁部一部欠	口 径	9.0 4.6	高 3.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄橙	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第572区 PL-438	3	須臾器 杯	床面直上 3/4	口 底	9.3 5.0	高 3.1	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/橙	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第572区 PL-438	4	須臾器 椀	カマド使用面直上 1/3	口 底	14.1 6.0	台 7.4 5.4	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい橙	ロクロ整形。回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。

郷区12号住居

第574区 PL-438	1	須臾器 杯	床面直上 3/4	口 底	9.8 4.4	高 2.9	細砂粒/酸化塩/にぶい黄橙	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第574区 PL-438	2	須臾器 杯	床面直上 1/2	口 底	9.8 5.0	高 2.8	細砂粒/酸化塩/にぶい黄橙	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第574区	3	須臾器 羽釜	口縁部～胴部 中位1/4	口 径	22.6 25.7		細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄橙	ロクロ整形。罫は貼付。胴部は下位へ向けてのヘラ削り。
第574区 PL-438	4	鉄製品 不詳	埋上 破片	長 幅	5.1 2.7	厚重 1.2 16.76		三角形をした鉄製品破片。全体に放射割れが著しく鋳造鉄製品の破片と見られる。
第574区 PL-438	5	鉄製品 不詳	埋上 破片	長 幅	3.8 0.9	厚重 0.7 2.53		断面長方形の鉄製品破片。両端とも破損跡化する。
第574区 PL-438	6	鉄製品 不詳	埋上 破片	長 幅	4.2 0.9	厚重 0.5 2.53		断面長方形の鉄製品破片。一端は破損跡化もう一方は劣化破損する。
第574区 PL-438	7	鉄製品 不詳	埋上 破片	長 幅	5.3 0.8	厚重 0.8 3.19		断面長方形の鉄製品破片。両端とも破損跡化する。

郷区14号住居

第576区 PL-438	1	土師器 甕	カマド使用面から6cm～26cm上の遺物群が接合 口縁部～胴部下位1/2	口 径	26.4 28.3		細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤褐	口縁部端ナデ。胴部はヘラ削り。一部にハケ目がみられる。内面胴部はヘラナデ。
第576区 PL-438	2	鉄製品 不詳	埋上 ほぼ完形	長 幅	7.5 3.6	厚重 1.3 26.32		薄い板状の鉄製品で弧状の平面形を持つ。表面全体に厚い跡に覆われ詳細は不明。
第576区 PL-438	3	鉄製品 不詳	カマド埋上 ほぼ完形	長 幅	5.0 1.7	厚重 1.8 26.37		断面正方形に近い角棒状の鉄製品で両端とも角形。

郷区15号住居

第576区 PL-438	4	土製品 紡輪	埋上 完形	縦 横	6.9 7.6	厚重 1.3 0.8	細砂粒/酸化塩/にぶい橙	ロクロ整形。回転左回り。下面は回転糸切り無調整。ほぼ中央に幾成前の穿孔あり。	須臾器杯の製作技法にて作成。
-----------------	---	-----------	----------	--------	------------	------------------	--------------	--	----------------

郷区16号住居

第578区 PL-438	1	須臾器 杯	床面から16cm上 3/4	口 底	9.8 4.6	高 3.3	細砂粒/酸化塩/にぶい黄橙	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第578区 PL-438	2	須臾器 杯	床面から8cm上 3/4	口 底	9.4 5.3	高 2.8	細砂粒/酸化塩/にぶい黄橙	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第578区	3	須臾器 椀	埋上 口縁部～体部下位1/2	口 径	12.0		細砂粒/酸化塩/にぶい橙	ロクロ整形。	
第578区 PL-438	4	緑釉陶器素 地 皿	埋上 口縁部片	口 径	14.8		微砂粒/還元塩/黄灰	ロクロ整形。内外面ともヘラ磨きか。	
第578区 PL-438	5	緑釉陶器素 地 皿	埋上 底部下位～高台部片	底 台	7.5 7.0		微砂粒/還元塩/にぶい黄橙	ロクロ整形。高台は削り出し。内外面ともヘラ磨きか。	京都産9C末～10C、初汎。
第578区	6	土師器 甕	埋上 底部	底	9.9		細砂粒/良好/黒褐	底部は木口の残るヘラナデか。内面はナデ。	
第578区	7	須臾器 羽釜	埋上 口縁部～胴部 中位片	口 径	23.6 27.9		細砂粒/酸化塩/灰黄褐	ロクロ整形。罫は貼付。胴部はヘラ削り。	

種別 PL-No.	No.	種類	出上位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第5789区 PL-438	8	不明 羽釜	埋上 器底片				細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形。罫は貼付。胴部はへう削りか。	外面口縁部に 釘書。
第5789区 PL-438	9	鉄製品 不詳	床面から27cm上 ほぼ完成	長 6.9	厚 1.9	重 7.15		木の葉形をした薄い板状の鉄製品で、断面は湾曲する。	
第5789区 PL-438	10	鉄製品 不詳	床面から8cm上 破片	長 6.5	厚 1.1	重 5.41		断面細い台形状の鉄製品。幅の狭い舌状で一端は劣化破損 の端部はやや丸みを持つ角形でやや薄くなる。	
第5789区 PL-438	11	鉄製品 不詳	埋上 ほぼ完成	長 13.3	厚 1.8	重 22.25		断面丸みを持つ棒状の鉄製品。一端は丸く他端部に向かい 細くなるが尖らず丸みを持ち残る。	
Ⅹ区18号住居									
第5839区 PL-438	1	須恵器 杯	床面直上 3/4	口 10.1	底 4.5	高 3.1	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第5839区	2	灰釉陶器 広口瓶	埋上 底部～胴部下位 片	底 12.6	口 12.6		微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形。回転右回りか。底部は回転へラナデ、高台は 貼付、胴部は回転へう削り。外面底部のほども無釉。	
第5839区	3	灰釉陶器 長頸壺	埋上 底部～胴部下位 片	底 9.0	口 9.0		微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形。回転右回りか。底部は回転へラナデ、高台は 貼付、胴部は回転へう削り。	
第5839区	4	土師器 甕	床面から22cm上 口縁部～胴部 中位片	口 31.6	底 31.7		細砂粒・粗砂粒/ 良好/暗赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう削り。内面は胴部が へラナデ。	
第5839区 PL-438	5	石製品 砥石	床面から10cm上 完成	長 7.6	幅 4.4	厚 124.8	砥石	砥面は4面認められる。正面及び裏面は下部にむきい研ぎ 減りする。正面と裏面の下端部分に断面V字状の縦か線 染みが集中する。	
Ⅹ区19号住居									
第5839区 PL-439	6	黒色土器 椀	床面直上 2/3	口 14.8	底 6.9	台 高 6.6 5.6	細砂粒/酸化塩/灰 褐	内面黒色処理。二次焼成により喫染はほとんど消失。ロクロ 整形。底部はナデ。高台は貼付。内面は焼成後放射状へう 磨き。	
第5839区 PL-439	7	須恵器 杯	床面直上 3/4	口 10.3	底 6.1	高 2.9	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。底部 は疑似高台状を呈す。糸切り痕径5.0cm前後。	
第5839区 PL-439	8	須恵器 杯	床面直上 2/3	口 10.2	底 4.5	高 2.7	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第5839区	9	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部 中位片	口 21.4	底 25.4		細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい岩	ロクロ整形。罫は貼付。外面口縁部に輪積直が残る。胴部 はへう削り。内面はへラナデ。	
第5839区 PL-439	10	石製品 石製品	床面直上 完成	長 3.6	幅 3.6	厚 64.0	粗粒輝石安山岩	丁寧な研磨によって極度に整形している。	
Ⅹ区20号住居									
第5859区 PL-439	1	須恵器 杯	床面から8cm上 3/4	口 14.3	底 6.0	高 4.1	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩・焼/黒褐	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第5859区 PL-439	2	鉄製品 刀子?	床面から6cm上 破片	長 5.1	厚 1.8	重 11.14		棟・対照ともに間を持つ刀子破片。先端から3cm程で折り 返すように面がり、茎は1cm程で破損銷化する。	
Ⅹ区21号住居									
第5869区 PL-439	1	須恵器 椀	カマド使用面直上 1/3	口 15.8	底 7.3		細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄橙	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転ナデ。高台は貼付。	
第5869区	2	土師器 甕	カマド使用面直上 と9cm上が接 合 口縁部～胴部 中位片	口 25.7	底 25.5		細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	内面胴部に輪積直が残る。口縁部は横ナデ、胴部はへう削り 。内面は胴部がへラナデ。	
第5869区 PL-439	3	須恵器 羽釜	カマド使用面直上 と9cm上が接 合 口縁部～胴部 下位1/2	口 20.4	底 24.2		細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/灰褐	ロクロ整形。罫は貼付。胴部は下位へう削りのへう削り。	
第5869区 PL-439	4	鉄製品 紡錘車	床面直上 一部欠損	長 12.2	幅 4.7	厚 33.41		ほぼ円形の紡輪とそれと直行する紡輪からなる紡錘車。紡 輪はやや丸みのある四角形で両端とも劣化破損する。	
Ⅹ区5号壺穴									
第5969区	1	土師器 杯	底面直上 1/3	口 11.8	高 3.2		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちへう削り。	
第5969区	2	鉄製品 不詳	埋上 ほぼ完成	長 5.0	厚 1.0	重 4.18		一端は断面正方形で中央部は断面長方形他端部に向かい 細くなり尖る。	
Ⅹ区6号壺穴									
第5979区 PL-439	1	須恵器 椀	底面から23cm上 3/4	口 14.0	底 6.8	台 高 6.2 5.1	細砂粒/還元塩/灰 黄	ロクロ整形。回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第5979区 PL-439	2	須恵器 椀	底面から11cm上 完成	口 14.2	底 7.5	台 高 7.9 6.3	細砂粒/還元塩/灰 黄	ロクロ整形。回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
Ⅹ区3号壺穴									
第5999区 PL-439	1	須恵器 杯	底面直上 3/4	口 12.1	底 5.8	高 4.0	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。底部 磨滅のため不詳。	
第5999区	2	土師器 壺	埋上 口縁部片	口 20.8			細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は折り返し、口縁部上半は横ナデ。下半はナデ。	

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 直上率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第599図 PL-439	3	土師器 甕	底面直上 口縁部～胴部上	口	18.8		細砂粒/良好/ぶ い橙	口縁部から胴部は横ナデ、胴部はへら削り、内面は胴部が へらナデ。		
第599図 PL-439	4	鉄製品 不詳	埋上 破片	長	5.5	厚 0.8	0.8	断面狭長方形の短冊形の鉄製品。端部は角形で他の端部は 劣化破損する。表面全体に硬い錆に覆われ本体脆弱なため 詳細は不明。		
第599図 PL-439	5	鉄製品 不詳	埋上 破片	長	4.1	厚 0.9	0.9	断面円形の丸棒状の鉄製品。Jの字状に曲がり、端部は破 損脆化の可能性もある。		
V区2面6号溝										
第601図 PL-439	1	鉄製品 斧	埋上 完形	長	8.7	厚 2.9	2.9	袋状鉄斧。袋部は角の明瞭な長方形で内部に木質等の痕跡 は見られない。刃はやや片側に傾く。		
V区2面7・8号溝										
第604図 PL-440	1	須恵器 椀	埋上 1/3	口	14.0	台 高	6.4 5.3	細砂粒/酸化焰/黄 灰	口ロコ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。 内外面に墨痕 がみられる。	
第604図 PL-440	2	灰輪陶器 椀	埋上 1/3	口	12.6	台 高	7 3.3	微砂粒/還元焰/灰 白	口ロコ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。 施釉方法は漬け掛け。	虎沢山1号窯 式期。
第604図 PL-440	3	灰輪陶器 瓶	埋上 胴部小片					微砂粒/還元焰/灰 白	口ロコ整形。	外面に刻書？
V区2面12号溝										
第607図 PL-440	1	鉄製品 鎌	底から10cm上 ほぼ完形	長	11.2	厚 0.9	14.63		先端がやや丸みを帯びる鉄鎌で根部の断面は薄い菱形、茎 との境を一週する段を持つ。茎は断面正方形で錆に覆われ 植物痕等確認できない。	
V区2面1号溝										
第609図 PL-440	1	須恵器 椀	埋上 口縁部片	口	12.4			細砂粒/還元焰/灰 白	口ロコ整形。	
第609図 PL-440	2	須恵器 楕形か	底から7cm上 胴部中位～底部	胴	12.2			細砂粒/還元焰/灰 白	口ロコ整形、回転右回りか。胴部中ほどに凹線による区画、 区画内に波状文が走る。	
第609図 PL-440	3	常滑陶器 甕	埋上 破片	口	—	高	—	底物粒少量含む。 /灰白/	外面器表にぶい橙色。内面器表自然輪薄くかかり、現状は 底面する。	中世。
第609図 PL-440	4	常滑陶器 甕か	埋上 体部片	口	—	高	—	底物粒少量含む。 /灰/	器表暗赤褐色。湾曲があり、肩部片か。	中世。
第609図 PL-440	5	石製品 勾玉	埋上 完形	長	3.1	厚 2.2	1.1 8.7	黒ろう石	全面が丁寧に研磨されている。孔の平面形は楕円であるが 中央部がやくびれた形状であることから、二つの孔が穿 孔時に連結したことにより楕円形を呈するものと考えられ る。	孔の長径約 6mm
V区2面1号溝										
第610図	1	須恵器 蓋	埋上 口縁部中位～高 台部	底	5.5	高	5.2	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	口ロコ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。 内外面に墨痕 がみられる。	内面底部に付 着物。
第610図	2	須恵器 椀	埋上 口縁部下位～高 台部	底	6.0	高	5.8	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄	口ロコ整形、回転方向不明。底部は回転ナデ、高台は貼付。	
第610図	3	須恵器 椀	埋上 口縁部下位～高 台部	底	6.5	高	7.8	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	口ロコ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第610図	4	灰輪陶器 耳皿	埋上 1/4	口	10.8	高	1.6	微砂粒/還元焰/灰 白	口ロコ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。施釉 方法不明。	東産産10C。
第610図	5	灰輪陶器 皿	底から19cm上 口縁部下位～高 台部	底	7.5	高	7.0	微砂粒/還元焰/灰 白	口ロコ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。 施釉方法不明。	光ヶ丘1号窯 式期か。
V区2面2号溝										
第611図	1	須恵器 蓋	埋上 1/4	口	16.2	高	2.5	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白～ア	口ロコ整形、回転右回り。天井部中ほどに回転糸切り痕が 残る。	
第611図	2	須恵器 甕	埋上 口縁部片	口	15.0			細砂粒/還元焰/灰 白	口ロコ整形。	
第611図 PL-440	3	在地系土器 炊器	埋上 口縁部から体部 片	口	—	高	5.5	底物粒含む。/灰 白/	口縁部断面中央灰色。口縁部器表付近と体部断面灰白色。 器表黒色。体部下端から底部器表灰白色。口縁部断面山門 線状にくぼむ。体部外面下位縮輪状の型作り痕。	江戸時代。
第611図 PL-440	4	常滑陶器 甕か	埋上 体部小片	口	—	高	—	底物粒含む。/黒 泥/	断面中央黒褐色。器表付近浅黄褐色。内面器表暗赤褐色。 外面器表にぶい橙色。内外面撫で。	中世。
V区2面6号溝										
第614図 PL-440	1	手捏ね土器 椀形	埋上 口縁部一部欠	口	4.9	高	3.8	細砂粒/良好/橙	口縁部はナデ、底部はへら削り。内面はナデ。	
第614図 PL-440	2	須恵器 皿	埋上 2/3	口	13.3	台 高	5.6 3.0	細砂粒/酸化焰・ 煙/灰黄	口ロコ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第614図	3	須恵器 杯	埋上 口縁～底部1/4	口	14.2	高	3.8	細砂粒/良好/灰白	口ロコ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第614図	4	須恵器 小椀	埋上 口縁部片	口	9.2			細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	口ロコ整形。	
第614図 PL-440	5	鉄製品 鎌	底から4cm上 ほぼ完形	長	18.0	厚 3.2	1.0 99.84		柄着首部を斜めに折りに折った鉄鎌。沿うように断面狭三角 形で端部が三角形をした板状鉄製品が鋳化付着する。二点 は密着する。柄着部分に木質等痕跡は確認できない。	

種別 PL-No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第614図 PL-440	6	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 3.8 幅 3.8	厚 1.1 重 12.29		断面正から長方形のU字形をした鉄製品。内端に向かい細くなり一方は尖り他の端部は丸みを持ち終わる。全体に硬い錆に覆われ本体は脆弱なため詳細は不明。
第614図 PL-440	7	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 3.9 幅 1.4	厚 0.7 重 6.84		断面長方形の厚い板状の鉄製品。一端は三角形が厚くて尖らない、他の端部は角形。
第614図 PL-440	8	鉄製品 釘	埋土 ほぼ完形	長 1.6 幅 0.8	厚 0.5 重 0.86		断面はほぼ正方形釘。頭は薄く大きく広げ押し曲げる。先端側は破損し錆に覆われる。
第614図 PL-440	9	鉄製品 釘	埋土 破片	長 3.9 幅 0.7	厚 0.6 重 3.41		断面やや長方形の角釘。頭短く直角に曲げる。先端側は破損し錆に覆われる。
M区2面9号溝							
第617図 PL-441	1	瀬戸・美濃 陶器 折縁皿	埋土 口縁部から体部 1/6	口 12.0 底 5.0	高 1.0	夾雑物含まない。 /灰白/	口縁部外覆し、端部は上方に立ち上がる。内面から体部外面灰輪。灰輪はやや白濁する。
第617図 PL-441	2	古瀬戸陶器 盤類	埋土 底破片	口 12.0 底 5.0	高 1.0	藍物粒少量含む。 /珪灰/	底部外面回転へら削りの後、体部外面回転削り。残存部14世紀中葉～15世紀前半葉。
第617図 PL-441	3	瀬戸・美濃 陶器 鉢	埋土 底部1/4	口 12.0 底 13.0	高 1.0	藍物粒微量含む。 /灰白/	底部内面5本の沈線下に印花文か。内面から高台内灰輪。高台端部無輪。底部内面団子状の目録1ヶ所。
第617図 PL-441	4	瀬戸・美濃 陶器 白土目	埋土 体部片	口 12.0 底 5.0	高 1.0	白色藍物粒微量含む。 /灰白/	内面から残存部外面下位長石輪。貫入入る。
第617図 PL-441	5	在地系土器 内耳皿	埋土 口縁部片	口 12.0 底 5.0	高 1.0	透明。黒色藍物粒含む。 /灰白/	断面から内面器表灰白色。外面器表黒褐色。口縁部下で屈曲し、口縁部は内湾気味に立ち上がる。
第617図 PL-441	6	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢	埋土 体部上位片	口 12.0 底 5.0	高 1.0	夾雑物含まない。 /灰白/	内面10本×αのすり目。内外面磨輪。
第617図 PL-441	7	常滑陶器 費か	埋土 胴部片か	口 12.0 底 5.0	高 1.0	藍物粒少量含む。 /灰から灰白/	断面灰色から灰白色。内面器表にふい黄褐色。外面器表にふい赤褐色。外面器表自然輪斑状かか。内面指圧痕残る。
第617図 PL-441	8	在地系土器 燈格	埋土 口縁部から底部 片	口 12.0 底 5.0	高 5.8	透明。黒色藍物粒含む。 /黒/	断面中央黒色。器表付近灰白色。器表黒色。底部内面器表灰白色。底部外面器表にふい褐色。体部内面中位に縦い段を有する。体部外面下位以下、縮輪状の型作り痕。
第617図 PL-441	9	土製品 土鐘	埋土 完形	長 3.4 幅 1.6	孔重 0.3 9.1	微砂粒/良好にふい黄褐色	外面はナデ。
第617図 PL-441	10	石製品 石製品	埋土 2/3	長 26.2 幅 25.2	厚 16.2 重 7700.9	二ツ岩石	正面の中央に、直径約18cm、深さ約8cmの円筒状の孔が認められる。孔の底部は中央部がわずかに凹んでおり、内凸面で構成され棒状工具用の可能性ある。側面には、直径約6cmの半円状の加工痕があり、加工内部は比較的滑らかである。五輪磨(水輪)の再利用の可能性ある。
第617図 PL-441	11	石製品 砥石	埋土 2/3	長 10.1 幅 5.6	厚 3.5 重 220.4	砥石	砥面は4面認められる。表面及び裏面は下方にむかい著しく研ぎ減りする。右側面には対ならし傷が集中する。下部欠損。
第617図 PL-441	12	石製品 石製品	埋土 1/6	長 16.7 幅 12.9	厚 16.3 重 2908.2	二ツ岩石	孔が認められるがその形態は不明である。孔の側面は比較的滑らかである。断面には部分的に棒状の工具痕が残り丁寧に整形されている。底部は平坦に整形されている。
第618図 PL-441	13	石製品 石(石下)	埋土 1/8	長 18.1 幅 10.4	厚 11.3 重 250.9	粗粒輝石安山岩	上面(内面)は縁刃部が特に滑らかである。側面には棒状の工具痕がわずかに認められ加工時の痕跡と考えられる。
M区2面11号溝							
第619図	1	砂吹	埋土	長 5.5 幅 5.1	厚 3.5 重 57.21		平坦な被熱面をもつ粘土土塊。被熱面は赤色酸化している。構成No77砂吹か。
M区2面13号溝							
第620図	1	土師器 費	埋土 口縁部～胴部上 位片	口 21.8		細砂粒/良好にふい褐色	口縁部から胴部は横ナデ。胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。
M区2面14号溝							
第621図	1	肥前陶器 兵器手裏	埋土 底部1/2	口 12.0 底 5.0	高 6.2 重 4.8	細砂粒/酸化塩/粗 い褐色	口縁部整形。回転右回り。底部は回転系切りか。高台は貼付。
第622図	1	須恵器 杯	埋土 1/4	口 12.0 底 6.8	高 6.2 重 4.8	細砂粒/酸化塩/粗 い褐色	口縁部整形。回転右回り。底部は回転系切りか。高台は貼付。
第622図	2	土師器 割釜	埋土 口縁～胴部上位 片	口 23.8 底 26.8	高 2.8	細砂粒/良好/灰黄 褐色	外面胴部に輪積痕が残る。費は貼付。口縁部横ナデ。胴部はへら削り。内面はへらナデ。
M区2面9号溝							
第626図	1	須恵器 杯	埋土 1/2	口 8.8 底 5.8	高 2.1	細砂粒/酸化塩/粗 い褐色	口縁部整形。回転左回り。底部は回転系切り無調整。
第626図	2	須恵器 杯	埋土 口縁部片	口 8.3		細砂粒/酸化塩/粗 い褐色	口縁部整形。
第626図	3	須恵器 杯	埋土 1/4	口 14.9 底 7.9	高 3.7	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/粗	口縁部整形。回転方向不明。底部は静止系切りか。
第626図	4	須恵器 輪	埋土 口縁部上位～高 台部1/2	口 6.3 底 6.4		細砂粒/酸化塩/粗 い褐色	口縁部整形。回転右回り。底部回転系切り後高台を貼付。
第626図	5	須恵器 輪	埋土 口唇部欠1/4			細砂粒/酸化塩/淡 黄	口縁部整形。回転右回り。底部切り難し技法不明。高台は貼付。

種別 PL-No.	No.	種類 種	出上位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第626図 PL-41	6	土師器 甕	理上 口縁部片	口 17.5			細砂粒・粗砂粒/ 良好/灰黄褐	口縁部から頸部は横ナデ、腹部はへう削り。内面は割部が へうナデ。	
第626図 PL-41	7	須恵器 甕	理上 口縁部片				細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	口縁部に2段以上の波状文が巡る。	
第626図 PL-41	8	須恵器 甕	理上 口縁部片				細砂粒/還元焰/ 灰黄褐	口縁部に3段以上の波状文が巡る。	
第626図 PL-41	9	鉄製品 不詳	理上 破片	長 4.7	厚 1.4	重 10.32		断面長方形の鉄製品で破損錆化したものと見られるが、表 面は厚く錆に覆われるため詳細は不明。	
Ⅷ区2面11号溝									
第627図 PL-41	1	須恵器 椀	理上 口縁部～底部 2/3	口 14.4			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付、 高台は剥落。	
第627図 PL-41	2	須恵器 椀	理上 1/4	口 14.3			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付、 高台は欠損後全体を摺り磨いている。	
第627図 PL-41	3	灰釉陶器 皿	理上 体部～高台部 2/3	底 6.6	高 6.3		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へうナデ、高台は貼 付。施釉方法不明。	大原2号窯式 期。
第627図 PL-41	4	灰釉陶器 皿	理上 口縁部～体部片	口 12.7			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
Ⅷ区2面10号溝									
第629図 PL-41	1	須恵器 杯	理上 1/4	口 12.1	高 3.5		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第629図 PL-41	2	須恵器 杯	理上 1/2	口 13.0	高 3.2		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。底部 は疑似高台状を呈す。	
第629図 PL-41	3	須恵器 椀	理上 3/4	口 13.3	高 7.6		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデか、高台は貼付。 5.5	
第629図 PL-41	4	須恵器 椀	理上 体部～高台部 1/3	底 6.8	高 6.7		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデか、高台は貼付。 6.8	
第629図 PL-41	5	灰釉陶器 椀	理上 口縁部～体部片	口 15.0			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第629図 PL-41	6	須恵器 羽釜	理上 口縁部～胴部片	口 19.6			細砂粒/還元焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形。罫は貼付。 22.0	
Ⅷ区2面12号溝									
第630図 PL-41	1	土師器 杯	底から11cm上 1/4	口 11.6	高 3.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへう削り。	
第630図 PL-41	2	須恵器 杯	理上 2/3	口 12.6	高 3.8		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第630図 PL-41	3	須恵器 椀	理上 口縁部～体部 1/3	口 13.4			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。 焼灰黄褐	
第630図 PL-41	4	須恵器 椀	底直上 体部～高台部 1/2	底 6.3	高 6.4		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。 6.4	
第630図 PL-41	5	須恵器 短頸壺	理上 口縁部～肩部	口 11.1			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。	
Ⅷ区2面2号溝									
第632図 PL-41	1	灰釉陶器 底部	理上 底部1/2	底 7.6			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へうナデ、高台は貼 付。施釉方法は刷毛塗り。	美ヶ丘1号窯 式期古段期。
第632図 PL-41	2	須恵器 埴輪	理上 口縁部片	口 16.0			不明/不明/灰黄	埴輪に転用。	
第632図 PL-41	3	灰釉陶器 壺	理上 胴部片				細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。胴部は回転へう削り。	
Ⅷ区2面6号溝									
第636図 PL-42	1	土師器 杯	理上 3/4	口 12.0	高 3.3		細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ、体部はナデで一部に指頭痕が残る。底部 は手持ちへう削り。	
第636図 PL-42	2	土師器 杯	理上 3/4	口 12.1	高 3.6		細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへう削り。	
第636図 PL-42	3	土師器 杯	理上 3/4	口 12.4	高 3.5		細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ、体部は指頭痕が残る。底部は手持ちへう 削り。	
第636図 PL-42	4	土師器 杯	理上 1/3	口 12.0			細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへう削り。 8.6	
第636図 PL-42	5	土師器 杯	理上 1/3	口 12.4	高 3.3		細砂粒/良好/に ぶい赤褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへう削り。 6.6	
第636図 PL-42	6	土師器 鉢	理上 口縁部片	口 19.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はへう削りか。	
第636図 PL-42	7	須恵器 杯	理上 3/4	口 13.5	高 4.0		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。 5.7	
第636図 PL-42	8	須恵器 杯	理上 1/3	口 13.0	高 3.2		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。 7.4	
第636図 PL-42	9	須恵器 杯	理上 1/3	口 13.4	高 4.1		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。 6.6	
第637図 PL-42	10	須恵器 椀	理上 1/2	口 15.3			細砂粒/還元焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付が 剥落。	



種別 PL_No.	No.	種類	出上位置 残存率	計測値			肌上/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第637図 PL-442	11	須忠器 検	埋土 1/2	口 底	12.6 6.6	高 4.2	細砂粒/酸化燐/灰 黄褐色	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第637図 PL-442	12	須忠器 検	埋土 1/3	口 底	16.4 8.2	台 高 7.6 5.1	細砂粒/還元燐/灰 白	ロク口整形。高台は貼付。	
第637図 PL-442	13	緑釉陶器 皿	埋土 破片	口 底	7.8 8.0	高 0.8	微砂粒/還元燐/灰 白	ロク口整形、回転方向不明。底部は回転ナデ、高台は貼付。	東海産10C.前半。
第637図 PL-442	14	緑釉陶器 皿	埋土 1/3	口 底	17.6 8.8	高 4.1	微砂粒/還元燐/灰 黄褐色	ロク口整形、回転方向不明。高台は削り出し。内外面とも全面施釉。	京都洛北。
第637図 PL-442	15	鉄製品 鎌	埋土 破片	長 幅	14.6 4.3	厚 重 0.8 39.08		柄装着部が細く斜めに折り曲げる鉄鎌。柄装着部から10cm程では大きく広がりが折れ曲がりその先は劣化破損する。錆表面には大小不定形な木質痕が顕化し埋もれている。	
X区2面10号溝									
第640図 PL-442	1	須忠器 検	埋土 3/4	口 底	13.0 6.0	高 4.3	細砂粒/還元燐/灰 白	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第640図 PL-442	2	須忠器 検	埋土 1/3	口 底	13.0 6.0	高 4.4	細砂粒/還元燐/灰 白	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
X区2面11号溝									
第640図 PL-442	3	黒色土器 検	埋土 底部のみ	口 底	5.2 5.0	高	細砂粒/酸化燐/内 ふい黄褐色	内面黒色処理。ロク口整形。底部は回転糸切り後高台を貼付。内面はへら磨き。	外面底部に墨書。
第640図 PL-442	4	須忠器 皿	埋土 3/4	口 底	14.6 7.4	台 高 7.2 3.5	細砂粒/還元燐/灰 白	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り後高台を貼付。	
第640図 PL-442	5	須忠器 杯	埋土 1/3	口 底	13.6 6.4	高 3.5	細砂粒/還元燐/灰 白	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第640図 PL-442	6	灰釉陶器 長頸壺	埋土 口縁部～胴部 3/4	口	10.6		微砂粒/還元燐/灰 白	ロク口整形、回転右回り。頸部と胴部は接合。施釉方法不明。	
第640図 PL-442	7	灰釉陶器 長頸壺	埋土 口縁部～頸部	口	9.6		微砂粒/還元燐/灰 白	ロク口整形、回転右回り。頸部と胴部は接合。施釉方法不明。	
V区3号土坑									
第641図 PL-442	1	鉄製品 釘	底から14cm上 一部欠損	長 幅	6.0 1.4	厚 重 0.9 6.78		断面長方形の角釘で頭は薄くして広げるが折り曲りは見られない。先端に向かい細くなり端部は劣化破損する。	
V区5号土坑									
第642図 PL-442	1	須忠器 杯	底から40cm上 完形	口 底	12.4 6.2	高 3.4	細砂粒/還元燐/灰 黄褐色	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。内外面に火障がみられる。	
第642図 PL-442	2	須忠器 杯	底から27cm上 1/4	口 底	14.0 8.2	高 3.1	細砂粒/酸化燐・ 燐/黄灰	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
V区16号土坑									
第643図 PL-443	1	鉄製品 釘	底から19cm上 一部欠損	長 幅	11.8 2.0	厚 重 2.0 18.54		断面ほぼ正方形の角釘で、先端に向かい細くなり尖る。頭は大きく丸い傘型。先端から5.5cm付近までの範囲に広葉樹材目跡跡が点々とみられる。	
第643図 PL-443	2	鉄製品 釘	底から5cm上 一部欠損	長 幅	4.9 1.4	厚 重 1.3 8.34		断面長方形の角釘で頭は薄くして広げますが折れ曲がる。先端に向かい細くなるが端部は劣化破損する。	
第643図 PL-443	3	鉄製品 釘	底から25cm上 一部欠損	長 幅	10.2 2.6	厚 重 2.9 28.90		断面ほぼ正方形の角釘で、先端に向かい細くなり先端は劣化破損する。頭は大きく丸い傘型。	
第643図 PL-443	4	鉄製品 釘	底から25cm上 一部欠損	長 幅	4.4 1.0	厚 重 0.9 4.92		断面ほぼ正方形の角釘で、頭はやや広がるが折れ曲げ等は見られない。先端側は劣化破損する。	
第643図 PL-443	5	鉄製品 釘	底から14cm上 ほぼ完形	長 幅	4.0 1.4	厚 重 1.4 7.04		断面ほぼ正方形の角釘で、頭はやや広がるが折れ曲げ等は見られない。頭から2cm程度で残りの字に曲がる。先端に向かい細くなり尖る。先端から5.5cmの範囲に広葉樹材目の木質痕跡が残る。	
第643図 PL-443	6	鉄製品 釘	底から17cm上 一部欠損	長 幅	4.9 1.3	厚 重 1.0 3.60		断面長方形の角釘。頭は薄く丸く広げ深く折れ曲げる。頭から3cmの付近に釘に直行する木質痕が見られる。先端側は劣化破損する。	
第643図 PL-443	7	鉄製品 釘	底から27cm上 一部欠損	長 幅	5.3 1.2	厚 重 1.0 6.94		断面長方形の角釘。頭は薄く広げ深く折れ曲げる。頭から4cm付近までに釘に直行する木質痕が見られるが不明瞭。	
第643図 PL-443	8	鉄製品 釘	底から13cm上 ほぼ完形	長 幅	6.7 2.3	厚 重 4.0 18.18		断面ほぼ正方形の角釘で、頭は丁の字形で頭から3cm付近での字に折れ曲がる。全体に厚く錆に覆われ本体は幾分なため詳細は不明。	
第643図 PL-443	9	鉄製品 釘	底から24cm上 破片	長 幅	1.9 2.2	厚 重 2.2 7.91		断面ほぼ正方形の角釘とみられる鉄製品破片。頭は大きく丸い傘型で頭から1.5cm程度で劣化破損する。	
第643図 PL-443	10	石製品 石製品	底から10cm上 完形	長 幅	29.6 19.2	厚 重 14.4 1090.0	二ツ房石	角柱状に丁寧に整形されている。部分的に平ノミ状の工具痕が認められる。6面全てが整形されており、古碑の礎石とは異なると思われる。	
V区29号土坑									
第645図 PL-443	1	土師器 杯	底から46cm上 完形	口 底	13.6 8.8	高 3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がへら削り。底部は手持ちへら削り。	
第645図 PL-443	2	土師器 杯	底から45cm上 ほぼ完形	口 底	12.0 8.8	高 3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、指頭痕が残る。底部は手持ちへら削り。	
第645図 PL-443	3	土師器 杯	底から39cm上 口縁部一部欠	口 底	12.3 8.0	高 3.4	細砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら削り。	内外面底部に「住」の墨書。
第645図 PL-443	4	土師器 杯	埋土 口縁部～体部下 破片	口 底	11.8		細砂粒/良好/に ぶい褐色	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら削り。	外面口縁部に墨書。

種別 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第645図 PL.443	5	黒色土器 杯	埋土 1/2	口 底	12.1 6.3	高 3.8	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。内面は口唇部を除きへら磨き。		
第645図 PL.443	6	灰釉陶器 椀	埋土 高台部片	口 底	6.5 6.0	高 3.8	微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形。高台は貼付。施釉方法は漬け掛けか。	大原2号窯式 期。	
V区34号土坑										
第646図 PL.443	1	土師器 杯	底から17cm上 1/2	口 底	10.4 6.0	高 6.2 3.8	細砂粒/良好/にぶ い赤黒	高台は貼付、口縁部は横ナデ、体部はへら削り、底部は砂底。		
V区43号土坑										
第646図 PL.443	2	須恵器 椀	埋土 3/4	口 底	12.4 7.0	高 6.4 4.3	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切りか、高台は貼付。		
V区59号土坑										
第648図 PL.443	1	鉄製品 釘	埋土 ほぼ完形	長 幅	4.8 1.0	厚 重	0.6 4.08	断面はほぼ正方形の角釘とみられ頭から1cm付近で緩やかに曲がる。全体に厚く錆に覆われ本体は脆弱なため詳細は不明。		
V区79号土坑										
第650図 PL.443	1	鉄製品 不詳	埋土 一部欠損	長 幅	4.8 0.8	厚 重	0.6 2.84	断面はほぼ正方形で、端部はやや丸みを持ち表裏。反対側は劣化破損する。材質等の確認は確認できない。		
V区94号土坑										
第651図 PL.443	1	鉄製品 不詳	底から17cm上 一部欠損	長 幅	13.1 2.4	厚 重	2.3 17.75	断面長方形の板状で内端に向かい細くし90度角度を変えてそれぞれループ状に曲がる。		
V区104号土坑										
第652図 PL.443	1	須恵器 杯	底直上 1/3	口 底	12.0 6.4	高 3.7	細砂粒/酸化塩/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。		
第652図 PL.443	2	石製品 砥石	底直上 完形	長 幅	6.9 4.9	厚 重	2.6 86.3	二ツ岳軽石	6面全てに丁寧な研削が認められ左右対称な形状に整形されている。正面及び裏面を砥面とする砥石と判断した。	
V区16号土坑										
第655図 PL.443	1	古瀬戸陶器 脚皿	埋土 底部片	口 底	— —	高 —	—	内面へらによる跡し目。		
V区18号土坑										
第655図 PL.443	2	須恵器 椀	底直上 口縁部～体部下 位片	口 底	15.0 —	—	—	細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形。	
V区25号土坑										
第656図 PL.443	1	須恵器 杯	底直上 1/2	口 底	8.4 4.2	高 1.7	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。底部は手持ちへら削り。		
V区20号土坑										
第659図 PL.443	1	須恵器 椀	底から13cm上 口縁部下位～高 台部1/2	口 底	7.7 7.2	高 —	—	細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転方向不明。底部切り難し技法は不明、高台は貼付。	
V区70号土坑										
第659図 PL.443	2	須恵器 椀	底から28cm上 3/4	口 底	13.6 7.2	高 6.8 5.4	細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。		
V区26号土坑										
第659図 PL.443	3	須恵器 椀	底から8cm上 1/3	口 底	6.8 6.4	高 —	—	細砂粒/酸化塩/灰 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。内面のロクロ口痕が明確に突る。	
V区27号土坑										
第660図 PL.443	1	土師器 甕	底から21cm上 口縁部～胴部上 位片	口 底	25.0 24.5	高 —	—	細砂粒・粗砂粒/ 良好/灰黄緑	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	
V区28号土坑										
第660図 PL.444	2	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	3.7 1.2	厚 重	0.6 3.05	断面台形に近い長方形の鉄製品で刃の対または某とも考えられるが錆化が著しく詳細は不明。		
V区32号土坑										
第660図 PL.444	3	須恵器 甕	底から12cm上 口縁部片	口 底	— —	高 —	—	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰 白	ロクロ整形。外面は降灰が厚く付着、内面はへらナデ。	
V区39号土坑										
第661図 PL.444	1	須恵器 羽釜	埋土 胴部下位～底部 片	口 底	— 9.2	高 —	—	細砂粒・粗砂粒/ 酸化塩/にぶい黄 橙	ロクロ整形。胴部と底部はへら削り。内面はへらナデ。	
V区40号土坑										
第661図 PL.444	2	須恵器 椀	底から12cm上 2/3	口 底	13.6 7.0	高 6.0 5.4	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。		
V区41号土坑										
第661図 PL.444	3	灰釉陶器 椀	埋土 口縁部片	口 底	14.4 —	高 —	—	細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
V区49号土坑										
第662図 PL.444	1	須恵器 杯	埋土 口縁部下位～底 部片	口 底	— 6.4	高 —	—	細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
V区51号土坑										
第663図 PL.444	1	須恵器 甕	埋土 口縁部片	口 底	— —	高 —	—	細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰 白	ロクロ整形。外面には波状文、内面はへらナデ。	2と同一個体 か。

Ⅷ区55号上坑

採掘 PL.No.	No.	種 類 種 種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第663Ⅷ	2	須臾器 甕	埋土 口縁部片				細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/黄灰	ロクロ整形。外面には波状文、内面はヘラナデ。	1と同一個体 か。
第663Ⅷ	3	須臾器 椀	埋土 口縁部中位～高 台部3/4	底 径	5.8 5.4		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	

Ⅷ区56号上坑

第664Ⅷ	1	須臾器 杯	埋土 底部片	底 径	7.2		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
-------	---	----------	-----------	--------	-----	--	----------------	--------------------------	--

Ⅷ区58号上坑

第664Ⅷ	2	須臾器 甕	底から9cm上 胴部片				細砂粒/還元焰/灰	外面には甲き痕がすかすかに残る。内面はヘラナデ。	
-------	---	----------	----------------	--	--	--	-----------	--------------------------	--

Ⅷ区63号上坑

第665Ⅷ PL.444	1	鉄製品 刀子	底から19cm上 ほぼ完形	長 幅	16.7 2.1	厚 重	1.5 53.38	横・対脚ともになだらかな間を持つ刀子。全体に厚く錆に 覆われ本体は脆弱なため詳細は不明。	
-----------------	---	-----------	------------------	--------	-------------	--------	--------------	---	--

Ⅷ区65号上坑

第665Ⅷ	2	須臾器 甕	埋土 頸部～胴部上位 片				細砂粒/還元焰/灰	頸部はナデ。胴部は力キ重。内面胴部は同心円状アテ痕が 残る。	
-------	---	----------	--------------------	--	--	--	-----------	-----------------------------------	--

Ⅷ区67号上坑

第666Ⅷ PL.444	1	土製品 土罐	底から33cm上 完形	長 幅	4.5 2.4	厚 重	2.2 17.5	微砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面はナデ。
-----------------	---	-----------	----------------	--------	------------	--------	-------------	------------------	--------

第666Ⅷ	2	土師器 杯	底から26cm上 口縁部～底部片	口 径	12.5			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、指頭痕が残る、底部は手持ち へら削り。
-------	---	----------	---------------------	--------	------	--	--	-----------------	--------------------------------------

Ⅷ区68号上坑

第666Ⅷ PL.444	3	須臾器 杯	底から25cm上 1/4	口 径	9.6 4.8	高	2.8	細砂粒/還元焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
-----------------	---	----------	-----------------	--------	------------	---	-----	-------------------	--------------------------

第666Ⅷ PL.444	4	鉄製品 鍔	埋土 一部欠損	長 幅	10.1 3.7	厚 重	2.0 26.41		覆又の鉄鍔。片方の先端は劣化破損。茎との境に向かいわ ずかに幅を広げ段を持つ。茎は2cm程で劣化破損する。
-----------------	---	----------	------------	--------	-------------	--------	--------------	--	--

Ⅷ区69号上坑

第666Ⅷ	5	須臾器 甕	底から19cm上 口縁部片	口 径	26.4			細砂粒/還元焰/に ぶい橙	ロクロ整形。罫は貼付。
-------	---	----------	------------------	--------	------	--	--	------------------	-------------

Ⅷ区74号上坑

第667Ⅷ PL.444	1	須臾器 椀	底から22cm上 1/3	口 径	14.0 6.2	高	5.4	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/明黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
-----------------	---	----------	-----------------	--------	-------------	---	-----	---------------------	--------------------------

第667Ⅷ PL.444	2	鉄製品 刀子	底から18cm上 一部欠損	長 幅	10.1 1.5	厚 重	2.0 10.70		横・対脚ともに明確な間を持つ刀子。先端は劣化破損。刃 は大きく弧を描くように曲がる。茎は厚く錆に覆われるた ため材質等の判断は確認できない。
-----------------	---	-----------	------------------	--------	-------------	--------	--------------	--	--

第667Ⅷ PL.444	3	土製品 埴口	底から8cm上	長 幅	9.3 8.4	厚 重	4.8 259.36		先端部片。内径約2.5cm、厚さ2.5～3.5cm。長方向に撫で 整形。胎土は粗砂粒。先端部は平坦に滑削。
-----------------	---	-----------	---------	--------	------------	--------	---------------	--	--

第667Ⅷ PL.444	4	土製品 埴口	底直上	長 幅	8.5 8.4	厚 重	4.8 190.98		体部片。内径約2.5cm、厚さ約2.5cm。長方向に撫で整形、 胎土は粗砂粒。
-----------------	---	-----------	-----	--------	------------	--------	---------------	--	--

Ⅷ区75号上坑

第667Ⅷ	5	須臾器 羽釜	底から5cm上 口縁部～罫部片	口 径	22.0 27.0			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/橙	ロクロ整形。罫は貼付。
-------	---	-----------	--------------------	--------	--------------	--	--	-------------------	-------------

Ⅷ区81号上坑

第668Ⅷ	1	灰土陶器 椀	埋土 口縁部～体部下 位片	口 径	14.8			微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形。撫削方法は潰け掛け。	大原2号窯式 削。
-------	---	-----------	---------------------	--------	------	--	--	----------------	------------------	--------------

第668Ⅷ	2	須臾器 椀	埋土 底部～高台部	底 径	5.8 5.8			細砂粒/還元焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。	
-------	---	----------	--------------	--------	------------	--	--	-------------------	----------------------------	--

Ⅷ区84号上坑

第669Ⅷ	1	須臾器 甕足付壶か	調査区一括 甕足片					細砂粒/還元焰/橙	罫部はへら削りにて面取りが行われている。罫部は磨略化 されている。
-------	---	--------------	--------------	--	--	--	--	-----------	--------------------------------------

Ⅷ区89号上坑

第669Ⅷ PL.444	2	土師器 杯	埋土 完形	口 径	11.8 8.4	高	3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ。底部は手持ちへら削り。
-----------------	---	----------	----------	--------	-------------	---	-----	----------	---------------------------

Ⅷ区92号上坑

第669Ⅷ PL.444	3	鉄製品 不詳	底から35cm上 破片	長 幅	6.1 0.9	厚 重	0.9 5.60		断面はほぼ正方形の角棒状鉄製品で端部は破損と考えられる が、厚く錆に覆われるため不明。
-----------------	---	-----------	----------------	--------	------------	--------	-------------	--	--

Ⅷ区104号上坑

第671Ⅷ	1	須臾器 椀	底から27cm上 口縁部下位～底 部	底 径	6.7 6.0			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。
-------	---	----------	--------------------------	--------	------------	--	--	----------------	----------------------------

Ⅷ区134号上坑

第674Ⅷ PL.444	1	鉄製品 釘	底直上 ほぼ完形	長 幅	6.3 1.4	厚 重	1.1 14.05		断面はほぼ正方形の角釘。頭は角形で先端に向い細くなり尖 る。錆に覆われるため木質等の判断は確認できない。
-----------------	---	----------	-------------	--------	------------	--------	--------------	--	---

Ⅷ区141号上坑

第674Ⅷ	2	須臾器 羽釜	底から7cm上 口縁部～罫部片	口 径	21.8 25.4			細砂粒/還元焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形。罫は貼付。
-------	---	-----------	--------------------	--------	--------------	--	--	-------------------	-------------

Ⅷ区163号上坑

第674Ⅷ	3	鉄滓 流動滓	埋土	長 短	6.5 5.5	厚 重	3.5 116.80		外面は黒灰色。下面に割理片が付着。流動性の高い流動滓。	構成No76
-------	---	-----------	----	--------	------------	--------	---------------	--	-----------------------------	--------

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第674図	4	須恵器 杯	理上 口縁部下位～底 部1/2	底	7.0		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。		
Ⅷ区142号土坑										
第675図	1	須恵器 杯	理上 口縁部～体部下 位片	口	6.2		細砂粒/酸化焰/に ぶい赤褐	ロクロ整形か。		
Ⅷ区155号土坑										
第675図 PL.444	2	須恵器 杯	底直上 口縁部一部欠	口	9.6 4.7	高	3.2 明 黄褐	細砂粒/酸化焰/明 黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
Ⅷ区162号土坑										
第676図 PL.444	1	須恵器 碗	底から8cm上 1/3	口	9.0 4.6	台 高	5.0 4.2	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
Ⅷ区169号土坑										
第676図	2	須恵器 碗	底から60cm上 1/3	口	12.9 6.7	台 高	6.0 4.5	細砂粒・粗砂粒・ 粗粒/酸化焰/にぶ い黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第676図 PL.444	3	須恵器 杯	底から40cm上 完形	口	8.8 4.6	高	2.3	細砂粒/酸化焰/浅 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
Ⅷ区170号土坑										
第677図 PL.444	1	鉄製品 釘	底から51cm上 ほぼ完形	長	6.0	厚	1.1 10.07		断面はほぼ正方形の角釘。頭は幅広く広げ折り曲げる。先端 に向い細くなり尖る。先端付近で曲がる。錆に覆われ木質 等の痕跡は確認できない。	
Ⅷ区175号土坑										
第677図	2	須恵器 碗	底から23cm上 底部～高台部	底	6.6			細砂粒/酸化焰/灰 黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第677図	3	須恵器 皿	底から20cm上 1/4	口	11.2 5.8	台 高	7.1 2.9	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。	
第677図 PL.444	4	須恵器 杯	底から10cm上 口縁部～体部下 位1/3	口	10.0			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄	ロクロ整形。	
Ⅷ区189号土坑										
第679図	1	須恵器 杯	理上 1/3	口	9.4 5.1	高	2.0	細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部切り難し技法は不明。	
第679図 PL.444	2	鉄製品 釘	底直上 一部欠損	長	8.2 1.3	厚	1.6 12.13		断面はほぼ正方形の角釘。頭は角形で先端に向い細くなり端 部は劣化破損する。木質等の痕跡は見られない。	
Ⅷ区203・204号土坑										
第679図	3	須恵器 碗	理上 口縁部中位～底 部1/3	底	7.5 6.9			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 褐	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
Ⅷ区206号土坑										
第680図	1	須恵器 杯	理上 口縁部～底部1/2	口	9.7			細砂粒/酸化焰/に ぶい黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
Ⅷ区208号土坑										
第680図	2	須恵器 碗	底から28cm上 口縁部下位～高 台部	底	6.2 7.0			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄	ロクロ整形、回転右回りか。底部切り難し技法は不明、高 台は貼付。	
Ⅷ区210号土坑										
第680図	3	須恵器 杯	理上 口縁部～底部片	口	15.2 7.0	高	4.1	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
Ⅷ区213号土坑										
第680図	4	須恵器 羽釜	底から19cm上 口縁部～胴部上 位片	口	29.0 32.0	跨		細砂粒/酸化焰/明 赤褐	ロクロ整形。跨は貼付。胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラ ナデ。	
Ⅷ区3号土坑										
第681図	1	灰釉陶器 段皿	理上 体部中位～高台 部片	底	8.0 7.8			微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形。高台は貼付。施釉方法不明。	大原2号窯式 期。
第681図	2	須恵器 羽釜	理上 口縁部～胴部上 位片	口	22.0 27.6	跨		細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形。跨は貼付。胴部はヘラ削りか。	
Ⅷ区9号土坑										
第681図 PL.444	3	鉄製品 釘	理上 ほぼ完形	長	6.5 1.2	厚	1.0 8.41		断面はほぼ正方形の角釘。頭は薄く広く延ばし深く折り曲げ る。先端近くでわずかに曲がる。先端は破損の可能性有 るが表面は硬い。錆に覆われ不明。	
Ⅷ区18号土坑										
第683図 PL.444	1	鉄製品 不詳	底から27cm上 一部欠損	長	14.1 0.9	厚	0.9 9.11		断面やや丸みを持つ角形の棒状鉄製品。端部に向かいやや 厚を減じ端部は薄くくの字に折れ曲がる。他の端部は劣化 破損する。	
第683図 PL.444	2	鉄製品 不詳	底から27cm上 破片	長	9.6 1.2	厚	1.1 12.22		断面やや丸みを持つ角形の棒状鉄製品。両端とも劣化破損 する。	

Ⅷ区22号上坑

採回 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第683Ⅷ PL.444	3	鉄製品 鏝	埋上 一部欠損	長 幅	8.9 2.1	厚 重	1.2 23.65		先端が劣化破損する鉄鏝。先端の断面は薄い菱形、茎に向かい急に広がり茎を一周する段を持つ。茎は2.5cm程で角形で終わり破損の可能性が有るが表面は厚く錆に覆われ不明。

Ⅷ区23号上坑

第683Ⅷ PL.445	4	須恵器 杯	埋上 1/4	口 底	8.3 3.9	高 重	2.1	細砂粒/酸化燼/浅 黄橙	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
-----------------	---	----------	-----------	--------	------------	--------	-----	-----------------	--------------------------	--

Ⅷ区33号上坑

第685Ⅷ PL.445	1	鉄製品 不詳	底直上 破片	長 幅	3.0 0.9	厚 重	0.6 2.22		断面長方形の鉄製品破片。錆化により本体は空洞化し脆弱なため詳細は不明。
-----------------	---	-----------	-----------	--------	------------	--------	-------------	--	-------------------------------------

Ⅷ区35号上坑

第685Ⅷ PL.445	2	鉄製品 釘	埋上 ほぼ完形	長 幅	5.9 1.0	厚 重	0.9 5.76		断面長方形の角釘と見られる鉄製品。木質等の痕跡は見られない。
-----------------	---	----------	------------	--------	------------	--------	-------------	--	--------------------------------

Ⅷ区57号上坑

第687Ⅷ PL.445	1	灰釉陶器 皿	埋上 口縁部一部欠	口 底	13.5 7.0	台 高	6.6 2.9	微砂粒/還元燼/灰 白	ロク口整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
-----------------	---	-----------	--------------	--------	-------------	--------	------------	----------------	--	--------------

Ⅷ区2号上坑

第690Ⅷ	1	須恵器 碗	埋上 口縁部～体部下 位片	口 底	15.0			細砂粒・粗砂粒/ 還元燼/灰黄	ロク口整形。	
-------	---	----------	---------------------	--------	------	--	--	--------------------	--------	--

Ⅷ区12号上坑

第691Ⅷ	1	須恵器 杯	底から9cm上 底部片	底 高	6.0			細砂粒/酸化燼/に ぶい黄橙	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
-------	---	----------	----------------	--------	-----	--	--	-------------------	--------------------------	--

Ⅷ区20号上坑

第692Ⅷ	1	黒色土器 碗	埋上 口縁部下位～高 台部片	底 台	6.0 6.2			細砂粒/酸化燼/に ぶい黄橙	内面黒色処理。ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
-------	---	-----------	----------------------	--------	------------	--	--	-------------------	-----------------------------------	--

Ⅷ区25号上坑

第693Ⅷ	1	須恵器 杯	埋上 口縁部下位～底 部片	底 高	5.0			細砂粒/酸化燼/浅 黄	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
-------	---	----------	---------------------	--------	-----	--	--	----------------	--------------------------	--

Ⅷ区28号上坑

第693Ⅷ	2	須恵器 碗	底から5cm上 底部片	底 高	6.2 6.1			細砂粒/還元燼/灰 白	ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
-------	---	----------	----------------	--------	------------	--	--	----------------	----------------------------	--

Ⅷ区31号上坑

第694Ⅷ	1	灰釉陶器 碗	埋上 口縁部片	口 底	13.8			微砂粒/還元燼/灰 白	ロク口整形。体部下位は回転ヘラ削り。施釉方法不明。	大原2号窯式 期。
-------	---	-----------	------------	--------	------	--	--	----------------	---------------------------	--------------

Ⅷ区34号上坑

第694Ⅷ	2	黒色土器 碗	底直上 体部～底部片	底 高	8.4 8.4			細砂粒/酸化燼/粗 黄	内面黒色処理や、二次焼結により喫炎が消失。ロク口整形、回転右回りか。底部はナデ、高台は貼付。内面はヘラ磨き。	
-------	---	-----------	---------------	--------	------------	--	--	----------------	--	--

Ⅷ区40号上坑

第694Ⅷ	3	須恵器 平瓶	底から6cm上 口縁部片	口 底	6.8			細砂粒・粗砂粒・ 長石粒/還元燼/灰 白	口縁部は割部に貼付。ロク口整形、回転右回り。	
-------	---	-----------	-----------------	--------	-----	--	--	----------------------------	------------------------	--

Ⅷ区38号上坑

第694Ⅷ	4	灰釉陶器 碗	埋上 口縁部下位～高 台部片	底 台	8.4 8.0			微砂粒/還元燼/灰 白	ロク口整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法不明。	大原2号窯式 期。
-------	---	-----------	----------------------	--------	------------	--	--	----------------	-------------------------------------	--------------

Ⅷ区42号上坑

第695Ⅷ	1	須恵器 杯	底直上 口縁部～底部 1/4	口 底	9.1 6.2	高 重	2.5	細砂粒・粗砂粒/ 酸化燼/にぶい黄 橙	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
-------	---	----------	----------------------	--------	------------	--------	-----	---------------------------	--------------------------	--

Ⅷ区43号上坑

第695Ⅷ PL.445	2	須恵器 杯	埋上 1/2	口 底	13.2 7.8	高 重	4.3	細砂粒・粗砂粒・ 褐粒/酸化燼/粗 黄	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
-----------------	---	----------	-----------	--------	-------------	--------	-----	---------------------------	--------------------------	--

Ⅷ区43号上坑

第697Ⅷ PL.445	1	須恵器 杯	埋上 完形	口 底	8.5 5.6	高 重	2.5	細砂粒・濁粒/酸 化燼/浅黄	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
-----------------	---	----------	----------	--------	------------	--------	-----	-------------------	--------------------------	--

Ⅷ区44号上坑

第697Ⅷ PL.445	2	須恵器 杯	埋上 口縁部一部欠	口 底	9.4 5.4	高 重	2.4	細砂粒・濁粒/酸 化燼/にぶい黄橙	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
-----------------	---	----------	--------------	--------	------------	--------	-----	----------------------	--------------------------	--

Ⅷ区45号上坑

第697Ⅷ PL.445	3	須恵器 杯	埋上 1/2	口 底	8.2 5.6	高 重	1.9	細砂粒/酸化燼/灰 白	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
-----------------	---	----------	-----------	--------	------------	--------	-----	----------------	--------------------------	--

Ⅷ区46号上坑

第697Ⅷ PL.445	4	須恵器 杯	埋上 3/4	口 底	11.1 5.2	高 重	3.9	細砂粒/酸化燼/に ぶい黄橙	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
-----------------	---	----------	-----------	--------	-------------	--------	-----	-------------------	--------------------------	--

Ⅷ区47号上坑

第697Ⅷ PL.445	5	須恵器 杯	埋上 1/3	口 底	11.6 4.8	高 重	3.5	細砂粒/酸化燼/浅 黄	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
-----------------	---	----------	-----------	--------	-------------	--------	-----	----------------	--------------------------	--

Ⅷ区48号上坑

第697Ⅷ	6	須恵器 杯	埋上 1/3	口 底	11.6 5.4	高 重	3.7	細砂粒/酸化燼/に ぶい黄橙	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
-------	---	----------	-----------	--------	-------------	--------	-----	-------------------	--------------------------	--

Ⅷ区49号上坑

第697Ⅷ	7	須恵器 杯	埋上 1/4	口 底	11.0 5.0	高 重	3.4	細砂粒/酸化燼/に ぶい黄橙	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
-------	---	----------	-----------	--------	-------------	--------	-----	-------------------	--------------------------	--

Ⅷ区50号上坑

第697Ⅷ	8	須恵器 杯	埋上 口縁部～底部片	口 底	12.6 5.2	高 重	3.4	細砂粒/酸化燼/黄 灰	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
-------	---	----------	---------------	--------	-------------	--------	-----	----------------	--------------------------	--

Ⅷ区51号上坑

第697Ⅷ	9	須恵器 杯	埋上 口縁部～体部下 位	口 底	11.6			細砂粒/酸化燼/に ぶい黄橙	ロク口整形。	
-------	---	----------	--------------------	--------	------	--	--	-------------------	--------	--

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第697図	10	須恵器 杯	埋上 口縁部～体部中 位1/4	口	14.6		細砂粒/酸化燼/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。		
第697図	11	須恵器 杯	埋上 体部中位～底部 1/2	底	5.6		細砂粒/酸化燼/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転系切り無調整。		
第697図 PL-445	12	須恵器 椀	埋上 2/3	口 底	13.2 7.4	台 高	7.4 5.1	細砂粒/還元燼/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転系切り後高台を貼付。	
第697図	13	須恵器 椀	埋上 口縁部～体部下 位片	口	14.8 8.4			細砂粒/還元燼/灰 白	ロクロ整形。高台は貼付。	内外面の口唇 部に付着部 有。
第697図	14	須恵器 椀	埋上 体部下位～高台 部片	底	6.6 6.2			細砂粒/酸化燼/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転系切り後高台を貼付。	
第697図	15	須恵器 椀	埋上 体部下位～高台 部片	底 台	6.8 6.9			細砂粒/酸化燼/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転系切り後高台を貼付。	
第697図	16	須恵器 椀	埋上 脚部1/4	脚	10.6			細砂粒/還元燼/灰 白	ロクロ整形。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第697図	17	須恵器 脚付鉢	埋上 脚部片	脚	14.6			細砂粒・粗砂粒/ 還元燼/灰白	ロクロ整形。脚部は貼付。	
第697図	18	灰釉陶器 皿	埋上 体部下位～高台 部1/2	底	7.5 6.6			微砂粒/還元燼/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法不明。	大原2号窯式 期。
第697図	19	土師器 甕	埋上 口縁部～胴部上 位片	口	27.7			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第697図	20	須恵器 羽釜	埋上 口縁部～胴部上 位片	口 脚	20.8 26.0			細砂粒/酸化燼/灰 黄	ロクロ整形。脚は貼付。胴部はヘラ削り。	
第697図 PL-445	21	土製品 土鉢	埋上 端部一部欠	長 幅	4.2 1.5	孔 重	0.4 9.2	微砂粒/良好/橙	外面はナデ。	
D区45号土坑										
第697図	22	須恵器 甕	底から25cm上 口縁部上位～頸 部	頸	28.0			細砂粒・粗砂粒/ 還元燼/灰	頸部にて胴部と口縁部を接合。口縁部はロクロ整形。胴部 整形は不明。	
D区46号土坑										
第698図	1	須恵器 杯	底から49cm上 口縁部中位～底 部1/2	底	4.8			細砂粒/酸化燼/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第698図	2	須恵器 杯	底から41cm上 口縁部中位～底 部	底	4.8			細砂粒/酸化燼/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第698図	3	須恵器 椀	底から46cm上 体部下位～高台 部片	底 台	6.2 7.6			細砂粒/酸化燼/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。	
第698図	4	灰釉陶器 皿	底から46cm上 口縁部片	口	11.6			微砂粒/還元燼/灰 白	ロクロ整形。施釉方法不明。	虎渡山1号窯 式期か。
第698図	5	灰釉陶器 長頸壺	底から47cm上 胴部片	胴	15.0			微砂粒/還元燼/灰 白	ロクロ整形。胴部下半は回転ヘラ削り。	東遺産10C。 代。
第698図	6	須恵器 羽釜	底から60cm上 口縁部片	口 脚	19.6 22.2			細砂粒/酸化燼/灰 黄橙	ロクロ整形。脚は貼付。	
D区50号土坑										
第698図	7	須恵器 杯	埋上 口縁部～底部 1/4	口 底	8.8 5.6	高	2.3	細砂粒/酸化燼/に ぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
X区10号土坑										
第700図 PL-445	1	須恵器 皿	埋上 1/3	口 底	13.6 7.8	台 高	7.6 2.5	細砂粒/酸化燼/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転系切り後高台を貼付。	
X区27号土坑										
第701図 PL-445	1	緑釉陶器 皿か椀	埋上 底部片	底	6.0			微砂粒/還元燼/灰 白	ロクロ整形。底部は回転ヘラナデ、高台は削り出し。施釉 は内外面すべてに行われている。	京都洛北産。
X区50号土坑										
第703図 PL-445	1	須恵器 杯	埋上 3/4	口 底	13.0 6.2	高	3.5	細砂粒・粗砂粒/ 還元燼/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
D区8号土坑										
第706図 PL-445	1	龍泉京系 青磁碗	埋上 口縁部片	口 底	— —	高	—	夾雑物ほとんど含 まない。/灰白/	内面無文。口縁部内面片彫りによる2条の横線。体部内面 裏による施文。青磁釉に粗い貫入入る。口縁部に輪花ない。	12世紀中葉～ 後葉。
第706図 PL-445	2	鉄製品 不詳	底から24cm上 破片	長 幅	4.5 2.3	厚 重	0.7 7.84		不定形をした薄い板状の鉄製品。周囲は波打つように曲が り破損後錆化の可能性はある。	
D区35号土坑										
第709図	1	砂曜	底から21cm上	長 短	8.9 5.7	厚 重	2.8 76.28		内面はガラス質に珪化。外面は還元色。胎土はスサを大量 に含む。	焼成No.39

種別 PL.No.	No.	種類	出上位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第709図	2	鉄洋 流動洋	底直上	長 短	13.4 9.8	厚 重	7.2 119.30	外面が紫黒色の流動性の高い流動洋。洋質密。比重が高い。上面は流れ皺が生じている。断面は光沢がある灰褐色。底構成No42面が弧状。	
Ⅷ区37号土坑									
第709図	3	鉄洋 流動洋	理上	長 短	7.6 10.4	厚 重	5.3 287.29	外面が紫黒色の流動性の高い流動洋。洋質密。比重が高い。上面は流れ皺が生じている。断面は光沢がある灰褐色。底構成No44面にカマ型片を含む土砂が付着。	
Ⅷ区53号土坑									
第711図	1	鉄洋 中内洋	理上	長 短	7.8 6.4	厚 重	4.7 243.09	洋質は密で、酸化した小鉄塊が内在する。木炭跡あり。	構成No41
Ⅷ区60号土坑									
第712図	1	鉄製品 釜?	理上 破片	長 幅	6.7 1.4	厚 重	0.8 11.43	断面長方形で似た形状の鉄製品。木質等の痕跡は確認できないが破損した釜の可能性が有る。	
Ⅷ区76号土坑									
第714図 PL.445	1	鉄製品 不詳	理上 破片	長 幅	3.3 1.8	厚 重	2.5 10.19	断面丸形の棒状鉄製品をねじりながらループ状に曲げられている。両端とも劣化破損する。	
Ⅷ区1号蔵治									
第718図	1	土師器 杯	底から36cm上 口縁部片	口	11.8			細砂粒/軟質/橙	口縁部は横ナデ、体部は器面磨滅のため不明。
第718図 PL.445	2	黒色土師 碗	検出面から8cm 上 2/3	口 底	14.6 8.0	台 高	8.2 6.4	細砂粒/酸化塩/い ぶい赤褐色	内外面とも黒色土理か、二次焼成により吸灰が消失。ロウ口整形。底面回転糸切り後高台を貼付。口縁部から体部はヘラ磨き。
第718図	3	須恵器 杯	理上 口縁部1/2	口	11.8			細砂粒/還元塩/灰 白	ロウ口整形。回転右回り。
第718図	4	須恵器 杯	理上 口縁部下部～底 部	底	8.2			細砂粒/還元塩/灰 白	ロウ口整形。回転右回り。底部は回転ヘラ起こし。
第718図	5	須恵器 杯	底から33cmと 44cm上が接合 口縁部下部～底 部	底	7.0			細砂粒/還元塩/灰	ロウ口整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第718図	6	須恵器 杯	底直上 口縁部～口縁部 中位片	口	12.8			細砂粒/還元塩/灰	ロウ口整形。回転右回り。天井部は中程まで回転ヘラ削り。
第718図 PL.445	7	須恵器 碗	底から9cm上 口縁部一部欠	口 底	14.6 7.5	台 高	9.2 7.2	細砂粒/酸化塩/浅 黄橙	ロウ口整形。回転右回り。底部は回転ナデ。高台は貼付。
第718図 PL.445	8	土製品 臼口	底から10cm上	長 幅	8.9 8.6	厚 重	10.8 528.31		分析資料No10参照
第718図 PL.445	9	土製品 臼口	底から30cm上	長 幅	11.1 7.8	厚 重	8.6 351.86		先端部から基部片。先端部下半、体部上半、基部欠損。内径約2.5cm。指頭圧痕あり。胎土は粗砂粒。先端部は平坦に溶指。
第718図 PL.445	10	土製品 臼口	底から21cm上	長 幅	7.6 8.0	厚 重	9.3 281.29		先端部片。下半は欠損。内径約2～2.5cm。厚さ約2～3cm。胎土は粗砂粒。先端部は平坦に溶指。
第718図 PL.445	11	土製品 臼口	底から23cm上	長 幅	9.6 11.0	厚 重	8.2 489.55		先端部から体部片。内径約2～2.5。厚さ約2～3cm。長方向に撫で整形。送風角度はほぼ水平。先端部は平坦に溶指。
第718図 PL.445	12	土製品 臼口	底直上	長 幅	11.0 6.8	厚 重	7.2 419.21		先端部から体部片。内径約2.5cm。厚さ約2cm。長方向に撫で整形。送風角度は約15°。先端部は平坦に溶指。
第718図 PL.445	13	土製品 臼口	底から23cm上	長 幅	11.0 7.0	厚 重	6.9 490.36		先端部から体部。基部欠損。内径約2～2.5cm。厚さ約2～2.5cm。長方向に撫で整形。指頭圧痕あり。胎土は粗砂粒。基部は凸状に溶指。
第718図 PL.445	14	土製品 臼口	検出面から16cm 上	長 幅	8.3 7.3	厚 重	7.4 338.70		基部片。内径約2.5cm。厚さ約2～3cm。基部は押圧痕あり。ラッパ状に成形。胎土は粗砂粒。基部を先端部として使用か。
第718図 PL.445	15	土製品 臼口	底から64cm上	長 幅	6.9 7.9	厚 重	2.6 275.03		先端部片。内径約2cm。厚さ約2～3cm。胎土は粗砂粒。送風角度は約5°。先端部は平坦に溶指。
第718図 PL.445	16	土製品 臼口	底から12cm上	長 幅	7.9 8.2	厚 重	6.3 286.70		先端部片。内径約2cm。厚さ約2～2.5cm。長方向に撫で整形。胎土は粗砂粒。送風角度は約15°。先端部は平坦に溶指。
第718図 PL.445	17	土製品 臼口	底から34cm上	長 幅	7.2 5.9	厚 重	3.7 309.04		先端部片。厚さ約2cm。先端部は平坦に溶指。
第718図 PL.445	18	土製品 臼口	検出面から14cm 上	長 幅	8.0 8.8	厚 重	8.3 274.81		先端部片。内径約2cm。厚さ約2～3cm。長方向に撫で整形。胎土は粗砂粒。送風角度は約5°。先端部は平坦に溶指。
第718図 PL.445	19	土製品 臼口	検出面から14cm 上	長 幅	12.3 7.7	厚 重	5.7 393.70		先端部から体部片。内径約2.5cm。厚さ約1.5～3cm。長方向に撫で整形。胎土は粗砂粒。先端部はほぼ水平。
第719図 PL.446	20	土製品 臼口	底から12cm上	長 幅	13.4 7.5	厚 重	8.1 544.06		ほぼ完形。内径約2cm。厚さ約2～2.5cm。体部に指頭圧痕あり。基部に押圧痕あり。ラッパ状に成形。胎土は粗砂粒。送風角度はほぼ水平。先端部は平坦に溶指。
第719図 PL.446	21	土製品 臼口	検出面から6cm 上	長 幅	6.0 9.0	厚 重	8.6 275.82		分析資料No11参照
第719図 PL.446	22	土製品 臼口	底直上	長 幅	8.7 7.5	厚 重	7.3 259.05		ほぼ完形。内径約3cm。厚さ約1～2cm。指頭圧痕あり。胎土は粗砂粒。送風角度は約5°。先端部は平坦に溶指。基部側も先端部として使用。

種別 PL-No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第719期 PL-446	23	土製品 臼口	底直上	長 13.2 幅 8.3	厚 7.5 重 526.30		ほぼ完成。内径約2.5cm、厚さ約2cm。体部に指頭圧痕あり。基部に押圧痕あり。内径を保ったまま器厚を薄く成形。送風角度は約30°。先端部は平坦に溶指。	構成No133
第719期 PL-446	24	土製品 臼口	底から20cm上	長 7.8 幅 7.0	厚 8.5 重 315.07		ほぼ完成。先端部下が欠損。内径約2.5cm、厚さ約1.5～2cm。基部に押圧痕あり。ややラッパ状に開く成形。胎土は粗粒。先端部は凸状に溶指。	構成No134
第719期 PL-446	25	土製品 臼口	底から8cm上	長 11.9 幅 7.3	厚 7.0 重 445.02		ほぼ完成。内径約2.5cm、厚さ約1.5～2cm。長方向に撫で整形。指頭圧痕あり。基部に押圧痕あり。内径を保ったまま器厚を薄く成形。胎土は粗粒。送付角度はほぼ水平。先端部は平坦に溶指。	構成No135
第719期 PL-446	26	土製品 臼口	底から25cm上	長 7.6 幅 7.6	厚 3.2 重 120.86		先端部から基部片。基底部は押圧痕あり。内径約3cm、厚さ約1.5。ラッパ状に成形。胎土は粗粒。送風角度は約15°。水平に溶指。	構成No136
第719期 PL-446	27	土製品 臼口	底から6cm上	長 13.5 幅 8.4	厚 6.7 重 634.90		先端部から基部。基底部欠損。内径約2.5cm、厚さ約1～2cm。体部に指頭圧痕あり。基部に押圧痕あり。ややラッパ状に成形。胎土は粗粒。先端部は凸状に溶指。	構成No137
第719期 PL-446	28	土製品 臼口	底直上	長 10.6 幅 6.9	厚 6.6 重 341.14		ほぼ完成。内径約2.5cm、厚さ約1.5～2cm。指頭圧痕あり。基部に押圧痕あり。ややラッパ状に成形。胎土は粗粒。先端部は凸状に溶指。	構成No138
第719期 PL-446	29	土製品 臼口	底から16cm上	長 11.9 幅 6.7	厚 6.5 重 391.00		ほぼ完成。内径約2.5cm、厚さ約1～2cm。指頭圧痕あり。胎土は粗粒。基部に押圧痕あり。ややラッパ状に成形。先端部は凸状に溶指。	構成No139
第719期 PL-446	30	土製品 臼口	底から8cm上	長 11.9 幅 6.4	厚 6.5 重 386.85		ほぼ完成。内径約2cm、厚さ約1～2cm。指頭圧痕あり。胎土は粗粒。基部に押圧痕あり。ややラッパ状に成形。先端部は凸状に溶指。	構成No140
第719期 PL-446	31	土製品 臼口	底直上	長 9.6 幅 5.8	厚 5.8 重 192.88		分析資料No12参照	構成No141 分析資料編12
第719期 PL-446	32	土製品 臼口	底直上	長 9.8 幅 6.8	厚 6.5 重 254.02		先端部片。内径約2～2.5cm、厚さ約1.5～2cm。指頭圧痕あり。胎土は粗粒。基部に押圧痕あり。ややラッパ状に成形。先端部は凸状に溶指。	構成No142
第719期 PL-446	33	土製品 臼口	輸出面から8cm上	長 12.6 幅 6.9	厚 5.8 重 315.25		先端部から基部片。内径約2.5cm、厚さ約1.5～2cm。指頭圧痕あり。胎土は粗粒。基部に押圧痕あり。ラッパ状に成形。	構成No143
第719期 PL-446	34	土製品 臼口	底から17cm上	長 8.3 幅 6.2	厚 3.2 重 129.86		先端部片。厚さ約2cm、指頭圧痕あり。胎土は粗粒。成形。	構成No144
第719期 PL-446	35	土製品 臼口	底から19cm上	長 9.8 幅 5.2	厚 3.2 重 82.72		先端部片。厚さ約1.5～2cm。指頭圧痕あり。胎土は粗粒。先端部は凸状に溶指。	構成No145
第719期 PL-446	36	土製品 臼口	底から24cm上	長 9.3 幅 5.9	厚 2.7 重 97.00		臼口全体の先端部どうしが融着している。厚さ約1.5～2cm。胎土は粗粒。	構成No146
第719期 PL-446	37	土製品 臼口	底から27cm上	長 5.3 幅 7.1	厚 3.4 重 78.18		先端部片。内径約2～3cm、厚さ約2cm。胎土は粗粒。先端部は平坦に溶指。	構成No147
第719期 PL-446	38	土製品 臼口	底から25cm上	長 5.8 幅 5.0	厚 2.8 重 74.18		先端部片。厚さ約2cm、胎土は粗粒。	構成No148
第719期 PL-446	39	土製品 臼口	底直上	長 10.6 幅 5.7	厚 2.8 重 149.13		先端部片。厚さ約2cm、胎土は粗粒。	構成No149
第719期 PL-446	40	土製品 臼口	底から70cm上	長 7.6 幅 4.5	厚 6.3 重 133.88		先端の頸部。内径約2cm、厚さ約1.5cm。胎土は粗粒。椀形鍛冶滓が付着している。	構成No150
第719期 PL-446	41	土製品 臼口	底から11cm上	長 6.5 幅 5.6	厚 2.8 重 67.40		先端部片。厚さ約1.5cm、胎土は粗粒。	構成No151
第720期 PL-446	42	土製品 臼口	底から82cm上	長 4.1 幅 5.8	厚 3.7 重 63.43		先端部片。厚さ約2cm、胎土は粗粒。基部側を先端部として使用か。	構成No152
第720期 PL-446	43	土製品 臼口	底から77cm上	長 6.6 幅 5.1	厚 2.4 重 58.10		先端部片。厚さ約1.5cm。長方向に撫で整形。胎土は粗粒。	構成No153
第720期 PL-446	44	土製品 臼口	底から40cm上	長 6.7 幅 5.2	厚 2.7 重 62.97		先端部片。厚さ約1.5cm。指頭圧痕あり。先端部は凸状に溶指。	構成No154
第720期 PL-446	45	土製品 臼口	底から41cm上	長 5.3 幅 3.8	厚 4.3 重 52.24		先端部片。厚さ約1.5cm。胎土は粗粒。先端部は凸状に溶指。	構成No155
第720期 PL-446	46	土製品 臼口	底直上	長 5.9 幅 6.8	厚 3.0 重 82.23		先端部片。厚さ約2cm。胎土は粗粒。筋が滲み出した小鉄塊が付着。	構成No156
第720期 PL-446	47	土製品 臼口	底から32cm上	長 6.0 幅 8.6	厚 3.2 重 137.04		先端部片。厚さ約2cm、胎土は粗粒。椀形鍛冶滓の一部が付着している。	構成No157
第720期 PL-446	48	土製品 臼口	底直上	長 4.7 幅 6.5	厚 6.8 重 129.28		先端の頸部。厚さ約1.5cm。胎土は粗粒。椀形鍛冶滓が付着している。	構成No158
第720期 PL-446	49	土製品 臼口	底から25cm上	長 8.4 幅 5.2	厚 2.5 重 69.70		先端部片。厚さ約1.5cm。指頭圧痕あり。胎土は粗粒。先端部は凸状に溶指。	構成No159
第720期 PL-446	50	土製品 臼口	底から11cm上	長 6.0 幅 6.5	厚 3.6 重 91.14		先端部片。内径約2.5cm、厚さ約2cm、胎土は粗粒。先端部は凸状に溶指。	構成No160
第720期 PL-446	51	土製品 臼口	底から6cm上	長 7.2 幅 5.7	厚 2.7 重 72.50		先端部片。厚さ約2～2.5cm。指頭圧痕あり。胎土は粗粒。先端部は凸状に溶指。	構成No161
第720期 PL-446	52	土製品 臼口	底から18cm上	長 7.8 幅 6.2	厚 3.2 重 107.90		先端部片。厚さ約2.5cm。長方向に撫で整形。胎土は粗粒。椀形鍛冶滓が付着。	構成No162
第720期 PL-446	53	土製品 臼口	底から5cm上	長 5.1 幅 5.5	厚 2.8 重 63.85		先端部片。厚さ約1.5cm。胎土は粗粒。先端部は凸状に溶指。	構成No163
第720期 PL-446	54	土製品 臼口	底から29cm上	長 5.0 幅 5.5	厚 2.2 重 49.89		先端部片。厚さ約1.5cm。胎土は粗粒。先端部は凸状に溶指。	構成No164



種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第7209R PL-446	55	土製品 器口	底から7cm上	長 9.5 幅 6.9	厚 3.9 重 170.65		基部片。厚さ約2.5cm。体部は長方向に曲で整形。基部に押圧痕あり。ややラバ状に開く。胎土は粗砂粒。	構成No165
第7209R PL-446	56	土製品 器口	底から5cm上	長 7.2 幅 5.8	厚 2.4 重 61.05		先端部から基部片。厚さ約1.5cm。基部側も先端部として使用か。	構成No166
第7209R PL-446	57	土製品 器口	底から5cm上	長 4.2 幅 4.4	厚 2.2 重 32.79		基部片。基底部がややラバ状に開く。基底部を先端部として使用か。	構成No167
第7209R PL-446	58	土製品 器口	底直上	長 10.0 幅 6.1	厚 5.0 重 160.44		分析資料No14参照	構成No173 分析資料No14
第7209R PL-446	59	土製品 器口	底から15cm上	長 9.0 幅 6.2	厚 4.7 重 180.39		内面が準化。長径約1～2mmほどの緑青が点在。器厚約2～2.5cm。胎土は粗砂。外面指痕圧痕あり。	構成No168
第7209R PL-446	60	土製品 器口	底から5cm上	長 9.2 幅 5.0	厚 4.0 重 106.43		内面が準化。長径約2mmほどの緑青が点在。器厚約2cm。胎土は粗砂。	構成No169
第7209R PL-446	61	土製品 器口	理上	長 4.2 幅 3.5	厚 3.6 重 46.69		内面が準化。長径約1～2mmほどの緑青が点在。器厚約3cm。胎土は粗砂。構成No168と同一個体か。	構成No170
第7209R PL-446	62	鉄製品 銅板	V区2面一括 破片	長 4.8 幅 3.0	厚 1.0 重 7.58		銅破片。口唇は肥厚し内側に沈着を持つ。表面にはデンドライと構造が見られ鋳造後成型と考えられる。推定口径は17.6cm。	
第7209R PL-446	63	鉄製品 刀子	底から10cm上 ほぼ完形	長 14.3 幅 1.1	厚 0.8 重 28.59		棟側に明確な刃面を持つ刀子。刃側は直線的で茎と刃の幅は差が少なく研ぎ減りの可能性が有る。	
第7219R PL-446	64	鉄製品 釘	底から18cm上 ほぼ完形	長 5.5 幅 0.8	厚 0.6 重 3.45		断面長方形の角釘と見られる鉄製品。頭部は角形で緩やかに曲がる。先端は徐々に細くなり尖る。	
第7219R PL-446	65	鉄製品 釘	理上 ほぼ完形	長 5.5 幅 2.8	厚 1.5 重 12.62		断面長方形の角釘と見られる鉄製品。土師器破片に錆付。頭部は角形で先端は徐々に細くなりくの字に曲がる。	
第7219R PL-446	66	鉄製品 釘	底から17cm上 破片	長 6.3 幅 1.3	厚 0.7 重 7.42		断面ほぼ正方形の角棒状の鉄製品。角釘の破片と見られるが厚く錆に覆われ詳細は不明。	
第7219R PL-446	67	鉄製品 釘	理上 一部欠損	長 5.8 幅 1.3	厚 1.1 重 10.60		断面やや長方形から正方形の角釘。頭は角形で先端に向かい細くなる端部は角ばるが破損錆化の可能性あり。	
第7219R PL-446	68	鉄製品 釘	底から13cm上 一部欠損	長 5.0 幅 0.9	厚 0.6 重 6.04		断面長方形の角釘。頭は角形で先端に向かい薄くなるが端部は尖らない。	
第7219R PL-446	69	鉄製品 釘	理上 一部欠損	長 5.2 幅 0.8	厚 0.6 重 5.56		断面ほぼ正方形の角釘。頭は角形でわずかによこに広がる。先端に向かい厚さを減ずるが端部は尖らない。	
第7219R PL-446	70	鉄製品 釘	底から20cm上 ほぼ完形	長 6.2 幅 1.2	厚 0.6 重 5.98		断面正から長方形の角釘。頭はやや傾いた角形。先端に向かい細くなり尖る。錆に覆われ木質等の痕跡は確認できない。	
第7219R PL-446	71	鉄製品 釣り手金具	理上 破片	長 6.1 幅 2.5	厚 1.0 重 9.04		7×2mmの帯状鉄製品をループ状に加工する。両端とも劣化破損で全体に錆に覆われるため木質・紐等の痕跡は確認できない。	
第7219R PL-447	72	鉄製品 不詳	理上 破片	長 4.2 幅 0.5	厚 0.3 重 1.11		断面円形の丸棒状鉄製品。表面の筋中には點化した微小な木質痕が点在。一部筋上にチップスケール状の黒化層が錆が付着する。	
第7219R PL-447	73	鉄製品 不詳	底から11cm上 破片	長 5.2 幅 1.1	厚 0.6 重 5.66		細い板状の鉄製品破片。端部は角形で反対側は劣化破損する。	
第7219R PL-447	74	鉄製品 不詳	底から11cm上 破片	長 4.3 幅 1.6	厚 1.1 重 11.22		厚い板状の鉄製品破片。端部は角形で反対側は劣化破損する。	
第7219R PL-447	75	鉄製品 不詳	理上 破片	長 7.3 幅 1.0	厚 0.5 重 5.46		菱形した鉄製品で一端は三角形で反対側は扇形的な形状を持つ。刀子の破片とも考えられる三角形は薄く刃の断面とは考えにくく詳細は不明。	
第7219R PL-447	76	鉄製品 不詳	底から20cm上 破片	長 5.1 幅 0.9	厚 0.5 重 4.76		菱形をした鉄製品で一端は破損錆化。反対側は扇形的な形状を持つ。刀子の茎と考えられるが破損により詳細は不明。	
第7219R PL-447	77	鉄製品 不詳	底から16cm上 破片	長 8.0 幅 3.8	厚 2.3 重 7013		鉄製品破片5点が錆化癒着して出土。1点は板状で鎌の破片と見られるが両端とも破損。その他側に並ぶように1.5×6.5cmの薄い板状の鉄製品が癒着する。その上に断面丸形で両端とも劣化破損する棒状鉄製品2点が筋を介して癒着する。さらに鎌状の鉄製品の対側から斜めに断面丸形の棒状鉄製品が癒着。一端に向かい徐々に細くなり端部は丸く反対側はその上に癒着する2点とともに劣化破損する。	
第7219R PL-447	78	鉄製品 不詳	底から23cm上 一部欠損	長 8.0 幅 1.1	厚 0.9 重 13.38		断面長方形の厚板状の鉄製品。弧を曲くように曲がりながら徐々に細くなり端部は角形で終わる。反対側は劣化破損する。	
第7219R PL-447	79	鉄製品 不詳	底から20cm上 破片	長 10.8 幅 1.7	厚 1.6 重 30.02		断面正方形の角棒状鉄製品。一端に向かい細くなり断面は長方形になるが端部は劣化破損する。反対側も劣化破損する。	
第7219R PL-447	80	鉄製品 不詳	理上 ほぼ完形	長 6.5 幅 2.3	厚 1.8 重 43.61		断面正方形の角棒状で一方の端部に向かい細くなる。両端とも角形。表面の筋の中に多孔質の鉄屑片が付着する。	
第7219R PL-447	81	鉄製品 不詳	理上 一部欠損	長 8.4 幅 1.0	厚 0.7 重 7.50		断面正方形の角棒状鉄製品。一端ではループ状の構造を持ち。反対側では徐々に細くなるが端部は劣化破損するため全体形状は不明。	
第7219R PL-447	82	鉄製品 不詳	理上 ほぼ完形	長 6.0 幅 2.1	厚 1.5 重 32.31		断面正方形の角棒状鉄製品。一端に向かい細くなり断面は長方形になるが端部でも尖ることはない。	
第7219R PL-447	83	鉄製品 不詳	底から12cm上 破片	長 8.6 幅 1.7	厚 1.2 重 186.33		厚さ0.5から0.7cmで一部は扇状に點化し厚さを増す。脆割で破損するため詳細は不明。	
第7219R PL-447	84	鉄製品 不詳	長 5.2 幅 1.1	厚 0.3 重 1.26		断面狭三角形の短冊形鉄製品で両端とも角形、刀子の茎破片とも考えられるが、端部は破損錆化し詳細は不明。		
第7219R PL-447	85	鉄製品 不詳	理上 破片	長 4.0 幅 1.0	厚 0.7 重 4.41		表面は硬い錆に覆われ本体脆弱なため詳細は不明。	

種別 Pl. No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第7229 Pl. 447	86	鉄製品 不詳	埋上 破片	長 5.0 幅 1.0	厚 0.7 重 5.26		断面三角から長方形の鉄製品。内端とも破損跡とみられ詳細形状は不明。		
第7229 Pl. 447	87	鉄製品 不詳	埋上 ほぼ完形	長 1.8 幅 2.1	厚 0.7 重 1.40		細い板状の鉄製品を輪状に曲げるが両端部間には隙間が存在する。		
第7229 Pl. 447	88	鉄製品 不詳	埋上 一部欠損	長 1.5 幅 2.9	厚 0.2 重 1.15		三角形の薄い板状鉄製品。両底辺は細く伸びるが片方は破損する。		
第7229 Pl. 447	89	鉄製品 不詳	埋上 破片	長 6.1 幅 1.2	厚 0.9 重 7.48		断面やや長方形の角棒状鉄製品で端部でループ状に曲がる。他の端部は劣化破損する。		
第7229 Pl. 447	90	鉄製品 不詳	埋上 破片	長 4.2 幅 1.2	厚 1.1 重 7.50		断面ほぼ正方形の角棒状鉄製品。全体に硬い錆に覆われ本体強固なため詳細は不明。		
第7229 Pl. 447	91	鉄製品 不詳	底から19cm上 ほぼ完形	長 7.8 幅 0.8	厚 0.8 重 5.18		棒状の鉄製品で一端側は断面円形で端部も丸い、反対側は細くなり断面ほぼ正方形で端部は尖る。		
第7229	92	鉄滓 桶形鍛冶滓 (特大)	底から40cm上	長 15.9 短 13.5	厚 5.4 重 106.07		平面楕円形。左側部に引口頸部が付着。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。	構成No95	
第7229	93	鉄滓 桶形鍛冶滓 (特大)	桶出面から11cm上	長 15.5 短 13.2	厚 6.3 重 136.30		平面不整形円形。酸化土砂が表面に付着している。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。	構成No96	
第7229	94	鉄滓 桶形鍛冶滓 (特大)	桶出面から13cm上	長 13.1 短 12.3	厚 5.7 重 109.41		平面不整形円形。やや二段気味。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。上下面に微細な木炭痕あり。	構成No97	
第7229	95	鉄滓 桶形鍛冶滓 (大)	底から20cm上	長 14.1 短 9.9	厚 5.0 重 97.65		平面円形。やや二段気味。上面左側部の粘土質溶解物は引口頸部の溶けか。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。上下面に微細な木炭痕あり。	構成No98	
第7229	96	鉄滓 桶形鍛冶滓 (大)	底から34cm上	長 13.8 短 11.8	厚 6.2 重 852.39		平面不整形円形。左側部の引口頸部の欠損か。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。上下面に微細な木炭痕あり。	構成No99	
第7229	97	鉄滓 桶形鍛冶滓 (大)	桶出面から9cm上	長 14.0 短 11.7	厚 5.8 重 322.14		分析資料No8参照	構成No100・ 分析資料No8	
第7229	98	鉄滓 桶形鍛冶滓 (大)	底から8cm上	長 10.9 短 9.9	厚 5.3 重 557.06		平面円形。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。	構成No171	
第7229	99	鉄滓 桶形鍛冶滓 (中)	底から32cm上	長 11.3 短 9.9	厚 5.0 重 483.16		平面不整形円形。やや二段気味。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。上下面に微細な木炭痕あり。	構成No101	
第7229	100	鉄滓 桶形鍛冶滓 (中)	底から6cm上	長 11.3 短 6.1	厚 6.5 重 333.57		平面不整形円形。上面から左側部が欠損。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。下面全面に砂床が付着している。	構成No102	
第7239	101	鉄滓 桶形鍛冶滓 (中)	底から28cm上	長 6.6 短 7.0	厚 2.8 重 148.64		分析資料No13参照	構成No172 分析 資料No13	
第7239	102	鉄滓 桶形鍛冶滓 (小)	底から29cm上	長 8.7 短 8.1	厚 4.1 重 218.43		平面円形。側面が一部欠損。上面左側部の引口頸部の溶けか。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。	構成No103	
第7239	103	鉄滓 桶形鍛冶滓 (極小)	底から46cm上	長 7.7 短 5.8	厚 3.8 重 87.60		平面不整形円形。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。内面に多くの木炭痕。	構成No104	
第7239	104	鉄滓 桶形鍛冶滓 (極小)	底から47cm上	長 6.9 短 7.4	厚 3.3 重 121.25		平面不整形円形。上面左側部に引口頸部の粘土質溶解物あり。下面全面に砂床上付着。	構成No105	
第7239	105	鉄滓 桶形鍛冶滓 (極小)	底直上	長 6.5 短 5.4	厚 2.8 重 98.48		平面不整形円形。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。	構成No106	
第7239	106	鉄滓 鉄塊系遺物	埋上	長 3.3 短 4.9	厚 2.2 重 43.21		表面に酸化土砂が付着。一部放射割れ。	構成No107	
第7239	107	鉄滓 鉄塊系遺物	桶出面から9cm上	長 3.9 短 6.0	厚 3.5 重 72.75		分析資料No9参照	構成No108・ 分析資料No9	
第7239	108	鉄滓 鉄塊系遺物	埋上	長 4.8 短 5.4	厚 3.0 重 78.81		表面に酸化土砂が付着。放射割れ激しい。	構成No109	
第7239	109	鉄滓 鉄塊系遺物	埋上	長 2.9 短 4.2	厚 2.9 重 54.49		表面に酸化土砂が付着。放射割れ激しい。	構成No110	
第7239	110	鉄滓 鉄塊系遺物	埋上	長 2.8 短 3.7	厚 2.4 重 31.58		表面に酸化土砂が付着。放射割れ激しい。	構成No111	
第7239	111	鉄滓 鉄塊系遺物	埋上	長 2.9 短 3.1	厚 2.5 重 27.71		表面に酸化土砂が付着。放射割れ激しい。	構成No112	
第7239	112	鉄滓 粘土質溶解物 (ガラス化)	埋上	長 4.5 短 3.8	厚 2.8 重 26.47		滓質粗。	構成No113	
第7239	113	鉄滓 小型の流動 滓	埋上	長 4.1 短 4.8	厚 2.1 重 17.61		表面黒褐色。気泡が内在し、滓質粗。	構成No114	

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第723図 PL.447	114	鉄滓 小型の流動 滓	埋土	長 短	2.2 5.4	厚 重	1.1 12.27	表面紫黒色。流動性が高く滓質は密。	構成No115
第723図 PL.447	115	鉄滓 小型の流動 滓	埋土	長 短	4.2 3.1	厚 重	1.0 8.83	表面紫黒色。気泡が内在し、滓質粗。	構成No116
第723図 PL.447	116	鉄製品 不詳	破片	長 幅	7.9 7.2	厚 重	4.3 105.72	合計6点の鉄製品が跡付き一体化する。ほぼ円形の紡輪に斜めに破損した紡輪が入る紡輪車・先端のみで柄杓着する考化破損により欠く鎌・刀子破片7点・棒状鉄製品破片2点が認められるが個々の詳細は趣意のため不明。	
第723図 PL.447	117	石製品 金床石	底から9cm上 完形	長 幅	54.2 21.0	厚 重	12.2 2000.0	円鑿を利用する。正面及び左側面の全体に、鉄製品を鍛造する際に付着したと想定される滓が認められる。また、正面の左側縁辺部及び左側面の左側縁辺部には、鍛造時の衝撃で剥落したと想定される刺刺痕が認められる。	
Ⅷ区1号鍛冶									
第727図 PL.447	1	土製品 臼口	底から4cm上	長 幅	13.0 10.0	厚 重	8.0 708.51	先端部から体部片。内径約3cm、厚さ約2.5cm。器面は粗く、整形痕不明。指頭圧痕あり。胎土は粗砂粒。送風角約5°。先端部は平坦に溶け、頸部に酸化した椀形鍛冶跡が付着。	構成No61
第727図 PL.447	2	土製品 臼口	底直上	長 幅	11.8 8.0	厚 重	8.3 719.92	先端部から基部片。基底部欠損。内径約2.5cm、厚さ約2cm。長方向に撫で整形。胎土は粗砂粒。送風角約15°。先端部は平坦に溶け。	構成No62
第727図 PL.447	3	土製品 臼口	底直上	長 幅	12.9 8.0	厚 重	8.8 538.04	先端部から基部片。基底部欠損。内径約2cm、厚さ約2cm。指頭圧痕あり。胎土は粗砂粒。送風角はほぼ水平。先端部は円形に溶け。	構成No63
第727図 PL.447	4	土製品 臼口	底から6cm上	長 幅	11.7 8.4	厚 重	8.8 700.14	先端部から基底部。先端部欠損。基部から先端部へ広がる形状。内径約2～2.5cm、厚さ2～3cm。長方向に撫で整形。	構成No64
第727図 PL.447	5	土製品 臼口	底直上	長 幅	11.2 7.5	厚 重	7.3 416.29	先端部から基部片。先端部下平と基底部欠損。内径2.5～3cm。厚さ約2cm。指頭圧痕あり。胎土は粗砂粒。先端部は凸状に溶け。	構成No65
第727図 PL.447	6	土製品 臼口	底から16cm上	長 幅	10.0 9.8	厚 重	7.9 522.06	先端部から体部。内径約2cm、厚さ約2～3cm。指頭圧痕あり。胎土は粗砂粒。先端部は平坦に溶け。頸部に椀形鍛冶跡の一部が付着。	構成No66
第727図 PL.447	7	土製品 臼口	底から46cm上	長 幅	9.9 6.7	厚 重	2.9 166.10	先端部から基部片。厚さ約2.5cm。長方向に撫で整形。基部は押圧痕あり、ツツバ状に溶け。	構成No67
第727図 PL.447	8	土製品 臼口	底から10cm上	長 幅	6.8 8.2	厚 重	7.2 281.76	先端部片。内径約3cm、厚さ約2～2.5cm。先端部は凸状に溶け。	構成No68
第727図 PL.447	9	土製品 臼口	埋土	長 幅	8.6 7.1	厚 重	8.5 628.44	先端部片。内径約2～3cm。基部側を使用か。胎土は粗粒。	構成No69
第727図 PL.447	10	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	7.1 6.5	厚 重	1.9 85.97	全体に放射割れの著しい跡道と見られる鉄製品の破片。	
第727図 PL.447	11	鉄製品 不詳	埋土 一部欠損	長 幅	3.3 2.5	厚 重	1.4 7.53	2×3cm程の方形の小札形の鉄製品。角近くの1か所に3mmほどの穴を持つが他の部分は鋳化が著しく穴の有無は不明。	
第727図 PL.448	12	鉄製品 釘	埋土 一部欠損	長 幅	6.5 1.0	厚 重	0.8 6.56	断面はほぼ正方形の角釘。頭はやや傾いた角形で先端部は考化破損する。跡に覆われ木質等は確認できない。	
第727図 PL.448	13	鉄製品 不詳	埋土 ほぼ完形	長 幅	7.9 2.7	厚 重	2.3 45.17	断面はほぼ正方形の棒状鉄製品で端部に直角に突き出るように張り出し構造を持つ。全体に厚く跡に覆われ詳細は不明。	
第727図 PL.448	14	鉄製品 釘	埋土 破片	長 幅	3.3 1.0	厚 重	0.6 2.92	断面四角形の角釘破片。頭は考化破損により形状不明。先端に向かい緩やかに細くなる。	
第727図 PL.448	15	鉄製品 釘	埋土 破片	長 幅	3.6 0.8	厚 重	0.5 2.65	断面は丸みを持つ釘破片。頭は考化破損により形状不明。先端に向かい緩やかに細くなり尖る。	
第727図 PL.448	16	鉄製品 釘	埋土 ほぼ完形	長 幅	8.4 2.3	厚 重	2.1 81.49	断面長方形で先端でやや広がる視。頭は丸みを持つ角形で本体に押しやけ細く、現状では考化クラックのため厚が増しているが先端は尖る。	
第727図 PL.448	17	鉄製品 釘	埋土 破片	長 幅	5.1 1.4	厚 重	1.5 11.56	断面は正方形に近い四角の角釘。頭は大きく薄く広げ折り返すように折り曲げる。先端側は角形だが破損酸化の可能性が有る。	
第727図 PL.448	18	鉄製品 釘	埋土 ほぼ完形	長 幅	6.5 1.5	厚 重	1.4 12.02	断面はほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品。頭は角形で先端に向かい細くなり尖る。全体に厚く跡に覆われ詳細は不明。	
第727図 PL.448	19	鉄製品 釘	埋土 破片	長 幅	3.6 1.1	厚 重	0.9 5.90	断面長方形の角釘と見られる鉄製品破片。両端とも考化破損する。	
第728図 PL.448	20	鉄製品 釘?	埋土 一部欠損	長 幅	7.0 1.1	厚 重	1.0 9.22	断面長方形の角釘と見られる鉄製品。頭は角形で先端に向かい細くなり端部は考化破損する。	
第728図 PL.448	21	鉄製品 釘	埋土 ほぼ完形	長 幅	5.3 1.4	厚 重	1.6 8.44	断面は正方形で頭付近でやや薄くなりくの字に曲がる。先端に向かい細くなるが契利には尖らない。	
第728図 PL.448	22	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	3.9 1.5	厚 重	0.6 9.16	断面長方形の鉄製品。一端に向かい幅を広げ薄くなるが端部で折れ曲がり破損酸化する。反対側は角形。	
第728図 PL.448	23	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	2.8 0.6	厚 重	0.7 1.37	断面長方形の角棒状鉄製品。一端に向かい薄くなるが端部は尖らない。反対側は考化破損する。	
第728図 PL.448	24	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	3.1 0.6	厚 重	0.7 2.99	断面はほぼ正方形の角棒状鉄製品。全体に向かい覆われ本体脆弱のため詳細は不明。一端に向かいやや細くなるが両端とも考化破損する。	
第728図 PL.448	25	鉄製品 不詳	埋土 ほぼ完形	長 幅	4.3 1.2	厚 重	1.0 5.30	断面長方形の角棒状鉄製品。一端は角形で反対側に向かい細くなり尖る。	

種別 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第7289 PL-448	26	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 3.0 幅 2.3	厚 0.8 重 6.27		断面長方形の厚板状の鉄製品。端部は角形で反対側は剥落するように破損する。	26は同一個体	
第7289 PL-448	26	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 3.8 幅 2.0	厚 1.3 重 21.66		断面長方形の厚板状の鉄製品。端部は角形で反対側は剥落する。	26は同一個体	
第7289 PL-448	27	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 5.1 幅 1.5	厚 1.6 重 6.13		断面薄い長方形の板状鉄製品でS字状になだらかにカーブする。一端は角形で反対側は劣化破損する。		
第7289 PL-448	28	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 5.8 幅 2.1	厚 1.6 重 18.69		断面長方形の厚板状の鉄製品。端部は角形で反対側は劣化破損する。錆表面には不定形な小片が不規則に付着錆化する。		
第7289 PL-448	29	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 5.1 幅 4.1	厚 1.0 重 26.67		断面長方形の厚板状の鉄製品。両端とも劣化破損する。錆表面には不定形な小片が不規則に付着錆化する。		
第7289 PL-448	30	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 2.6 幅 2.7	厚 1.3 重 10.28		断面長方形の厚板状の鉄製品。一部には放射割れが発生し表面は浄化する。表面に盛り込む様に不定形な小片が不規則に付着錆化する。		
第7289 PL-448	31	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 6.1 幅 2.3	厚 2.2 重 21.16		断面ほぼ正方形の角釘が一部浄化した硬い錆に覆われる。頭はわずかに張り出すように広がり、先端は斜め角形だが破損の可能性もある。		
第7289 PL-448	32	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 5.0 幅 3.4	厚 1.6 重 29.28		厚さ0.5cm程の厚板状の鉄製品破片。全体に細かい放射割れが有り鑄造鉄製品の破片と見られる。		
第7289 PL-448	33	鉄製品 不詳	埋土 一部欠損	長 8.4 幅 5.1	厚 1.5 重 54.76		長方形の板状鉄製品の短片中央に棒状の突起を持つ。突起は断面長方形で端部で細くなり曲がる。		
第7289	34	鉄滓 椀形鍛冶滓 (特大)	底から46cm上	長 16.7 幅 14.2	厚 9.0 重 128.80		底面どうしが融着した2個体の椀形鍛冶滓。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。直径1cm程の木炭痕が全面にあり。	構成No45	
第7289	35	鉄滓 椀形鍛冶滓 (特大)	底から47cm上	長 14.8 幅 13.0	厚 7.9 重 119.80		分析資料No5参照	構成No46・分 析資料No5	
第7289	36	鉄滓 椀形鍛冶滓 (大)	埋土	長 16.8 幅 10.3	厚 6.5 重 758.37		断面どうしが融着した2個体の椀形鍛冶滓。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。左側の大型の椀形鍛冶滓は上面平滑で下面に伊床土が付着している。右側の小型の椀形鍛冶滓は直径1cmほどの木炭痕が全面にあり。	構成No47	
第7299	37	鉄滓 椀形鍛冶滓 (大)	埋土	長 12.0 幅 11.5	厚 5.6 重 363.82		平面はほぼ円形。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。上面左側部に羽口頸部の溶損が付着。下面に伊床土が付着。上面の木炭痕は直径約3cmとやや大型。	構成No48	
第7299	38	鉄滓 椀形鍛冶滓 (中)	底から44cm上	長 12.0 幅 10.4	厚 5.1 重 125.86		平面楕円形。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。上面に直径1cm程の木炭痕が見られる。下面は微細な鍛冶遺物を含む酸化土砂が付着。	構成No49	
第7299	39	鉄滓 椀形鍛冶滓 (中)	埋土	長 8.8 幅 8.6	厚 5.1 重 278.14		平面不整形円形。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。上面左半に羽口頸部の溶損が付着。下面は酸化土砂が付着。	構成No50	
第7299	40	鉄滓 椀形鍛冶滓 (中)	埋土	長 9.1 幅 6.3	厚 4.0 重 255.21		平面不整形円形。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。放射割れが見られ、磁気強。上下面に酸化土砂が付着。	構成No51	
第7299	41	鉄滓 椀形鍛冶滓 (中)	埋土	長 9.5 幅 10.3	厚 5.0 重 254.33		平面不整形円形。左右両面欠損。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。上面側に工具痕あり。下面に伊床土付着。	構成No52	
第7299	42	鉄滓 椀形鍛冶滓 (小)	埋土	長 7.6 幅 6.9	厚 2.9 重 149.26		平面楕円形。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。	構成No53	
第7299	43	鉄滓 椀形鍛冶滓 (極小)	埋土	長 4.5 幅 5.1	厚 2.2 重 53.69		平面楕円形。右側面欠損。錆が滲み出ており、色調は黒褐色。滓質は密で、比重が高い。	構成No54	
第7299	44	鉄滓 鉄塊系遺物	埋土	長 4.7 幅 3.2	厚 3.2 重 75.91		表面に酸化土砂が付着。上側の一部に滓が付着している。	構成No55	
第7299	45	鉄滓 鉄塊系遺物	埋土	長 6.3 幅 4.8	厚 4.9 重 186.35		分析資料No6参照	構成No56・分 析資料No6	
第7299	46	鉄滓 粘土質溶解 物	埋土	長 1.7 幅 3.8	厚 1.2 重 6.18		気泡が内在し、滓質粗。	構成No57	
第7299	47	鉄滓 粘土質溶解 物	埋土	長 2.7 幅 2.3	厚 1.2 重 4.69		気泡が内在し、滓質粗。	構成No58	
第7299	48	鉄滓 再結合滓	埋土	長 44.4 幅 24.5	厚 18.5 重 19181		鍛造割片や粉状滓など鍛冶系の微細遺物が層状に堆積した再結合滓。金属鉄が内在し、赤錆が生じている。	構成No59	
第7299	49	鉄滓 再結合滓	埋土	長 13.8 幅 9.2	厚 11.8 重 138.40		鍛造割片や粉状滓など鍛冶系の微細遺物が角礫に付着している。	構成No60	
第7309 PL-448	50	石製品 金床石	包含層 定形	長 (26.2) 幅 (33.4)	厚 14.3 重 1770.0	細粒輝石安山岩	内蔵を利用する。正面全体に、鉄製品を鍛造する際に付着したと想定される滓が認められる。また、側面には鍛造時の衝撃で剥落したと想定される肉離れが認められる。		

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長	幅	厚			
第730図 PL.448	51	石製品 磁石	底から12cm上 完形	長 29.2 幅 25.8	厚 9.8	7980.0	粗粒輝石安山岩	内溝を利用する。正面は中央付近が非常に滑らかであり、断面V字形の大きな線索痕が集中する。裏面も中央付近が滑らかであり、直径約35mm、深さ約5mmの円柱状の孔が認められる。孔の底部は中央付近がやや窪んでいて、底部全面に滑らかである。側面には、非常に滑らかな一つの半円面が認められる。表裏面には部分的に鉄滓が付着し、金床石として分類される可能性もある。	
郷区1号遺存									
第732図 PL.448	1	須臾器 杯	埋土 1/3	口 10.2 底 5.8	高 2.7		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/明黄褐色	ロコ口整形。回転回りが、底部は手持ちへう割りか、	
第732図 PL.448	2	土製品 送風管	窪み底から14cm と15cm上が接合	長 11.2 幅 7.8	厚 4.7	280.08		西浦北製鉄所の送風管の先端部から体部。基部と先端部上から体部の一部は欠損。内径約3cm、厚さ約2cm。先端部上平はガラス化し、砂鉄焼結塊が付着している。送風角度は約60°か。胎土は細砂粒。体部の整形は長方向に撫で、外面還元。内面先端部酸化。	構成No16
第732図 PL.448	3	土製品 送風管	包含層	長 7.7 幅 6.8	厚 3.4	114.77		西浦北製鉄所の送風管の体部から基部片。体部は長方向に撫で整形。基部は押圧痕あり。ラバ状に成形。基部部に布目の圧痕あり。胎土は細砂粒。厚さ2.5～3cm。	構成No17
第732図 PL.448	4	土製品 送風管	窪み底から14cm 上	長 7.8 幅 5.3	厚 101.61	3.1		西浦北製鉄所の送風管の体部から基部片。長方向に撫で整形。基部は押圧痕有。胎土は細砂粒。厚さ約2.5cm。	構成No18
第732図 PL.448	5	土製品 送風管	包含層	長 5.1 幅 3.2	厚 19.1	23.17		分析資料No2参照	構成No19 分析 No2
第732図 PL.448	6	土製品 送風管	包含層	長 3.2 幅 2.5	厚 2.5	14.75		西浦北製鉄所の送風管の体部片。長方向に撫で整形。厚さ約2cm。	構成No20
第732図 PL.448	7	土製品 送風管	包含層	長 5.4 幅 5.0	厚 2.7	47.67		西浦北製鉄所の送風管の先端部片。内径約3cm、厚さ約2cm。内外面ともガラス化。外面上平には酸化した砂鉄焼結塊が付着。	構成No21
第732図 PL.448	8	土製品 送風管	包含層	長 4.5 幅 5.7	厚 3.0	39.84		西浦北製鉄所の送風管の先端部片。内面はガラス化し、上平に砂鉄焼結塊が付着している。	構成No22
第732図 PL.448	9	土製品 送風管	埋土	長 7.2 幅 5.7	厚 3.7	76.49		西浦北製鉄所の送風管の先端部片か。厚さ約2cm。送風管の先端部に粘土カバーを備えており、カバー部分がガラス化している。表面に酸化した酸化土砂が付着している。	構成No40
第732図 PL.448	10	銅製品 鏡片	包含層	長 1.8 幅 1.7	厚 0.2	0.95		劣化が著しく外縁・文字・郭とも不明瞭で鏡像不明。外縁は劣化破損のため凸凹する。径は小さく厚は非常に薄い。	
第732図 PL.448	11	鉄製品 針	包含層 ほぼ正形	長 5.3 幅 2.3	厚 1.3	9.38		針はほぼ正形の角釘と見られる鉄製品。断面は角形での字状に曲がる。先端に向かい細くなり失る。	
第733図	12	砂眼 上段上平	包含層	長 4.7 幅 5.5	厚 2.8	32.83		断面はやや弧状。内面は赤色に酸化。胎土はスサを大量に含む。	構成No1
第733図	13	砂眼 上段下平	窪み底から10cm 上	長 9.4 幅 8.7	厚 3.9	185.84		分析資料No1参照	構成No2・分析 資料No1
第733図	14	砂眼 上段下平	包含層	長 7.1 幅 5.7	厚 2.9	91.88		断面はやや弧状。内面に酸化した砂鉄焼結塊が付着。胎土はスサを大量に含む。外面はやや還元を含む。	構成No3
第733図	15	砂眼 中段上平 (被熱面)	包含層	長 7.6 幅 7.8	厚 5.3	126.35		断面はやや弧状。右半は地熱面。内面は還元。下半は垂れが生じている。外面は還元色が主体であるが、一部赤色酸化。胎土はスサを大量に含む。	構成No4
第733図	16	砂眼 中段上平	包含層	長 5.2 幅 7.0	厚 3.0	49.37		断面は直線状。内面は還元し、下半は垂れが生じている。直径1cmほどの小鉄塊が付着している。内面は還元が主体であるが、一部酸化。胎土はスサを大量に含む。	構成No5
第733図	17	砂眼 中段下平	窪み底から17cm 上	長 11.8 幅 13.5	厚 4.1	204.31		断面は直線状。内面は還元し、全面に垂れが生じている。断面は約1cmは発泡。外面は還元色。胎土はスサを大量に含む。	構成No6
第733図	18	砂眼 中段下平	包含層	長 5.2 幅 3.5	厚 1.5	25.21		断面は直線状。内面は還元。外面は還元色。胎土はスサを大量に含む。	構成No7
第733図	19	砂眼 下段上平	窪み底から10cm 上	長 10.5 幅 7.2	厚 3.2	106.22		断面は直線状。内面はガラス質に還元。断面は約1cmは発泡。外面は赤色酸化し、送風孔付近か。胎土はスサを大量に含む。	構成No8
第733図	20	砂眼 下段上平	包含層	長 8.2 幅 6.6	厚 2.7	87.84		断面は直線状。内面はガラス質に還元。外面は還元色。内面の一部に小鉄塊が付着。胎土はスサを大量に含む。	構成No9
第733図	21	砂眼 下段上平	窪み底から7cm 上	長 9.9 幅 11.0	厚 3.3	199.29		断面はやや弧状。内面はガラス質に還元。外面は還元が主体であるが、一部赤色酸化し送風孔付近か。胎土はスサを大量に含む。	構成No10
第733図	22	砂眼 下段下平	包含層	長 11.0 幅 7.2	厚 6.2	390.67		内面はガラス質に厚く還元。外面は還元色。内面には小鉄塊が大量に付着。胎土はスサを大量に含む。	構成No11
第733図	23	砂眼 下段下平	包含層	長 11.1 幅 7.4	厚 4.0	172.37		断面は直線状。内面はガラス質に還元。外面は還元色。内面に還元した粒状の小鉄塊が付着。胎土はスサを大量に含む。	構成No12
第733図	24	砂眼 下段下平	窪み底から14cm 上	長 6.7 幅 9.6	厚 3.6	108.30		内面はガラス質に還元。外面は還元色。内面に還元した粒状の小鉄塊が付着。胎土はスサを多量に含む。	構成No13
第733図	25	砂眼塊 砂底付近	包含層	長 14.9 幅 14.9	厚 5.9	169.37		淨質は密で、還元した小鉄塊が内在する。	構成No14
第733図	26	砂眼塊 砂底付近	包含層	長 9.8 幅 16.3	厚 7.2	894.60		淨質は密で、還元した小鉄塊が内在する。	構成No15

種別 PL.No.	No.	種類	出上位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第733図	27	鉄滓 9内洋含鉄	包含層	長 4.4 短 5.3	厚 4.1 重 70.50			黒褐色。浮泥りの錆化した金属鉄。一部砂鉄塊焼塊あり。 酸化土砂付着。	構成No23
第733図	28	鉄滓 9内洋	窪み底から1cm 上	長 5.5 短 6.3	厚 3.0 重 72.49			紫黒色の流動性の高い洋であるが、裏面にスサ多量に含む 9内洋とした。	構成No24
第733図	29	鉄滓 9内洋	包含層	長 3.4 短 3.7	厚 3.1 重 34.21			紫黒色の流動性の高い洋であるが、裏面にスサ多量に含む 9内洋とした。錆化した小鉄塊が付着。	構成No25
第733図	30	鉄滓 9内洋	包含層	長 5.0 短 6.2	厚 4.7 重 125.58			断面は光沢のある灰褐色で、洋質が密な洋であるが、裏面 にスサを多量に含む9内洋とした。小鉄塊が一部に 内存在する。	構成No26
第733図	31	鉄滓 9内洋	包含層	長 2.6 短 4.5	厚 1.7 重 11.69			外面が紫黒色の流動性の高い単位流動洋。	構成No27
第733図	32	鉄滓 マグネタイト	包含層	長 2.1 短 1.7	厚 1.7 重 6.40			外面が紫黒色で一部砂鉄塊結塊を含むマグネタイト系。磁 着強。	構成No28
第733図	33	鉄滓 流出孔滓	包含層	長 5.2 短 5.2	厚 4.2 重 92.35			上面紫黒色。下面に9内洋を含む土砂が付着した流出孔滓。 直径約3.5cm。	構成No29
第733図	34	鉄滓 流出溝滓	窪み底から9cm 上	長 6.8 短 6.4	厚 4.0 重 233.41			上面紫黒色。下面に9内洋を含む土砂が付着した流出溝滓。 巾約5cm。	構成No30
第733図	35	鉄滓 粘性の強い 流動洋	包含層	長 11.9 短 15.1	厚 9.4 重 107.85			分析資料No3参照	構成No31・分 析資料No3
第733図	36	鉄滓 粘性の強い 流動洋	包含層	長 14.2 短 11.0	厚 7.0 重 706.03			外面が紫黒色の粘性の強い流動洋。9内洋を含む土砂が部 分的に付着している。	構成No32
第733図	37	鉄滓 粘性の強い 流動洋	窪み底から8cm 上	長 7.3 短 8.8	厚 4.5 重 273.40			外面が紫黒色のやや粘性の強い流動洋。下面に9内洋を含 む土砂が付着している。	構成No33
第733図	38	鉄滓 粘性の強い 流動洋	窪み底から14cm 上	長 6.8 短 6.3	厚 4.0 重 200.13			外面が紫黒色のやや粘性の強い流動洋。9内洋を含む土砂 を吸みこんでいる。	構成No34
第733図	39	鉄滓 流動性の高い 流動洋	包含層	長 4.5 短 4.6	厚 1.7 重 39.54			外面が紫黒色の流動性の高い流動洋。洋質密。比重が高い。 上面は流れ割が生じている。断面は光沢がある灰褐色を呈 す。	構成No35
第733図	40	鉄滓 流動性の高い 流動洋	包含層	長 4.4 短 7.1	厚 2.3 重 86.07			外面が紫黒色の流動性の高い流動洋。洋質密。比重が高い。 上面は平滑で流れ割が生じている。断面は光沢がある灰褐 色を呈す。	構成No36
第733図	41	鉄滓 流動性の高い 流動洋	窪み底から17cm 上	長 5.1 短 4.3	厚 2.5 重 72.51			外面が紫黒色の流動性の高い流動洋。洋質密。比重が高い。 上面は流れ割が生じている。断面は光沢がある灰褐色を呈 す。	構成No37
第733図	42	鉄滓 流動性の高い 流動洋	包含層	長 8.3 短 8.6	厚 4.4 重 236.25			分析資料No4参照	構成No38・分 析資料No4
Ⅷ区1号集石									
第737図 PL.448	1	石製品 石製品	埋土 完形	長 13.1 幅 9.0	厚 4.7 重 755.3		粗粒輝石安山岩	内澗を利用している。表面は全体的に滑らかである。表面 の中央やや上方に、上面径25mm、底部径約5mm、深さ 約5mmの漏斗状の孔が認められる。孔の内部は細かな凹凸 で構成されている。	
Ⅷ区1号基坑									
第738図 PL.449	1	土師器 小型甕	底から15cm上 口縁部～底部 1/2	口 22.0 底 12.0	高 14.6		細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい層	口縁部は横ナデ。胴部は上位・中位がヘラナデ、下位にヘ ラ削り、底部は器面密着のため不明。内面は底部から胴部 がヘラナデ。	
X区55号土坑									
第738図	2	黒色土器 椀	埋土 体部下位～高台 部	口径 5.9 底径 6.7			細砂粒/酸化塩/明 赤層	内面は黒色処理か。高台は貼付。内外面ともすべへつ磨 き。	
Ⅷ区遺構外									
第741図 PL.449	1	土師器 杯	V区2面一括 底部片				細砂粒/良好/にぶ い層	底部はへら削り。	内外面に黒書。
第741図	2	土師器 杯	V区2面一括 底部片				細砂粒/良好/橙	底部はへら削り。	外面に黒書。
第741図 PL.449	3	須恵器 壺	V区2面一括 1/3	口 13.8 底 8.0	高 1.8		細砂粒/還元焰/灰 白	口ク口整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第741図 PL.449	4	須恵器 杯	V区2面一括 1/2	口 12.3 底 7.4	高 3.7		細砂粒/還元焰/黄 灰	口ク口整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第741図 PL.449	5	須恵器 杯	V区2面一括 完形	口 9.7 底 5.0	高 3.5		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	口ク口整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第741図 PL.449	6	須恵器 杯	V区2面一括 完形	口 10.8 底 5.0	高 3.0		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	口ク口整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第741図 PL.449	7	須恵器 杯	V区2面一括 口縁部一部欠	口 9.5 底 5.2	高 2.6		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	口ク口整形。回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	

種別 PL.No.	No.	種 類	出上位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第74190 PL-449	8	須忠器 杯	V区2面一括 口縁部一部欠	口 底	13.2 8.1	高 3.3	細砂粒/還元焰/灰 灰	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第74191 PL-449	9	須忠器 杯	V区2面一括 3/4	口 底	11.7 6.5	高 4.0	細砂粒/還元焰/灰 白	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	内面口縁部の一部に保が付着。
第74192 PL-449	10	須忠器 杯	V区2面一括 3/4	口 底	13.0 6.4	高 4.4	細砂粒/還元焰/灰 黄	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第74193	11	須忠器 杯	V区2面一括 1/3	口 底	14.0 7.0	高 3.5	細砂粒/還元焰/灰 黄	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第74194	12	須忠器 杯	V区2面一括 1/3	口 底	13.2 6.2	高 4.1	細砂粒/還元焰/灰 白	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第74195	13	須忠器 杯	V区2面一括 1/4	口 底	13.4 7.0	高 3.5	細砂粒/還元焰/灰 白	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第74196	14	須忠器 杯	V区2面一括 ほぼ正形	口 底	12.5 6.9	高 5.1	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	口クロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	外面体部に墨書2カ所。
第74197	15	須忠器 杯	V区2面一括 3/4	口 底	14.5 8.2	高 4.8	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	口クロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第74198	16	須忠器 杯	V区2面一括 1/2	口 底	10.6 7.5	高 4.1	細砂粒/還元焰/灰 黄	口クロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第74199 PL-449	17	灰釉陶器 皿	V区2面一括 1/4	口 底	13.8 7.0	高 2.9	微砂粒/還元焰/灰 白	口クロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。内面底部と高台増削に重ね焼き痕が残る。	大原2号窯式 期。
第74200 PL-449	18	灰釉陶器 皿	V区2面一括 胴部片	口 底	11.6 6.6	高 4.6	微砂粒/還元焰/灰 白	口クロ整形。体部下位は回転ヘラナデ。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第74201 PL-449	19	灰釉陶器 椀	V区2面一括 1/3	口 底	14.8 7.5	高 4.5	微砂粒/還元焰/灰 白	口クロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法不明。	大原2号窯式 期。
第74202 PL-449	20	灰釉陶器 椀	V区2面一括 1/4	口 底	13.6 6.6	高 4.6	微砂粒/還元焰/灰 白	口クロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第74203 PL-449	21	緑釉陶器 椀	V区2面一括 口縁部片	口 底	21.6	高	微砂粒/還元焰(軟 質)/灰白	口クロ整形。内外面とも施釉。	京都産9C。後 半か。
第74204 PL-449	22	緑釉陶器 椀	V区2面一括 底部片	口 底	9.0	高	微砂粒/還元焰(軟 質)/灰白	口クロ整形。高台は削り出し。内外面とも施釉。	京都産北産。
第74205 PL-449	23	須忠器 費	V区2面一括 口縁部～胴部片	口 底	17.0 35.0	高	細砂粒/還元焰/灰 黄	口縁部は口クロ整形。胴部は外面に平行叩き痕、内面に同心円状アテ具痕が残る。	
第74206 PL-449	24	土製品 土罐	V区2面一括 完形	長 径	4.6 1.7	孔 重	0.4 10.4	微砂粒/良好/灰 黄	外面はナデ。
第74207 PL-449	25	土製品 土罐	V区2面一括 2/3	径 孔	2.0 0.6	重		微砂粒/良好/ふ い黄橙	外面はナデ。
第74208 PL-449	26	土製品 土罐	V区2面一括 2/3	径 孔	1.5 0.5	重		微砂粒/良好/黒 赤	外面はナデ。
第74209 PL-449	27	土製品 土罐	V区2面一括 1/2	径 孔	1.6 0.4	重		微砂粒/良好/ふ い赤	外面はナデ。
第74210 PL-449	28	土製品 鉢	V区2面一括 1/2	径 厚	5.1 1.1	孔 重	1.0 14.4	微砂粒/良好/ふ い橙	上下側面はナデ、上面中ほどはヘラ磨き。
第74211 PL-449	29	鉄製品 釘	V区2面一括 破片	長 幅	4.2 1.4	厚 重	0.8 4.54		断面はほぼ正方形の角釘破片。頭部は薄く延ばし広げるが折り曲げられていない。先端側は氧化破損する。
第74212 PL-449	30	鉄製品 釘	V区2面一括 ほぼ正形	長 幅	10.1 1.4	厚 重	1.9 19.12		断面はほぼ正方形の角釘。頭はやや幅広に広げられ、1cm付近で緩やかに曲げる。木質等の痕跡は確認できない。
第74213 PL-449	31	鉄製品 釘	V区2面一括 一部欠損	長 幅	5.3 1.0	厚 重	0.7 6.68		断面はほぼ正方形の角釘。頭はやや斜めに広げられ、1cm付近で緩やかに曲げる。木質等の痕跡は見られない。
第74214 PL-449	32	鉄製品 釘	V区2面一括 破片	長 幅	5.9 1.3	厚 重	1.1 12.94		断面長方形の角釘とみられる鉄製品破片。先端側は氧化破損する。
第74215 PL-449	33	鉄製品 釘	V区2面一括 破片	長 幅	5.2 1.1	厚 重	1.0 7.04		断面長方形の角釘とみられる鉄製品破片。内端も氧化破損する。
第74216 PL-449	34	鉄製品 刀子	V区2面一括 破片	長 幅	11.6 1.3	厚 重	0.8 9.97		横側に明瞭な間を隔つ刀子破片。刃先は破損し刃は細く磨き割れを付した。研ぎ減りによる形状と考えられる。茎は細長く表面には木質等の痕跡は見られない。
第74217 PL-449	35	鉄製品 刀子	V区2面一括 破片	長 幅	7.1 1.3	厚 重	0.6 6.59		横・対側ともに間を持つ刀子破片。刃先側・茎側ともに氧化破損する。茎に並行する広葉樹材目材の痕跡が残る。
第74218 PL-449	36	鉄製品 刀子	V区2面一括 破片	長 幅	6.1 1.1	厚 重	0.7 4.79		断面狭長方形の板状で、端に向かい細くなり端部は氧化破損する。反対側も氧化破損し間等は確認できないが刀の茎とみられる。
第74219 PL-449	37	鉄製品 鎌	V区2面一括 破片	長 幅	5.7 4.5	厚 重	1.4 22.23		柄装着部を斜めに浅く折り曲げた鎌。刃は柄装着部から5cm程で破損銷折る。柄装着部に木質等の痕跡は見られない。
第74220 PL-449	38	鉄製品 不詳	V区2面一括 一部欠損	長 幅	4.3 1.3	厚 重	1.3 3.06		断面狭長方形の板状鉄製品。一端は細くなりねじれるように折れ曲がる。他端は氧化破損する。
第74221 PL-449	39	鉄製品 不詳	V区2面一括 破片	長 幅	4.5 0.8	厚 重	0.5 2.71		断面狭長方形の板状でやや細くなり端部は丸みを持つ。茎の破片とみられるが反対側は氧化破損するため詳細は不明。
第74222 PL-449	40	鉄製品 不詳	V区2面一括 破片	長 幅	4.3 2.5	厚 重	0.5 5.38		薄い板状五角形の鉄製品。本体脆弱で詳細は不明。

種別 PL.No.	No.	種 類 種 別	出土位置 残存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第742図 PL-449	41	鉄製品 不詳	V区2面一括 ほぼ完形	長 5.4 幅 4.3	厚 1.5 重 41.93			T字形の鉄製品。断面長方形で角釘の一種とも考えられるが端部は角形で尖らない。	
第742図 PL-449	42	鉄製品 不詳	V区2面一括 破片	長 4.5 幅 1.1	厚 0.8 重 2.88			断面長方形の角棒状で端部に向かい細くなり尖らずに終わる。反対側は角型に終わる。	
第742図 PL-449	43	石製品 砥石	V区2面一括 完形	長 7.5 幅 4.1	厚 3.7 重 92.6		二ツ房軽石	6面全てに丁寧な研磨が認められ、ほぼ左右対称な矩形に整形されている。正面、裏面及び左右側面を砥面とする砥石と判断した。	

V区遺構外

第743図 PL-450	1	土師器 杯	V区2面一括 口縁部片	口 12.3			細砂粒/良好/ぶい 地	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへう削り。	
第743図 PL-450	2	須恵器 杯	V区2面一括 底部片	底 6.2			細砂粒/還元焼/黄 灰	口ロコ型、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第743図 PL-450	3	須恵器 杯	V区2面一括 底部片	底 5.0			細砂粒/酸化焼/ぶ い地	口ロコ型、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第743図 PL-450	4	須恵器 椀	V区2面一括 3/4	口 11.1 底 6.4	台 6.3 高 4.3		細砂粒・粗砂粒/ 還元焼/ぶい地	口ロコ型、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第743図 PL-450	5	須恵器 椀	V区2面一括 1/2	口 9.3 底 5.1	台 5.0 高 3.4		細砂粒/酸化焼/灰 黄	口ロコ型、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。	口唇部に煤が 付着。
第743図 PL-450	6	須恵器 椀	V区2面一括 底部片	口 7.0 底 6.0			細砂粒・粗砂粒/ 還元焼/灰黄	口ロコ型、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第743図 PL-450	7	灰輪陶器 椀	V区2面一括 口縁・底部1/2	口 13.2 底 7.0	台 6.8 高 5.0		微砂粒/還元焼/灰 白	口ロコ型、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。 施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第743図 PL-450	8	灰輪陶器 椀	V区2面一括 底部片	口 7.5 底 7.3			微砂粒/還元焼/灰 白	口ロコ型、回転右回り。底部は回転糸切り後裏面を回転 ナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期。
第743図 PL-450	9	灰輪陶器 長頸壺	V区2面一括 底部・胴部下位 片	口 8.4 底 8.4			細砂粒/還元焼/黄 灰	口ロコ型、回転方向不明。底部は回転ナデ、高台は貼付、 胴部は回転へう削り。	
第743図 PL-450	10	須恵器 長頸壺	V区表上一括 3/4	口 7.4 底 7.1	台 7.8 高 18.7		細砂粒/還元焼/灰 白	口ロコ型、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。 胴部下位は回転へう削り。胴部は風船つくり技法がみられる。	
第743図 PL-450	11	土師器 甕	V区2面一括 口縁・胴部片	口 13.4			細砂粒/良好/ぶい 地	外面頸部に輪積りが残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部 はへう削り。内面は胴部がへうナデ。	
第743図 PL-450	12	土師器 甕	V区2面一括 口縁部片	口 19.6			細砂粒/良好/地	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう削り。内面は胴部が へうナデ。	
第743図 PL-450	13	土製品 土鎌	V区2面一括 完形	長 5.0 幅 2.0	孔 0.3 重 16.7		微砂粒/良好/浅黄 地	外面はナデ。	
第743図 PL-450	14	土製品 土鎌	V区2面一括 完形	長 4.8 幅 1.6	孔 0.4 重 11.2		微砂粒/良好/浅黄 地	外面はナデ。	
第743図 PL-450	15	土製品 土鎌	V区2面一括 完形	長 4.8 幅 1.3	孔 0.3 重 9.4		微砂粒/良好/ぶい 地	外面はナデ。	
第743図 PL-450	16	土製品 土鎌	V区2面一括 完形	長 4.8 幅 2.0	孔 0.3 重 15.5		微砂粒/良好/ぶい 黄地	外面はナデ。	
第743図 PL-450	17	土製品 土鎌	V区2面一括 完形	長 4.6 幅 1.5	孔 0.4 重 8.6		微砂粒/良好/灰白 地	外面はナデ。	
第743図 PL-450	18	土製品 土鎌	V区2面一括 ほぼ完形	長 4.8 幅 1.5	孔 0.4 重 9.5		微砂粒/良好/ぶい 地	外面はナデ。	
第743図 PL-450	19	土製品 土鎌	V区2面一括 1/2	長 4.1 幅 1.7	孔 0.4 重 6.7		微砂粒/良好/ぶい 地	外面はナデ。	
第743図 PL-450	20	古瀬戸陶器 脚皿	V区2面一括 底部片	口 — 底 —	高 —		夾雑物含まない。 /灰白/	内面篋で目目を刻む。残存部無軸。	13世紀～15 世紀。
第743図 PL-450	21	在地系土器 片口鉢	V区一括 口縁部片	口 — 底 —	高 —		白色鉱物少量含む。 /灰/	体部内面丁寧な撫で。体部外面成形痕が残る。口縁部回転積 撫で。口縁部薄く玉縁状。	14世紀中葉～ 後葉。
第743図 PL-450	22	在地系土器 片口鉢	V区2面一括 口縁部1/9、体 部一部	口 (26.6) 底 —	高 —		鉱物少量と赤色 鉄少量含む。/ぶ い地/	断面にぶい地色。器表黒色。口縁部内湾するように尖る 部分か内面上方を向く。内面下半の器表、使用により平滑。 片口1箇所。器表剥離部分多い。	14世紀後半 頃。
第743図 PL-450	23	鉄製品 釘	V区2面一括 ほぼ完形	長 9.7 幅 1.0	厚 0.7 重 7.51			断面長方形の角釘。頭はやや幅広く広がるが角形。先端に向 かい徐々に細くなり尖る。	
第743図 PL-450	24	鉄製品 不詳	V区2面一括 ほぼ完形	長 4.4 幅 3.6	厚 1.0 重 19.87			厚さ0.6cm程度の筒形の鉄製品で中央は円形に肥厚する。放 射割れが多く鑄造とみられる。	
第744図 PL-450	25	鉄製品 不詳	V区2面一括 破片	長 2.7 幅 0.9	厚 0.3 重 1.96			断面狭三角形の鉄製品破片。両端とも破損し詳細形状不明。	
第744図 PL-450	26	鉄製品 不詳	V区2面一括 ほぼ完形	長 5.6 幅 1.2	厚 0.8 重 6.78			断面長方形の鉄製品。端部は角形で徐々に細くなりやや尖 る。	
第744図 PL-450	27	鉄製品 不詳	V区2面一括 破片	長 3.5 幅 1.1	厚 0.5 重 3.22			断面長方形の狭三角形の鉄製品。全体に厚く筋に覆われ本 体脆弱なため詳細は不明。	
第744図 PL-450	28	鉄製品 不詳	V区2面一括 完形	長 3.5 幅 1.0	厚 0.8 重 3.64			両端ともやや破損する鉄製品。一端は断面狭三角形他端は 長方形で刀子破片とも考えられるが、本体脆弱なため詳細 は不明。	
第744図 PL-450	29	石製品 石臼(下)	V区2面一括 1/2	長 (22.1) 短 (12.8)	厚 11.0 重 368.3		粗粒輝石安山岩	上面(内面)は滑らかであり接目の痕跡が明確に残る。側面 には平ノミ状の工具痕が明確に認められ丁寧に整形されて いる。中央部に軸受孔の一部が残存する。	



Ⅷ区遺構外

種別 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第745Ⅷ Pl.450	1	赤土土器 甕	Ⅷ区2面一括 頸部～胴部上半 1/6					外面頸部縦方向刷毛目、胴部縦・横位置磨き。内面頸部横位置磨き、胴部縦・斜位刷毛目。	赤土後期
第745Ⅷ Pl.450	2	赤土土器 甕	Ⅷ区2面一括 頸部破片					外面頸部縦方向刷毛目、胴部縦・横位置磨き。内面丁寧な横位置磨き。	赤土後期
第745Ⅷ	3	土師器 杯	Ⅷ区2面一括 1/2	口 底	11.9 8.0	高 3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへう削り。	
第745Ⅷ	4	土師器 杯	Ⅷ区一括 1/3	口 底	13.4 9.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへう削り。	
第745Ⅷ Pl.450	5	須恵器 杯蓋	Ⅷ区2面一括 3/4	口 底	16.6 2.5	高 3.4	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部ほどほど回転系切りが残り、その周囲は回転へう削り。	
第745Ⅷ Pl.450	6	須恵器 杯	Ⅷ区2面一括 2/3	口 底	11.7 6.3	高 4.0	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り後別縁部を回転ナデ。	
第745Ⅷ	7	須恵器 杯	Ⅷ区2面一括 1/3	口 底	12.8 7.0	高 3.9	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第745Ⅷ	8	須恵器 杯	Ⅷ区一括 1/4	口 底	12.4 8.0	高 3.7	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第745Ⅷ	9	須恵器 杯蓋	Ⅷ区2面一括 天井部	幅	6.0		細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。天井部は回転へう削り、摘みは貼付。	
第745Ⅷ	10	かわらけ 皿	Ⅷ区一括 1/3	口 底	9.3 5.0	高 2.1	細砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第745Ⅷ Pl.450	11	須恵器 杯	Ⅷ区2面一括 口縁部一部欠	口 底	10.0 4.7	高 2.1	細砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転系切り無調整。	
第745Ⅷ Pl.450	12	須恵器 杯	Ⅷ区2面一括 3/4	口 底	9.4 4.9	高 3.0	細砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第745Ⅷ	13	須恵器 杯	Ⅷ区2面一括 3/4	口 底	10.1 4.5	高 1.8	細砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第745Ⅷ	14	須恵器 杯	Ⅷ区2面一括 3/4	口 底	11.2 5.2	高 4.1	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第746Ⅷ	15	須恵器 杯	Ⅷ区2面一括 1/3	口 底	12.1 7.2	高 3.7	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第746Ⅷ	16	須恵器 杯	Ⅷ区2面一括 1/4	口 底	12.7 6.2	高 4.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第746Ⅷ	17	須恵器 杯	Ⅷ区一括 口縁部片	口 底	8.8 5.2		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	ロクロ整形。	
第746Ⅷ	18	須恵器 杯	Ⅷ区一括 底部～体部下平 片	底	7.0		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り、一部にへうナデ。	
第746Ⅷ	19	須恵器 杯	Ⅷ区2面一括 底部片	底	5.7		細砂粒/酸化焰/焼 /里黒	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調整。	
第746Ⅷ	20	須恵器 杯	Ⅷ区2面一括 底部小片				細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、底部は回転系切り無調整。	外面底部に刷毛目。
第746Ⅷ Pl.450	21	須恵器 椀	Ⅷ区2面一括 完形	口 底	14.6 7.5	台 高 6.0	細砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へうナデ、高台は貼付。	
第746Ⅷ Pl.450	22	須恵器 椀	Ⅷ区2面一括 3/4	口 底	6.9 8.3		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。	
第746Ⅷ	23	須恵器 椀	Ⅷ区一括 1/3	口 底	10.7 7.0	台 高 5.1	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。	
第746Ⅷ	24	須恵器 椀	Ⅷ区2面一括 1/3	口 底	14.8 7.2	台 高 5.5	細砂粒/還元焰・ 焼/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転系切り後高台を貼付。	
第746Ⅷ	25	須恵器 椀	Ⅷ区2面一括 口縁部片	口 底	11.6		細砂粒/還元焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。	
第746Ⅷ	26	須恵器 椀	Ⅷ区2面一括 口縁部片	口 底	11.6		細砂粒/還元焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形。	外面口縁部に墨書。
第746Ⅷ	27	須恵器 椀	Ⅷ区一括 口縁部片	口 底	14.4		細砂粒/還元焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。	外面口縁部に墨書。
第746Ⅷ	28	須恵器 椀	Ⅷ区1面一括 底部	底	8.0		細砂粒/還元焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。	
第746Ⅷ Pl.450	29	灰釉陶器 甕	Ⅷ区2面一括 1/2	口 底	13.2 7.7	台 高 3.0	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へうナデ、高台は貼付。施釉方法は刷毛塗り。	光ヶ丘1号室式期。
第746Ⅷ	30	灰釉陶器 甕	Ⅷ区2面一括 1/4	口 底	11.9 6.2	台 高 2.9	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へうナデ、高台は貼付。施釉方法は掛け掛け。	大原2号室式期。
第746Ⅷ	31	灰釉陶器 甕	Ⅷ区2面一括 1/6	口 底	12.1 6.5	台 高 2.7	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へうナデ、高台は貼付。施釉方法は掛け掛け。	大原2号室式期。
第746Ⅷ	32	灰釉陶器 甕?	Ⅷ区2面一括 底部1/2	口 底	8.1 7.8		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へうナデ、高台は貼付。施釉方法は不明。	大原2号室式期。
第746Ⅷ	33	灰釉陶器 椀	Ⅷ区2面一括 1/4	口 底	12.9 6.6	台 高 4.5	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。施釉方法は掛け掛け。	大原2号室式期。
第746Ⅷ	34	灰釉陶器 椀	Ⅷ区2面一括 口縁部1/3	口 底	13.8		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。施釉方法は掛け掛け。	大原2号室式期。
第746Ⅷ	35	灰釉陶器 椀	Ⅷ区1面一括 口縁部片	口 底	13.7		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へうナデ、高台は貼付。施釉方法は刷毛塗り。	光ヶ丘2号室式期。

種別 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第746図	36	灰釉陶器 椀	Ⅴ区1面一括 底部1/2	底 径	7.8 7.2	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形, 回転右回り。底部は回転糸切り後高台は貼付。 施釉方法は漬け掛け。	大原2号京式 式附。	
第747図	37	灰釉陶器 椀	Ⅴ区1面一括 1/2	底 径	6.8 6.2	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形, 回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。施釉方法は刷毛塗り。内面底部にも一筆。	光ヶ丘1号京 式附。	
第747図	38	灰釉陶器 椀	Ⅴ区2面一括 底部	底 径	6.5 6.5	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形, 回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号京式 式附。	
第747図	39	灰釉陶器 椀	Ⅴ区2面一括 底部1/4	底 径	10.4 9.9	微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形, 回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼 付。施釉方法は漬け掛け。	虎沢山1号京 式附。	
第747図	40	灰釉陶器 椀	Ⅴ区2面一括 底部片	底 径	7.4	微砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形, 回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。 口縁部から頸部は横ナデ。胴部はヘラ削り。内面は胴部に 木口が残るヘラナデ。	光ヶ丘1号京 式附。	
第747図	41	上塗り 黄	Ⅴ区2面一括 口縁～胴部一括	口 径	21.8	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/良い黄	ロクロ整形。		
第747図 PL.450	42	須臾器 羽釜	Ⅴ区2面一括 胴部片			細砂粒/還元焰/浅 黄	ロクロ整形。		
第747図 PL.450	43	須臾器 羽釜	Ⅴ区2面一括 口縁～胴部中位 1/2	口 径	22.0 26.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/良い黄	ロクロ整形。罫は貼付。胴部はヘラ削り。 内面はヘラナデ。		
第747図	44	須臾器 羽釜	Ⅴ区2面一括 口縁部片	口 径	20.0 23.0	細砂粒/酸化焰/浅 黄	ロクロ整形, 回転方向不明。罫は貼付、胴部にヘラ削り。 内面はヘラナデ。		
第748図 PL.451	45	鉄製品 鉄鉢	Ⅴ区2面一括 一部欠損	長 幅	22.0 24.5	厚 重	8.3 691.77	鑄造の鉄鍋上端部破片。上端部はほぼ垂直に立ち上がる。 正対する二箇所山形の大小の隆起を設ける。大型の隆起し たに穴を設けてその外側に広げようように注ぎ口をつける。大 小の隆起にツルを取り付けける構造と考えられるがツルは残 存せず。小隆起部の取り付けは確認できない。	
第747図 PL.450	46	銅製品 丸駒	Ⅴ区1面一括 破片	長 幅	3.4 1.9	厚 重	0.6 3.90	丸駒破片。全体に錆化が進むが表面の一部には平滑面が遺 存。その表面には鍍金・漆喰等は確認できない。錆の状況 から銅製と見られる。裏側は凹凸が顕著で仕上げ加工等は 見られない。	
第747図 PL.450	47	鉄製品 脚鉄	Ⅴ区2面一括 破片	長 幅	7.2 4.2	厚 重	1.2 37.87	脚鉄で長方形の穴に箇所が残る破片。	
第747図 PL.451	48	鉄製品 釘	Ⅴ区2面一括 破片	長 幅	4.1 0.7	厚 重	0.8 2.81	断面はほぼ正方形の角釘と見られる破片。頭は角形で先端側 は破損錆化する。木質等の組織は見られない。	
第747図 PL.451	49	鉄製品 不詳	Ⅴ区2面一括 ほぼ完形	長 幅	7.1 2.2	厚 重	1.9 486.60	断面正方形に近い角棒状の鉄製品内端とも角形だが、一方 は細くなり対とも考えられるが厚く硬い錆が覆われ詳細は 不明。	
第747図 PL.451	50	鉄製品 不詳	Ⅴ区2面一括 ほぼ完形	長 幅	7.7 0.9	厚 重	0.8 5.58	断面はほぼ正方形の角棒状の鉄製品。内端に向かい細くなり やや尖る。	
第747図 PL.451	51	鉄製品 不詳	Ⅴ区2面一括 ほぼ完形	長 幅	4.9 1.2	厚 重	1.4 18.23	断面長方形の厚い短冊形の鉄製品。硬い錆に厚く覆われ詳 細は不明。	
第747図 PL.451	52	鉄製品 不詳	Ⅴ区2面一括 ほぼ完形	長 幅	7.2 1.1	厚 重	1.7 24.44	断面長方形の厚い短冊形の鉄製品。全体に厚く錆に覆われ 詳細は不明。	
第747図 PL.451	53	土製品 引口	Ⅴ区2面一括 破片	長 幅	11.5 8.0	厚 重	3.7 236.31	先端部から基部片。先端部欠損。厚さ約2.5cm。胎土は粗 砂粒。	構成No80
第747図 PL.451	54	土製品 引口	Ⅴ区2面一括 破片	長 幅	12.0 7.6	厚 重	4.0 284.32	先端部から基部片。厚さ約2.5cm。長方向に撫で整形。胎 土は粗砂粒。先端部は平直に滑肌。	構成No81
第747図 PL.451	55	銅片石 石鎌	Ⅴ区2面一括 完形	長 幅	15.0 12.3	厚 重	2.2 432.8	細粒輝石安山岩 裏面に大きく自然面を残す。凹窪を利用して。表面に は素材剥片段階と考えられる大きな剥離面が残り、大形剥 片素材と想定される。対部付近は裏表面とも厚減が著しく 使用面と考えられる。	
Ⅴ区遺構外									
第749図 PL.451	1	須臾器 椀	Ⅴ区2面一括 3/4	口 径	12.7 7.0	台 高	7.5 5.1	細砂粒/還元焰/に ぶい黄	ロクロ整形, 回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第749図 PL.451	2	緑釉陶器 椀	Ⅴ区2面一括 1/4	口 径	13.8 5.7			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形, 回転右回りか。高台は貼付、体部下位は回転 ヘラ削り。内外面とも施釉。
第749図 PL.451	3	緑釉陶器 椀	Ⅴ区2面一括 口縁部片	口 径	15.2			微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形, 内外面施釉。
第749図	4	須臾器 羽釜	Ⅴ区2面一括 口縁部～胴部片	口 径	19.8 23.8			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/良い黄	ロクロ整形。罫は貼付、胴部はヘラ削り。
第749図 PL.451	5	土製品 土鎌	Ⅴ区2面一括 破片	径 幅	1.4 0.4			微砂粒/良好/黒	外面ナデ。
第749図 PL.541	6	肥前陶器 青緑釉皿	Ⅴ区一括 口縁部片	口 径	—	高 一	—	夾雑物ほとんど 含まない。/灰/	成不成。内面の青緑釉と外面の透明釉の違いが少なく、貫 入する。
第749図 PL.541	7	益子陶器 土煎蓋	Ⅴ区一括 完形	口 径	8.6 11.2	高 一	3.5	夾雑物ほとんど 含まない。/にぶい 黄/	天井部外面鉄釘具で継ぎ目を描き、透明釉施釉後に緑釉で 文。透明釉に貫入する。全体に油付着。油は機械油か。
第750図 PL.451	8	鉄製品 釘	Ⅴ区2面一括 破片	長 幅	4.3 1.4	厚 重	1.2 4.70		断面はほぼ正方形の角釘破片。頭は薄く広く延ばし折り曲 げる。先端側は劣化破損する。
第750図 PL.451	9	鉄製品 釘	Ⅴ区2面一括 破片	長 幅	5.0 1.6	厚 重	1.1 8.63		断面はほぼ正方形の角釘破片。頭は薄く広く延ばし折り曲 げる。先端側は劣化破損する。
第750図 PL.451	10	鉄製品 釘	Ⅴ区2面一括 破片	長 幅	5.6 2.0	厚 重	1.5 11.32		断面はほぼ正方形の角釘と見られる全体に曲がり両端は劣 化破損する。筋表面には釘本体と直行する方向に縦目材の痕 跡が見られるが錆化が著しく詳細は不明。

種別 PL.No.	No.	種類	出上位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第7509 PL-41	11	鉄製品 釘	Ⅷ区2面一括 ほぼ完成形	長 幅	4.9 1.7	厚 重	1.2 8.10	断面はほぼ正方形の角釘。頭は薄く延ばし折り曲げたと見られるが劣化が著しく詳細は不明。	
第7509 PL-451	12	鉄製品 釘	Ⅷ区2面一括 破片	長 幅	4.9 1.7	厚 重	1.3 7.21	断面はほぼ正方形の角釘。頭は薄く延ばし折り曲げたと見られるが劣化が著しく詳細は不明。先端側は劣化破損する。	
第7509 PL-451	13	鉄製品 鉄	Ⅷ区2面一括 一部欠損	長 幅	8.6 1.9	厚 重	1.1 11.40	先端狭三角形の鉄線。断面は薄い菱形で側面は深い。某との境でやや膨らみ、境を一周する段差を持つ。某は1.7cm程で劣化破損する。	
Ⅷ区遺構外									
第7519 PL-451	1	黒色土器 杯	Ⅷ区2面一括 口縁部～底部1/2	口 底	13.8 7.6			細砂粒/酸化塩/に ぶい黄褐色	内面黒色処理が二次被熱によりほとんど消失。口ロ口整形、回転右回り。底部は回転ナデ。高台は貼付。内面はへう削ぎ、器面磨滅のため単位不明。
第7519 PL-451	2	須恵器 杯	Ⅷ区2面一括 口縁部～底部	口 底	9.0 5.6	高	2.2	細砂粒/酸化塩/灰 黄	口ロ口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第7519 PL-451	3	須恵器 椀	Ⅷ区2面一括 口縁部～底部 1/2-高台欠	口 底	11.5 6.2	台	5.0 4.8	細砂粒/還元塩/灰 白	口ロ口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第7519 PL-451	4	須恵器 椀	Ⅷ区2面一括 底部～高台部 1/2	底	7.6			細砂粒/還元塩/灰	口ロ口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第7519 PL-451	5	須恵器 椀	Ⅷ区2面一括 底部～高台部 1/2	底	6.7			細砂粒/還元塩/黄 灰	口ロ口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。
第7519 PL-451	6	灰釉陶器 椀	Ⅷ区2面一括 底部1/2	底	8.6 8.6			微砂粒/還元塩/褐 黄	口ロ口整形、回転右回り。底部は回転ナデ。高台は貼付。施釉方法不明。
第7519 PL-451	7	灰釉陶器 椀	Ⅷ区2面一括 口縁部片	口	14.9			微砂粒/還元塩/灰 白	口ロ口整形。内面口唇部に内縁が巡る。施釉方法は漬け掛け。
第7519 PL-451	8	灰釉陶器 椀	Ⅷ区2面一括 底部～高台部 1/4	底	7.7			微砂粒/還元塩/灰 白	口ロ口整形、回転右回り。底部は回転ナデ。高台は貼付施釉方法不明。
第7519 PL-451	9	灰釉陶器 椀	Ⅷ区1面一括 底部片	底	6.5 6.6			微砂粒/還元塩/灰 白	口ロ口整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。施釉方法は漬け掛け。
第7519 PL-451	10	須恵器 長頸壺	Ⅷ区2面一括 口縁部片	口	9.7			細砂粒/還元塩/褐 黄	口ロ口整形。
第7519 PL-451	11	土師器 鉄	Ⅷ区2面一括 口縁部片	口	12.0			細砂粒/良好/赤褐	口縁部は横ナデ。
第7519 PL-451	12	鉄製品 釘	Ⅷ区2面一括 破片	長 幅	4.9 1.4	厚 重	1.3 14.24	断面はほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品破片。両端とも角形で破損の可能性があるが、全体に厚い錆に覆われ詳細は不明。頭側は劣化破損。先端側は急に細くなり実る。	
第7519 PL-451	13	鉄製品 鉄	Ⅷ区2面一括 破片	長 幅	2.9 1.7	厚 重	0.5 4.75	鉄線破片。先端および側面角部を劣化破損する。断面は薄い菱形で側面は劣化破損する。	
第7519 PL-451	14	鉄製品 鉄線車	Ⅷ区2面一括 破片	長 幅	2.3 4.0	厚 重	4.1 11.76	ほぼ円形の紡輪にやや斜めに紡輪破片が接続する。紡輪は両端とも劣化破損する。	
Ⅷ区遺構外									
第7529 PL-451	1	土師器 杯	Ⅷ区2面一括 1/4	口 底	11.6 7.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへう削り。
第7529 PL-451	2	灰釉陶器 椀	Ⅷ区2面一括 体部～底部片	底	6.9 6.6			微砂粒/還元塩/灰 白	口ロ口整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ。高台は貼付。施釉方法不明。
第7529 PL-451	3	緑釉陶器 皿	Ⅷ区2面一括 口縁部片	口				微砂粒/還元塩/灰 白	口ロ口整形。内外面とも施釉。
第7529 PL-451	4	土師器 台付費	Ⅷ区2面一括 脚部1/2	脚	7.8			細砂粒/良好/にぶ い褐色	脚部は貼付か。脚部内外面は横ナデ。
第7529 PL-451	5	須恵器 羽釜	Ⅷ区2面一括 口縁部～脚部上 位片	口 脚	19.8 20.2			細砂粒/酸化塩/明 褐	口ロ口整形、脚は貼付。
第7529 PL-451	6	須恵器 羽釜	Ⅷ区2面一括 口縁部～脚部上 位片	口 脚	23.0 26.4			細砂粒/酸化塩/橙	口ロ口整形、脚は貼付。
第7529 PL-451	7	鉄製品 釘	Ⅷ区1面一括 ほぼ完成形	長 幅	4.7 1.2	厚 重	0.9 7.71	断面四角形の角釘。頭はわずかに広がりながら短く直向に曲がる。先端はやや細くなるが尖らない。	
第7529 PL-451	8	鉄製品 釘	Ⅷ区1面一括 一部欠損	長 幅	4.4 1.2	厚 重	0.9 7.73	断面四角形の角釘。頭はやや薄く延ばし直向に曲げる。先端は横に曲がり端部は劣化破損する。	
第7529 PL-451	9	鉄製品 釘	Ⅷ区1面一括 破片	長 幅	6.2 0.8	厚 重	0.7 4.11	断面四角形の角釘。頭はくの子に曲げる。先端はやや細くなるが尖らない。	
第7529 PL-451	10	鉄製品 不詳	Ⅷ区2面一括 破片	長 幅	4.3 1.6	厚 重	0.9 8.46	厚さ0.6cm程の鉄製品。全体に放射割れが入り鋳造鉄製品の破片と考えられる。	
第7529 PL-451	11	鉄製品 不詳	Ⅷ区2面一括 一部欠損	長 幅	4.3 1.8	厚 重	0.7 4.07	先の尖った柳葉形の鉄製品で反対側は側面が鋭に実るが、左右形状から鑑とも断定できない。	
Ⅷ区遺構外									
第7539 PL-451	1	須恵器 杯	Ⅷ区2面一括 3/4	口 底	11.6 5.0	高	3.9	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄褐色	口ロ口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第7539 PL-451	2	須恵器 杯	Ⅷ区一括 1/4	口 底	10.6 5.0	高	2.4	細砂粒/酸化塩/橙	口ロ口整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。
第7539 PL-451	3	灰釉陶器 椀	Ⅷ区一括 1/4	口 底	18.5 9.3	台	9.2 7.7	微砂粒/還元塩/灰 白	口ロ口整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ。高台は貼付。内面口唇部に内縁が巡る。施釉方法は漬け掛け。

種別 PL_No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/顔色/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第7539R PL_452	4	土製品 土罐	Ⅱ区2面一括 完形	長 径	2.7 0.8	孔 重	0.4 1.6	微砂粒/良好/明赤 濁	外面はナデ。
第7539R PL_452	5	土製品 土罐	Ⅱ区2面一括 2/3	長 径	5.2 2.8	孔 重	0.8 26.8	微砂粒/良好/ぶ い濁	外面はナデ。
第7539R PL_452	6	京・信楽系 土罐	Ⅱ区2面一括 底部1/8	口 径	— 5.6	高 一 重	— 1.4	夾雑物含まない。 /灰白～浅黄橙/ 濁	内面から高台脇残片。継いで貫入る。
第7539R PL_452	7	鉄製品 釘	Ⅱ区2面一括 破片	長 幅	13.3 3.3	厚 重	1.4 15.75		断面はほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品。頭部は酸化破損、先端近くで急に細くなりくの字に曲がる。
第7539R PL_452	8	鉄製品 不詳	Ⅱ区2面一括 破片	長 幅	1.3 1.9	厚 重	0.7 5.17		薄い板状の鉄製品で平面形状は不定形。表面は厚く錆に覆われ本体は空洞化し塗染のため詳細は不明。

## 2面遺構外

第7549R PL_452	1	鉄製品 鉄釜	調査区2面一括 破片	長 幅	10.8 3.5	厚 重	1.5 132.35		跡造鉄製品小破片で大きく弧を鑑て蓋?口縁部分で直径は1m程度と推定される。
------------------	---	-----------	---------------	--------	-------------	--------	---------------	--	---------------------------------------

## 第6章第2節

第778R	1	緑釉陶器 椀	V区13-14号住居 体部小片					微砂粒/還元焼 成灰/灰	ロクロ整形。施釉は内外面、釉調は濃緑色を呈す。	東海産。
第778R	2	緑釉陶器 椀	V区59号住居 体部小片					微砂粒/還元焼 成灰/黄濁	ロクロ整形。施釉は内外面、釉調は濃緑色を呈す。	東海産。
第778R	3	緑釉陶器 椀	V区1号住居 体部小片					微砂粒/還元焼 成灰/黄濁	ロクロ整形。外面体部に回転ヘラ削り痕がみられる。施釉は内外面、釉調はやや淡い緑色を呈す。	東海産。
第778R	4	緑釉陶器 椀	V区5号住居 体部小片					微砂粒/還元焼 成灰/黄濁	ロクロ整形。内外面の体部にヘラ磨き痕がみられる。釉調は濃緑色を呈す。	東海産か。
第778R	5	緑釉陶器 不明	V区7号住居 底部小片					微砂粒/還元焼 成灰/灰白	ロクロ整形。外面は施釉を備していない。釉調はやや淡い緑色を呈す。	不明
第778R	6	緑釉陶器 椀	V区19号住居 底部～体部下位 片	底 径	7.6 8.0			微砂粒/還元焼 成灰/灰	ロクロ整形。回転方向不明。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉は内外面、釉調は透明感のある緑色を呈す。	東海10C前 半。
第778R	7	緑釉陶器 椀	V区19号住居 体部小片					微砂粒/還元焼 成灰/灰	ロクロ整形。内外面ともヘラ磨きか。施釉は内外面、釉調はやや黄色味を帯びた緑色を呈す。	東海産。
第778R	8	緑釉陶器 椀	V区19号住居 体部小片					微砂粒/還元焼 成灰/灰	ロクロ整形。施釉は内外面、釉調は透明感のある緑色を呈す。	東海産。
第778R	9	緑釉陶器 椀	V区19号住居 体部小片					微砂粒/酸化焼 成灰/黄濁	ロクロ整形。施釉は内外面、釉調はやや淡い緑色を呈す。	東海産か。
第778R	10	緑釉陶器 椀	V区19号住居 体部小片					微砂粒/還元焼 成灰/灰	ロクロ整形。内外面ともヘラ磨きか。施釉は内外面、釉調は濃緑色を呈す。	東海産。
第778R	11	緑釉陶器 椀	V区20号住居 体部小片					微砂粒/還元焼 成灰/灰	ロクロ整形。内外面ともヘラ磨きか。施釉は内外面、釉調はやや黄色味を帯びた緑色を呈す。	東海産。
第778R	12	緑釉陶器 皿	V区23号住居 底部～体部下位 片	底 径	7.8 8.0			微砂粒/還元焼 成灰/灰	ロクロ整形。回転右回りか。高台は貼付。施釉は内外面、釉調は濃淡にややムラがみられる濃緑色を呈す。	東海産10C後 半。
第778R	13	緑釉陶器 皿	V区23号住居 底部～体部下位 片	底 径	7.8 8.0			微砂粒/酸化焼 成灰/黄濁	ロクロ整形。回転右回りか。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。内外面の底部にトロン痕が残る。釉調は透明感のある緑色を呈す。	東海産10C 代。
第778R	14	緑釉陶器 椀	V区32号住居 体部小片					微砂粒/還元焼 成灰/灰	ロクロ整形。内外面ともヘラ磨きか。施釉は内外面、釉調はやや黄色味を帯びた緑色を呈す。	東海産。
第778R	15	緑釉陶器 椀	V区34号住居 口縁部～体部片	口 径	15.8			微砂粒/還元焼 成灰/灰	ロクロ整形。内外面ともヘラ磨きか。口唇端部は外反。施釉は内外面、釉調は濃緑色を呈す。	東海産9C後 半か。
第778R	16	緑釉陶器 椀	V区36号住居 体部片					微砂粒/還元焼 成灰/灰白	ロクロ整形。器面はヘラ磨きか。施釉は内外面、釉調は淡い黄緑色を呈す。	酸内産か。V 区遺構外出土 の742R21と 22に類似。
第778R	17	緑釉陶器 椀	V区36号住居 体部片					微砂粒/還元焼 成灰/灰	ロクロ整形。施釉は内外面、釉調は透明感のない緑色を呈す。	東海産。割れ 口にスガが付 着。
第778R	18	緑釉陶器素 地	V区37号住居 口縁部					微砂粒/還元焼 成灰/灰	ロクロ整形。口唇部はわずかに外反。施釉は内外面、釉調は濃緑色を呈す。	東海産10C前 半
第778R	19	緑釉陶器素 地	V区40号住居 口縁部～体部片	口 径	14.8			微砂粒/酸化焼 成灰/黄濁	ロクロ整形。回転右回りか。口縁部は外反。施釉は内外面、釉調は口縁部がやや濃く、体部はやや淡い緑色で緑釉緑彩を呈す。	東海産9C後 半か。
第778R	20	緑釉陶器 輪花椀	V区52号住居 口縁部片					微砂粒/還元焼 成灰/黄濁	ロクロ整形。施釉は内外面、釉調はやや淡い緑色を呈す。	東海産。
第778R	21	緑釉陶器 椀	V区68号住居 底部片	底 径	9.0 8.6			微砂粒/還元焼 成灰/灰	ロクロ整形。回転右回りか。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。内外面の底部にトロン痕が残る。施釉は内外面、釉調はムラがある薄緑色を呈す。	東海産10C後 半。
第778R	22	緑釉陶器 椀	V区71号住居 体部小片					微砂粒/還元焼 成灰/灰白	ロクロ整形。施釉は内外面、釉調はやや淡い緑色を呈す。	東海産か。
第778R	23	緑釉陶器 椀	V区74号住居 口縁部小片					微砂粒/酸化焼 成灰/黄濁	ロクロ整形。口縁部はわずかに外反。施釉は内外面、釉調は透明感のない緑色を呈す。	東海産10C前 半
第778R	24	緑釉陶器 椀	V区82号住居 体部片					微砂粒/酸化焼 成灰/黄濁	ロクロ整形。施釉は内外面、釉調は透明感のない緑色を呈す。	東海産。
第778R	25	緑釉陶器 椀	V区85号住居 口縁部小片					微砂粒/還元焼 成灰/黄濁	ロクロ整形。施釉は内外面、釉調はやや淡い緑色を呈す。	東海産か。

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出上位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第778Ⅷ	26	緑釉陶器 椀	VⅧ区96号住居 口縁部小片		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、口縁部はわずかに外反。胎輪は内外面、釉調はやや濃い緑色を呈す。口唇部の釉葉は剥落。	東海産か。
第778Ⅷ	27	緑釉陶器 椀	VⅧ区106号住居 体部小片		微砂粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形。胎輪は内外面、釉調は透明感のない緑色を呈す。	東海産。
第778Ⅷ	28	緑釉陶器 椀	XⅧ区9号住居 底部片	底 8.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰・軟質/灰 白	ロクロ整形、底部は削り出しによるベタ高台、底面はヘラナデ。胎輪は内外面、釉調は褐色を帯びた色調。	畿内産9C前 半か。XⅧ区6 溝14に類似。
第778Ⅷ	29	緑釉陶器 椀	XⅧ区27号住居 体部下位小片		微砂粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形。胎輪は内外面、釉調はやや濃い緑色を呈す。	東海産。
第778Ⅷ	30	緑釉陶器 椀	XⅧ区8号住居 体部小片		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。胎輪は内外面、釉調はやや濃い緑色を呈す。	東海産。
第778Ⅷ	31	緑釉陶器 椀	XⅧ区14号住居 口縁部下位一 体部片		微砂粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形、口縁部は外反。胎輪は内外面、釉調は透明感のない緑色を呈す。	東海産10C前 半。
第778Ⅷ	32	緑釉陶器 椀	VⅧ区1号住居 体部小片		微砂粒/還元焰/明 褐灰	ロクロ整形。胎輪は内外面、釉調は透明感のない緑色を呈す。	東海産。
第778Ⅷ	33	緑釉陶器 皿	VⅧ区67号土坑 底部片		微砂粒/還元焰/灰 黄褐	ロクロ整形、内面にトチン痕が残る。胎輪は内外面、釉調は濃緑色を呈す。	東海産か。
第778Ⅷ	34	緑釉陶器 椀	Ⅷ区43号土坑 体部片		微砂粒/還元焰・ 硬質/灰	ロクロ整形。胎輪は内外面、釉調は透明感のない緑色を呈す。	東海産。
第778Ⅷ	35	緑釉陶器 椀	XⅧ区52号土坑 口縁部片		微砂粒/還元焰・ 硬質/灰	ロクロ整形、口縁部はわずかに外反。胎輪は内外面、釉調は透明感のない緑色を呈す。	東海産10C前 半。
第778Ⅷ	36	緑釉陶器 椀	VⅧ区3号ビット 口縁部片		微砂粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形、内面はヘラ磨きか。胎輪は内外面、釉調は濃い黄緑色を呈す。	畿内産か。V Ⅷ区遺構外上出 の742図21と 22に類似。
第778Ⅷ	37	緑釉陶器 椀	VⅧ区1号溝 口縁部片		微砂粒/還元焰・ 硬質/灰白	ロクロ整形、口縁部は直線的に開く。胎輪は内外面、釉調はやや濃い緑色を呈す。	東海産。
第778Ⅷ	38	緑釉陶器 椀	VⅧ区1号溝 体部片		微砂粒/還元焰・ 硬質/灰白	ロクロ整形。胎輪は内外面、釉調は透明感のない緑色を呈す。	東海産か。
第778Ⅷ	39	緑釉陶器 椀	XⅧ区6号溝 口縁部片	口 16.6	微砂粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形、口縁部はわずかに外反。胎輪は内外面、釉調は褐色を帯びた色調。釉葉の剥落がみられる。	畿内産9C前 半か。XⅧ区6 溝14に類似。
第778Ⅷ	40	緑釉陶器 椀	XⅧ区6号溝 口縁部小片		微砂粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形、口縁部はわずかに外反。胎輪は内外面、釉調は褐色を帯びた色調。釉葉の剥落がみられる。	畿内産9C前 半か。XⅧ区6 溝14に類似。
第778Ⅷ	41	緑釉陶器 椀	XⅧ区6号溝 口縁部片		微砂粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形、口縁部はわずかに外反。胎輪は内外面、釉調は褐色を帯びた色調。釉葉の剥落がみられる。	畿内産9C前 半か。XⅧ区6 溝14に類似。
第778Ⅷ	42	緑釉陶器 椀	XⅧ区6号溝 口縁部片		微砂粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形、口縁部はわずかに外反。胎輪は内外面、釉調は褐色を帯びた色調。釉葉の剥落がみられる。	畿内産9C前 半か。XⅧ区6 溝14に類似。
第778Ⅷ	43	緑釉陶器 椀	XⅧ区6号溝 体部下位小片		微砂粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形。胎輪は内外面、釉調は褐色を帯びた色調。釉葉の剥落がみられる。	畿内産9C前 半か。XⅧ区6 溝14に類似。
第778Ⅷ	44	緑釉陶器 椀	XⅧ区6号溝 体部片		微砂粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形。胎輪は内外面、釉調は褐色を帯びた色調。釉葉の剥落がみられる。	畿内産9C前 半か。XⅧ区6 溝14に類似。
第778Ⅷ	45	緑釉陶器 椀	XⅧ区6号溝 体部小片		微砂粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形。胎輪は内外面、釉調は褐色を帯びた色調。釉葉の剥落がみられる。	畿内産9C前 半か。XⅧ区6 溝14に類似。
第778Ⅷ	46	緑釉陶器 椀	XⅧ区6号溝 体部下位小片		微砂粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形。胎輪は内外面、釉調は褐色を帯びた色調。釉葉の剥落がみられる。	畿内産9C前 半か。XⅧ区6 溝14に類似。
第778Ⅷ	47	緑釉陶器 椀	XⅧ区6号溝 体部小片		微砂粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形。胎輪は内外面、釉調は褐色を帯びた色調。釉葉の剥落がみられる。	畿内産9C前 半か。XⅧ区6 溝14に類似。
第778Ⅷ	48	緑釉陶器 椀	XⅧ区6号溝 体部小片		微砂粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形。胎輪は内外面、釉調は褐色を帯びた色調。釉葉の剥落がみられる。	畿内産9C前 半か。XⅧ区6 溝14に類似。
第778Ⅷ	49	緑釉陶器 椀	XⅧ区6号溝 体部小片		微砂粒/還元焰・ 硬質/灰	ロクロ整形。胎輪は内外面、釉調は濃緑色を呈す。	東海産。
第778Ⅷ	50	緑釉陶器 椀	VⅧ区遺構外 底部片	底 7.0	微砂粒/還元焰・ 硬質/灰褐	ロクロ整形、回転右回り、底部はヘラナデ。高台は貼付が剥落、内面はヘラ磨き。胎輪は内外面、釉調は透明感がなくやや黄色味を帯びた緑色を呈す。	東海産。
第779Ⅷ	51	緑釉陶器 椀	VⅧ区遺構外 底部片	底台 9.6 9.0	微砂粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形。高台は貼付。胎輪は内外面、釉調は全体的に薄い。一部に釉れで濃緑色の部分がみられる。	東海産10C後 半。
第779Ⅷ	52	緑釉陶器 椀	VⅧ区遺構外 底部一 体部下位 片	底台 8.4 8.2	微砂粒/還元焰・ 硬質/明灰褐	ロクロ整形。底部はヘラナデ。高台は貼付。胎輪は内外面、釉調は濃緑色を呈す。	東海産10C前 半。
第779Ⅷ	53	緑釉陶器 椀	VⅧ区遺構外 口縁部片		微砂粒/還元焰・ 硬質/灰	ロクロ整形、口唇部は外反。胎輪は内外面、釉調はやや濃い緑色を呈す。	東海産10C前 半。
第779Ⅷ	54	緑釉陶器 椀	VⅧ区遺構外 体部小片		微砂粒/還元焰・ 硬質/灰	ロクロ整形。胎輪は内外面、釉調はやや濃い緑色を呈す。	東海産。

採出 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第779図	55	緑釉陶器 椀	Ⅴ区遺構外 口縁部～体部片	□	15.7		微砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、口縁部は外反。施軸は内外面、軸調は濃緑色を呈す。	東海産10C前半。
第779図	56	緑釉陶器 皿	Ⅴ区遺構外 口縁部片	□	12.7		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、口縁部は外反。施軸は内外面、軸調はやや淡い緑色を呈す。	東海産10C前半。
第779図	57	緑釉陶器 椀	Ⅴ区遺構外 体部小片				微砂粒/酸化焰 きみ/ぶい黄橙	ロクロ整形。施軸は内外面、軸調はやや淡い緑色を呈す。	東海産。
第779図	58	緑釉陶器 椀	Ⅴ区遺構外 口縁部片				微砂粒/還元焰・ 硬質/灰	ロクロ整形、口唇端部は外反。施軸は内外面、軸調は濃緑色を呈す。	東海産9C後半。
第779図	59	緑釉陶器 椀	Ⅴ区遺構外 体部小片				微砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形。施軸は内外面、軸調はやや淡い緑色を呈す。	東海産。
第779図	60	緑釉陶器 椀	Ⅴ区遺構外 口縁部片				微砂粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形、口縁部は外反。施軸は内外面、軸調は透明感のない緑色を呈す。	東海産10C前半。
第779図	61	緑釉陶器 椀	Ⅴ区遺構外 体部小片				微砂粒/還元焰/灰 器褐	ロクロ整形。施軸は内外面、軸調は濃緑色を呈す。	東海産。
第779図	62	緑釉陶器 椀か皿	Ⅴ区2号溝 底部小片				微砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、底部はヘラナデ、高台は貼付されていたものが剥落。残存部分では施軸が内面のみ、軸調は濃緑色を呈す。	東海産9C後半。